筑後西部地区遺跡群Ⅱ

福岡県筑後市大字島田、水田、折地、常用、井田所在遺跡の調査

筑後市文化財調査報告書

第29集

2000

筑後市教育委員会

筑後西部地区遺跡群Ⅱ

福岡県筑後市大字島田、水田、折地、常用、井田所在遺跡の調査

筑後市文化財調査報告書

第29集

2000

筑後市教育委員会

筑後西部地区遺跡群Ⅱ

福岡県筑後市大字島田、水田、折地、常用、井田所在遺跡の調査

・常用ビンセ田遺跡（つねもち　た）
・水田正吹遺跡（みずたしょうぶけ）
・島田外屋敷遺跡（しまだそとやしき）
・井田栗ノ内遺跡（せいでんくりのうち）
・水田伊勢ノ脇遺跡（みずたいせのわき）
・折地長間寺遺跡（おりぢちょうけんじ）
・井田堀越遺跡（せいでんほりごし）
・井田下堀越遺跡（せいでんしもほりごし）
・梅島遺跡（第２次調査）（うめじま）

2000

筑後市教育委員会

序

永きにわたって実施されてきました県営干拓地等農地整備事業に係る筑後西部地区の発掘調査は平成９年度をもって終了しました。

発掘調査の結果、筑後市南西部一帯には、広範囲に及んで多数の遺跡が分布していることがわかり、筑後市の中でも有数の遺跡宝庫地であることが明らかになりました。

こうした成果を挙げることができましたのも、調査にご理解とご協力をいただきました関係者及び地元の方々の賜と思っております。

最後に、本報告が文化財保護の一助として広く活用していただければ幸いであります。

平成12年3月

筑後市教育委員会
教育長　牟田口和良

例　言

1.本書は、県営干拓地等農地整備事業に係る筑後西部地区の工事に伴い、福岡県筑後川水系農地開発事務所の委託を受けて、筑後市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2.発掘調査及び出土遺物の整理は筑後市教育委員会が行い、出土遺物・図面・写真などは筑後市教育委員会において所蔵・保管をしている。なお、発掘調査及び整理作業の関係者は「Ⅰ.調査経過と組織」に記したとおりで、調査担当者は本文中の「(1) はじめに」に記した。
3.調査に用いた測量座標は、国土調査法第Ⅱ座標系を基準としている。従って、本書に示される方位はすべてG.N.（座標北）を示し、本文中に記される遺構の角度はこれを基準としたものである。また、水準はT.P.を基準としている。
4.本書に使用した図面のうち、遺構の実測図は永見秀徳、小林勇作、田中剛、柴田剛、塚本映子（現：三潴町教育委員会）、大島真一郎（現：黒木町教育委員会）、田中洋子、末吉隆弥（現：川崎町教育委員会）、奥村太郎が作成した。また、遺構の全体図は、梅島遺跡（第2次調査）及び水田正吹遺跡をアジア航測株式会社、島田外屋敷遺跡は大成ジオテック株式会社に委託した。遺物の実測図は永見、平塚あけみ、江藤玲子が作成し、図版の浄書は永見、平塚が行った。
5.本書に使用した写真のうち、遺構の写真撮影は永見、小林、田中、柴田、塚本、大島、末吉が行い、遺物の写真撮影は永見、小林が行った。現場における空中写真撮影は（有）空中写真企画に委託した。
6.本書に使用した遺構表示は下記の略号による。
　SB一掘立柱建物　SD一溝　SK一土壙　SPーピット　ST一墓　SX一周溝状遺構・不明遺構
7.本書に掲載した地図（Fig.1）は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したもの（承認番号　平12九複、第60号）である。
8.本書の執筆は「Ⅲ—9.梅島遺跡（第2次調査）の調査」を永見、その他は小林が担当し、編集は小林が担当した。

本文目次

Ⅰ.調査経過と組織 ・・・ 1
Ⅱ.位置と環境 ・・・ 3
Ⅲ.調査の概要 ・・・ 7
　1.常用ビンセ田遺跡の調査 ・・・ 7
　　(1) はじめに ・・・ 7
　　(2) 遺構 ・・・ 7
　　(3) 出土遺物 ・・・ 8
　　(4) 小結 ・・・ 8
　2.水田正吹遺跡の調査 ・・・ 9
　　(1) はじめに ・・・ 9
　　(2) 遺構 ・・・ 10
　　(3) 出土遺物 ・・・ 20
　　(4) 小結 ・・・ 30
　3.島田外屋敷遺跡の調査 ・・・ 35
　　(1) はじめに ・・・ 35
　　(2) 遺構 ・・・ 35
　　(3) 出土遺物 ・・・ 43
　　(4) 小結 ・・・ 49

4.井田栗ノ内遺跡の調査 …… 53
(1) はじめに …… 53
(2) 遺構 …… 53
(3) 出土遺物 …… 54
(4) 小結 …… 54
5.水田伊勢ノ脇遺跡の調査 …… 55
(1) はじめに …… 55
(2) 遺構 …… 55
(3) 出土遺物 …… 59
(4) 小結 …… 63
6.折地長間寺遺跡の調査 …… 65
(1) はじめに …… 65
(2) 遺構 …… 65
(3) 出土遺物 …… 73
(4) 小結 …… 80
7.井田堀越遺跡の調査 …… 83
(1) はじめに …… 83
(2) 遺構 …… 83
(3) 出土遺物 …… 84
(4) 小結 …… 88
8.井田下堀越遺跡の調査 …… 91
(1) はじめに …… 91
(2) 遺構 …… 92
(3) 出土遺物 …… 92
(4) 小結 …… 96
9.梅島遺跡（第2次調査）の調査 …… 97
(1) はじめに …… 97
(2) 遺構 …… 97
(3) 出土遺物 …… 100
(4) 小結 …… 173
Ⅳ.総括 …… 175

挿図目次

Fig.1 周辺遺跡分布図（1/25,000） …… 3
Fig.2 県営干拓地等農地整備事業筑後西部地区一般計画平面図（1/10,000） …… （折り込み）
Fig.3 常用ビンセ田遺跡調査地点位置図（1/2,500） …… 7
Fig.4 常用ビンセ田遺跡遺構全体実測図（1/200） …… 8
Fig.5 水田正吹遺跡調査地点位置図（1/2,500） …… 9
Fig.6 調査区A（SB020）実測図（1/60） …… 10
Fig.7 調査区A（SB030）実測図（1/60） …… 11
Fig.8 調査区A（SB040）実測図（1/60） …… 12
Fig.9 調査区A（SK001～004・006・007・012～014、SX009・011、SP016）実測図（1/60） …… 13
Fig.10 調査区A（SK005・010・015）実測図（1/30・1/60） …… 14
Fig.11 調査区B（SD050）実測図（1/60） …… 15

Fig.12　調査区B（SK025・035・045）実測図（1/30・1/60）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
Fig.13　調査区B（SX064）実測図（1/60）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
Fig.14　調査区C（SD080・090、SX100）実測図（1/60）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
Fig.15　調査区D（SD104・108・120、SK102・105・115・111・125）実測図（1/60）・・・・・・19
Fig.16　調査区A（SB040―P3）出土土器実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
Fig.17　調査区A（SK002～006・010・069）出土土器実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・21
Fig.18　調査区A（SK015、SX011）出土土器実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
Fig.19　調査区B出土土器実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
Fig.20　調査区C溝出土土器実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
Fig.21　調査区C（SX100）出土土器実測図①（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
Fig.22　調査区C（SX100）出土土器実測図②（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
Fig.23　調査区C（SX100）出土土器実測図③（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
Fig.24　調査区C（SX100）出土土器実測図④（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
Fig.25　調査区C（SX100）出土土器実測図⑤（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
Fig.26　調査区D溝出土土器実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
Fig.27　石製品・鉄製品実測図（1/2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
Fig.28　島田外屋敷遺跡調査地点位置図（1/2,500）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
Fig.29　調査区A（SD05・65・75、SK71～73）実測図（1/50・1/100）・・・・・・・・・・・・・・36
Fig.30　島田外屋敷遺跡遺構全体実測図（1/200）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（折り込み）
Fig.31　調査区C（SD15・20・60、SK22・23、SX31）実測図（1/50・1/100）・・・・・・・・・・・39
Fig.32　調査区D（SD10）実測図（1/50）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
Fig.33　調査区D（SD30・35、SK40）実測図（1/50）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
Fig.34　調査区D（SK24・26・45）実測図（1/50）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
Fig.35　調査区A（SD05）出土土器実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
Fig.36　調査区C（SD20、ST02・03・12・23）出土土器実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・・・44
Fig.37　調査区D（SD10）出土土器実測図①（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
Fig.38　調査区D（SD10）出土土器実測図②（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
Fig.39　調査区D（SD10）出土土器実測図③（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
Fig.40　調査区D（SD30、SK40、SP26）出土遺物実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・48
Fig.41　包含層出土土器実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
Fig.42　井田栗ノ内遺跡調査地点位置図（1/2,500）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
Fig.43　SD1土層断面実測図（1/40）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54
Fig.44　井田栗ノ内遺跡遺構全体実測図（1/200）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54
Fig.45　水田伊勢ノ脇遺跡調査地点位置図（1/2,500）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
Fig.46　溝土層断面実測図（1/40）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57
Fig.47　SX040・050遺構実測図（1/40）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・58
Fig.48　土壙実測図（1/40）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59
Fig.49　溝出土土器実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・60
Fig.50　周溝状遺構・土壙出土土器実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62
Fig.51　石製品実測図（1/2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63
Fig.52　折地長間寺遺跡調査地点位置図（1/2,500）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・65
Fig.53　SD05・10・20実測図（1/40・1/80）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・66
Fig.54　折地長間寺遺跡遺構全体実測図（1/200）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（折り込み）
Fig.55　SD30・60実測図（1/40・1/80）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・70
Fig.56　土壙・ピット実測図（1/30・1/60）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・72
Fig.57　SD05・10・30・51・52出土土器実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・74

Fig.58　SD60出土土器実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・76
Fig.59　SK04・21・31・46・53出土土器実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・77
Fig.60　SK50出土土器実測図（1/3・1/6）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・78
Fig.61　その他の出土土器実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・79
Fig.62　石製品・鉄製品・銅製品実測図（1/2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・79
Fig.63　井田堀越遺跡調査地点位置図（1/2,500）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・83
Fig.64　SD01土層断面実測図（1/40）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・84
Fig.65　SD05土層断面実測図（1/40）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・84
Fig.66　井田堀越遺跡遺構全体実測図（1/200）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（折り込み）
Fig.67　SD10土層断面実測図（1/40）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・87
Fig.68　SD15土層断面実測図（1/40）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・88
Fig.69　SD10出土土器実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・88
Fig.70　SD10出土木製品実測図（1/2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・88
Fig.71　SD15出土土器実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・88
Fig.72　井田下堀越遺跡調査地点位置図（1/2,500）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・91
Fig.73　井田下堀越遺跡遺構全体実測図（1/200）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・91
Fig.74　SD15実測図（1/60）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・92
Fig.75　土壙実測図（1/60）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・93
Fig.76　SD15出土土器実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・93
Fig.77　SK10出土土器実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・94
Fig.78　石製品実測図（1/2・1/4）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・95
Fig.79　SP01出土土器実測図（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・96
Fig.80　梅島遺跡（第2次調査）調査地点位置図（1/2,500）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・97
Fig.81　周溝状遺構平面図①（1/100）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・98
Fig.82　周溝状遺構平面図②（1/100）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・99
Fig.83　周溝状遺構平面図③（1/100）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・100
Fig.84　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図①（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・101
Fig.85　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図②（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・102
Fig.86　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図③（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・103
Fig.87　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図④（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・104
Fig.88　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑤（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・105
Fig.89　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑥（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・106
Fig.90　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑦（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・107
Fig.91　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑧（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・108
Fig.92　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑨（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・109
Fig.93　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑩（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・110
Fig.94　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑪（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・111
Fig.95　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑫（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・112
Fig.96　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑬（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・113
Fig.97　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑭（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・114
Fig.98　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑮（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・115
Fig.99　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑯（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・116
Fig.100　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑰（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・117
Fig.101　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑱（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・118
Fig.102　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑲（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・119
Fig.103　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑳（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・120

Fig.104　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉑（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・121
Fig.105　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉒（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・122
Fig.106　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉓（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・123
Fig.107　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉔（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・124
Fig.108　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉕（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・125
Fig.109　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉖（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・126
Fig.110　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉗（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・127
Fig.111　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉘（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・128
Fig.112　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉙（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・129
Fig.113　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉚（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・130
Fig.114　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉛（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・131
Fig.115　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉜（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・132
Fig.116　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉝（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・133
Fig.117　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉞（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・134
Fig.118　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉟（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・135
Fig.119　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊱（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・136
Fig.120　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊲（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・137
Fig.121　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊳（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・138
Fig.122　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊴（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・139
Fig.123　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊵（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・140
Fig.124　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊶（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・141
Fig.125　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊷（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・142
Fig.126　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊸（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・143
Fig.127　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊹（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・144
Fig.128　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊺（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・145
Fig.129　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊻（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・146
Fig.130　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊼（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・147
Fig.131　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊽（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・148
Fig.132　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊾（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・149
Fig.133　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊿（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・150
Fig.134　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図51（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・151
Fig.135　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図52（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・152
Fig.136　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図53（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・153
Fig.137　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図54（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・154
Fig.138　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図55（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・155
Fig.139　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図56（1/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・156
Fig.140　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図57（2/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・156
Fig.141　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図58（2/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・157
Fig.142　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図59（2/3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・158
付図①　水田正吹遺跡遺構全体実測図（1/350）
付図②　水田伊勢ノ脇遺跡遺構全体実測図（1/200）
付図③　梅島遺跡（第2次調査）遺構全体実測図（1/350）

Ⅰ.調査経過と組織

筑後西部地区遺跡群は、福岡県の南部、筑後市の南西部に位置する。この地区は古くから米や麦を中心とした二毛作農耕が盛んに行われており、近年では農業経営の多様化によってハウスでの園芸栽培といった施設園芸が導入されるようになった。こうした状況の中、耕地の集団化や大区画整理、農道整備、用排水路分離などの営農体系を確立させるため、平成元年度から大規模な農地整備事業が実施されるようになった。

これに伴い、工事によって破壊される恐れのある埋蔵文化財の取り扱いについて、福岡県筑後川水系農地開発事務所から筑後市教育委員会へ照会があった。これを受けた筑後市教育委員会は、工事前に確認調査を実施し、その結果をもとに協議を行った。協議の結果、埋蔵文化財が確認された場所において掘削・削平の及ぶ箇所を「筑後西部地区遺跡群埋蔵文化財発掘調査」として実施することになった。発掘調査は工事の進行状況に応じて平成3年度～9年度まで実施された。なお、埋蔵文化財発掘調査に係る費用は、国・福岡県から一部の補助を受け、受益者負担分については筑後市が負担し、残る費用については福岡県筑後川水系農地開発事務所において負担した。

発掘調査において出土した遺物の整理と報告書作成については、随時、筑後市役所内文化財整理室で行った。なお、筑後西部地区遺跡群内で発掘調査された榎崎遺跡（平成4年度調査）：井田西中野遺跡（平成5年度調査）：島田三反田遺跡：古島島相遺跡（平成6年度調査）の報告書は既に刊行されている。

以下は、発掘調査及び整理における組織を挙げるが、各発掘調査の実施期間や面積、調査担当者などについては、各章の「(1) はじめに」に記した。

調査組織

報告する調査が多年度にまたがるため、ここで一括して調査体制をあげる。

1) 平成3年度調査体制（梅島遺跡―第2次調査―）

総括	教育長	森田　基之
	教育部長	橋本　益夫
庶務	社会教育課長	延　　文雄
	社会教育係長	松永盛四郎
	社会教育係	永見　秀徳
		小林　勇作（嘱託：H3.8.1～）

2) 平成7年度調査体制（常用ビンセ田遺跡・水田正吹遺跡・島田外屋敷遺跡）

総括	教育長	森田　基之
	教育部長	津留　忠義
庶務	社会教育課長	下川　雅晴（～H7.9.30）
		山口　逸郎（H7.10.1～）
	社会教育係長	本村　正晴
	社会教育係	永見　秀徳
		小林　勇作
		田中　　剛
		塚本　映子（嘱託）
		大島真一郎（嘱託：H7.12.1～H8.3.31）

3) 平成8年度調査体制（井田栗ノ内遺跡）

総括	教育長	森田　基之
	教育部長	津留　忠義
庶務	社会教育課長	山口　逸郎
	社会教育係長	本村　正晴

	社会教育係	永見　秀徳
		小林　勇作
		田中　　剛
		柴田　　剛（嘱託）

4）平成9年度調査体制（水田伊勢ノ脇遺跡・折地長間寺遺跡・井田堀越遺跡・井田下堀越遺跡）

総括	教育長	森田　基之
	教育部長	津留　忠義
庶務	社会教育課長	山口　逸郎
	社会教育係長	田中　清通
	社会教育係	永見　秀徳
		小林　勇作
		田中　　剛
		上村　英士（H9.6.1～）
		上村　英士（嘱託：H9.4.1～H9.5.31）
		柴田　　剛（嘱託）
		立石　真二（嘱託：H9.8.1～）

5）平成11年度報告書作成

総括	教育長	牟田口和良
	教育部長	下川　雅晴
庶務	社会教育課長	庄村　國義
	文化係長	田中　僚一
	文化係	永見　秀徳
		小林　勇作
		上村　英士
		柴田　　剛（嘱託）
		立石　真二（嘱託）

6）発掘調査参加者（順不同、敬称略）

調査補助員	塚本　映子
	大島真一郎
	野田　洋子
	永田　佳子
発掘作業員	地元有志

整理作業参加者（順不同、敬称略）

整理補助員	平塚あけみ
	江藤　玲子
整理作業員	江藤　玲子、野間口靖子、馬場　敦子、野口　晴香、湯川　琴美、深川　善子、湊　まど香、末吉　隆弥、江崎　貴浩、奥村　太郎

なお、調査及び報告書作成に際しては、以下の方々にご指導、ご教示を賜った。記して感謝の意を表したい。

佐々木隆彦、伊崎俊秋、馬田稔、小田和利（福岡県教育庁）、城戸康利、中島恒次郎、山村信榮（太宰府市教育委員会）、富永直樹、白木守（久留米市教育委員会）、大塚恵治（八女市教育委員会）、片岡宏二（小郡市教育委員会）、塩地潤一（大分市教育委員会）、狭川真一（元興寺文化財研究所）、宮本佐知子（財団法人大阪市文化財協会）

Ⅱ.位置と環境

本題に入る前に、当遺跡が所在する筑後市について若干紹介する。

筑後市は、福岡県の南部で、日本有数の穀倉地帯である筑後平野のほぼ中央部に位置する。市域の北縁は久留米市、北東縁は八女郡広川町、東縁は八女市、北西縁は三潴郡三潴町、西縁は三潴郡大木町、南縁は山門郡瀬高町、同郡三橋町と接する。人口約47,000人、面積41.85㎢、標高3.5～40.5ｍで、主な交通網としては、久留米市と大牟田市を結ぶ国道209号線、八女市と大川市を結ぶ国道442号線、JR鹿児島本線（西牟田駅・羽犬塚駅・船小屋駅）、九州縦貫自動車道（八女インターチェンジ）である。筑後市は水田農業・酪農・畑作農耕・電子工業・印刷業といった農業と工業が調和のとれた街で、なかでもい草、なし、ぶどうは地場の特産品となっている。

さて、今回報告する筑後西部地区遺跡群は筑後市の南西部に位置し、標高4～6ｍの低位段丘から低湿地へと移行するところにあたり、西流する花宗川と矢部川に挟まれた平野部に所在する。近年、この地区はほ場整備や開発行為などに伴って実施されてきた発掘調査によって、多くの遺跡が点在していることがわかりつつあり、太古から住みやすい立地であったことが窺える。

ここでは、現在わかっている筑後西部地区並びにその周辺の遺跡をFig.1に示し、県営干拓地等農地整備事業筑後西部地区の一般計画概要をFig.2に示した。また、Fig.1に示した各遺跡の概略についてはTab.1に表したので参照されたい。

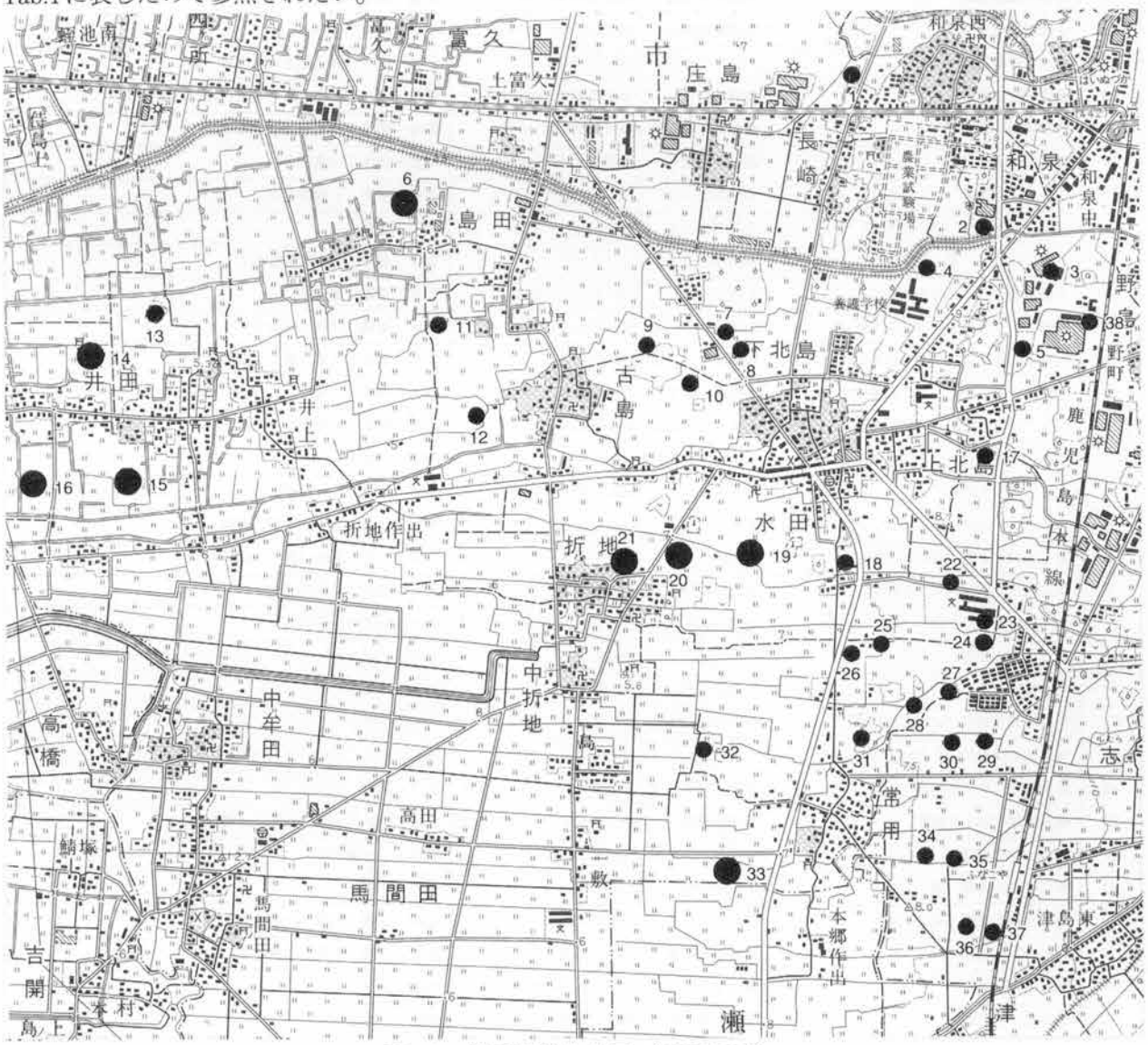


Fig.1　周辺遺跡分布図（1/25,000）

遺跡No.	遺　跡　名	所　在　地	調　査　期　間	遺跡の時代・性格（特記事項）
1	長崎坊田遺跡	筑後市大字長崎字坊田	1991年09月～11月	縄文～中世：（区画溝など）
2	和泉近道遺跡	〃　和泉字近道	1997年06月～07月	弥生～中世：集落（溝など）
3	井原口遺跡	〃　上北島字井原口	1985年06月	奈良：集落（竪穴式住居など）
4	下北島櫛引遺跡	〃　下北島字櫛引	1992年02月	中世：（区画溝など）
5	上北島花畑遺跡	〃　上北島字花畑	1992年09月	弥生：集落（竪穴式住居など）
6	**島田外屋敷遺跡**	〃　**島田字外屋敷**	**1996年03月**	**中世～近世：集落（溝など）**
7	下北島久清遺跡	〃　下北島字久清	1991年09月～1992年02月	弥生：集落（掘立柱建物など）
8	下北島久デ遺跡	〃　下北島字久デ	1989年09月～11月	弥生：集落（土壙など）
9	古島榎崎遺跡（第1次調査）	〃　古島字榎崎	1997年04月～07月	縄文～弥生：集落（竪穴式住居など）
9	古島榎崎遺跡（第2次調査）	〃　古島字榎崎	1998年05月	縄文～弥生：（溝）
9	古島榎崎遺跡（第3次調査）	〃　古島字榎崎	1998年05月～06月	縄文～弥生：集落（竪穴式住居など）
10	下北島榎崎遺跡	〃　下北島字榎崎	1992年07月～12月	弥生：集落（掘立柱建物など）・中世～近世：道路
11	島田三反田遺跡	〃　島田字三反田	1994年09月～12月	弥生・中世・近世：集落（土壙など）
12	古島島相遺跡	〃　古島字島相	1994年09月～12月	弥生・中世：集落（土壙など）
13	井田西中野遺跡	〃　井田字西中野	1993年11月	中世：（区画溝など）
14	**井田栗ノ内遺跡**	〃　**井田字栗ノ内**	**1996年09月～11月**	**中世：（溝）**
15	**井田堀越遺跡**	〃　**井田字堀越**	**1997年12月～1998年02月**	**弥生・中世：集落（溝など）**
16	**井田下堀越遺跡**	〃　**井田字下堀越**	**1998年01月～02月**	**古墳：集落（土壙など）**
17	上北島前田遺跡	〃　上北島字前田	1989年07月～09月	中世：集落（溝など）
18	水田下桜町遺跡	〃　水田字下桜町	1997年03月	中世：集落（掘立柱建物、土壙、溝など）
19	**水田正吹遺跡**	〃　**水田字正吹**	**1996年01月～03月**	**縄文～近世：集落（落とし穴、掘立柱建物など）**
20	**水田伊勢ノ脇遺跡**	〃　**水田字伊勢ノ脇**	**1997年10月～11月**	**弥生～近世：集落（区画溝など）**
21	**折地長間寺遺跡**	〃　**折地字長間寺**	**1997年11月～12月**	**中世～近世：（溝など）**
22	水田杉ノ元遺跡（第1次調査）	〃　水田字杉ノ元	1996年07月～09月	弥生：集落（土壙群など）
22	水田杉ノ元遺跡（第2次調査）	〃　水田字杉ノ元	1997年07月～12月	弥生：集落
23	水田山伏遺跡（第1次調査）	〃　水田字山伏	1992年10月	弥生：集落（掘立柱建物など）
23	水田山伏遺跡（第2次調査）	〃　水田字山伏	1994年07月～08月	弥生：墓地（甕棺墓）
24	水田上仁良葉遺跡（第1次調査）	〃　水田字上仁良葉	1998年09月～10月	中世：集落（井戸、溝など）
24	水田上仁良葉遺跡（第2次調査）	〃　水田字上仁良葉	1998年11月	中世～近世：集落（溝、土壙など）
25	水田上平霊石遺跡（第1次調査）	〃　水田字上平霊石	1998年07月	弥生：集落（土壙など）、中世（溝など）
25	水田上平霊石遺跡（第2次調査）	〃　水田字上平霊石	1998年10月～11月	弥生：集落（土壙群）、中世（水路）
25	水田上平霊石遺跡（第3次調査）	〃　水田字上平霊石	1998年12月	弥生：（甕棺）
26	水田下平霊石遺跡	〃　水田字下平霊石	1998年09月～10月	弥生：集落（小土壙群）
27	常用ニラバ遺跡	〃　常用字ニラバ	1997年05月～06月	弥生～中世：集落（土壙、柵列）
28	常用日田行遺跡（第3次調査）	〃　常用字日田行	1999年02月～03月	弥生、中世：集落（溝、土壙など）
28	常用日田行遺跡（第1次調査）	〃　常用字日田行	1996年09月～12月	弥生：集落（土壙群など）
28	常用日田行遺跡（第2次調査）	〃　常用字日田行	1996年12月～1997年02月	弥生：集落（土壙群など）
29	常用野々下遺跡	〃　常用字野々下	1997年10月	不明：（溝など）
30	常用相割遺跡	〃　常用字相割	1997年10月	不明：（溝など）
31	常用北長田遺跡（第1次調査）	〃　常用字北長田	1996年12月	弥生・中世：集落（溝、土壙など）
31	常用北長田遺跡（第2次調査）	〃　常用字北長田	1997年01月～05月	弥生・中世：集落（溝、土壙など）
32	梅島遺跡（第1次調査）	〃　常用字梅島	1990年12月～1991年01月	弥生：集落（土壙など）
32	**梅島遺跡（第2次調査）**	〃　**常用字梅島**	**1991年12月～1992年04月**	**弥生、中世～近世：集落（土壙など）**
33	**常用ビンセ田遺跡**	〃　**常用字ビンセ田**	**1995年08月～11月**	**中世：（土壙など）**
34	津島南佛生遺跡（第1次調査）	〃　津島字南佛生	1996年07月	中世：（溝）
34	津島南佛生遺跡（第2次調査）	〃　津島字南佛生	1997年10月	弥生～古墳：集落（土壙など）、中世：（溝）
35	津島南笹原遺跡	〃　津島字南笹原	1997年10月～11月	弥生～古墳：集落（土壙など）
36	津島北石伏遺跡	〃　津島字北石伏	1997年08月～09月	弥生：集落
37	津島皿ヶ町遺跡	〃　津島字皿ヶ町	1997年09月～10月	弥生：（溝など）

Tab.1　周辺遺跡概要一覧表

Fig.2 県営干拓地等農地整備事業筑後西部地区一般計画平面図（1/10,000）

Ⅲ.調査の概要
1.常用ビンセ田遺跡の調査

(1) はじめに (Fig.3)

当遺跡は、筑後市大字常用字ビンセ田に所在し、標高6m位の低湿地上にある。平成7年度に実施された農地整備事業支線用排水路設置範囲において遺構を確認した183㎡を調査対象とし、調査区は東西方向の長方形に設定した。調査期間は平成7年8月28日から11月9日までであった。この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影などを行い、調査区からは溝1条、土壙4基を検出した。本調査は小林勇作が担当した。

Fig.3　常用ビンセ田遺跡調査地点位置図 (1/2,500)

(2) 遺構

溝 (Fig.4)

SD5

調査区のほぼ中央から検出した溝で、南部はSK4に切られる。上幅0.23～0.43m、下幅0.13～0.22m、深さ約0.10mを測り、埋土は黒茶色粘土を基調とする。出土遺物は皆無であった。

土壙

SK1（Fig.4、Pla.1）

調査区の東端で検出した隅丸方形状の土壙である。長軸1.18 m、短軸1.03 m、深さ約0.35 mを測り、埋土は濃黒茶色粘土（黄茶色・灰茶色粘土ブロックを含む）であった。出土遺物は土師器片を僅かに認めたが図示できなかった。

SK2（Fig.4、Pla.1）

楕円形状を呈し、長軸1.11 m、短軸0.81 m、深さ約0.39 mを測る。埋土は濃黒茶色粘土（灰茶色粘土を含む）で、出土遺物は土師器片を僅かに認めたが図示できるものではなかった。

SK3（Fig.4、Pla.1）

隅丸方形状を呈した土壙で、調査区の東端で検出した。長軸0.97 m、短軸0.87 m、深さ約0.32 mを測り、埋土は淡黒茶色粘土（灰茶色粘土を含む）を基調とする。遺物は土師器片を僅かに出土したが図示できなかった。

(3) 出土遺物

当調査区からは図示できる遺物は出土しなかった。

(4) 小結

当地は弥生時代中期～後期・中世の複合遺跡である梅島遺跡の南、約400 mのところにあり、中世に画期となった水田庄の領内でもあった。

試掘調査においてこれらに関連する遺跡の存在に大きな期待感を膨らませていた。しかし、調査の結果、遺構の上層部はかなりの削平を受けていたためか、土壙4基、溝1条を僅かに確認したに過ぎず、出土遺物も皆無に等しい状況であった。このため、遺構の時期を断定することは難しく、周辺の調査に期待せざるを得ない結果となった。

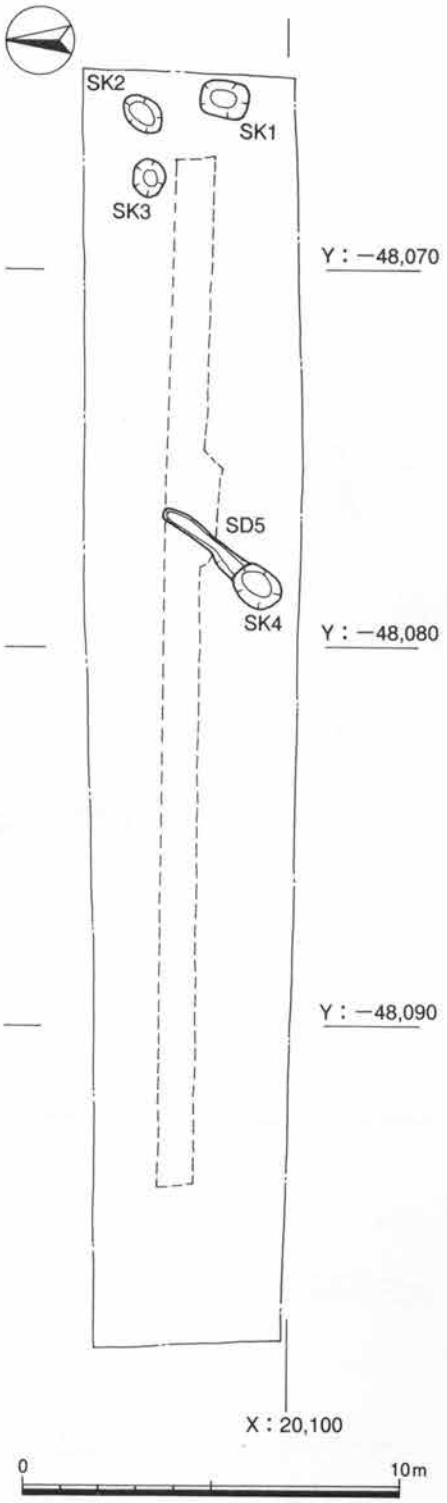


Fig.4　常用ビンセ田遺跡遺構全体実測図（1/200）

2.水田正吹遺跡の調査

(1) はじめに（Fig.5）

当遺跡は、筑後市大字水田字正吹、小塚、柳ノ内、鬼塚、汁蒲に所在する。一帯は水田地帯で標高5.5～6.5m位の低湿地上にある。調査は平成7年度に施工された農地整備事業支線用排水路設置範囲において遺構を確認した4,340㎡を実施した。調査期間は平成8年1月16日から3月31日までであった。この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影などを行い、遺構測量の一部をアジア航測株式会社に委託した。

調査区からは掘立柱建物、溝、周溝状遺構、土壙、ピットなどを検出した。

ところで、筑後市内に分布する遺跡の名称は、通常の場合「大字名」と「小字名」を兼ね合わせた名前を称している。今回調査した範囲は大字水田地区内の複数の小字にまたがったが、調査時点において「水田正吹遺跡」を代表名とし、小字単位で調査区「A～E」を設定して調査を実施した。本来、報告にあたっては各遺跡名で統一すべきであったが、今回は混乱を避けるため、あえて調査時点での遺跡名と調査区を生かすことにした。

本調査は小林勇作が担当し、柴田剛、永田佳子の協力を得た。

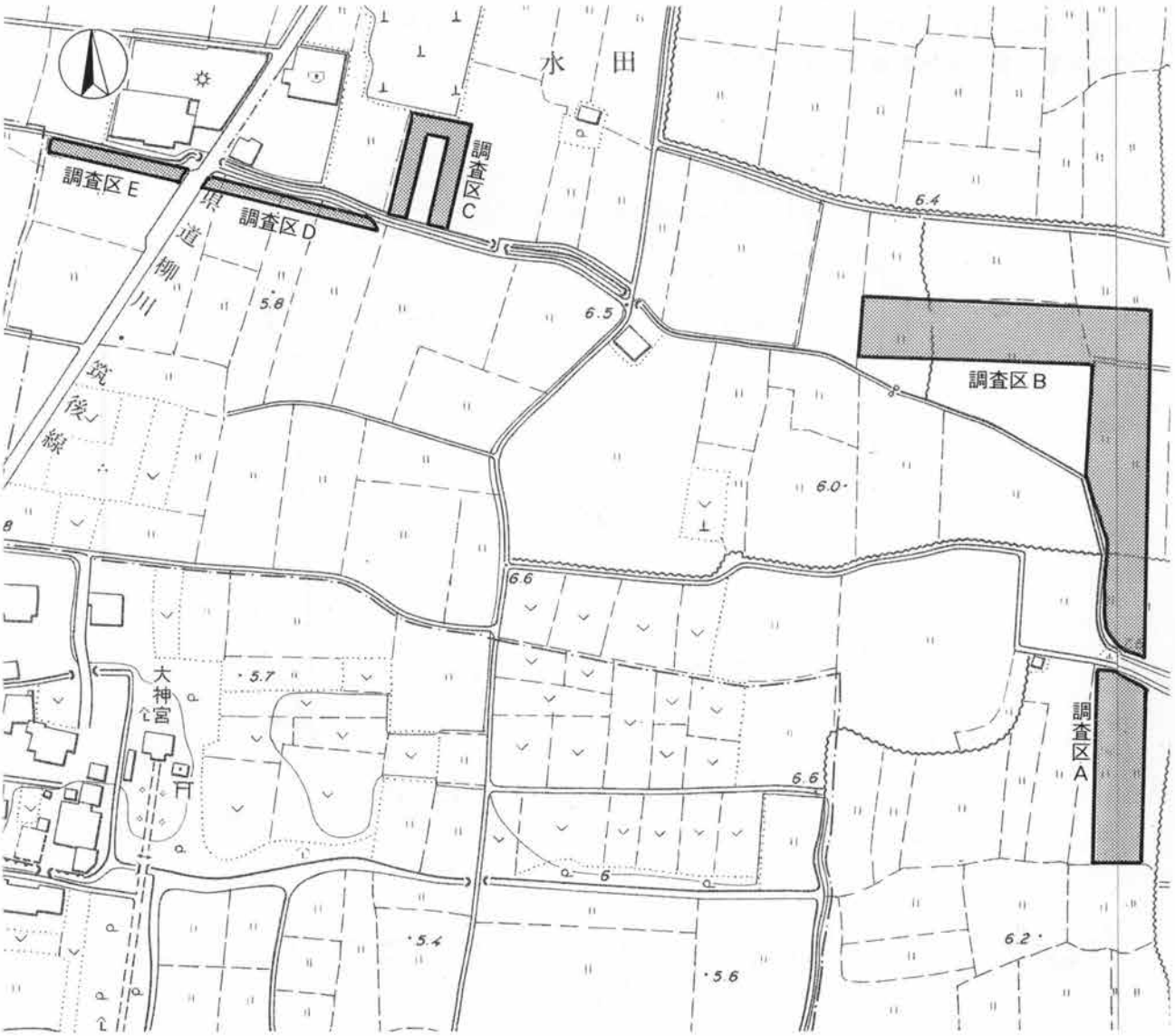


Fig.5　水田正吹遺跡調査地点位置図（1/2,500）

(2) 遺構

調査区A

掘立柱建物

SB020（Fig.6、Pla.2）

調査区北東部で検出した1×1間の建物で、各柱穴で径11～18cmの柱痕を認めた。南北軸の方位はN—48°50′—Wを示し、P1—P2間2.71m、P2—P3間3.11m、P3—P4間3.05m、P4—P1間3.17mを測る。各柱穴の埋土においては、特に叩き締められた痕跡はなく、出土遺物は皆無であった。

SB030（Fig.7、Pla.3）

調査区中央付近で柱穴P1～P5を検出し、柱穴はほとんどが隅丸方形状を呈する。P1の底部はフラット、P2～P4においては底部から小穴を認め、P5は底部に窪みを呈する。P1—P2間3.94m、P2—P3間3.12m、P3—P4間3.53m、P4—P5間2.87mを測り、南北軸の方位はN—41°—Wを示す。SB030は検出時において2×1間の南北棟の建物と想定していたが、P1の底部から柱痕となる小穴が認められなかったこと、P1—P2間は他の柱間よりも距離が離れること、P1に対する柱穴が認められなかったことから、1×1間の建物になる可能性も考えられる。遺物はP1～P5の各柱穴において弥生土器（片）が出土している。

SB040（Fig.8、Pla.3）

SB030の南西部で検出した1×1間の建物である。それぞれ楕円形状を呈し、P1・P2・P4の底部からは柱の痕跡と思われる小穴が検出された。南北軸の方位はN—27°—Wを示し、P1—P2間2.27m、P2—P3間2.68m、P3—P4間2.87m、P4—P1間2.84mを測る。出土遺物はP2から弥生土器（片）、P3からは弥生土器（甕）が検出面で出土した。

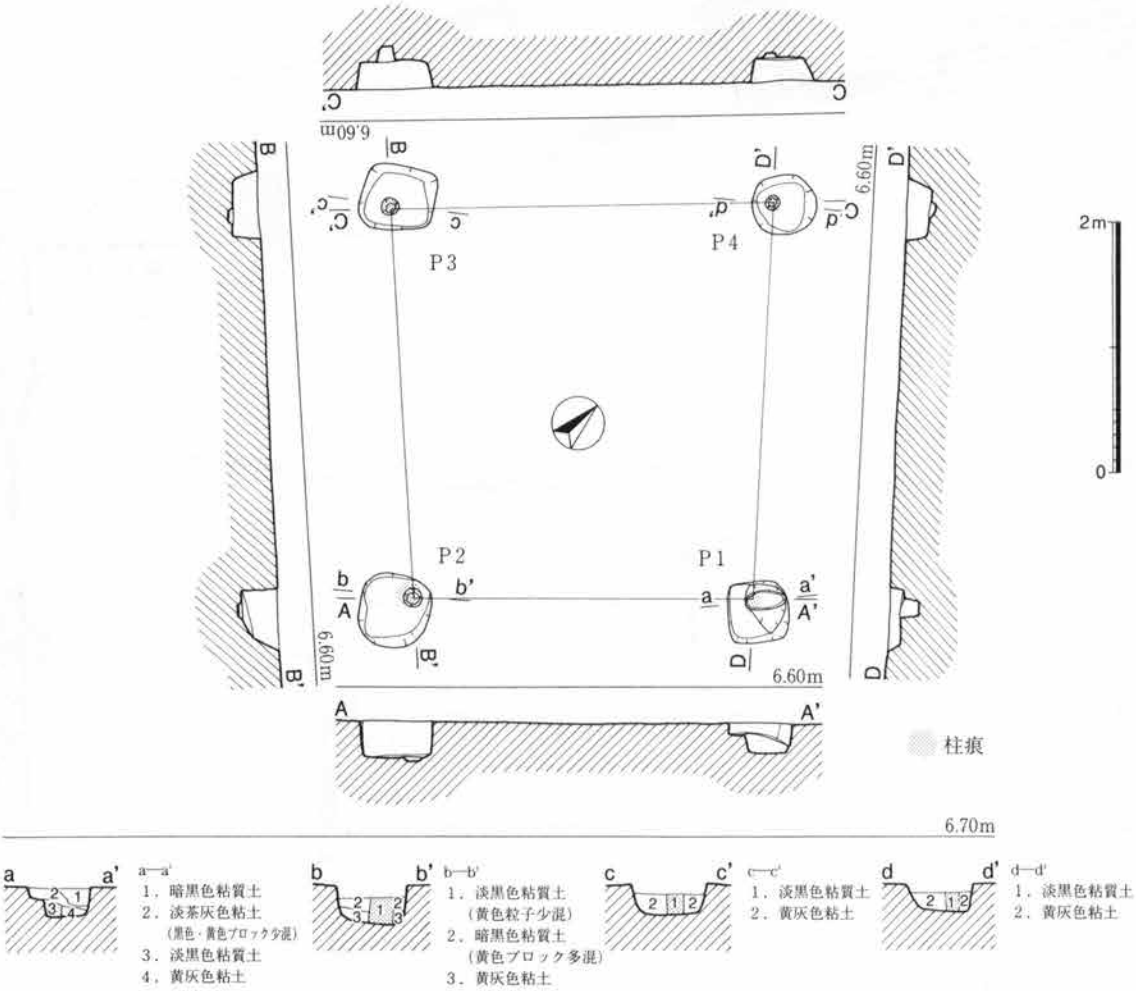


Fig.6　調査区A（SB020）実測図（1/60）

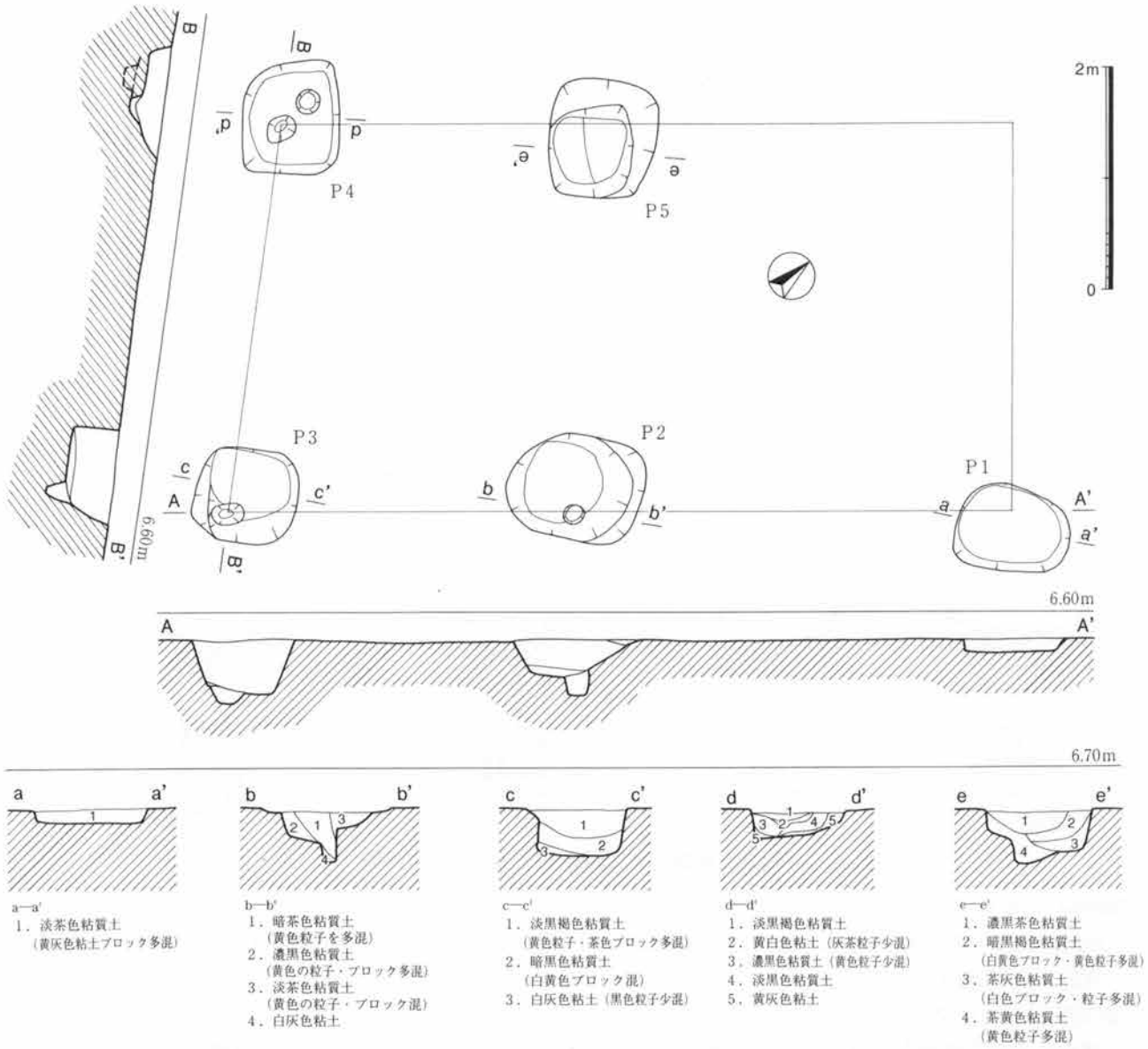


Fig.7　調査区A（SB030）実測図（1/60）

土壙

SK001（Fig.9、Pla.4）

調査区北西部で検出した隅丸長方形状の土壙である。長軸1.40 m、短軸0.61 m、深さ0.25 mを測り、埋土は濃黒褐色粘質土と濃茶灰色粘質土であった。遺物は弥生土器（片）、土師器（小皿・片）、サヌカイト（片）が出土した。

SK002（Fig.9、Pla.4）

調査区北西部で検出した隅丸長方形状の土壙で、SK003・004を切る。長軸1.80 m、短軸0.87 m、深さ0.21 mを測り、埋土は淡茶白色粘質土と淡茶灰色粘土であった。遺物は須恵器（片）、土師器（坏・片）が出土した。

SK003（Fig.9、Pla.4）

SK002に切られ、SK004を切る。楕円形状の土壙で、幅約1.20 m、深さ0.17 mを測る。黒褐色粘質土の単一土層で、土師器（小皿）が出土した。

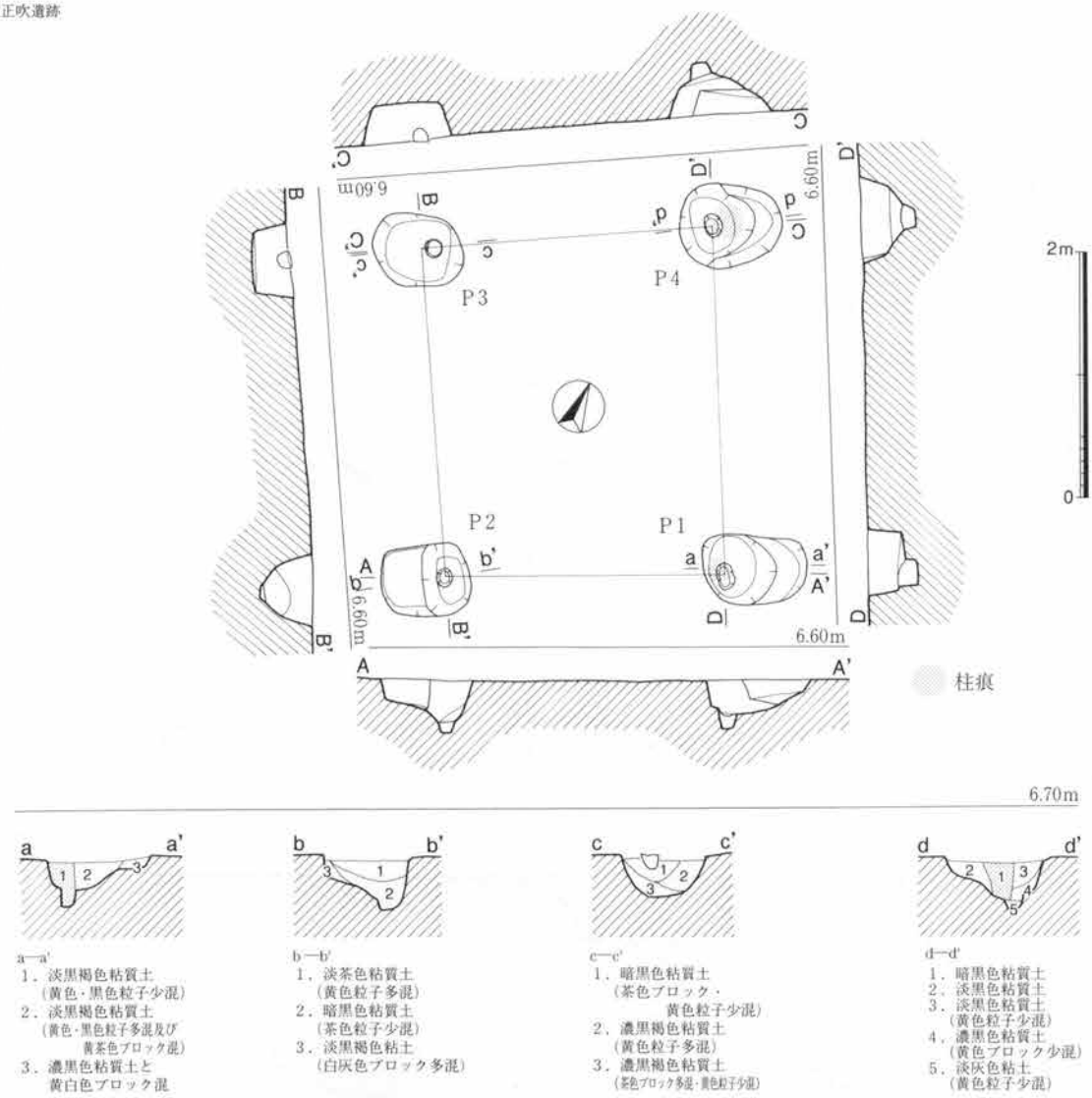


Fig.8　調査区A（SB040）実測図（1/60）

SK004（Fig.9、Pla.4）

SK003に切られた楕円形状の土壙で、幅約0.77 m、深さ0.20 mを測る。淡黒褐色粘質土の単一土層で、土師器（片）が出土した。

SK005（Fig.10、Pla.4）

調査区北部で検出した楕円形状の土壙で、内部にテラスを呈する。長軸1.50 m、短軸1.11 m、深さ1.19 mを測り、廃棄土壙として使用された可能性がある。遺物は弥生土器（甕・高坏・片）が出土した。

SK006（Fig.9、Pla.4）

SP016を切るように検出した隅丸方形状の土壙で、底面の南部は段がついて下がる。長軸1.42 m、短軸0.83 m、深さ0.20～0.27 mを測り、埋土は黒褐色粘質土であった。出土遺物は土師器（甕・片）、青磁（片）を認めた。

SK007（Fig.9、Pla.4）

SK006に隣接した楕円形状の土壙で、長軸1.32 m、短軸0.77 m、深さ0.07 mを測る。底面はフラットを呈し、埋土は黒褐色粘質土の単一土層であった。出土遺物は土師器（片）、土師器（片）を認めた。

SK008（Fig.9、Pla.4）

SX009に切られた隅丸方形状の土壙である。長軸1.10 m、短軸0.95 m、深さ0.24 mを測り、黒褐色粘質土を基調とする埋土であった。出土遺物は皆無であった。

SK010（Fig.10、Pla.5）

調査区北部で検出した隅丸方形状の土壙である。径は9.10～9.70 m、深さ1.00 mを測り、黒褐色粘質

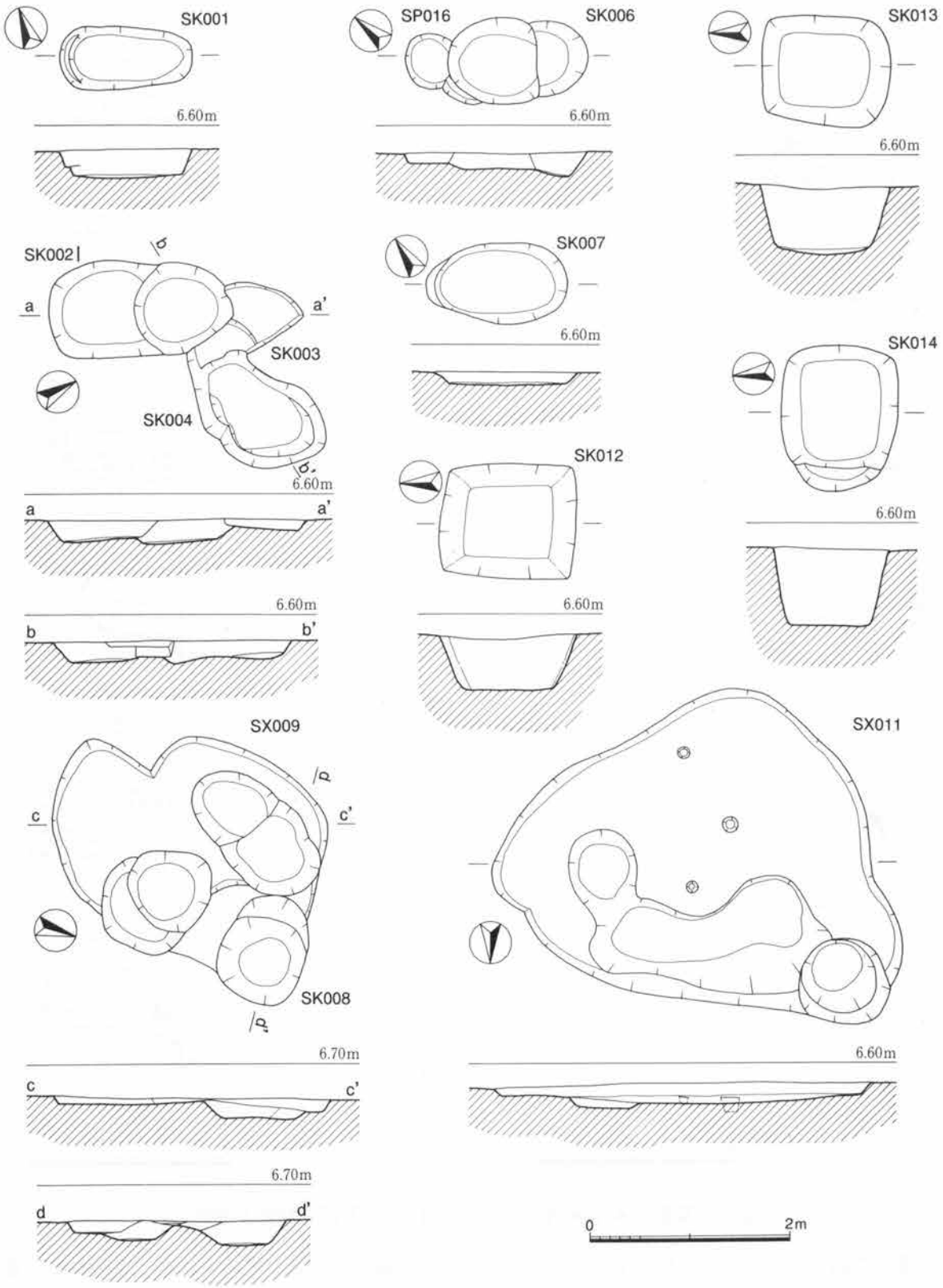


Fig.9　調査区A（SK001～004・006・007・012～014、SX009・011、SP016）実測図（1/60）

土を基調とする埋土であった。遺物は須恵器（甕）、土師器（皿・甕・片）が出土した。

SK012（Fig.9）

調査区中央部で検出した。プランは長方形状を呈し、長軸1.43 m、短軸1.12 m、深さ0.52 mを測る。

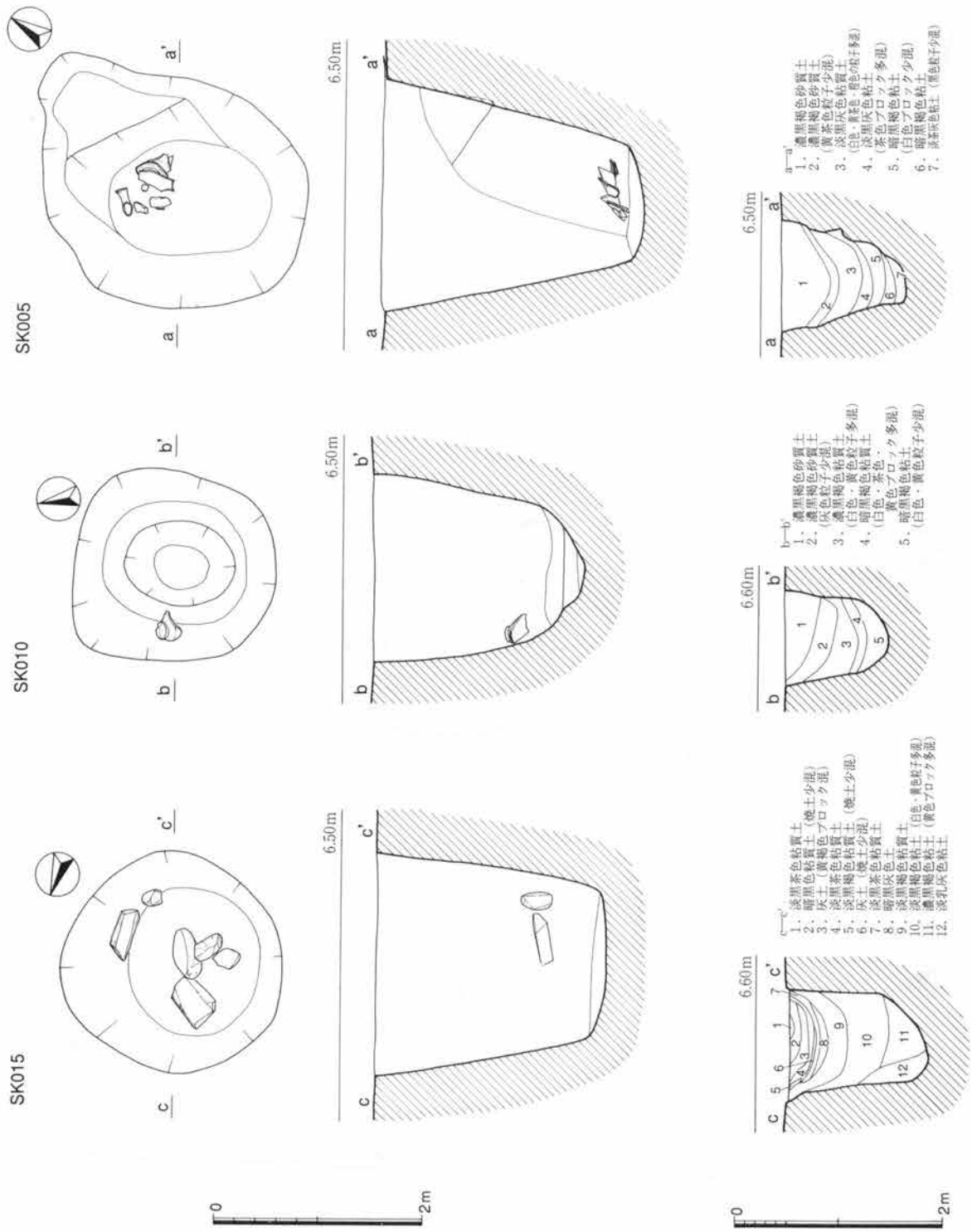


Fig.10　調査区A（SK005・010・015）実測図（1/30・1/60）

埋土は濃灰色粘質土（黄色・黒色粒子を多く含む）の単一土層で、一気に埋められたと思われる。遺物は土師器（片）、白磁（片）が出土している。

SK013（Fig.9）

調査区中央部で検出した隅丸長方形状の土壙である。長軸1.35 m、短軸1.10 m、深さ0.62 mを測り、埋土は上層から淡黄灰色粘質土→濃灰色と黄白色粘質土であった。遺物は須恵器（坏）、土師器（片）、青磁（片）が出土している。

SK014（Fig.9）

SK013の南で検出した隅丸方形状の土壙で、長軸1.41 m、短軸1.11 m、深さ0.70 mを測る。埋土は上層から淡灰色砂質土→黄白色粘土→淡灰色粘質土で、須恵器（甕・片）、土師器（片）、青磁（片）、染付（片）が出土した。

SK015（Fig.10、Pla.5）

調査区北東部で検出した円形状の土壙で、径は1.07 m前後、深さ1.34 mを測る。上層には灰と焼土が堆積しており、2・3度の焚き火が行われたものと思われる。更に下層からは複数の河原石や土器を散在的に認め、廃棄土壙として使用されていた可能性が考えられる。遺物は須恵器（甕）、土師器（甕）、瓦器（坏・椀）、黒色土器（椀）、黒曜石（片）、粘土塊が出土した。

不明遺構

SX009（Fig.9、Pla.4）

SK008を切るように検出した溜まり状の遺構で、底面は凹凸が著しい。かなりの削平を受けているもので、黒褐色土を基調とした埋土であった。土師器（片）が僅かに出土した。

SX011（Fig.9、Pla.4）

調査区北西部で検出した溜まり状の遺構である。規模は3.71 m×3.06 mで、深さ0.05～0.15 mとかなりの削平を受けているものと思われる。濃黒褐色土の単一土層で、弥生土器（甕）、須恵器（甕）、土師器（皿・甕）、陶器（片）が出土した。

樹木跡（付図①）

調査区南部からは20個体程度の樹木跡を検出したが、掘削はしていない。地山によく似た埋土と黒色土で構成されるもので、平面プラン上で黒色土が「半月状」若しくは「三日月状」に確認される。

調査区B

溝

SD050（Fig.11、Pla.6）

東西溝で11.1 m分を検出した。溝の中央部は突出したように検出され、平面での切り合いは確認されなかったため一連の溝としたが、別遺構になる可能性も捨てきれない。溝は幅0.40～1.55 m、深さ0.18～0.52 mを測り、黒色粘質土を基調とした埋土であった。遺物は弥生土器（甕）、須恵器（坏・甕）、土師器（皿・坏・蓋）が出土し、溝底からは少数の河原石を認めた。

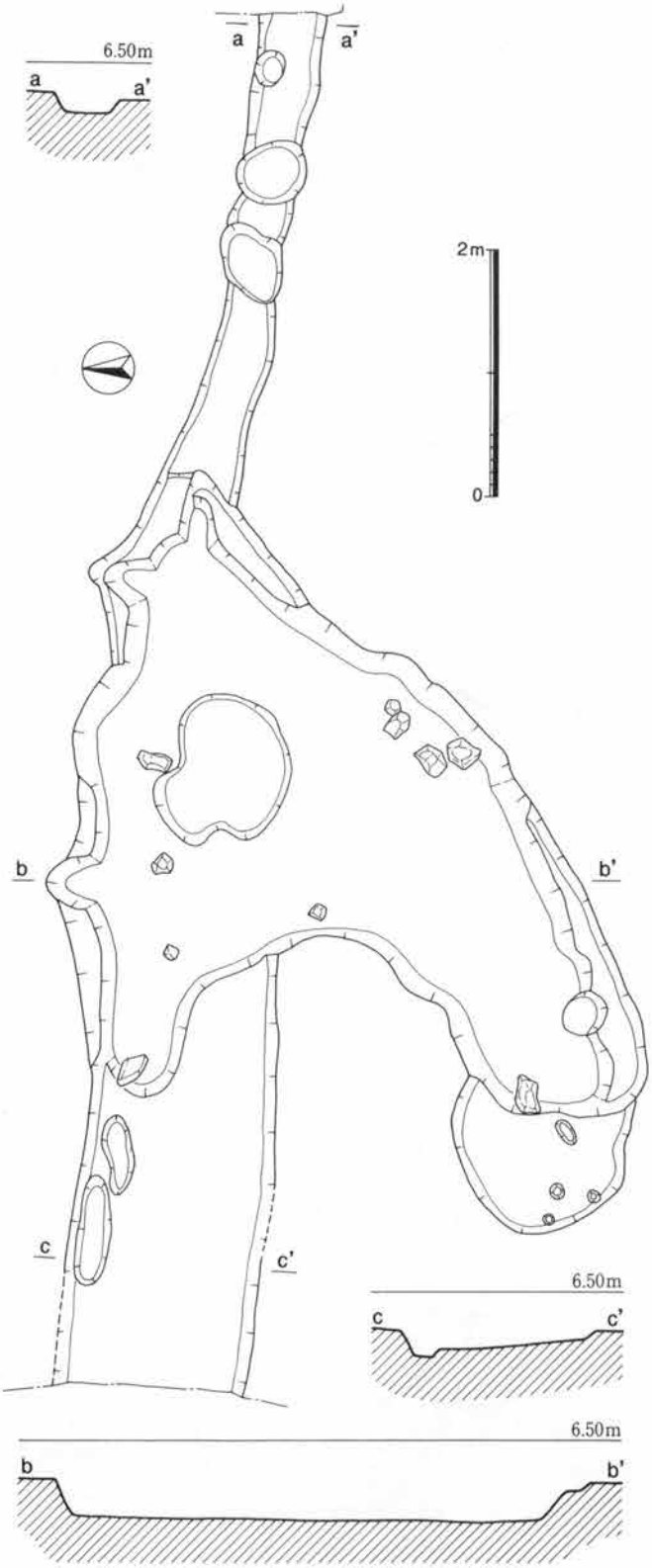


Fig.11　調査区B（SD050）実測図（1/60）

土壙

SK025（Fig.12、Pla.6）

SD050の南側で検出した楕円形状の土壙で、長軸2.85 m、短軸2.60 m、深さ約0.97 mを測る。土壙は壁

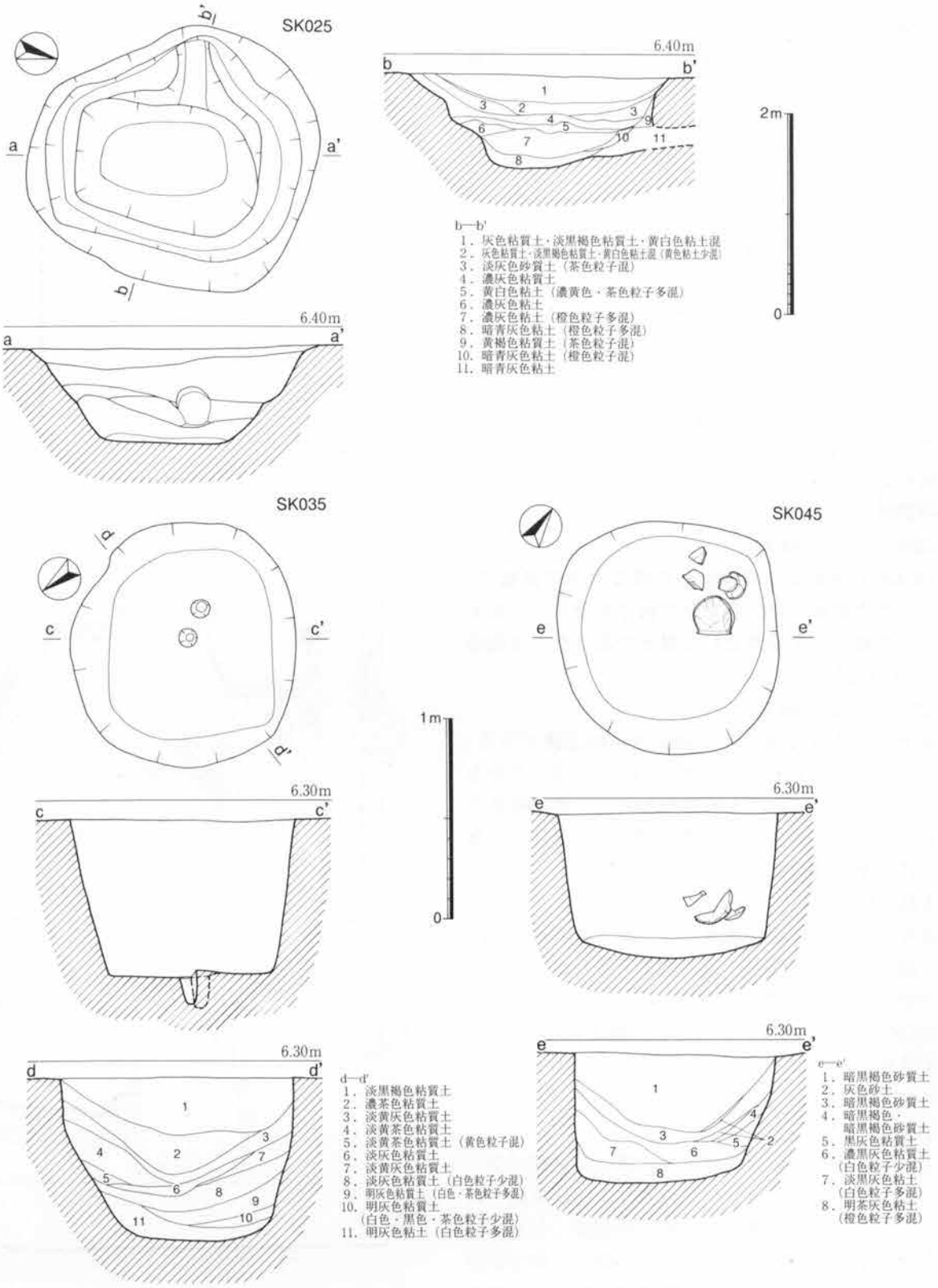


Fig.12　調査区B（SK025・035・045）実測図（1/30・1/60）

部の一部がトンネル状に抉られており、底部はほぼフラットを呈する。出土遺物は皆無であった。

SK035（Fig.12、Pla.7）

調査区の南部で確認した土壙で、底部に径9㎝前後の2つの小穴を呈する。長軸1.21ｍ、短軸1.11ｍ、深さ0.80ｍを測る。自然堆積による埋土で出土遺物は皆無で、落とし穴になる可能性がある。

SK045（Fig.12、Pla.7）

調査区南部で検出した隅丸方形状の土壙で、黒褐色土を基調とした自然堆積による埋土であった。径は1.00 m、深さ0.64 mを測り、底部はほぼフラットな面を呈する。遺物は弥生土器（甕・高坏・片）が出土し、廃棄土壙として使用された可能性がある。

土壙群

SK018・019・021～024・026～029・031～034・036～039・041～044・046～049・052～054・066・067・074（付図①）

調査区の北部からは近世から現代にかけての土壙（カクラン）が数十基検出された。プランは隅丸方形や不定形なものが多く、ほとんどが灰色土を基調とした埋土である。

不明遺構

SX064（Fig.13）

調査区南部で5.80 m分を確認し、幅3.20 m、深さ0.29 mを測る。茶褐色土を基調とした埋土で、出土遺物は皆無であった。

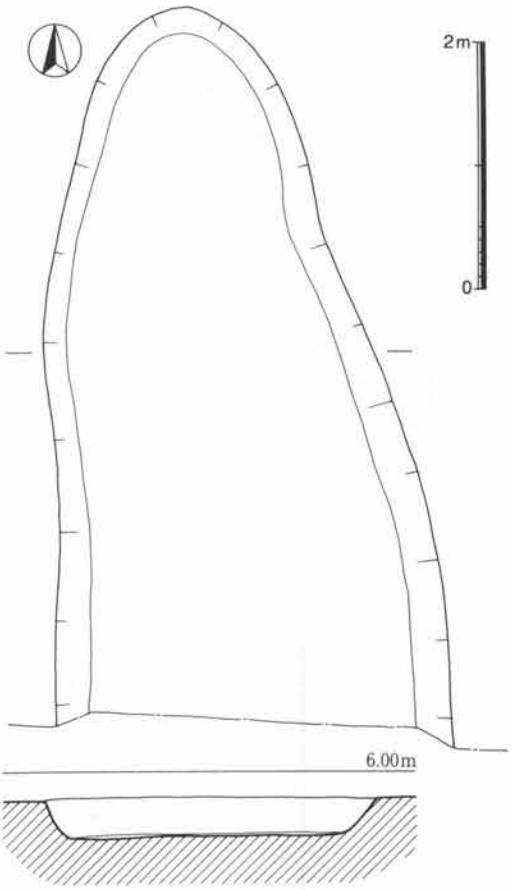


Fig.13　調査区B（SX064）実測図（1/60）

調査区C

溝

SD060（付図①）

SD070を切るように39.2 m分を検出した南北溝である。溝断面は逆台形状を呈し、埋土は灰色土を基調とした埋土であった。遺物は土師器（片）、白磁（碗）、染付（片）、陶器（甕）が出土した。時間の制約から完掘までには至っていない。

SD070（付図①）

39.2 m分を検出した南北溝で、埋土は黒茶色土である。時間の制約から一部の掘削に止まり、土師器（片）が出土している。

SD080（付図①、Pla.14）

調査区西側で検出した南北溝でSX100を切る。38.2 m分を確認し、時間の制約から一部の掘削に止まる。埋土は黒茶色土を基調とした埋土で、弥生土器（片）、土師器（片）が僅かに出土した。

SD090（付図①、Pla.14）

SX100を切る南北溝で38.1 m分を検出した。時間の制約から完掘までには至っておらず、溝の断面は逆台形状を呈する。灰色土の埋土で、遺物は弥生土器（甕・高坏）、土師器（土鍋）が出土し、弥生土器はSX100から流れ込んだものと思われる。

周溝状遺構

SX100（Fig.14、Pla.8・9）

調査区北西部で検出し、埋土は黒色土を基調とする単一土層であった。著しく削平を受けており、遺構の南西部はプランが不明確であった。周溝状遺構の規模は外径約6.6 m、内径約4.0 mに復原され、溝幅1.03～1.84 m、深さ0.11～0.18 mを測る。遺物は弥生土器（小鉢・甕・壺・高坏）が溝底に集積していた。

調査区D

溝

SD104（Fig.15）

調査区東部で検出したやや蛇行した南北溝で、4.05 m分を確認した。幅約0.60 m、深さ約0.27 mを測り、

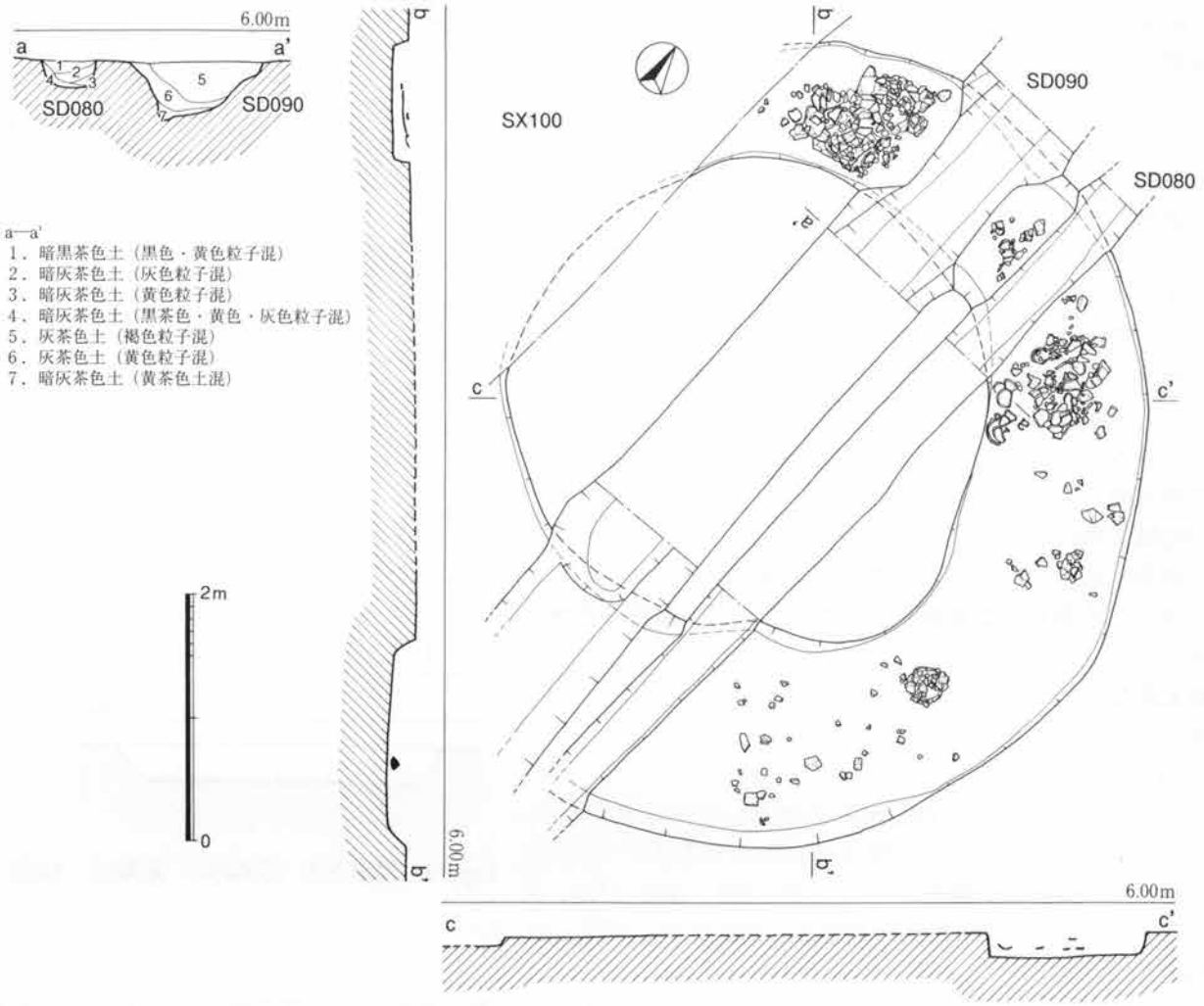


Fig.14　調査区C（SD080・090、SX100）実測図（1/60）

土師器（片）が多量に出土した。

SD108（Fig.15）

SD104の溝底から検出し、一連の溝の可能性がある。3.35 m分を検出し、幅約1.10 m、深さ約0.40 mを測り、土師器（皿・片）、鉄製品（釘）が出土した。

SD120（Fig.15）

調査区中央部で検出した南北溝で3.65 m分を確認した。幅0.37～0.65 m、深さ約0.20 mを測り、遺物は須恵器（甕）、土師器（坏・片）が出土している。

土壙

SK102（Fig.15）

土壙の南部は調査区にかかり、深さは0.61 mを測る。埋土は黒茶色土を基調とし、埋土中からは土師器（皿・甕）が出土した。

SK105（Fig.15）

楕円形状の土壙で、径は0.95 m、深さは0.40 mを測る。埋土中からは土師器（甕）、染付（片）、陶器（擂鉢）、ガラス（片）が出土している。

SK111（Fig.15）

不整円形状の土壙で底面の凹凸は著しい。黒茶色土の埋土で出土遺物は皆無であった。

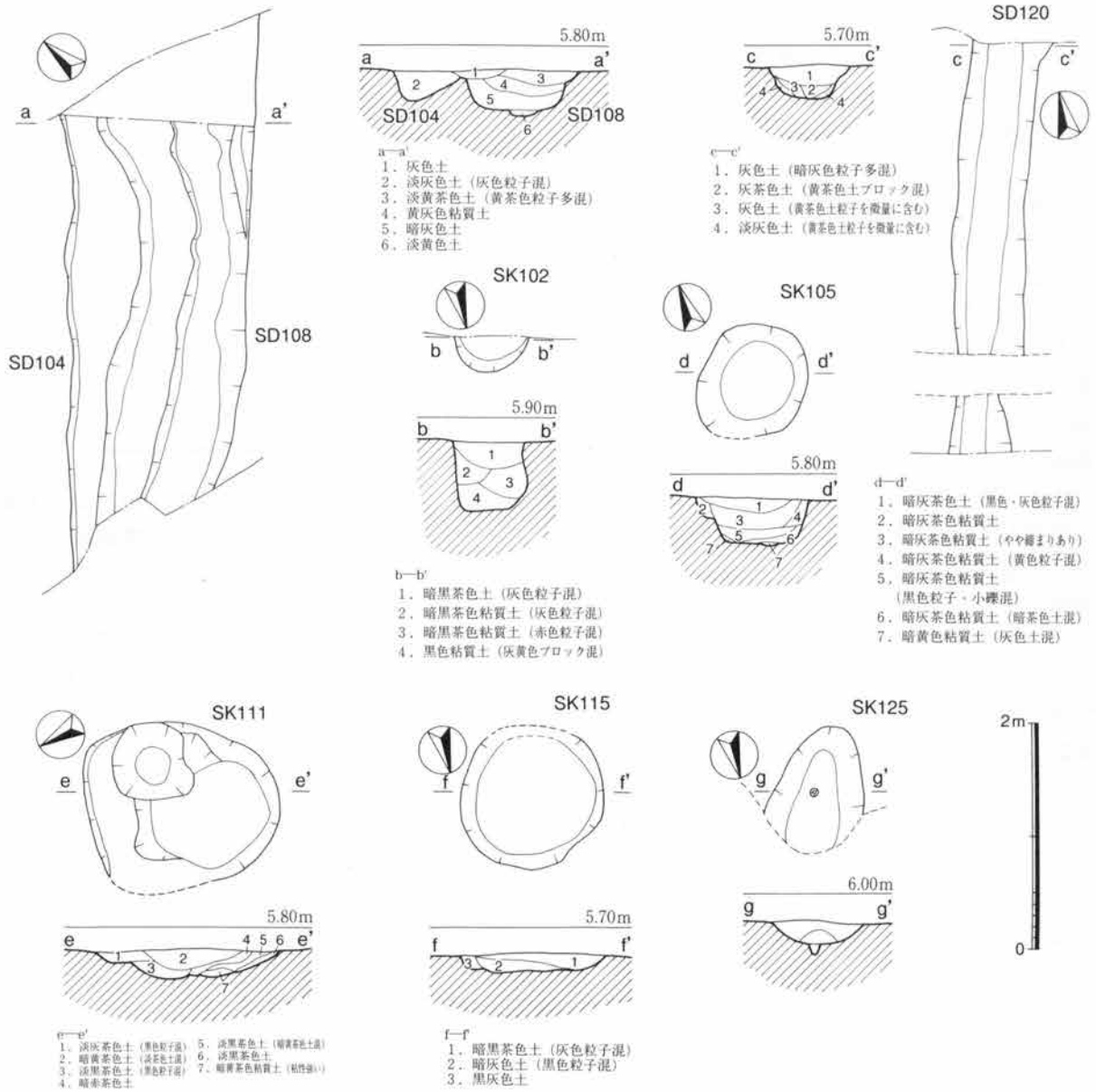


Fig.15　調査区D（SD104・108・120、SK102・105・111・115・125）実測図（1/60）

SK115（Fig.15）

径は1.23mを測るほぼ円形状の土壙で深さは0.15mと浅い。出土遺物はない。

SK125（Fig.15）

調査区東部で検出し、遺構の北部はカクランを受ける。深さ0.20mを測り、溝底から径7cmの小穴1つを認める。埋土は黒褐色土で出土遺物は皆無であった。

調査区E

溝

SD136（付図①）

調査区東側で確認した南北溝で2.75m分を検出した。溝は途中、現代のカクランを受けており、幅0.55～1.05m、深さ約0.10mを測る。出土遺物は皆無であった。

SD137（付図①、Pla.10）

調査区中央で確認した南北溝で2.35m分を検出した。幅0.55～1.12m、深さ約0.10mを測り、出土遺物は皆無であった。

SD138（付図①）

調査区東部から2.37ｍ分を検出し、幅約0.73ｍ、深さ約0.12ｍを測る。出土遺物は皆無であった。

(3) 出土遺物

調査区Ａ

掘立柱建物

SB040―P3（Fig.16、Pla.11）

弥生土器

甕（1）　口径20.0㎝を測る「く」字形口縁甕で内外面の調整は著しく磨耗しているため不明である。

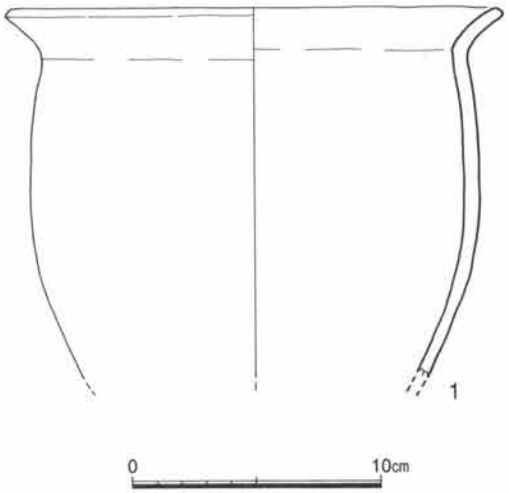


Fig.16　調査区Ａ（SB040―P3）出土土器実測図（1/3）

土壙

SK001（Fig.27、Pla.13）

石製品

二次加工石器（98）　石材はサヌカイト製で、一側縁の一部に二次加工を施して利器としたものである。

SK002（Fig.17、Pla.11）

土師器

坏（2）　口径12.4㎝、底径6.4㎝、器高3.3㎝を復原し、口縁部はやや外反する。内外面の調整はヨコナデで底部外面はヘラケズリである。内外面には漆が部分的に付着しており、特に内面は厚く残存する。

SK003（Fig.17）

土師器

坏（3）　口径11.4㎝、底径6.4㎝、器高3.3㎝を復原する。内外面の調整はヨコナデで底部外面はヘラケズリである。

椀（4）　底部のみの細片で、高台径は9.5㎝を測る。外面はヨコナデで、底部内面はナデ調整である。底部外面の一部に小動物による爪痕を認める。

SK004（Fig.17）

須恵器

鉢（5）　底部が欠損した細片で、口径14.5㎝を復原する。内外面はヨコナデ調整である。

SK005（Fig.17、Pla.11）

弥生土器

壺（6）　口径18.0㎝、底径4.3㎝、器高29.4㎝を測る。頸部から口縁部にかけて大きく開く広口壺で、口縁部の器厚は厚くやや短めである。体部はやや長胴化し、底部はやや丸みを帯びている。外面の口縁部はヨコナデ、体部から底部にかけては刷毛目、内面の口縁部は刷毛目、体部から底部にかけてはヘラケズリで一部刷毛目調整を施す。

甕（7～10）　7は底部を欠損した小型の「く」字形口縁甕で、口径12.5㎝、底径4.6㎝、器高12.7㎝を測る。口縁部内外面はヨコナデ、体部内面はナデ、外面は刷毛目調整を施す。8・9は口縁部が外反した小型の甕で、共に口縁部内外面はヨコナデ、体部の外面は刷毛目、内面はヘラケズリの調整である。8は口径15.5㎝、9は口径16.0㎝を復原する。10は「く」字形口縁甕で口径27.8㎝を復原する。

鉢（11）　口縁部が緩やかに外反した鉢で、口径18.0㎝を復原する。口縁部内外面はヨコナデ、外面の体部上位は刷毛目、下位はヘラナデ、体部内面は指押さえ後刷毛目調整を施す。

高坏（12）　杯部の細片で口径26.0㎝を復原する。口縁部はほぼ直立し、口縁部内外面はヨコナデ、体部内外面は刷毛目調整を施す。

器台（13）　口縁部は欠損し、脚裾径は11.1㎝を測る。頸部内面はナデ、内外面は刷毛目、脚裾端部はヨコナデ調整を施す。

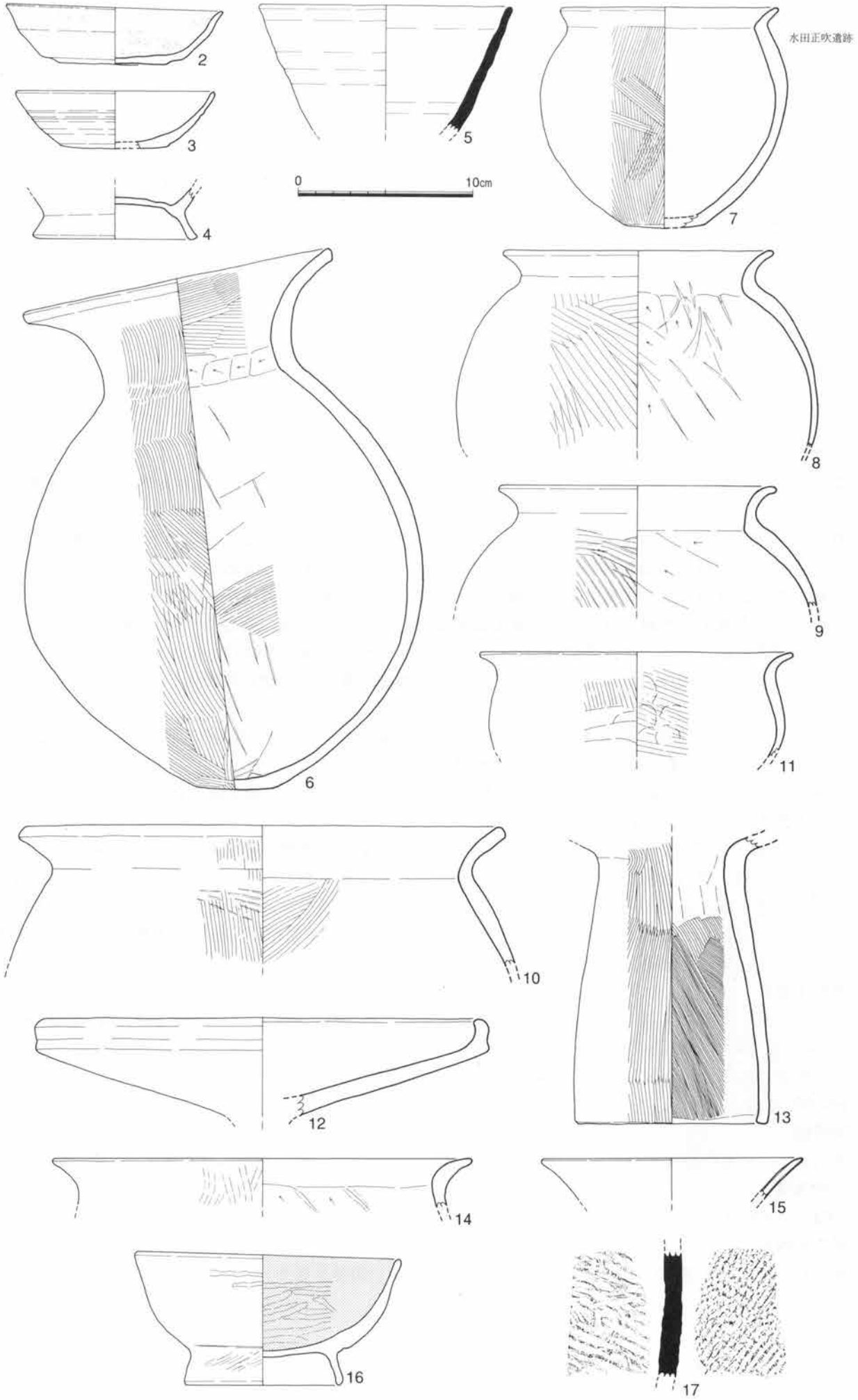


Fig.17　調査区A（SK002～006・010・069）出土土器実測図（1/3）

SK006（Fig.17）

土師器

甕（14）　口縁部の細片で口径24.0cmを復原し、口縁部は外反する。

青磁

碗（15）　同安窯系青磁で口径15.0cmを復原する。内外面にはくすんだ緑色の釉を薄く施す。

SK010（Fig.17）

黒色土器A

椀（16）　口径15.3cm、高台径9.1cm、器高7.5cmを測る。内黒で内面と口縁部外面にヘラミガキを施し、高台部は接合によるナデを斜め方向に施す。

SK015（Fig.18、Pla.11）

須恵器

甕（18～20）　18は体部下位の細片と思われ、内面は平行叩き、外面は格子叩き後ナデ消しを施す。19・20は体部の細片で共に内面は平行叩き、外面は格子叩きを施す。

土師器

皿（21）　口径11.0cm、底径7.8cm、器高1.8cmを復原する。体部外面はヨコナデで、内面は調整不明。ヘラ切りか。

椀（22～30）　22は口径11.0cmを復原し、内外面は著しく磨耗しているため調整不明。口縁部はやや外反する。23は口径11.6cmを復原し、内外面はヨコナデ調整を施す。口縁部はやや外反する。24は口縁部の細片で、口径14.0cmを復原する。口縁部がやや外反し、口縁部外面及び内面はヨコナデ、体部外面はヘラケズリを施す。内面にはコテあて痕を認める。25は口径14.2cm、高台径8.1cm、器高5.8cmを復原する。口縁部外面はヨコナデ、体部外面はヘラケズリ、高台内外面は接合によるナデを施し、内面は調整不明。26は細片で口径14.4cmを復原する。27～30は底部の細片で、29は高台径7.8cm、30は高台径8.8cmを復原する。

甕（31）　口縁部の細片で口径26.0cmを復原する。口縁部は外反し、口縁部内面上位及び口縁部外面はヨコナデ、口縁部内面下位はヘラケズリ調整である。

不明土製品（32）　片側が欠損した不明土製品で、長さ2.2cmを測る。焼成前に穿孔されている。

黒色土器A

椀（33～39）　33は口径11.5cmを復原し、内外面は磨耗のため調整不明である。底部は押し出し技法を用いる。34は口径12.2cmを復原し、内外面は磨耗のため調整不明であるが、内面の一部に僅かにヘラミガキ痕を認める。35は口径14.2cmを復原し、内面はヨコナデ後ヘラミガキ、外面は磨耗のため調整不明である。36は口径15.0cmを復原し、口縁部外面はヨコナデで内面及び体部外面は調整不明。37～39は底部の細片で、38は高台径7.5cm、39は高台径8.0cmを復原する。

黒色土器B

椀（40・41）　40は口径13.6cmを復原し、表面剥離のため調整不明。41は口径14.2cm、高台径8.4cm、器高5.4cmを復原する。口縁端部はヨコナデ、外面及び体部内面はヘラミガキ、底部内面はナデ、高台内外面は接合によるナデ後ヘラナデ、底部外面はヘラ切りである。

SK069（Fig.17）

須恵器

甕（17）　体部の細片と思われ、内面は平行と同心円の叩き、外面は格子叩きを施す。

不明遺構

SX011（Fig.18）

黒色土器A

椀（42）　底部を口径15.0cmを復原し、内外面はヨコナデ調整を施す。

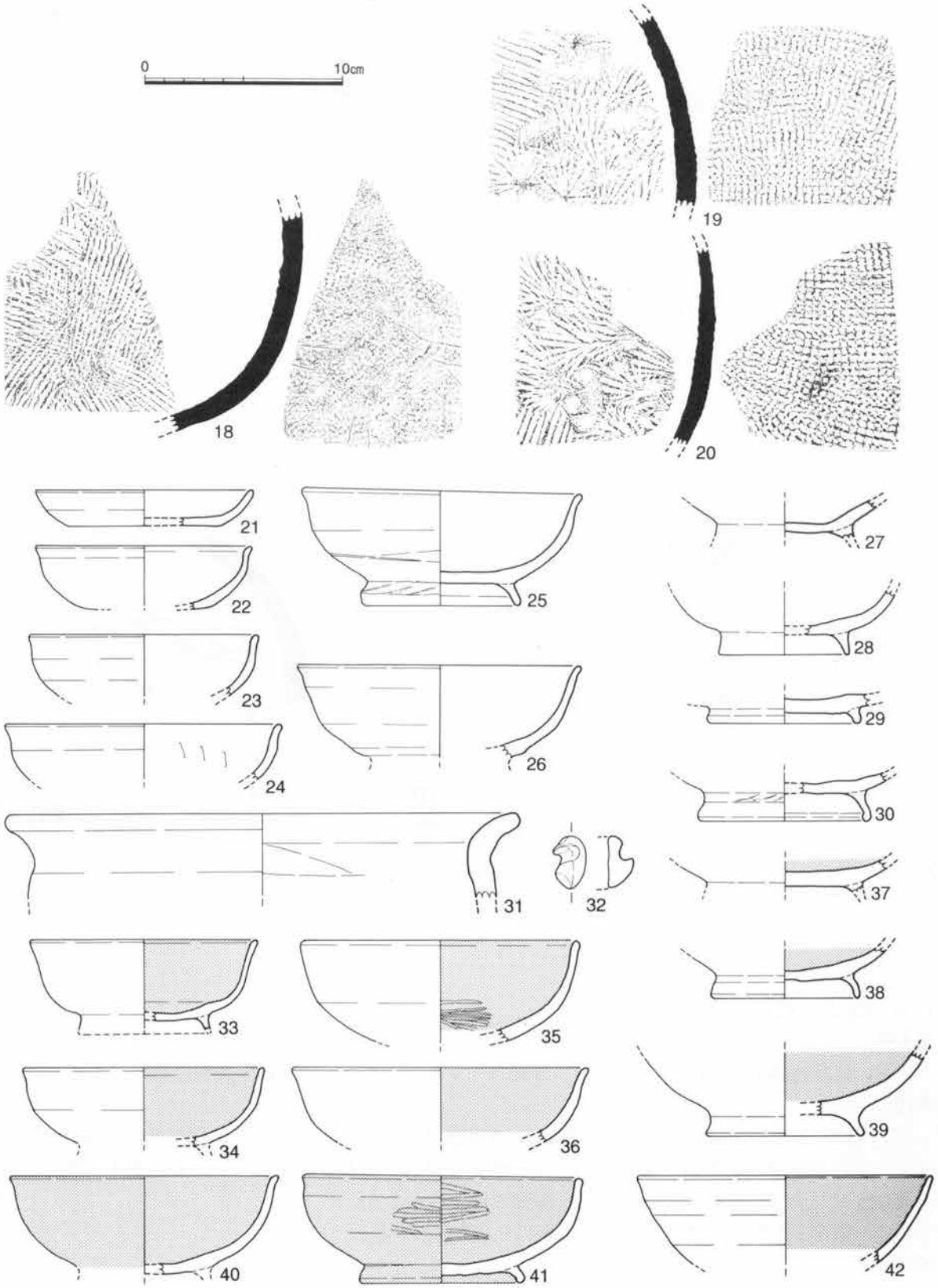


Fig.18　調査区A（SK015、SX011）出土土器実測図（1/3）

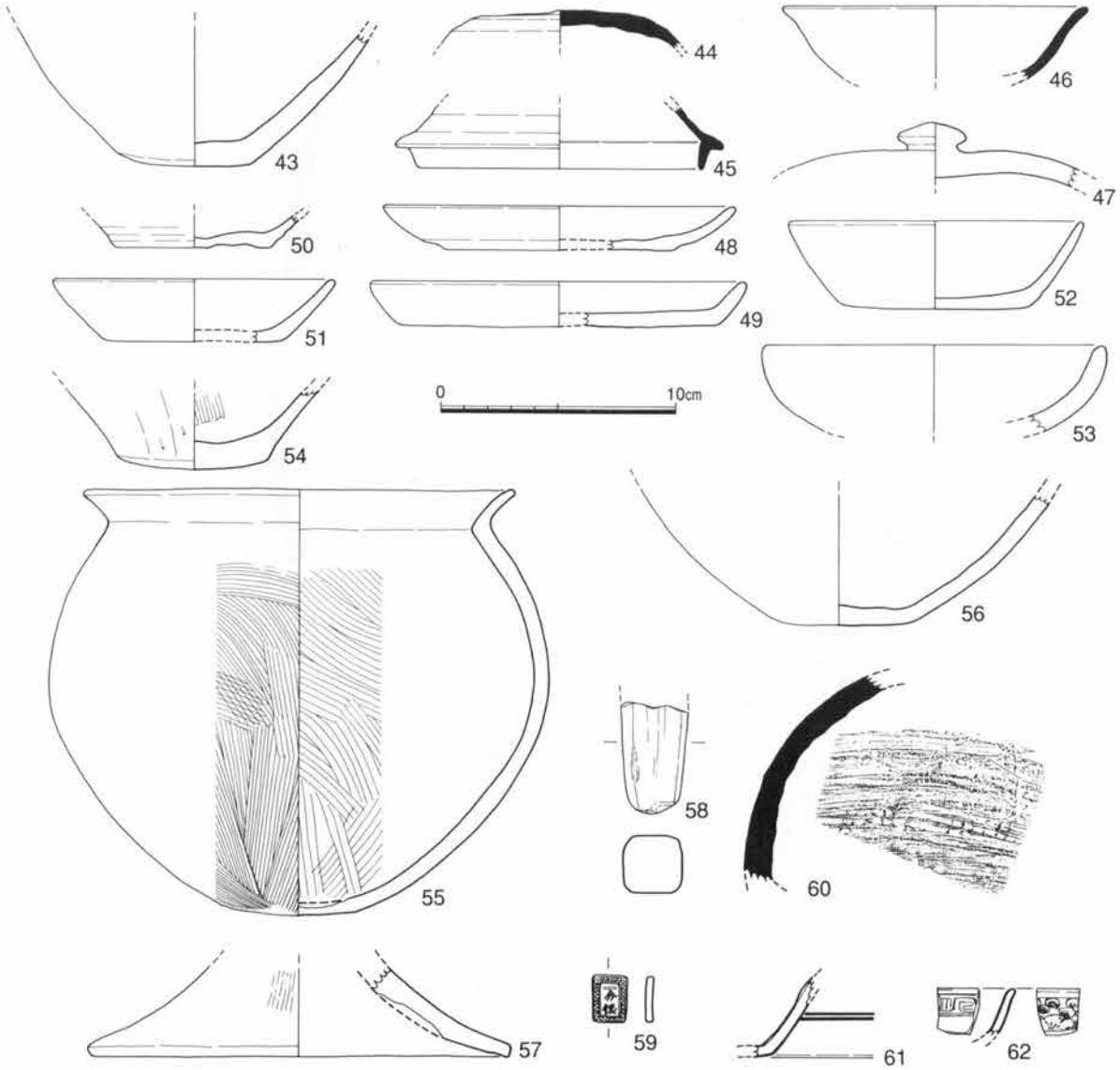


Fig.19　調査区B出土土器実測図（1/3）

調査区B

溝

SD050（Fig.19、Pla.11）

弥生土器

甕（43）　底部の細片で底径5.0㎝を測り、底部はやや丸みをもつ。内外面の調整は磨耗のため不明。

須恵器

蓋（44・45）　44は天井部のみの細片である。天井部外面は回転ヘラケズリ、体部及び内面はヨコナデを呈する。45は口縁部の細片で最大径14.0㎝、かえり径12.0㎝を復原する。かえりは若干内傾し、内外面の調整はヨコナデである。44と45は同一個体の可能性がある。

坏（46）　細片で内外面の調整は不明。口径13.0㎝を復原する。

土師器

蓋（47）　天井部に宝珠つまみを呈し、内外面の調整は磨耗のため不明である。

皿（48・49）　48・49は著しく磨耗しているため調整不明である。48は口径15.0㎝、底径9.8㎝、器高1.9㎝、49は口径16.0㎝、底径13.6㎝、器高2.0㎝を復原する。

坏（50～53）　50は底部のみの細片で底部外面はヘラ切りである。51は口径12.0㎝、底径7.6㎝、器高

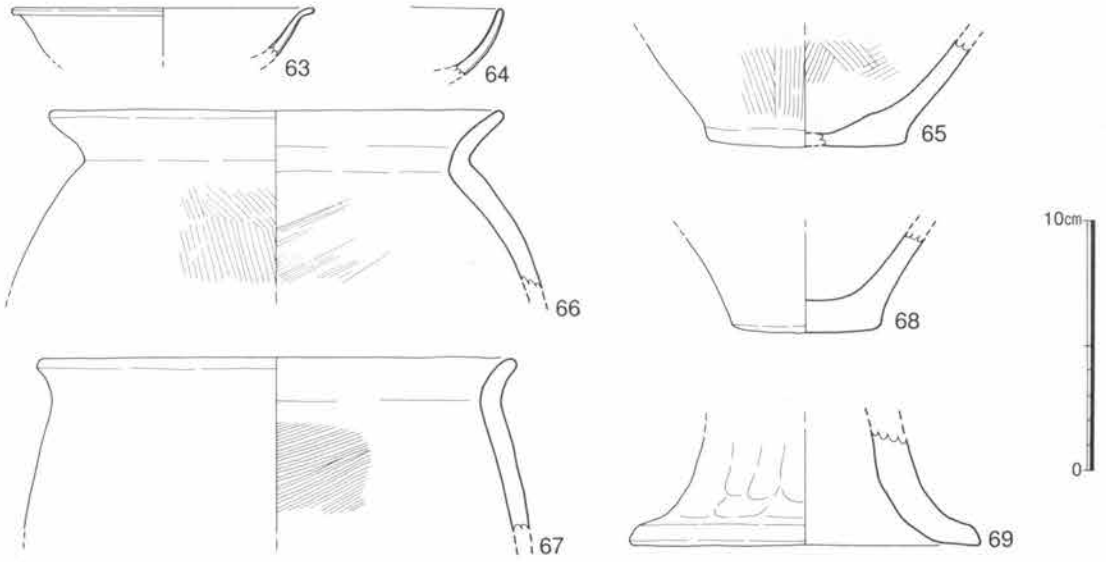


Fig.20　調査区C溝出土土器実測図（1/3）

2.7cmを復原。52は口径12.6cm、底径8.0cm、器高3.8cmを復原し、底部外面はヘラ切りである。53は口径14.2cmを復原する丸底坏である。いずれも内外面の調整は磨耗のため不明である。

石製品（Fig.27、Pla.13）

石鏃（99）　石材は黒曜石製で、抉りが比較的浅い両面加工の石鏃である。表面には僅かに自然面を残し、裏面の中央部にはポジティヴ面が看取される。

土壙

SK034（Fig.27、Pla.13）

石製品

二次加工石器（100）　石材はサヌカイト製で、縁には二次加工を施し、利器としている。表面の中央部にはネガティヴ面、裏面にはポジティヴ面が看取される。

SK045（Fig.19、Pla.11）

弥生土器

甕（54・55）　54は底部の細片で底径6.4cmを測る。底部はやや丸みをもち、内外面は刷毛目調整を施す。55は「く」字形甕で、口径18.3cm、底径5.0cm、器高18.2cmを測る。口縁部内外面はヨコナデ、体部内外面は刷毛目、底部内外面はナデ調整で、体部外面には煤が付着している。

壺（56）　底部の細片で底径6.0cmを測る。風化のため調整不明。

高坏（57）　裾部が「ハ」字状に大きく開くタイプで、裾部径は18.0cmを復原する。外面は刷毛目、裾部外面及び内面はヨコナデである。

SK048（Fig.19、Pla.11）

土師器

柱状土製品（58）　断面は方形状を呈し、面取りを施す。厚さは2.6cmを測る。

SK067（Fig.19、Pla.11）

土製品

玩具（59）　「一分銀」の玩具で、長さ2.0cm、幅1.5cm、厚さ0.3cmを測る。

ピット

SP051（Fig.19、Pla.11）

陶器

大甕（60）　頚部の細片で、内面は横方向のナデ、外面はヨコナデと格子叩きを施す。

青磁

不明（61）　内外面に青緑色の釉を施し、外面にはヘラ先による細線を2条施す。

染付

碗（62）　口縁部の細片で内面には雷文、外面には花文を呉須で描く。

調査区C

溝

SD060（Fig.20）

白磁

皿（63）　口縁部は外反し、口径12.0㎝を復原する。

染付

碗（64）　口縁部の細片で、外面には呉須で文様を描くが、発色が悪く文様不明。

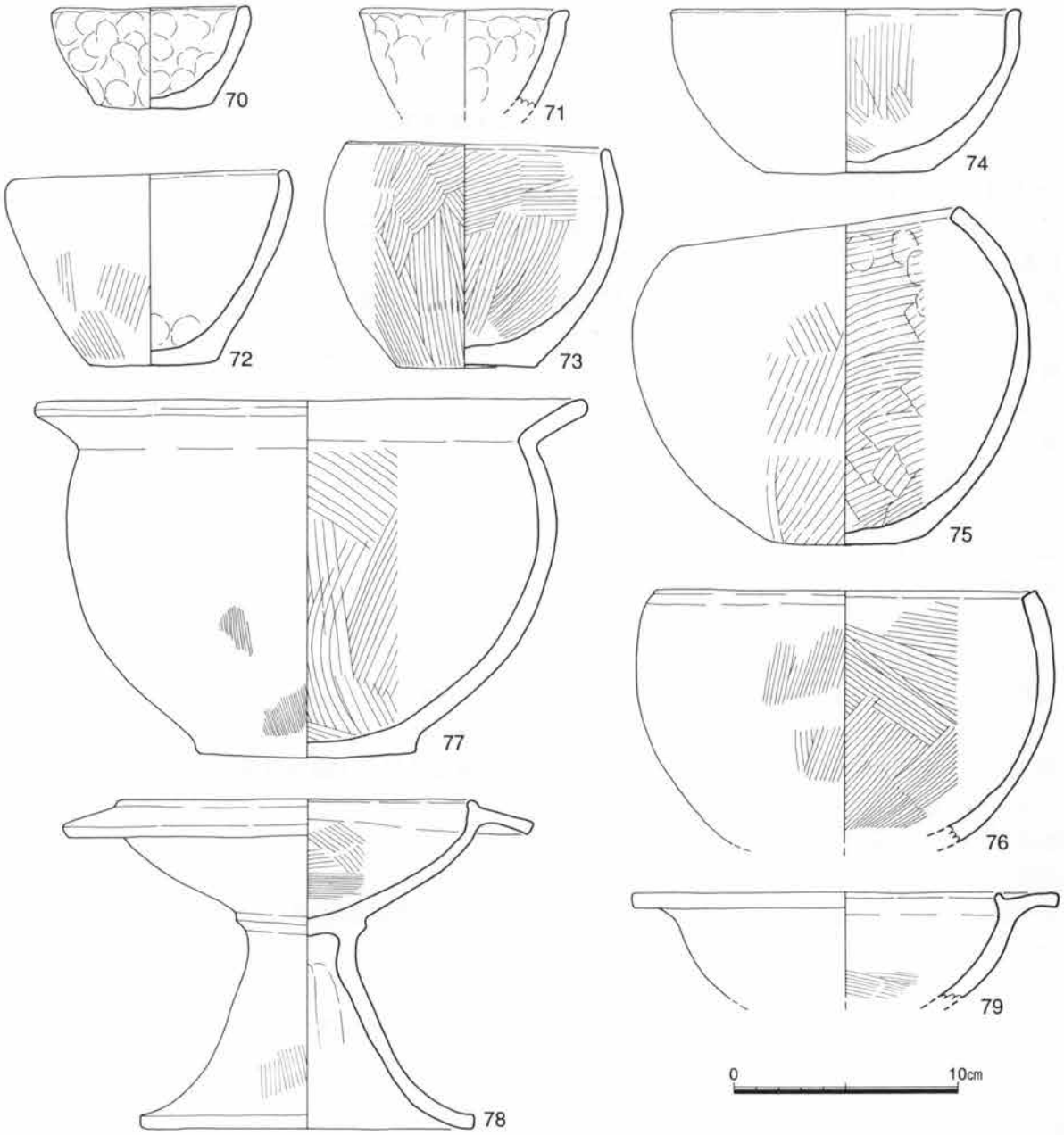


Fig.21　調査区C（SX100）出土土器実測図①（1/3）

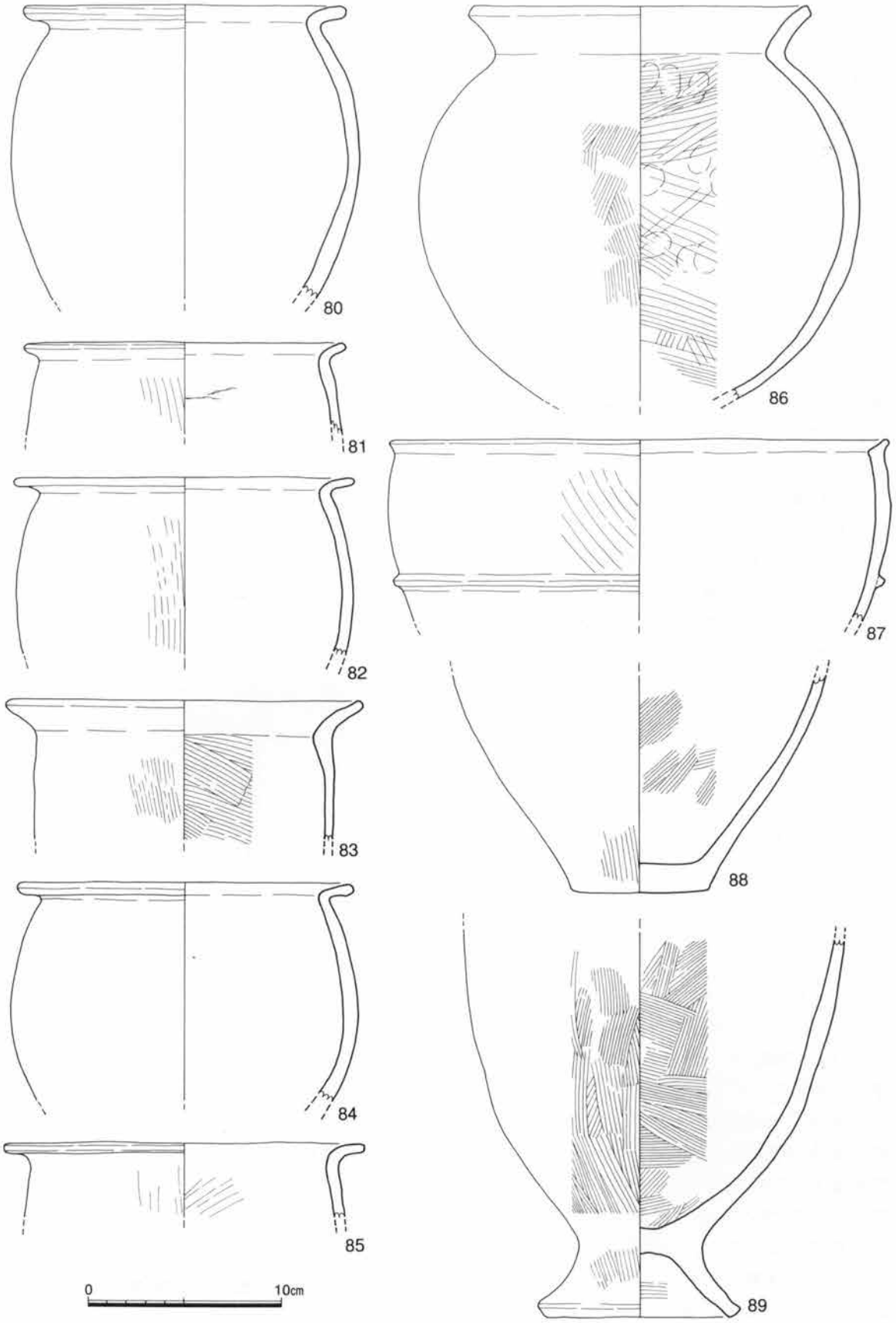


Fig.22　調査区C（SX100）出土土器実測図②（1/3）

SD075（Fig.20）

弥生土器

甕（65）　底部の細片で底径7.8cmを測る。体部内外面は刷毛目、底部内面はナデ、底部外面は不定方向に刷毛目を施す。

SD090（Fig.20）

弥生土器

甕（66～68）　66は「く」字形口縁甕で、口径18.0cmを測る。口縁部内外面はヨコナデ、体部外面は刷毛目、体部内面は工具ナデを施す。67は口径19.0cmを復原する。口縁部はヨコナデ、体部内面は刷毛目、体部外面は磨耗のため調整不明である。68は底部の細片で底径5.8cmを復原し、底部内外面はナデ調整である。

器台（69）　脚裾部の細片で脚裾径は14.0cmを測る。脚裾端部外面はヨコナデ、体部外面はナデで、内面は調整不明である。

周溝状遺構

SX100（Fig.21～25、Pla.12・13）

弥生土器

小鉢（70・71）　70は完形品で口径8.8cm、底径5.1cm、器高4.5cmを測る。調整は内外面がオサエナデ、底部外面はナデを施し、胎土に細砂粒、赤色粒子、金雲母、角閃石を含む。71は口縁部の細片で口径9.4cmを復原する。内外面の調整はオサエナデである。

鉢（72～77）　72は口径12.8cm、底径5.8cm、器高8.6cmを測る。口縁部はやや内湾し、口縁部内外面はヨコナデ、体部外面は刷毛目、体部内面及び底部内外面はナデの調整を施す。73は口縁部が内湾した細片で、口径11.8cm、底径6.3cm、器高10.0cmを測る。口縁端部はヨコナデ、体部内外面及び底部外面は刷毛目、底部内面はナデの調整である。74は口径15.6cm、底径7.7cm、器高7.3cmを復原し、口縁端部はやや外反する。口縁部内外面はヨコナデ、体部内面は刷毛目、体部外面及び底部外面はナデの調整を施す。75は口径12.6cm、底径

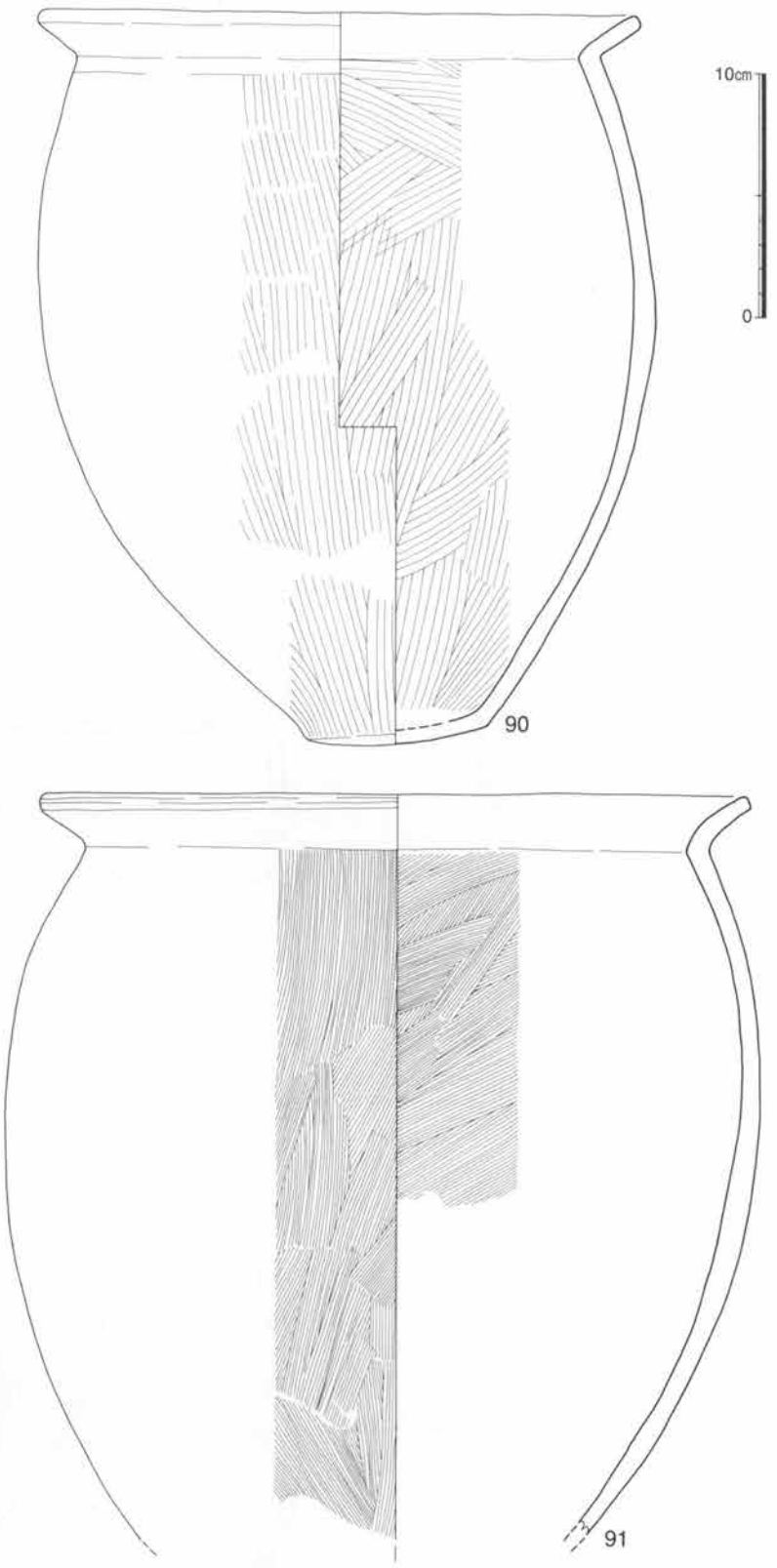


Fig.23　調査区C（SX100）出土土器実測図③（1/3）

6.9㎝、器高13.5～15.2㎝を測る。口縁端部及び外面はヨコナデ、口縁部内面はオサエナデ後刷毛目、体部及び底部の内外面は刷毛目調整である。76は口径16.9㎝を測る口縁部の細片で、口縁端部及び外面はヨコナデ、口縁部内面及び体部内外面は刷毛目の調整を施す。77は口縁部が大きく開くタイプで、口縁部内外面はヨコナデ、体部内外面及び底部内面は刷毛目、底部外面はナデの調整を施す。口径24.6㎝、底径9.7㎝、器高16.0㎝を測る。

高坏（78・79）　78は杯部に鋤先口縁を呈し、脚部のくびれ部が中位にある。口径20.9㎝、脚裾径は14.8㎝、器高14.7㎝を測る。79は同じく杯部に鋤先口縁を呈し、口径19.0㎝を復原する。

甕（80～92）　80～85は口縁部の細片で口縁部が大きく外反する甕で、80は口径16.6㎝を復原し、表面磨耗のため調整不明。81は口径16.6㎝を復原し、口縁部内外面はヨコナデ、体部外面は刷毛目、体部内面はナデの調整を施す。82は口径17.6㎝を復原し、口縁部内外面はヨコナデ、体部外面は刷毛目、体部内面はナデの調整を施す。83は体部が張らないタイプで、口径18.4㎝を復原する。口縁部内外面はヨコナデ、体部内外面は刷毛目の調整を施す。84は口径17.6㎝を復原し、口縁部内外面はヨコナデ、体部内外面はナデの調整である。85は口径18.6㎝を復原し、口縁部内外面はヨコナデ、体部内外面は刷毛目調整。86は「く」字形口縁甕で、口径17.8㎝を復原する。口縁部内外面はヨコナデ、体部外面は刷毛目、体部内面は指押さえ後刷毛目の調整を施す。87は口縁端部が外側へ屈曲するタイプで、口径25.8㎝を復原する。体部中位に断面が台形状の貼付突帯を1条施し、口縁部内外面はヨコナデ、体部外面上位は刷毛目、体部外面下位及び体部内面はナデの調整である。88～89は底部の細片である。88は底径7.2㎝を復原し、外面及び体部内面は刷毛目、底部内面はナデの調整である。89は底部に高台を付す甕で、高台径10.5㎝を測る。90～92は「く」字形口縁甕で、90はやや丸みを呈する底部で、口径24.8㎝、底径7.5㎝、器高30.0㎝を測り、口縁部はヨコナデ、体部は刷毛目、底部はナデの調整である。91は口径29.15㎝を測り、口縁部はヨコナデ、体部は刷毛目の調整を施す。92はやや丸みを呈する底部で、口径27.8㎝、底径8.0㎝、器高43.3㎝を測る。調整は口縁端部がヨコナデ、口縁部は刷毛目、くびれ部はヨコナデ、体部は刷毛目、底部はナデで、体部外面下位には細かい刷毛目の調整を施す。

壺（93・94）　93は体部の細片で、外面には断面が三角形状の貼付突帯を2条施す。内外面は刷毛目調整で、外面には丹塗りが施される。94は底部の細片で、底径12.0㎝を復原する。

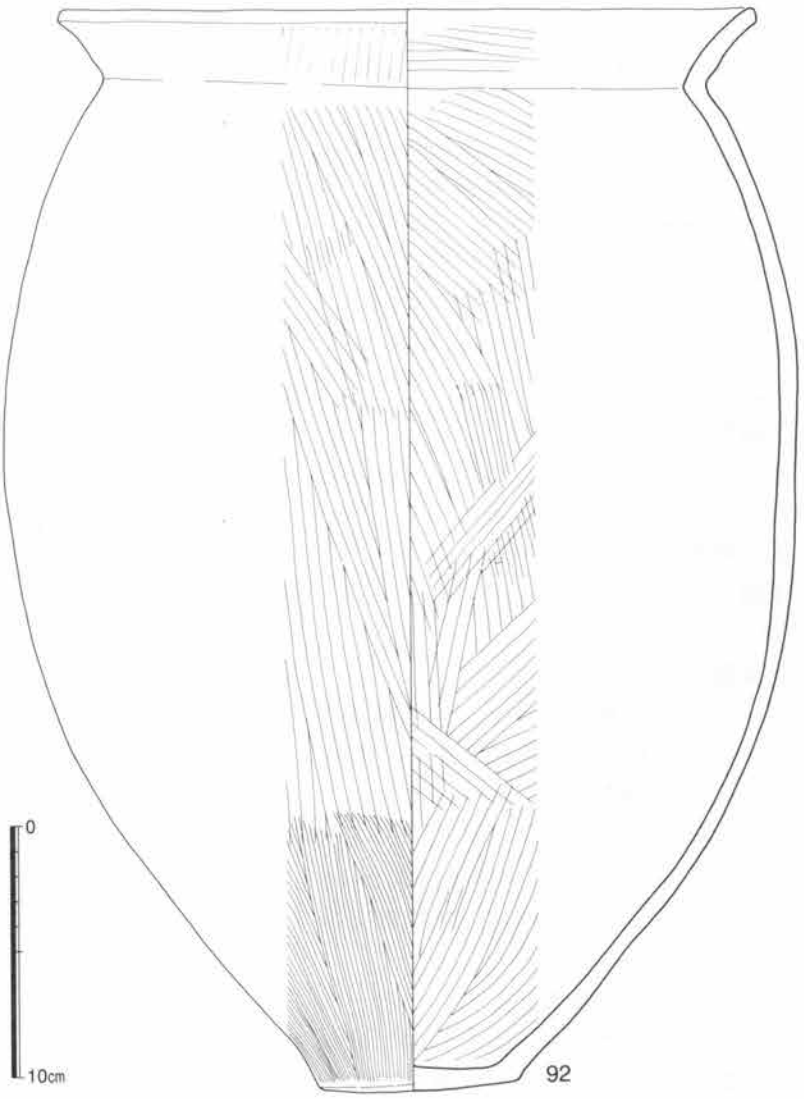


Fig.24　調査区C（SX100）出土土器実測図④（1/3）

調査区D

溝

SD108（Fig.26）

土師器

小皿（95）　糸切りで、口径10.2㎝、底径7.0㎝、器高1.6㎝を復原する。内外面の調整は不明。

鉄製品（Fig.27、Pla.13）

釘（101）　釘の断面は丸形で、径は5㎜前後を測る。上下部は欠損している。

SD120（Fig.26）

土師器

坏（96）　糸切りで、口径11.0㎝、底径7.0㎝、器高2.6㎝を復原する。内外面の調整はヨコナデである。

土壙

SK102（Fig.26）

土師器

坏（97）　底部の細片で、底部外面はヘラ切りである。内外面はヨコナデで、底径8.0㎝を復原する。

(4) 小結

今回の調査で最も古い遺構は調査区Bから検出したSK035の落とし穴状遺構である。

「落とし穴状遺構」については、これまで北部九州においてもしばしば報告の類をみるようになり、筑後市内でも「田佛遺跡」をはじめ、総計33基以上を数える。市内で確認された「落とし穴状遺構」の内、現段階で認識できた主要なものについてTab.2に示したので参照されたい。なお、記載した「落とし穴状遺構」は、何れも遺構底部に多穴や単穴の小穴を呈するもので、無穴のものは土壙と区別が戸惑い、明らかに判断ができるものを挙げた。また、本表に使用した分類は、「『安武地区遺跡群Ⅱ』久留米市文化財調査報告書第60集―久留米市教育委員会1989―」に記載されている分類を用いた。

さて、当遺跡から検出されたSK035についてみてみると、平面プランは楕円形状を呈し、底部に2つの小穴を認めるタイプであることから、分類による

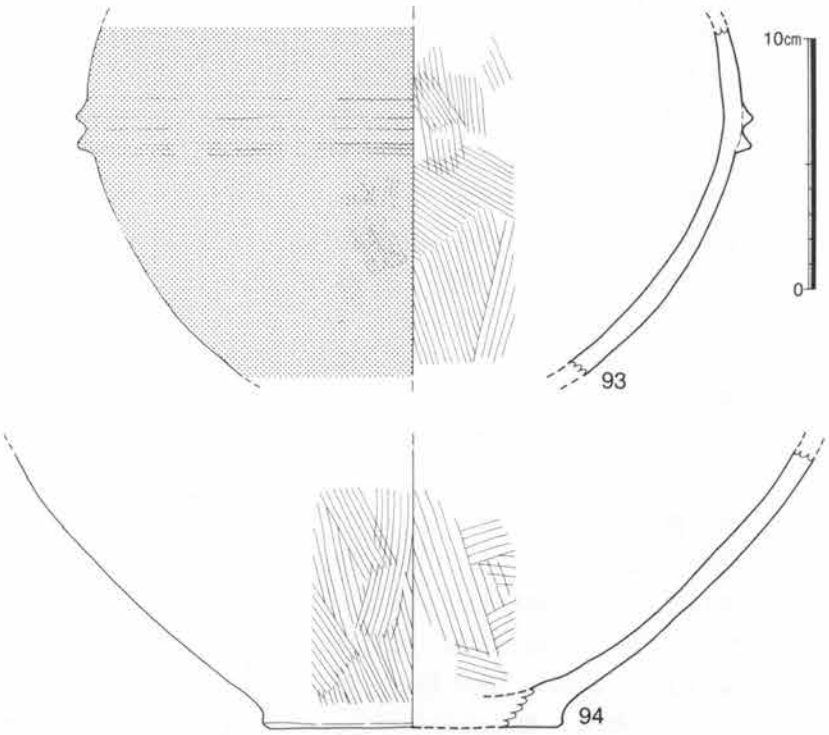


Fig.25　調査区C（SX100）出土土器実測図⑤（1/3）

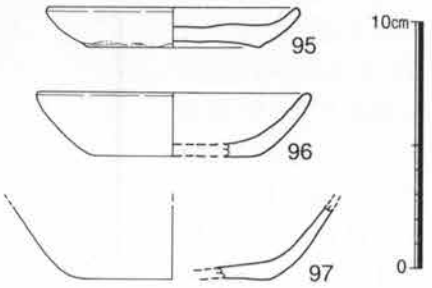


Fig.26　調査区D溝出土土器実測図（1/3）

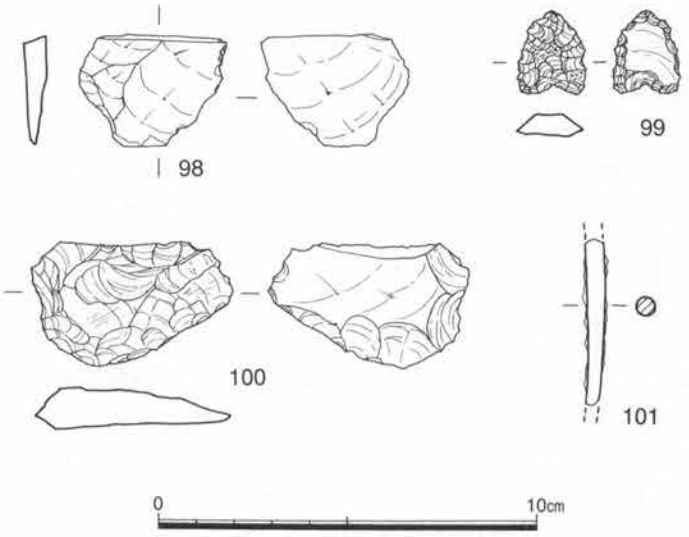


Fig.27　石製品・鉄製品実測図（1/2）

（単位：cm）

遺跡名	遺構番号	遺構上端 長軸	遺構上端 短軸	遺構下端 長軸	遺構下端 短軸	深さ	底部のピット数	分類	備考
田佛遺跡	4号	96	75	80	59	54	1	B—1	筑後市文化財調査報告書第5集
〃	5号	77	72	62	55	50	1	B—2	〃
〃	12号	99	88	70	50	85	0	A—2	〃
〃	13号	125	104	76	51	88	1	B—2	〃
〃	14号	111	97	81	64	78	1	B—1	〃
蔵数森ノ木遺跡（1次）	1号	174	91	107	80	125	0	A—1	筑後市文化財調査報告書第6集
〃	2号	115	48	90	30	84	3	C—1	〃
〃	3号	142	78	87	47	96	3	C—1	〃
蔵数森ノ木遺跡（2次）	2SK05	130	73	120	65	80	1	B—1	筑後市文化財調査報告書第20集
鶴田岸添遺跡（1次）	1SX015	110	76	94	64	45	4	C—1	筑後市文化財調査報告書第11集
鶴田岸添遺跡（2次）	2SX011	158	117	105	76	106	42	C—1	筑後市文化財調査報告書第12集
〃	2SX012	140	135	92	50	101	5	C—2	〃
〃	2SX013	130	122	55	52	115	2	C—2	〃
〃	2SX014	132	107	81	45	79	1	B—2	〃
〃	2SX016	158	113	113	73	72	3	C—1	〃
〃	2SX018	162	150	133	74	110	1	B—2	〃
〃	2SX019	160	125	130	62	112	5	C—2	〃
〃	2SX021	125	116	75	62	74	11	C—1	〃
〃	2SX022	114	106	90	75	80	1	B—2	〃
〃	2SX023	165	155	100	88	129	13	C—2	〃
〃	2SX026	155以上	97	123	43	98	4	C—1	〃
〃	2SX027	175	160	110	90	90	33	C—2	〃
〃	2SX028	135	125	80	76	92	27	C—2	〃
〃	2SX029	106	95	56	46	100	2	C—2	〃
〃	2SX031	121	102	77	66	75	1	B—2	〃
〃	2SX032	151	104	70	59	103	9	C—1	〃
〃	2SX034	186	165	115	68	108	49	C—2	〃
前津中ノ玉遺跡（2次）	SX050	85以上	95	80以上	80	55	11以上	C—1	筑後市文化財調査報告書第22集
志西田遺跡	S—10	130	126	78	60	80	6	C—2	現在整理中
〃	S—05	135以上	99以上	116	60	67	1	B—1	〃
長浜鎧遺跡（3次）	S—3	107	77	90	55	67	1	B—1	〃
水田上仁良葉遺跡	S—5	130	78	84	36	72	5	C—1	〃
志野添遺跡	S—5	146	62	121	36	80	6	C—1	〃

Tab.2　市内出土の落とし穴状遺構一覧表

【註】

遺構の詳細については各報告書を参照されたい。

なお、上記の他に若菜森坊遺跡でも確認されているが、現段階において不明な点が多かったため今回は除外した。

とC群—2型にあたる。

ここでTab.2に注目してみると、「落とし穴状遺構」は市内の広い範囲で分布しており、また、構造については久留米市出土例の分類にほぼ同様のタイプが市内で検出されているのがわかる。「落とし穴状遺構」が広域にわたって確認されたほんの数例にすぎないが、その成果は大きい。

ところで、市内から出土した殆どの「落とし穴状遺構」は、直接年代を決定できる資料に恵まれておらず、遺構の時期の判定が困難であるといえる。このため、時期については今後の課題となるが、各遺跡の周辺からは縄文時代を示唆する何らかの資料が採集されていることや近隣における関連遺構の調査事例から、概ね縄文時代後期以降の遺構と考えられることができよう。

次に顕著な遺構がみられるのは弥生時代後期を中心とした時期で、遺構でいうと掘立柱建物（SB040）、溝（SD075）、土壙（SK045）、周溝状遺構（SX100）が該当する。

まず、SB040は1×2間若しくは1×1間に復原される建物で、惜しくも遺構の上部は削平を受けているものであった。規模からは特定できないが中心的な建物になっていた可能性は否定できない。時期は断定できないが、柱穴（P3）から唯一弥生土器片を認めたため、この時期を比定したものである。

さて、周溝状遺構であるSX100は前述した如く、周溝に遺物が集中的廃棄されていたものである。調査時において一見単体で検出されたようにも思えたが、周辺遺跡である水田伊勢ノ脇遺跡の調査（本稿の5.に記載）において2基の周溝状遺構を新たに確認することができた。このことから、一帯は祭祀的要素をもった土地利用が行われていた地区であったことが窺える。なお、筑後市内における周溝状遺構の検出状況は、「『筑後西部第二地区遺跡群（Ⅰ）』第4節津島北石伏遺跡　4小結—筑後市文化財調査報告書第21集　筑後市教育委員会1998—」に記載されているとおりで、現時点においては新資料として追記するものはない。

次にあげられる時期としては、6世紀後半～8世紀代を中心とした遺物が出土している溝（SD050）がある。SD050は先述したとおり、溝の中央部は溜まり状になっていて決して安定した遺構とは言えないもので、埋土も自然堆積であった。このことから、自然にできた流路若しくは溜まり状の遺構であった可能性が強く、遺物は周辺から流入したものと思われる。

次にピークを迎える遺構としては掘立柱建物（SB020・030）、土壙（SK002・003・004・010・015）があり、何れも10世紀代を中心とする時期であろう。検出された掘立柱建物や土壙から、当該期に活発な土地利用が行われていたことを示唆することができる。

まず注目されるのが掘立柱建物で、何れも建物の規模は大きくないが、方位を意識して建てられているようである。また、その周辺で検出された土壙（SK010・015）は廃棄土壙として使用されていた可能性が強く、生活の匂いを感じさせるものである。特にSK015からは10世紀前半のまとまった資料が出土しており、土器研究上貴重な資料を提供するものである。

この他、当遺跡からはこの段階以降の遺構や遺物を確認することができたが、何れも集落本体を示唆するものはなく、今後の調査に委ねられる結果となった。

【単位はcm、○は復原値】

Fig.－No.	調査区	遺構	名称	器種	口径	底径	器高	長さ	幅	厚さ	切離し区分 ヘラ	切離し区分 糸	備考
16－001	A	SB040c	弥生土器	甕	○20.0						◎		内外面に漆付着
17－002	A	SK002	土師器	坏	○12.4	6.4	3.3				◎		
17－003	A	SK003	土師器	坏	○11.4	○6.4	3.3						
17－004	A	SK003	土師器	椀		9.5							
17－005	A	SK004	須恵器	鉢	○14.5								
17－006	A	SK005	弥生土器	壺	18.0	4.3	29.4						
17－007	A	SK005	弥生土器	甕	12.5	4.6	12.7						
17－008	A	SK005	弥生土器	甕	○15.5								
17－009	A	SK005	土師器	甕	○16.0								
17－010	A	SK005	弥生土器	甕	○27.8								
17－011	A	SK005	弥生土器	鉢	○18.0								
17－012	A	SK005	弥生土器	高坏	○26.0								
17－013	A	SK005	弥生土器	器台		○11.1							
17－014	A	SK006	土師器	甕	○24.0								
17－015	A	SK006	青磁	碗	○15.0								同安窯系、横田・森田：Ⅲ－1
17－016	A	SK010	黒色土器A	椀	○15.3	9.1	7.5						
17－017	A	SK069	須恵器	甕									
18－018	A	SK015	須恵器	甕									
18－019	A	SK015	須恵器	甕									
18－020	A	SK015	須恵器	甕									
18－021	A	SK015	土師器	皿	○11.0	○7.8	1.8				◎		
18－022	A	SK015	土師器	椀	○11.0								
18－023	A	SK015	土師器	椀	○11.6								
18－024	A	SK015	土師器	椀	○14.0								
18－025	A	SK015	土師器	椀	○14.2	8.1	5.8						
18－026	A	SK015	土師器	椀	○14.4								
18－027	A	SK015	土師器	椀									
18－028	A	SK015	土師器	椀									
18－029	A	SK015	土師器	椀		○7.8							
18－030	A	SK015	土師器	椀		○8.8							
18－031	A	SK015	土師器	甕	○26.0								
18－032	A	SK015	土師器	不明土製品									
18－033	A	SK015	黒色土器A	椀	○11.5								
18－034	A	SK015	黒色土器A	椀	○12.2								
18－035	A	SK015	黒色土器A	椀	○14.2								
18－036	A	SK015	黒色土器A	椀	○15.0								
18－037	A	SK015	黒色土器A	椀									
18－038	A	SK015	黒色土器A	椀		7.5							
18－039	A	SK015	黒色土器A	椀		○8.0							
18－040	A	SK015	黒色土器B?	椀	○13.6	○6.9	5.0						
18－041	A	SK015	黒色土器B	椀	○14.2	8.4	5.4						
18－042	A	SX011	黒色土器A	椀	○15.0								
19－043	B	SD050	弥生土器	甕		5.0							
19－044	B	SD050	須恵器	蓋									
19－045	B	SD050	須恵器	蓋	○14.0								
19－046	B	SD050	須恵器	坏	○13.0								
19－047	B	SD050	土師器	蓋									
19－048	B	SD050	土師器	皿	○15.0	○9.8	1.9						
19－049	B	SD050	土師器	皿	○16.0	○13.6	2.0						
19－050	B	SD050	土師器	坏		6.6					◎		
19－051	B	SD050	土師器	坏	○12.0	○7.6	2.7						
19－052	B	SD050	土師器	坏	○12.6	8.0	3.8						
19－053	B	SD050	土師器	坏	○14.2								
19－054	B	SK045	弥生土器	甕		6.4							
19－055	B	SK045	弥生土器	甕	○18.3	5.0	18.2						
19－056	B	SK045	弥生土器	壺		6.0							
19－057	B	SK045	弥生土器	高坏		○18.0							
19－058	B	SK048	土師器	柱状土製品						2.6			
19－059	B	SK067	土製品	ミニチュア									「一分銀」
19－060	B	SP051	陶器	大甕									常滑
19－061	B	SP051	青磁	不明									
19－062	B	SP051	染付	碗									
20－063	C	SD060	白磁	皿	○12.0								森田：E群?
20－064	C	SD060	染付	碗									
20－065	C	SD075	弥生土器	甕		7.8							

Tab.3　水田正吹遺跡出土遺物一覧表①

【単位はcm、○は復原値】

Fig.－No.	調査区	遺構	名称	器種	口径	底径	器高	長さ	幅	厚さ	切離し区分 ヘラ	切離し区分 糸	備考
20－066	C	SD090	弥生土器	甕	○18.0								
20－067	C	SD090	弥生土器	甕	○19.0			2.0	1.5	0.3			
20－068	C	SD090	弥生土器	甕		5.8							
20－069	C	SD090	弥生土器	器台		○14.0							
21－070	C	SX100	弥生土器	小鉢	8.8	5.1	4.5						
21－071	C	SX100	弥生土器	小鉢	○9.4								
21－072	C	SX100	弥生土器	鉢	12.8	5.8	8.6						
21－073	C	SX100	弥生土器	鉢	11.8	6.3	10.0						
21－074	C	SX100	弥生土器	鉢	○15.6	○7.7	7.3						
21－075	C	SX100	弥生土器	鉢	12.6	6.9	13.5~15.2						
21－076	C	SX100	弥生土器	鉢	○16.9								
21－077	C	SX100	弥生土器	鉢	24.6	9.7	16.0						
21－078	C	SX100	弥生土器	高坏	○20.9	○14.8	14.7						
21－079	C	SX100	弥生土器	高坏	○19.0								
22－080	C	SX100	弥生土器	甕	○16.6								
22－081	C	SX100	弥生土器	甕	○16.6								
22－082	C	SX100	弥生土器	甕	○17.6								
22－083	C	SX100	弥生土器	甕	○18.4								
22－084	C	SX100	弥生土器	甕	○17.6								
22－085	C	SX100	弥生土器	甕	○18.6								
22－086	C	SX100	弥生土器	甕	○17.8		20.5						
22－087	C	SX100	弥生土器	甕	○25.8								
22－088	C	SX100	弥生土器	甕		○7.2							
22－089	C	SX100	弥生土器	甕		10.5	20.1						
23－090	C	SX100	弥生土器	甕	24.8	7.5	30.0						
23－091	C	SX100	弥生土器	甕	29.15								
24－092	C	SX100	弥生土器	甕	27.8	8.0	43.3						
25－093	C	SX100	弥生土器	壺									丹塗り
25－094	C	SX100	弥生土器	壺		○14.0							
26－095	D	SD108	土師器	小皿	○10.2	○7.0	1.6					◎	
26－096	D	SD120	土師器	坏	○11.0	○7.0	2.6	4.5		0.5		◎	
26－097	D	SK102	土師器	坏		○8.0					◎		
27－098	A	SK001	石製品	二次加工石器									石材：サヌカイト
27－099	B	SD050	石製品	石鏃									石材：黒曜石
27－100	B	SK034	石製品	二次加工石器									石材：サヌカイト
27－101	D	SD108	鉄製品	釘									

Tab.4　水田正吹遺跡出土遺物一覧表②

【註】
本表に記載した分類は、下記の文献によっている。
〈青磁〉　横田賢次郎・森田勉　「大宰府出土の輸入中国陶磁器について―形式分類と編年を中心にして―」　『九州歴史資料館研究論集4』　1978
〈白磁〉　森田勉　「14～16世紀の白磁の分類と編年」　『貿易陶磁研究No.2』　1982

3.島田外屋敷遺跡の調査

(1) はじめに (Fig.28)

当遺跡は、筑後市大字島田字外屋敷に所在する。一帯は縦横無尽にはしるクリークに囲まれた水田地帯で、標高4m位の低湿地上にある。調査は平成7年度に実施された農地整備事業支線用排水路設置範囲で遺構を確認した845㎡について行い、調査区は北から「A～D」と設定した。調査期間は平成8年3月11日から3月31日までであった。この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影などを行い、遺構測量は大成ジオテック株式会社に委託した。調査区からは、溝10条、土壙7基、近世墓群、ピットを検出した。本調査は小林勇作が担当した。

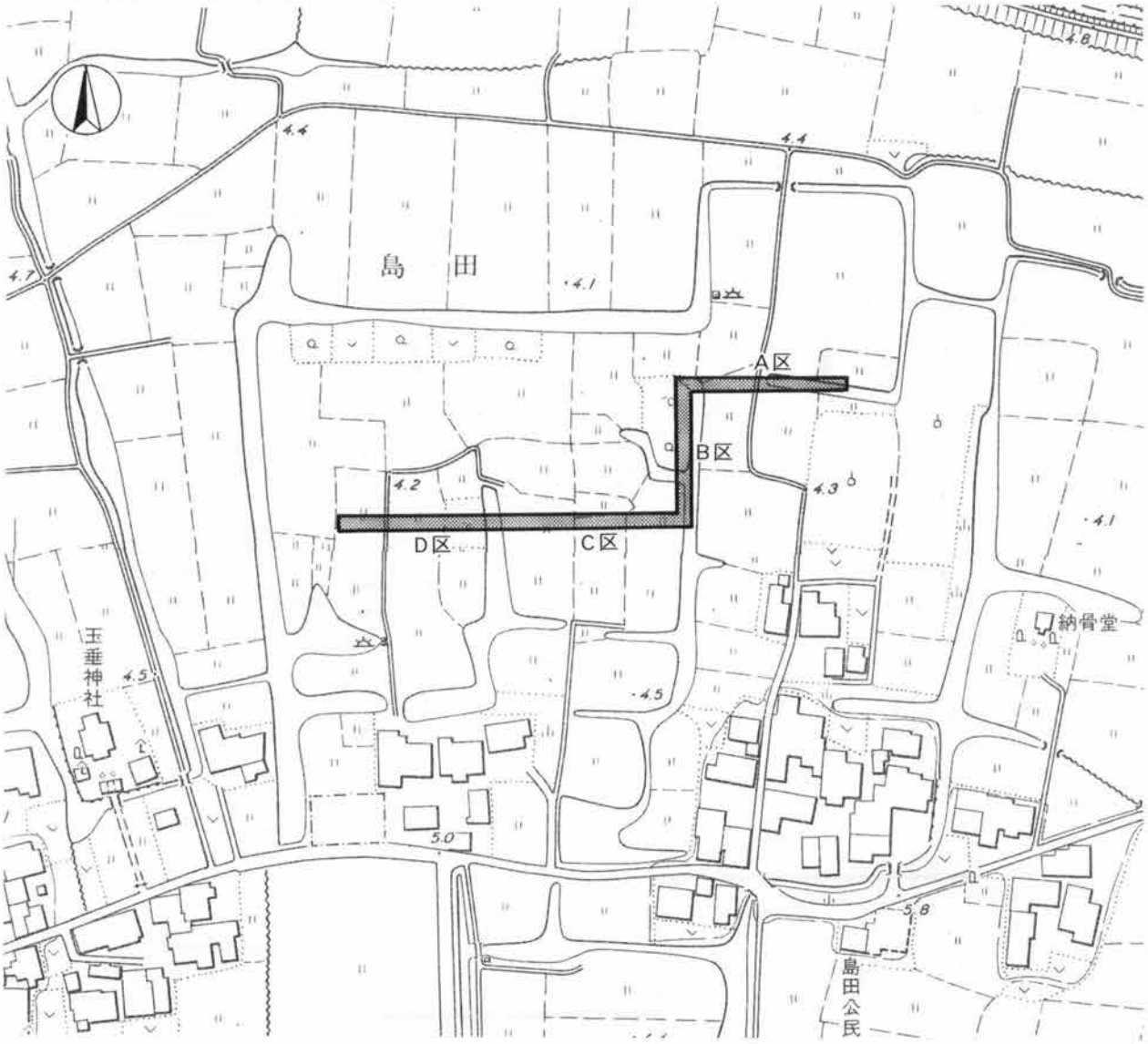


Fig.28　島田外屋敷遺跡調査地点位置図（1/2,500）

(2) 遺構

調査区A

溝

SD05 (Fig.29)

調査区の東端で4.30m分を検出した南北溝である。溝の幅は調査区の制限により不明で、深さは約1.55mを測る。出土遺物は土師器（小皿・土鍋・片）、陶磁器（碗・片）を認めた。

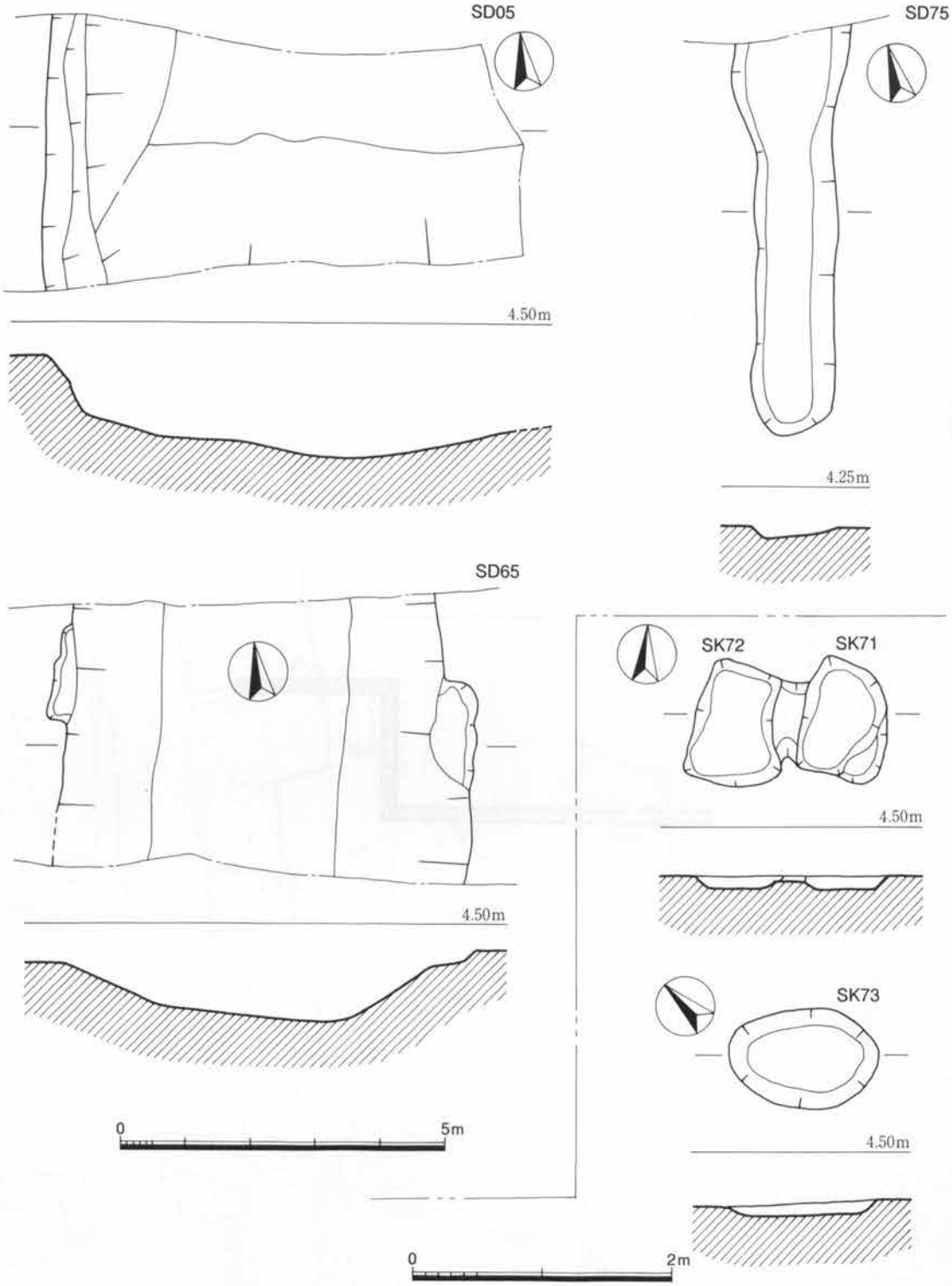


Fig.29　調査区A（SD05・65・75、SK71～73）実測図（1/50・1/100）

SD65（Fig.29）

調査区の西側で検出した南北溝で4.00ｍ分を認めた。幅約6.40ｍ、深さ約1.00ｍを測り、断面はほぼ逆台形状を呈する。埋土は暗黒褐色粘質土を基調とし、出土遺物は皆無であった。

SD75（Fig.29）

調査区の西側で検出した南北溝で北から3.10ｍのところで終息する。幅0.60～0.90ｍ、深さ0.08ｍで著しく削平を受けているものと思われる。埋土は暗黒褐色粘質土で、出土遺物は皆無である。

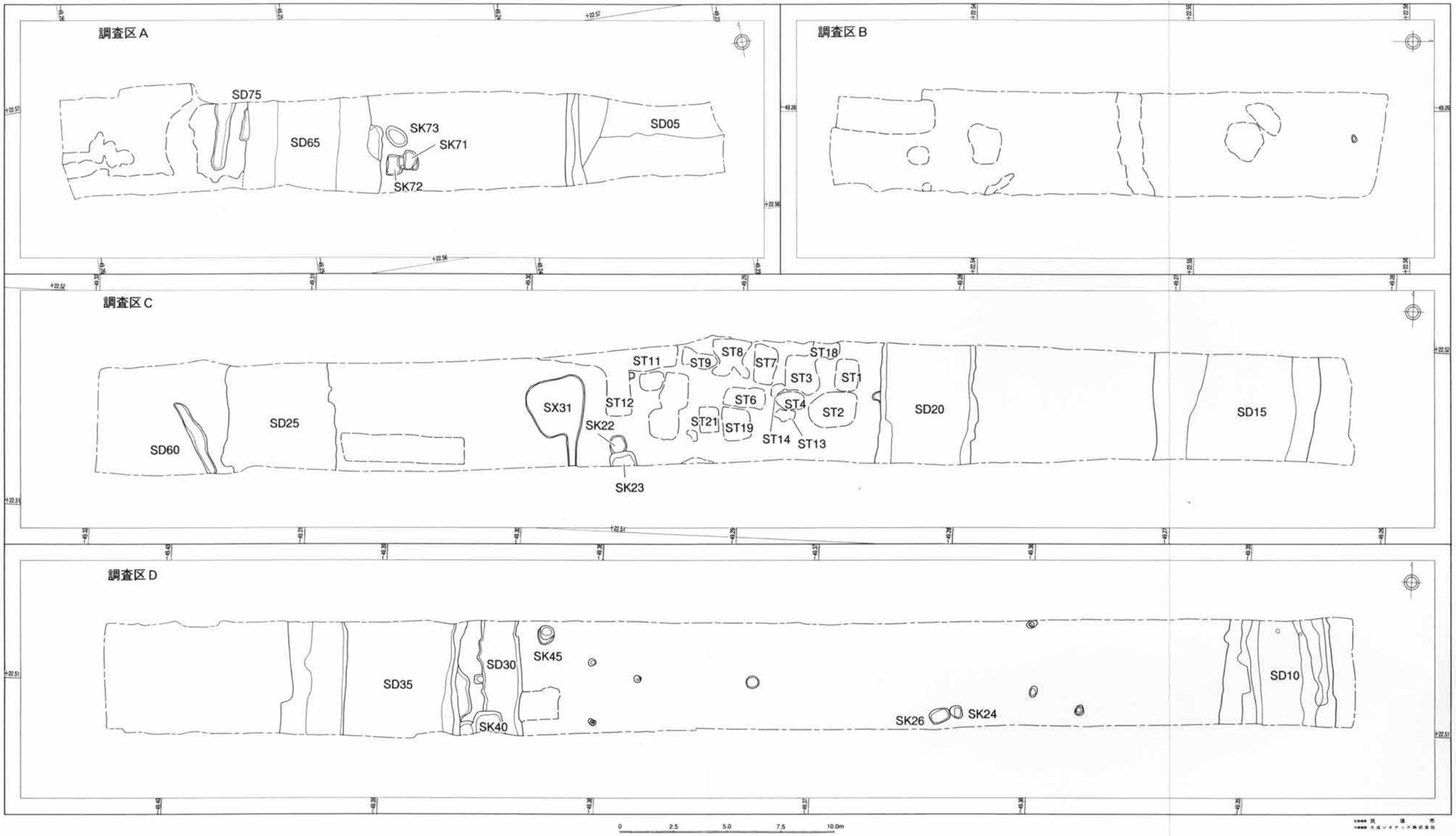


Fig.30　島田外屋敷遺跡遺構全体実測図（1/200）

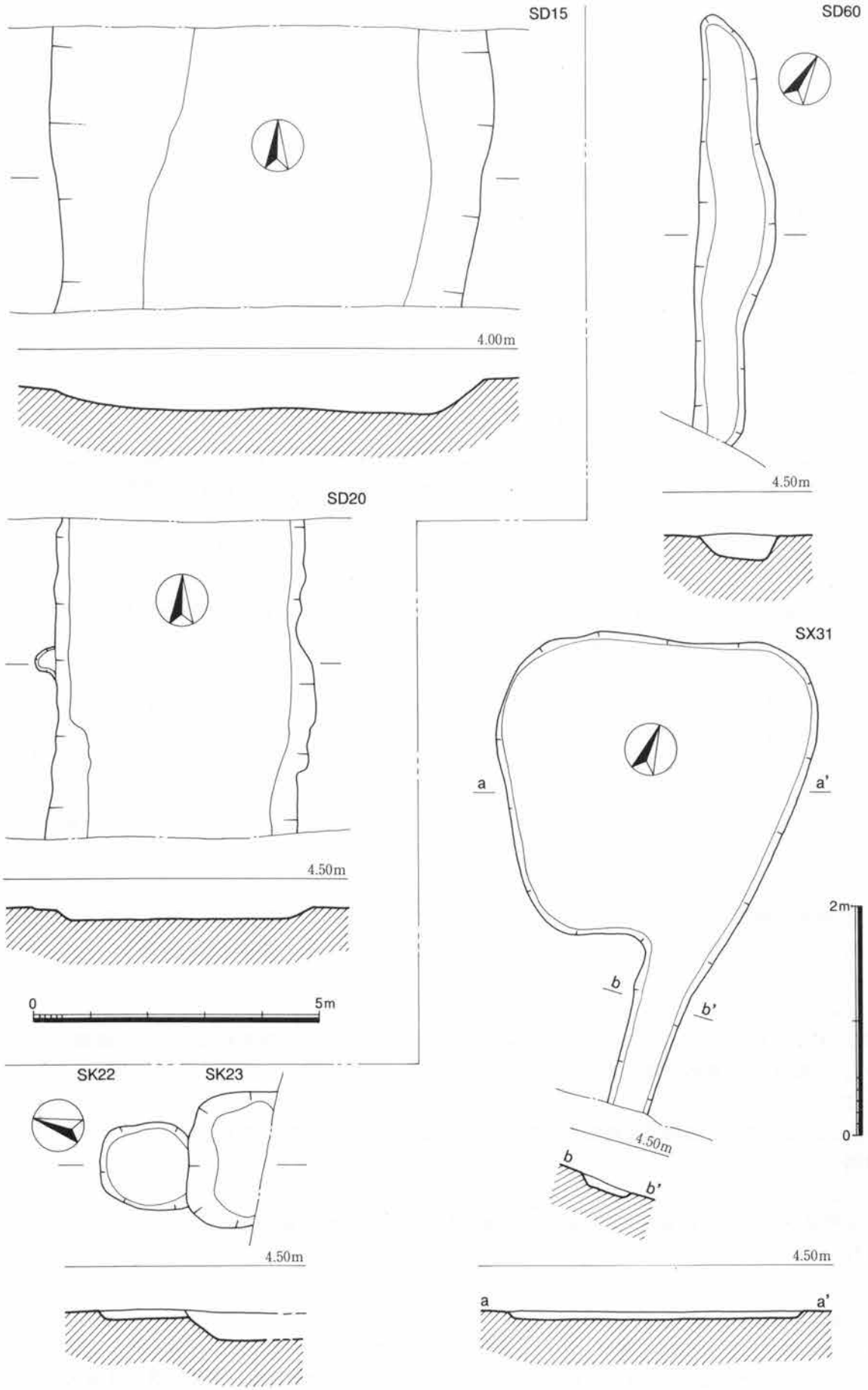


Fig.31　調査区C（SD15・20・60、SK22・23、SX31）実測図（1/50・1/100）

土壙

SK71（Fig.29）

調査区の中央部で検出した楕円形状の土壙でSK072に隣接する。暗黒褐色粘質土の単一土層で、出土遺物は皆無であった。

SK72（Fig.29）

楕円形状の土壙で暗黒褐色粘質土の単一土層であった。出土遺物はない。

SK73（Fig.29）

調査区の中央部で検出した楕円形状の土壙である。暗黒褐色粘質土の単一土層で、出土遺物はない。

調査区B（Fig.30）

当調査区の調査前は竹林であったため竹根によるカクランが確認されたのみで、顕著な遺構は認められなかった。

調査区C

近世墓群

ST1～4・6～9・11～14・18・19・21（Fig.30）

調査区のほぼ中央部付近に数十基の近世墓を確認したが、調査期間の制約から完掘までには至っていない。調査後、墓の改葬に立ち会った結果、主体部は甕棺（陶器甕）墓と木棺墓の2種類であることを確認した。

溝

SD15（Fig.31）

調査区の東端で5.00m分を検出した南北溝である。幅7.20～7.70m、深さ約0.61mを測り、断面はほぼU字状を呈する。埋土は暗黒褐色粘質土を基調とし、遺物は出土していない。

SD20（Fig.31）

近世墓群の東側から5.60m分を検出した南北溝で、幅4.30～4.55m、深さ約0.25mを測る。溝の中位から数基の近世墓を確認し、完掘までには至っていない。上位堆積土からは土師器（小皿・坏・片）、陶器（甕）などが出土している。

SD25（Fig.30）

調査区の西側で確認した南北溝で4.80m分を検出し、幅4.70～5.40mを測る。調査期間の制約から完掘までには至っておらず、詳細は不明である。

SD60（Fig.31）

SD25の西側で検出した南北溝で南から3.75mのところで終息する。幅0.45～0.70m、深さ約0.13mで著しく削平を受けているものと思われる。埋土は黒褐色粘質土で、出土遺物は皆無である。

土壙

SK22（Fig.31）

南部はSK23を切り、径は約0.80m、深さ約0.08mと浅い。埋土は黒褐色粘質土で、土師器（片）、青磁（片）、白磁（片）、陶器（椀）を出土した。

SK23（Fig.31）

径は約1.20mを測り、遺物は土師器（小皿・片）を僅かに出土したのみであった。

不明遺構

SX31（Fig.31）

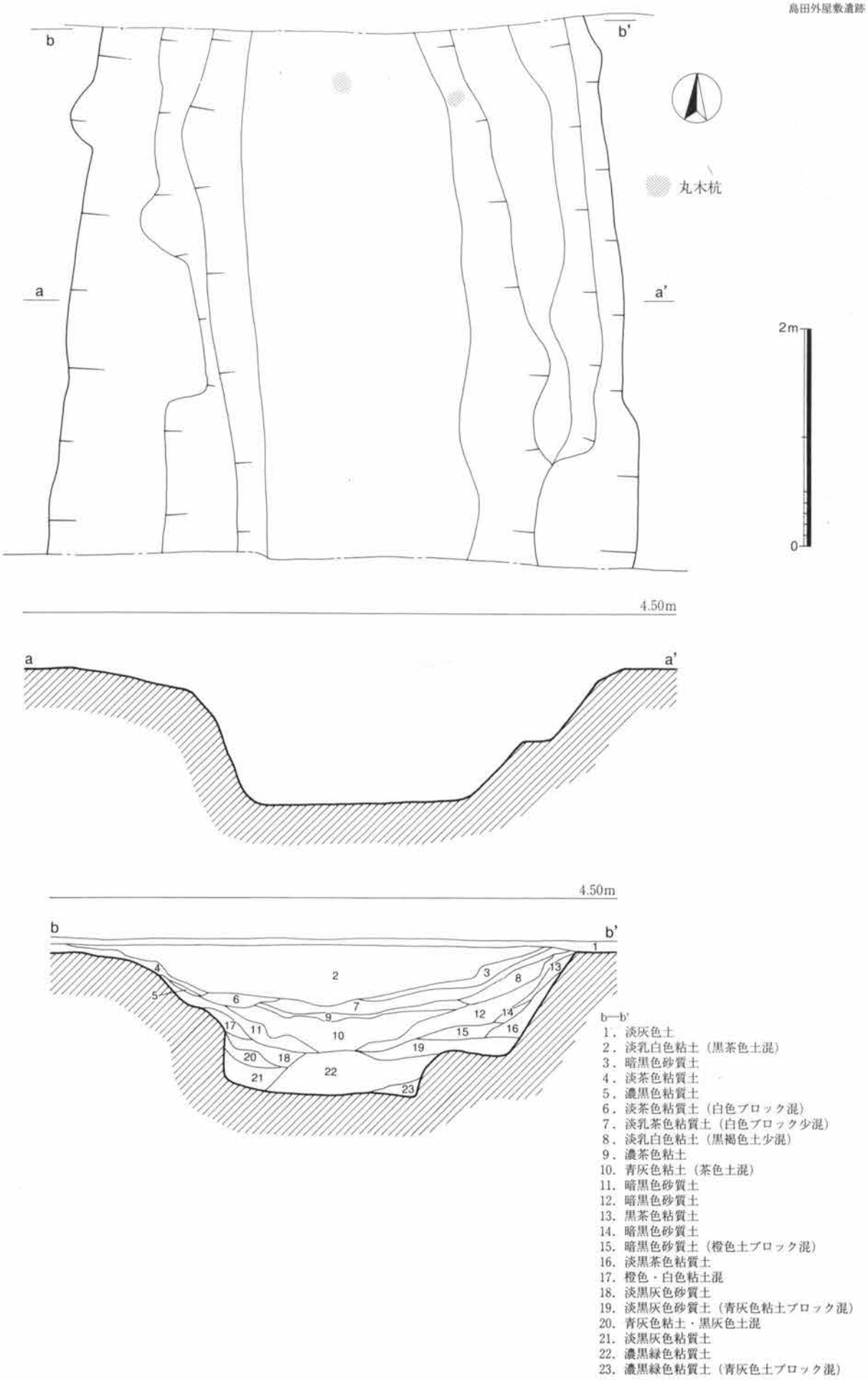
埋土は黒褐色粘質土を基調とする不定形な遺構である。出土遺物は皆無であった。

調査区D

溝

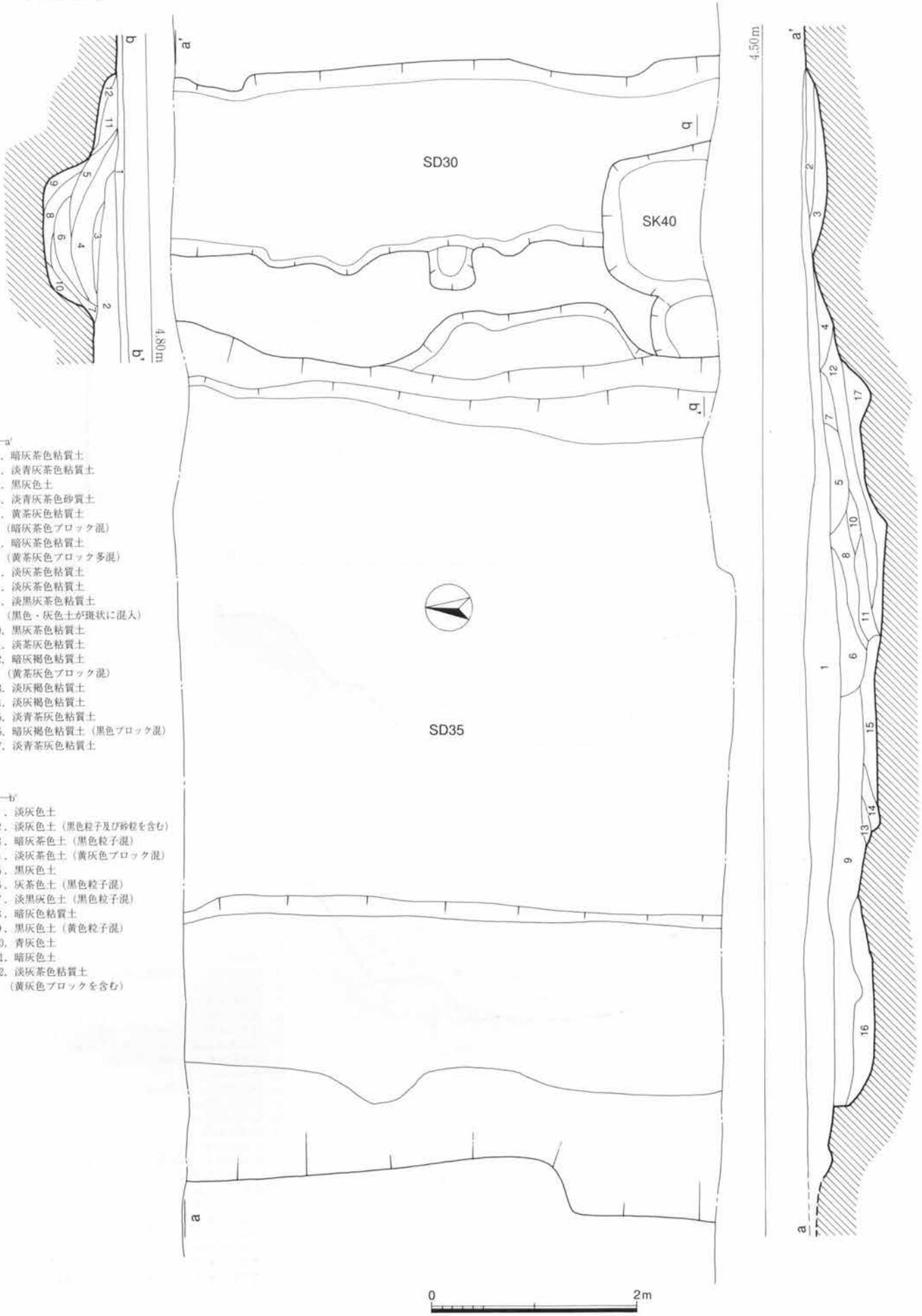
SD10（Fig.32、Pla.17）

調査区の東端で検出した南北溝で4.70m分を確認した。上幅4.50～5.55m、下幅1.50～1.95m、深さ1.20mを測り、層位は大別して3つ（1・2と3～10と11・12）に分かれる。更に、溝の北端底部には径



b—b'
1．淡灰色土
2．淡乳白色粘土（黒茶色土混）
3．暗黒色砂質土
4．淡茶色粘質土
5．濃黒色粘質土
6．淡茶色粘質土（白色ブロック混）
7．淡乳茶色粘質土（白色ブロック少混）
8．淡乳白色粘土（黒褐色土少混）
9．濃茶色粘土
10．青灰色粘土（茶色土混）
11．暗黒色砂質土
12．暗黒色砂質土
13．黒茶色粘質土
14．暗黒色砂質土
15．暗黒色砂質土（橙色土ブロック混）
16．淡黒茶色粘質土
17．橙色・白色粘土混
18．淡黒灰色砂質土
19．淡黒灰色砂質土（青灰色粘土ブロック混）
20．青灰色粘土・黒灰色土混
21．淡黒灰色粘質土
22．濃黒緑色粘質土
23．濃黒緑色粘質土（青灰色土ブロック混）

Fig.32　調査区D（SD10）実測図（1/50）



a—a'
1．暗灰茶色粘質土
2．淡青灰茶色粘質土
3．黒灰色土
4．淡青灰茶色砂質土
5．黄茶灰色粘質土
（暗灰茶色ブロック混）
6．暗灰茶色粘質土
（黄茶灰色ブロック多混）
7．淡灰茶色粘質土
8．淡灰茶色粘質土
9．淡黒灰茶色粘質土
（黒色・灰色土が斑状に混入）
10．黒灰茶色粘質土
11．淡茶灰色粘質土
12．暗灰褐色粘質土
（黄茶灰色ブロック混）
13．淡灰褐色粘質土
14．淡灰褐色粘質土
15．淡青茶灰色粘質土
16．暗灰褐色粘質土（黒色ブロック混）
17．淡青茶灰色粘質土

b—b'
1．淡灰色土
2．淡灰色土（黒色粒子及び砂粒を含む）
3．暗灰茶色土（黒色粒子混）
4．淡灰茶色土（黄灰色ブロック混）
5．黒灰色土
6．灰茶色土（黒色粒子混）
7．淡黒灰色土（黒色粒子混）
8．暗灰色粘質土
9．黒灰色土（黄色粒子混）
10．青灰色土
11．暗灰色土
12．淡灰茶色粘質土
（黄灰色ブロックを含む）

Fig.33　調査区D（SD30・35、SK40）実測図（1/50）

約0.15mを測る2本の丸太杭が垂直に打ち込まれていた。遺物は土師器（小皿・坏・土鍋・片）、瓦質土器（擂鉢・火鉢）、青磁（碗、深皿）、白磁（片）、陶器（擂鉢、片）、鉄製品（刀子）が出土した。

SD30（Fig.33）

5.25m分を検出した南北溝で、南部はSK40に切られる。幅1.60～2.00m、深さ約0.27mを測り、断面はU字状を呈する。埋土は黒褐色粘質土で、遺物は土師器（小皿・片）を僅かに認めただけであった。

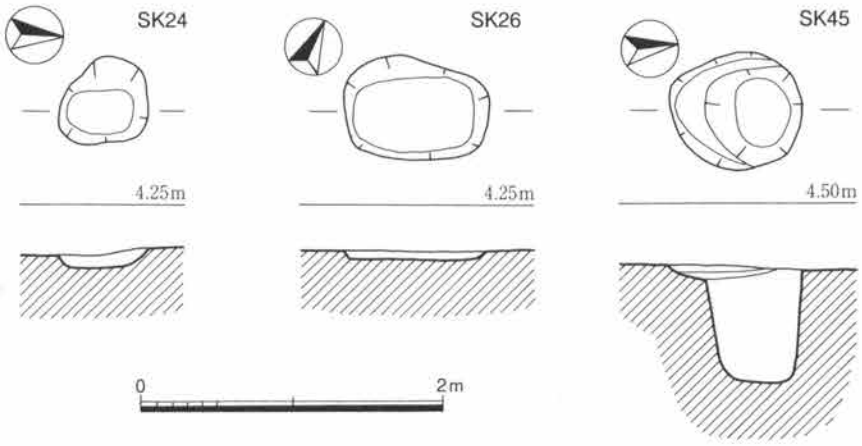


Fig.34　調査区D（SK24・26・45）実測図（1/50）

SD35（Fig.33）

調査区の西部で検出した南北溝である。5.40m分を検出し、幅7.80～8.45m、深さ約0.29mを測る。埋土は淡灰茶色土を基調とし、断面は緩やかなU字状を呈する。出土遺物は皆無であった。

土壙

SK24（Fig.34）

SK26に隣接した土壙で、径は約0.50m、深さ約0.13mと浅い。土師器（片）が出土した。

SK26（Fig.34）

隅丸長方形を呈した土壙で、深さ0.07mとかなりの削平を受けているようである。埋土は黒色土で土師器（坏・片）が出土した。

SK40（Fig.33、Pla.17）

SD30を切るように検出し、南部は調査区外にのびるものである。幅は約1.35m、深さ0.38mを測り、須恵器（甕）、土師器（土鍋・鉢・羽釜・片）、陶器（片）が出土した。

SK45（Fig.34）

SD30の東隣から検出したほぼ円形を呈する土壙である。埋土は黒褐色土を基調とし、掘削時においてはかなりの湧水を認めたため、完掘をしていない。遺物は土師器（小皿・片）が出土した。

(3) 出土遺物

調査区A

溝

SD05（Fig.35、Pla.18）

土師器

小皿（1）　糸切りで、口径7.0cm、底径4.8cm、器高1.7cmを復原し、内外面のほぼ全域に煤が付着する。

坏（2～6）　すべて糸切りで、口径9.0～13.4cm、底径5.2～7.8cm、器高2.1～3.4cmを測る。

土鍋（7）　口縁部は玉縁状を呈し、内面は横方向の刷毛目、外面はヨコナデの調整を施す。

白磁

碗（8）　口径12.0cmを復原し、口縁端部は口禿である。淡灰色の胎土に淡青緑色の釉を施す。

染付

碗（9・10）　9は口径12.8cmを復元し、外面に呉須で草文を描く。10は口径16.0cmを復原し、口縁端部は釉を掻き取る。外面には呉須で文様を描く。

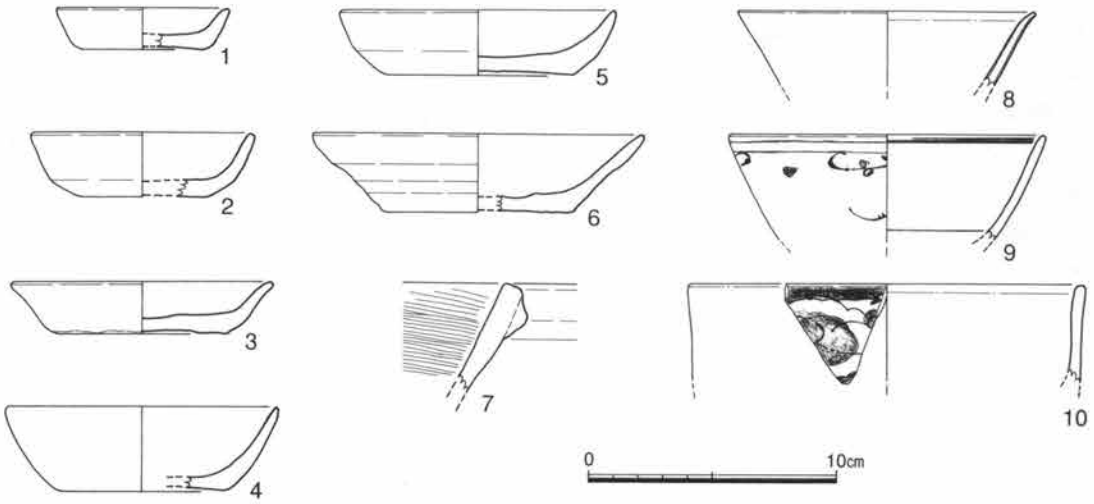


Fig.35　調査区A（SD05）出土土器実測図（1/3）

調査区C

溝

SD20（Fig.36、Pla.18）

土師器

小皿（11）　口径7.1㎝、底径5.0㎝、器高1.8㎝を復原し、底部外面は糸切りである。

坏（12）　口径13.0㎝、底径9.0㎝、器高3.1㎝を復原する細片で、底部外面は糸切りである。

近世墓

ST02（Fig.36）

染付

碗（13）　底部の細片で、高台径は4.1㎝を復原する。畳付けは露胎で、外面には呉須で文様を描く。

陶器

擂鉢（14）　口縁端部は鍵状に外反し、内面にはすり目を施す。

ST03（Fig.36、Pla.18）

陶器

碗（15）　口径10.4㎝、高台径4.0㎝、器高5.6㎝を復原する。内面には透明釉、外面には緑褐色釉を施し、体部下位から高台にかけては露体である。

ST12（Fig.36）

土師器

小皿（16）　糸切りで、口径9.7㎝、底径7.5㎝、器高1.8㎝を復原する。

ST23（Fig.36）

土師器

小皿（17）　口径9.6㎝、底径8.0㎝、器高1.1㎝を復原し、磨耗のため調整不明。

調査区D

溝

SD10（Fig.37～39、Pla.18～22）

土師器

小皿（18～57）　18～57は口径7.0～8.6㎝、底径4.5～

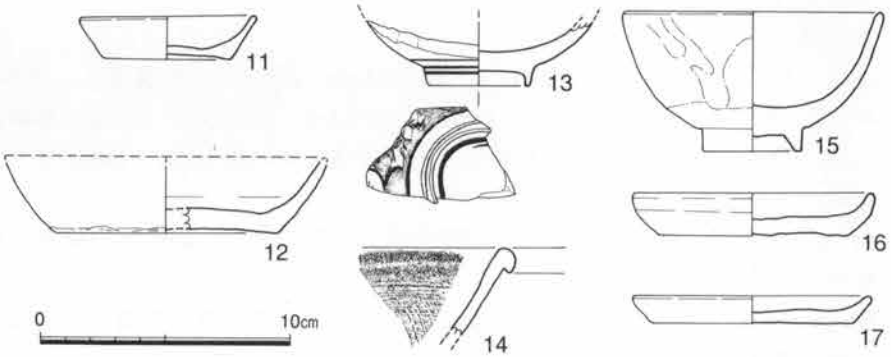


Fig.36　調査区C（SD20、ST02・03・12・23）出土土器実測図（1/3）

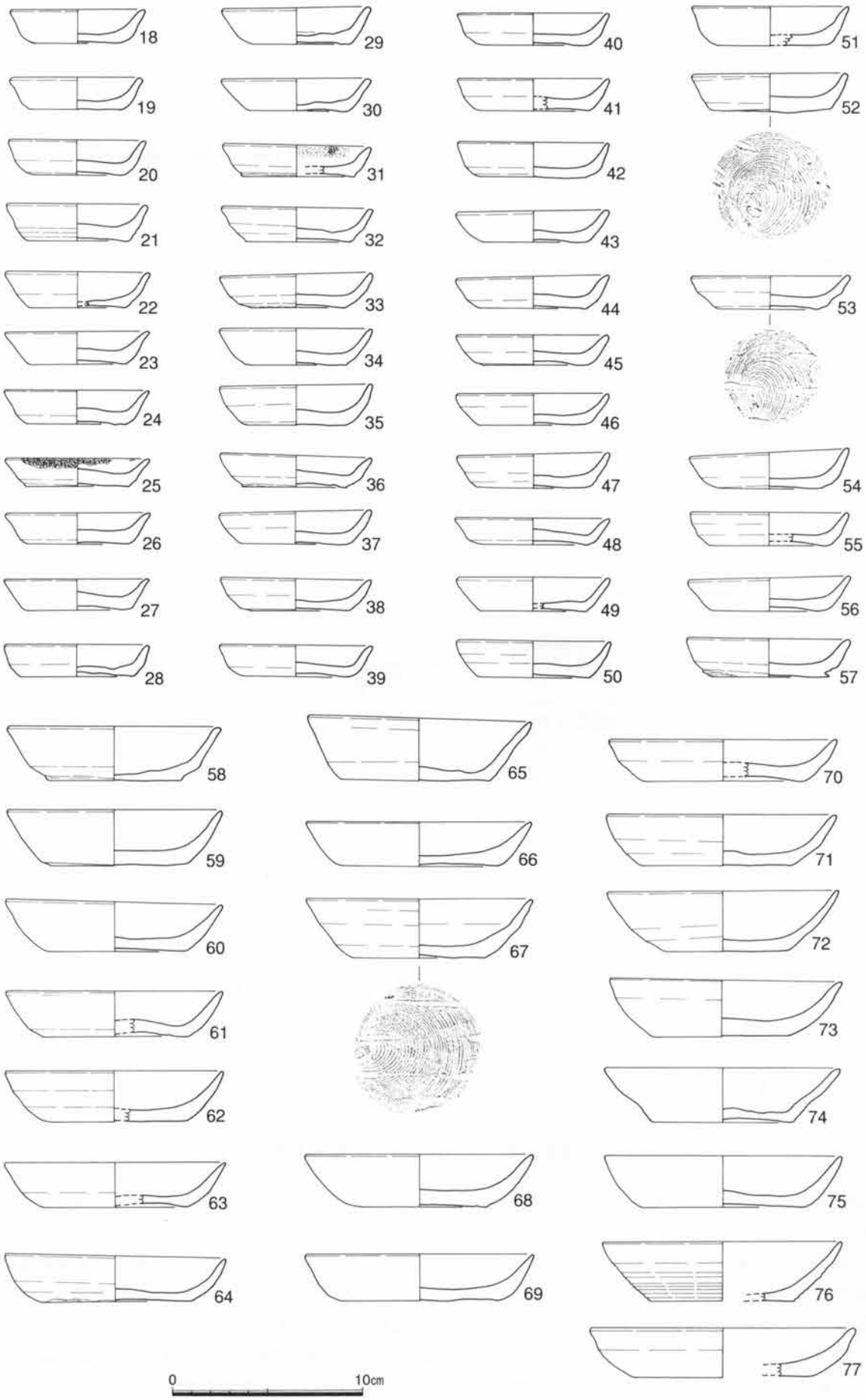


Fig.37　調査区D（SD10）出土土器実測図①（1/3）

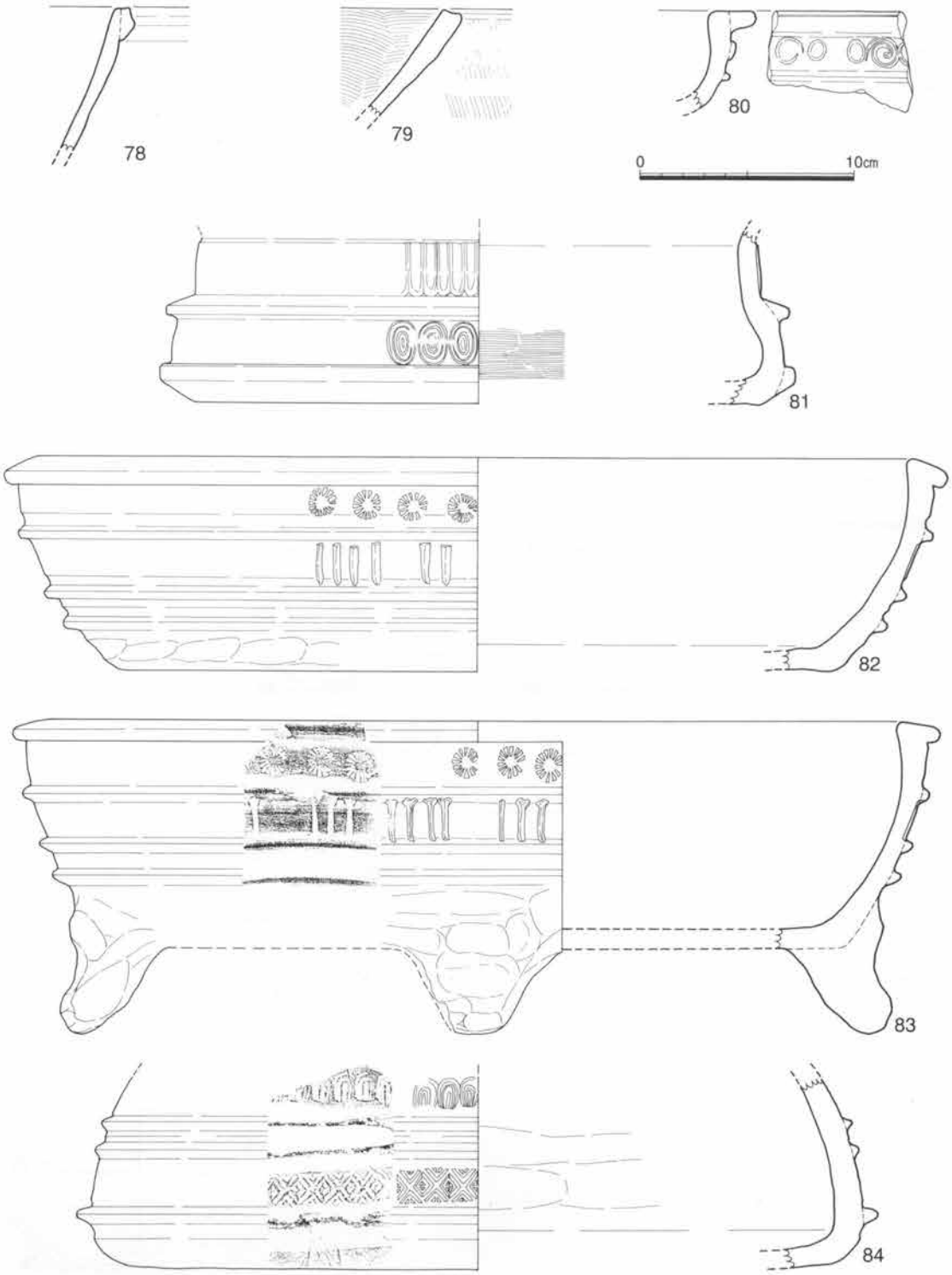


Fig.38　調査区D（SD10）出土土器実測図②（1/3）

6.6cm、器高1.4～2.2cmを測り、底部外面はすべて糸切りである。25・31は口縁部付近に油煙痕が認められる。

坏（58～77）　58～76は口径11.3～12.6cm、底径7.0～8.6cm、器高2.4～3.3cmを測り、底部外面はすべて糸切りである。77は糸切りで口径14.0cm、底径9.6cm、器高2.6cmを復原し、皿になる可能性がある。

土鍋（78）　玉縁状の口縁部を呈し、内外面の調整は磨耗のため不明。

鉢（79～80）　79は口縁部の細片で、端部は素口縁である。内面は横方向の刷毛目、外面は縦方向の刷毛目を施す。表面には煤が付着し、二次焼成を受けている。80は口縁端部外側に屈曲した貼り付け突帯

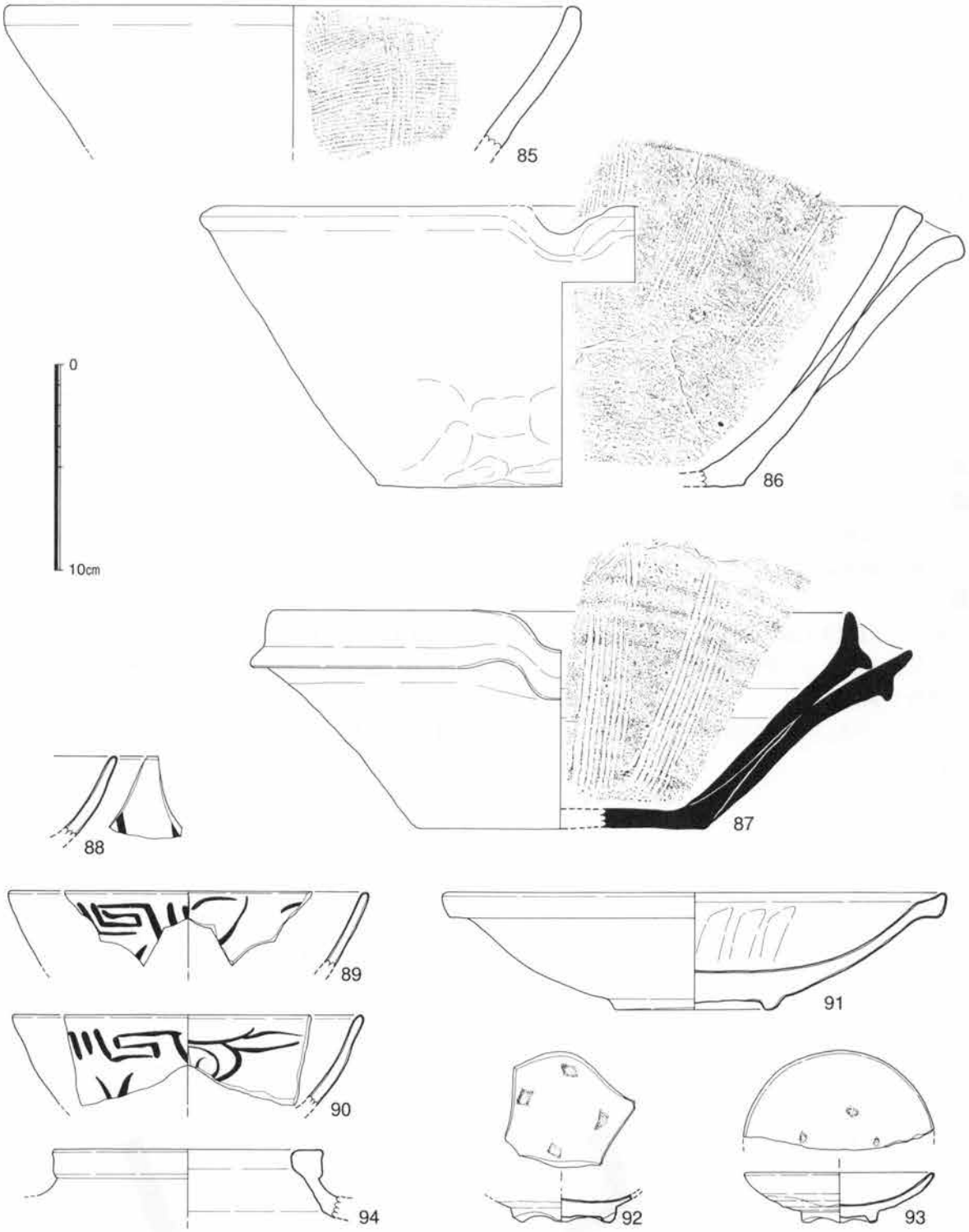


Fig.39　調査区D（SD10）出土土器実測図③（1/3）

を施し、更に体部外面上位にも貼り付け突帯が施される。突帯間にはボタン状の貼り付けと渦状の沈線を施す。

瓦質土器

火鉢（81～84）　81は最大径29.5㎝、底径26.2㎝を復原し、体部下位から底部にかけては袋状を呈する。体部下位と底部の外面には貼り付け突帯が施され、体部下位には型文、突帯間にはスタンプによる押印が施される。82と83は同一個体と思われ、83は口径43.2㎝、底径34.0㎝、器高14.7㎝を復原する。口縁端部は外側に外反し、ナデ調整による大型の脚が施される。体部外面には3条の貼り付け突帯が施され、

菊花文と刻み目文のスタンプが押印される。84は最大径36.0㎝、底径32.8㎝を復原し、体部下位から底部にかけては袋状を呈する。体部下位には3条の貼り付け突帯が施され、鐙文と区画文のスタンプを押印する。

擂鉢（85・86）　85は口縁部の細片で、口径27.6㎝を復原する。すり目は4本単位か。86は口径35.0㎝、底径17.8㎝、器高13.7㎝を測る片口の擂鉢で、内面には7本単位のすり目を施す。

備前焼

擂鉢（87）　口径27.8㎝、最大径30.0㎝、底径14.0㎝、器高10.6㎝を測る片口の擂鉢である。口縁部はほぼ直立し、内面には放射状に8本単位のすり目を施す。

青磁

碗（88～90）　88～90は口縁部の細片で、89・90は外面口縁部付近に雷文帯を施す。89は口径17.0㎝、90は口径17.4㎝を復原する。

皿（91）　口径24.4㎝、高台径7.6㎝、器高5.7㎝を測る。内外面に緑褐色の釉を厚く施し、畳付から高台内にかけては施釉後、蛇の目状に掻き取られる。口縁部は「ての字」状に外反し、体部内面には幅広の蓮弁状の凹みをもつ。明代と思われる。

白磁

碗（92）　底部のみの細片で、高台径は5.0㎝を復原する。高台は4ヶ所を山形に削り出し、見込みには4ヶ所の砂目跡を認める。高台部は露胎である。

陶器

皿（93）　口径9.2㎝、高台径3.7㎝、器高2.4㎝を測る。高台は4ヶ所を山形に削り出しているものと思われ、見込みには4ヶ所の砂目跡があったものと考えられる。胎土は白色で乳白色の透明釉を施すが、高台は露胎である。

壺（94）　口径13.0㎝を測る壺の口縁と思われる。色調は暗灰色で、胎土に砂粒を多く含む。焼成はほぼ良好。

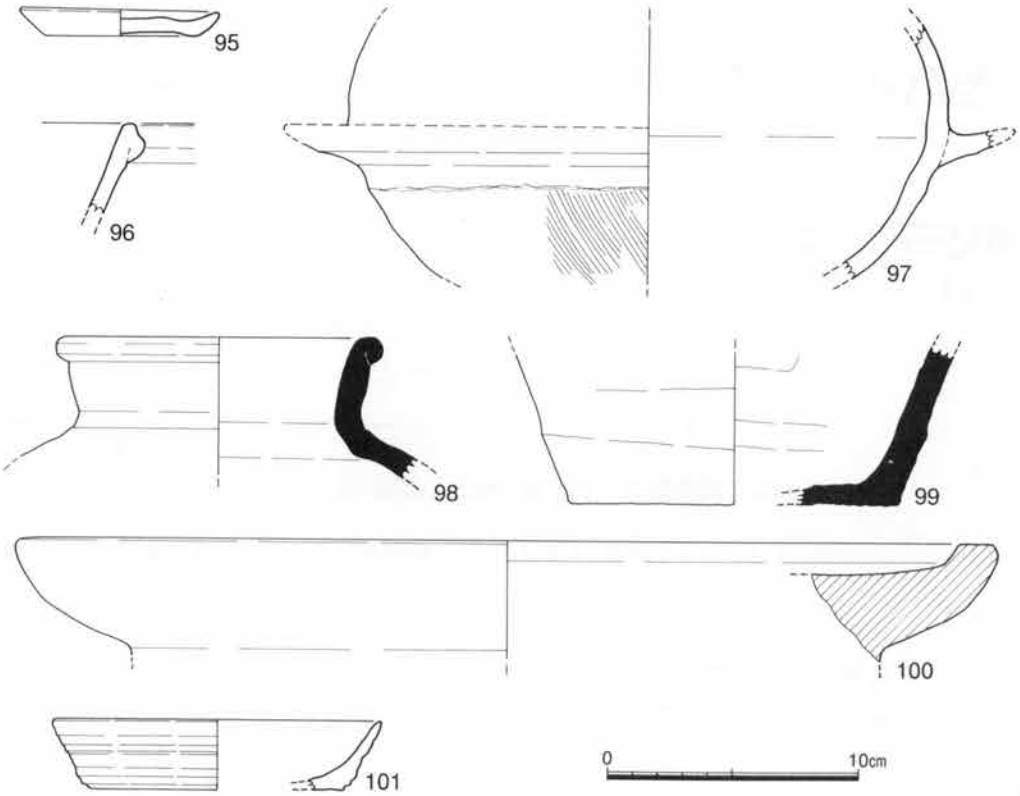


Fig.40　調査区D（SD30、SK40、SP26）出土遺物実測図（1/3）

SD30（Fig.40）

土師器

小皿（95）　糸切りで口径7.9㎝、底径6.0㎝、器高1.1㎝を測る。

土壙

SK40（Fig.40、Pla.22）

土師器

土鍋（96）　玉縁状の口縁部を呈し、磨耗のため調整不明。

羽釜（97）　最大径29.0㎝を復原する。鍔はやや上方へ傾き、鍔から下位には煤が厚く付着する。煤は鍔が欠損した断面にも付着しており、欠損後も使用したものと考えられる。

備前焼

壺（98・99）　98・99は同一個体と思われる。98は口縁部の細片で、口径13.0㎝を復原する。口縁部はやや外反し、端部は外側に折り曲げて丸い帯状突帯とした玉縁口縁を呈する。99は底部の細片で、底径13.0㎝を復原する。

石製品

ひき臼（100）　下臼部分の細片と思われる。石材は安山岩製で、口径39.0㎝を復原する。

ピット

SP26（Fig.40）

土師器

坏（101）　糸切りで、口径13.0㎝、底径10.0㎝、器高2.8㎝を復原する。胎土は精選され、内外面はヨコナデ調整である。

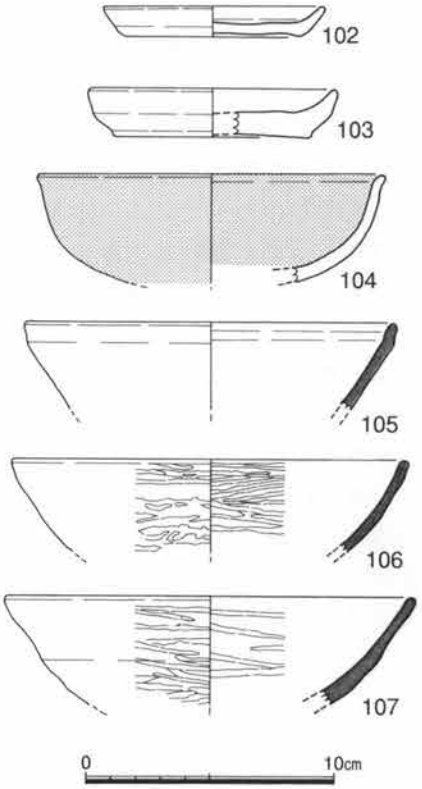


Fig.41　包含層出土土器実測図（1/3）

包含層（Fig.41）

土師器

小皿（102・103）　共に糸切りである。102は口径8.9㎝、底径6.9㎝、器高1.2㎝、103は口径10.0㎝、底径8.0㎝、器高2.0㎝を復原する。

黒色土器

椀（104）　口径14.0㎝を復原する。著しく磨耗しているため調整は不明であるが、黒色土器B類と思われる。

瓦器

椀（105～107）　105は口径15.0㎝を復原し、口縁端部はややつまみ上げる。磨耗のため調整不明。106は口径16.0㎝、107は口径16.6㎝を復原し、共に内外面に横方向のミガキを施す。

（4）小結

以上のように、今回の調査から確認された遺構は中世～近世に至るまでの遺構が主体である。　この時期に該当する遺構は、溝（SD05・15・20・25・10・30・35・65）、土壙（SK40）、ピット（SP26）があり、ここでは、主体となる溝と近世墓について概観することでまとめとしたい。

・溝について

当地を含む筑後市の西部一帯はかつて無数のクリーク地帯であった。これまで、過去の確認調査や発掘調査によって、旧クリークの存在が明らかにされている。このことから、当遺跡確認の一連の溝は、旧クリークであった可能性が考えられよう。

ところで、当遺跡が所在する島田地区は中世に画期となる水田荘の領内（荘園関係における詳細は「『筑後市史』―第一巻　第四編中世―」、「『長崎坊田遺跡』―筑後市文化財調査報告書第23集―」を参照されたい。）である。画期となる中世では、島田地区は水田荘内の村落として存在していたようで、当地は水田荘の北側境界付近に位置している。当地は、水田荘の北側境界ラインは現在の西流する花宗川に

沿うようで、北の広川荘と南の水田荘との間で歴史的背景や立地条件など、ある程度の制約を受けて存在していたことが考えられる。ここでいう「ある程度の制約」とは具体的には提示できないが、考えられることとしては荘園領内を防衛するために置かれた集落などが挙げられよう。

さて、当遺跡から検出した一連の溝は、旧クリークの可能性が考えられることは先述したが、当地における荘園関係を鑑みると館を巡る堀の可能性も否定できない。

更にこれを裏付けることとして、今回検出した一連の溝からは、在地土器の他に国産の搬入土器や輸入陶磁器が出土している。国産の搬入土器や輸入陶磁器は、当時の時代背景から一般庶民が保有していた遺物とは考え難いところで、少なくとも中～小級クラスの有力者が保有していた可能性を示唆するものである。しかし、当調査区からは溝を主体とする遺構のみであったため、結果として、今後の調査に期待せざるを得ない状況である。

溝が使用されたピークは15世紀代比定し、埋没時期は出土遺物から少なくとも16世紀後半であったと考えている。

・近世墓について

当地は近世になって墓地として土地利用が行われていた。

調査区Cからは15基を数える近世墓が検出されたが、惜しくも調査期間などの理由から十分な調査をすることができなかった。周辺には現在も近世墓（殆どは改葬されているようである。）が点在している場所で、今後の調査が待たれる。

【単位はcm、○は復原値】

Fig.－No.	調査区	遺構	名称	器種	口径	底径	器高	胴径	切離し区分 ヘラ	切離し区分 糸	備考
35－001	A	SD05	土師器	小皿	○ 7.0	○ 4.8	1.7			○	煤付着
35－002	A	SD05	土師器	坏	○ 9.0	○ 5.2	2.6			○	
35－003	A	SD05	土師器	坏	○ 10.6	○ 7.0	2.1			○	
35－004	A	SD05	土師器	坏	○ 11.0	○ 6.8	3.4			○	
35－005	A	SD05	土師器	坏	○ 11.1	○ 7.7	2.7			○	
35－006	A	SD05	土師器	坏	○ 13.4	○ 7.8	3.2			○	
35－007	A	SD05	土師器	土鍋							山村：Ea
35－008	A	SD05	白磁	碗	○ 12.0						森田：XI
35－009	A	SD05	染付	碗	○ 12.8						
35－010	A	SD05	染付	碗?	○ 16.0						
36－011	C	SD20	土師器	小皿	7.1	5.0	1.8			○	
36－012	C	SD20	土師器	坏	○ 13.0	○ 9.0	3.1			○	
36－013	C	ST02	染付	碗		○ 4.1					小野：B－XI
36－014	C	ST02	陶器	擂鉢							
36－015	C	ST03	陶器	碗	○ 10.4	4.0	5.6				
36－016	C	ST12	土師器	小皿	9.7	7.5	1.8			○	
36－017	C	ST23	土師器	小皿	○ 9.6	○ 8.0	1.1			○	
37－018	D	SD10	土師器	小皿	○ 7.0	○ 4.5	1.8			○	
37－019	D	SD10	土師器	小皿	○ 7.0	○ 5.0	1.8			○	
37－020	D	SD10	土師器	小皿	○ 7.2	○ 5.3	1.9			○	
37－021	D	SD10	土師器	小皿	○ 7.4	○ 5.3	2.0			○	
37－022	D	SD10	土師器	小皿	○ 7.6	○ 5.0	1.9			○	
37－023	D	SD10	土師器	小皿	7.6	5.1	1.7			○	
37－024	D	SD10	土師器	小皿	○ 7.6	○ 5.3	1.8			○	
37－025	D	SD10	土師器	小皿	○ 7.6	○ 5.4	1.5			○	油煙痕あり
37－026	D	SD10	土師器	小皿	○ 7.6	○ 5.4	1.7			○	
37－027	D	SD10	土師器	小皿	○ 7.6	○ 5.6	1.7			○	
37－028	D	SD10	土師器	小皿	○ 7.6	○ 6.0	1.7			○	
37－029	D	SD10	土師器	小皿	7.8	5.0	2.0			○	
37－030	D	SD10	土師器	小皿	7.8	5.4	1.8			○	
37－031	D	SD10	土師器	小皿	7.8	6.0	1.7			○	油煙痕あり
37－032	D	SD10	土師器	小皿	7.9	5.5	1.9			○	
37－033	D	SD10	土師器	小皿	8.0	5.0	1.8			○	
37－034	D	SD10	土師器	小皿	8.0	5.1	2.0			○	
37－035	D	SD10	土師器	小皿	8.0	5.3	2.2			○	
37－036	D	SD10	土師器	小皿	8.0	5.5	1.7			○	
37－037	D	SD10	土師器	小皿	8.0	5.8	1.7			○	
37－038	D	SD10	土師器	小皿	8.0	5.8	1.7			○	
37－039	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.0	○ 5.8	1.7			○	
37－040	D	SD10	土師器	小皿	8.0	○ 6.0	1.7			○	
37－041	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.0	○ 6.0	1.8			○	
37－042	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.0	○ 6.4	1.9			○	
37－043	D	SD10	土師器	小皿	8.1	5.4	1.7			○	
37－044	D	SD10	土師器	小皿	8.1	5.6	1.7			○	
37－045	D	SD10	土師器	小皿	8.1	5.9	1.6			○	
37－046	D	SD10	土師器	小皿	8.1	6.0	1.7			○	
37－047	D	SD10	土師器	小皿	8.1	6.0	1.8			○	
37－048	D	SD10	土師器	小皿	8.2	5.6	1.4			○	
37－049	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.2	○ 5.6	1.8			○	
37－050	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.2	○ 6.0	2.0			○	
37－051	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.2	○ 6.2	2.1			○	
37－052	D	SD10	土師器	小皿	8.2	6.4	2.0			○	
37－053	D	SD10	土師器	小皿	8.4	6.0	1.8			○	
37－054	D	SD10	土師器	小皿	8.4	6.0	1.9			○	
37－055	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.4	○ 6.2	1.8			○	
37－056	D	SD10	土師器	小皿	8.6	6.3	1.8			○	
37－057	D	SD10	土師器	小皿	8.6	6.6	2.0			○	
37－058	D	SD10	土師器	坏	○ 11.2	○ 7.0	2.9			○	
37－059	D	SD10	土師器	坏	11.3	7.5	3.0			○	
37－060	D	SD10	土師器	坏	11.4	7.2	2.6			○	
37－061	D	SD10	土師器	坏	○ 11.4	○ 7.6	2.4			○	
37－062	D	SD10	土師器	坏	○ 11.4	○ 7.7	2.7			○	
37－063	D	SD10	土師器	坏	○ 11.6	○ 7.8	2.4			○	
37－064	D	SD10	土師器	坏	11.6	8.2	2.4			○	
37－065	D	SD10	土師器	坏	11.7	7.8	3.3			○	

Tab.5　島田外屋敷遺跡出土遺物一覧表①

【単位はcm、○は復原値】

Fig.－No.	調査区	遺構	名称	器種	口径	底径	器高	胴径	切離し区分 ヘラ	切離し区分 糸	備考
37－066		SD10	土師器	坏	○11.8	○8.4	2.4			◎	
37－067	D	SD10	土師器	坏	11.9	7.0	3.1			◎	
37－068	D	SD10	土師器	坏	○12.0	7.8	2.8			◎	
37－069	D	SD10	土師器	坏	○12.0	○8.3	2.5			◎	
37－070	D	SD10	土師器	坏	○12.0	○8.4	2.2			◎	
37－071	D	SD10	土師器	坏	12.1	8.0	2.7			◎	
37－072	D	SD10	土師器	坏	12.2	6.6	3.2			◎	
37－073	D	SD10	土師器	坏	○12.2	7.3	3.0			◎	
37－074	D	SD10	土師器	坏	○12.4	○7.5	2.9			◎	
37－075	D	SD10	土師器	坏	○12.5	○8.6	2.7			◎	
37－076	D	SD10	土師器	坏	○12.6	○7.5	3.1			◎	
37－077	D	SD10	土師器	皿か坏	○14.0	○9.6	2.6			◎	
38－078	D	SD10	土師器	土鍋							山村：Ea
38－079	D	SD10	土師器	鉢							山村：AⅢ
38－080	D	SD10	土師器	鉢							
38－081	D	SD10	瓦質土器	火鉢		○26.2					
38－082	D	SD10	瓦質土器	火鉢	○44.0	○32.4	10.0				83と同一個体
38－083	D	SD10	瓦質土器	火鉢	○43.2	○34.0	14.7				82と同一個体
38－084	D	SD10	瓦質土器	火鉢		○32.8					
39－085	D	SD10	瓦質土器	擂鉢	○27.6						山村：A
39－086	D	SD10	瓦質土器	擂鉢	○35.0	○17.8	13.7				すり目7本単位、山村：A
39－087	D	SD10	備前焼	擂鉢	○27.8	○14.0	10.6				すり目8本単位、備前・間壁：Ⅳ期
39－088	D	SD10	青磁	碗							
39－089	D	SD10	青磁	碗	○17.4						上田：C－Ⅱ
39－090	D	SD10	青磁	碗	○17.0						上田：C－Ⅱ
39－091	D	SD10	青磁	皿	○24.4	7.6	5.7				明代?
39－092	D	SD10	白磁	碗		○5.0					
39－093	D	SD10	陶器	皿	○9.2	○3.7	2.4				
39－094	D	SD10	陶器	壺	○13.0						
40－095	D	SD30	土師器	小皿	7.9	6.0	1.1			◎	
40－096	D	SK40	土師器	土鍋							山村：Ea
40－097	D	SK40	土師器	羽釜							
40－098	D	SK40	備前焼	壺	○13.0						間壁：Ⅲ期
40－099	D	SK40	備前焼	壺		○13.0	21.0				間壁：Ⅲ期
40－100	D	SK40	石製品	ひき臼	○39.0						
40－101	D	SP26	土師器	坏	○13.0	○10.0	2.8			◎	
41－102	—	包含層	土師器	小皿	8.9	6.9	1.2			◎	
41－103	—	包含層	土師器	小皿	○10.0	○8.0	2.0			◎	
41－104	—	包含層	黒色土器B	椀	○14.0						
41－105	—	包含層	瓦器	椀	○15.0						
41－106	—	包含層	瓦器	椀	○16.0						
41－107	—	包含層	瓦器	椀	○16.6						

Tab.6　島田外屋敷遺跡出土遺物一覧表②

【註】

本表に記載した分類は、下記の文献によっている。

〈中世雑器〉　山村信榮　「太宰府出土の瓦質土器」　『中近世土器の基礎研究ヲ』　1990

〈青磁〉　上田秀夫　「14～16世紀の青磁碗の分類について」　『貿易陶磁研究』2』　1982

〈白磁〉　森田勉　「14～16世紀の白磁の分類と編年」　『貿易陶磁研究』2』　1982

〈染付〉　小野正敏　「15～16世紀の染付碗・皿の分類と年代　『貿易陶磁研究』2』　1982

〈備前焼〉　間壁忠彦　「備前焼」　『考古学ライブラリー60』　平成3年

4.井田栗ノ内遺跡の調査

(1) はじめに (Fig.42)

当遺跡は、筑後市大字井田字栗ノ内に所在し、標高4.2m位の低湿地上にある。平成8年度に施工された支線用排水路の設置範囲において、遺構が確認された283m²を調査範囲とし、調査区はL字状に設定した。調査期間は平成8年10月2日から10月15日までで、この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影などを行った。調査区からは溝1条を検出した。本調査は田中剛が担当し、野田洋子の協力を得た。

Fig.42　井田栗ノ内遺跡調査地点位置図 (1/2,500)

(2) 遺構

溝

SD1 (Fig.43、Pla.23)

やや蛇行しながら東西方向にはしる溝で、6.40m分を検出した。幅2.00～2.90m、深さ0.28～0.42mを測り、溝底は西方が低下している。土層からは大きく2つに大別 (土層番号3～5と6・7) され、堀直しが看取される。遺物は各層から土師器 (小皿・鍋・片)、瓦質土器 (擂鉢) を認めているが図示できなかった。

(3) 出土遺物

当調査区からは図示できる遺物は出土しなかった。

(4) 小結

当遺跡は、かつて縦横無尽にはしっていたクリーク地帯に位置していることで、今回検出した溝SD1は、旧クリークの可能性が考えられる。出土遺物が極めて少ないことから時期決定は難しいが、SD1は遺物から概ね中世の遺構と思われ、少なくとも江戸時代初頭には埋没していた可能性が考えられる。

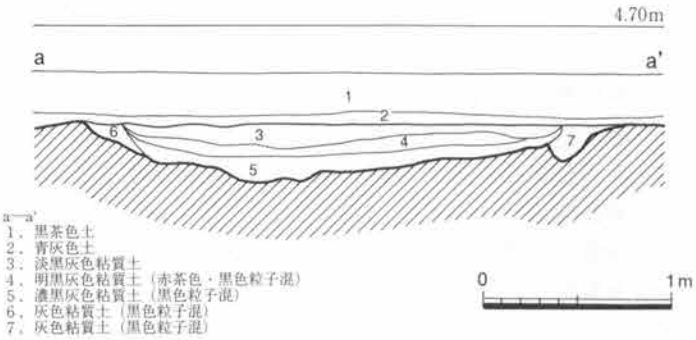


Fig.43　SD1土層断面実測図（1/40）

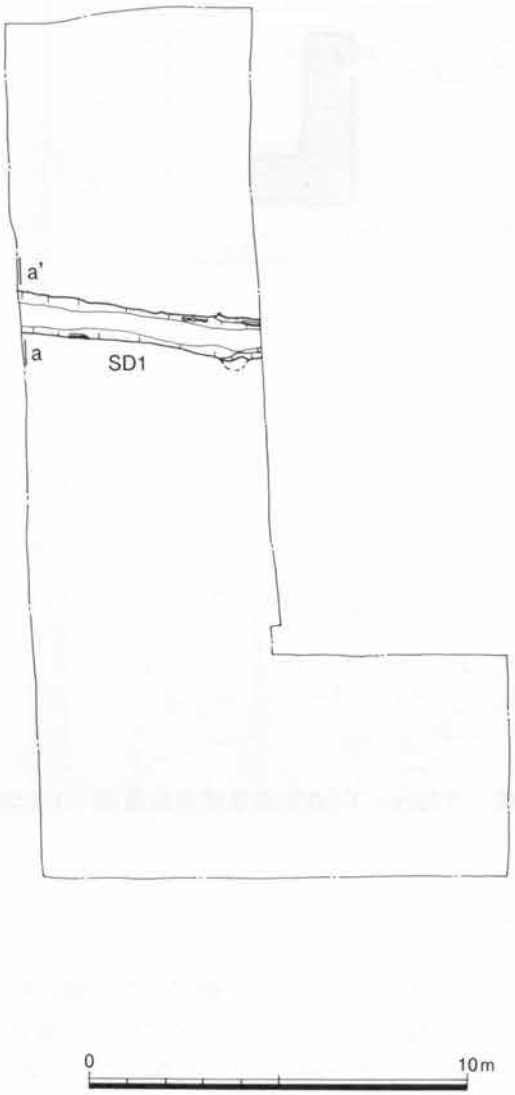


Fig.44　井田栗ノ内遺跡遺構全体実測図（1/200）

5.水田伊勢ノ脇遺跡の調査

(1) はじめに（Fig.45）

当遺跡は筑後市大字水田字伊勢ノ脇に所在し、標高5m位の低地上にある。調査は、平成9年度に実施された農地整備事業支線用排水路設置範囲で、遺構を確認した696㎡を実施した。調査期間は平成9年10月14日から11月6日までで、この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影などを行った。調査区からは主に溝15条、周溝状遺構2基、土壙5基、ピットを検出した。本調査は小林勇作が担当し、末吉隆弥の協力を得た。

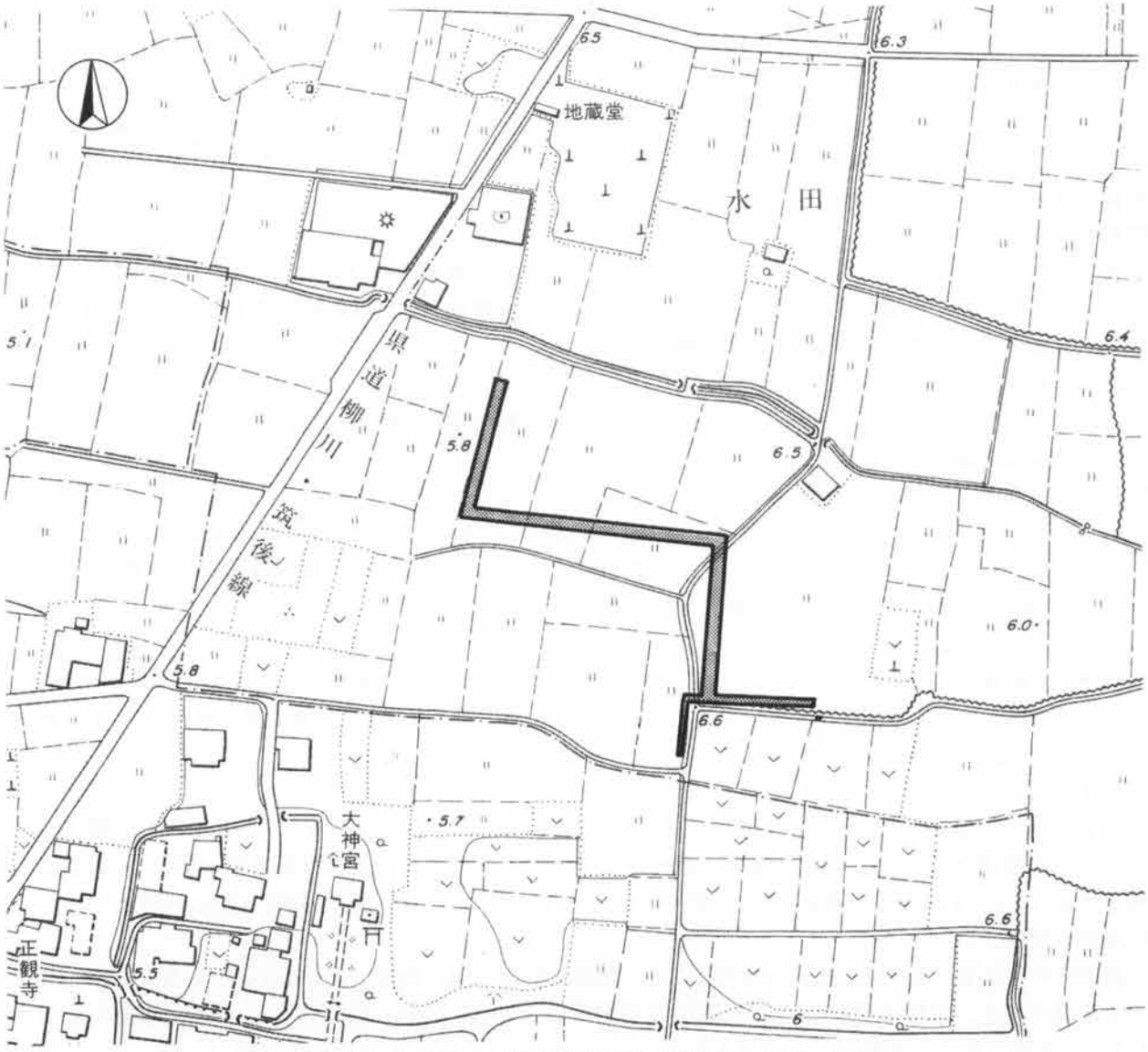


Fig.45　水田伊勢ノ脇遺跡調査地点位置図（1/2,500）

(2) 遺構

溝

SD010（付図②、Fig.46、Pla.27）

調査区北側から検出した東西溝で、SD020・030を切る。7.6m分を検出し、幅約0.80m、深さ0.12～0.44mを測る。溝の断面は逆台形状を呈し、溝底は凹凸が著しく不安定である。埋土は黒茶色土がレンズ状に3層堆積しており流水あったものと思われる。遺物は弥生土器（甕）、須恵器（甕）、土師器（皿・甕・片）、石製品（砥石）などが出土した。

SD020（付図②、Fig.46、Pla.27）

SD010に切られた幅約0.60ｍ、深さ約0.36ｍを測る東西溝で約6.00ｍ分を検出した。溝の東端部は南方向へ屈曲しており、SD030へ続くものと考えられる。溝の断面はほぼU字状を呈し、溝底は不安定であった。埋土は黒茶色土がおおよそ4層堆積しており、流水があったものと考えられる。遺物は弥生土器（甕）、土師器（片）などが出土した。

SD025（付図②）

調査区中央部で検出した南北溝で、埋土は茶褐色土の単一土層であった。検出長3.45ｍ、幅0.35～0.55ｍ、深さ0.16～0.19ｍを測る。出土遺物は皆無であった。

SD030（付図②、Fig.46）

調査区西側で南北にはしる溝を51.40ｍ分検出し、溝の幅は0.70～1.00ｍを測る。SD010に続く溝と考えられ、溝断面は逆台形状を呈する。土層観察から緩やかな流水があったものと考えられるが、溝の高低差はあまり感じられず、溝底は凹凸が著しく不安定である。地形的にみて北→南方向への流れがあったものと考えられる。遺物は弥生土器（甕）、須恵器（甕）、土師器（皿・坏・土鍋・鍋・片）、瓦器（椀）、陶器（甕）などが出土した。

SD045（付図②、Fig.46）

調査区の中央部で検出した南北溝で、3.20ｍ分を検出した。断面はほぼV字状を呈し、黒茶色土がレンズ状に堆積していた。幅1.25～1.30ｍ、深さ0.43～0.54ｍを測り、溝底は比較的安定していた。遺物は土師器（土鍋・火鉢・擂鉢・茶釜）、染付（碗）が出土した。

SD055（付図②）

調査区中央部で6.25ｍ分を検出し、SD090に切られる。幅0.51～0.86ｍ、深さ0.05～0.13ｍを測る浅い溝で、土師器（皿・片）が出土している。

SD060（付図②、Fig.46、Pla.27）

調査区の中央部で検出した南北溝で、SD070に切られる。3.35ｍ分を検出し、幅約4.00ｍ、深さ1.15ｍを測り、断面はほぼU字状を呈する。溝底は凹凸が著しく不安定である。遺物は須恵器（甕）、土師器（土鍋・土鍋）、白磁（碗）、陶器（擂鉢）を出土した。

SD070（付図②、Fig.46、Pla.27）

SD060に隣接した南北溝で、長さ3.35ｍ、幅約2.55ｍ、深さ約0.60ｍを測る。灰色土を基調とする埋土で、断面は緩やかなU字状を呈する。出土遺物は土師器（坏・茶釜・片）、瓦質土器（擂鉢）、青磁（碗）、染付（碗）、備前焼（甕）を認めた。

SD080（付図②、Fig.46、Pla.28）

調査区の中央部東よりで検出した溝で、検出長約9.00ｍ、幅約2.20ｍ、深さ0.45ｍを測る。埋土は灰茶褐色土を基調とするレンズ状堆積で、溝底はほぼフラットである。遺物は須恵器（甕）、土師器（土鍋・茶釜・片）、瓦質土器（擂鉢・片）、青磁（碗）、白磁（片）、染付（碗）、陶器（甕）が出土した。

SD090（付図②）

調査区の中央東よりで約2.00ｍ分を検出した。幅約2.90ｍ、深さ0.43～0.50ｍを測り、埋土は灰茶褐色土を基調とする。遺物は土師器（片）、瓦質土器（茶釜）、白磁（碗）、染付（片）、陶器（擂鉢）が出土した。SD080と同一の溝か。

SD100（付図②、Pla.46）

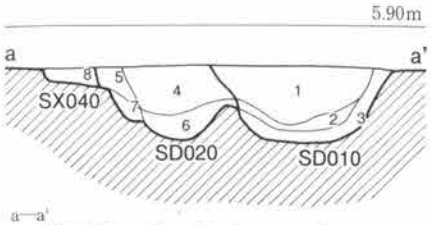
SD030に接する溝で、検出時ではSD030に切られたように確認された。土層観察からSD100埋没後にSD030が掘り直されたと考えられる。遺物は僅かに土師器（片）、瓦質土器（擂鉢）が出土した。

SD110（付図②）

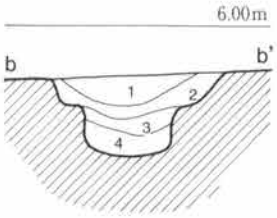
調査区の南部で検出した。検出長3.50ｍ、幅0.35～0.63ｍ、深さ約0.19ｍを測り、埋土は灰色土の単一土層。出土遺物は弥生土器（片）、土師器（片）を僅かに認めた。

SD115（付図②）

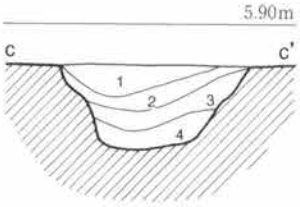
SD110に切られた溝で、現況を留めていない。2.50ｍ分を検出し、深さ0.03～0.11と浅い。出土遺物は



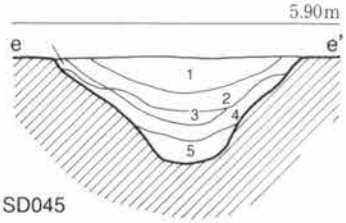
a—a'
1．暗黒茶色土（礫・茶色ブロック少混）
2．暗黒茶色粘質土
3．暗黒茶色粘質土（黄色ブロック多混）
4．暗黒茶色粘質土（やや粘性強い）
5．暗黒茶色粘質土（黒色・黄色ブロック少混）
6．暗黒茶色粘質土（黄色ブロック多混）
7．暗黒茶色粘質土（黄色ブロック多混）
8．暗黒色粘質土（淡黄色の粒子・ブロック多混



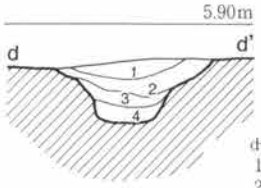
b—b'
1．淡黒茶色粘質土
2．暗黒茶色粘質土（黄色ブロック多混）
3．暗黒茶色粘質土
4．暗黒茶色粘質土



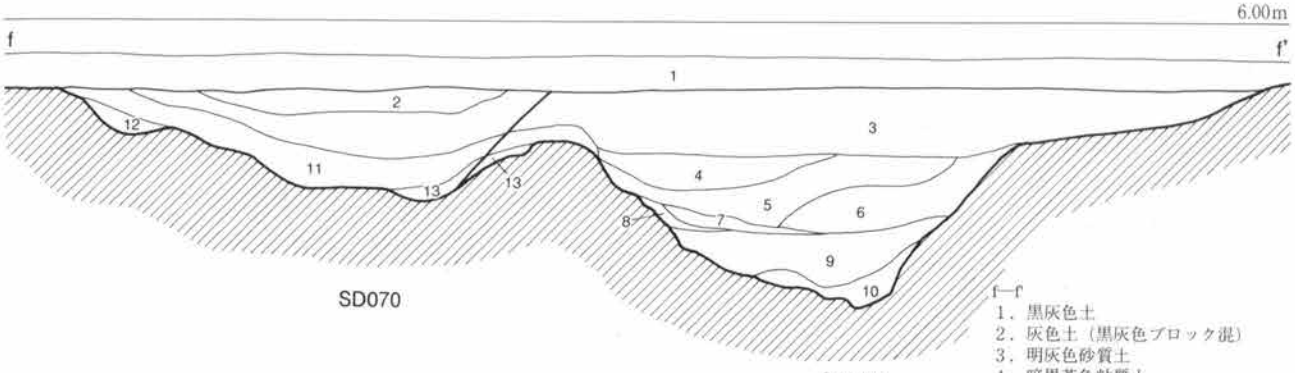
c—c'
1．暗黒茶色粘質土
2．暗黒茶色粘質土黄色ブロック多混）
3．暗黒茶色粘質土（炭化物少混）
4．暗黒茶色粘質土



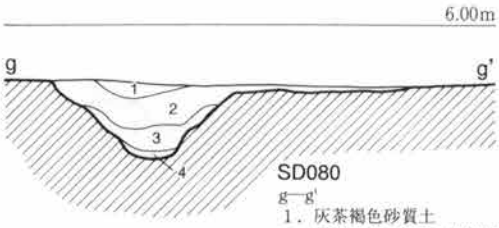
e—e'
1．暗黒茶色粘質土（礫・茶色ブロック少混）
2．暗黒茶色粘質土（炭化物少混）
3．暗黒茶色粘質土
4．暗黄黒色粘質土（炭化物少混・黄色ブロック多混）
5．暗黒茶色粘質土（礫・黄色ブロック少混）
6．暗黒茶色土



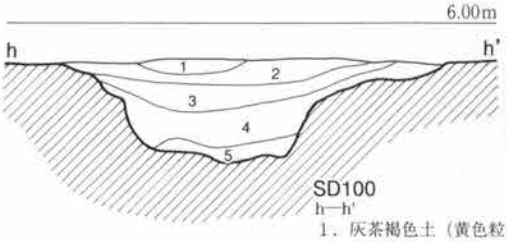
d—d'
1．暗黒茶色粘質土（黄色ブロック多混）
2．暗黒茶色土（黄色ブロック多混）
3．暗黒茶色粘質土（黄色ブロック多混）
4．暗黒茶色粘質土（黄色ブロック多混・礫混）



f—f'
1．黒灰色土
2．灰色土（黒灰色ブロック混）
3．明灰色砂質土
4．暗黒茶色粘質土
5．暗黒茶色粘質土（黄褐色ブロック多混）
6．濃灰褐色粘質土
7．明灰褐色粘質土
8．青灰色粘質土
9．青灰色粘土
10．暗黒青色粘土（灰白色ブロック混）
11．明灰色砂質土（黄褐色ブロック多混）
12．明灰色砂質土（黒色・乳白色ブロック混）
13．暗灰色粘質土（黄褐色ブロック混）



g—g'
1．灰茶褐色砂質土
2．灰茶褐色砂質土（黄褐色粒子少混）
3．灰茶褐色粘質土（黄褐色粒子多混）
4．灰茶褐色粘質土（黄褐色ブロック多混）



h—h'
1．灰茶褐色土（黄色粒子を多く含む）
2．灰茶褐色土（黄色・黒色ブロック混）
3．暗灰茶色土（黒色ブロック混）
4．暗灰茶色土（黄色粒子混）
5．灰茶色土（黄茶色土混）

Fig.46　溝土層断面実測図（1/40）

皆無であった。

SD120（付図②）

1.33 m分を検出し、幅0.60 m、深さ0.07 mと浅い。出土遺物は僅かに土師器（片）を認めた。

SD130（付図②）

SK135に切られた南北溝で、現況水路とほぼ一致する。約12.20 m分を確認し、幅約1.70 m、深さ約0.56 mを測る。土師器（土鍋・片）、瓦などが出土した。

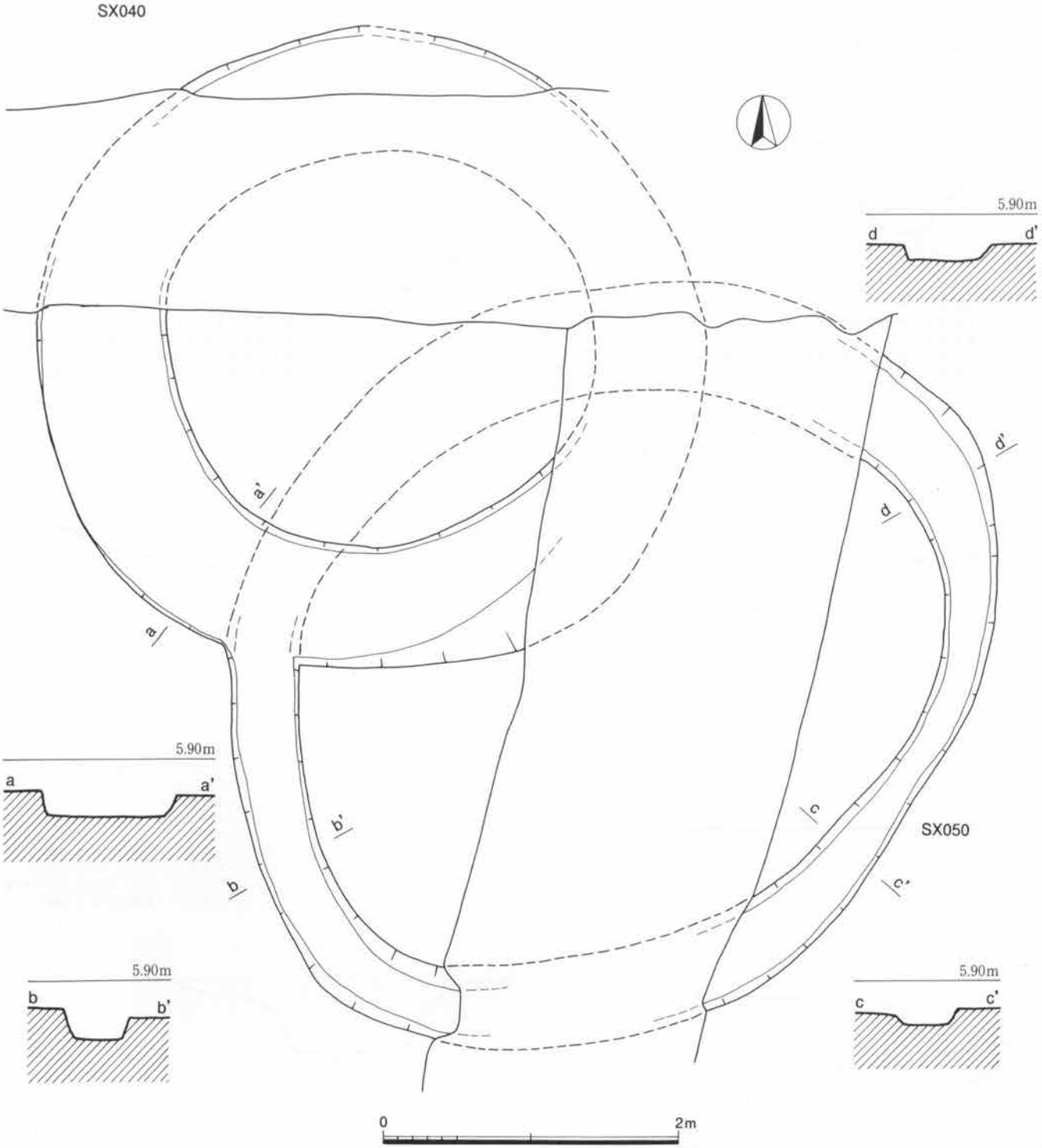


Fig.47　SX040・050実測図（1/40）

SD140（付図②）

1.75m分を検出し、幅約0.25m、深さ0.18mを測る。出土遺物は皆無で、方向的にSD110・115何れかの延長部分と考えられる。

周溝状遺構

SX040（Fig.47、Pla.28）

調査区の北側で検出し、著しく削平を受けていた。周溝状遺構の規模は外径4.35m、内径3.00m（推定）、溝幅9.30m、深さ約0.13mである。埋土は黒色土を基調とする単一土層であった。遺物は弥生土器（甕・壺・器台）が出土した。

SX050（Fig.47、Pla.28）

調査区の北側で検出し、周溝状遺構の規模は外径5.70m（推定）、内径4.65m（推定）、溝幅2.80～6.40m、深さ約0.10mで著しく削平を受けていた。遺物は弥生土器（甕・器台）が出土した。

土壙

SK001（付図②）

SX40溝底から検出された楕円形状の土壙で、幅約0.50m、深さ0.33mを測る。埋土は黒色土を基調とし、遺物は弥生土器（甕）を認めた。

SK005（Fig.48、Pla.29）

調査区の北側で検出した隅丸方形状の土壙で、幅1.30～1.35m、深さ1.15mを測る。出土遺物は各層から散在的に弥生土器（鉢・甕・壺・片）、石包丁が出土した。

SK015（付図②）

SK005に隣接した楕円形状の土壙で、幅約0.60m、深さ0.17mを測る。黒茶褐色土を基調とした埋土で、出土遺物は僅かに弥生土器（甕）を認めた。

SK035（Fig.48、Pla.29・30）

SD020に切られた楕円形状の土壙で、若干袋状を呈する。長軸1.45m、短軸1.06m、深さ0.57mを測り、黒茶色土を基調とする埋土であった。土壙内からは二次焼成を受けた安山岩、片岩が各1個づつ出土し、片岩の直下には土師器（坏）が上向きの状態で確認された。遺物はこの他に土師器（甕・片）が出土している。

SK135（付図②、Pla.30）

調査区南側でSD130を切るように検出した。土壙の3/4は調査区外で規模は不明。黒茶色土を基調とした埋土で、深さは0.43mを測る。遺物は須恵器（甕）、土師器（片）を認めたが、周辺からの流入と考えられる。

(3) 出土遺物

SD010（Fig.51、Pla.31）

石製品

砥石（29）　石材は安山岩製で、2面を砥面とする。砥面には線状痕が認められ、鉄製品用に利用されたものと推定される。周縁の一部に敲打痕を認め、敲石としても利用された可能性が考えられる。

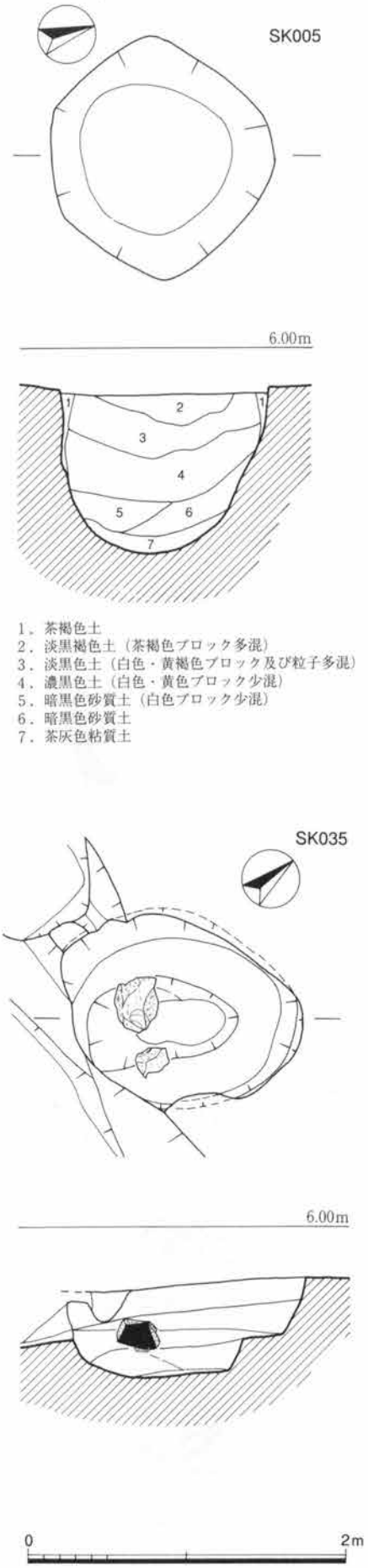


Fig.48　土壙実測図（1/40）

SD030（Fig.49）

須恵器

壺（1）　底部の細片で、底径10.0㎝を復原する。内面はヨコナデ、体部中位は平行叩き、下位はヘラナデの調整を施し、胎土は良好である。内面と断面には煤が付着している。

土師器

坏（2・3）　共に糸切りであるが、磨耗のため調整は不明である。2は口径12.6㎝、底径7.5㎝、器高2.9㎝、3は口径12.8㎝、底径9.8㎝、器高2.4㎝を復原する。

土鍋（4）　玉縁状の口縁部を呈し、内面は横方向の刷毛目、口縁部外面はヨコナデ、体部上位はナデ調整を施す。外面には煤が厚く付着している。

青磁

皿（5）　口縁端部は外反し、口径12.0㎝を復原する。青緑色の釉を内外面に施し、貫入がみられる。

SD045（Fig.49）

土師器

土鍋（6）　口縁部の細片で、口縁部は玉縁状を呈する。

SD060（Fig.49）

土師器

土鍋（7）　口縁部の細片で、口径32.0㎝を復原する。口縁部は素口縁を呈し、内面は横方向の刷毛目調

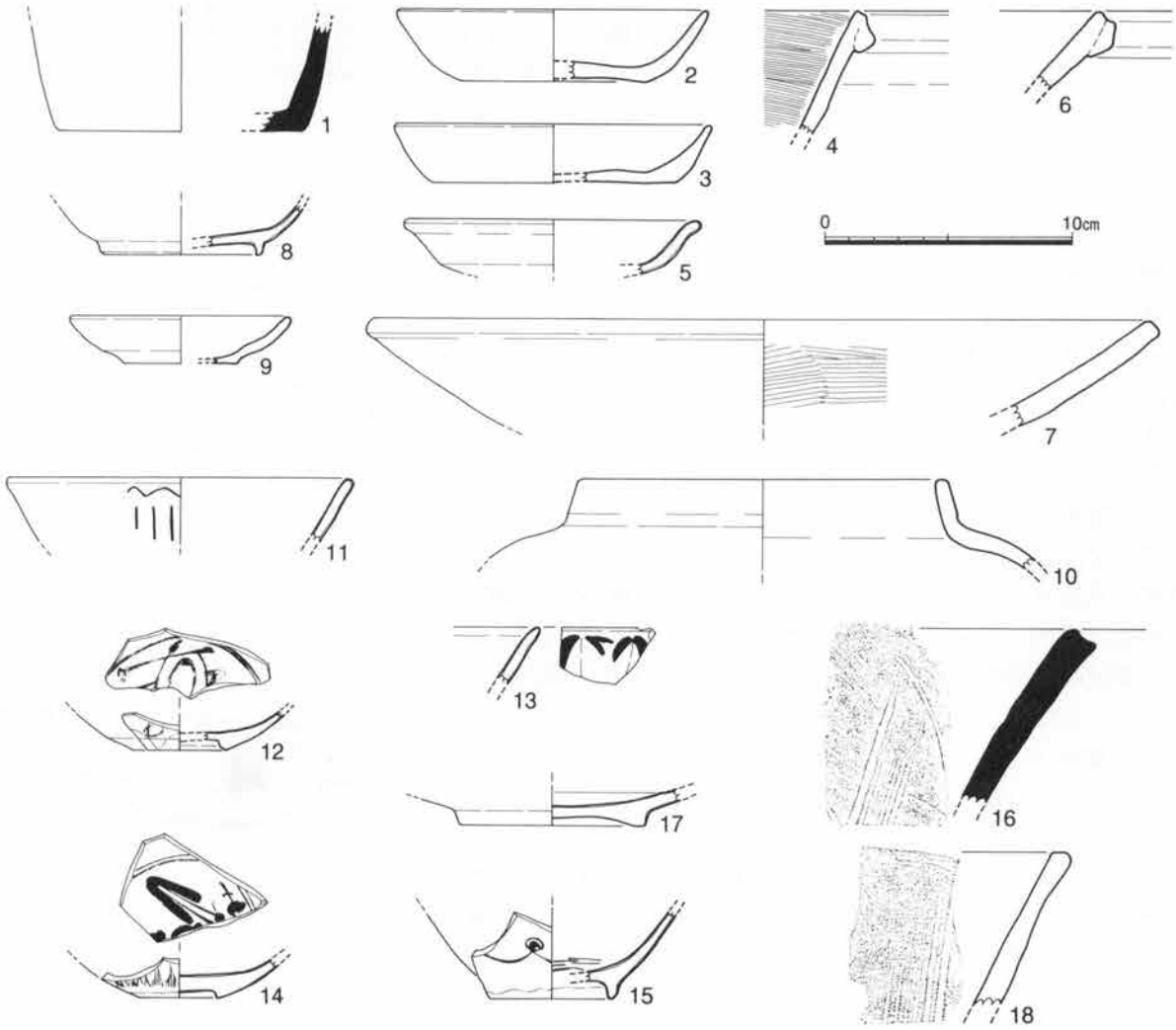


Fig.49　溝出土土器実測図（1/3）

整を施す。外面は磨耗のため調整不明で、胎土に赤色粒子や砂粒を少量含む。

白磁

碗（8）　底部の細片で、底径6.6㎝を復原する。白灰色の胎土に乳白色の透明釉を全面に施すが、畳付けは露胎である。

SD070（Fig.49、Pla.31）

土師器

坏（9）　糸切りで、内外面はヨコナデである。口径9.0㎝、底径4.6㎝、器高1.9㎝を復原する。

茶釜（10）　口縁部の細片で、口径15.0㎝を復原し、口縁部はやや内側へ立ち上がる。調整は口縁部の内面が刷毛目、外面はヨコナデ、体部の内面はナデ、外面は磨耗のため調整不明である。

青磁

碗（11）　口縁部の細片で、口径14.0㎝を復原する。青緑色の釉を内外面にかけ、ヘラ先による細線の線描連弁文を外面に施すが、剣頭が連弁としての単位をなしていない。

染付

碗（12）　底部が碁笥底を呈した底部のみの細片で、見込みには呉須で文様を描く。底径3.8㎝を復原する。

SD080（Fig.49、Pla.31）

青磁

碗（13）　口径15.0㎝前後を復原し、外面には鎬連弁が施される。

染付

碗（14・15）　14は底部は碁笥底を呈し、見込みと外面には呉須で文様を描く。底径3.0㎝を復原する。15は底部の細片で、見込みと外面には呉須で文様を描かれている。底径5.0㎝を復原し、畳付け付近は露胎である。

SD090（Fig.49）

須恵器

擂鉢（16）　口縁部の細片で、口縁端部に沈線を施す。砂粒を少量含む胎土で、焼成はほぼ良好。8本単位のすり目を施すものと思われる。

白磁

皿（17）　底部のみの細片で、底径7.6㎝を復原する。白色の胎土に透明釉を施すが、高台内は露胎である。見込みには僅かに段を認める。

SD100（Fig.49）

瓦質土器

擂鉢（18）　口縁部は素口縁で、外面はナデ、口縁端部と内面は横方向の刷毛目調整を施す。内面には6本単位のすり目が施されている。

SX040（Fig.50、Pla.31）

弥生土器

壺（19・20）　19は外面に暗赤色顔料を施した丹塗り壺である。底径5.0㎝を測り、胎土に砂粒、角閃石を多く含む。20は底部の細片で、底径7.9㎝を測る。砂粒、角閃石を多く含む胎土で、底部外面に煤が付着する。

甕（21）　底部の細片で、底径12.0㎝を復原する。胎土は細砂粒を多く含み、焼成はやや不良である。磨耗のため調整は不明。

器台（22）　下端部のみの細片で、底径19.0㎝を復原する。外面は縦方向の刷毛目、内面はヨコナデ調整を施し、下端部は未調整である。胎土は砂粒を多く含む。

SX050（Fig.50）

弥生土器

器台（23）　上端部のみの細片で、口径16.7㎝を復原する。上端部は面を呈し、胎土は少量の砂粒を含

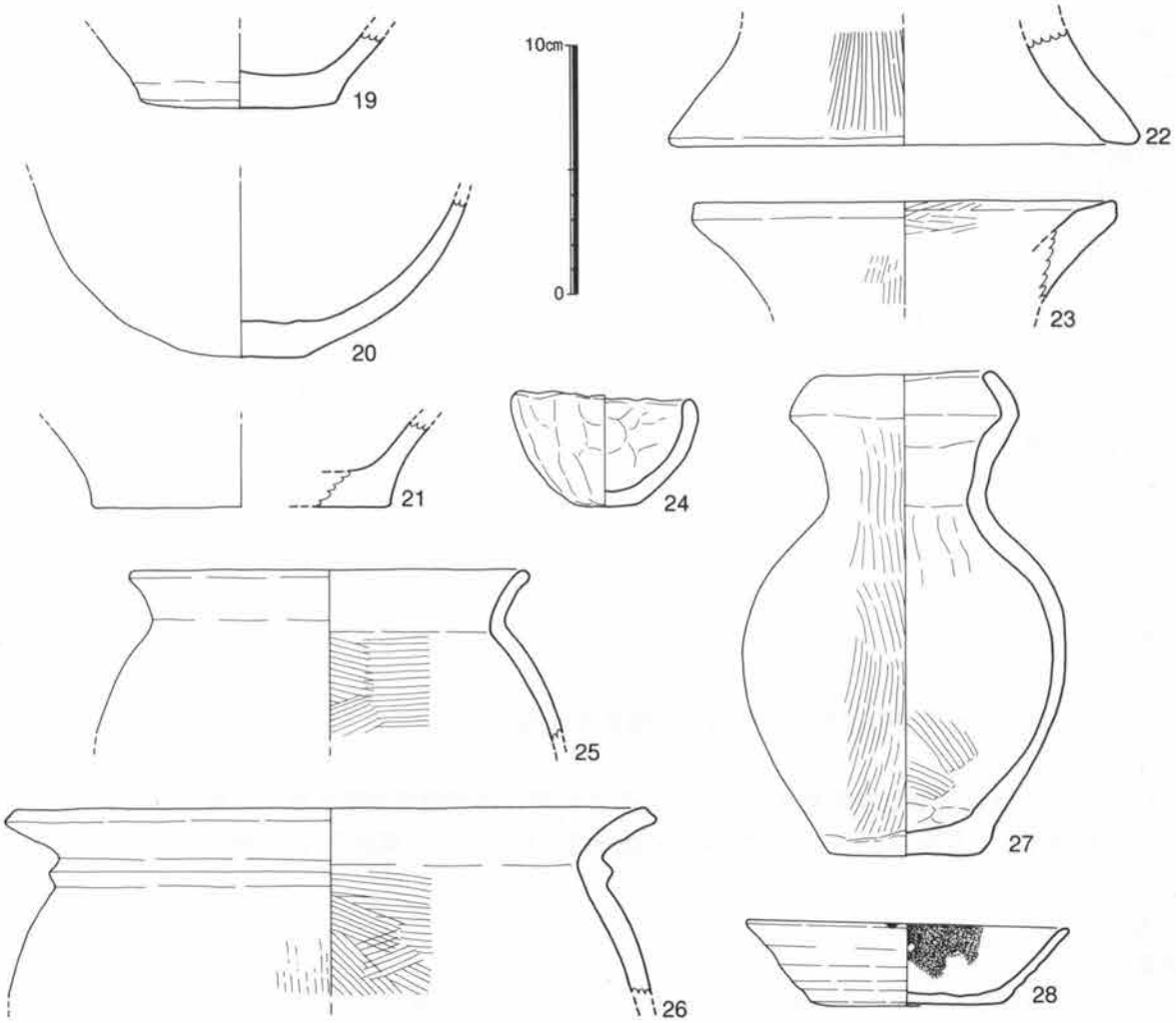


Fig.50　周溝状遺構・土壙出土土器実測図（1/3）

む。内面は刷毛目後ナデ、外面上位はヨコナデ、下位は刷毛目調整を施す。

SK005（Fig.50、Pla.31）

弥生土器

小鉢（24）　完形で、手づくねによるミニチュアである。口径7.2㎝、底径2.8㎝、器高4.3～4.8㎝を測る。胎土は多量の砂粒を含む。

甕（25・26）　25は口径16.0㎝を復原する口縁部の細片である。口縁部は「く」の字状を呈し、外面には煤が薄く付着する。26は口径26.0㎝を復原し、口縁部は外反する。口縁部と体部の境には断面が三角形状の突帯が施される。

壺（27）　ほぼ完形で、口径6.8㎝、底径6.1㎝、器高19.4㎝を測る。袋状の口縁部を呈し、口縁部内外面はヨコナデ、内面はナデで一部に刷毛目調整を施す。頸部内面にはシボリ痕が認められ、外面は刷毛目調整である。底部外面は未調整。

石製品（Fig.51、Pla.31）

石包丁（30）　2/3程度を欠損した石包丁片で、風化による器表剥落を認める。石材は片岩製で、刃部は両面から研磨された両刃タイプである。両面から穿孔された穴の部分から割れている。

SK035（Fig.50）

土師器

坏（28）　口径12.9㎝、底径7.8㎝、器高3.1～3.5㎝を測る完形で、底部外面は糸切りである。口縁部付近には油煙と思われる煤が付着する。

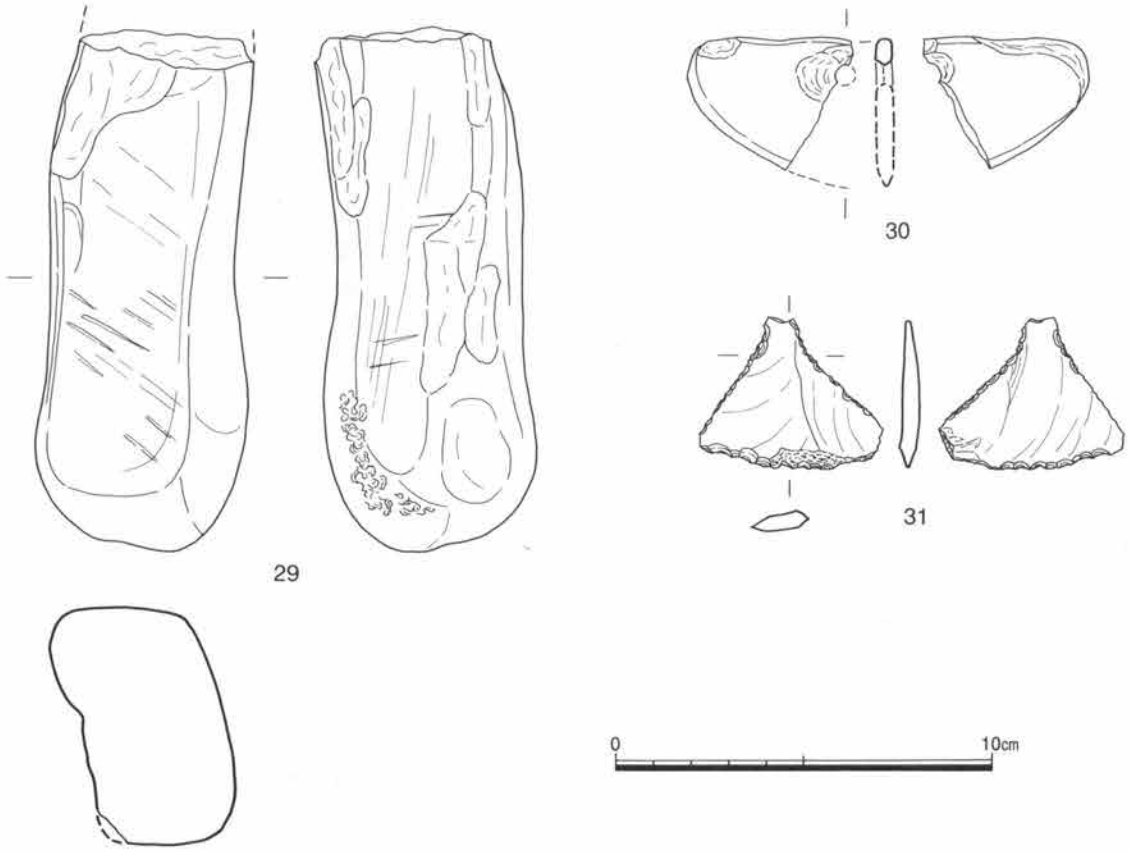


Fig.51　石製品実測図（1/2）

表土採集

石製品（Fig.51、Pla.31）

石匙（31）　石材はサヌカイト製で、剥片の末端に自然面を残し、端部は僅かに欠損する。概ね全周縁に刃部を作り出し、つまみにも刃縁を呈する。

（4）小結

当遺跡は水田正吹遺跡（調査区C・D）に隣接した場所に位置する。このため、調査前では水田正吹遺跡（調査区C・D）に関連した遺構が存在することが想定された。

調査は、ほ場整備によって掘削される水路部分のみの区域に限定されたため、遺跡の一部を確認したにすぎなかった。調査の結果、当遺跡から検出された遺構は大半が溝であることがわかった。ここでは、確認された主要な遺構や遺物について概略する。

・SX040・050について

調査区の北端から検出されたSX040・050は、遺構の大半が著しく削平を受けていたため遺構の残存は極めて悪い状況であったが、出土遺物から弥生後期～終末にかけての遺構と考えられる。周溝状遺構については、本書の「2.水田正吹遺跡　（4）小結」においても触れているが、当遺跡の北側付近には祭祀的要素をもった土地利用が当該期において行われていたものと考えることができる。残念ながら、祭祀的な土地利用の在り方について語る資料は少なく、今回明らかにすることはできない。今後の検討課題である。

・溝について

調査区から検出された溝の内、SD020・030・100は同一時期の区画溝であったと思われる。出土遺物から概ね16世紀以降に埋没した時期が考えられる。更に、SD060・070・080についても遺構の切り合いから新旧関係はあったものの、遺物の出土傾向から概ね16世紀代の溝として比定されよう。

・土壙について

調査区内から検出された土壙で注目されるのは、SK005とSK035である。

SK005は弥生時代後期に比定されるもので、出土した土器は高三潴式土器の後期2式（編年は「柳田康雄　2.高三潴式と西新町式土器『弥生文化の研究』4弥生土器「一雄山閣一」による。）に該当されよう。遺構は廃棄土壙として使用された可能性が考えられる。

次にSK035であるが、先述したとおり土壙内からは上向きに廃棄された土師器（坏）の直上に、二次焼成を受けた安山岩が重なるように確認された。更に、出土した土師器（坏）は口縁部付近に油煙と思われる煤が多量に付着していた。出土状況からは祭祀的要素を含む遺構の可能性は考えられるが、このことについては再度検討する必要がある。

【単位はcm、○は復原値】

Fig.－No.	遺構	名称	器種	口径	底径	器高	切離し区分 ヘラ	切離し区分 糸	備考
49－01	SD030	遺須恵器	壺?		○10.0				
49－02	SD030	土師器	坏	○12.6	○7.5	2.9		◎	
49－03	SD030	土師器	坏	○12.8	○9.8	2.4		◎	
49－04	SD030	土師器	土鍋						山村：Ea
49－05	SD030	青磁	皿	○12.0					
49－06	SD045	土師器	土鍋						山村：Ea
49－07	SD060	土師器	土鍋	○32.0					
49－08	SD060	白磁	碗		6.6				
49－09	SD070	土師器	坏	○9.0	○4.6	1.9		◎	
49－10	SD070	土師器	茶釜	○15.0					山村：AⅡ
49－11	SD070	青磁	碗	○14.0					上田：B－Ⅳ
49－12	SD070	染付	碗		○3.8				上田：C群
49－13	SD080	青磁	碗						森田：Ⅰ－5b
49－14	SD080	染付	碗		○3.0				上田：C群
49－15	SD080	染付	碗		○5.0				
49－16	SD090	須恵器	擂鉢						すり目8本単位
49－17	SD090	白磁	皿		○7.6				
49－18	SD100	瓦質土器	擂鉢						すり目6本単位
50－19	SX040	弥生土器	壺		7.9				
50－20	SX040	弥生土器	壺		5.0				
50－21	SX040	弥生土器	甕		○12.0				
50－22	SX040	弥生土器	器台		○19.0				
50－23	SX050	弥生土器	器台	○16.7					
50－24	SK005	弥生土器	小鉢	7.2	2.8	4.3～4.8			手づくね
50－25	SK005	弥生土器	甕	○16.0					
50－26	SK005	弥生土器	甕	○26.0					
50－27	SK005	弥生土器	壺	6.8	6.1	19.4			
50－28	SK035	土師器	坏	12.9	7.8	3.1～3.5			油煙あり
51－29	SD010	石製品	砥石						石材：砂岩
51－30	SK005	石製品	石包丁						石材：片岩
51－31	表採	石製品	石匙						石材：サヌカイト

Tab.7　水田伊勢ノ脇遺跡出土遺物一覧表

【註】

本表に記載した分類は、下記の文献によっている。

《中世雑器》　山村信榮　「太宰府出土の瓦質土器」　『中近世土器の基礎研究Ⅵ』　1990

《青磁》　横田賢次郎・森田勉　「大宰府出土の輸入中国陶磁器について一形式分類と編年を中心にして一」　『九州歴史資料館研究論集4』　1978

上田秀夫　「14～16世紀の青磁碗の分類について」　『貿易陶磁研究No.2』　1982

《白磁》　森田勉　「14～16世紀の白磁の分類と編年」　『貿易陶磁研究』2』　1982

《染付》　小野正敏　「15～16世紀の染付碗・皿の分類と年代　『貿易陶磁研究No.2』　1982

《備前焼》　間壁忠彦　「備前焼」　『考古学ライブラリー60』　平成3年

《常滑焼》　赤羽一郎・中野晴久　「生産地における編年について」　『中世常滑焼をおって』シンポジウム資料集　1994

《石鍋》　木戸雅寿　「石鍋の生産と流通について」　『中近世土器の基礎研究Ⅸ』　1993

6.折地長間寺遺跡の調査

(1) はじめに (Fig.52)

当遺跡は筑後市大字折地字長間寺に所在する。標高5m位の低地上にあり、一帯はクリークに囲まれている。調査は、平成9年度に施工された農地整備事業支線用排水路設置範囲で、遺跡を確認した560㎡を実施した。調査期間は平成9年11月11日から12月16日までで、この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影などを行った。調査区からは主に溝11条、土壙15基、ピット群を検出した。本調査は小林勇作が担当し、末吉隆弥の協力を得た。

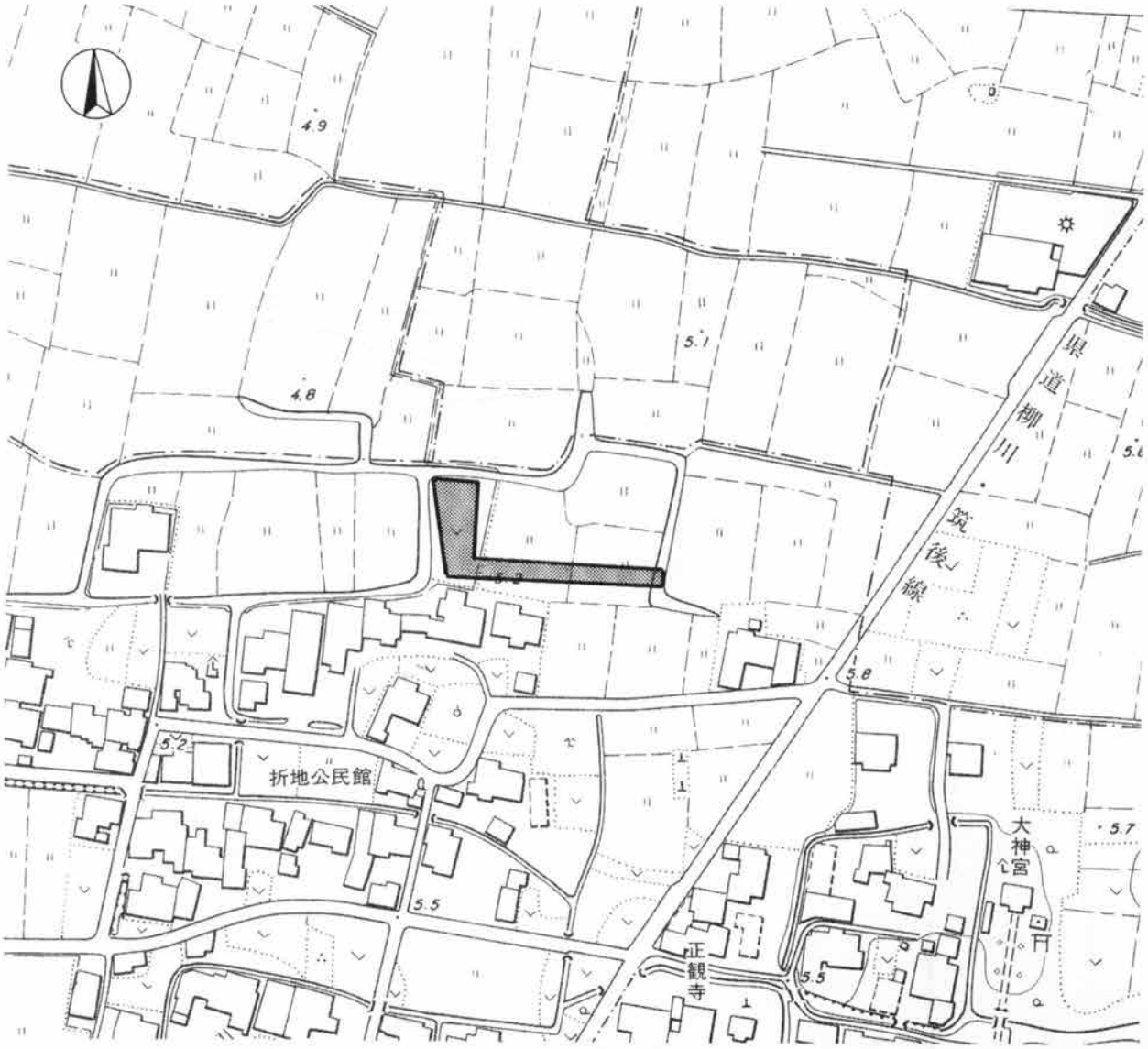


Fig.52　折地長間寺遺跡調査地点位置図 (1/2,500)

(2) 遺構

溝

SD03 (Fig.54)

調査区の西側中央で検出した東西溝で、約4.00分を確認した。SK04・SD40に切られ、幅は約0.75m、深さは0.27～0.46mを測る。遺物は土師器（小皿・火鉢・片）、染付（碗・片）、石製品（砥石）が出土した。

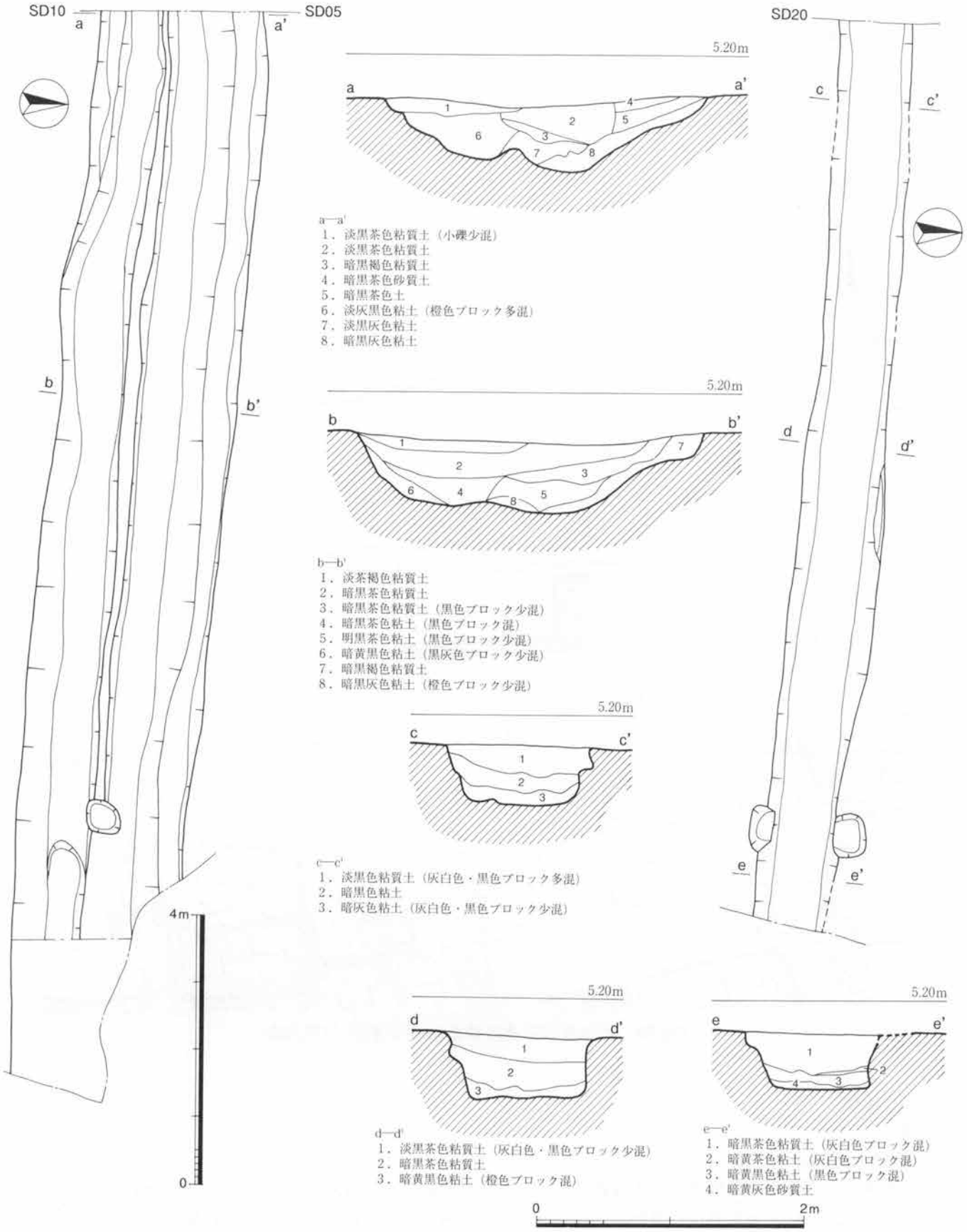


Fig.53　SD05・10・20実測図（1/40・1/80）

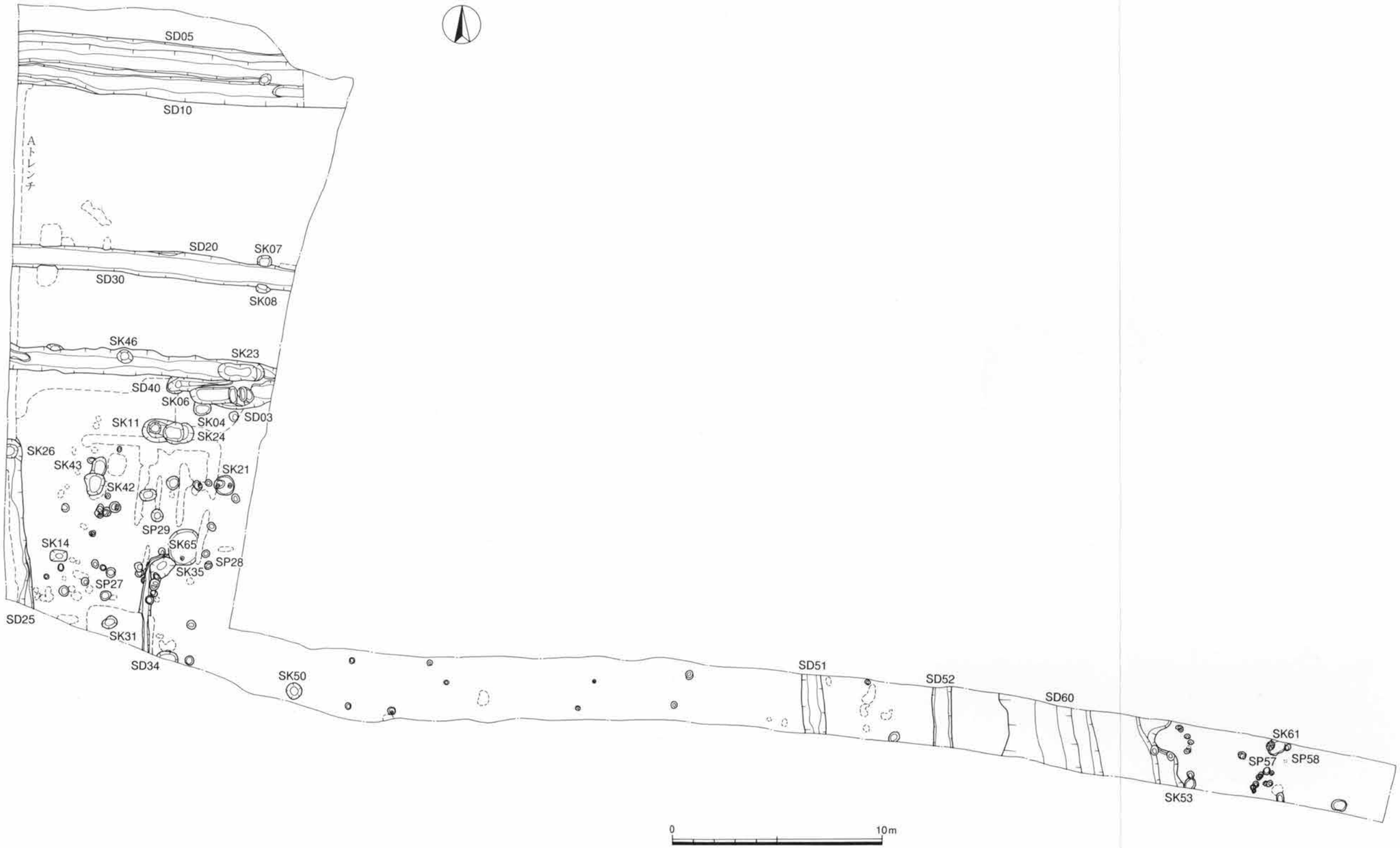


Fig.54　折地長間寺遺跡遺構全体実測図（1/200）

SD05（Fig.53、Pla.33）

調査区の西側北部で検出した東西溝で、約13.00ｍ分を確認した。溝はSD10に切られ、幅1.43～1.53ｍ、深さ0.54～0.63ｍを測る。埋土は茶褐色土を基調とし、埋土中からは土師器（土鍋・茶釜・片）、瓦質土器（擂鉢・茶釜）、磁器（皿・碗・瓶・片）、陶器（擂鉢）が出土している。

SD10（Fig.53、Pla.33）

SD05を切るように検出した東西溝で、約15.60ｍ分を確認した。黄褐色土を基調とする埋土で、幅0.92～1.13ｍ、深さ0.53～0.67ｍを測る。遺物は土師器（大甕）、磁器（皿・碗・瓶）、陶器（擂鉢）、鉄製品（釘）が出土した。

SD20（Fig.53、Pla.33）

約13.15ｍ分を検出した東西溝で、途中、SK07・SK08に切られる。黒色土を基調とした埋土で、幅1.07～1.27ｍ、深さ0.43～0.55ｍを測る。溝の断面は逆台形状を呈する。遺物は須恵器（甕）、土師器（小皿・片）を認めた。

SD25（Fig.54）

調査区の南西端で検出した南北溝で、埋土は上層から黒色土、灰色土であった。約7.90ｍ分を検出し、深さは0.27ｍを測る。遺物は黒色土から須恵器（甕）、磁器（皿・碗）、陶器（皿・擂鉢）を認め、灰色土からは土師器（片）、磁器（片）が出土した。

SD30（Fig.55、Pla.33）

SD20とほぼ並行にはしる東西溝で、約12.10ｍ分を検出した。埋土は黒色土を基調とし、幅0.92～1.24ｍ、深さ0.41～0.59ｍを測る。溝の断面はU字状を呈する。遺物は土師器（土鍋・火鉢・甕）、磁器（皿・碗）、陶器（擂鉢）が出土した。

SD34（Fig.54）

南北溝で、約3.90ｍ分を検出した。埋土は茶色土を基調とし、幅0.30～0.56ｍ、深さ0.10～0.26ｍと浅く、溝の断面はU字状を呈する。遺物は土師器（土鍋）が僅かに出土した。

SD40（Fig.54）

SD03とSD30を切るように確認した東西溝で、約5.20ｍ分を検出した。埋土は黒色土を基調とする。遺物は土師器（土鍋・こね鉢・片）、瓦質土器（火鉢）、染付（片）、陶器（鉢）が出土した。

SD51（Fig.54、Pla.34）

東西方向にのびる調査区のほぼ中央から検出した南北溝で、約2.80ｍ分を確認した。幅0.95～1.06ｍ、深さ0.16～0.21ｍを測り、溝の断面はU字状を呈する。埋土は黒色土であった。遺物は土師器（小皿・羽釜・片）、瓦質土器（擂鉢）、青磁（碗）、陶器（甕）が出土した。

SD52（Fig.54、Pla.34）

SD51の東側で検出した南北溝で、約2.80ｍ分を確認した。幅0.76～0.83ｍ、深さ約0.10ｍと浅く、溝の断面はU字状を呈する。埋土は黒色土であった。遺物は土師器（火鉢・片）、磁器（皿）、陶器（擂鉢・瓶・甕）、木製品（漆器片）が出土した。

SD60（Fig.55、Pla.35）

調査区の東側で検出した南北溝で、約2.80ｍ分を確認し、幅3.92～4.60ｍ、深さ1.33ｍを測る。溝の断面はほぼ逆台形状を呈する。当調査区の周辺に存在する旧クリークの一部と考えられる。遺物は須恵器（甕）、土師器（土鍋・擂鉢・火鉢）、瓦質土器（火鉢・羽釜）、青磁（碗）、染付（碗・片）、銅製品（把手）が出土した。

土壙

SK04（Fig.54）

調査区西側の中央部で検出した楕円形状の浅い土壙で、SD03・30・40とSK06・23を切る。遺物は土師器（片）、瓦質土器（擂鉢）、磁器（皿・碗）、白磁（皿）、陶器（擂鉢）を出土したが、埋土は灰色土で現代のカクランと考えられる。

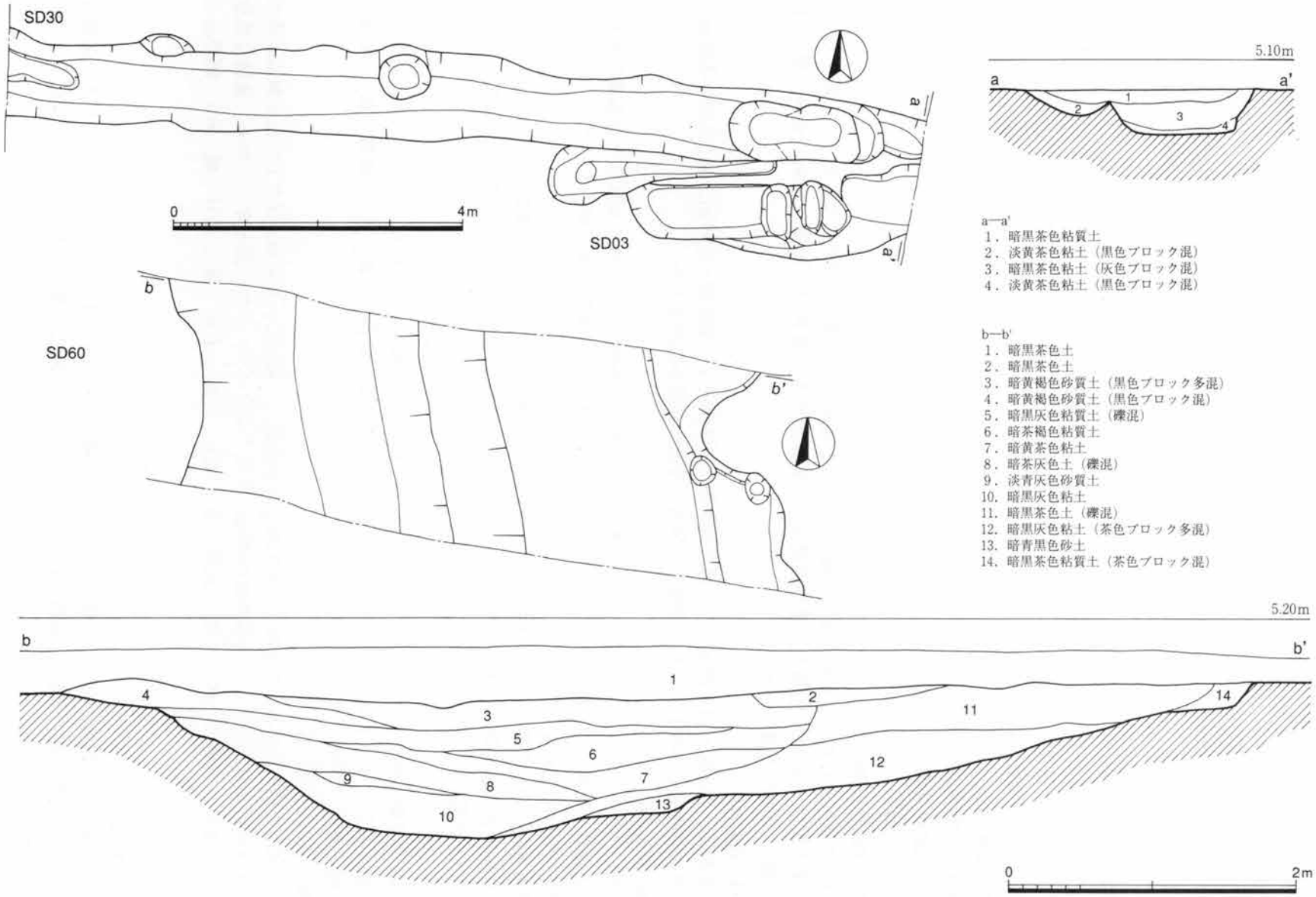


Fig.55　SD30・60実測図（1/40・1/80）

SK06（Fig.56）

SD03、SK04に切られた楕円形状の土壙で黒色土の埋土であった。土師器（甕・片）が出土した。

SK07（Fig.56）

SD20の東側を切るように検出した円形状の土壙で、幅約0.65 m、深さ0.09 mを測る。遺物は土師器（片）が出土したが、埋土は灰色土で現代のカクランと考えられる。

SK08（Fig.54）

SK07に隣接した円形状の土壙で、幅約0.67 m、深さ0.21 mを測る。遺物は土師器（片）が出土したが、埋土は灰色土で現代のカクランと考えられる。

SK11（Fig.56、Pla.35）

調査区西側の中央部で検出した隅丸方形状を呈した土壙で、SK24を切る。長軸1.12 m、短軸0.24 m、深さ0.75～0.80 mを測る。埋土は灰色土で、土師器（片）、磁器（碗・片）、陶器（擂鉢）、鉄製品（釘）が出土している。

SK14（Fig.56）

調査区の南西隅で検出した土壙で、幅0.55～0.77 m、深さ0.41 mを測る。埋土は茶色土で、土師器（粘土塊・甕）、陶器（擂鉢）、焼石が出土した。

SK21（Fig.56）

調査区西側の南部で検出した楕円形状の土壙で、底面からは2つの小ピットを認めた。幅約0.88 m、深さ0.12 mを測り、土師器（坏・片）が出土した。

SK23（Fig.56、Pla.36）

SD30の東側溝底から検出した隅丸方形状を呈した土壙である。長軸2.16 m、短軸0.74 m、深さ0.63 mを測り、埋土は上層から黒色土→青灰色土へと移行する。陶器（擂鉢）が出土した。

SK24（Fig.56）

SK11に切られた土壙で全体プランは不明である。埋土は黒色土で、土師器（片）が出土した。

SK26（Fig.56）

SD25の溝底から検出した楕円形状を呈した土壙で、深さ0.74 mを測る。埋土は上層から黒色土→黄褐色土へと移行し、陶器（片）が出土した。

SK31（Fig.54）

調査区西側の南部から検出した楕円形状の土壙で、幅約0.75 mを測る。土師器（片）、磁器（碗・片）、陶器（片）が出土した。

SK35（Fig.56）

SD34とピットに切られた楕円形状を呈した土壙で、埋土は黒色土であった。幅約0.86 m、深さ0.29 mを測り、土師器（片）、陶器（片）が出土した。

SK42（Fig.56、Pla.36）

調査区西側の南部から検出した楕円形状の土壙で、幅約0.90 m、深さ0.52 mを測る。埋土は茶色土で、土師器（皿）、磁器（片）が出土した。

SK43（Fig.56、Pla.36）

SK42に切られた土壙で、埋土は茶色土である。幅約0.72 m、深さ0.21 mを測り、遺物は土師器（片）、磁器（片）が出土している。

SK46（Fig.54）

SD30の溝底から検出した楕円形状の土壙で、幅約0.71 m、深さ0.89 mを測る。土師器（片）が僅かに出土している。

SK50（Fig.56、Pla.37）

調査区の西側南端で検出され、大甕内に遺物が散乱した状態で確認された。遺構は大甕ぎりぎりに掘り込まれた土壙で、径約0.82 m、深さ0.33 mを測る。土壙は、大甕内に土師器（小皿・土管）、陶器（甕）、瓦（平瓦）、石製品（砥石・硯）、鉄製品（鎌状鉄製品）が一括廃棄されたような状態で出土された。

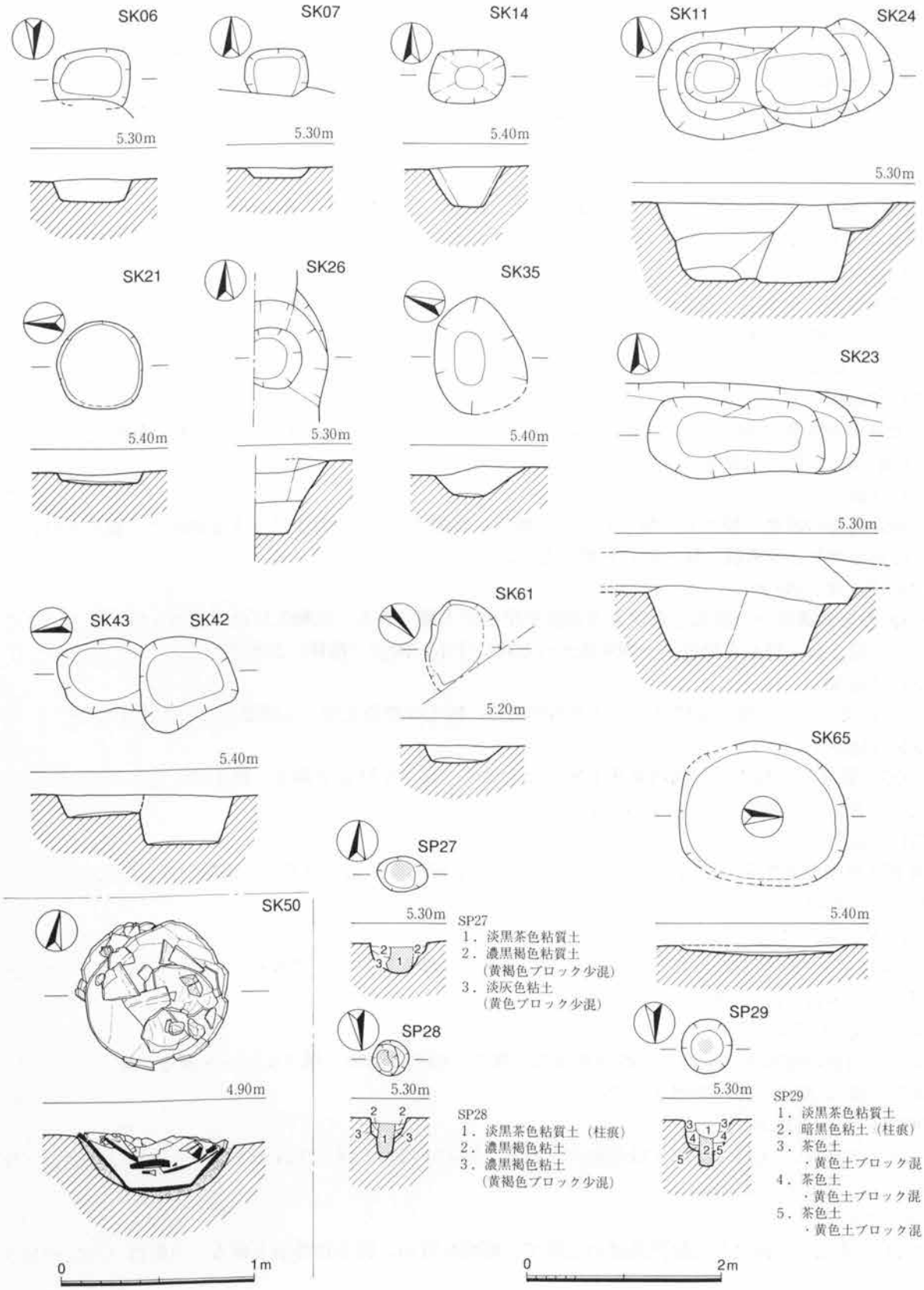


Fig.56　土壙・ピット実測図（1/30・1/60）

SK53（Fig.54）

調査区東端から検出した楕円形状の土壙でSD60を切る。埋土は黒色土を呈し土師器（坏）が出土した。

SK61（Fig.56）

調査区西端から検出した楕円形状の土壙で、幅約0.80ｍ、深さ0.16ｍを測る。底部には2つの小ピットを認め、遺物は土師器（片）が僅かに出土した。

SK65（Fig.56）

SK35に切られた土壙で、幅1.73ｍ、深さ0.10ｍを測る。埋土は茶色土で、出土遺物は皆無であった。

ピット群（Pla.37）

調査区の南西からは多数のピットが検出された。ピット群は複数の小規模な掘立柱建物の一部を構成していると思われるが、確実に確認できたものはなかった。このため、ここでは柱痕が確認されたSP27・28・29と遺物が出土したSP57・58について報告する。

SP27（Fig.56）

楕円形状を呈したピットで、径25㎝を測る柱痕が確認された。遺物は土師器（片）が僅かに出土した。

SP28（Fig.56）

ほぼ円形状を呈したピットで、柱痕は径15㎝を測る。遺物は土師器（片）が僅かに出土した。

SP29（Fig.56）

ほぼ円形状を呈したピットで、柱痕は径13㎝を測る。遺物は皆無であった。

SP57（Fig.54）

調査区の東端で検出した楕円形状のピットで、土師器（坏・片）が出土した。

SP58（Fig.54）

SK61を切るように検出した円形状のピットで、土師器（片）が出土した。

(3) 出土遺物

SD03（Fig.62、Pla.41）

石製品

砥石（53）　泥岩を石材とし、4面を使用し砥面とする。

SD05・10（淡茶褐色粘質土層出土）（Fig.57、Pla.38）

青磁

皿（1）　底部の細片で、高台径は5.0㎝を測る。内面に濃緑色、外面は淡青茶色の釉を施し、見込みは蛇ノ目状に釉を掻き取る。

小壺（2）　高台径6.2㎝、体部径7.8㎝を測り、淡青緑色の釉を厚めに施す。

SD05（黒茶色粘土層出土）（Fig.57、Pla.38）

染付

水滴（3）　上面隅に径6　の水注孔を施し、中心部にも穿孔を認める。器高3.3㎝を測り、中心部の穿孔を中心として6×11㎝を復原する。型押成形で、上面に草花文を描く。

SD10（黄黒色粘土層出土）（Fig.57、Pla.38）

瓦質土器

火鉢（4）　口径30.0㎝、底径22.8㎝、器高9.0㎝を復原する。口縁部は内面に突出しており、調整は内面と口縁部外面がヨコナデ、体部外面上位がナデ、下位は刷毛目、底面はナデを施す。

磁器

碗（5）　高台径5.1㎝を測り、茶褐色の釉を施す。見込みは蛇ノ目状に掻き取り、高台部は露胎である。

大皿（6）　底部の細片で、高台径は9.0㎝を測る。明黄褐色の釉を施し、見込みは蛇ノ目状に釉を掻き取る。畳付けから高台内は露胎である。

染付

皿（7）　口径13.0㎝、高台径5.0㎝、器高4.0㎝を復原し、内面には区画した文様を呉須で描く。見込みは蛇ノ目状に釉を掻き取り、畳付けは露胎である。

碗（8）　破片で、高台径は4.4㎝を測り、外面には呉須で草花文を施している。畳付けには重ね焼の目跡を認める。

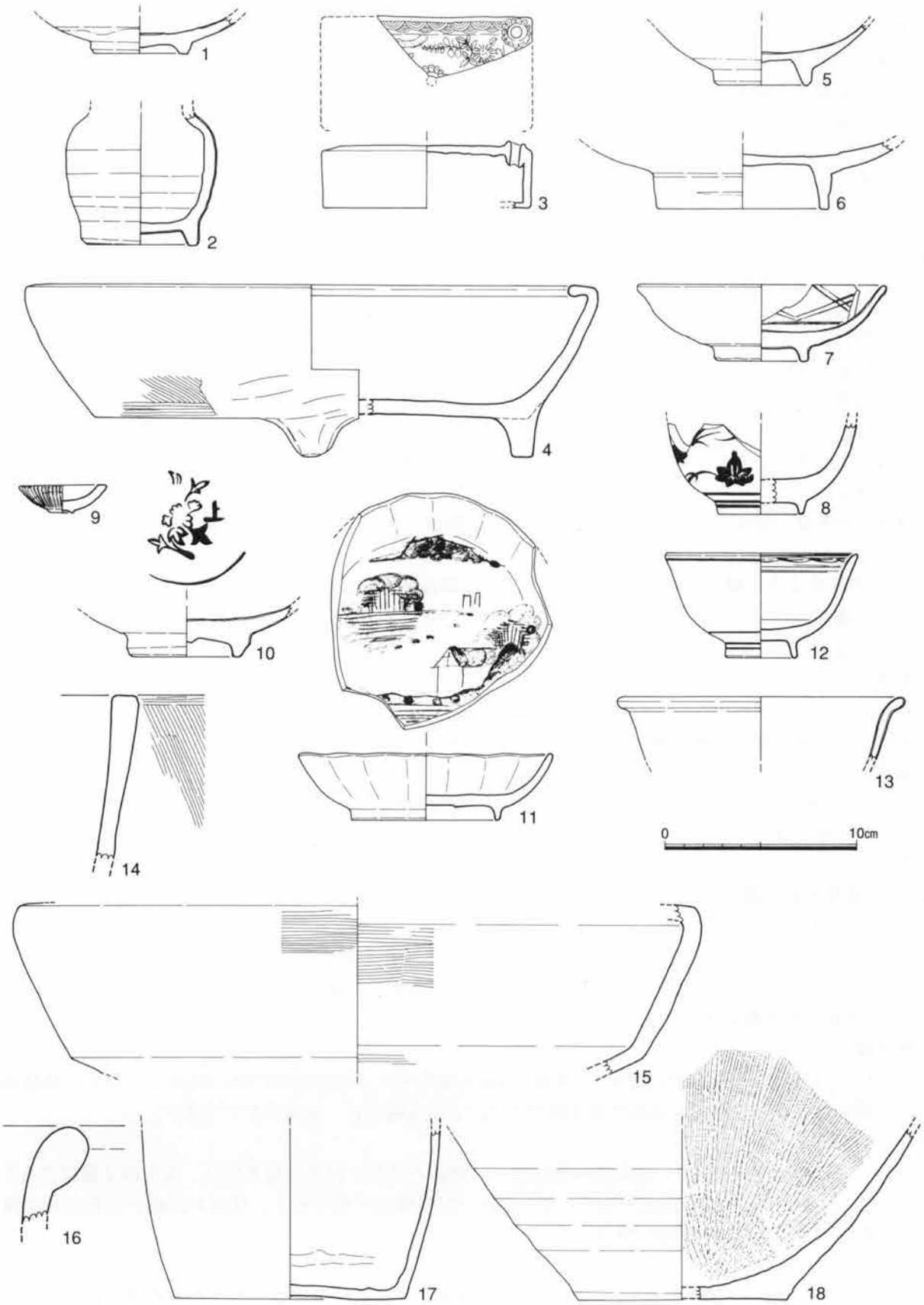


Fig.57　SD05・10・30・51・52出土土器実測図（1/3）

SD30（Fig.57、Pla.38）

磁器

紅皿（9）　口径4.6㎝、底径1.2㎝、器高1.4㎝を測る。白色の胎土に淡青灰色の釉を内面及び口縁部外面に施す。

青磁

碗（10）　高台径6.3㎝を測り、見込みにスタンプを施す。釉は青緑色の透明釉を全体に厚く施し、高台内は釉を掻き取る。

染付

皿（11）　輪花で口径13.2㎝、高台径7.8㎝、器高3.5㎝を復原する。全面に乳白色の釉を施し、高台内は蛇ノ目状に釉を掻き取る。見込みには家屋、樹木、山、土坡などの文様を呉須で描く。

湯呑み（12）　口径10.0㎝、高台径3.8㎝、器高5.5㎝を復原する。内面の雷文と外面の帯線は呉須による手描きで、外面体部には型紙刷りによると思われる菊花文（図示省略）が施される。

SD51（Fig.57）

青磁

碗（13）　口径15.0㎝を測る口縁部の細片である。口縁部はやや外反し、青緑色の透明釉を施す。

SD52（Fig.57、Pla.39）

瓦質土器

鉢（14・15）　14は素口縁で、外面は斜め方向の刷毛目で、その他は磨耗のため不明である。15は最大径36.0㎝を復原し、口縁部は内面突出のタイプと考えられる。

備前焼

甕（16・17）　16は口縁部の細片で、口縁端部を外に折り曲げて丸い帯状突帯とした玉縁口縁である。17は底部の破片で、底径12.0㎝を測る。

陶器

擂鉢（18）　底径11.0㎝を復原し、8本単位のすり目を施す。底部は糸切り。

SD60（第8・9層出土）（Fig.58、Pla.39）

須恵器

壺（19）　肩部の細片で、肩部外面には平行叩き文を施す。常滑焼か。

土師器

土鍋（20・21）　20は玉縁口縁、21は素口縁を呈する。21の外面には煤が付着する。

瓦質土器

茶釜（22）　口径15.0㎝、鍔径30.4㎝を復原し、体部内面は箱形を呈する。鍔下面から体部下位にかけては煤が厚く付着する。

青磁

碗（23）　口径14.0㎝を復原し、外面にはヘラ先による細線連弁文を施す。連弁文は剣頭が連弁としての単位を意識しないで施されている。釉は青緑色で細かい貫入がみられる。

染付

碗（24）　底部の細片で、高台径4.5㎝を復原する。見込みには人物などの文様を呉須で描き、外底部には銘が施されている。

SD60（第10層出土）（Fig.58、Pla.39）

瓦質土器

茶釜（25・26）　25は肩部の細片で、外面には菊花文などの印刻文を押印する。26は口径15.6㎝を復原し、肩部には6 の穿孔を施す。肩部外面には渦文の印刻文を施す。

青磁

碗（27）　高台径5.5㎝を測り、見込みには「福」の印刻を施す。青緑色の釉を全面に施し、高台内は蛇ノ目状に釉を掻き取る。

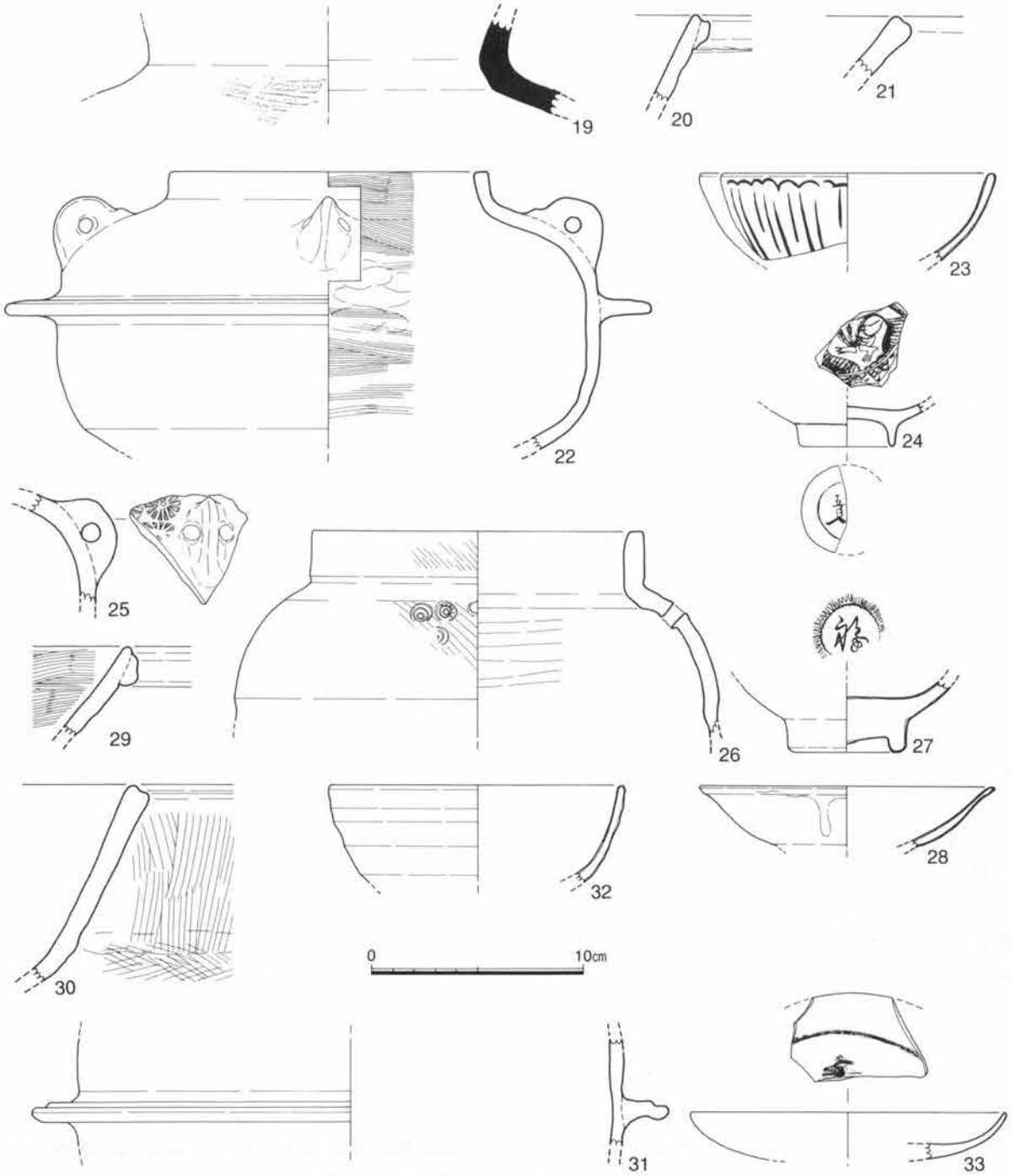


Fig.58　SD60出土土器実測図（1/3）

磁器

皿（28）　口径14.0cmを復原する。淡緑色の透明釉を施し、外面の一部に釉ダレを認める。

SD60（第11～14層出土）（Fig.58、Pla.39）

土師器

土鍋（29・30）　29は玉縁口縁、30は素口縁を呈し、供に外面には煤が付着する。

瓦質土器

茶釜（31）　鍔は「S」字状に屈曲し、鍔径30.0cmを復原する。

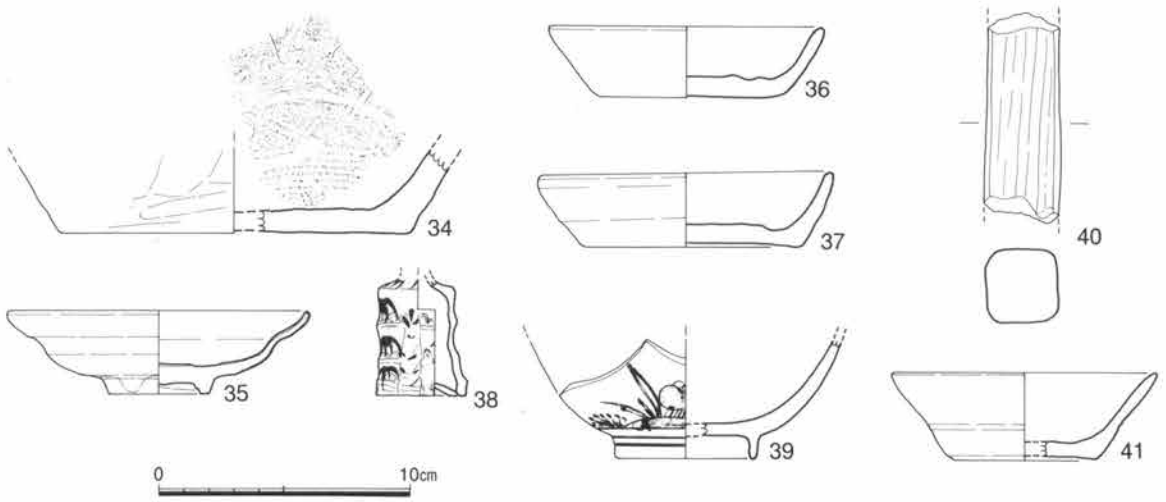


Fig.59　SK04・21・31・46・53出土土器実測図（1/3）

青磁

碗（32）　口径14.0cmを復原し、青緑色の透明釉を施す。朝鮮系か。

染付

皿（33）　口径15.0cmを復原する。見込みには呉須で文様を描く。

銅製品（Fig.62、Pla.41）

把手（58）　完形で、径は5 前後を測る。茶釜などの把手か。

SK04（Fig.59、Pla.40）

瓦質土器

擂鉢（34）　底径14.0cmを復原し、6本単位のすり目を内面の体部、底部に施す。

青磁

皿（35）　口径12.0cm、高台径4.0cm、器高3.4cmを復原し、体部から口縁部にかけては「S」字状に湾曲する。灰緑色の釉を内面、口縁部外面、体部外面に施釉する。高台の一部に釉ダレが認められ、見込みは蛇ノ目状に掻き取る。

SK21（Fig.59、Pla.40）

土師器

坏（36・37）　共に糸切りでほぼ完形である。36は口径11.0cm、底径7.3cm、器高2.85cmを測り、37は口径11.8cm、底径8.7cm、器高3.0cmを測る。

SK31（Fig.59、Pla.40）

磁器

花瓶（38）　花瓶のミニチュアと思われ、底径3.6cmを測る。型押し成形で、白地に赤・緑・黒色の彩色で竹文を描く。

染付

碗（39）　底部の細片で、高台径は5.6cmを測る。外面には草花文を呉須で描き、見込みには4ヶ所の針支えを認める。

SK46（Fig.59）

土師器

柱状土製品（40）　断面は隅丸方形状を呈し、表面はすべて刷毛目調整が施される。この内の1面には二次焼成痕が看取される。厚さは3.0cmを復原する。

SK50（Fig.60、Pla.40・41）

土師器

小皿（42）　糸切りで、口径7.6cm、底径3.9cm、器高1.6cmを復原する。

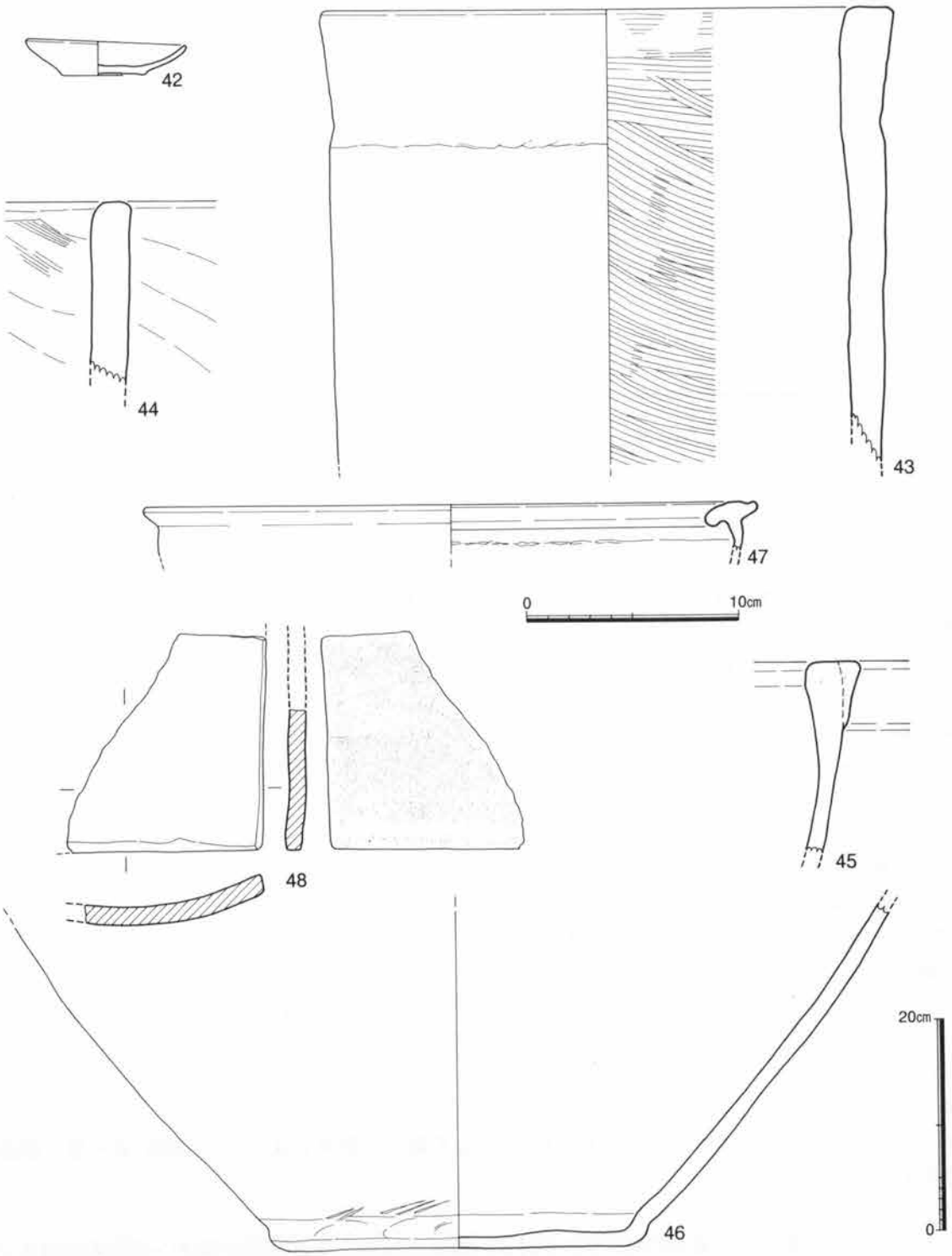


Fig.60　SK50出土土器実測図（1/3・1/6）

土管（43）　口径37.0cmを測る。内面は刷毛目、口縁端部はヨコナデ、外面はナデ調整を施し、体部上位の一部は僅かに凹面を認める。

大甕（44～46）　44は口縁部の細片で、口径80cm前後、器厚は1.8cm前後を測る。口縁部はほぼ直立し、外面には煤が付着する。45は口縁部外面に厚い貼付突帯を施し、口縁端部に面を呈する。口径は100cm前後を復原するものと思われる。46は45と同一個体と考えられ、底径35.2cmを測る。

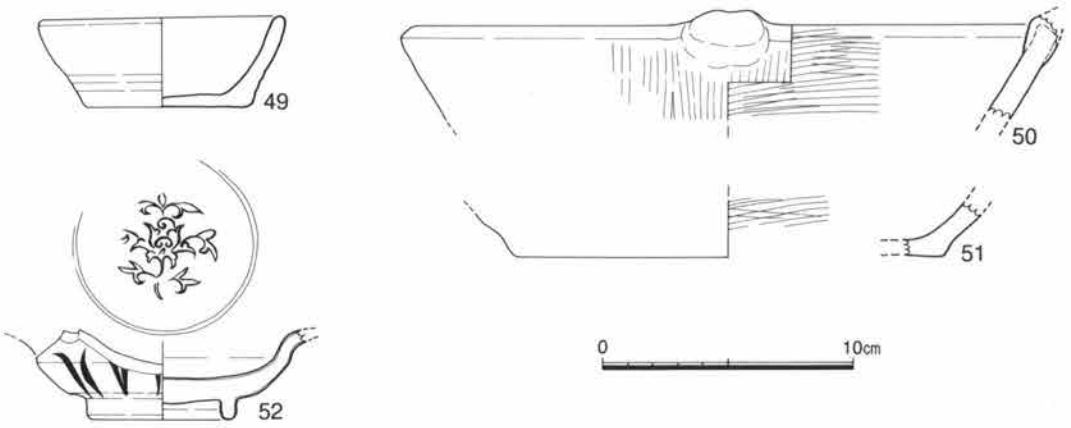


Fig.61　その他の出土土器実測図（1/3）

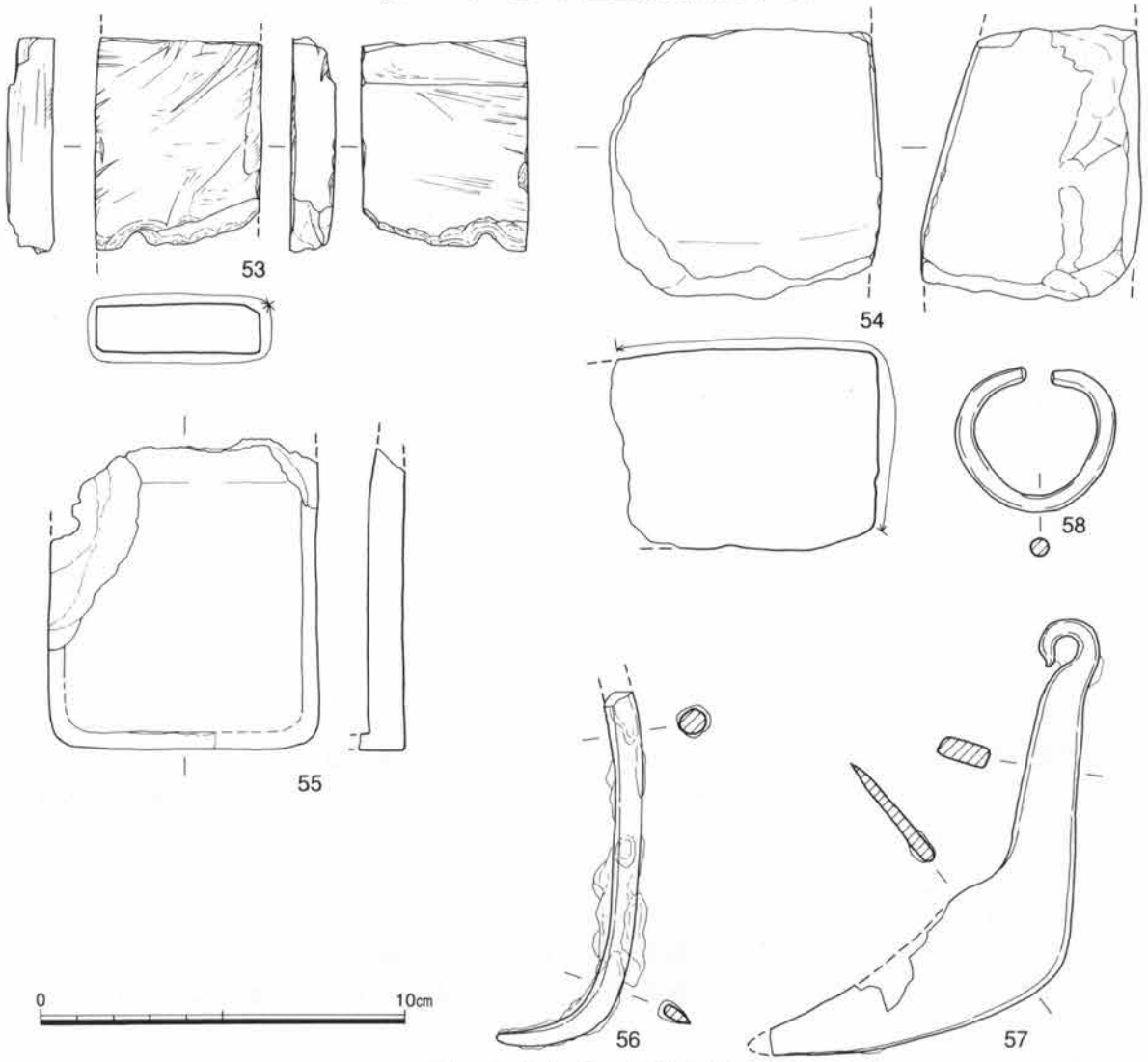


Fig.62　石製品・鉄製品・銅製品実測図（1/2）

陶器

甕（47）　口縁部は「T」字状を呈し、口径29.0cmを復原する。

瓦

平瓦（48）　側面は削りによる面取りを施し、表面はナデ、裏面は刷毛目調整を施す。色調は淡赤褐色

で、胎土は細砂粒、角閃石を多く含む。

石製品（Fig.62、Pla.41）

砥石（54）　石材は砂岩製で、2面を砥面とする。

硯（55）　を石材とする隅丸方形状を呈する方形硯である。硯頭部は欠損し、砥面部は僅かに使用痕を認める。墨書の痕跡はない。

鉄製品（Fig.62、Pla.41）

鎌状鉄製品（56・57）　56は緩やかにカーブした内側に刃部を造る。57は鎌に類似した形状をなし、端部に鈎状のフックを造り出している。何れも製品であるが使用の用途が不明であったため、ここでは鎌状鉄製品とした。

SK53（Fig.59）

土師器

坏（41）　糸切りで、口径10.6㎝、底径5.7㎝、器高3.5㎝を復原する。

SP57（Fig.61、Pla.41）

土師器

坏（49）　糸切りで、口径9.8㎝、底径6.5㎝、器高3.6㎝を測る。

SP58（Fig.61）

瓦質土器

鉢（50・51）　50・51は同一個体と考えられる。50は口縁部に粘土貼付による把手らしき部分を認め、口径26.0㎝を復原する。51は底径17.0㎝を復原する。

Aトレンチ（Fig.61、Pla.41）

青磁

皿（52）　高台径5.9㎝を復原し、口縁部は「S」字状に外反するものと思われる。見込みには花文の印刻、外面には連弁を施す。内外面に明青緑色の釉を施すが、高台内は露胎である。

(4) 小結

出土した遺物から中世～近世にかけての複合遺跡であることがわかった。主要な遺構や遺物について概観する。

・溝について

調査区から検出された遺構で主体となる溝は、SD05・10・20・25・30・51・52・60が挙げられる。

SD05・10・20・25・30・51・52は遺物の出土傾向から概ね近世に比定される。更に、SD60は中世～近世にかけての埋没課程があったものと考えられよう。

ここで、注目されるのは一連の溝の性格である。当遺跡は本稿に記載した「水田正吹遺跡（調査区E）」と「水田伊勢ノ脇遺跡」の付近にあたり、各遺跡からは多くの区画溝が確認されている。更に、当地一帯は中世に画期となる水田荘の領内でもあった。よって、今回検出した溝のすべてが区画溝に該当するとは言い難いが、可能性は捨てきれない。

・SK50について

次に大甕内にあたかも一括廃棄されたように確認されたSK50からは、土師器（小皿・土管）、陶器（甕）、瓦（平瓦）、石製品（砥石・硯）、鉄製品（鎌状鉄製品）など様々な遺物が出土した。先に述べたように、検出状況からは一括廃棄された可能性は高く、そうであれば出土した遺物は一括資料として捉えることができる。

・柱状土製品について

柱状土製品は当遺跡（SK46出土Fig.59—40）の他に、「水田正吹遺跡（調査区B　SK048出土Fig.19—58）」からも出土している。柱状土製品については徳永貞紹氏が「『中近世土器の基礎研究オ』佐賀平野の瓦器椀にみる中世土器生産の一様相—日本中世土器研究会1996—」の中で触れており、多くの出土類例が報告されている。この中で徳永氏は、柱状土製品について厚さ5㎝前後、断面が方形ないし多角形を示し、僅かに反って両端がすぼまり、長さは30㎝前後を推定するとある。更に、具体的な用途について

は横に据えた上に製品を積み重ねる焼き台のような窯道具ではないかと指摘している。当遺跡及び水田正吹遺跡から出土した柱状土製品を文献資料と比較してみると、何れも断面が方形状を呈するが厚さが2.6～3.0cmとやや小ぶりである。柱状土製品が出土した各遺跡付近において、当該期における窯跡の存在については明らかにされておらず、現段階においては窯道具であるのか、他の用途として用いた道具であったのかは特定できないが、今後注目される資料として挙げられよう。

【単位はcm、○は復原値】

Fig.－No.	遺構	名称	器種	口径	底径	器高	胴径	厚さ	切離し区分 ヘラ	切離し区分 糸	備考
57－01	SD05・10(淡茶褐色粘質土層)	青磁	皿		5.0						
57－02	SD05・10(淡茶褐色粘質土層)	青磁	小壺		6.2						
57－03	SD05(黒茶色粘土層)	染付	水滴			3.3					
57－04	SD10(黄黒色粘土層)	瓦質土器	火鉢	○ 30.0	○ 22.8	9.0					
57－05	SD10(黄黒色粘土層)	磁器	碗		5.1						
57－06	SD10(黄黒色粘土層)	磁器	大皿		9.0						
57－07	SD10(黄黒色粘土層)	染付	皿	○ 13.0	○ 5.0	4.0					
57－08	SD10(黄黒色粘土層)	染付	碗		○ 4.4						
57－09	SD30	磁器	紅皿	4.6	1.2	1.4					
57－10	SD30	青磁	碗		6.3						
57－11	SD30	染付	皿	○ 13.2	7.8	3.5					輪花
57－12	SD30	染付	湯呑み	○ 10.0	○ 3.8	5.5					
57－13	SD51	青磁	碗	○ 15.0							上田：BかD
57－14	SD52	瓦質土器	鉢								山村：F?
57－15	SD52	瓦質土器	鉢				○ 36.0				
57－16	SD52	備前焼	甕								間壁：、期
57－17	SD52	備前焼	甕		12.0						間壁：、期
57－18	SD52	備前焼	擂鉢		○ 11.0						すり目8本単位
58－19	SD60(8・9層)	須恵器	壺								
58－20	SD60(8・9層)	土師器	土鍋								山村：Ea
58－21	SD60(8・9層)	土師器	土鍋								山村：Eb
58－22	SD60(8・9層)	瓦質土器	茶釜	○ 15.0			○ 30.4				山村：A|
58－23	SD60(8・9層)	青磁	碗	○ 14.0							上田：B－、
58－24	SD60(8・9層)	染付	碗		○ 4.5						外底部に銘あり
58－25	SD60(10層)	瓦質土器	茶釜								
58－26	SD60(10層)	瓦質土器	茶釜	○ 15.6							山村：B?
58－27	SD60(10層)	青磁	碗		5.5						上田：E、見込みに「福」
58－28	SD60(10層)	磁器	皿	○ 14.0							
58－29	SD60（11～14層）	土師器	土鍋								山村：Ea
58－30	SD60（11～14層）	瓦質土器	土鍋								山村：Eb
58－31	SD60（11～14層）	瓦質土器	茶釜				○ 30.0				
58－32	SD60（11～14層）	青磁	碗	○ 14.0							
58－33	SD60（11～14層）	染付	皿	○ 15.0							
59－34	SK04	瓦質土器	擂鉢		○ 14.0						すり目6本単位
59－35	SK04	青磁	高台付皿	○ 12.0	○ 4.0	3.4					
59－36	SK21	土師器	坏	11.0	7.3	2.85					
59－37	SK21	土師器	坏	11.8	8.7	3.0					
59－38	SK31	磁器	花瓶		3.6						ミニチュア
59－39	SK31	染付	碗		○ 5.6						
59－40	SK46	土師器	柱状土製品					○ 3.0			二次焼成あり
59－41	SK53	土師器	坏	○ 10.6	○ 5.7	3.5				◎	
60－42	SK50	土師器	小皿	○ 7.6	3.9	1.6				◎	
60－43	SK50	土師器	土管	○ 37.0							
60－44	SK50	土師器	大甕								外面煤付着
60－45	SK50	土師器	大甕								
60－46	SK50	土師器	大甕		35.2						
60－47	SK50	陶器	甕	○ 29.0							
60－48	SK50	瓦	平瓦?								
61－49	SP57	土師器	坏	9.8	6.5	3.6				◎	
61－50	SP58	瓦質土器	鉢	○ 26.0							
61－51	SP58	瓦質土器	鉢		○ 17.0						
61－52	Aトレンチ	青磁	皿		5.9						
62－53	SD03	石製品	砥石								泥岩
62－54	SK50	石製品	砥石								砂岩
62－55	SK50	石製品	硯								
62－56	SK50	鉄製品	不明								
62－57	SK50	鉄製品	不明								
62－58	SD60(Ⅳ層)	銅製品	把手								

Tab.8　折地長間寺遺跡出土遺物一覧表

【註】

本表に記載した分類は、下記の文献によっている。

《中世雑器》　山村信榮　「太宰府出土の瓦質土器」　『中近世土器の基礎研究ｱ』　1990

《青磁》　上田秀夫　「14～16世紀の青磁碗の分類について」　『貿易陶磁研究』2』　1982

《備前焼》　間壁忠彦　「備前焼」　『考古学ライブラリー60』　平成3年

7.井田堀越遺跡の調査

(1) はじめに (Fig.63)

当遺跡は、筑後市大字井田字堀越に所在する。一帯は縦横無尽にはしるクリークに囲まれた水田地帯で、標高3.8m位の低湿地上にある。調査は、平成9年度に施工された農地整備事業支線用排水路設置範囲において遺跡を確認した1,930m²を実施した。調査期間は平成9年11月13日から平成10年1月27日までで、この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影などを行った。調査区からは主に溝5条を検出した。本調査は小林勇作・柴田剛が担当し、末吉隆弥の協力を得た。

Fig.63 井田堀越遺跡調査地点位置図 (1/2,500)

(2) 遺構

SD01 (Fig.64)

調査区の西端で西一南方向の溝を32.30m分を検出し、平面プランはL字状を呈する。途中、屈曲した部分はSD10と接し、SD10がSD01に切られる。幅0.90～2.25m、深さ0.10～0.16mと削平を受けているらしく、埋土中からは弥生土器(片)、土師器(片)を多く出土した。

SD05 (Fig.65)

調査区の西側で検出した南北溝で、7.90m分を確認した。幅0.75～1.40m、深さ0.05～0.08mとかなり

の削平を受けている。遺物は土師器（小皿・片）が僅かに出土した。

SD10（Fig.67、Pla.45）

東―北方向の溝で102.5ｍ分を検出し、溝の幅は1.30～3.30ｍを測る。溝の深さはSD15に対面した部分（SD10―スクリントーン）が1.0～1.2ｍと深く、断面は逆台形状を呈する。更に、これより東方面にかけては0.3～0.4ｍと浅く、断面はU字状を呈する。出土遺物は土師器（小皿・坏・粘土塊・片）、青磁（碗・片）、白磁（片）、木製品（木錘・杼）を認めた。

SD15（Fig.68、Pla.44）

SD10と接する東―北方向の溝で24.0ｍ分を検出した。検出時においてSD10との切り合いは不明確であったが、調査では便宜上SD15とした。幅1.00～2.30ｍ、深さ0.27～0.35ｍを測り、断面はほぼU字状を呈する。埋土中からは僅かに土師器（小皿・片）を出土した。

(3) 出土遺物

SD10（Fig.69、Pla.46）

弥生土器

甕（1）　底部のみの細片で、底径7.4㎝を復原する。内面はナデで指頭圧痕を認め、外面の調整は不明。

土師器

小皿（2・3）　2・3は糸切りと思われる。2は口径8.8㎝、底径6.6㎝、器高2.0㎝を復原し、3は口径9.0㎝、底径7.0㎝、器高1.7㎝を復原する。

杯（4）　底部は糸切りで、口径14.3㎝、底径11.0㎝、器高2.7㎝を復原する。

青磁

碗（5・6）　共に龍泉窯系青磁である。5は口縁部の細片で、外面に鎬蓮弁が施される。6は底部の細片で、底径5.0㎝を復元する。外面には鎬蓮弁が施されているものと思われ、外底は露胎である。

木製品（Fig.70、Pla.46）

木錘（7）　芯持ち丸木材の両端部を切断し、軸部は低い円錐形に削り込む。全長15.4㎝、両端の円柱部径5.3～5.5㎝、軸部径3.9㎝を測る。加工は粗く工具痕をダイナミックに残し、一部の欠損を認めるが保存状態は良好である。

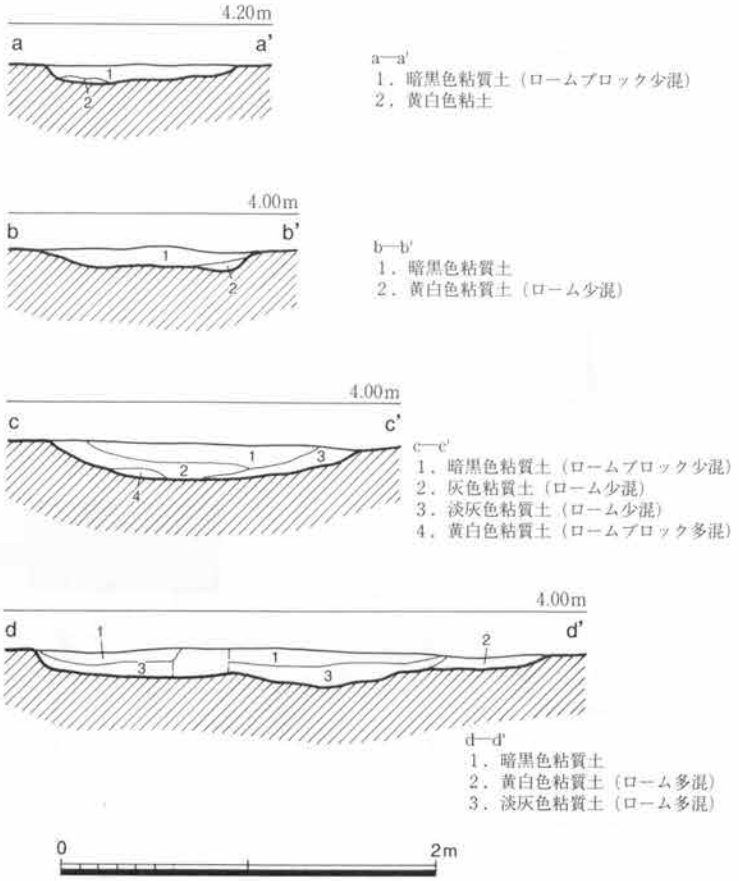


Fig. 64　SD01土層断面実測図（1/40）

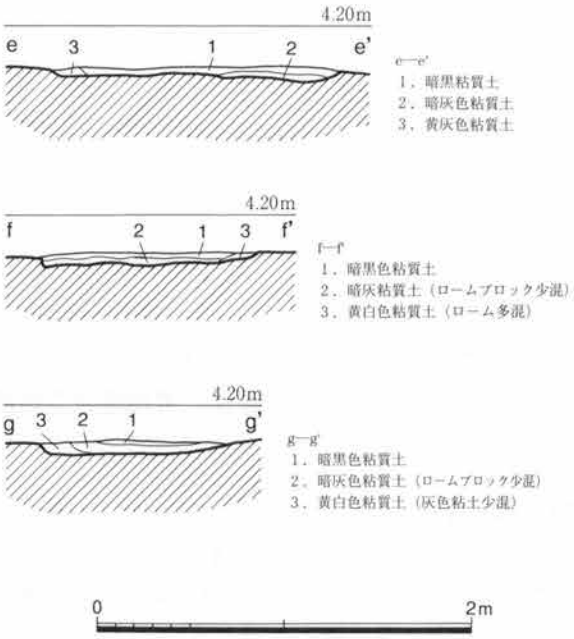
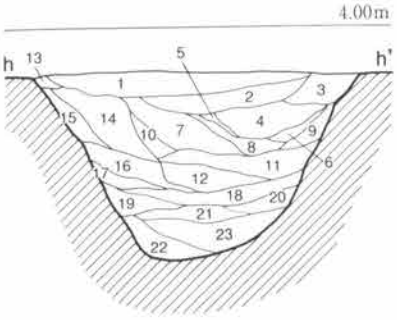
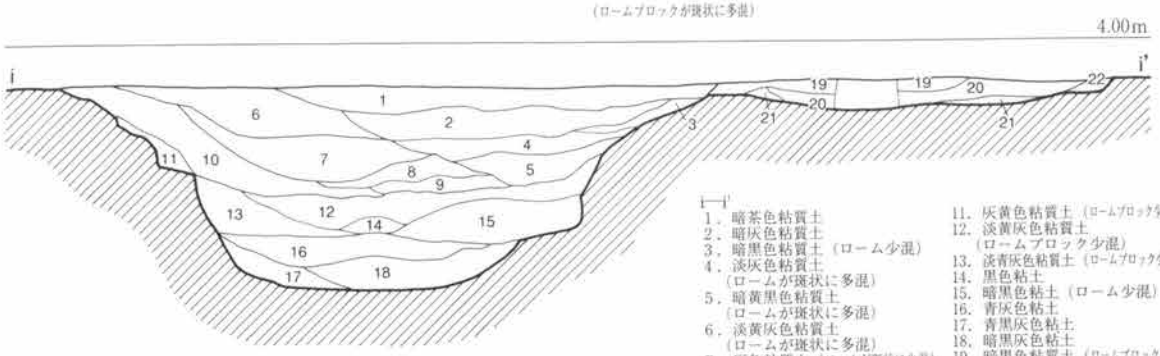


Fig. 65　SD05土層断面実測図（1/40）

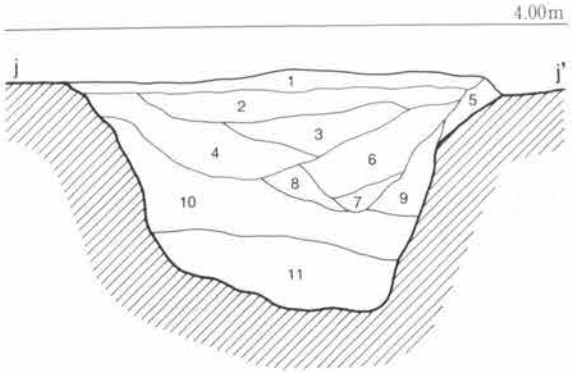
Fig. 66　井田堀越遺跡遺構全体実測図（1/200）



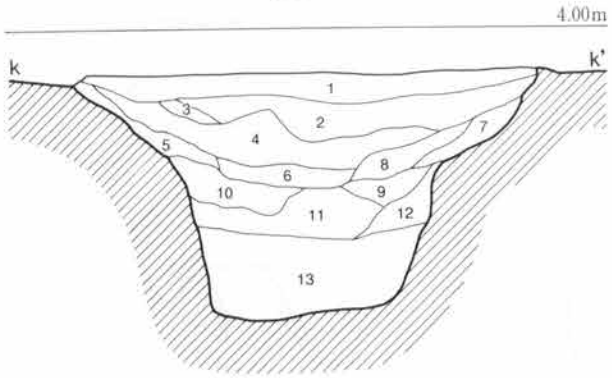
h—h'
1．暗黒色粘質土
2．灰色粘質土
3．明灰色粘質土
4．灰黄色粘質土
5．灰茶色粘質土
6．茶灰色粘質土
7．淡茶灰色粘質土（ローム多混）
8．明灰茶色粘質土
9．淡灰黒色粘質土
10．淡灰茶色粘質土
11．黄灰黒色粘質土（ロームブロックが斑状に多混）
12．淡黄黒色粘質土（ロームブロックが斑状に多混）
13．淡灰黒色粘質土
14．黄色粘質土（ローム多混）
15．黄灰色粘質土（ローム少混）
16．灰色粘質土
17．灰黄色粘質土
18．灰黒色粘質土（ロームが斑状に多混）
19．黒灰色粘質土
20．淡灰色粘質土
21．明灰色粘土
22．青黒灰色粘土
23．青灰色粘土



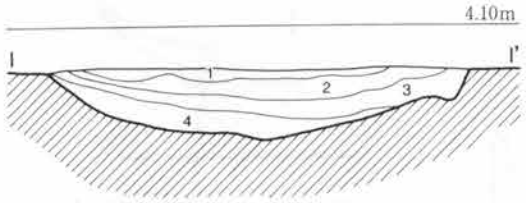
i—i'
1．暗茶色粘質土
2．暗灰色粘質土
3．暗黒色粘質土（ローム少混）
4．淡灰色粘質土（ロームが斑状に多混）
5．暗黄黒色粘質土（ロームが斑状に多混）
6．淡黄灰色粘質土（ロームが斑状に多混）
7．灰色粘質土（ロームが斑状に少混）
8．明灰色粘質土（ローム少混）
9．暗灰色粘質土（ローム少混）
10．黄灰色粘質土（ロームブロックが斑状に多混）
11．灰黄色粘質土（ロームブロック少混）
12．淡黄灰色粘質土（ロームブロック少混）
13．淡青灰色粘質土（ロームブロック少混）
14．黒色粘土
15．暗黒色粘土（ローム少混）
16．青灰色粘土
17．青黒灰色粘土
18．暗黒灰色粘土
19．暗黒色粘質土（ロームブロック少混）
20．淡灰色粘質土（ロームブロック少混）
21．淡黄灰色粘質土（ロームブロック少混）
22．黄色粘質土



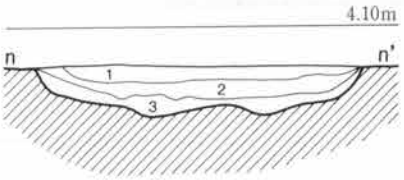
j—j'
1．暗茶灰色粘質土
2．淡灰色粘質土（ロームブロックが斑状に多混）
3．暗茶色粘質土（ロームブロック少混）
4．灰色粘質土（ロームブロック少混）
5．灰黄色粘質土
6．黄灰色粘質土（ロームブロックが斑状に多混）
7．濃灰色粘質土（ロームブロック少混）
8．暗灰色粘質土
9．淡白灰色粘質土
10．濃黒色粘土
11．淡灰黒色粘土（青灰色粘土少混）



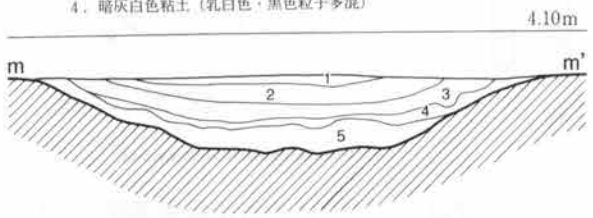
k—k'
1．暗茶灰色粘質土
2．淡茶灰色粘質土（ロームブロックが斑状に少混）
3．淡茶灰色粘質土
4．茶色粘質土（ロームブロックが斑状に多混）
5．明茶色粘質土
6．暗黒灰色粘土（ロームブロックが斑状に少混）
7．淡灰黒色粘質土（ロームブロック少混）
8．灰茶色粘質土
9．灰白色粘土（白色粘土多混）
10．灰色粘質土
11．濃黒色粘土
12．淡黒色粘土（ロームブロック少混）
13．淡灰黒色粘土（青灰色粘土少混）



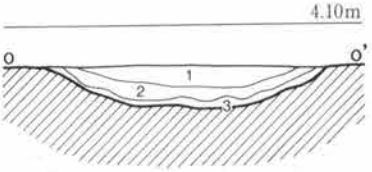
l—l'
1．暗茶褐色粘質土
2．暗茶褐色粘質土（乳白色ブロック混）
3．淡茶褐色粘質土（乳白色・黒色粒子多混）
4．暗灰白色粘土（乳白色・黒色粒子多混）



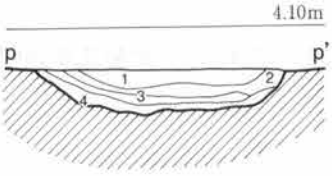
n—n'
1．暗黒茶色粘質土
2．暗黒褐色粘質土（黒色粒子多混）
3．淡灰色粘土



m—m'
1．多褐色粘質土
2．茶褐色・乳白色粘質土混
3．淡茶褐色粘質土（乳白色・黒色粒子多混）
4．茶褐色粘土
5．灰白色粘土（乳白色・黒色粒子多混）



o—o'
1．暗黒茶色粘質土（乳白色ブロック少混）
2．暗黒褐色粘質土（乳白色ブロック多混）
3．淡灰白色粘土



p—p'
1．暗茶褐色粘質土（茶色ブロック多混）
2．暗黒茶色粘質土（茶色ブロック・乳白色ブロック多混）
3．暗黒褐色粘質土（乳白色ブロック多混）
4．淡灰白色粘土

Fig.67　SD10土層断面実測図（1/40）

枡（8）　1枚の側板で、一部の欠損を認めるが保存状態は良好である。枡は側板の形状から、1ヶ所の切り込みのある相欠き継ぎの側板を組み、木釘で固定しているものと考えられる。側板及び木釘の材質は不明で、側板の法量は一辺が16.5㎝で、内々が14.8㎝、高さは5.5㎝を測る。これにより枡の容量は1,095.2㎤と予測される。これを一般的に標識化されている京枡（1,803.9㎤）に換算すると0.607升の数値が与えられる計算となる。

SD15（Fig.71）

土師器

杯（9・10）　共に磨耗のため調整不明。9は底径8.0㎝、10は底径10.0㎝を復原する。

（4）小結

今回の調査で確認された主な遺構は、大半が溝であった。ここでは、検出された溝と出土遺物について概観することで小結としたい。

・溝について

検出された溝で主要なものは、SD01・10・15があげられる。

SD01は調査区の南西部から検出した鉤状に屈曲した溝（屈曲した部分はSD10に切られるように検出さ

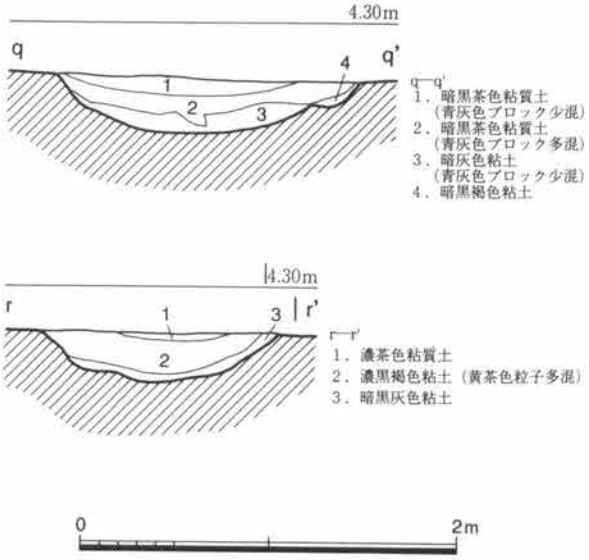


Fig. 68　SD15土層断面実測図（1/40）

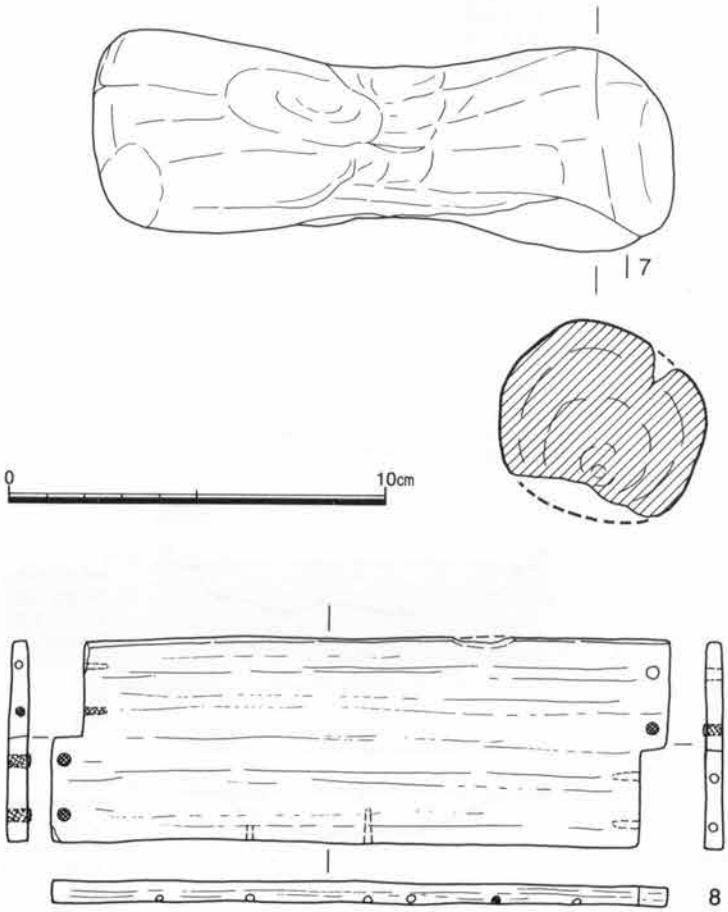


Fig. 70　SD10出土木製品実測図（1/2）

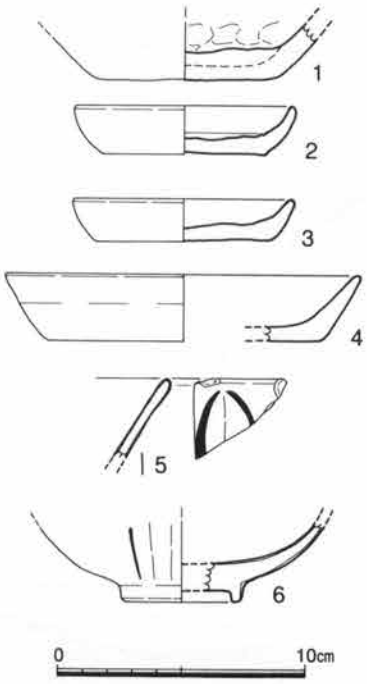


Fig. 69　SD10出土土器実測図（1/3）

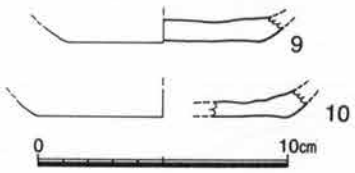


Fig. 71　SD15出土土器実測図（1/3）

れたと先述したが、検出時においてはSD10との埋土が類似しており、現段階では切り合いは不明である。）で比較的浅いものであった。出土遺物からは概ね中世に比定され、近世までは下らないものと思われる。

SD10は調査区の中央部を東西方向に延びる溝で、溝の西部は北方向へ屈曲する。溝の北端はSD15と接し、切り合いは不明であった。

さて、SD10は極端に深くなっている西側部分（深さ1.0～1.2m）と浅くなっている東側部分（0.3～0.4m）で深さが明らかに異なっていた。先述したとおり、西側の深い溝はSD15の対面にあたる部分で、意図的に深く掘られた可能性を示すものである。これにより、SD10西側部とSD15によって区画されたエリアには何らかの土地利用があった可能性が考えられるが、残念ながら調査ではこれを示す手がかりは得ることができなかった。

・木製品について

次にSD10から出土した木製品について概観する前に、注目される点について挙げる。

各地の発掘調査において木製品を出土することは希で、報告事例からはたいていの場合、低湿地化した土壌中において出土するケースが多いようである。これは、低湿地化した土壌によって資料がパックされた状態になり、これが直接外気とふれない環境をつくり出していることにより、資料の保存状態を良好に保っていることと考えられる。勿論、これだけの理由だけとは限らないが、筑後市内から出土した木製品の出土状況をみても、上記の環境下において確認されることがほとんどである。

今回調査した場所は標高3.8m位の低湿地上で、検出したSD10西側部分からは木錘・枡の2点の木製品を出土することができた。何れも保存状態が良好で、加工痕などを顕著に看取できる資料であった。

さて、木錘については福岡県内及び近隣においても多くの出土類例が報告されているが、枡については出土類例が少ないようである。

そこで、今回出土した枡について、宮本佐知子氏（財団法人　大阪市文化財協会）にご教示を賜ったので紹介する。

（　）内は復原値

遺跡名	所在地	年代	材質	容量（cm³）	京枡換算値（枡）	備　　考
平城宮跡―4	奈良県奈良市	7世紀後半	須恵器			墨書「一升一合」
平城宮跡―5	奈良県奈良市	8世紀	木質			
平城宮跡―6	奈良県奈良市	8世紀	須恵器			墨書「九合三勺」
平城京跡―2	奈良県奈良市	8世紀中頃	須恵器	252	0.45	墨書「三合一夕」
秋田城跡	秋田県秋田市	8世紀中頃	木質	約700	0.388	
上荒屋遺跡	石川県金沢市	8世紀後半	須恵器			墨書「四合九勺」
平城宮跡―7	奈良県奈良市	8世紀後半	須恵器			墨書「五合」
平城京跡―3	奈良県奈良市	8世紀後半	須恵器	212	0.47	墨書「二合半」
平城京跡―2	奈良県奈良市	9世紀後半	木質（杉か檜）	691.2	0.383	
平城京跡―4	奈良県奈良市	11～12世紀	木質	1015.85	0.563	
唐古・鍵遺跡	奈良県田原本町	12世紀後半	木質	2178.66	1.21	
高見の里六丁目遺跡	大阪府松原市	12世紀後半	木質	2178.3	1.2075	
平城京跡―3	京都府京都市	13世紀	木質	(3136)	0.5796	
御成町遺跡	神奈川県鎌倉市	14世紀	木質（杉）	2719.8	1.508	
北古館遺跡	福島県利根郡長沼町	15～16世紀	木質	4512.5	2.5	
初田遺跡	兵庫県多紀郡丹南町	15末～16世紀	木質（杉）	(1739)	0.964	
井田堀越遺跡	**福岡県筑後市**	**中世**	**木質**	**1095.2**	**0.607**	

Tab.9　枡出土の遺跡地名一覧表

【註】

本表は「宮本佐知子　さし・ます・はかり―考古学による日本歴史9交易と交通　雄山閣―」に記載されている表3を抜粋し、一部改編した。

宮本氏によると、「枡については出土例が少なく、また、充分に調べられていないため何合になるのかは困難である。枡の種類も、京枡の単位に合わせてみると近いのは六合であるが、明治の資料からは六合枡の存在は明らかではなく、七合枡であれば少量であるとのことである。また、枡は穀物を計量するときに使用されたことは充分考えられ、使用者（耕作者か、耕作させていた側）によっても大きさが異なる」と指摘されている。

これにより、今回出土した枡について簡単にまとめると以下のとおりである。

・枡が出土したSD10が概ね中世に比定されることで、枡に与えられる時期は、現段階において当該期を想定している。

・枡の計量値は時代によって単位が変化していることや出土例が少ないことから、現段階においての換算は難しい。

・枡の大きさは使用者によっても異なるようである。

最後に、末文ではありますが、ご多忙のところご教示をして頂いた宮本氏に感謝の意を表したい。

【単位はcm、○は復原値】

Fig.−No.	遺構	名称	器種	口径	底径	器高	長さ	円柱部径	軸部径	切離し区分 ヘラ	切離し区分 糸	備考
69−1	SD10	弥生土器	甕		○ 7.4							
69−2	SD10	土師器	小皿	○ 8.8	○ 6.6	2.0						
69−3	SD10	土師器	小皿	○ 9.0	○ 7.0	1.7					◎?	
69−4	SD10	土師器	坏	○ 14.3	○ 11.0	2.7					◎	
69−5	SD10	青磁	碗									森田：Ⅰ−5b
69−6	SD10	青磁	碗		○ 5.0							
70−7	SD10	木製品	木錘				15.4	5.3~5.5	3.9			
70−8	SD10	木製品	枡			5.5	16.5					
71−9	SD15	土師器	坏		○ 8.0							
71−10	SD15	土師器	皿か坏		○ 10.0							

Tab.10　井田堀越遺跡出土遺物一覧表

【註】
本表に記載した分類は、下記の文献によっている。
《青磁》　横田賢次郎・森田勉　「大宰府出土の輸入中国陶磁器について―形式分類と編年を中心にして―」　『九州歴史資料館研究論集4』　1978

8.井田下堀越遺跡の調査

(1) はじめに (Fig.72)

当遺跡は筑後市の最西端に位置し、クリークを挟んだ西側は大木町となる。標高4.2m位の低湿地上で筑後市大字井田字下堀越に所在する。調査は、平成9年度に施工された農地整備事業支線用排水路設置範囲で、遺跡を確認した411m²を実施した。調査期間は平成10年1月28日から2月18日までで、この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影などを行った。調査区からは主に溝3条、土壙6基を検出した。本調査については小林勇作が担当し、末吉隆弥の協力を得た。

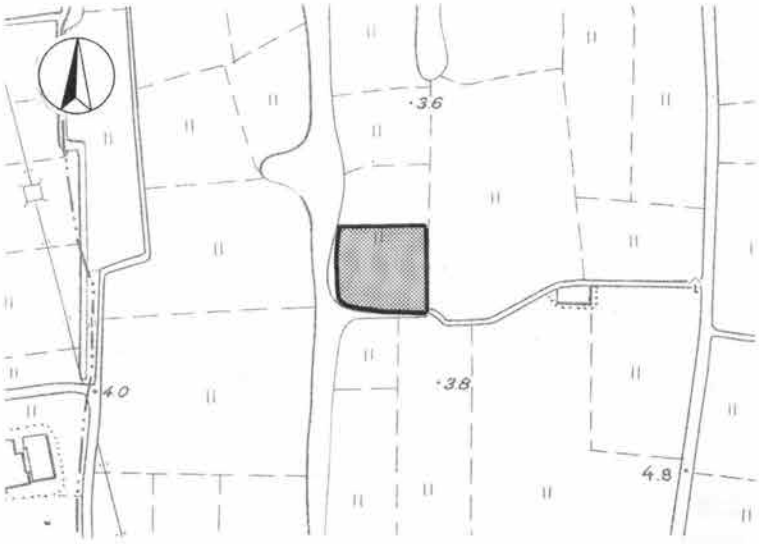


Fig.72　井田下堀越遺跡調査地点位置図（1/2,500）

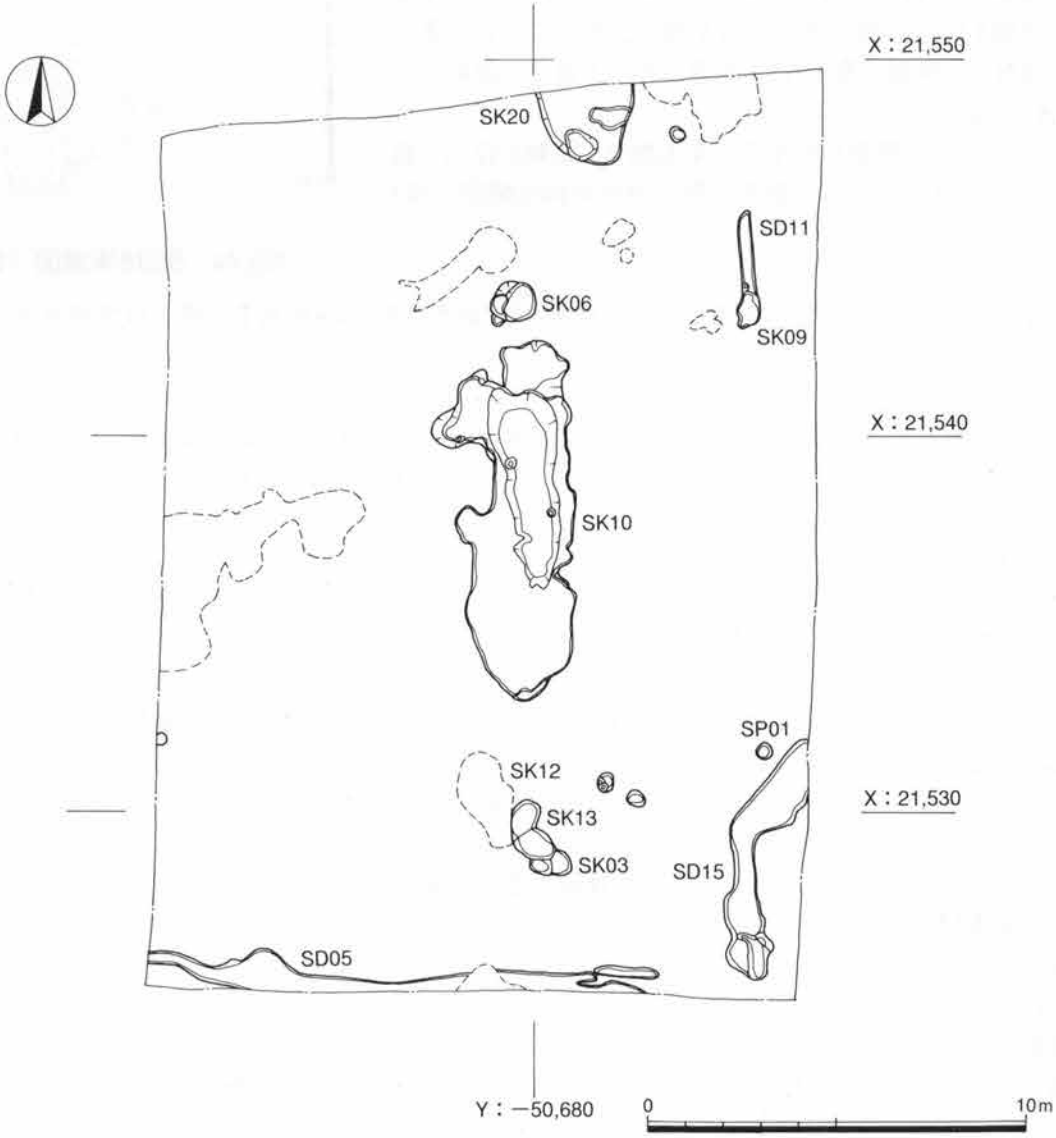


Fig.73　井田下堀越遺跡遺構全体実測図（1/200）

(2) 遺構

溝

SD05（Fig.73）

調査区の南端で13.00 m分を検出した東西溝である。溝は蛇行しており、深さ0.06 mと浅い。埋土は黒褐色土を基調とし、埋土中からは土師器（片）が多く出土した。

SD11（Fig.73）

調査区の東側で検出した南北溝で、SP9を切る。長さ2.20 m、幅約0.35 m、深さ0.05 mと浅く、埋土は黒褐色土であった。出土遺物は皆無であった。

SD15（Fig.74、Pla.47）

調査区の南東隅で検出した。5.50 m分を確認し、幅0.60～1.25 m、深さ0.11～0.23 mを測る。埋土は黒褐色粘質土で、埋土中からは土師器（甕・鉢・高坏・片）が出土した。

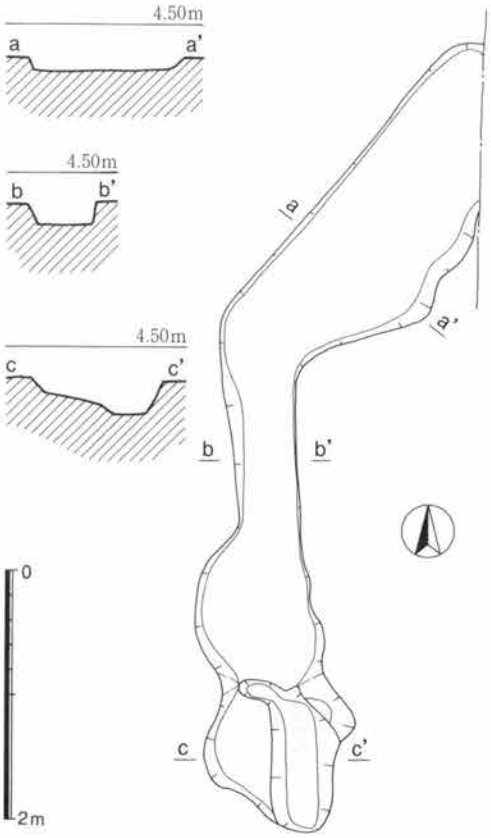


Fig.74　SD15実測図（1/60）

土壙

SK03（Fig.75）

調査区の南側で検出した隅丸長方形の土壙でSK13を切る。長軸1.07 m、深さ約0.10 mを測り、底面は凹凸が著しい。遺物は土師器（甕・片）、磁器（片）を僅かに認めた。

SK06（Fig.75）

SK10の北部に隣接した不定形な土壙で、長軸1.17 m、短軸0.98 m、深さ0.17 mを測る。埋土中からは土師器（片）が出土したのみである。

SK09（Fig.75）

SD11に切られた楕円形の土壙で、径は約84 cm、深さは約20 cmを測る。埋土は黒色粘土で、弥生土器（甕）が僅かに出土した。

SK10（Fig.75、Pla.48）

調査区のほぼ中央部から検出した不定形な土壙である。遺物は各層から散在的に土師器（甕・鉢・高坏・土鍋・片）、石製品（石鏃・砥石）が出土し、他の遺構よりも遺物量が多く、廃棄土壙として活用されていた可能性が考えられる。

SK12（Fig.75）

SK13を切るように検出した土壙で、埋土は黒褐色土であった。深さ0.09 mと浅いため削平を受けているものと思われる。出土遺物は皆無であった。

SK13（Fig.75）

SK03、SK12に切られた土壙で、埋土は黒褐色土。深さ0.14 mと浅く、出土遺物は皆無であった。

SK20（Fig.75）

調査区の北部で検出した。土壙の底面は凹凸が著しく、深さ約0.10 mと浅い。出土遺物はない。

SP01（Fig.73）

SD15の北部から検出したピットで、土師器（甕）が僅かに出土した。

(3) 出土遺物

溝

SD11（Fig.78、Pla.50）

石製品

石鏃（33）　完形品で、石材はサヌカイト製。抉りのある長二等辺三角形状を呈する。

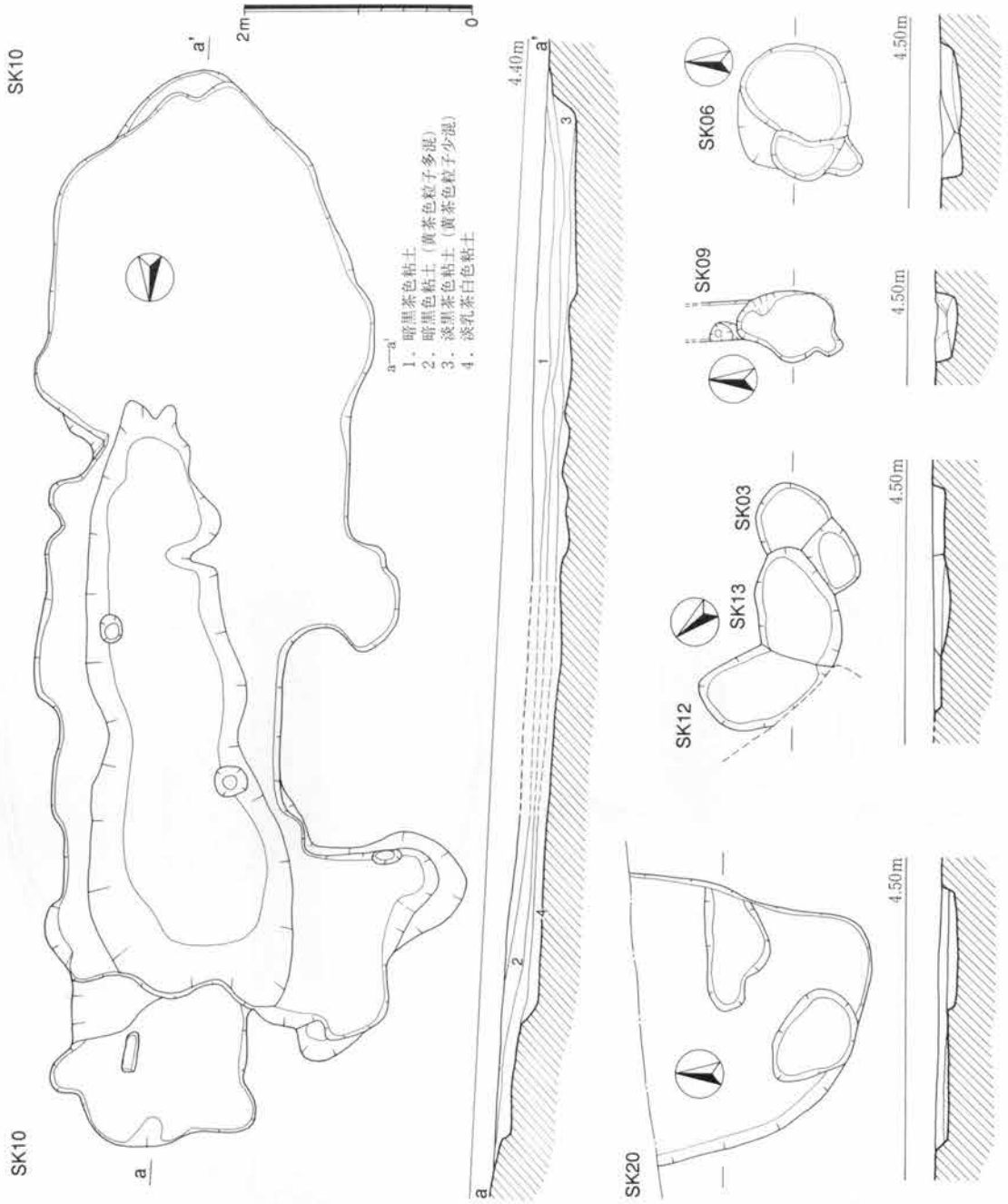


Fig.75　土壙実測図（1/60）

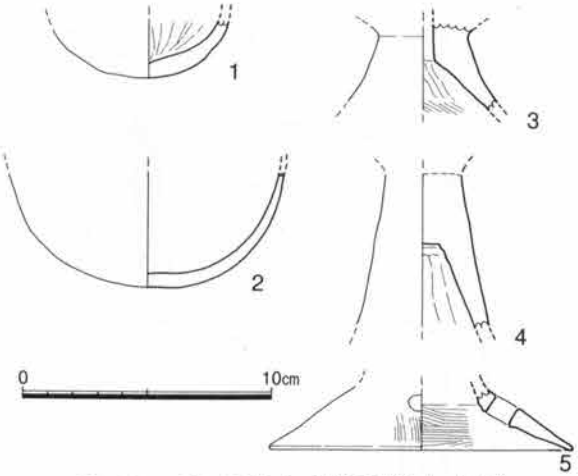


Fig.76　SD15出土土器実測図（1/3）

SD15（Fig.76）

土師器

小型丸底壺（1・2）　共に底部のみの細片で、胎土は砂粒を少量含む。

高坏（3～5）　3～5は脚部の細片で、5は裾部に穿孔が等間隔に3ヶ所施されている。

石製品（Fig.78、Pla.50）

磨製石鏃（34）　石材は片岩製で完形品である。表裏に研磨が施され、抉りのある長二等辺三角形状を呈する。

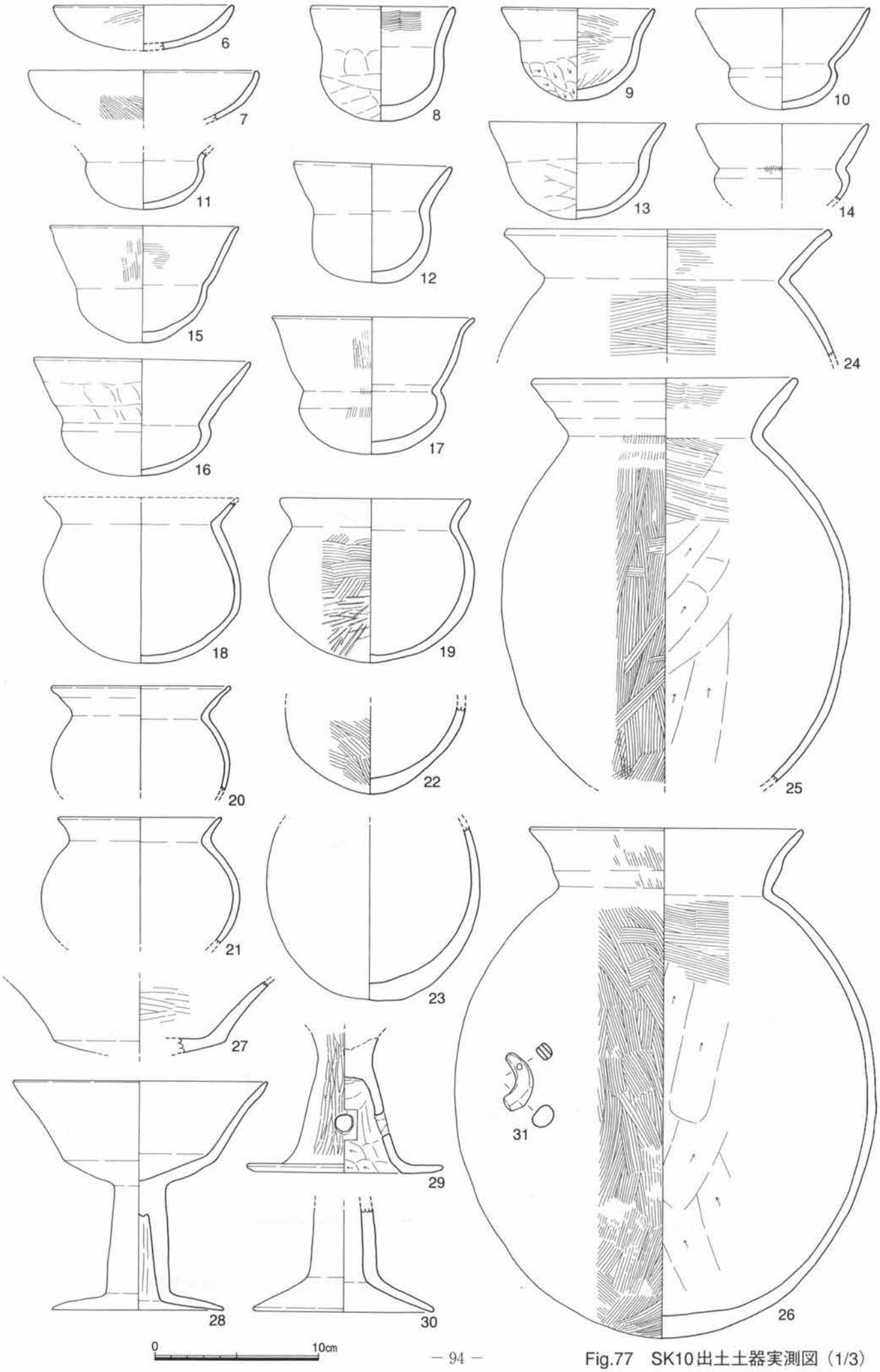


Fig.77　SK10出土土器実測図（1/3）

土壙

SK10（Fig.77、Pla.49・50）

土師器

坏（6・7）　6は1層出土土器で、口径11.0㎝、器高2.8㎝を復原する。やや磨耗しており、口縁部外面に刷毛目調整が若干残る。7は2層出土土器で、口径14.0㎝を復原する。外面下位は刷毛目、口縁部内外面はヨコナデ、底部内面はナデ調整を施す。外面に薄く煤が付着している。

小型丸底壺（8～22）　8～22の内、18・21は1層、14・20は2層、8・9・12・15・19は3層からの出土土器である。口径は8.8～13.2㎝、器高は5.9～10.1㎝を測る。

壺（23）　下半部のみの破片である。最大径13.0㎝を復原し、磨耗のため調整不明。

甕（24～26）　24は口縁部の破片で、口径20.0㎝を復原する。口縁部は「く字状」を呈し、口縁部外面は薄く煤が付着し、調整はヨコナデ。この他は横方向の刷毛目調整を施す。25は1層出土土器で底部は欠損する。口縁部は「く字状」を呈し、体部から底部にかけては煤が付着している。調整は外面において、体部は縦方向の刷毛目、口縁部はヨコナデを施し、内面においては口縁部上位は横方向の刷毛目、下位はヨコナデ、体部上位はヘラケズリ後刷毛目、下位はヘラケズリを施す。26は3層出土土器で、口縁部は「く字状」を呈する。調整は外面の体部は縦方向の刷毛目、口縁部は刷毛目後ヨコナデを施し、内面の口縁部は強いヨコナデ、体部上位はヘラケズリ後刷毛目、下位はヘラケズリを施す。

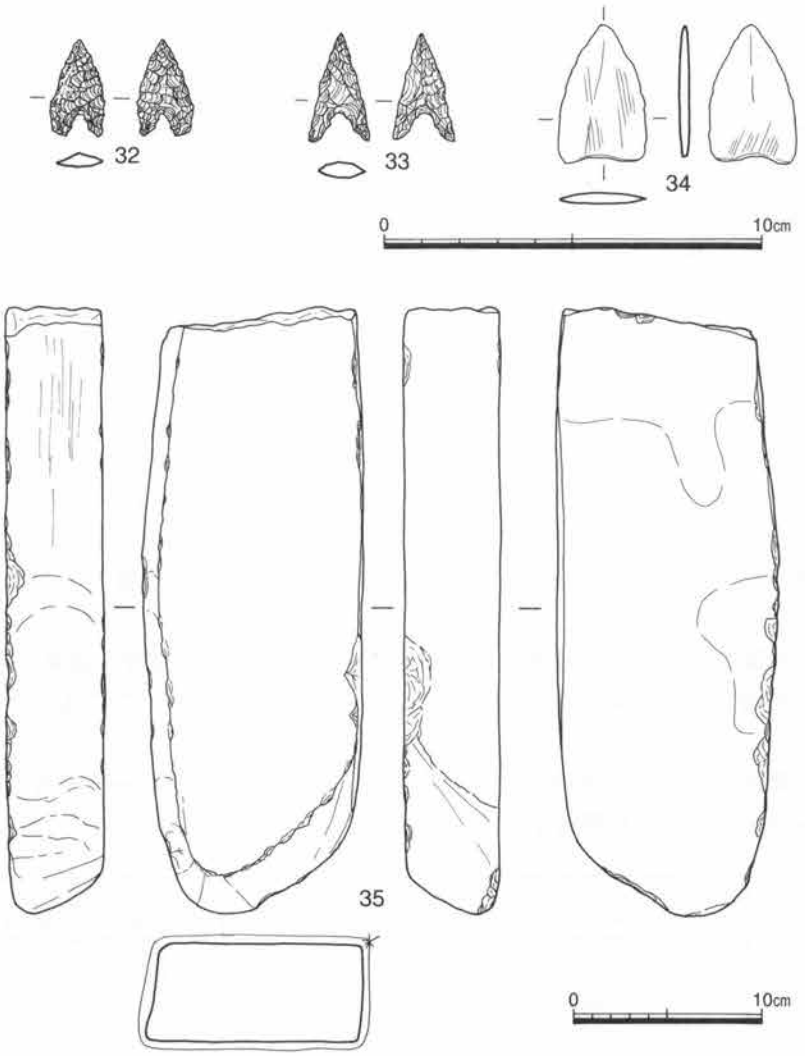


Fig.78　石製品実測図（1/2・1/4）

高坏（27～30）　27～30の内、28・30は2層、27は3層出土土器である。27は杯部の細片で体部は屈曲しながら外反する。磨耗のため調整不明であるが、体部内面に若干刷毛目調整が残る。28は破片で磨耗のため、調整は不明。口径15.5㎝、脚裾径10.5㎝、器高13.9㎝を復原する。29は脚裾径11.9㎝を測り、脚部にほぼ等間隔で穿孔を3ヶ所施す。30は脚裾径11.0㎝を測り、磨耗のため調整不明。

土製品

勾玉（31）　勾玉の土製品で先端に3㎜程度の穿孔を施す。

石製品（Fig.78、Pla.50・51）

石鏃（32）　完形品で石材は黒曜石製である。表面の一部に自然面を残し、裏面にはポジティブ面が看取される。両面とも丁寧に整形加工が施されている。

砥石（35）　石材を砂岩製とする大型砥石で、剥離面以外はほぼ砥面として使用している。

SP01（Fig.79）

土師器

小型丸底壺（36）　口径12.0㎝、体部径11.6㎝、器高9.3㎝を測り、外面に煤が付着している。調整は内面においては不明で、外面は口縁部がヨコナデ、体部は刷毛目、底部は手持ちのヘラケズリである。

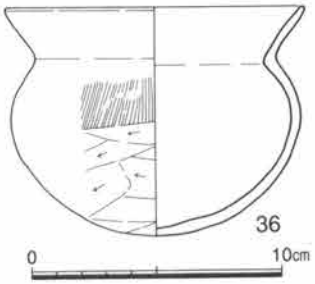


Fig.79　SP01出土土器実測図（1/3）

(4) 小結

今回の調査において確認された遺構や遺物について振り返ることにより小結としたい。

先述したとおりSK10からは、縄文時代晩期頃に属する石鏃が出土した。当調査区内からは該期における顕著な遺構は検出されておらず、周辺からも遺物は採集されていない。このため、集落本体はどの辺りであるかは予測がつかず、現段階では不明である。

ところで、SK10からは古墳時代前期に比定される遺物も多く出土した。SK10は低湿地化した灰色粘土上から検出された溜まり状の土壙で、非常に不安定なものであった。ここから出土した該期の土器は坏・小型丸底壺・高坏・甕などで、分層して土器の抽出をした結果、一括廃棄された傾向があるものと思われる。更に、土器中には脚部に穿孔された高坏や土製勾玉が出土していることで、祭祀的要素を含んだ遺構と考えることができる。

当遺跡は限られた範囲において実施されたためか、顕著な遺構や遺物は少なかったといえる。しかし、今回報告した該期の遺跡は周辺では確認されておらず、この地区の新たな発見になったことは大きな成果といえよう。

最後に、今回の調査からは残念ながら集落本体を明らかにすることができなかったが、今後の調査で確認されることを期待する。

【単位はcm、○は復原値】

Fig.－No.	遺構	名称	器種	口径	底径	器高	胴径	切離し区分 ヘラ	切離し区分 糸	備考
76－01	SD15	土師器	小型丸底壺							
76－02	SD15	土師器	小型丸底壺							
76－03	SD15	土師器	高坏							
76－04	SD15	土師器	高坏							
76－05	SD15	土師器	高坏		12.2					脚部に穿孔3ヶ所
77－06	SK10(1層)	土師器	坏	○ 11.0		○ 2.8		◎		
77－07	SK10(2層)	土師器	坏	○ 14.0				◎		
77－08	SK10(3層)	土師器	小型丸底壺	○ 8.8		7.0				
77－09	SK10(3層)	土師器	小型丸底壺	9.4		5.6				
77－10	SK10	土師器	小型丸底壺	○ 10.6		6.2				
77－11	SK10	土師器	小型丸底壺							
77－12	SK10(3層)	土師器	小型丸底壺	9.7		7.2				
77－13	SK10	土師器	小型丸底壺	10.8		5.9				
77－14	SK10(2層)	土師器	小型丸底壺	○ 10.4						
77－15	SK10(3層)	土師器	小型丸底壺	11.5		7.1				
77－16	SK10	土師器	小型丸底壺	13.2		7.1				
77－17	SK10	土師器	小型丸底壺	12.3		8.3				
77－18	SK10(1層)	土師器	小型丸底壺	○ 12.0		○ 10.1	12.0			
77－19	SK10(3層)	土師器	小型丸底壺	○ 11.5		10.0				
77－20	SK10(2層)	土師器	小型丸底壺	○ 11.0						
77－21	SK10(1層)	土師器	小型丸底壺	○ 10.0			12.0			
77－22	SK10	土師器	小型丸底壺							
77－23	SK10	土師器	壺?				○ 13.0			
77－24	SK10	土師器	甕	○ 20.0						
77－25	SK10(1層)	土師器	甕	16.3			21.3			
77－26	SK10(3層)	土師器	甕	16.8		30.9				
77－27	SK10(3層)	土師器	高坏							
77－28	SK10(2層)	土師器	高坏	15.5	10.5	13.9				煤付着
77－29	SK10	土師器	高坏		11.9					穿孔3ヶ所
77－30	SK10(2層)	土師器	高坏		○ 11.0					
77－31	SK10	土製品	勾玉							
79－32	SP01	土師器	小型丸底壺	○ 12.0		9.3	○ 11.6			外面煤付着
78－33	SK10(1層)	石製品	石鏃							石材：黒曜石
78－34	SD11	石製品	石鏃							石材：サヌカイト
78－35	SK15	石製品	磨製石鏃							石材：片岩
78－36	SK10	石製品	砥石							

Tab.11　井田下堀越遺跡出土遺物一覧表

9.梅島遺跡（第2次調査）の調査

(1) はじめに

本章は平成３年度に発掘調査を行った、梅島遺跡第２次調査の成果を集録している。今回の調査は、平成３年度県営干拓地等農地整備事業筑後西部地区に伴い、工事によって消滅する部分について記録保存の措置をとったものである。

平成３年度に入ってから、工事主体である福岡県筑後川水系農地開発事務所（工事３課）から、当該工事地区内の埋蔵文化財の有無について照会があった。その後協議を重ね、試掘調査を経て埋蔵文化財の包蔵範囲を確認した。その結果、水路掘削部分と土盛り調整によっても遺構の破壊を防ぎえない面工事部分について発掘調査を実施することとなった。調査は永見と小林が担当し、塚本映子（現、三潴町教育委員会）の協力を得た。調査面積は約3,500㎡で、平成３年12月から平成４年５月にかけて調査を行った。

なお、整理作業は平成11年度に、筑後市教育委員会文化財整理室で行った。

(2) 遺構

今回の調査では、水路部分を中心とした調査となったことから、当然の制約として非常に細長い調査区を設定せざるを得なかった。また、調査区の一部は面的な調査となり、面的な調査と線状の調査を組

Fig.80　梅島遺跡（第２次調査）調査地点位置図（1/2,500）

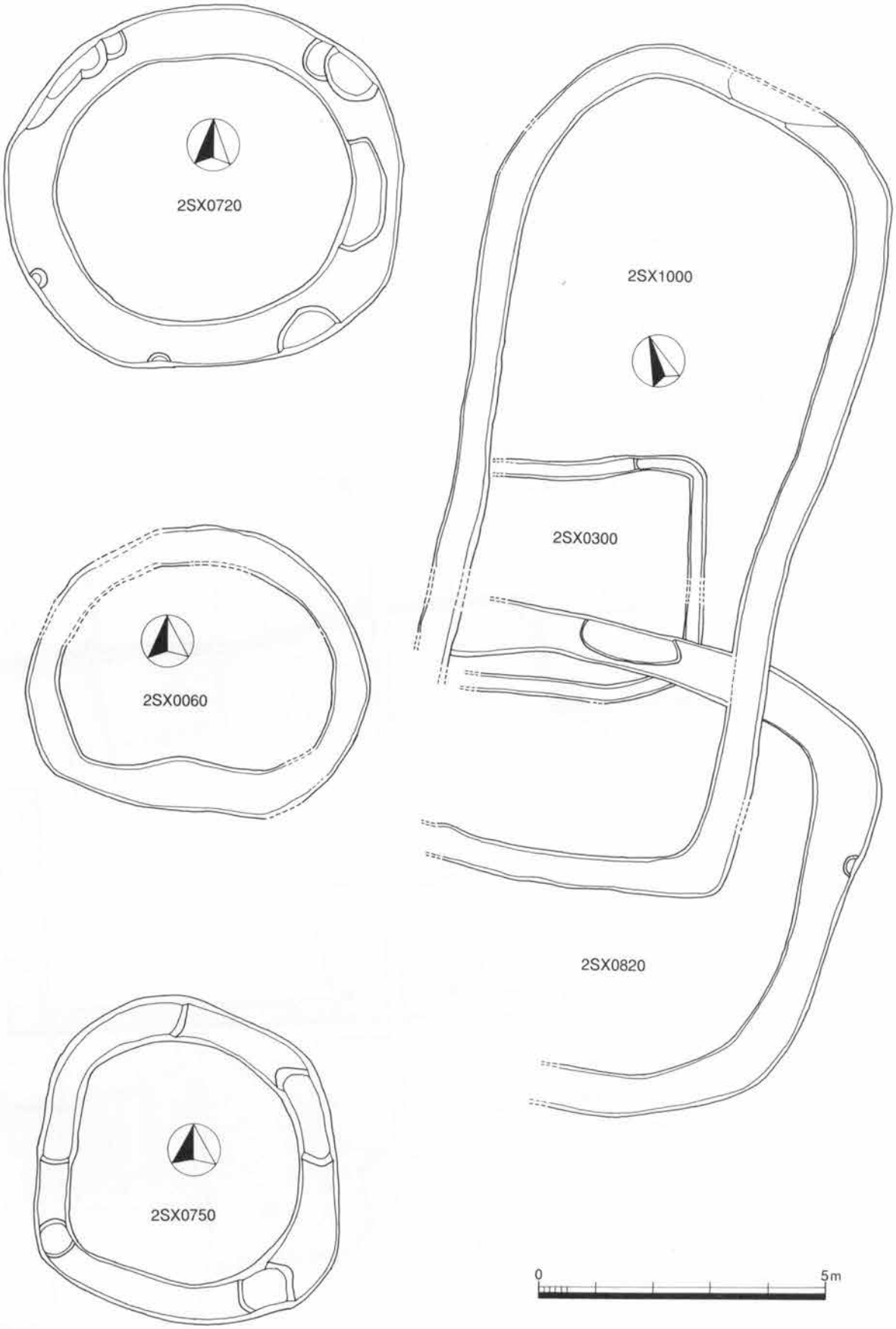


Fig.81　周溝状遺構平面図①（1/100）

み合わせた調査区形状となった。さらに、面的な調査区の中央を前年度に導水路を敷設した道路が縦断している。もちろん、その部分は記録保存の措置をとっている（第1次調査）が、調査時点で面的な広がりがつかみにくかったことは否定できない。

今回の調査では、周溝状遺構・溝状遺構・廃棄土壙などを確認した。以下、主要遺構について遺構種類別に報告したい。

周溝状遺構

周溝状遺構は、調査区全体からみると西に片寄った部分に集中して検出した。周溝の平面プランは、おおまかにいって方形と円形がある。以下、遺構ごとに報告する。なお、本文中の規模はすべて周溝の外側の遺構上端で計測している

2SX0720

中央調査区の西端に位置する、円形周溝状遺構である。直径は6.9ｍである。

2SX0060

東西の調査区の中央に位置する、円形周溝状遺構である。直径は5.4ｍである。

2SX0750

面的に調査を行った部分の西側調査区南端に位置する、方形周溝状遺構である。東西5.4ｍ、南北5.7ｍの規模である。

2SX1000

面的に調査を行った部分の西側調査区北西隅に位置する、長方形の平面形を呈する周溝状遺構である。東西6.5ｍ、南北14.6ｍの規模である。

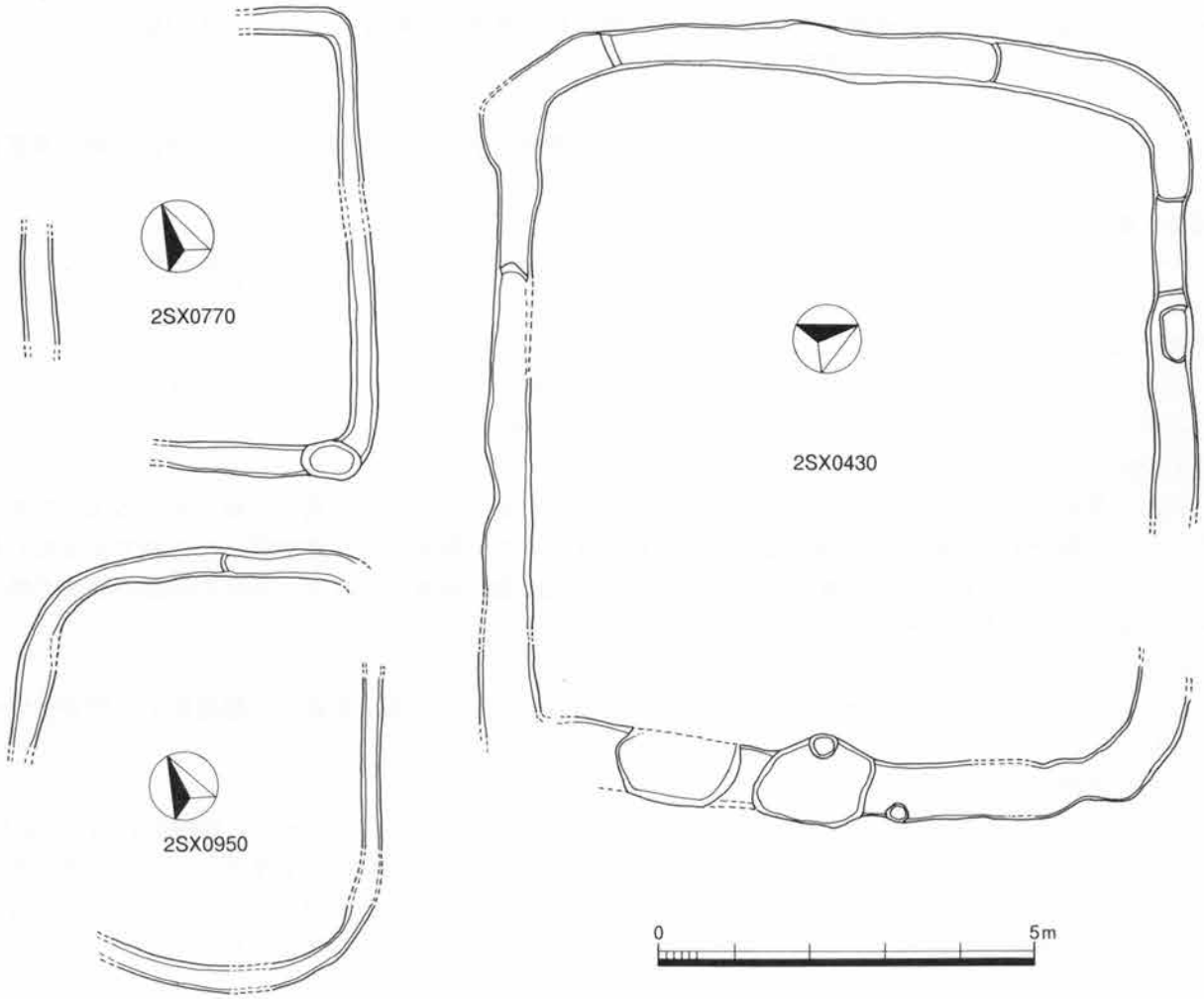


Fig.82　周溝状遺構平面図①（1/100）

2SX0830

面的に調査を行った部分の西側調査区北西隅に位置する、方形周溝状遺構である。南北4.2mの規模である。2SX1000に切られている。

2SX0820

面的に調査を行った部分の西側調査区北西隅に位置する、方形周溝状遺構である。南北8.4mの規模である。2SX1000に切られている。

2SX0770

面的に調査を行った部分の西側調査区西隅に位置する、長方形の平面形を呈する周溝状遺構である。東西4.7m、南北6.3mの規模である。

2SX0950

面的に調査を行った部分の西側調査区北西隅に位置する、方形周溝状遺構である。東西5.0m、南北6.0mの規模である。

2SX0430

面的に調査を行った部分の東側の調査区東端に位置する、方形周溝状遺構である。東西10.4m、南北9.4mの規模である。

2SX0468

面的に調査を行った部分の西側調査区南西隅に位置する、長方形の平面形を呈する周溝状遺構である。東西3.7m、南北6.9mの規模である。

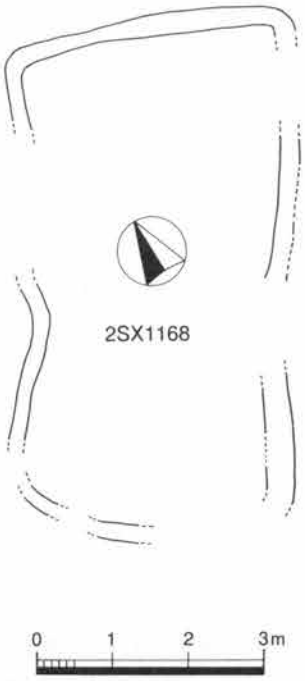


Fig83　周溝状遺構平面図③（1/100）

溝状遺構

溝状遺構は、大きくわけて弥生時代のものと中近世のものとがある。前者は先に報告した周溝状遺構を別にすれば小規模なものが多い。後者のうち、多くの土器を出土した遺構について報告する。

2SD0260

面的に調査を行った部分の東端を南北に走る。断面形状は崩れた逆台形を呈する。染付の椀を多量に出土した。

廃棄土壙

今回の調査では、廃棄土壙とみられる遺構も数多く検出したが、そのなかで弥生時代の遺物を出土したもののうち主要なものを以下に報告する。

2SK0210

面的に調査を行った部分の西端にある。上層からは土師器等も出土しているが、下層からは弥生土器のみが出土している。上層部分は後世の掘込みがあったと考えられる。

2SK0299

東西の調査区の西寄りにある。多量の土器片を出土したが、そのなかで高坏と鉢の出土状況が特異であったので報告する。高坏は坏部と脚部が切り離されていて、脚部の上に甕が伏せた状態でかぶせられていた。さらに、その上に切り離した坏部をのせていた。別の表現をすれば、高坏の坏部と脚部の間に鉢が挟まれていた状況であった。

2SK0840

面的に調査を行った部分の東寄りにある。2SD0680に切られている。多量の土器を出土したが、すべて上層からの出土である。

(3) 出土遺物

出土遺物には、弥生土器・土師器・須恵器などがあり、総量ではパンコンテナー200箱近くにのぼる。なお、遺物の個々についての詳細は、文章を省略しているので、遺物観察表を参照されたい。剥片等で図示しないものも、一部を一覧表で報告した。また、自然石利用の利器は相当数を採集している。敲石や石皿等の可能性を認めるが、今回の報告からは除外している。以下、遺構順に報告する。なお、第1次調査の遺物写真も今回報告した。

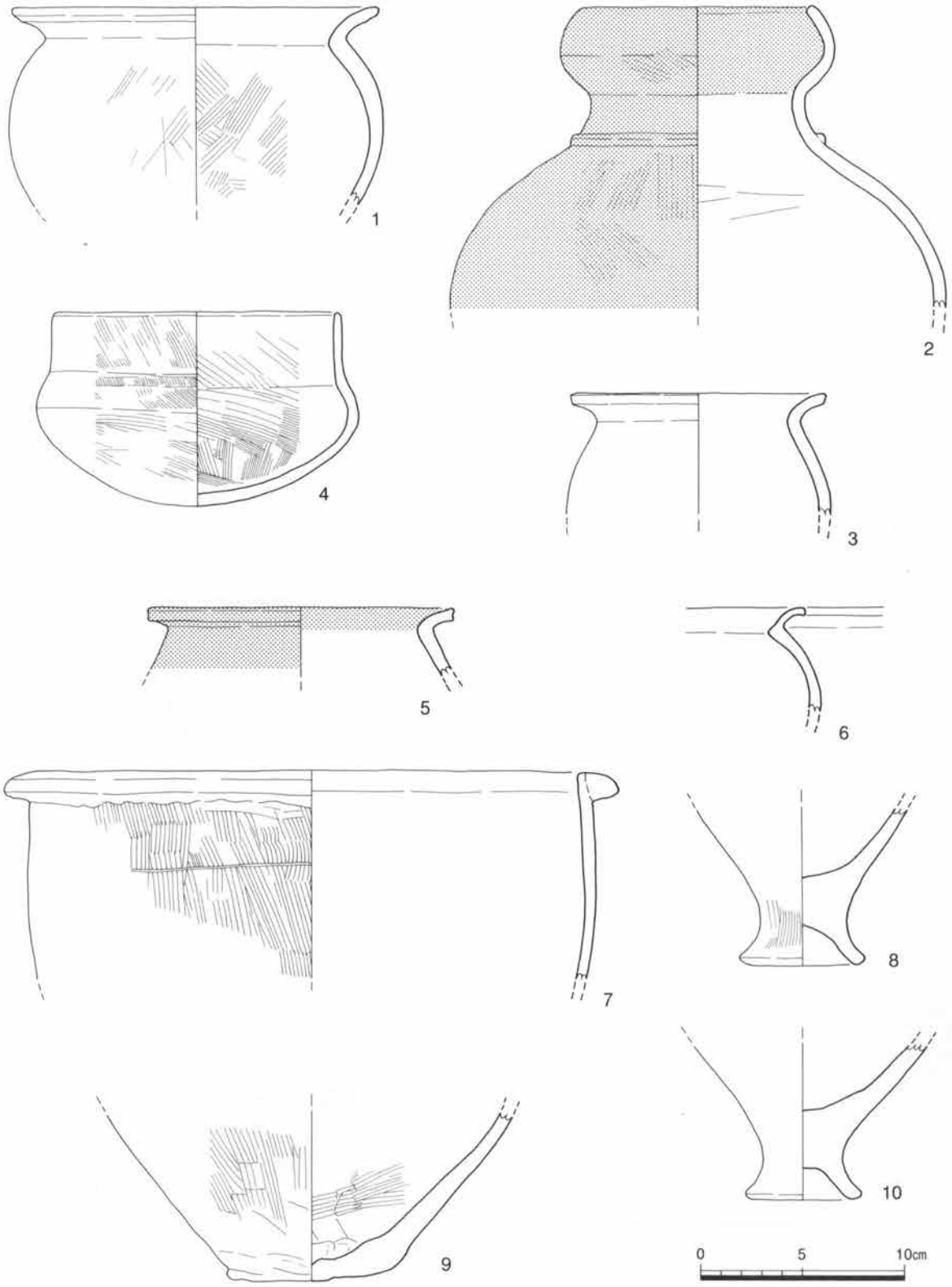


Fig.84　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図①（1/3）

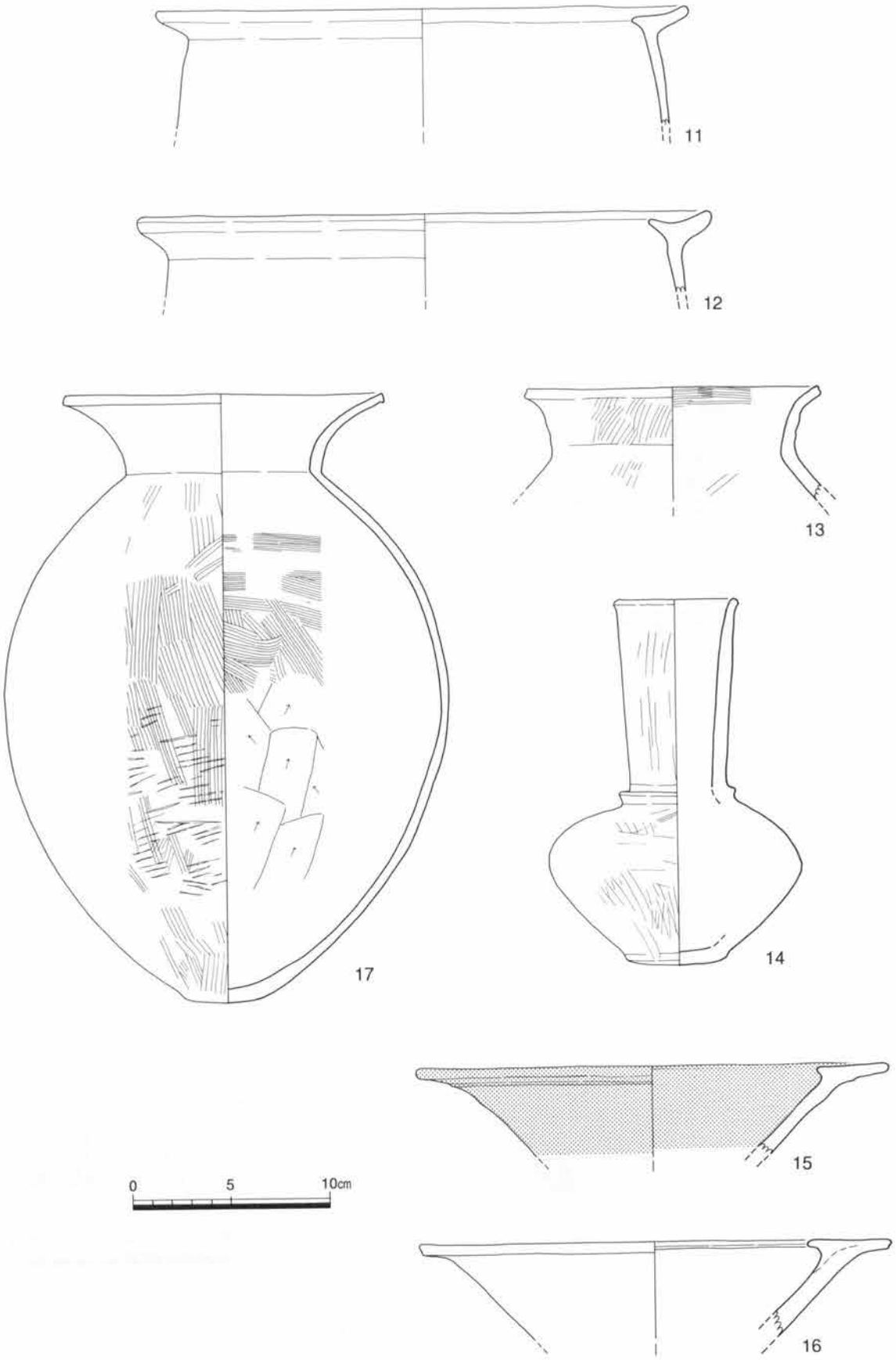


Fig.85　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図②（1/3）

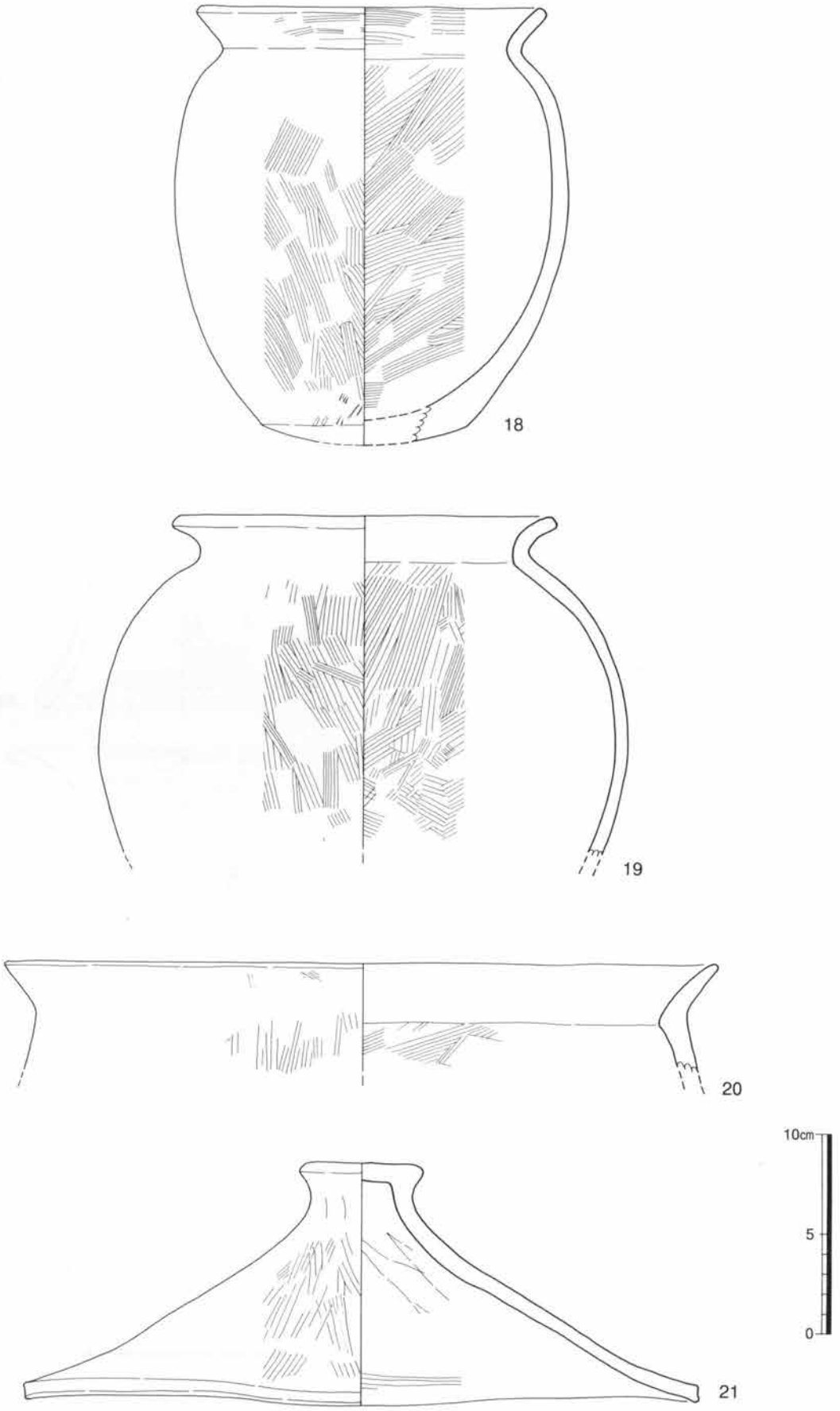


Fig.86　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図③（1/3）

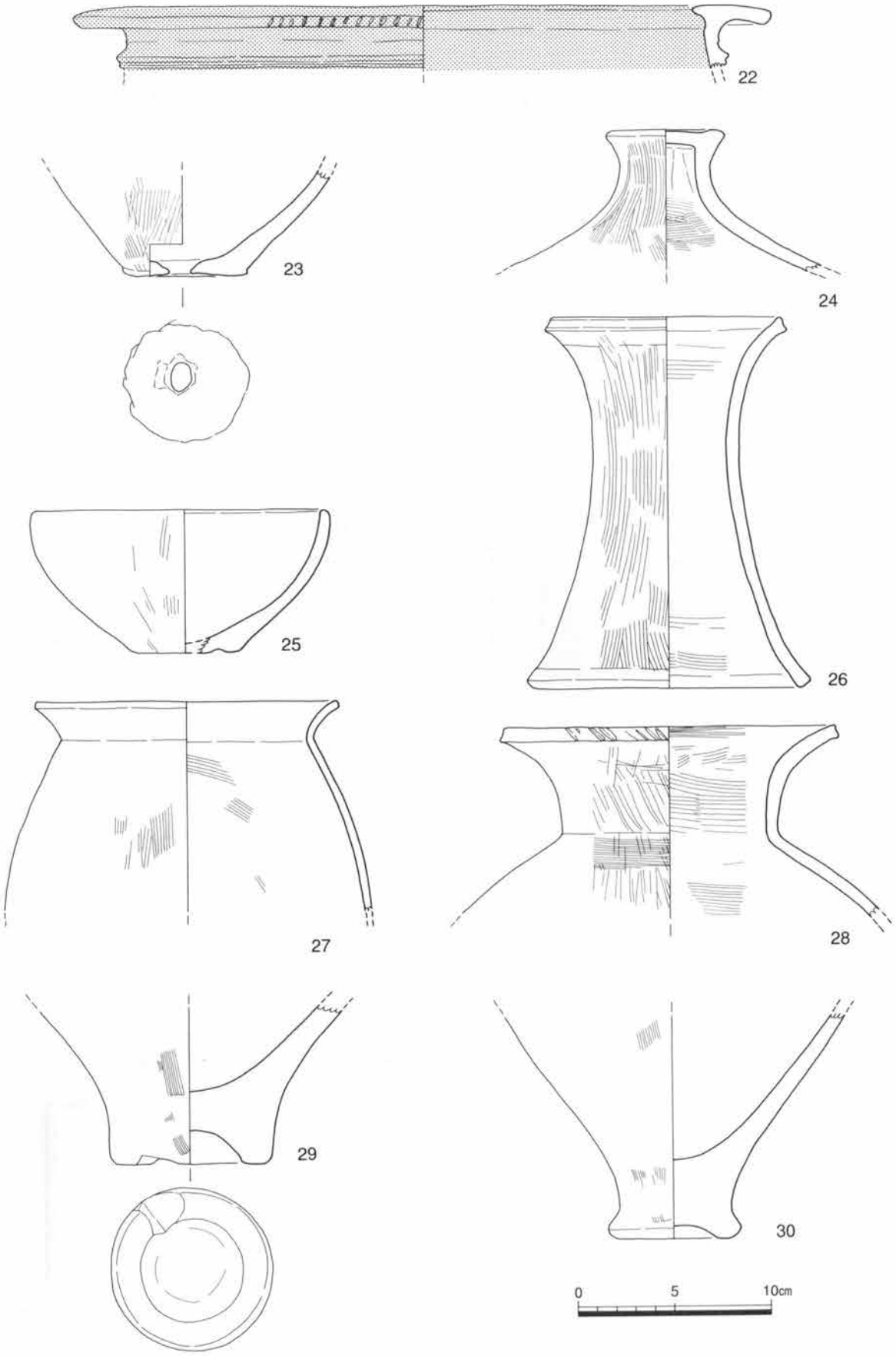


Fig.87　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図④（1/3）

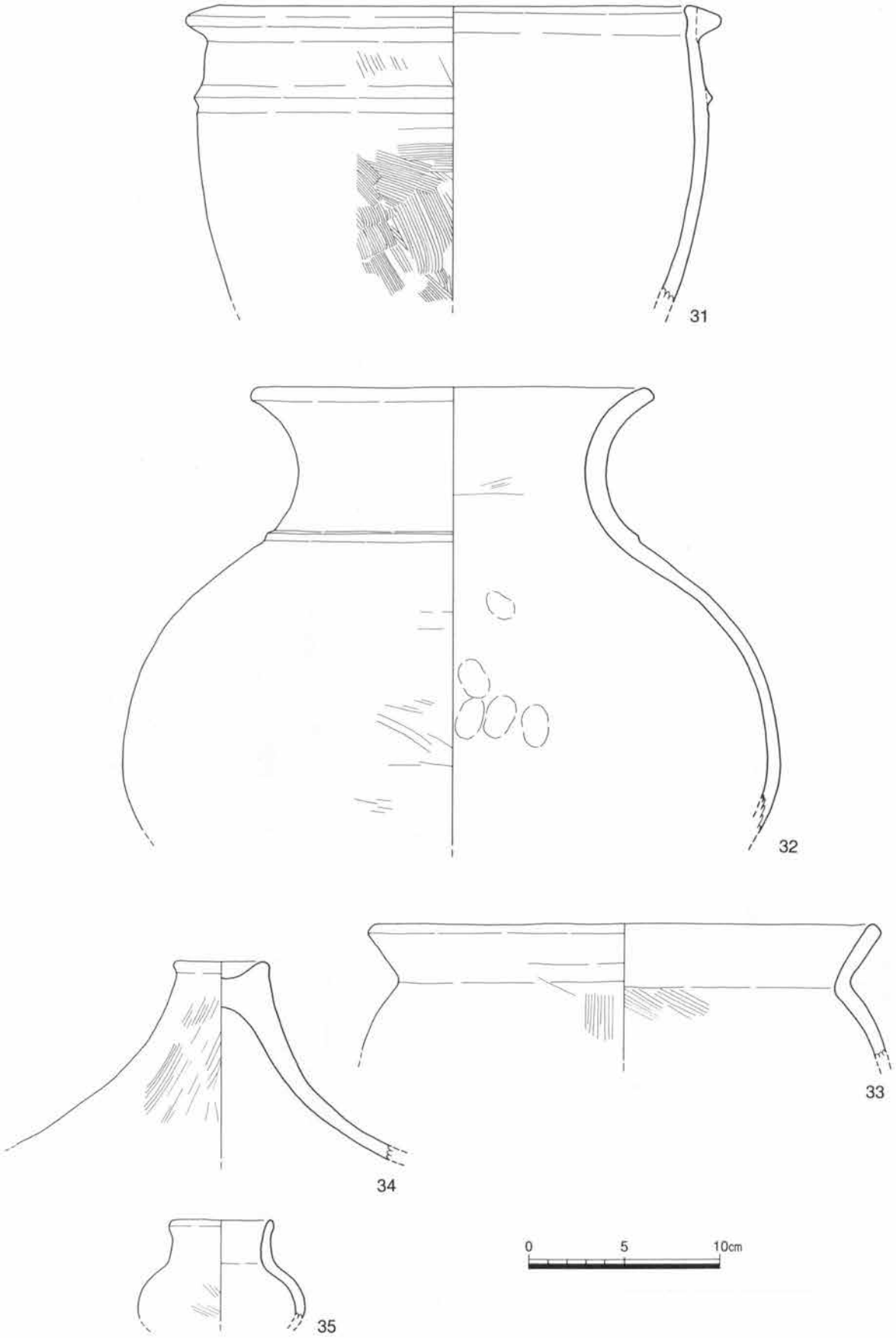


Fig.88　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑤（1/3）

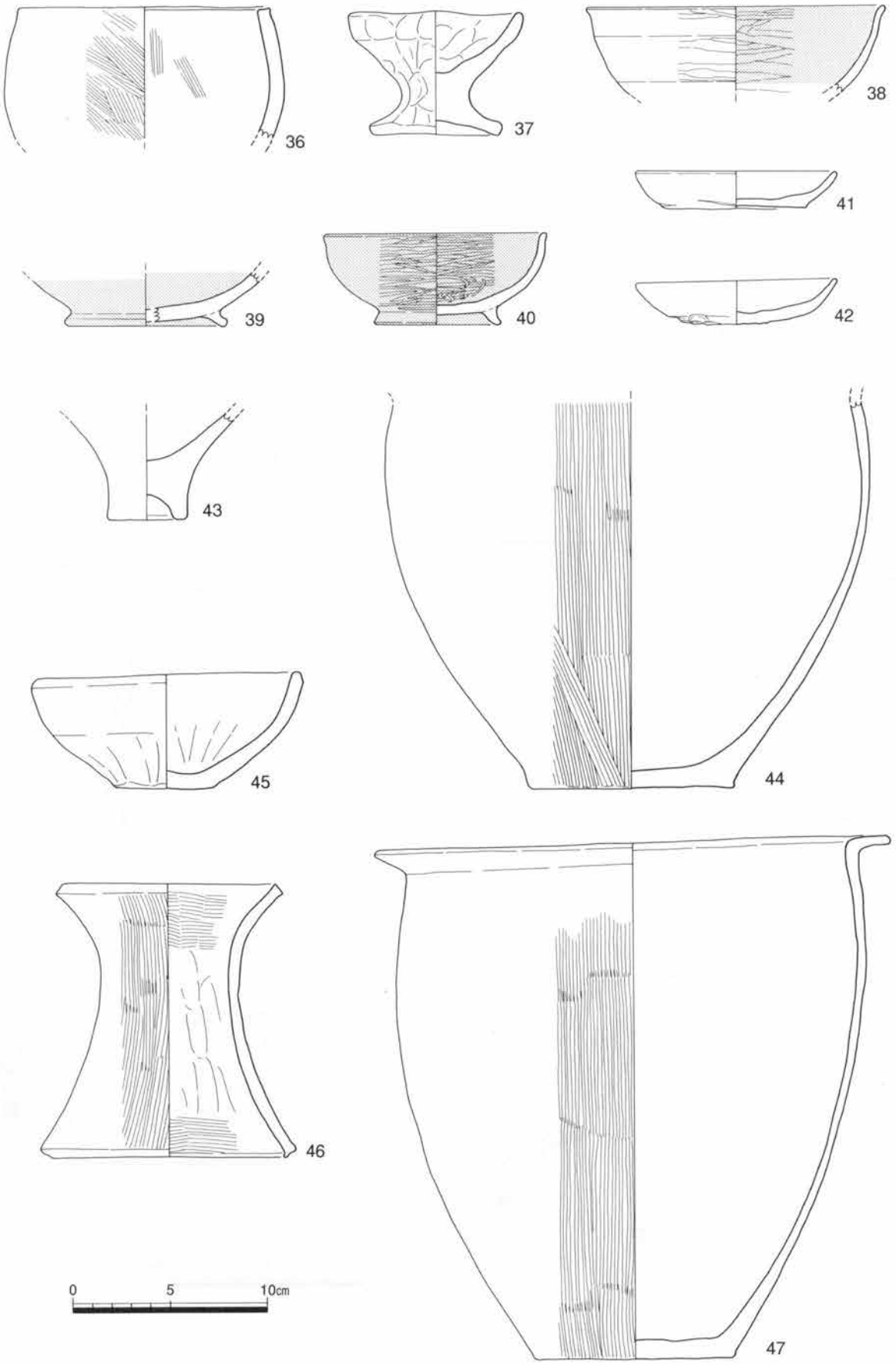


Fig.89　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑥（1/3）

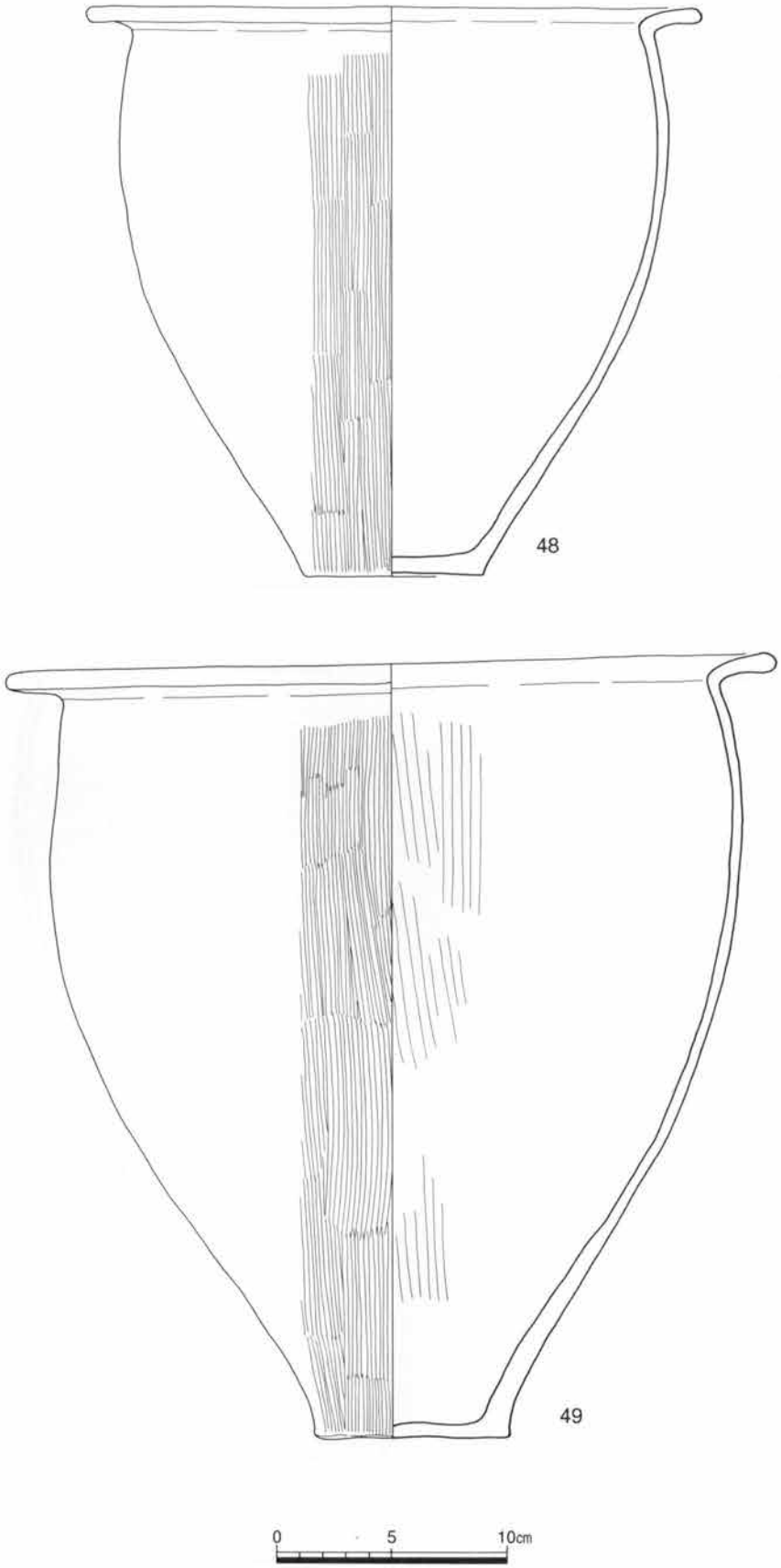


Fig.90　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑦（1/3）

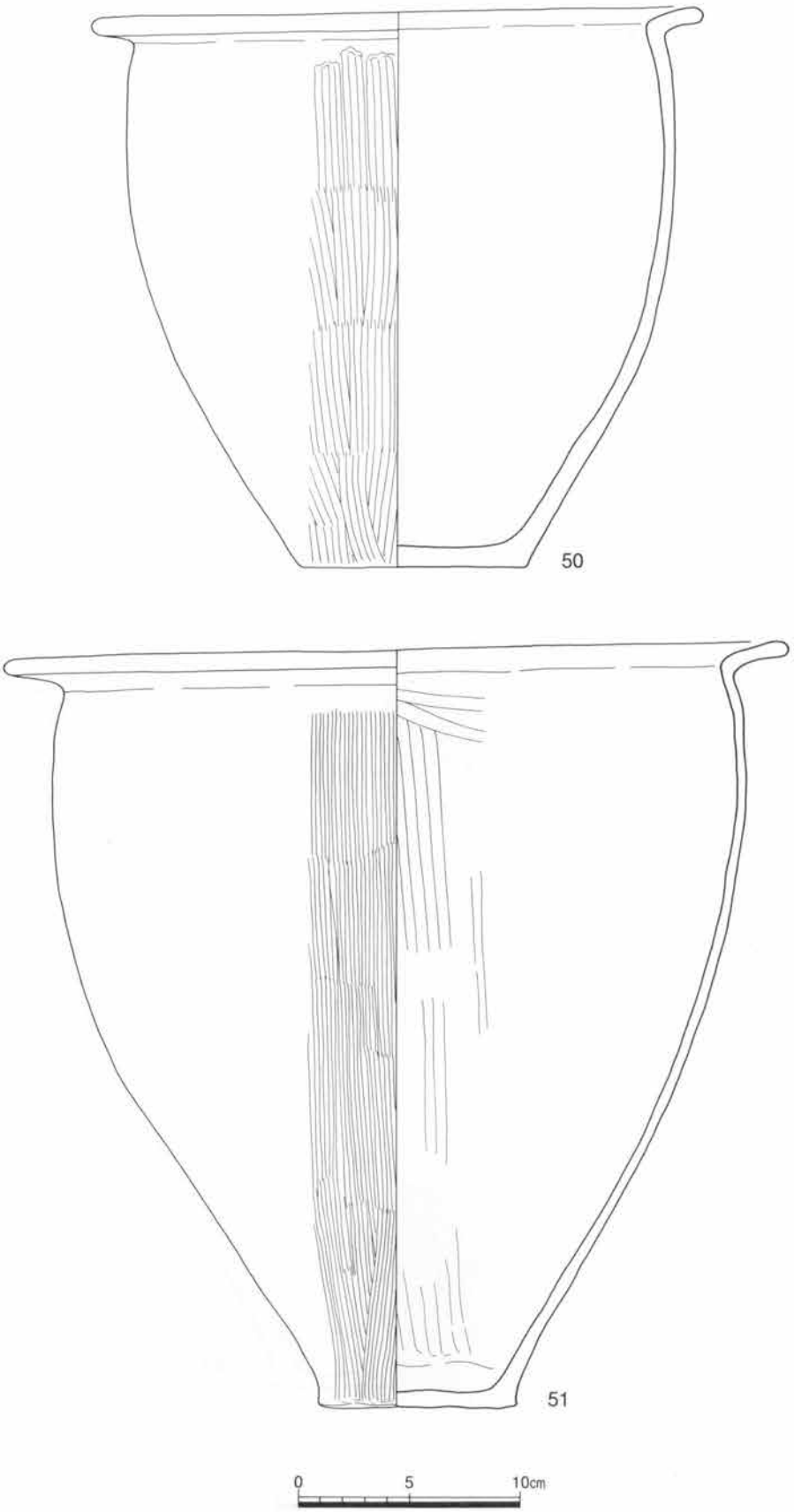


Fig.91　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑧（1/3）

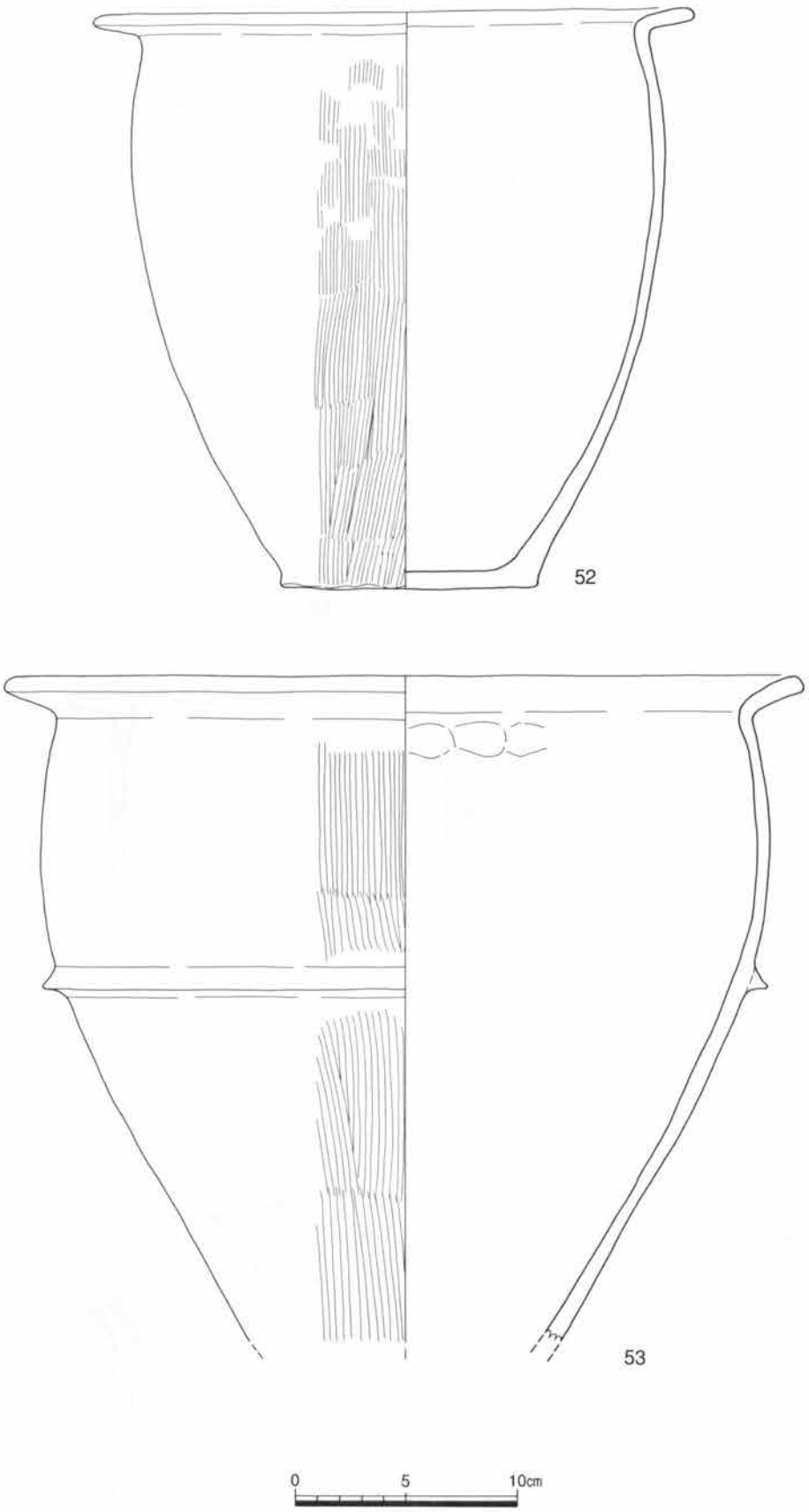


Fig.92　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑨（1/3）

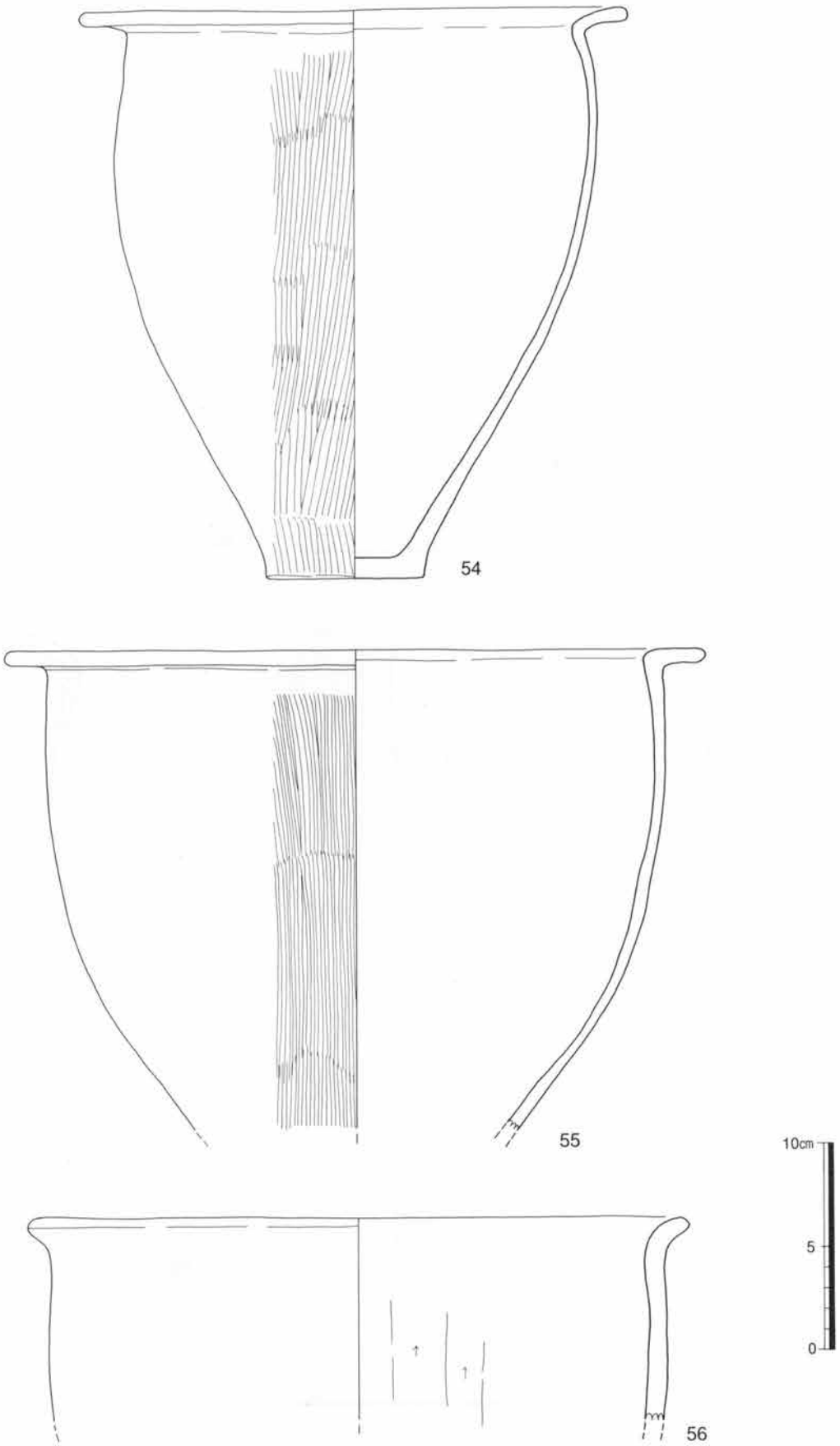


Fig.93　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑩（1/3）

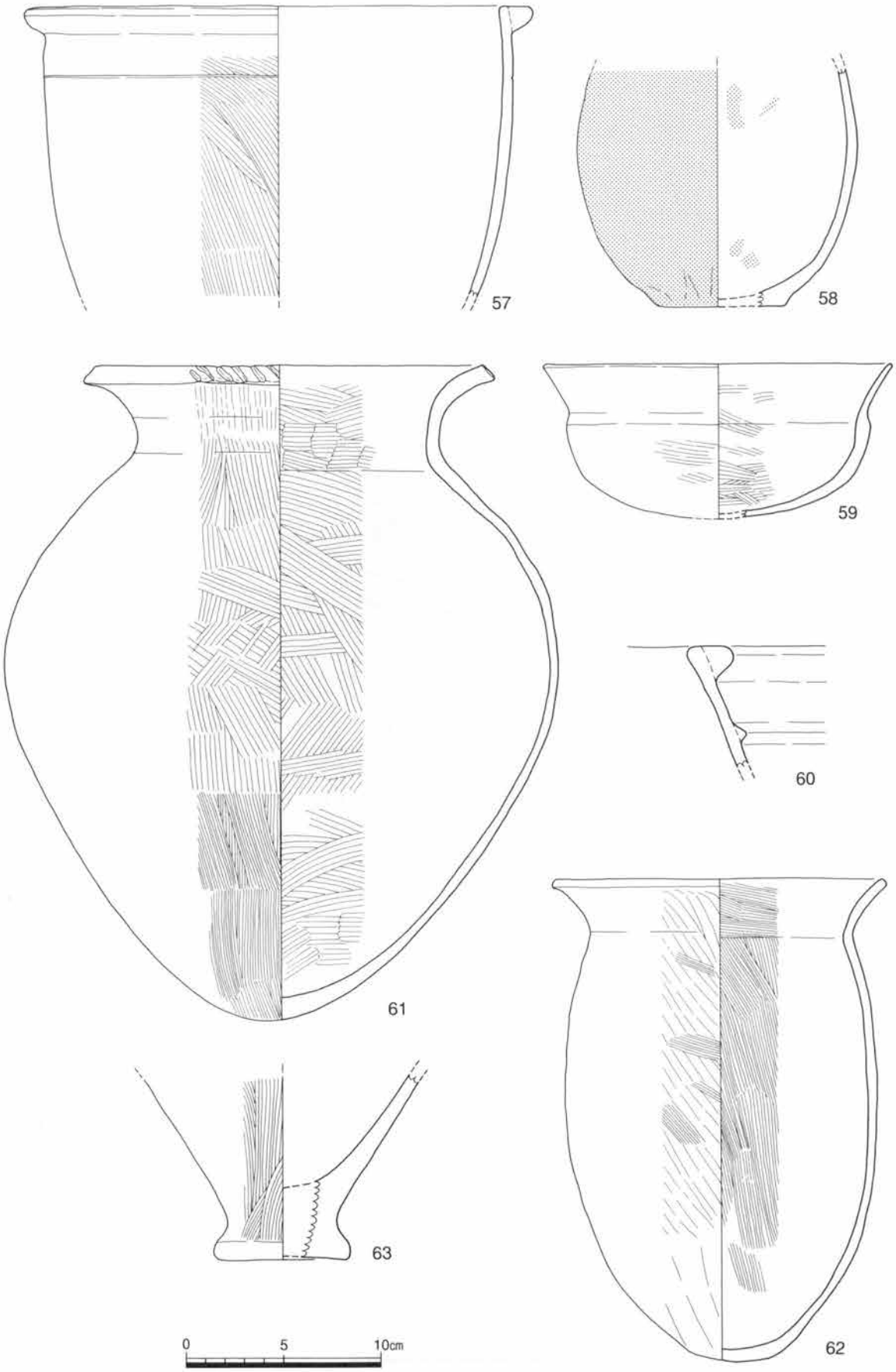


Fig.94　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑪（1/3）

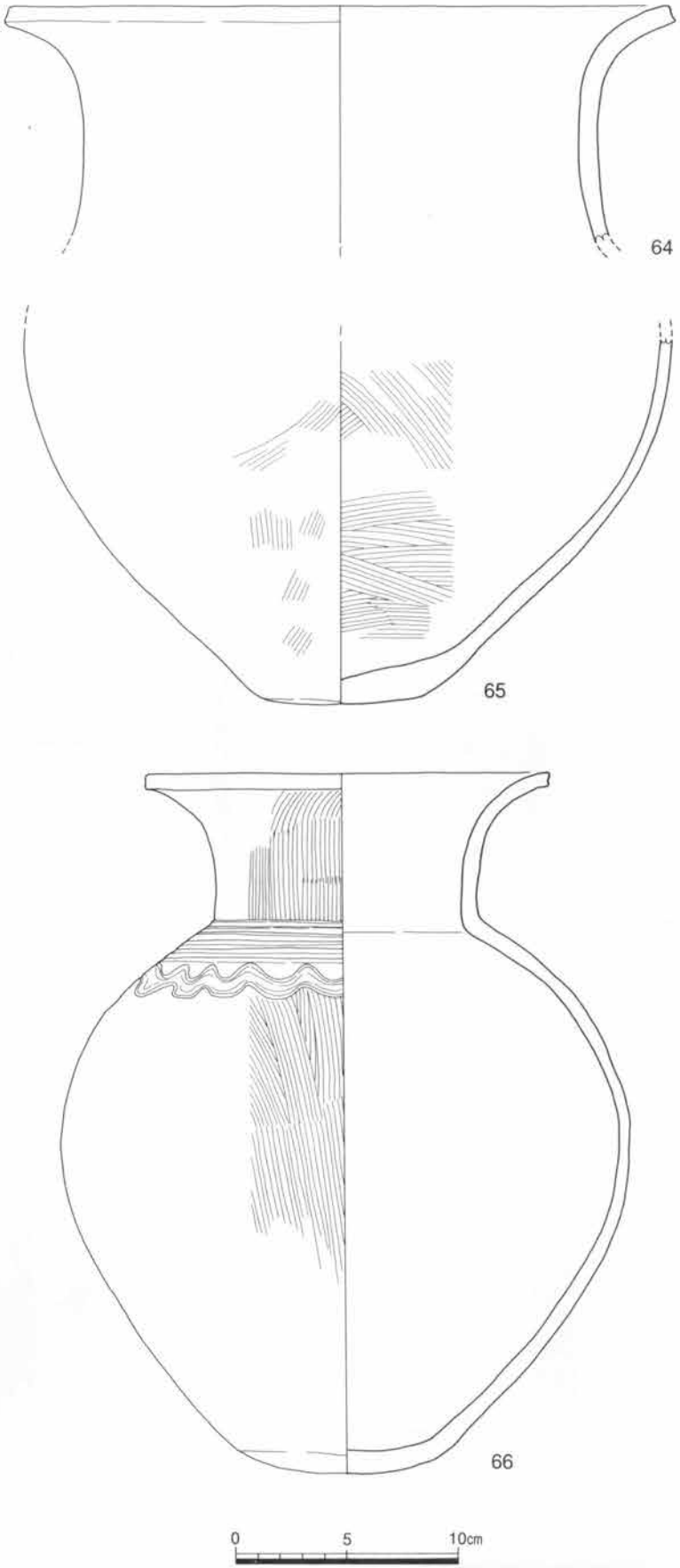


Fig.95　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑫（1/3）

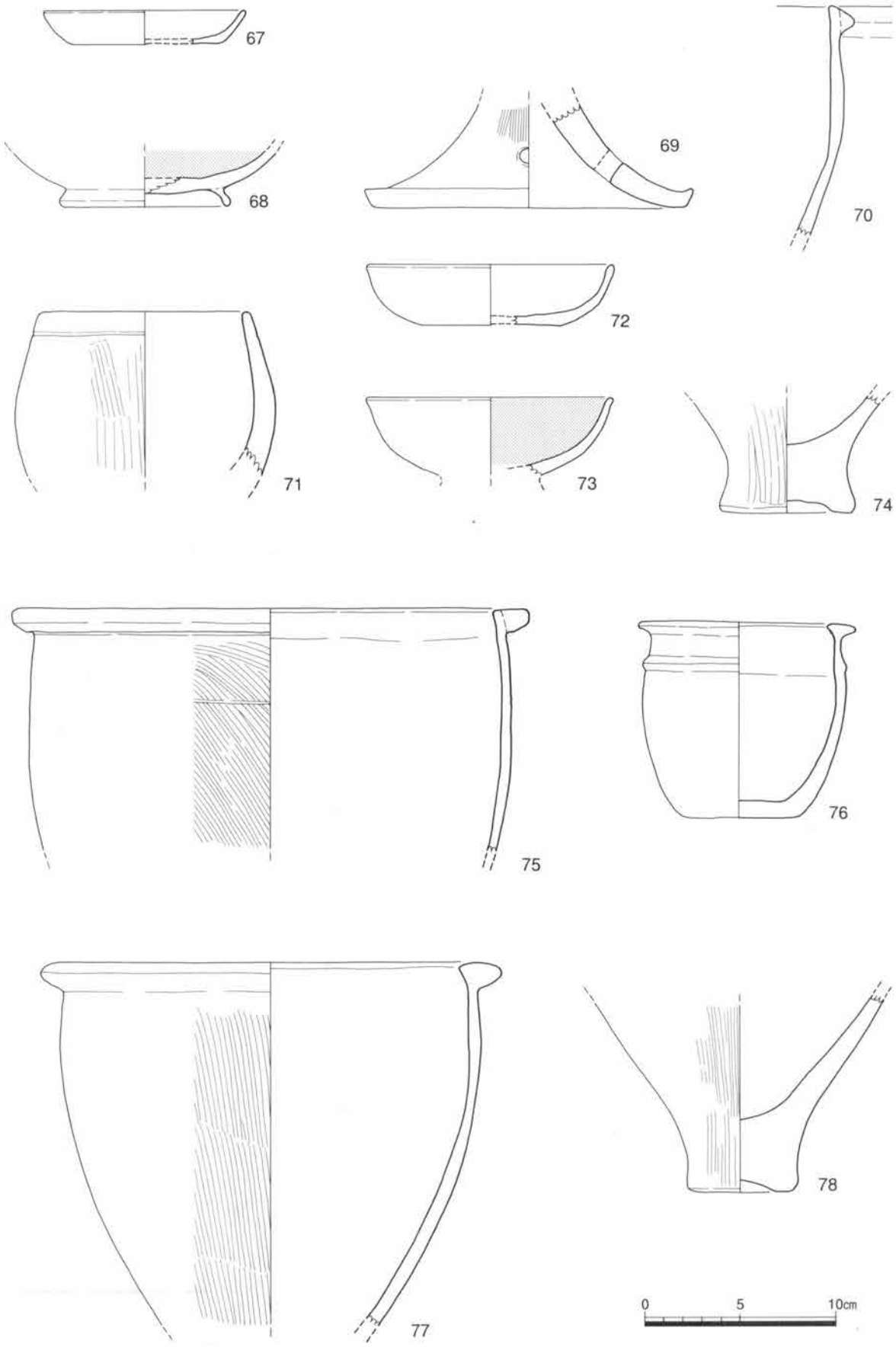


Fig.96　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑬（1/3）

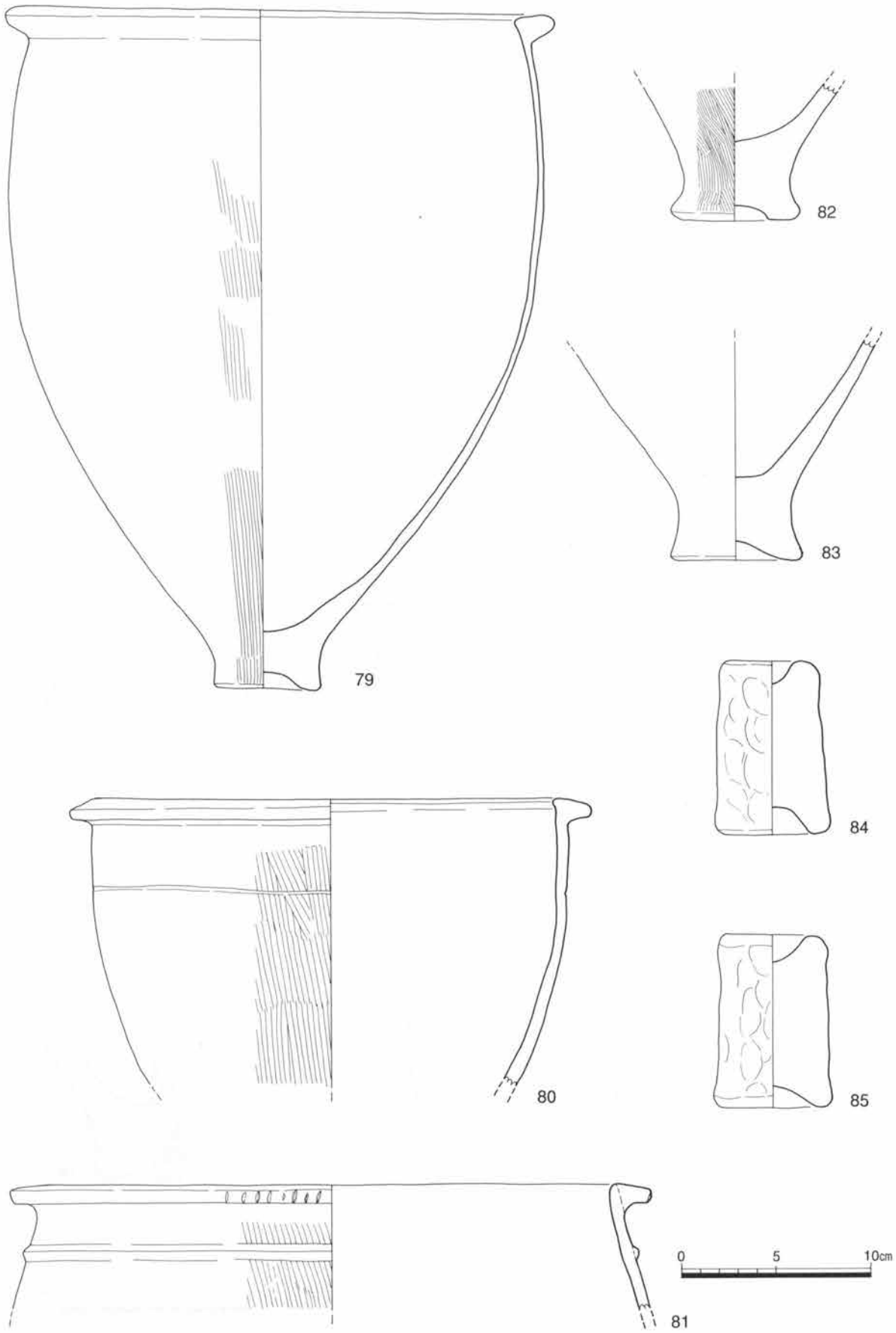


Fig.97　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑭（1/3）

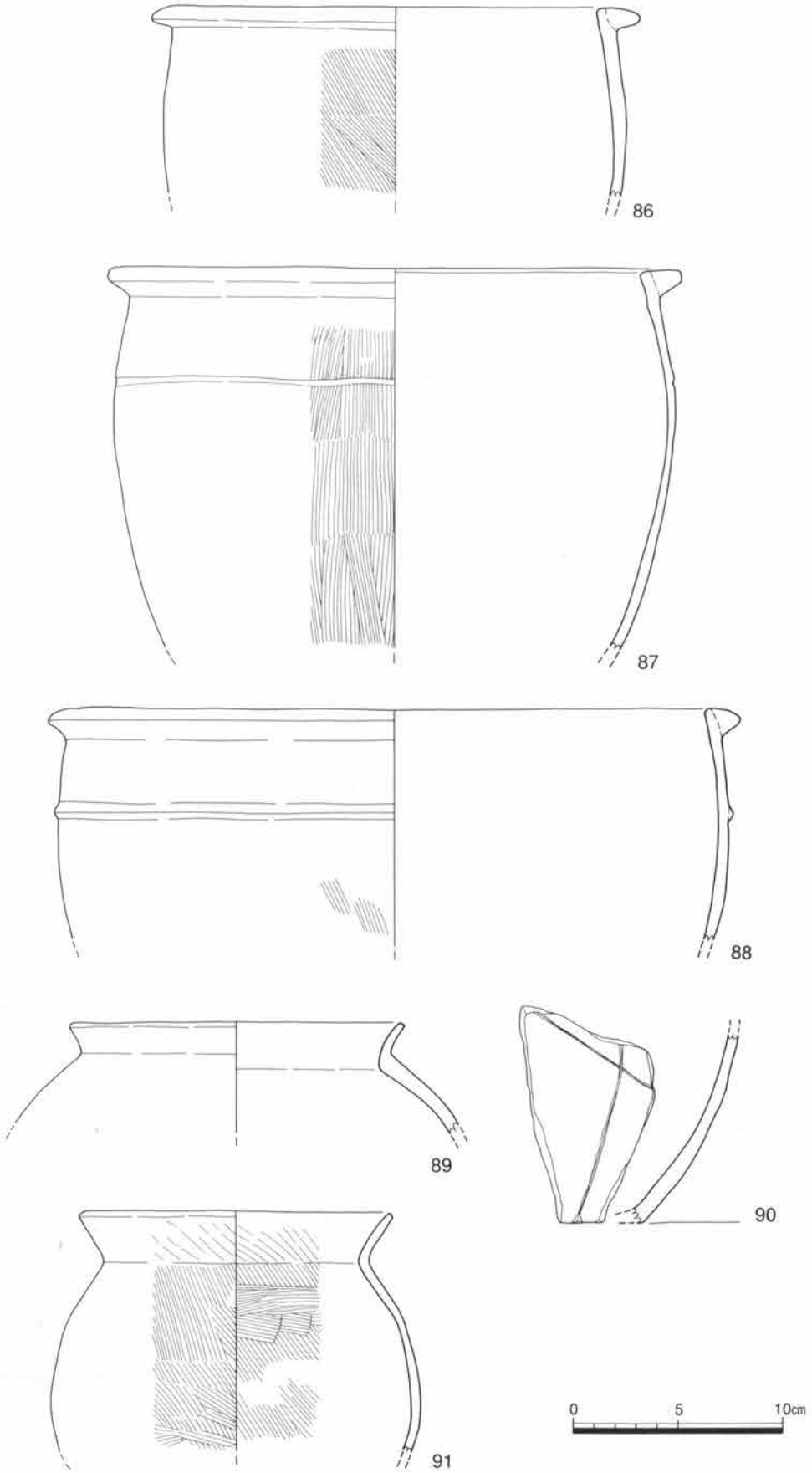


Fig.98　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑮（1/3）

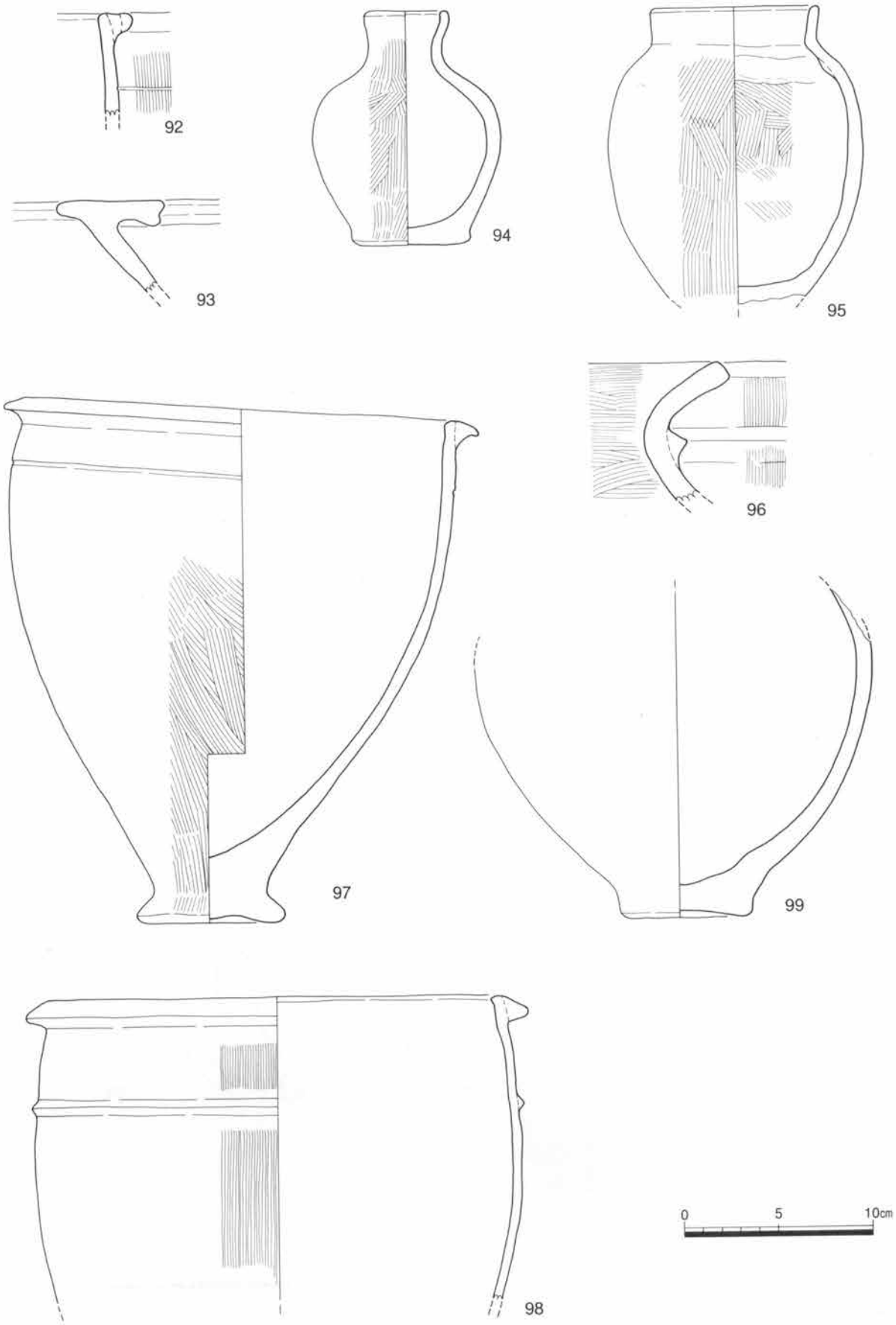


Fig.99　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑯（1/3）

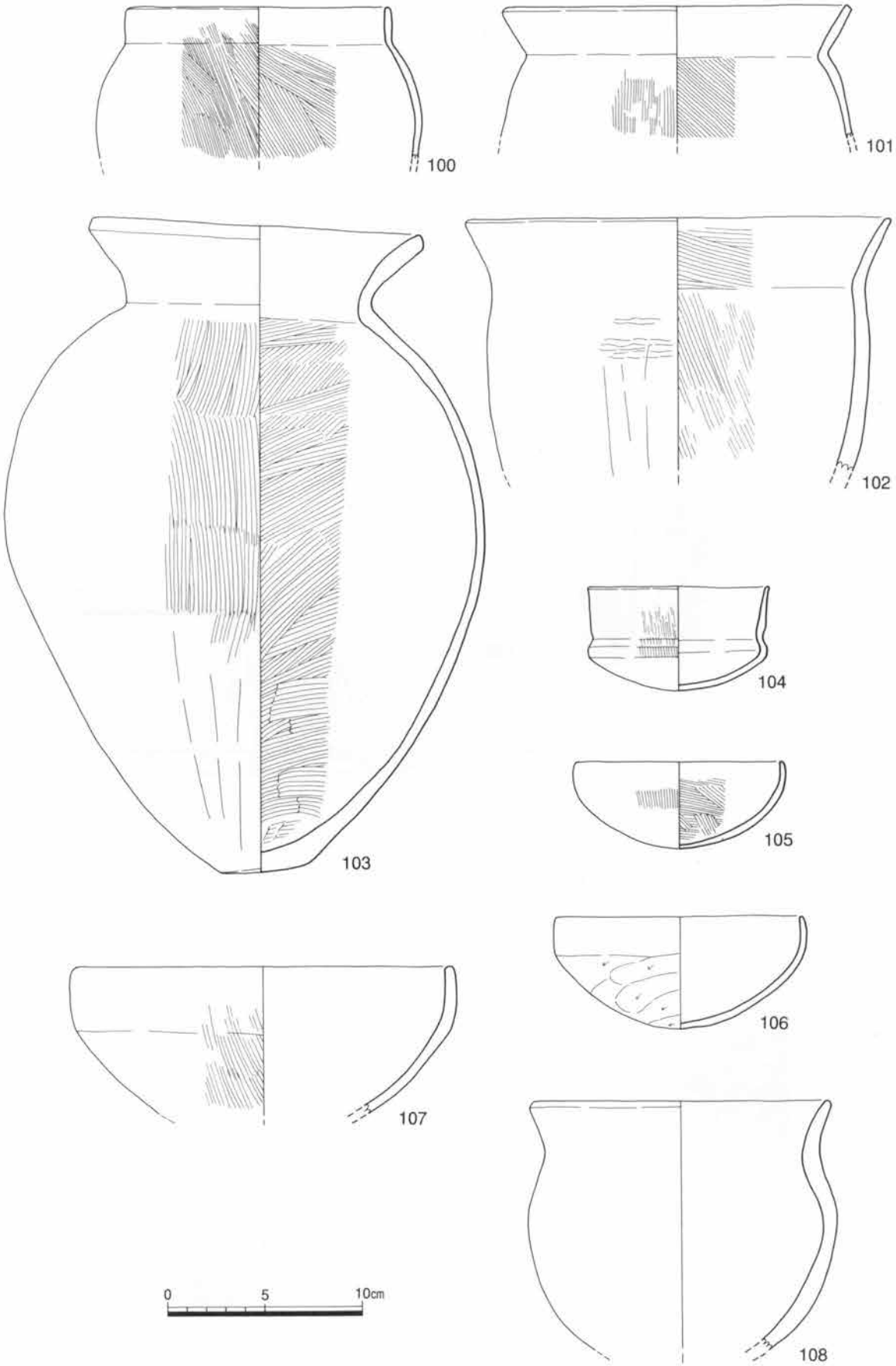


Fig.100　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑰（1/3）

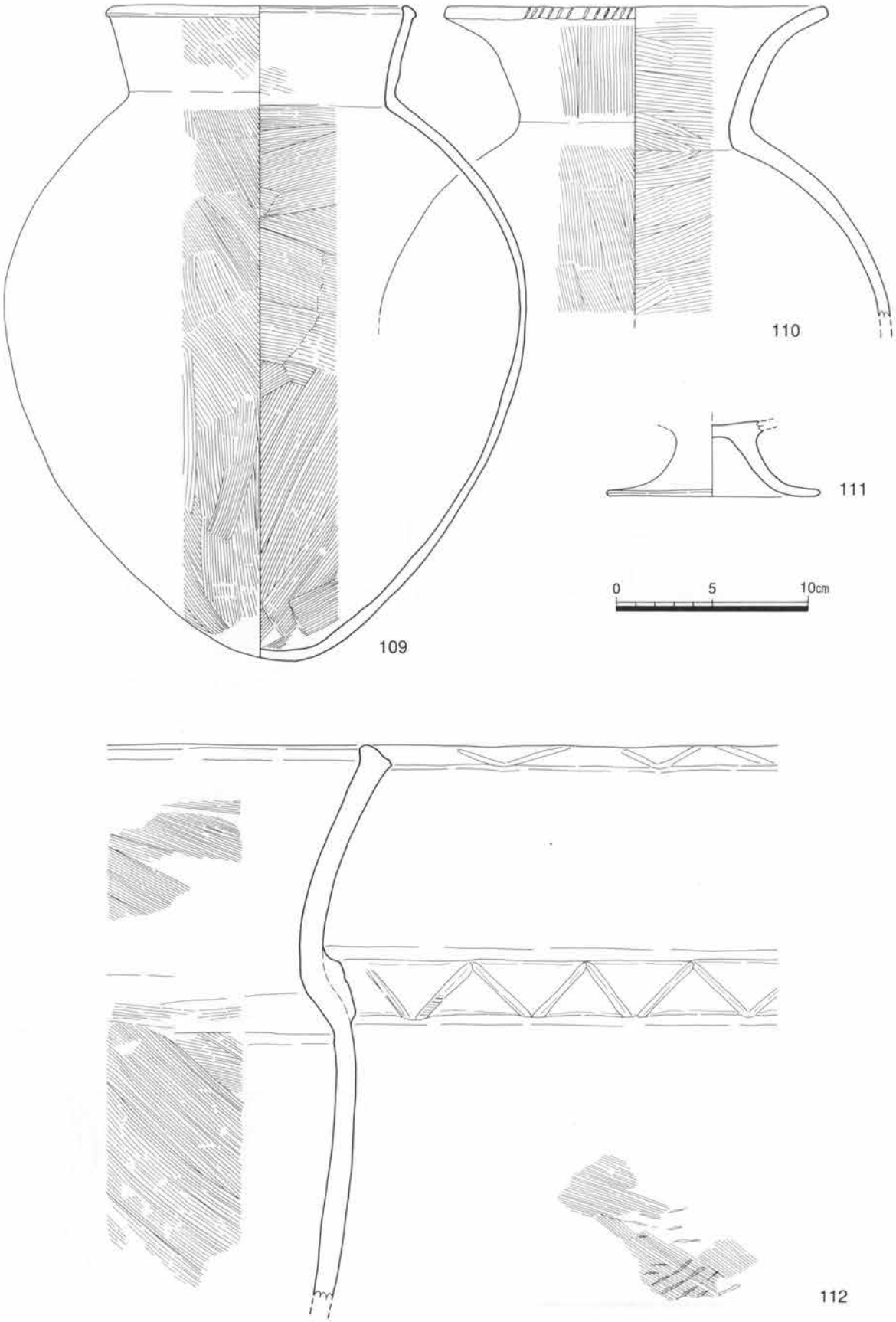


Fig.101　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑱（1/3）

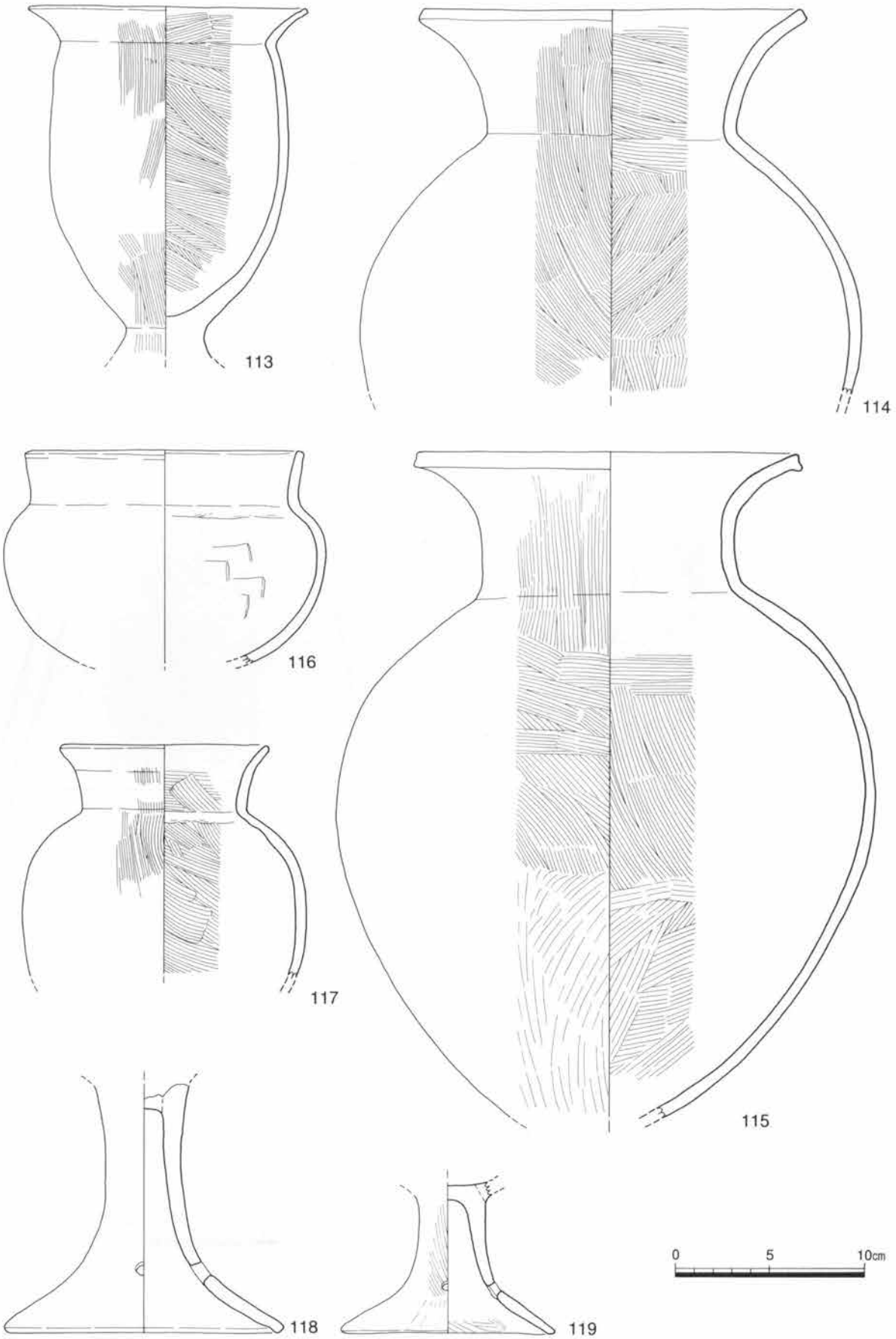


Fig.102　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑲（1/3）

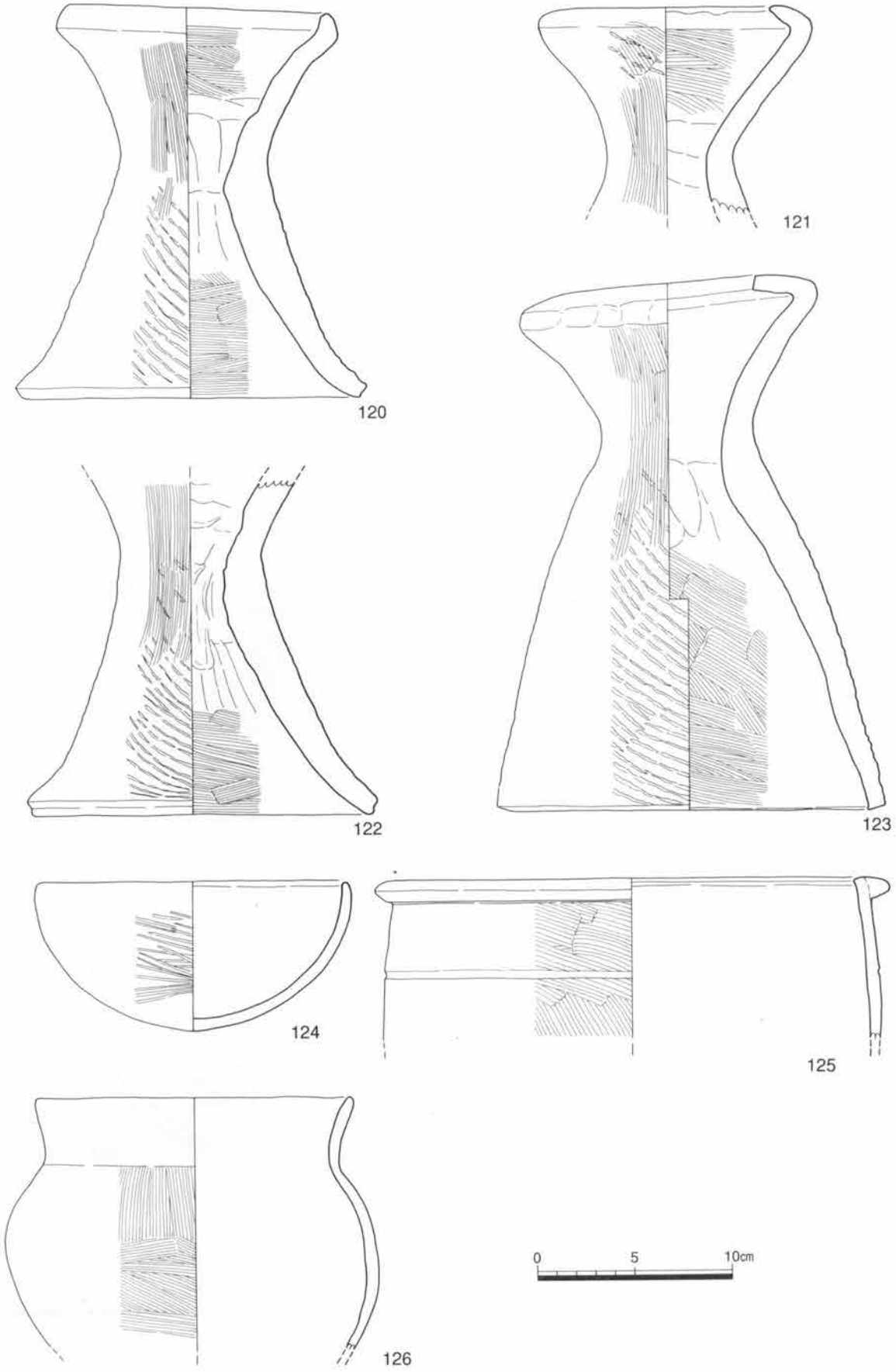


Fig.103　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑳（1/3）

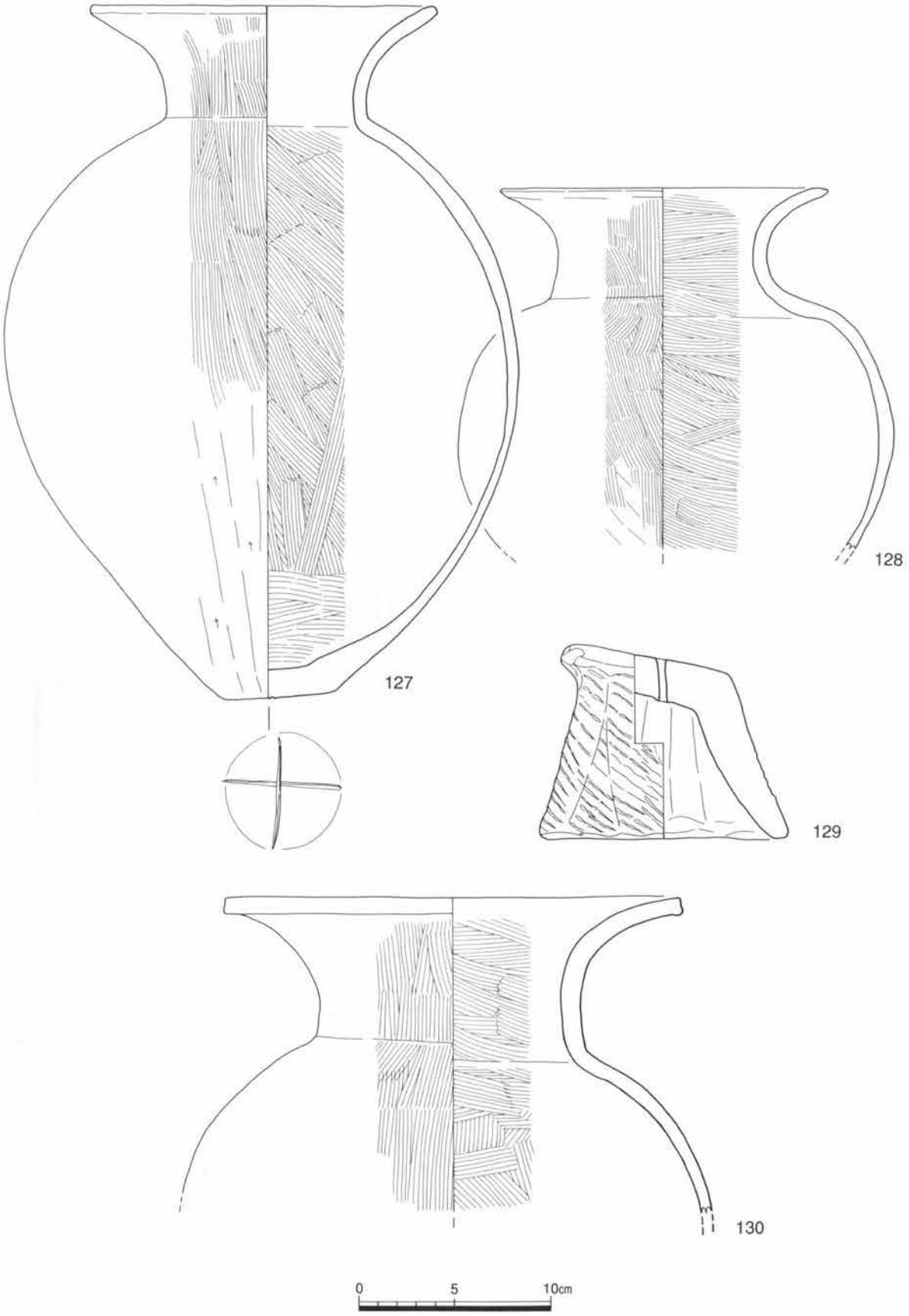


Fig.104　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉑（1/3）

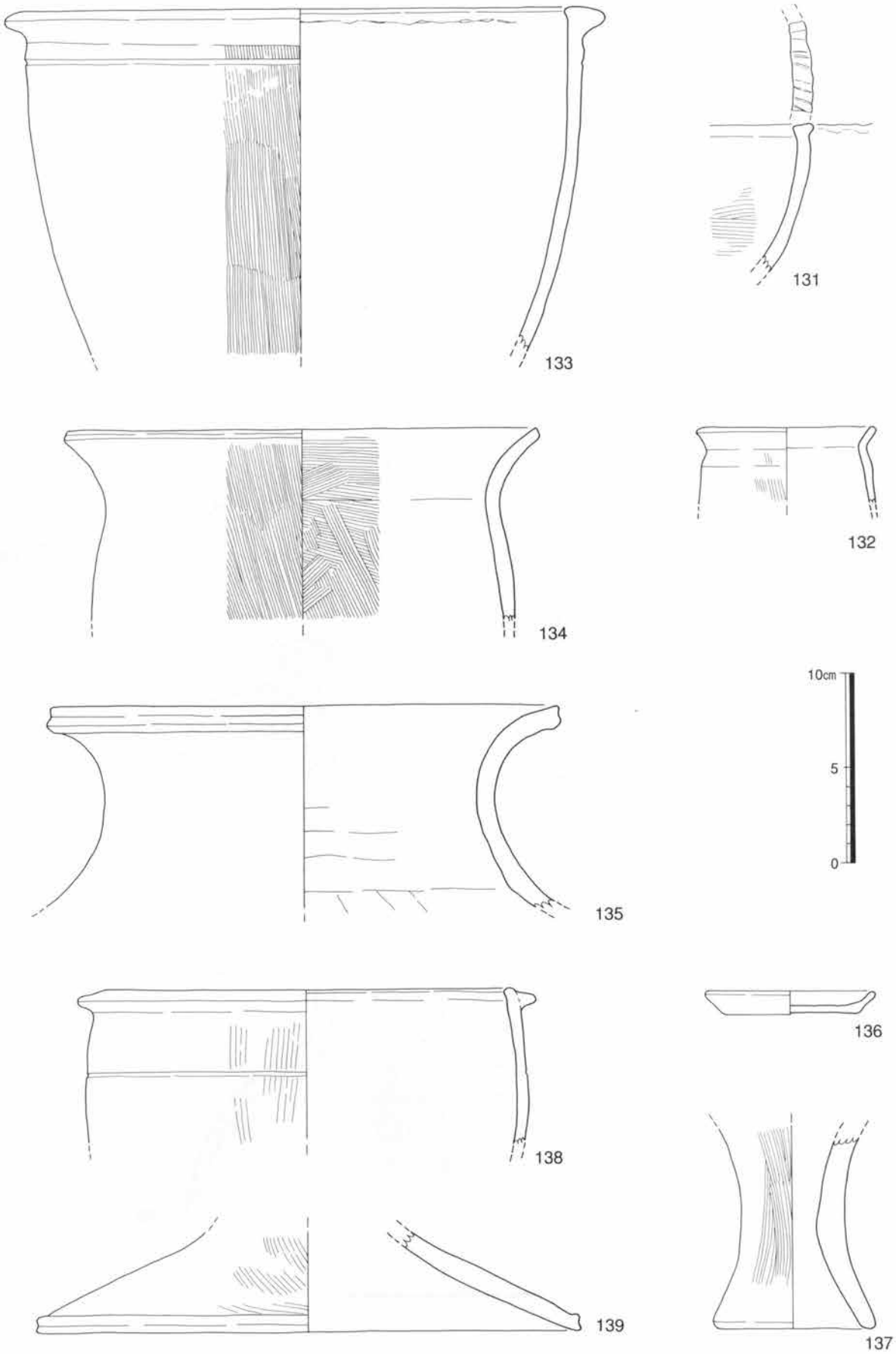


Fig.105　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉒（1/3）

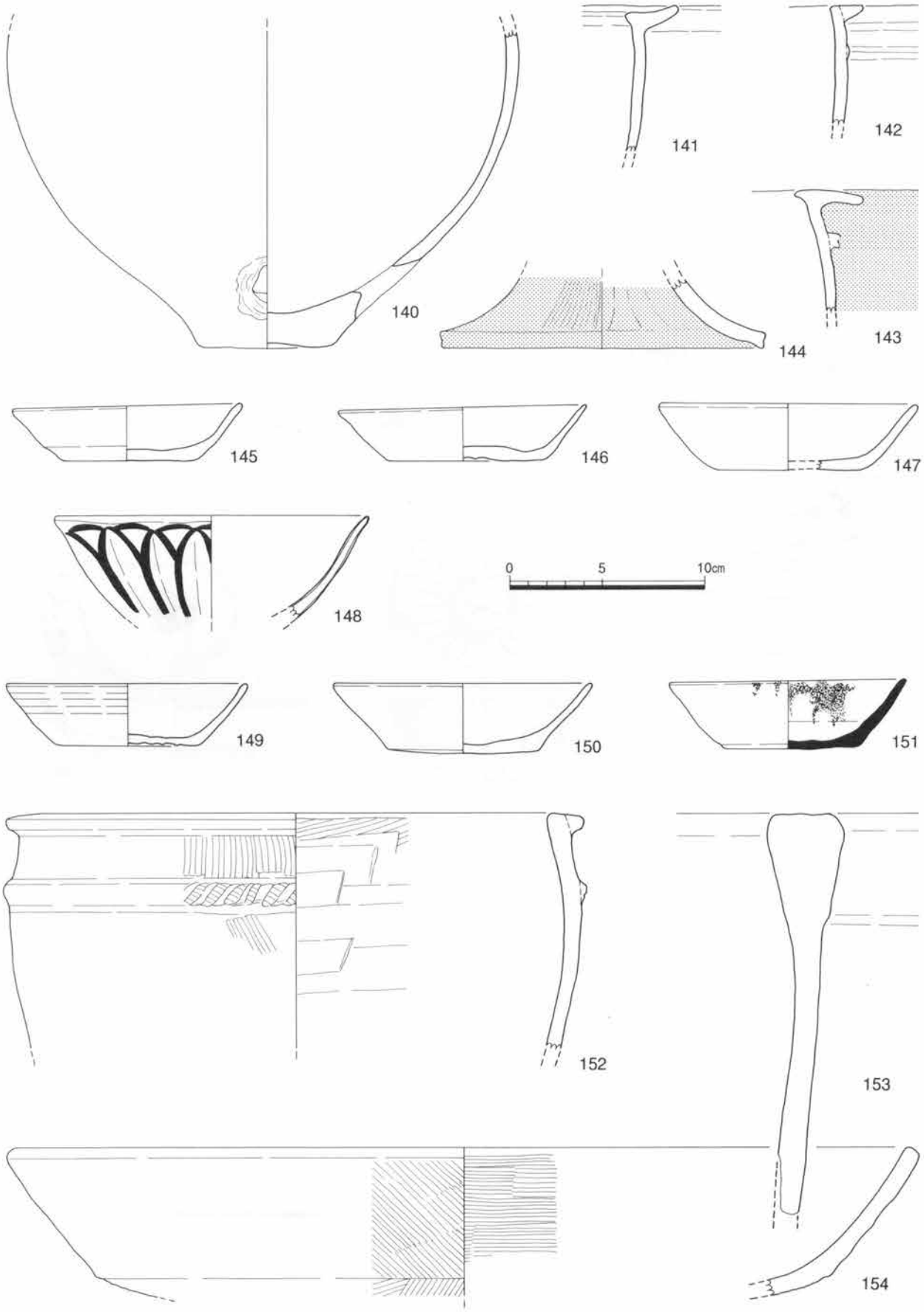


Fig.106　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉓（1/3）

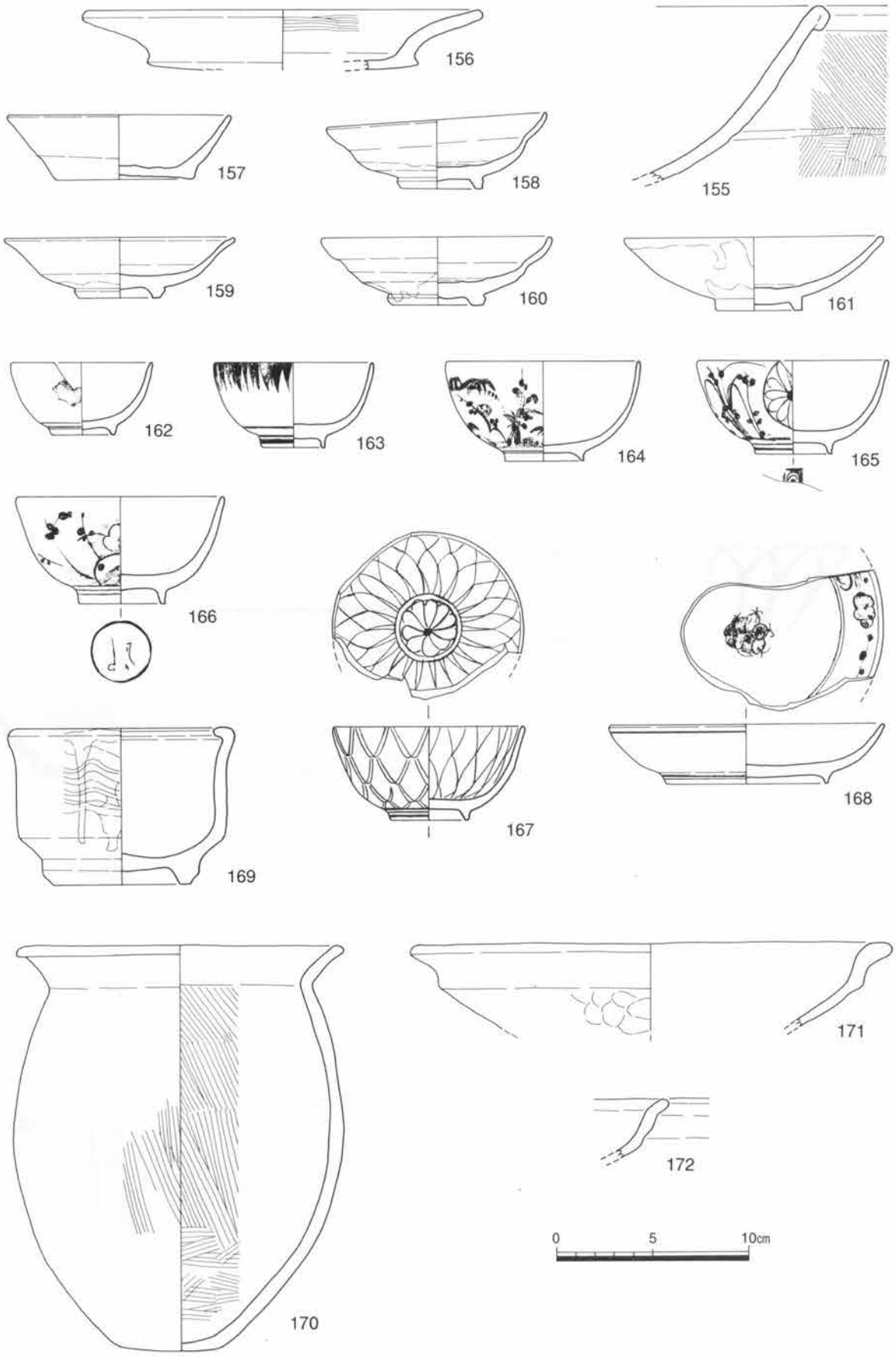


Fig.107　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉔（1/3）

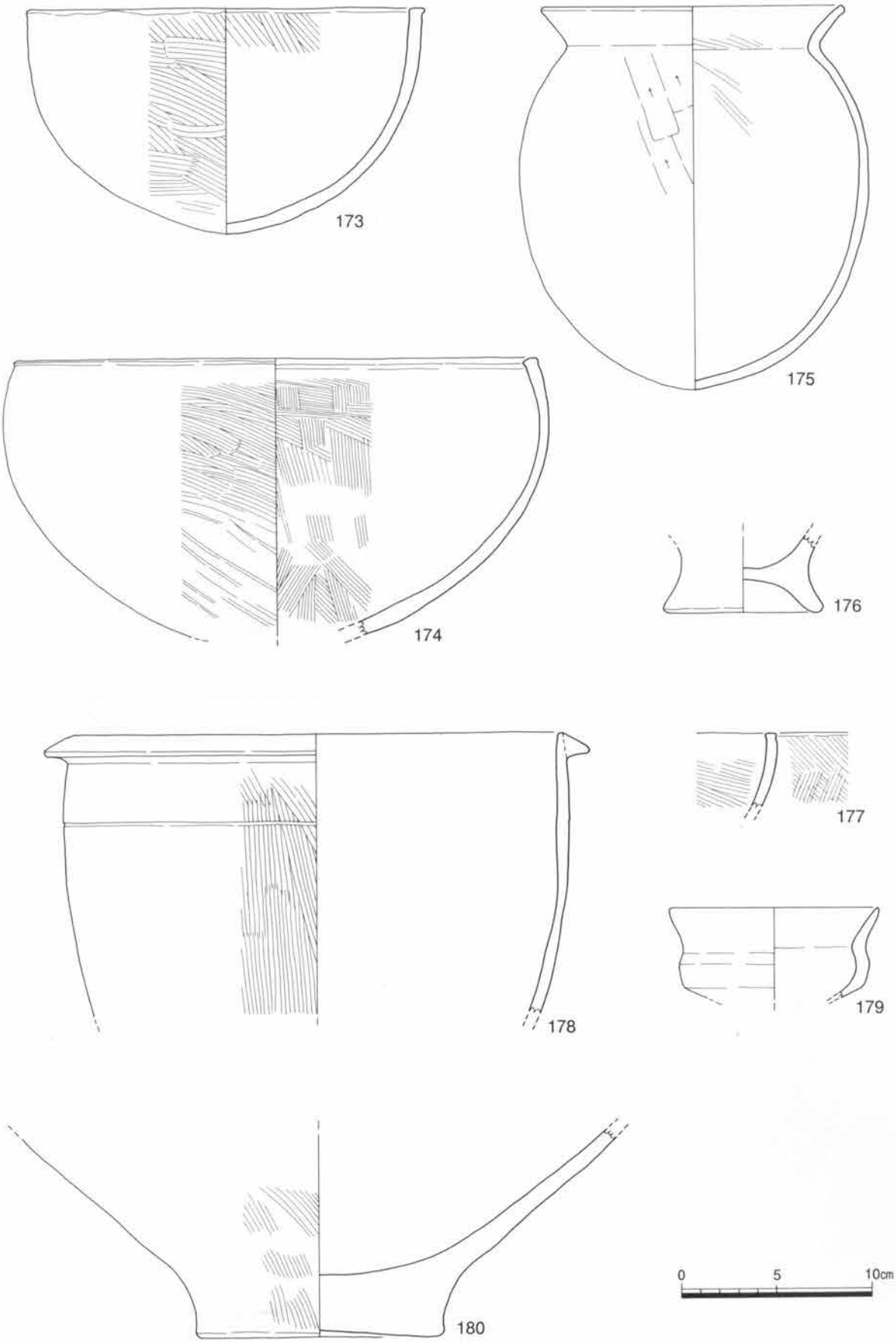


Fig.108　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉕（1/3）

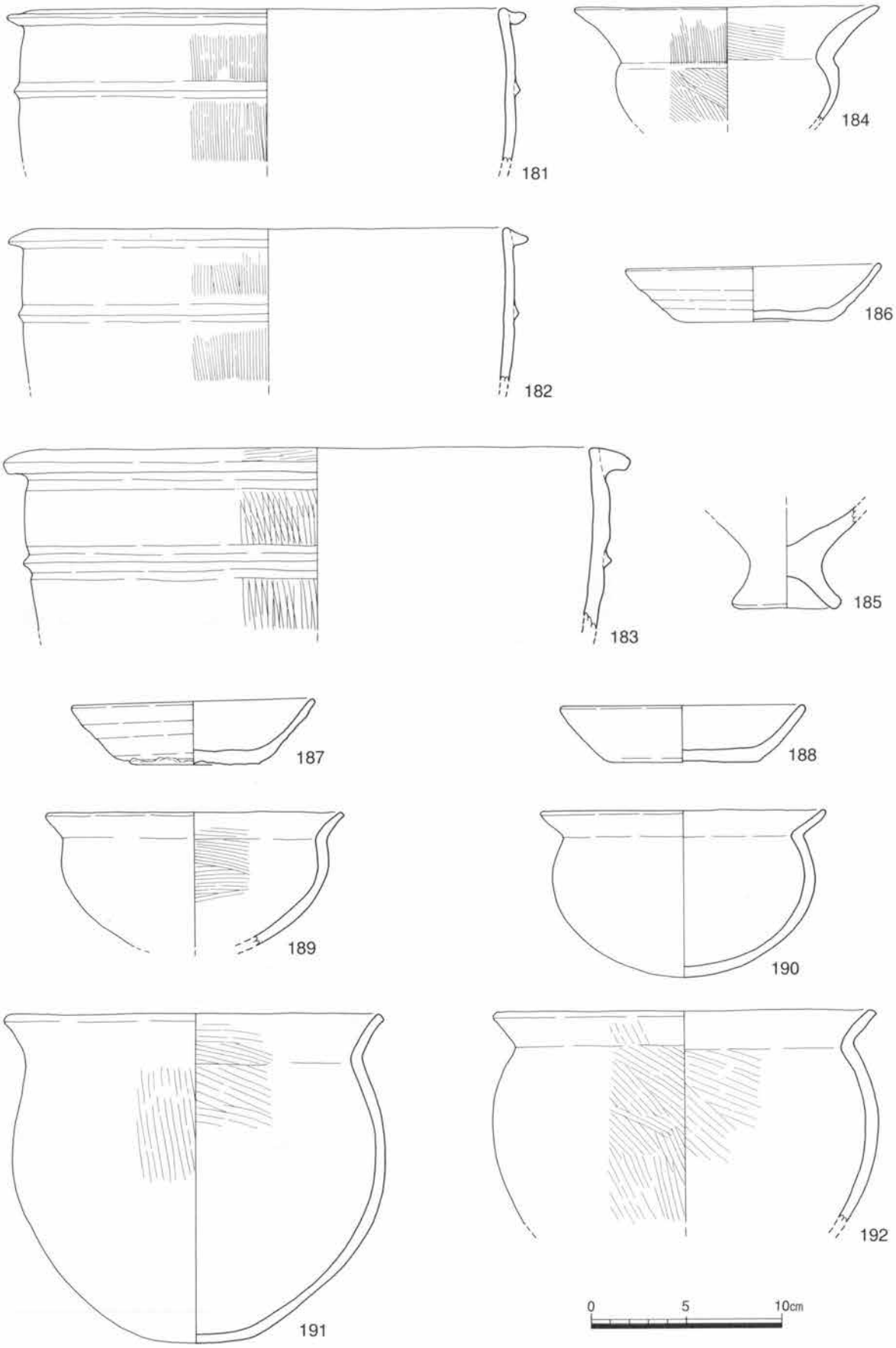


Fig.109　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉖（1/3）

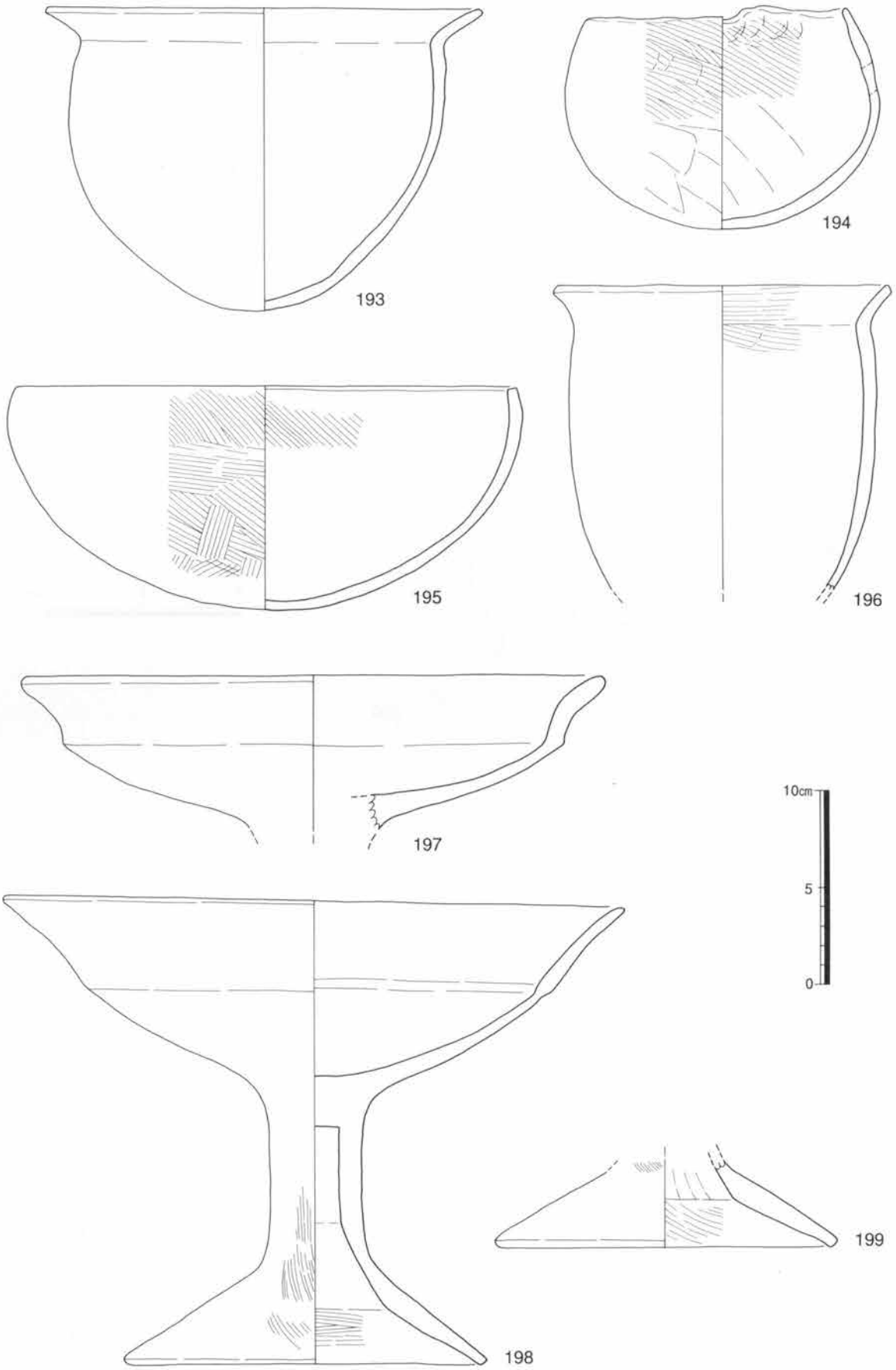


Fig.110　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉗（1/3）

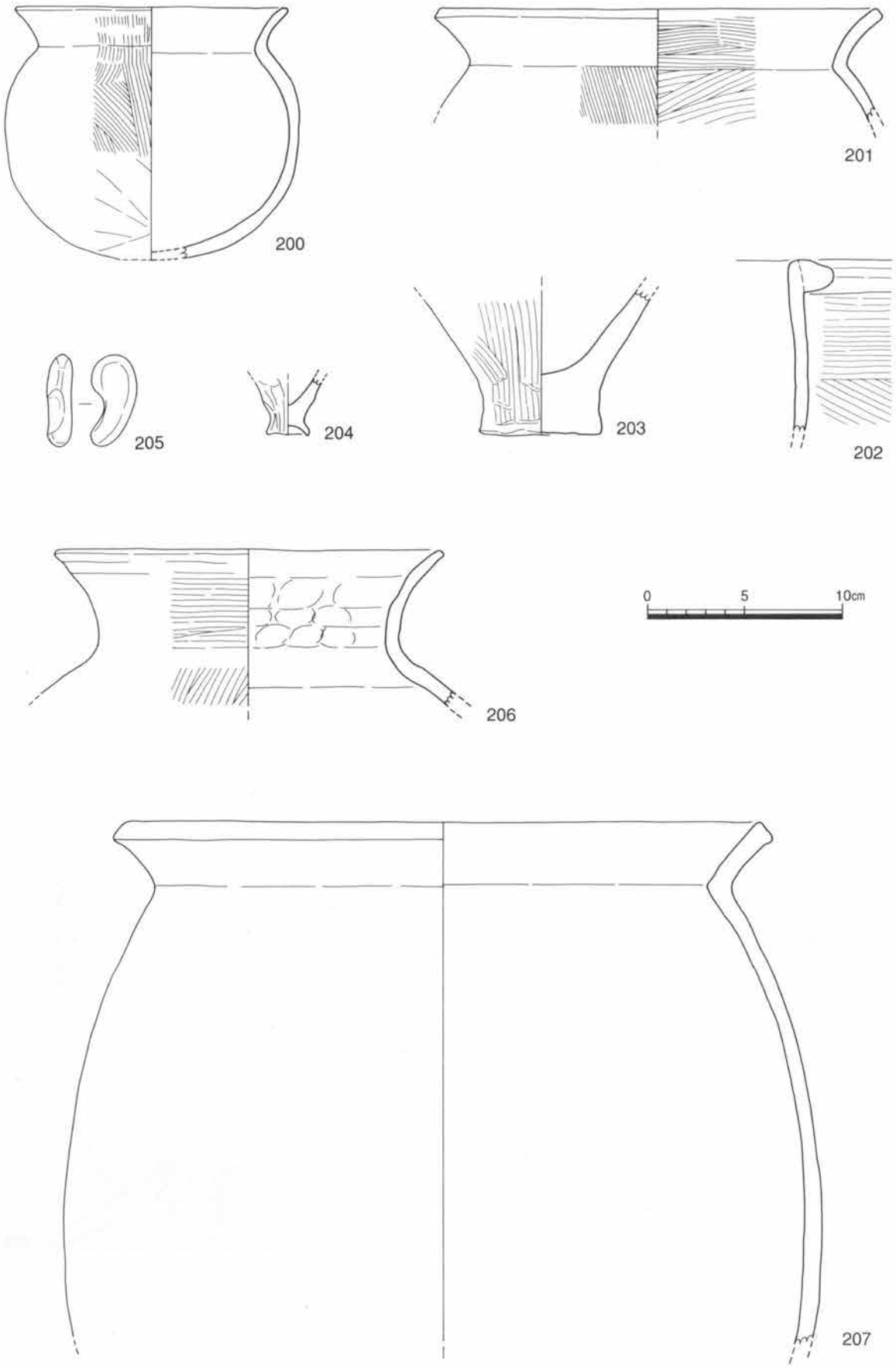


Fig.111　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉘（1/3）

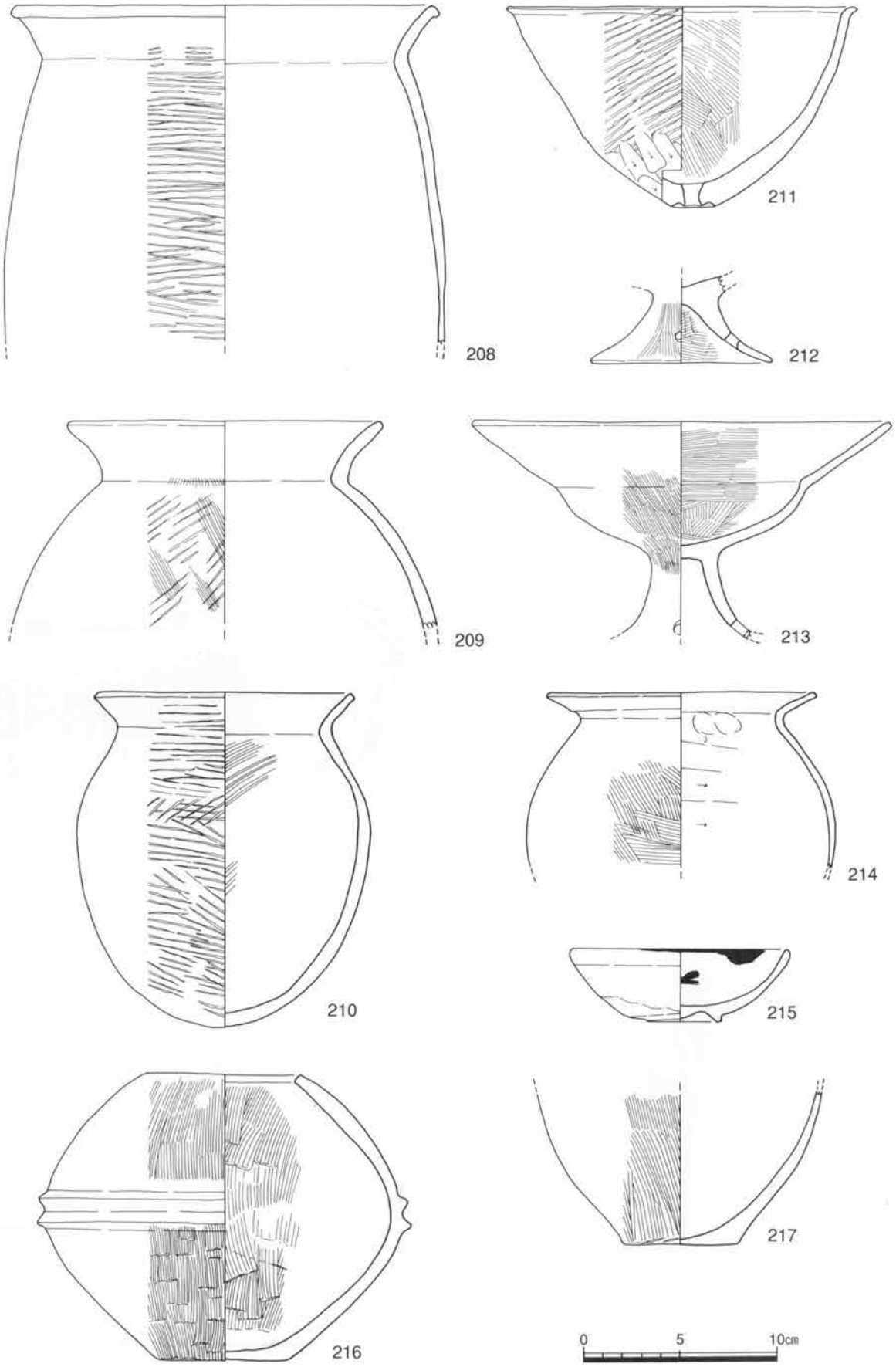


Fig.112　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉙（1/3）

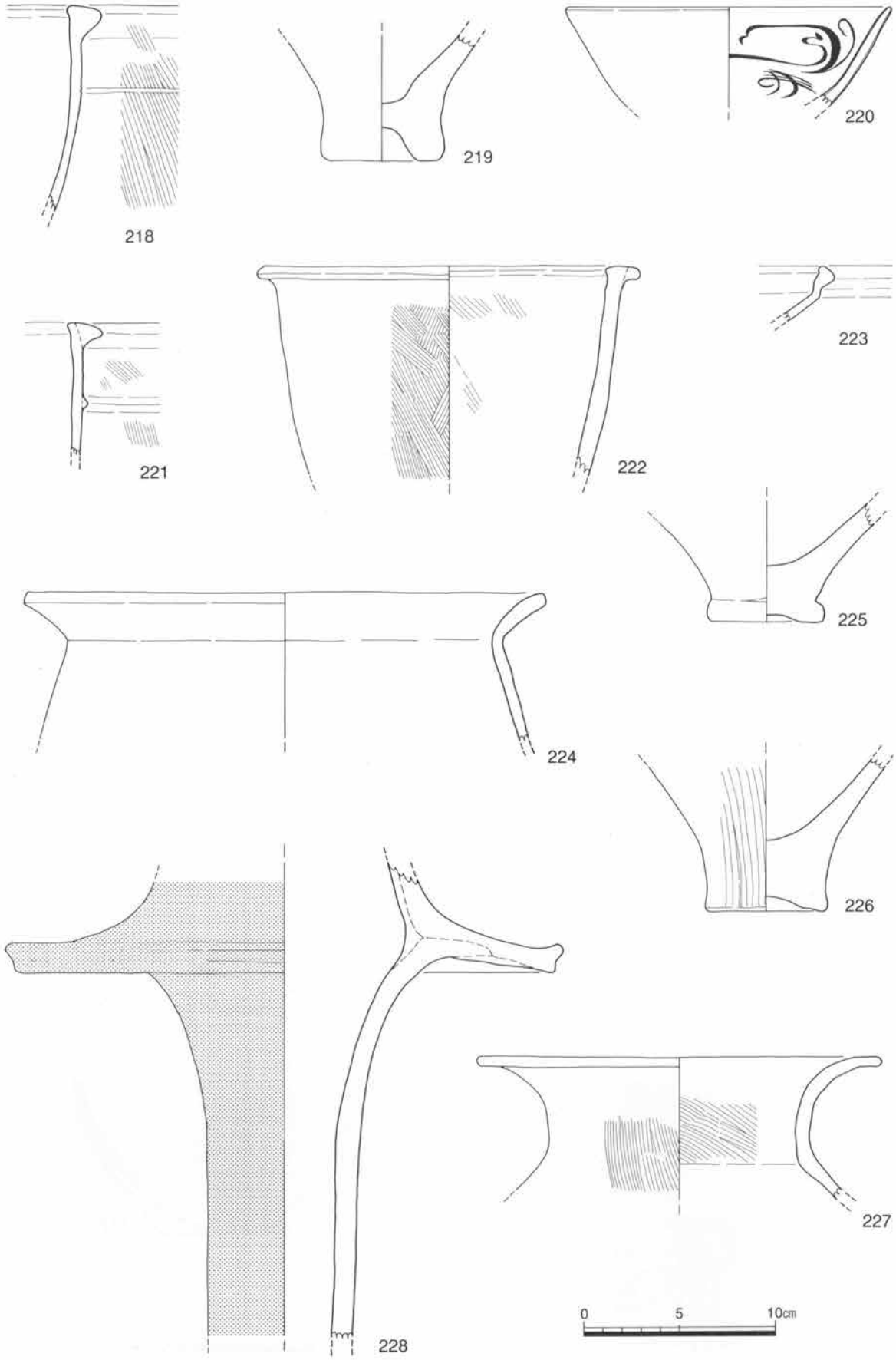


Fig.113　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉚（1/3）

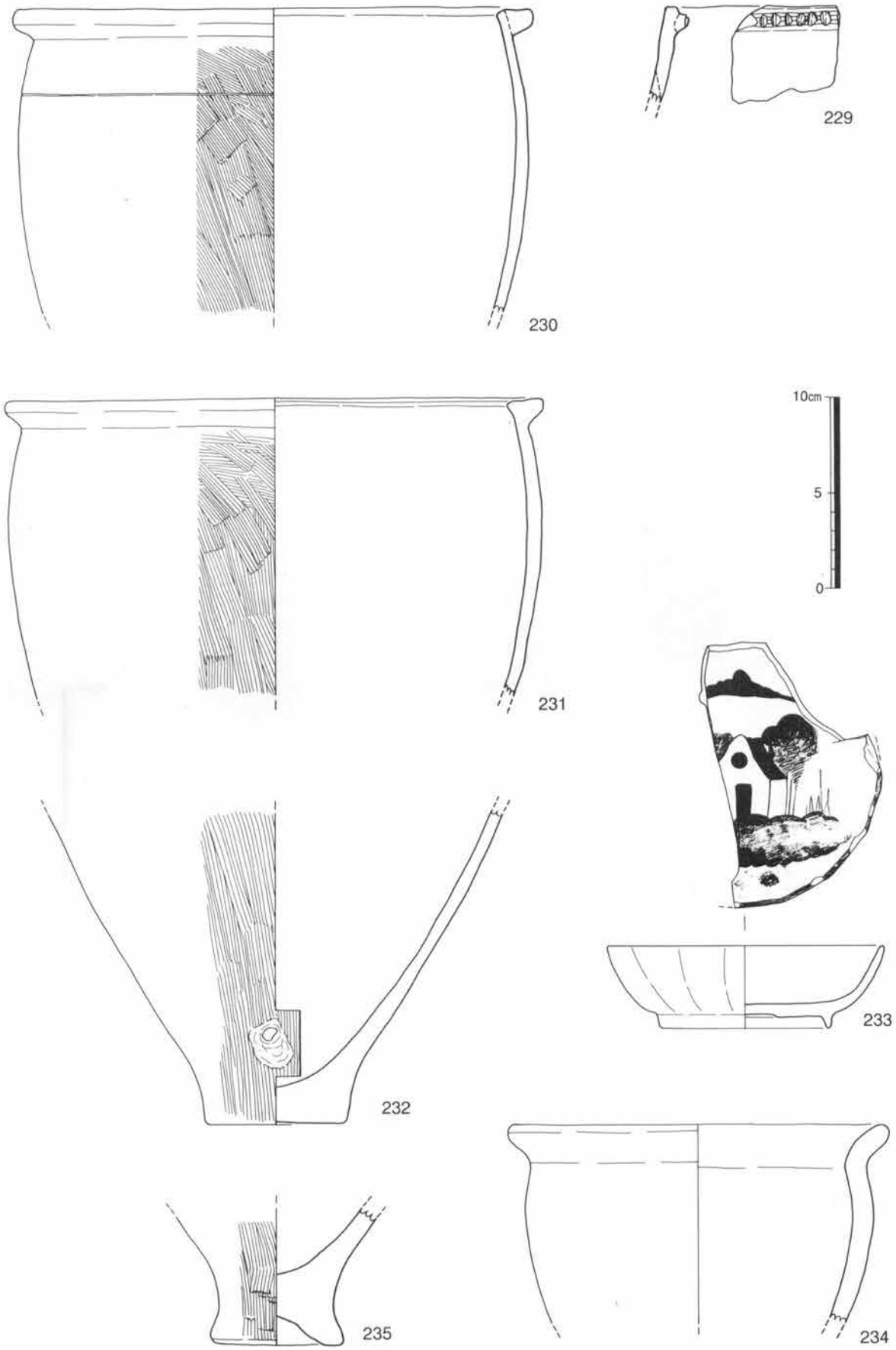


Fig.114　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉛（1/3）

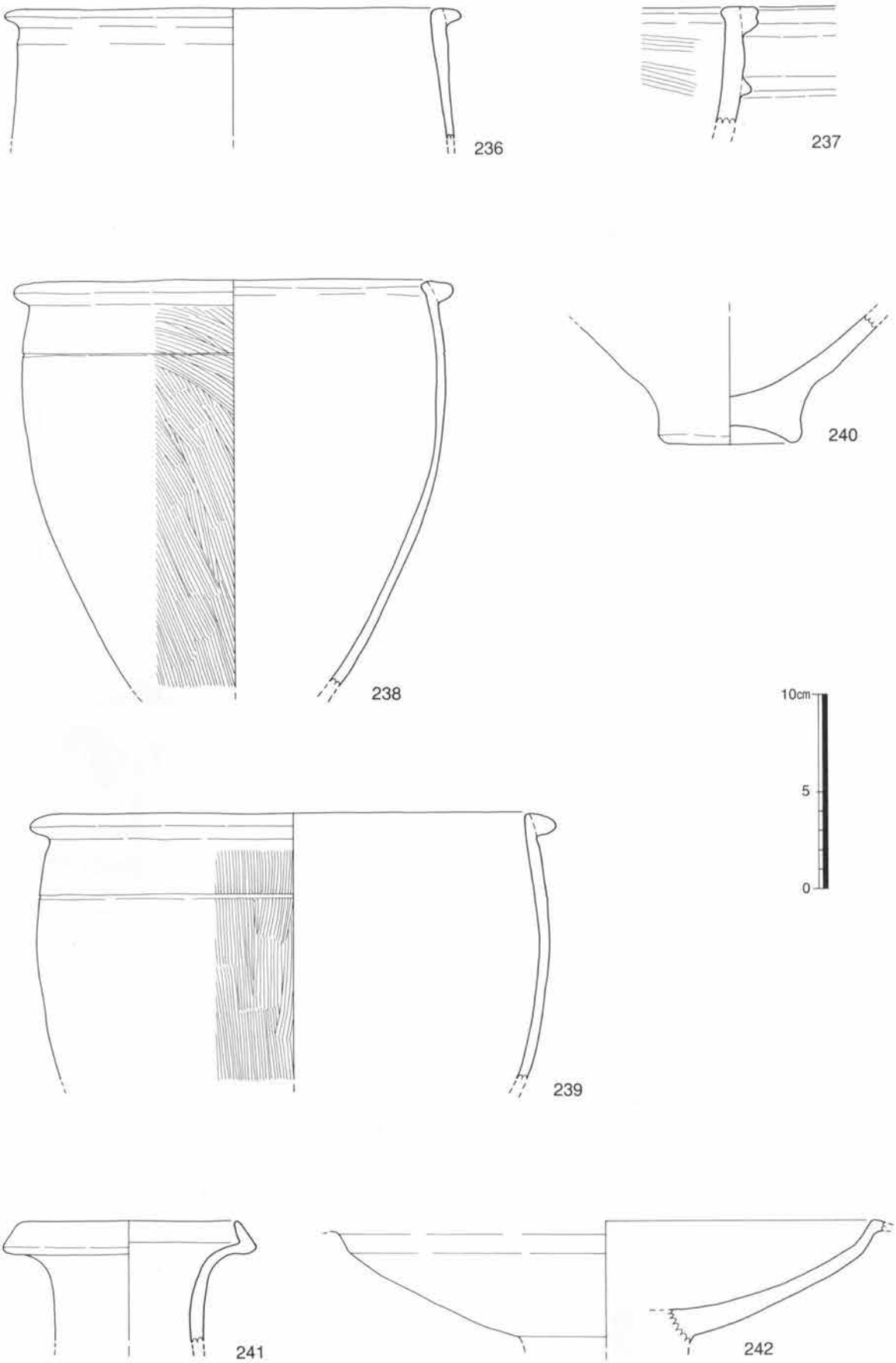


Fig.115　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉜（1/3）

Fig.116　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉝（1/3）

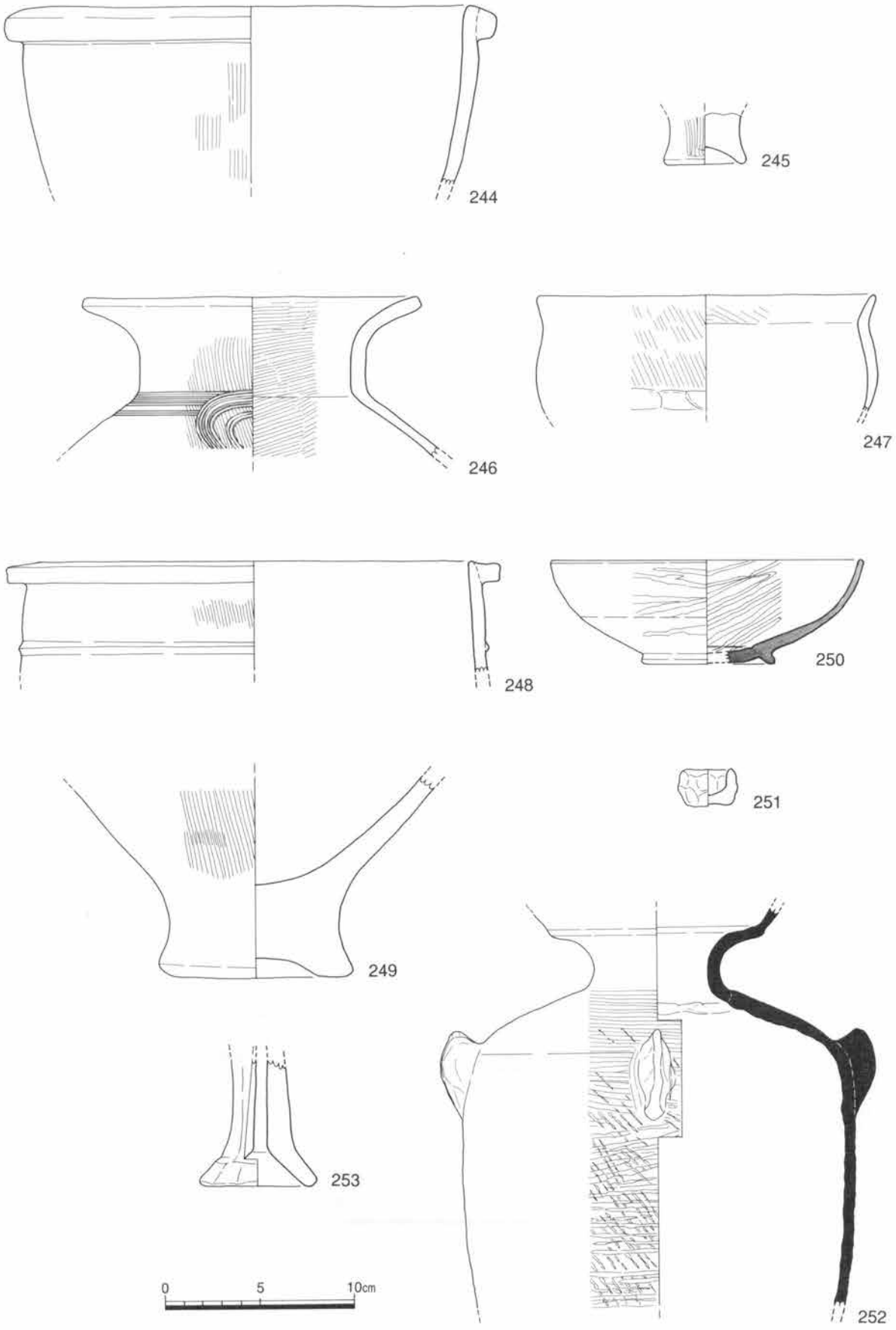


Fig.117　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉞（1/3）

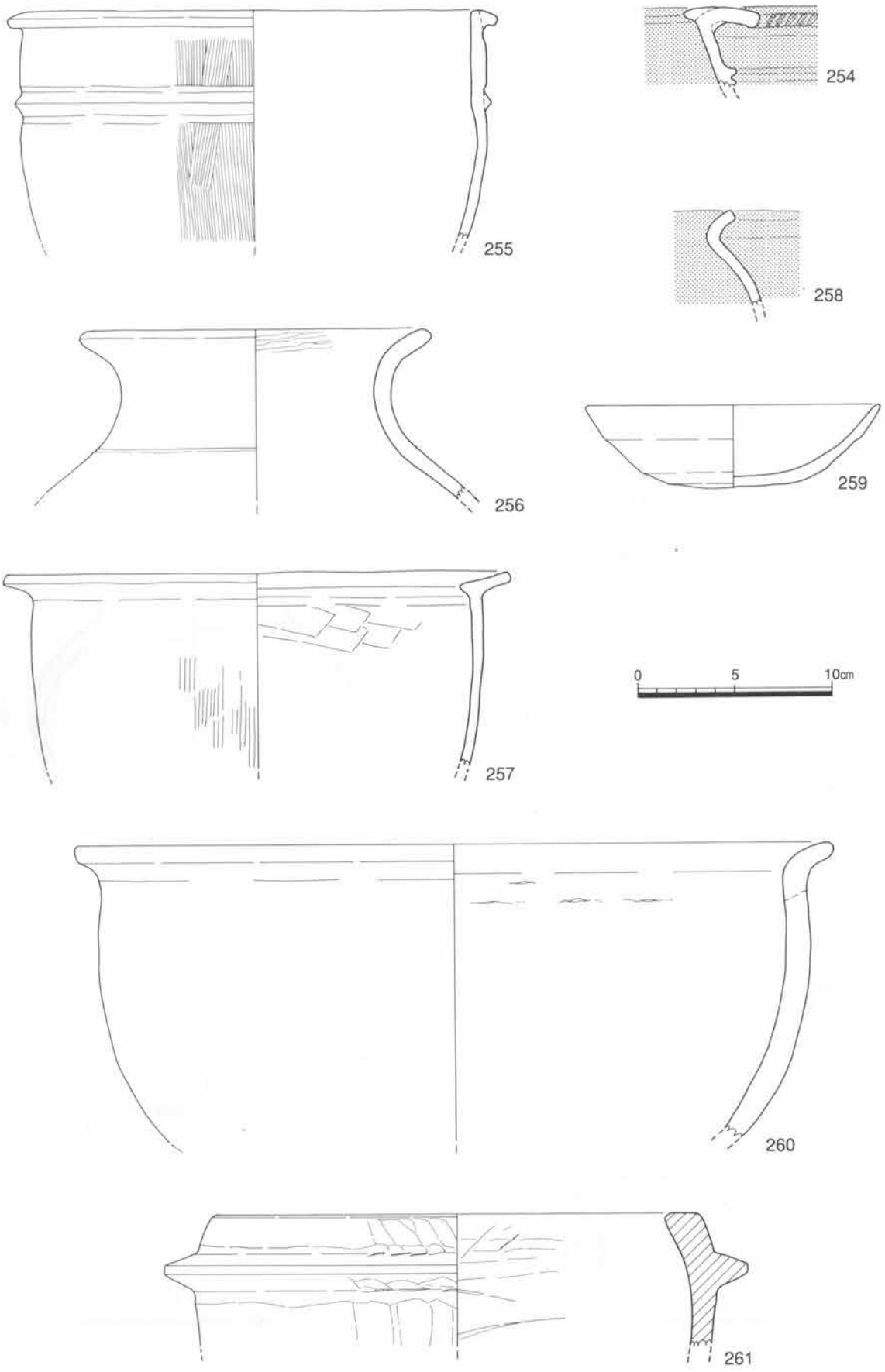


Fig.118　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉟（1/3）

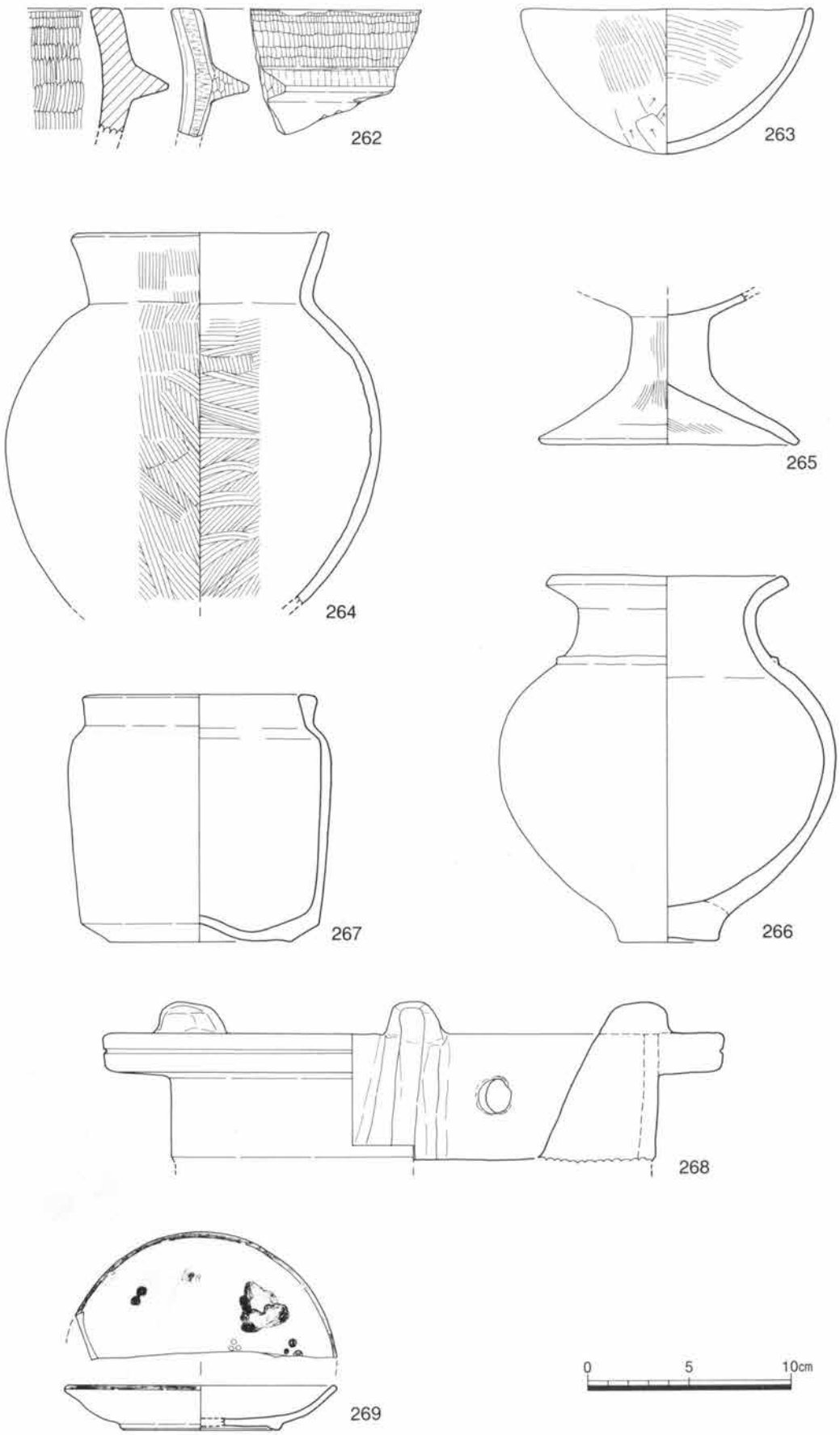


Fig.119　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊱（1/3）

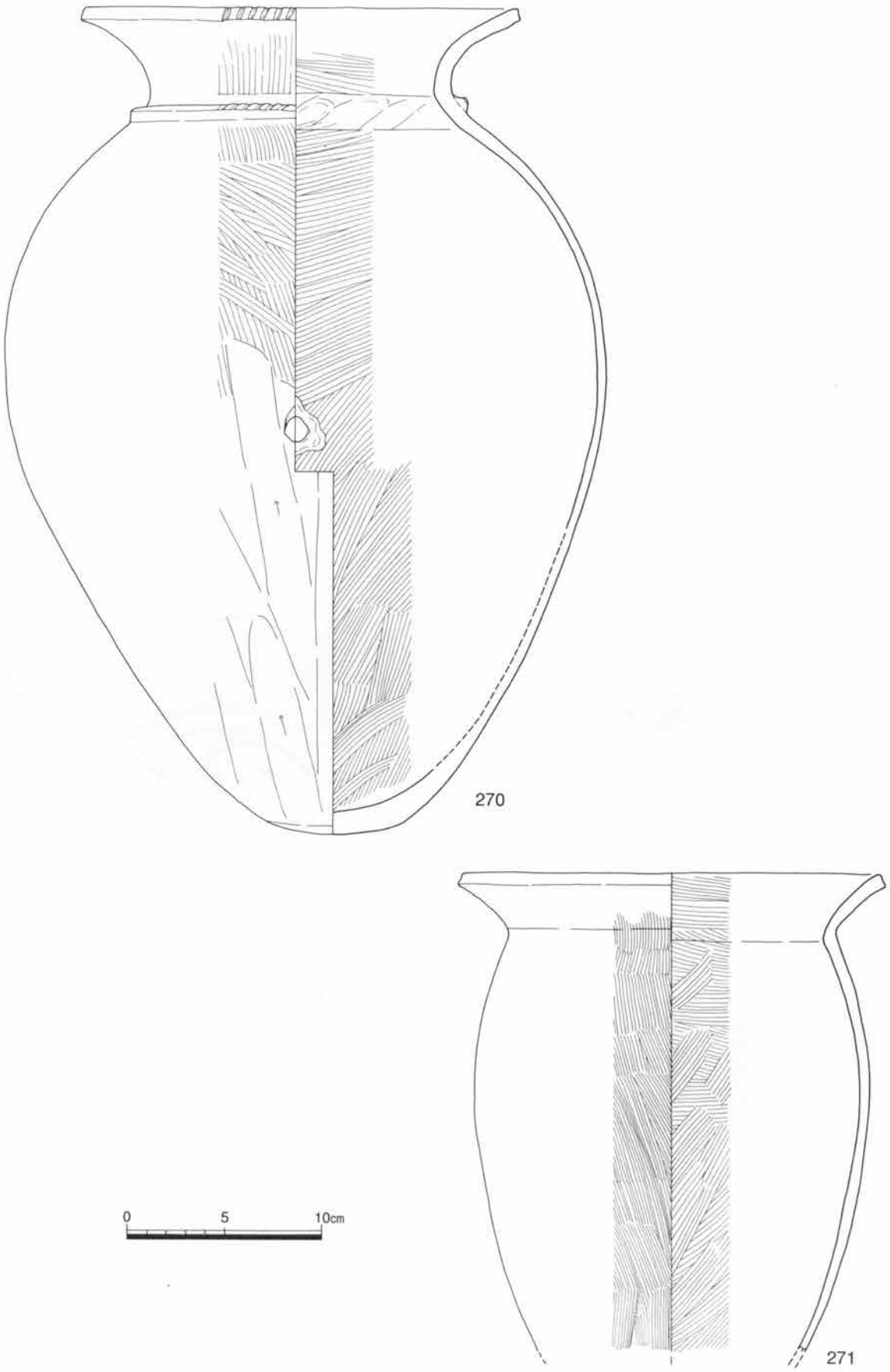


Fig.120　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊲（1/3）

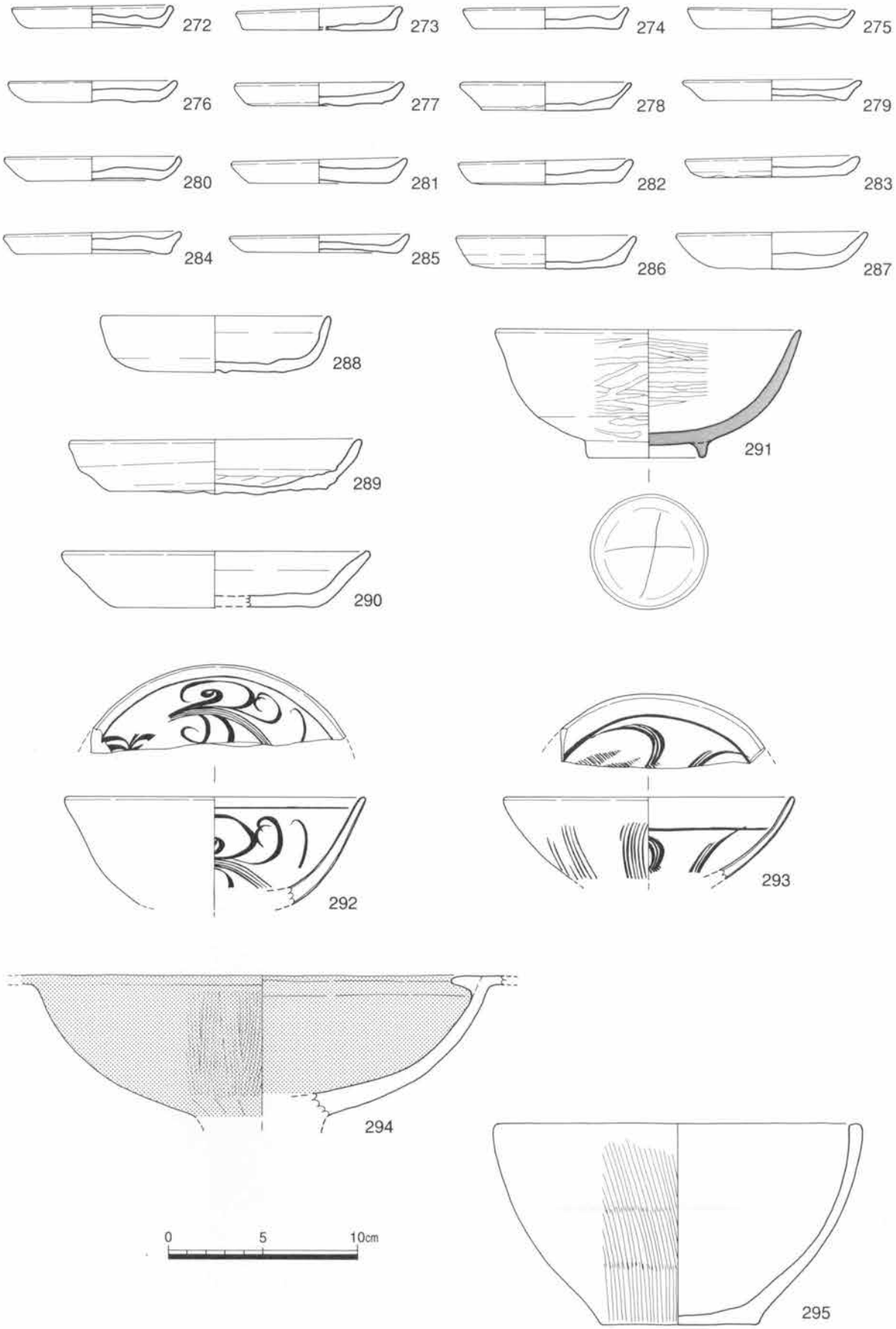


Fig.121　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊳（1/3）

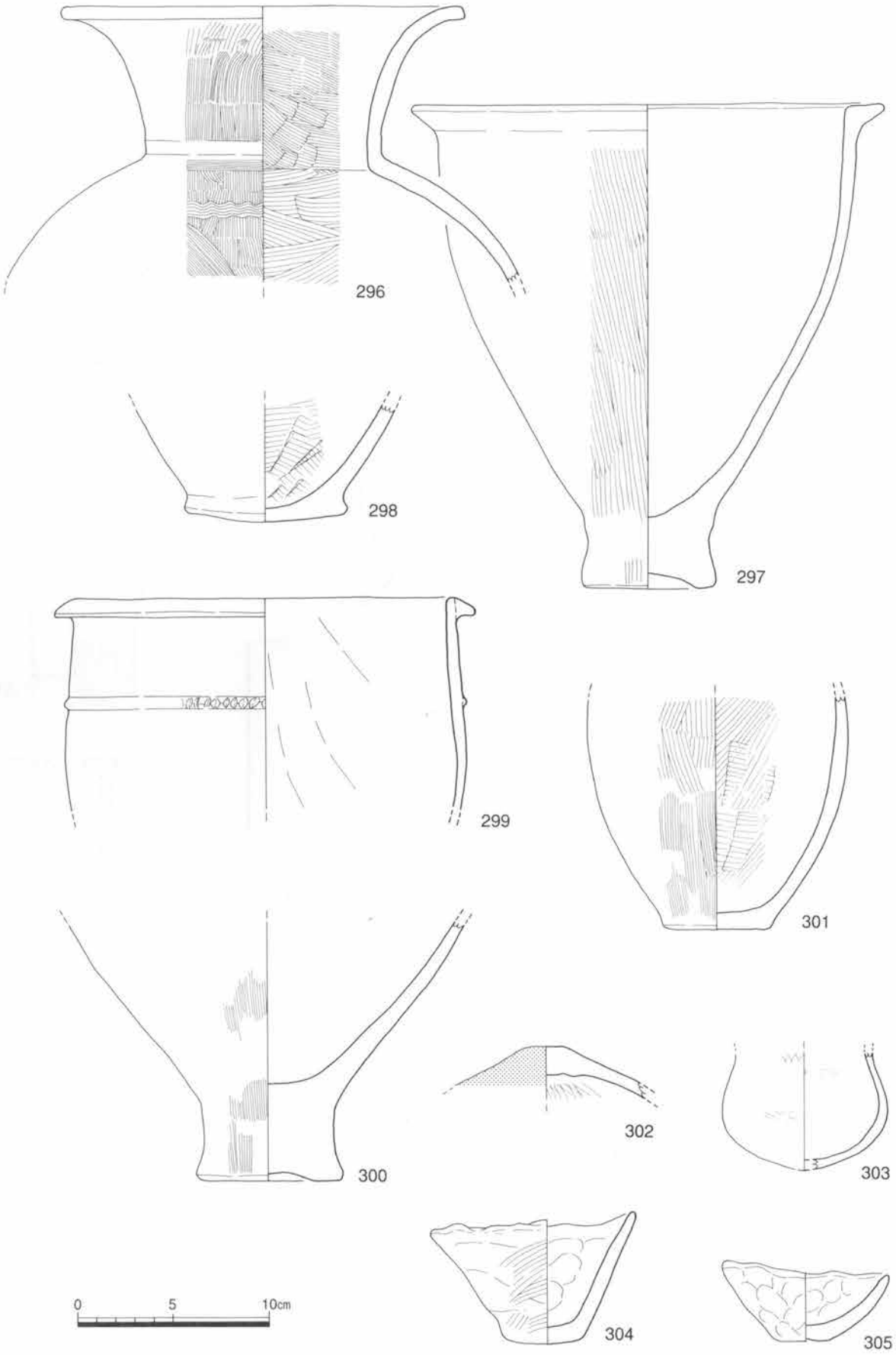


Fig.122　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図　（1/3）

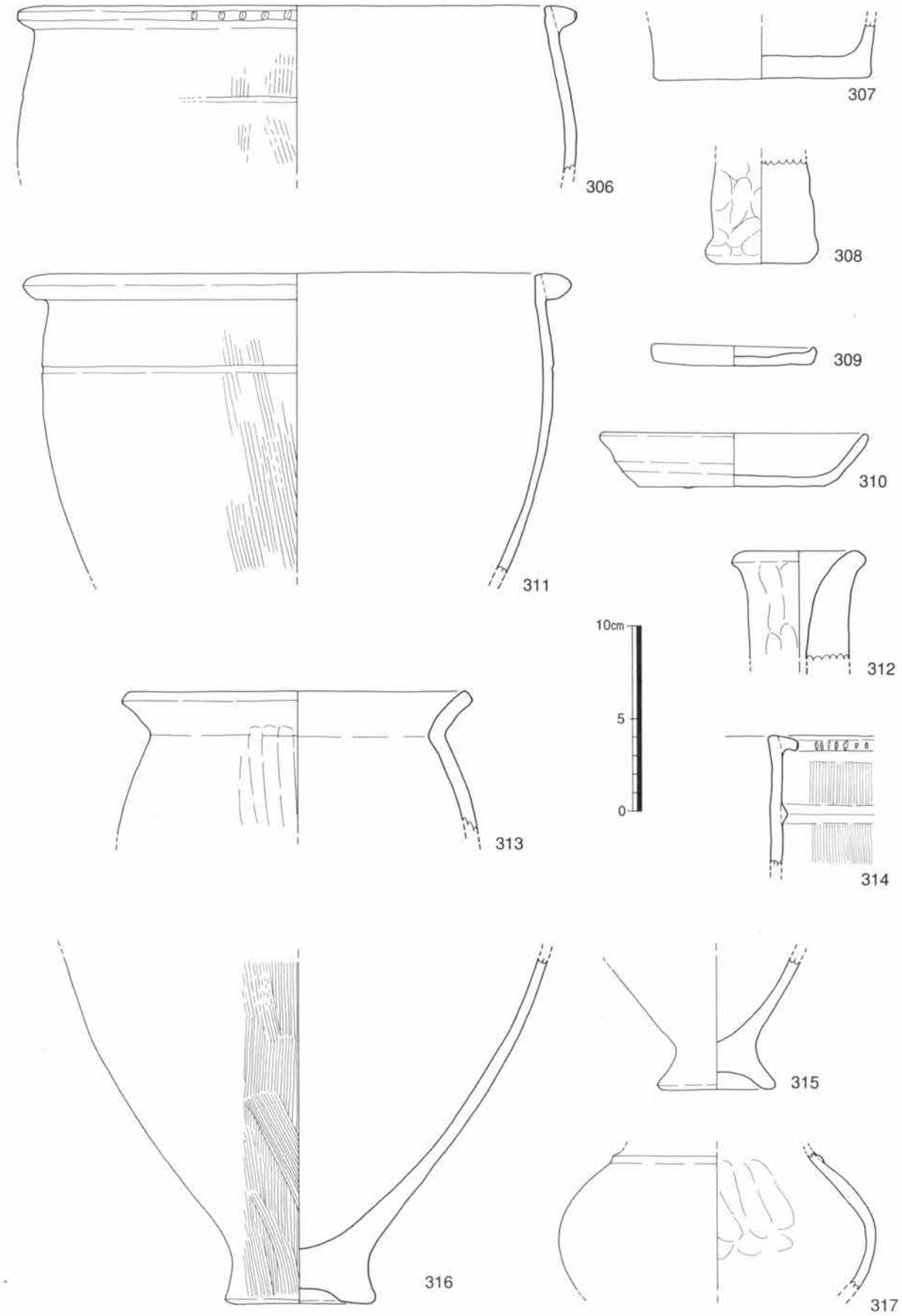


Fig.123　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊵（1/3）

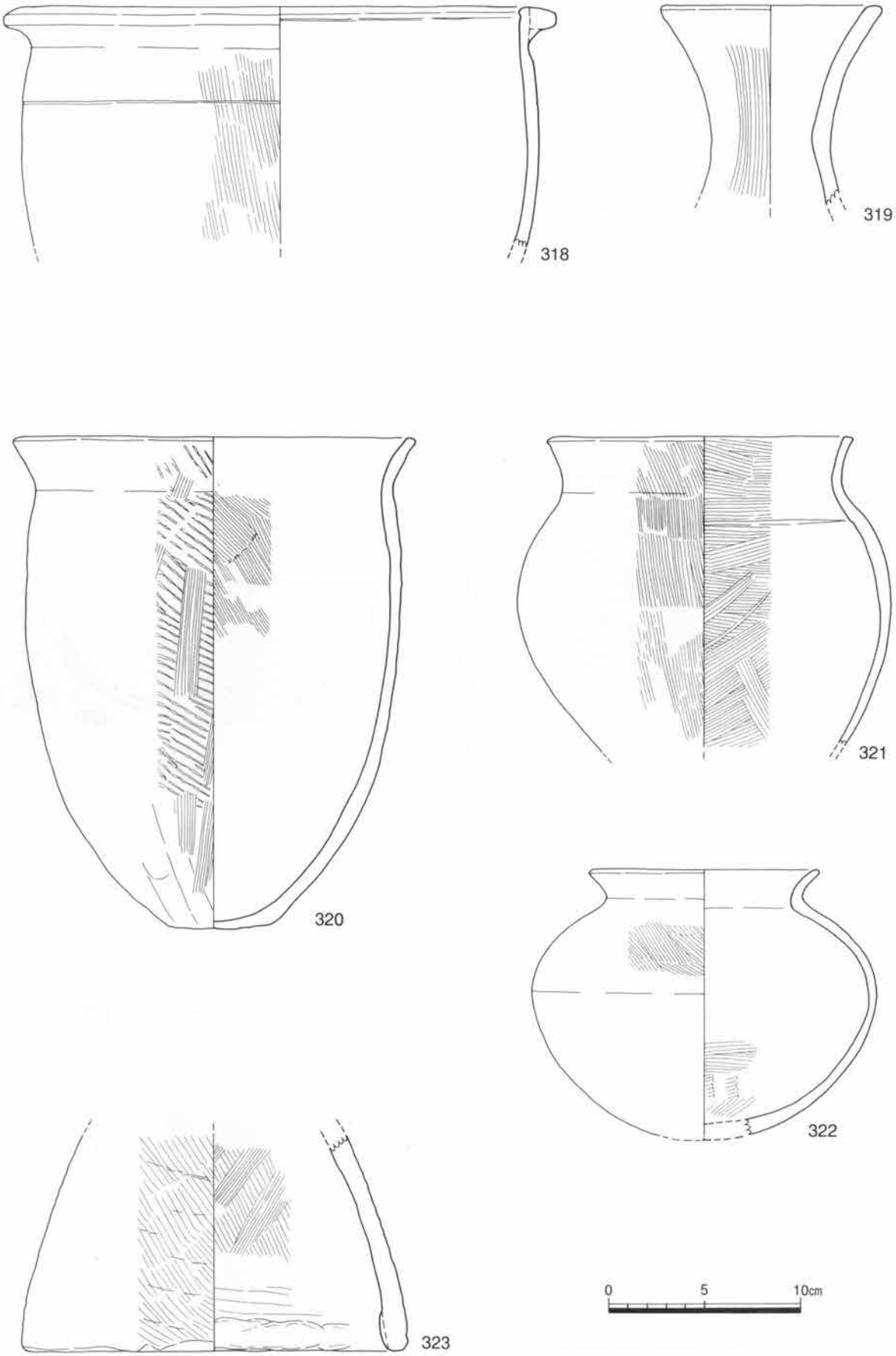


Fig.124　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊶（1/3）

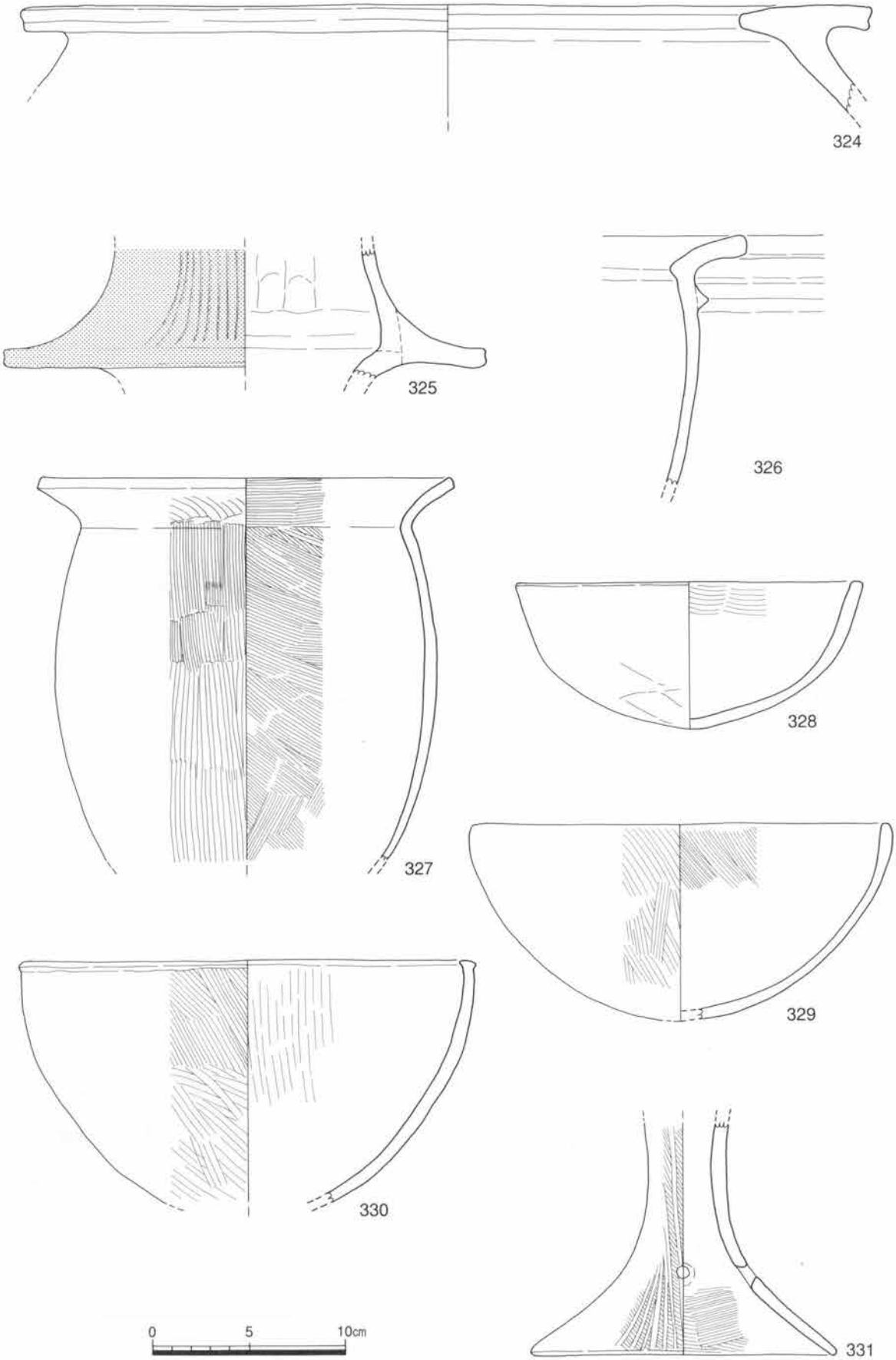


Fig.125　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊷（1/3）

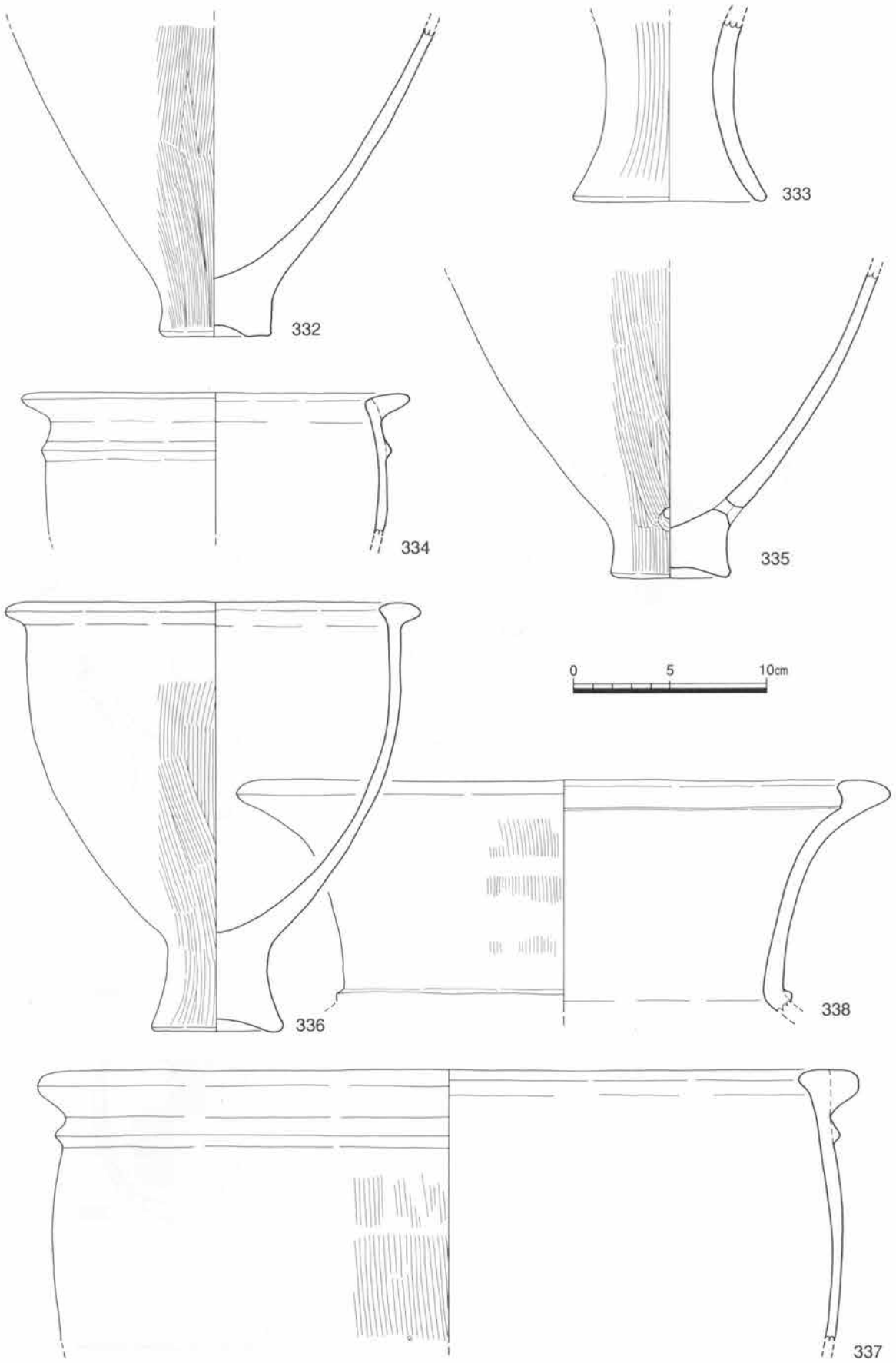


Fig.126　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊸（1/3）

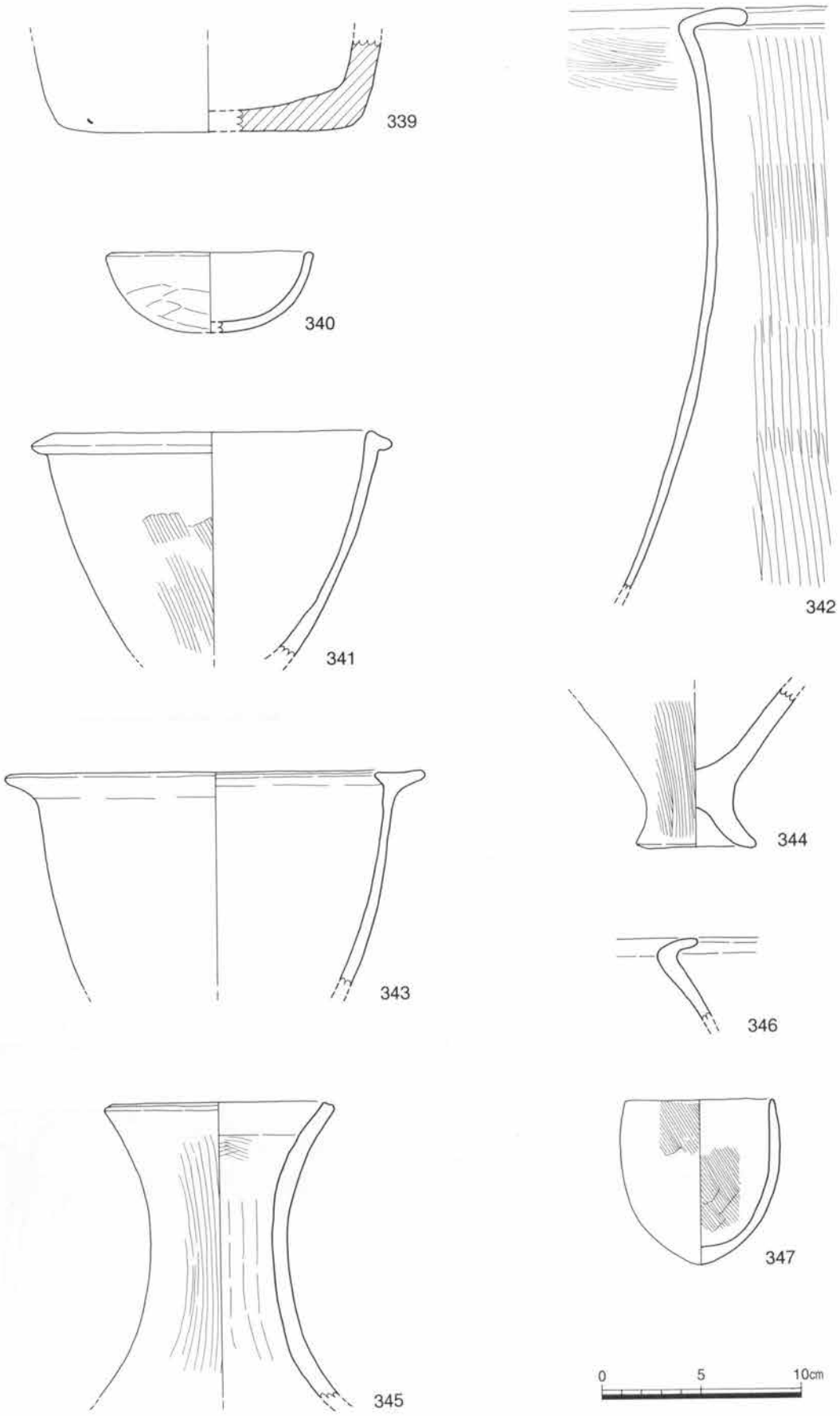
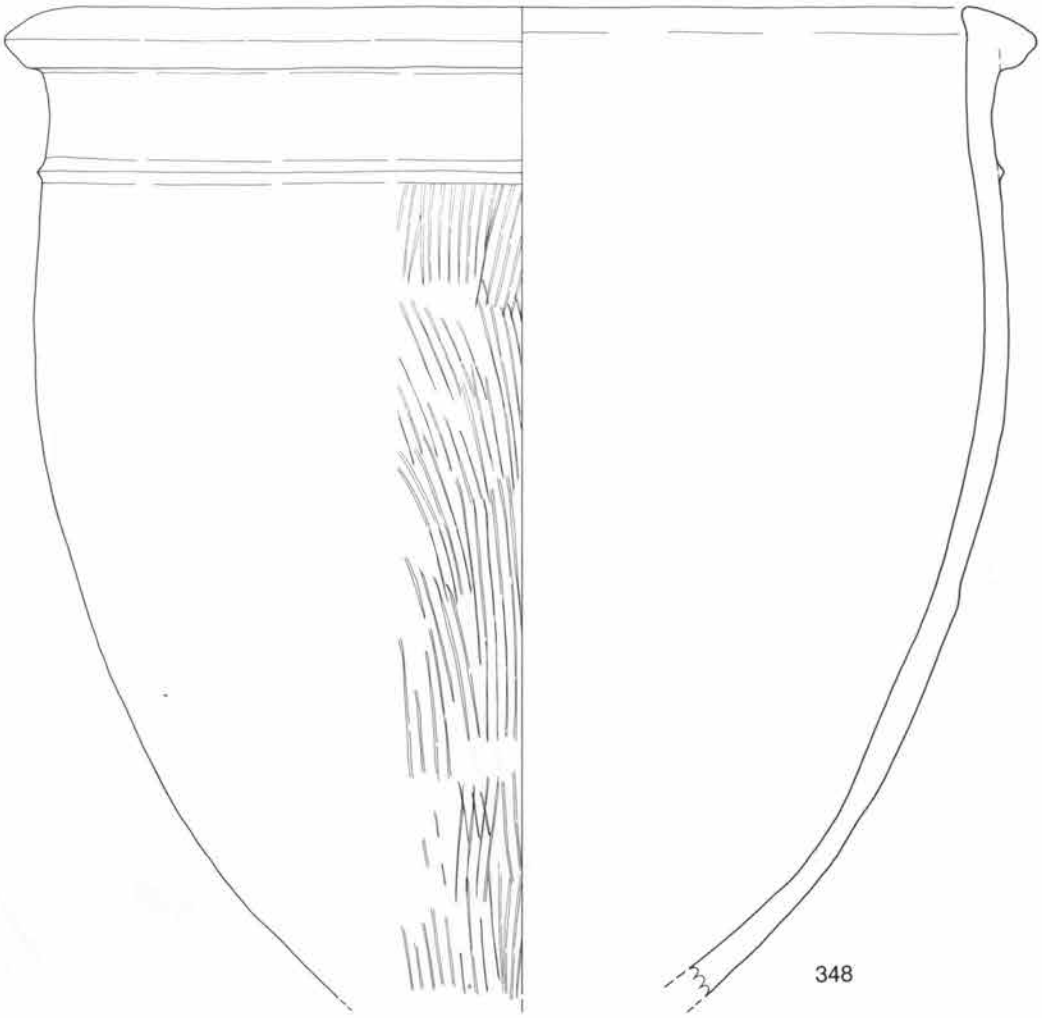
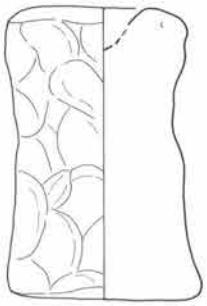
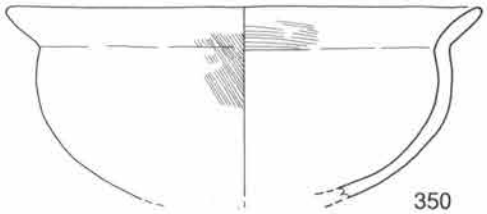


Fig.127　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊹（1/3）







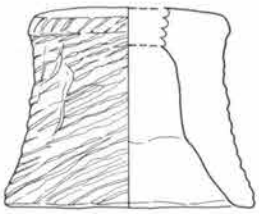


Fig.128　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊺（1/3）

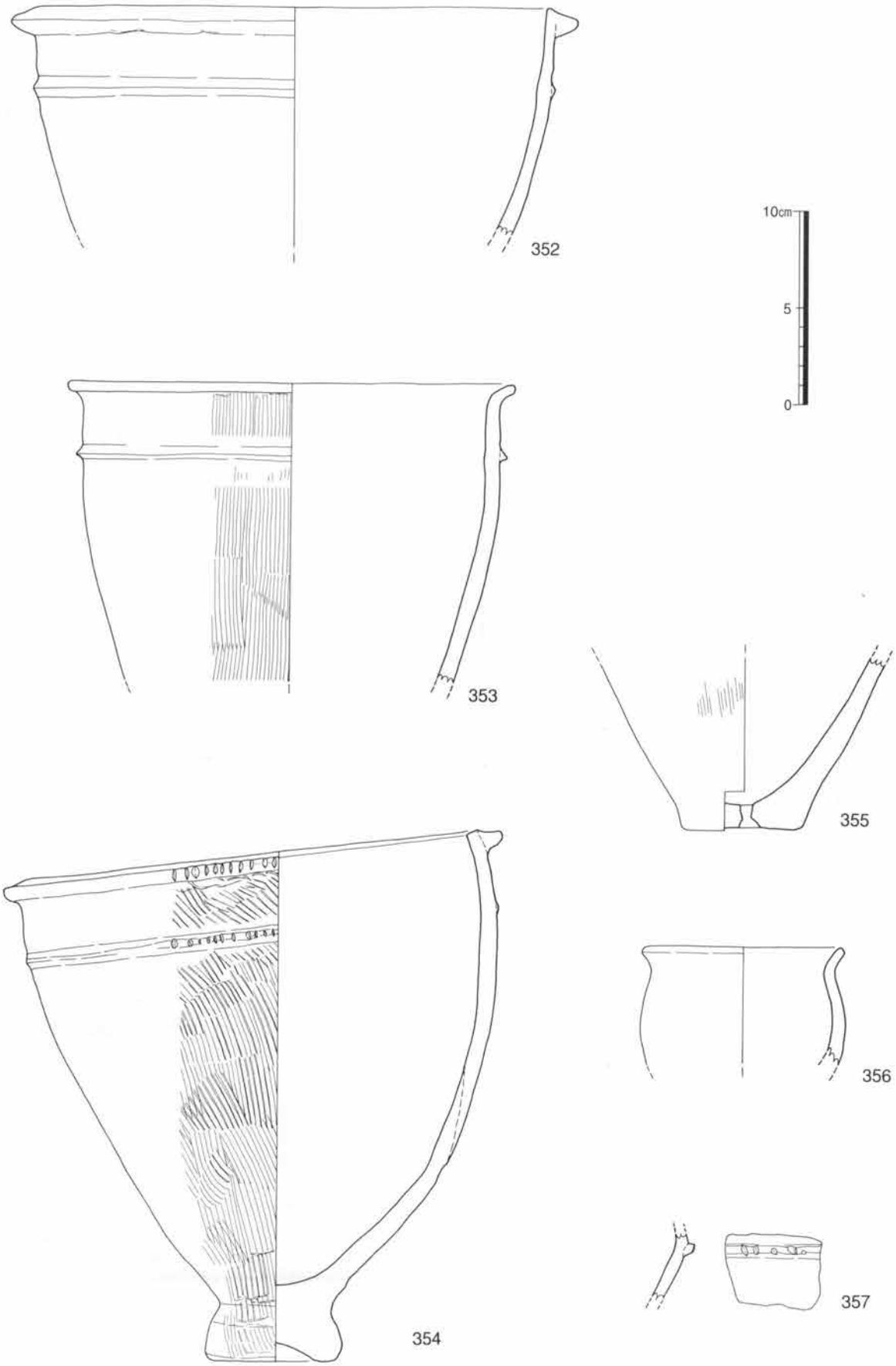


Fig.129　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊻（1/3）

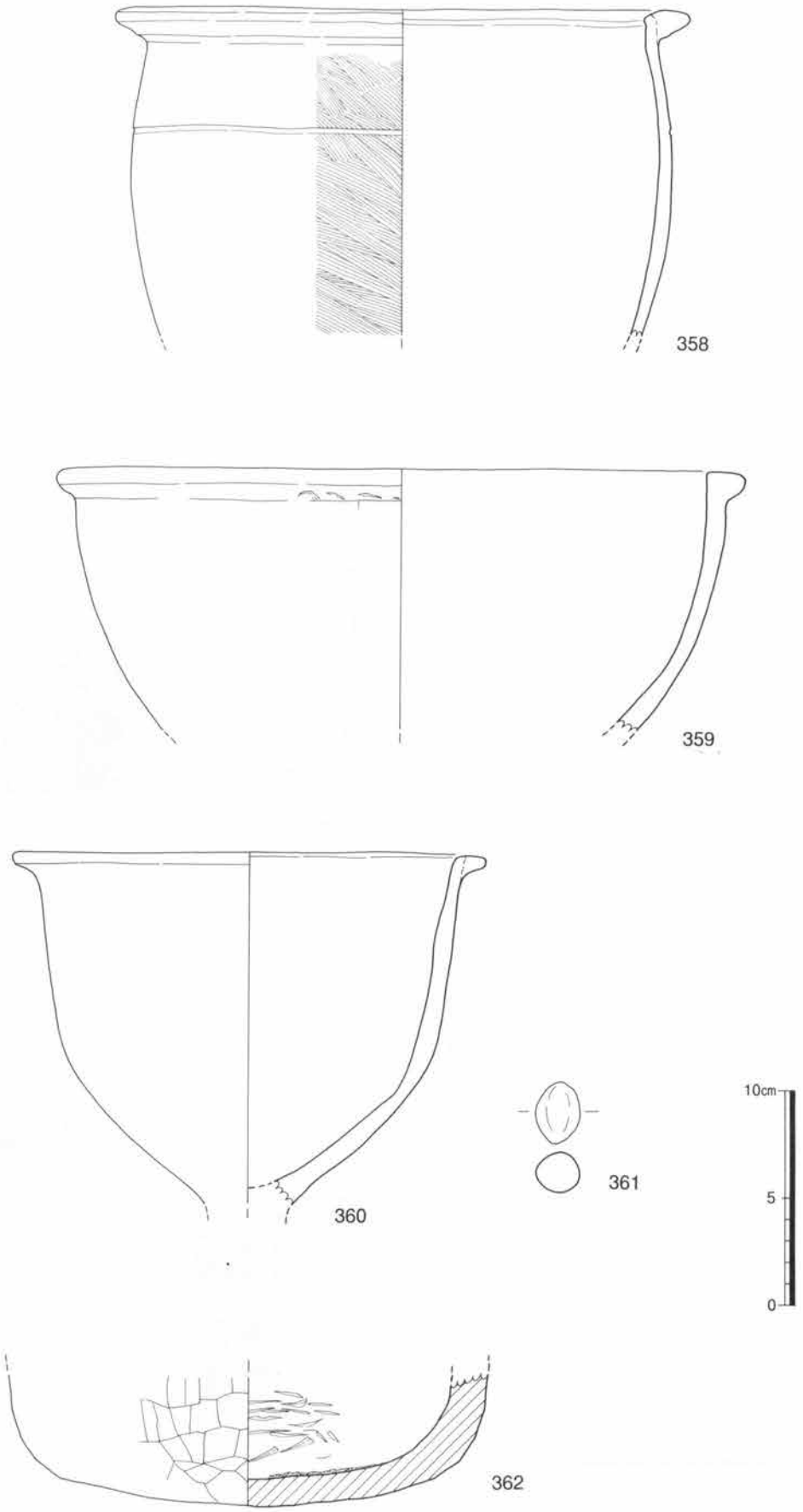


Fig.130　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊼（1/3）

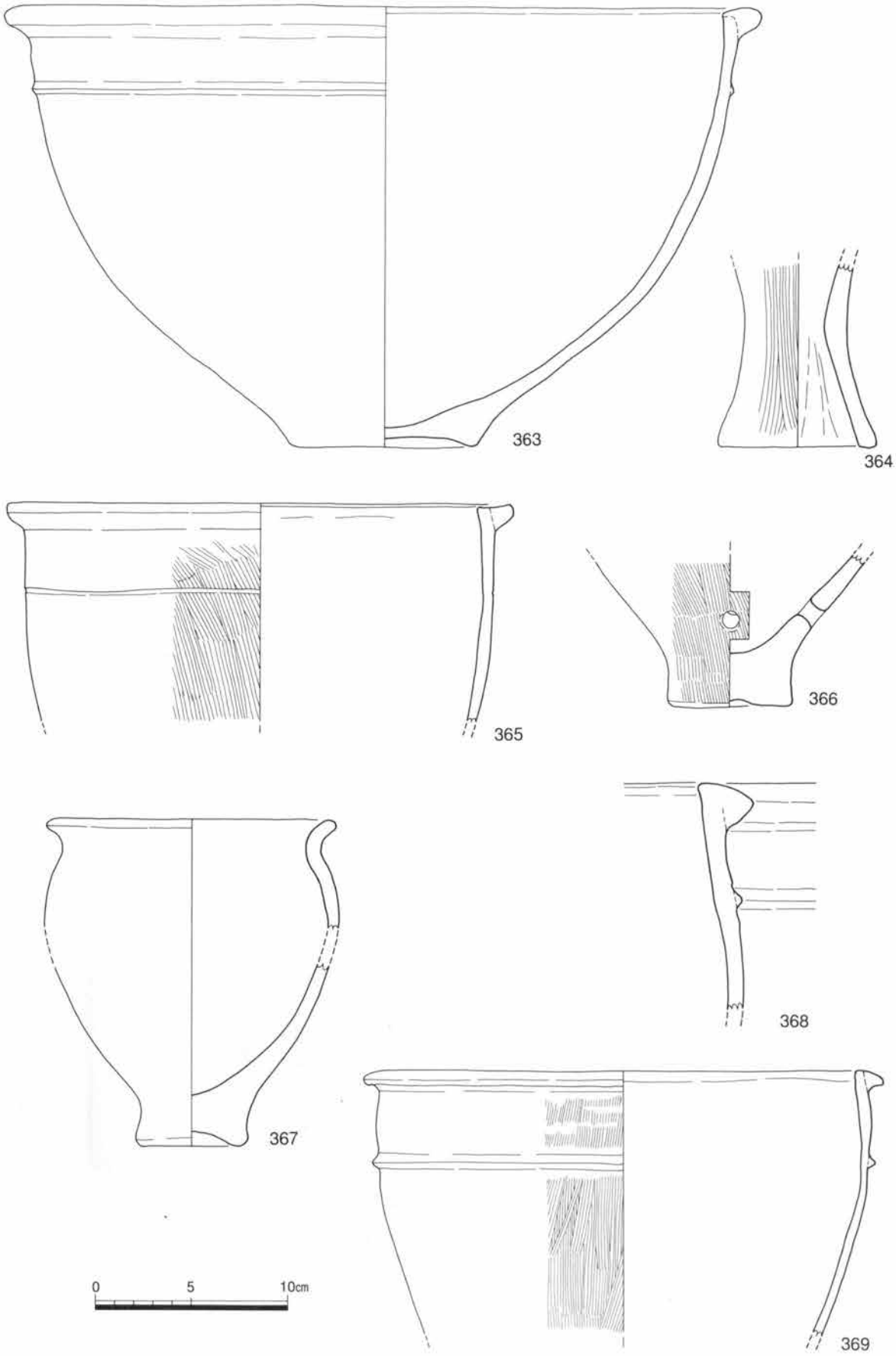


Fig.131　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊽（1/3）

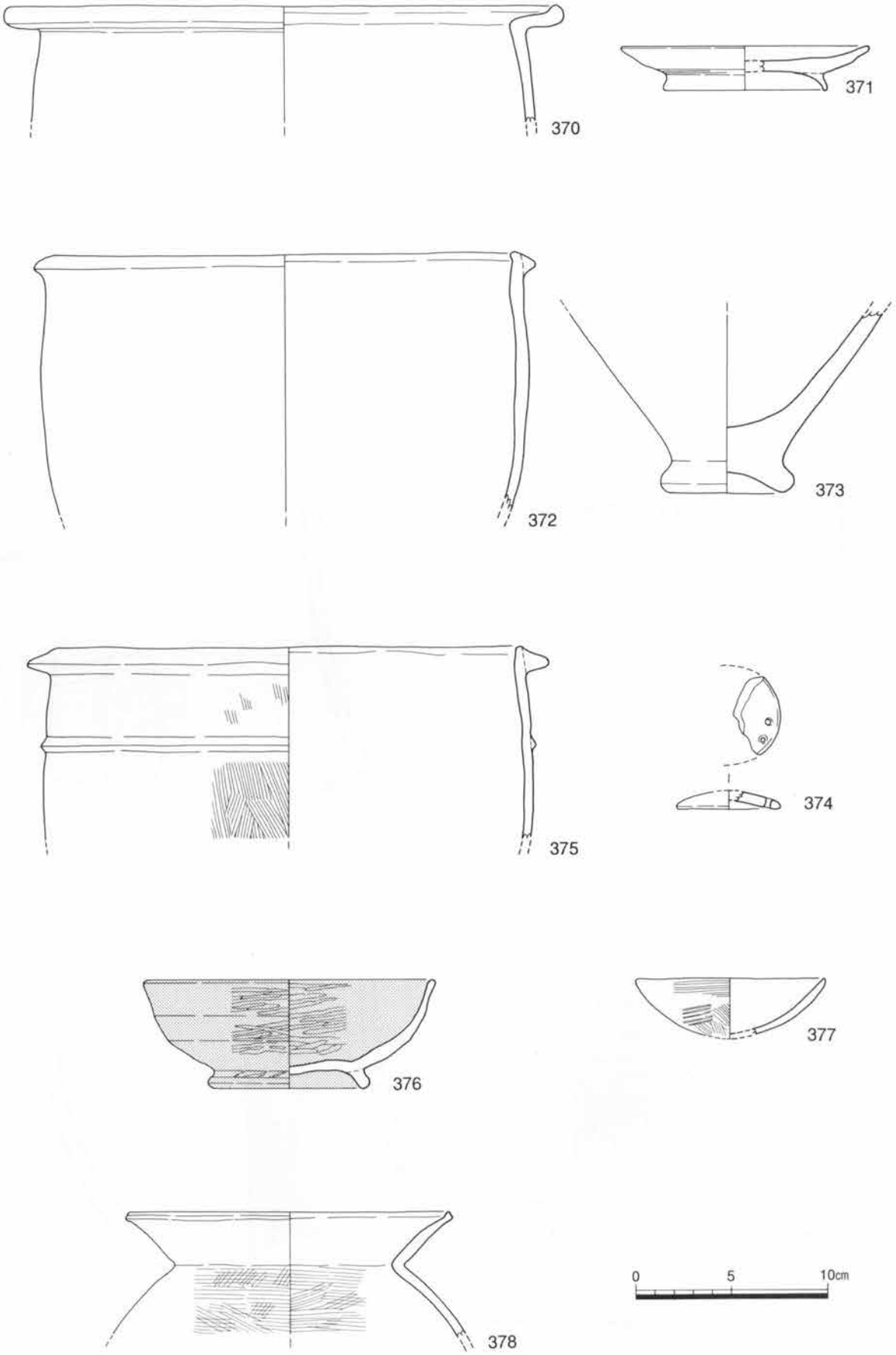


Fig.132　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊾（1/3）

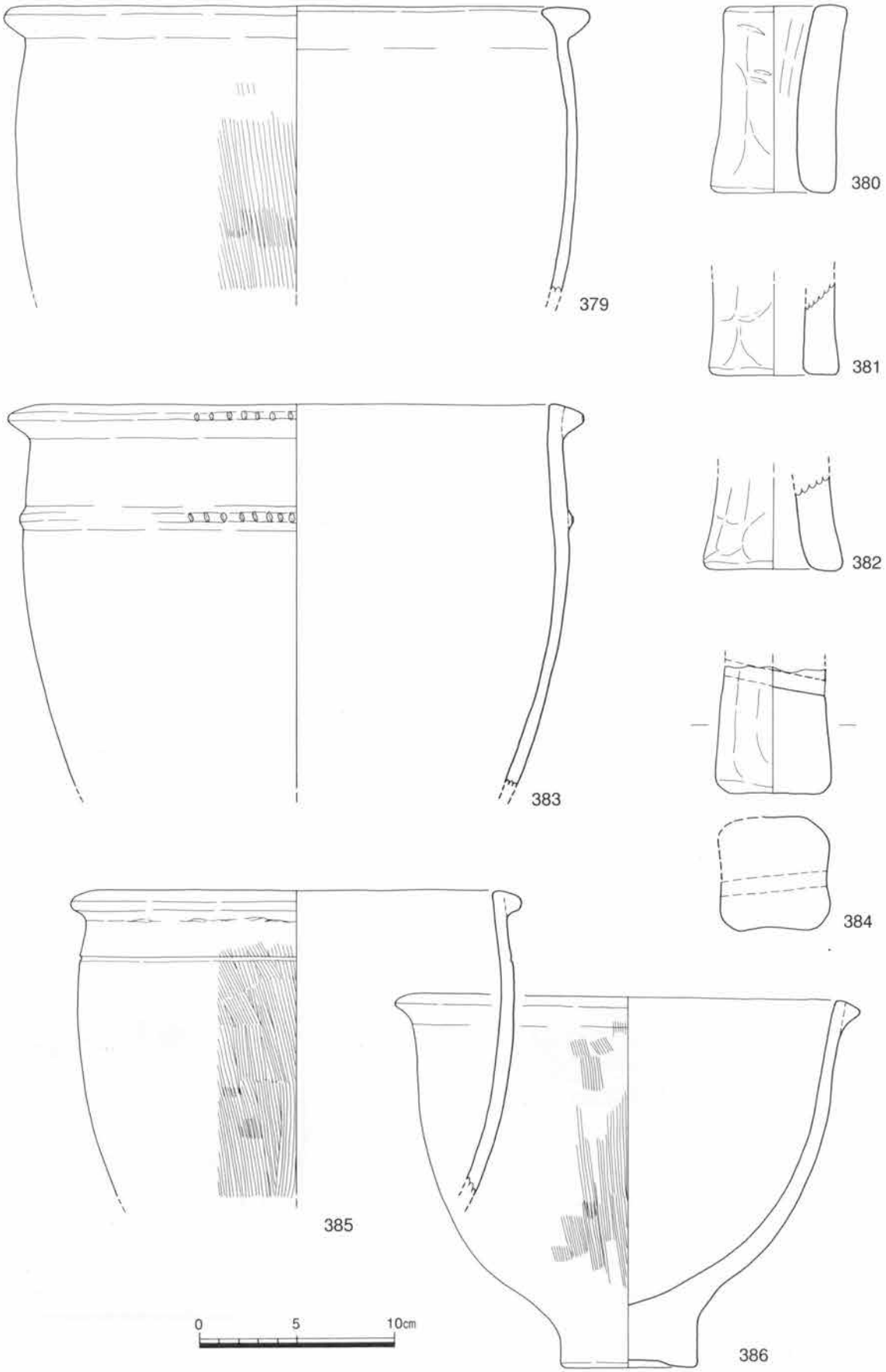


Fig.133　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊿（1/3）

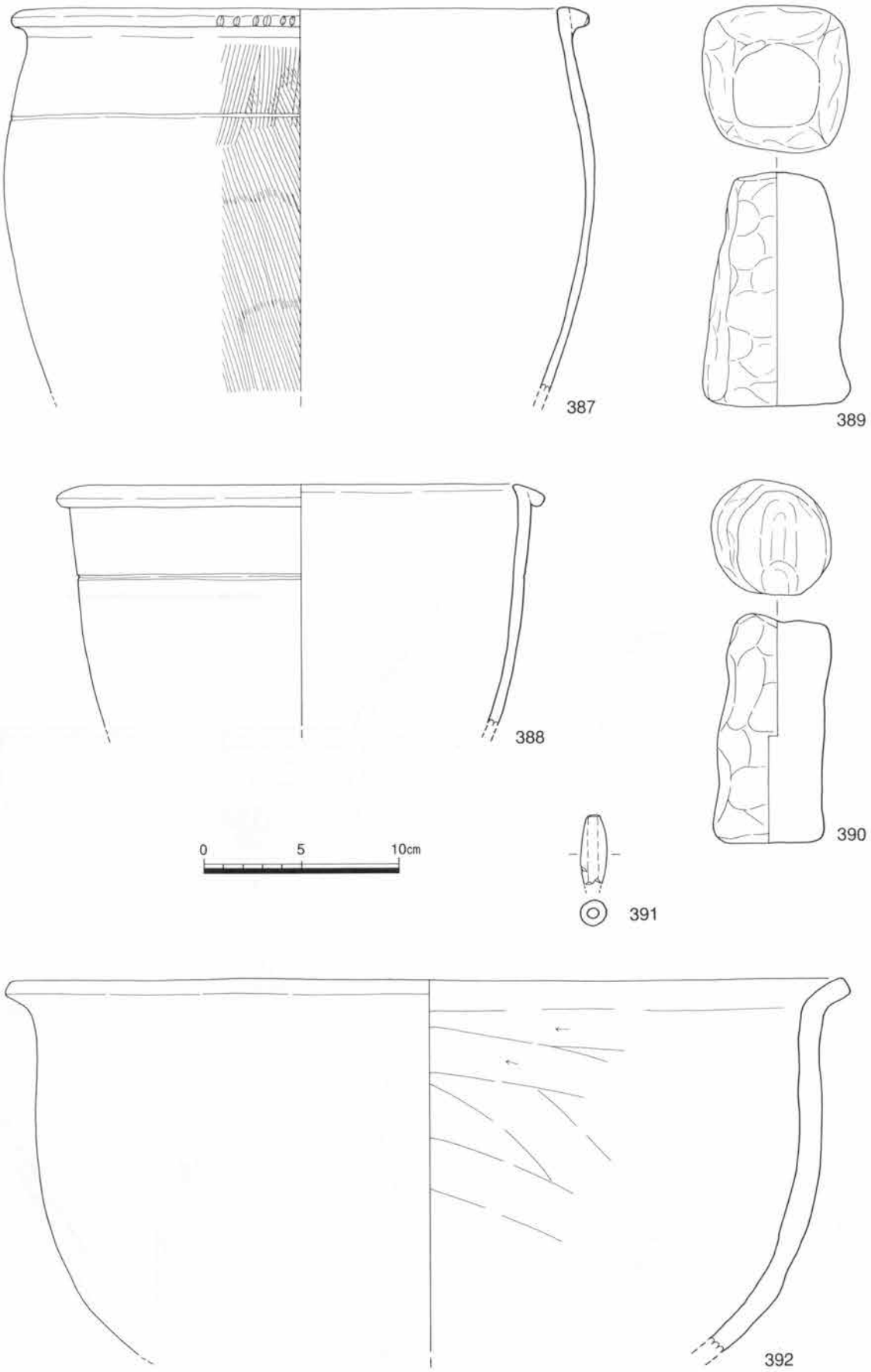


Fig.134　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊶（1/3）

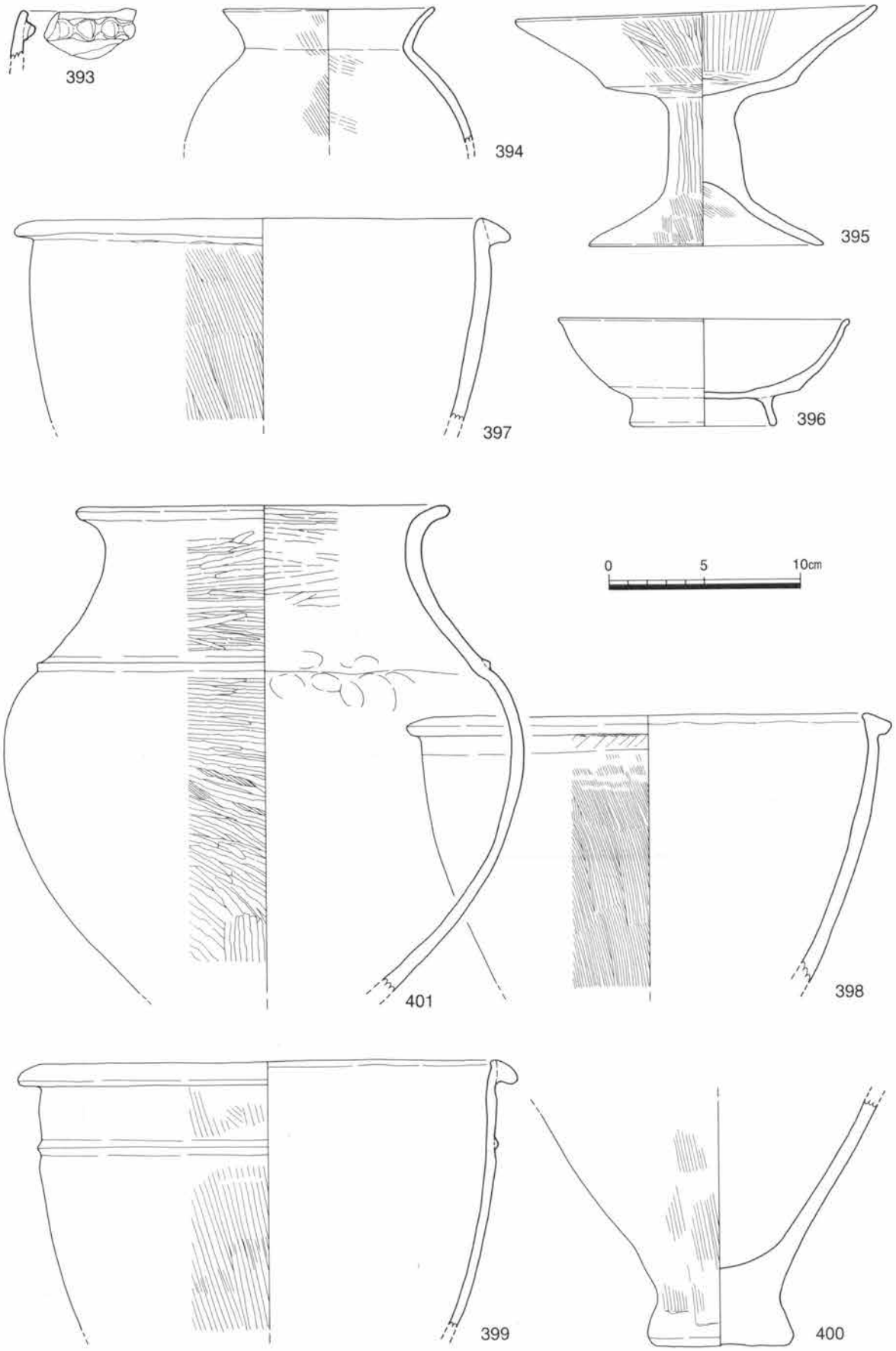


Fig.135　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊷（1/3）

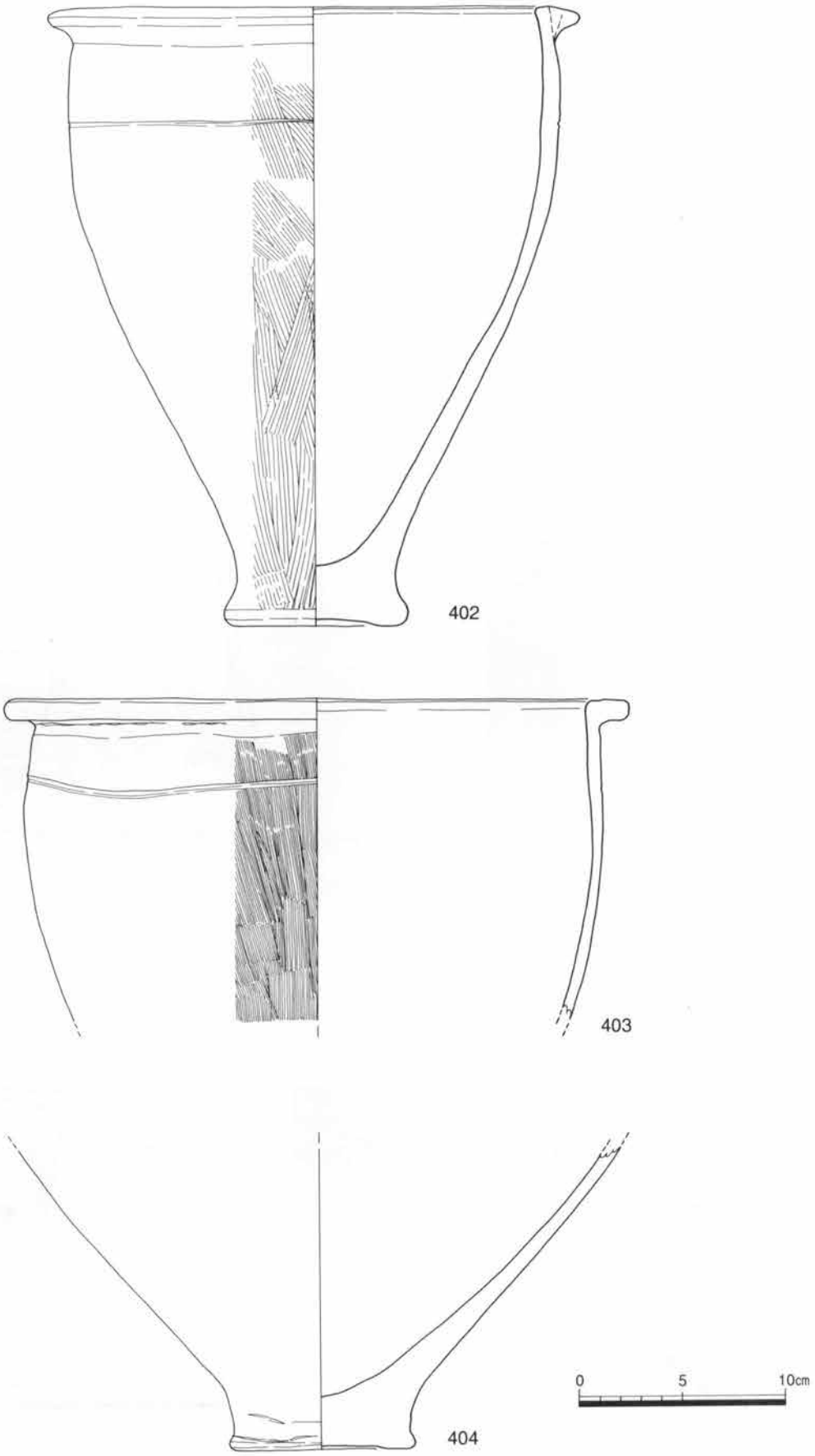


Fig.136　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊸（1/3）

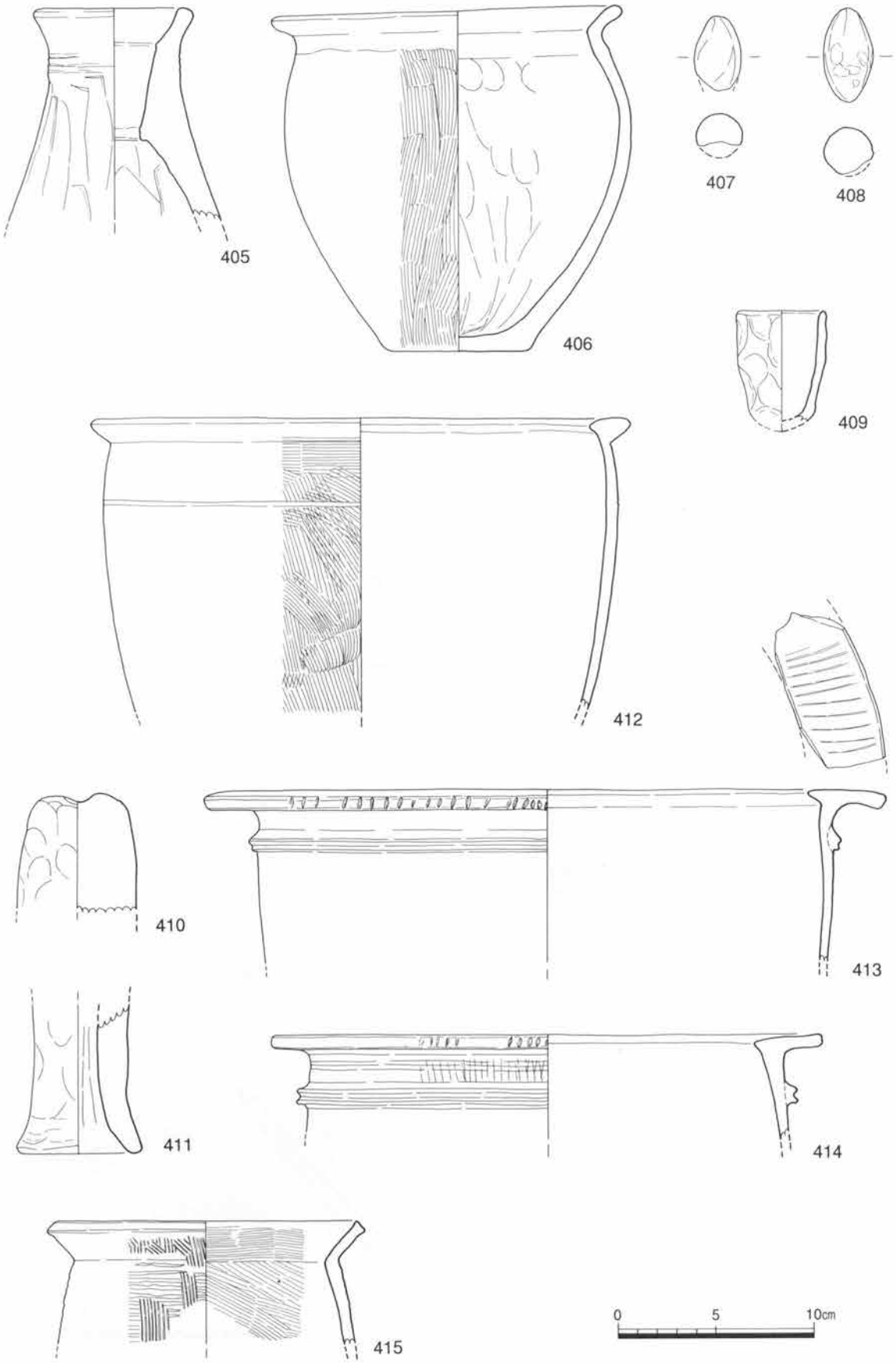


Fig.137　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊹（1/3）

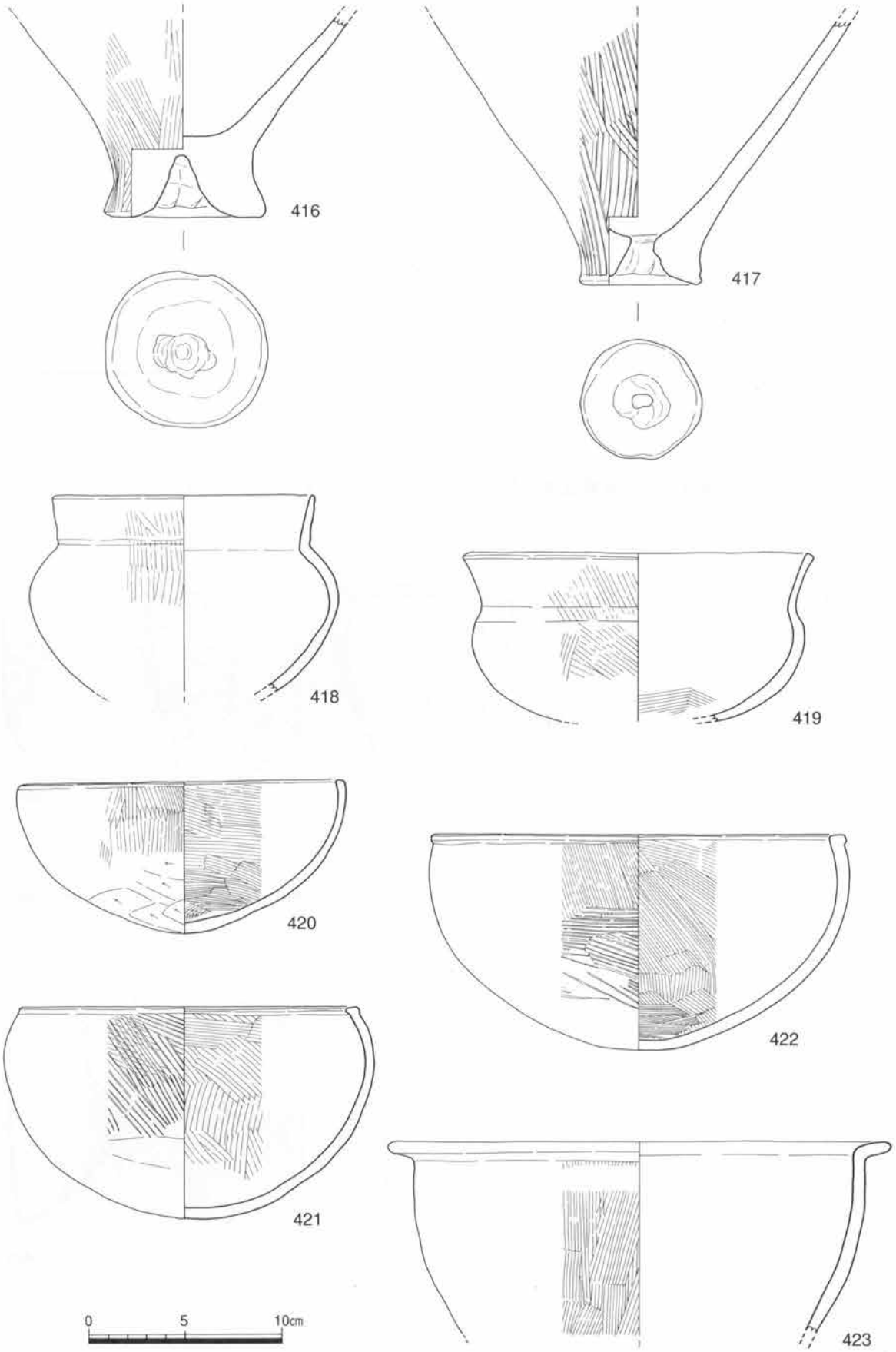


Fig.138　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊺（1/3）

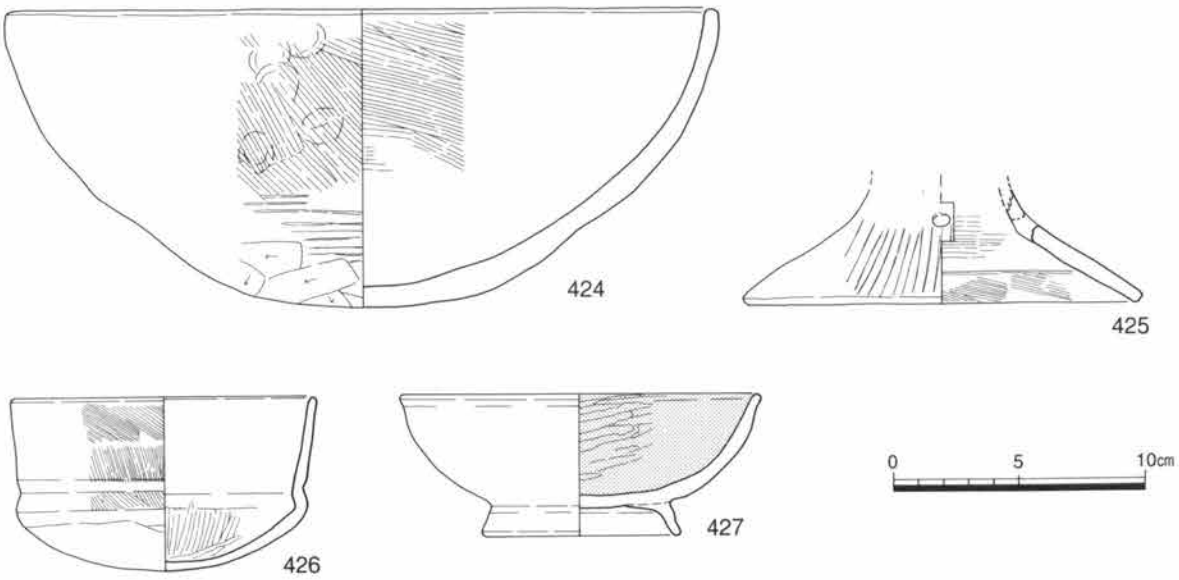


Fig.139　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊻（1/3）

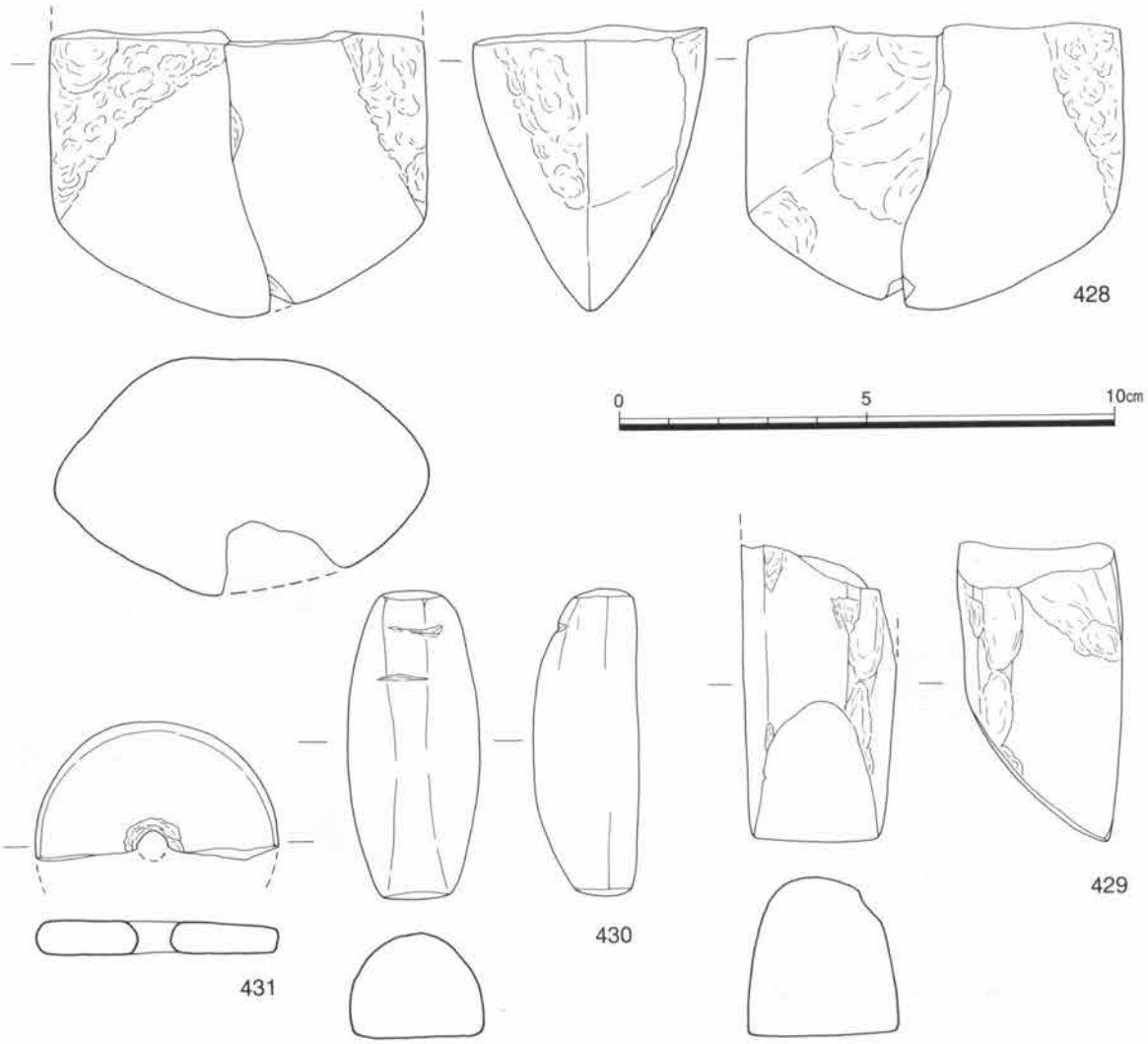


Fig.140　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊼（2/3）

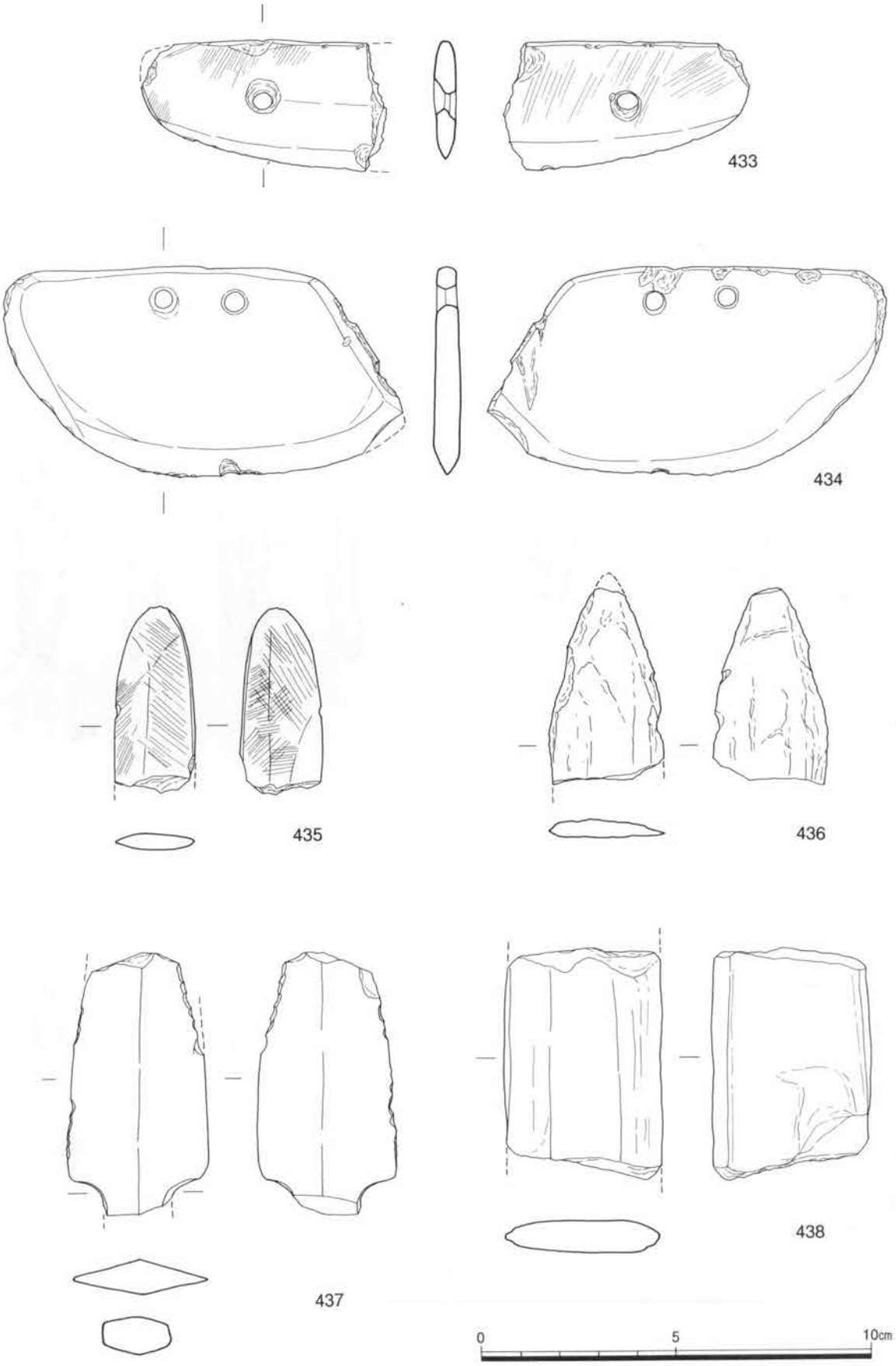


Fig.141　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊽（2/3）

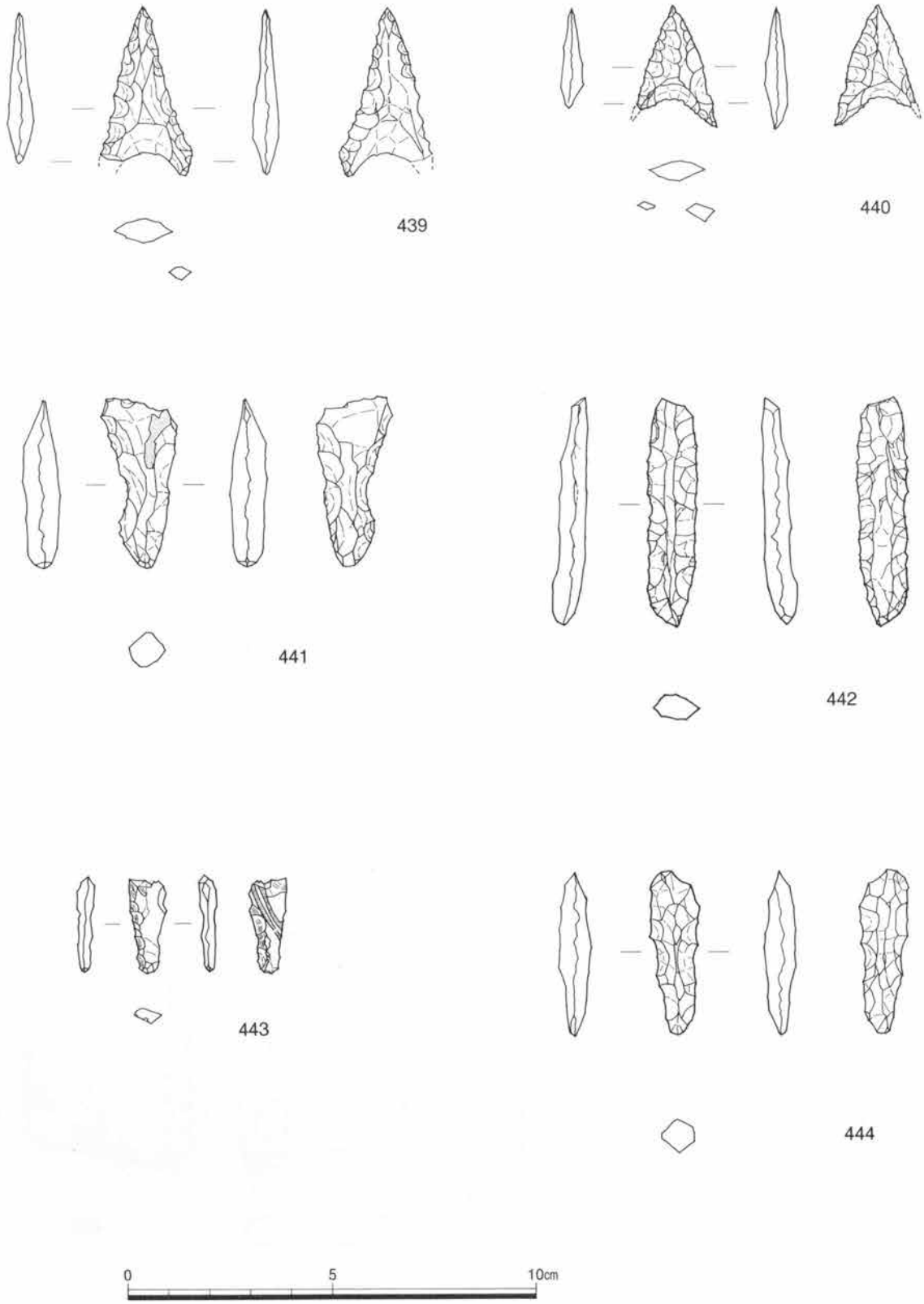


Fig.142　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊾（2/3）

No.	遺構 番号	層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R·No
1	2SK0008		弥生	甕	18.0			口縁部1／6	横ナデ	刷毛	刷毛			明茶褐色	砂粒多	ほぼ良	「く」の字状		1
2	2SK0008		弥生	壷	11.2			口縁部1／6	横ナデ	刷毛	ケズリ			明茶色	砂粒含	やや不良	袋状	頚部に突帯1条有	2
3	2SK0013		弥生	甕	12.6			上半部	横ナデ	刷毛	不明					良			3
4	2SK0052		土師	坏	14.1		9.5	ほぼ完形	横ナデ	刷毛	刷毛	刷毛	刷毛			良好			4
5	2SX0060		弥生	甕	15.0			口縁部1／8	横ナデ	ケズリ？	？			明茶色	微砂粒少	やや良	「く」の字状	口縁端部に面有	5
6	2SX0060		弥生	甕				口縁部細片	横ナデ	？	ナデ			明茶色	砂粒多	やや良	「く」の字状	口縁端部は外反する	6
7	2SX0060		弥生	甕	30.0			口縁部1／3	横ナデ	刷毛	ナデ			黒茶色	砂粒多	良好	城ノ越タイプ		7
8	2SK0065		弥生	甕		6.2		底部のみ		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	赤茶色	砂粒多	やや良		底部は上げ底状	9
9	2SK0065		弥生	甕		8.2		底部のみ		刷毛	刷毛	ナデ	未調整	白茶色	砂粒多	不良			8
10	2SK0065		弥生	甕		5.7		底部のみ		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	灰黄色	砂粒多	不良		底部は上げ底状	10
11	2SK0065		弥生	甕	27.0			口縁部1／10	横ナデ					黄茶色	細砂粒含	やや良	逆L字状 端部跳ね上	折曲げ部の内面を内側につまみだす	13
12	2SK0065		弥生	甕	29.2			口縁部1／10	横ナデ					外;黒灰色 内;薄明茶色	細砂粒含	良	逆L字状 端部跳ね上	折曲げ部の内面を内側につまみだす	14
13	2SK0065		弥生	甕	15.1			口縁部1／3	横ナデ	刷毛	ナデ			白灰色	細砂粒含	良	「く」の字状	体部丹塗り	15
14	2SK0065		弥生	壷	6.3	5.0	18.6	ほぼ完形	横ナデ	刷毛	？	？	ナデ	白灰色	細砂粒含	良	直立	頚部に突帯1条有	16
15	2SK0065		弥生	高坏	24.0			口縁部1／4	横ナデ					赤茶色	細砂粒含	良	T字状	全面丹塗り	12
16	2SK0065		弥生	高坏	24.0			口縁部1／6	横ナデ					明茶色	砂粒含	良	T字状	端部に面有	11
17	2SK0075		弥生	甕	16.4	4.0	30.9	ほぼ完形	横ナデ	刷毛	刷毛 ケズリ	ケズリ	未調整	薄茶色	砂粒含	良	「く」の字状		19
18	2SK0081		弥生	甕	17.6	10.2	22.0	1／2	横ナデ	刷毛	刷毛		未調整	白茶色	砂粒含	やや不良	「く」の字状		21
19	2SK0081		弥生	甕	19.2			上半部1／3	横ナデ	刷毛	刷毛			白茶色	砂粒多	やや不良	「く」の字状		20
20	2SK0081		弥生	甕	37.9			口縁部1／6	横ナデ	刷毛	刷毛			灰茶色	砂粒多	やや不良	「く」の字状		22
21	2SK0087		弥生	蓋	33.8		12.0	1／3	横ナデ	刷毛	絞り痕			茶色	砂粒含	良好	端部に面有	端部の面に刻み目有丹塗り	23
22	2SD0089		弥生	甕	36.2			口縁部1／6	横ナデ		ナデ			赤褐色	砂粒含	良	逆L字状	底部に焼成後穿孔	28
23	2SD0089		弥生	甕		6.5		底部のみ		刷毛	ナデ	ナデ	未調整	薄茶色	砂粒多	良		つまみ部上面の調整はナデ	26
24	2SD0089		弥生	蓋				つまみ部のみ		刷毛	刷毛 シボリ			外;明赤茶色 内;暗茶色	砂粒含	良			27
25	2SD0089		弥生	鉢	15.3	5.8	7.4	1／3	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	？	明茶色～黒灰色	砂粒多	良		底端部に面があるが接地しない	25
26	2SD0089		弥生	器台	13.0	14.6	19.5	ほぼ完形	横ナデ	刷毛	刷毛 ナデ	横ナデ	横ナデ	明茶色～黒灰色	砂粒含	良	外反 端部に面有	端部に面有	24
27	2SK0099		弥生	甕	15.8			口縁部1／3	横ナデ	刷毛	刷毛			灰色	砂粒多	不良	「く」の字状	端部の面に刻み目有	30
28	2SK0099		弥生	壷	17.6			口縁部1／3	横ナデ	刷毛	刷毛			淡茶色	砂粒多	良	外反	底部は上げ底状	29
29	2SD0100		弥生	甕		8.5		底部のみ		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ 横ナデ	外;明茶色 内;薄白茶色	砂粒多	やや良		底部は上げ底状	31
30	2SK0108		弥生	甕		6.9		底部のみ		刷毛	不明	不明	ナデ 横ナデ	外;明茶色 内;灰色	砂粒多	やや不良		体部外面に貼付突帯1条有	32
31	2SK0108		弥生	甕	27.8			口縁部1／3	横ナデ	刷毛	ナデ			薄明茶色	砂粒含	良	城ノ越タイプ	頚部外面に貼付突帯1条有	33
32	2SK0109		弥生	壷	21.1			約1／4	横ナデ	ナデ	ナデ			明橙色	砂粒多	やや良	外反		34
33	2SK0123		弥生	甕	25.8			口縁部1／8	横ナデ	刷毛	刷毛			淡赤褐色	砂粒多	良	「く」の字状	2次焼成を受ける	36
34	2SK0123		弥生	蓋				上半部		刷毛	ナデ			暗茶色	砂粒多	ほぼ良		体部径は8.6cm	35
35	2SX0125		弥生	小壷	5.2			口縁部1／3	横ナデ	刷毛	ナデ			淡赤褐色	砂粒多	良	わずかに外反	口縁端部に面有	37
36	2SK0131		弥生	鉢	13.0			口縁部1／8						暗褐色	砂粒多	ほぼ良	わずかに内湾		38
37	2SK0131		土師	高坏	9.0	6.8	6.4	1／3	手ずくね成形	手ずくね成形	手ずくね成形	手ずくね成形	手ずくね成形	暗褐色	精良	ほぼ良	わずかに内湾		39
38	2SK0147		黒A	椀	15.0			口縁部1／6	横方向篦磨き	篦磨き 篦削り	横方向篦磨き			内;黒灰色 外;淡茶褐色	精良	良好	外反		46
39	2SK0147		黒B	椀		8.4		底部1／3		横方向篦磨き	横方向篦磨き	横方向篦磨き	回転篦切り	黒褐色	精良	良			48
40	2SK0147		黒B	椀	11.4	6.6	4.8	ほぼ完形	横方向篦磨き	横方向篦磨き	横方向篦磨き	横方向篦磨き	回転篦切り	黒色	精良	良好	外反		47

Tab.12　梅島遺跡（第２次調査）出土遺物観察表①

No.	遺構 番号	層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R·No
41	2SK0147		土師	皿	10.4	7.3	2.0	ほぼ完形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	ナデ	回転篦切り	明赤褐色	精良	良好	わずかに内湾		40
42	2SK0147		土師	皿	10.5	7.0	2.2	完形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	ナデ	回転篦切り	淡茶褐色	ほぼ精良	良好	わずかに外反	外底面に粘土が再付着している	41
43	2SK0149		弥生	甕		4.2		底部のみ		ナデ	ナデ	ナデ	横ナデ	淡灰褐色	精良	良		底部は上げ底状	49
44	2SK0150		弥生	甕		10.6		下半部		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒多	良			50
45	2SK0160	上層	弥生	鉢	14.0	5.0	6.0	完形	横ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒多	良	内湾		52
46	2SK0160	上層	弥生	器台	11.7	13.2	14.1	ほぼ完形	横ナデ	刷毛	刷毛ナデ	横ナデ	横ナデ	淡灰褐色	砂粒少	ほぼ良	外反端部に面有	底端部の面は接地しない	53
47	2SK0160	上層	弥生	甕	26.8	10.4	27.0	ほぼ完形	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒多	やや不良	深い「く」の字状		54
48	2SK0160	上層	弥生	甕	26.8	7.8	24.8	ほぼ完形	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	細砂粒含	良	深い「く」の字状		58
49	2SK0160	上層	弥生	甕	33.6	8.6	34.1	ほぼ完形	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒少	ほぼ良	深い「く」の字状		63
50	2SK0160	上層	弥生	甕	27.6	10.3	25.4	ほぼ完形	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒含	やや良	深い「く」の字状		59
51	2SK0160	上層	弥生	甕	35.4	9.0	34.6	ほぼ完形	横ナデ	刷毛	粗い刷毛	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒少	やや良	深い「く」の字状		61
52	2SK0160	上層	弥生	甕	27.0	11.5	26.0	2／3	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	細砂粒多	良	深い「く」の字状		60
53	2SK0160	上層	弥生	甕	36.0			上半部1／3	横ナデ	刷毛	ナデ			明茶褐色	砂粒少	ほぼ良	「く」の字状	体部外面中位に突帯1条有	62
54	2SK0160	上層	弥生	甕	26.5	7.5	27.5	3／4	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	オサエ	淡茶褐色	砂粒多	良	深い「く」の字状		57
55	2SK0160	上層	弥生	甕	34.0			口縁部1／3	横ナデ	刷毛	ナデ			茶褐色	砂粒やや少	やや良	深い「く」の字状		55
56	2SK0160	上層	土師？	甕	32.0			口縁部2／3	横ナデ	横ナデ	横ナデ			淡乳褐色	砂粒やや多	良	緩くひらく		64
57	2SK0160	上層	弥生	甕	26.0			口縁部1／4	横ナデ	刷毛	ナデ			茶褐色	砂粒多	ほぼ良	城ノ越タイプ	体部外面上位に沈線条有	56
58	2SK0160	下層	弥生	甕		6.5		下半部		粗く研磨	ナデ	ナデ	ナデ	乳褐色	精良	良		外面丹塗り	51
59	2SK0170		弥生？	坏	18.0		8.0	1／6	不明	刷毛	刷毛	刷毛	不明	明赤褐色	砂粒多	良	緩く外反		65
60	2SK0170		弥生	甕				口縁部細片	横ナデ	横ナデ	ナデ			淡赤褐色	砂粒多	やや不良	城ノ越タイプ	体部外面上位に突帯1条有	68
61	2SK0170		弥生	壺	21.2		33.9	ほぼ完形	横ナデ	刷毛	刷毛	刷毛	刷毛	赤褐色	砂粒多	良好	外反端部に面有	口縁端部に刻み目有	70
62	2SK0170		弥生	甕	17.6	4.0	24.7	ほぼ完形	横ナデ	刷毛	刷毛	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒少	良	「く」の字状		69
63	2SK0170		弥生	甕		6.6		底部1／2		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒少	ほぼ良			66
64	2SK0170		弥生	壺	30.0			口縁部1／6	横ナデ	ナデ	ナデ			淡赤褐色	砂粒多	良	外反		67
65	2SK0170		弥生	壺		7.2		底部のみ		刷毛ナデ	刷毛	刷毛	刷毛	乳褐色	砂粒少	ほぼ良			71
66	2SK0180		弥生	壺	18.0	9.0	25.5	ほぼ完形	横ナデ	刷毛	不明	不明	不明	暗茶褐色	砂粒多	良	外反端部に面有	肩部に沈線文様有	76
67	2SK0171		土師	皿	10.6	7.6	1.8	口縁部1／8	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	糸切り	端赤褐色	精良	良	わずかに内湾		72
68	2SX0171		黒	椀		9.0		底部1／2		篦磨き	篦磨き篦削り	篦磨き	横ナデ	黒灰色	精良	良			73
69	2SK0179		A？	高坏		17.2		脚底部1／8		刷毛ナデ	ナデ	刷毛	横ナデ	暗茶褐色	砂粒少	ほぼ良		底部の面は接地しない	75
70	2SK0179		弥生	甕				口縁部細片	横ナデ	不明	ナデ			端茶褐色	砂粒多	やや不良	城ノ越タイプ		74
71	2SX0181		弥生	鉢	11.0			口縁部1／8	横ナデ	刷毛	ナデ			暗褐色	砂粒少	良	内傾	口縁下外面に沈線1条有	77
72	2SK0184		弥生	坏	13.0	7.6	3.2	1／6	横ナデ	不明	横ナデ	横ナデ	篦切り	淡茶褐色	精良	やや不良	わずかに外反		78
73	2SK0184		土師	椀	13.0			1／6	横ナデ	篦削り	不明			内面黒灰色 外面淡茶褐色	砂粒少	やや不良	わずかに外反		79
74	2SK0185		黒A	甕		7.1		底部のみ		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒多	ほぼ良			81
75	2SK0185		弥生	甕	27.0			口縁部1／6	横ナデ	刷毛	ナデ			明赤褐色	砂粒多	良	城ノ越タイプ	体部上位外面に沈線1条有	80
76	2SK0190		弥生	甕	11.4	6.3	10.3	2／3	横ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒少	良	T字状	全面丹塗り 体部外面に突帯1条	82
77	2SK0190		弥生	甕	24.0			上半部1／4	横ナデ	刷毛	ナデ			暗褐色	砂粒少	良	城ノ越タイプ		84
78	2SX0190		弥生	甕		5.8		底部のみ		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	細砂粒含	良			83
79	2SX0190		弥生	甕	29.0	5.7	36.0	ほぼ完形	不明	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒多	不良	城ノ越タイプ		85
80	2SX0191		弥生	甕	27.6			2／3	横ナデ	刷毛	ナデ			茶褐色	砂粒多	ほぼ良	城ノ越タイプ	体部上位外面に沈線1条有	86

Tab.13　梅島遺跡（第２次調査）出土遺物観察表②

No.	遺構 番号	層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R・No.
81	2SK0192		弥生	甕	34.0			口縁部1／8	横ナデ	刷毛	ナデ			乳褐色	砂粒含	不良	城ノ越？タイプ	口縁端部面に刻み目 体部外面に突帯1条	89
82	2SK0191		弥生	甕		6.8		底部のみ		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒含む	良		底部は上げ底状	92
83	2SK0192		弥生	甕		7.0		底部のみ		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒含む	ほぼ良		底部は上げ底状	91
84	2SK0192		弥生	支脚	5.0	6.1	9.2	完形	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒少	良		上面と下面はくぼむ	93
85	2SK0192		弥生	支脚	5.5	6.3	9.2	完形	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒少	良		上面と下面はくぼむ	94
86	2SK0192		弥生	甕	23.0			口縁部1／8	横ナデ	刷毛	ナデ			茶褐色	砂粒多	良	城ノ越タイプ		88
87	2SK0192		弥生	甕	27.2			上半部1／4	横ナデ	刷毛	ナデ			茶褐色	細砂粒多	良	城ノ越タイプ	体部上位外面に沈線1条有	87
88	2SK0192		弥生	甕	33.0			口縁部1／6	横ナデ	刷毛	ナデ			暗茶褐色	砂粒多	良	城ノ越タイプ	体部外面に突帯1条	90
89	2SK0193		弥生	甕	16.0			上半部1／5	不明	不明	不明			淡灰褐色	細砂粒含	良	「く」の字状		95
90	2SK0194		弥生	甕				細片		刷毛	ナデ			暗茶褐色	細砂粒含	良		体部内面に線刻有	96
91	2SK0198		弥生	甕	15.0			上半部1／4	横ナデ	刷毛	刷毛			淡茶褐色	砂粒少	良	「く」の字状		97
92	2SX0201		弥生	甕				細片	横ナデ	刷毛	ナデ			淡茶褐色	砂粒少	良	城ノ越タイプ	体部上位外面に沈線1条有	98
93	2SK0205		弥生	甕				細片	横ナデ	横ナデ	ナデ			淡茶褐色	砂粒少	ほぼ良	T字状 端部に面有		99
94	2SK0206		弥生	壺	4.5	6.2	12.5	ほぼ完形	横ナデ	刷毛	不明	不明	ナデ	淡灰褐色	砂粒少	ほぼ良	わずかに内湾		100
95	2SK0206		弥生	壺	9.0			1／2	横ナデ	刷毛	刷毛	ナデ		茶褐色	砂粒少	ほぼ良	直立		101
96	2SK0206		弥生	甕				口縁部細片	横ナデ	刷毛	刷毛			淡黄褐色	砂粒少	良	「く」の字状	頸部に突帯1条有	102
97	2SK0207		弥生	甕	25.2	8.0	28.1	ほぼ完形	横ナデ	ナデ 刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	暗褐色	砂粒多	ほぼ良	城ノ越タイプ	体部上位外面に沈線1条有	104
98	2SK0207		弥生	甕	26.6			上半部1／2	横ナデ	刷毛	ナデ			茶褐色	砂粒多	ほぼ良	城ノ越タイプ	体部上位外面に貼付け突帯1条有	105
99	2SK0207		弥生	壺		7.0		1／5		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	赤褐色	砂粒多	良			103
100	2SK0210		弥生	甕	13.6			口縁部1／4	横ナデ	刷毛	刷毛			淡茶褐色	砂粒少	やや不良	直立	口縁端部に面有	116
101	2SK0210		弥生	甕	18.0			口縁部1／4	横ナデ	刷毛	刷毛			赤褐色	砂粒少	良	緩い「く」の字状	口縁端部に面有	114
102	2SK0210		弥生	甕	22.0			口縁部1／4	横ナデ	篦削り	刷毛			淡灰褐色	砂粒多	不良	「く」の字状	口縁端部に面有	115
103	2SK0210		弥生	甕	17.2	4.5	33.5	ほぼ完形	横ナデ	刷毛 ナデ	刷毛	刷毛	ナデ	茶褐色	細砂粒含	良	ほぼ直立	口縁端部に面有	113
104	2SK0210	上層	土師	坏	9.4		5.3	完形	横ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒少	ほぼ良	わずかに内湾	須恵器坏の模倣か？	108
105	2SK0210	上層	土師	坏	10.7		4.5	完形	横ナデ	刷毛	刷毛	刷毛	不明	淡赤褐色	砂粒少	やや不良	わずかに内湾		106
106	2SK0210	上層	土師	坏	12.8		5.8	ほぼ完形	横ナデ	篦削り	ナデ	ナデ	篦削り	淡茶褐色	砂粒少	やや不良	わずかに内湾		107
107	2SK0210	上層	弥生	鉢	19.5			口縁部のみ	横ナデ	刷毛	横ナデ			暗褐色	砂粒少	良	「く」の字状		111
108	2SK0210	上層	土師？	鉢	15.6			1／3	横ナデ	不明	ナデ			淡茶褐色	精良	良	ほぼ直立		112
109	2SK0210	上層	弥生	甕？	16.1		34.1	ほぼ完形	横ナデ	刷毛	刷毛	刷毛	ナデ	橙褐色	砂粒含	良好	外反 端部に面有	口縁端部の面はつまみ出す	438
110	2SK0210	上層	弥生	壺	20.0			上半部	横ナデ	刷毛	刷毛			淡茶褐色	砂粒少	良		口縁端部面に刻み目有	110
111	2SK0210	上層	土師	高坏		11.2		脚部のみ			不明	不明	不明	淡茶褐色	砂粒少	良	ゆるやかに外反		109
112	2SK0210	上層	弥生	甕				口縁部細片	横ナデ	不明 刷毛	刷毛			淡橙褐色	細砂粒含	良好	「く」の字状	頸部に台形突帯1条有	437
113	2SK0210	下層	弥生	甕	14.3			底部欠損	横ナデ	刷毛	刷毛	刷毛		淡茶褐色	砂粒多	ほぼ良	外反 端部に面有	口縁端部に面有	120
114	2SK0210	下層	弥生	壺	20.5			上半部	横ナデ	刷毛	刷毛			赤褐色	砂粒少	良	外反 端部に面有	頸部は直立する	126
115	2SK0210	下層	弥生	壺	20.5			2／3	横ナデ	刷毛	刷毛			茶褐色	砂粒少	ほぼ良	ほぼ直立	頸部は直立する	125
116	2SK0210	下層	弥生？	鉢	14.8			1／2	横ナデ	不明	ナデ			淡褐色	砂粒含	良好	緩く外反		439
117	2SK0210	下層	弥生	壺	11.0			上半部	横ナデ	刷毛	刷毛			茶褐色	砂粒少	良			117
118	2SK0210	下層	弥生	高坏		14.8		脚部のみ		不明	不明	不明	不明	淡赤褐色	精良	やや不良		3ヶ所に穿孔 底端部の面は接地しない	119
119	2SK0210	下層	弥生	高坏		11.4		脚部のみ		刷毛	刷毛	横ナデ	横ナデ	明赤褐色	精良	良		3ヶ所に穿孔 化粧土を施す	118
120	2SK0210	下層	弥生	器台	14.4	18.0	20.0	1／2	横ナデ	刷毛 叩き	刷毛 ナデ	刷毛	叩き	明茶褐色	砂粒少	良	内側に屈曲	底端部の面は接地しない	121

Tab.14　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物観察表③

No.	遺構 番号	層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R·No.
121	2SK0210	下層	弥生	器台	14.0			口縁部のみ	横ナデ	刷毛叩き	刷毛ナデ			端赤褐色	砂粒少	ほぼ良	内側に強く屈曲		123
122	2SK0210	下層	弥生	器台		18.0		1／2		刷毛叩き	刷毛ナデ	刷毛	叩き	明茶褐色	砂粒少	ほぼ良		底端部の面は接地しない	122
123	2SK0210	下層	弥生	器台	14.4	20.0	17.6	1／2	横ナデ	刷毛叩き	刷毛ナデ	刷毛	叩き	暗茶褐色	砂粒少	ほぼ良	内側に強く屈曲	底端部の面はほぼ接地する	124
124	2SK0217		弥生	鉢	16.2		7.7	1／2	横ナデ	篦磨き	ナデ			淡茶褐色	砂粒多	良	内湾		127
125	2SK0217		弥生	甕	26.4			口縁部1／4	横ナデ	刷毛	ナデ			茶褐色	砂粒やや多	ほぼ良	城ノ越タイプ	体部上位外面に沈線1条有	128
126	2SK0220		弥生	壷				2／3	横ナデ	刷毛	ナデ			淡茶褐色	砂粒少	やや不良	「く」の字状		130
127	2SK0220		弥生	壷	18.0	6.0	36.1	ほぼ完形	横ナデ	刷毛	刷毛	刷毛	ナデ	淡茶褐色	砂粒多	良	外反	頚部は直立する 底部に篦記号有	133
128	2SK0220		弥生	壷	17.0			2／3	横ナデ	刷毛	刷毛			淡茶褐色	砂粒多	良	外反	頚部は直立する	131
129	2SK0220		弥生	支脚				完形	(上面)ナデ	叩き	ナデ	ナデ	ナデ	淡赤褐色	砂粒少	ほぼ良		上面中央に上方向から1ヶ所穿孔	129
130	2SK0220		弥生	壷	23.8			上半部	横ナデ	刷毛	刷毛			茶褐色	砂粒少	良	外反	頚部は直立する	132
131	2SK0242		弥生	鉢				細片	横ナデ	刷毛	刷毛			淡赤褐色	砂粒多	良	内外面つまみ出し	口縁端部上面に刻み目有	134
132	2SK0245		弥生	甕	9.4			口縁部1／6	横ナデ	刷毛	不明			赤褐色	砂粒多	良	「く」の字状		135
133	2SK0246		弥生	甕	31.5			上半部	横ナデ	刷毛	ナデ			暗褐色	砂粒多	ほぼ良	城ノ越タイプ	体部上位外面に沈線1条有	136
134	2SK0249		弥生	甕	25.0			口縁部1／4	横ナデ	刷毛	刷毛			淡茶褐色	砂粒含	良	緩く外反	口縁端部に面有	137
135	2SK0250		弥生	壷	27.0			口縁部のみ	横ナデ	ナデ	ナデ			暗褐色	砂粒少	ほぼ良	外反	口縁端部に面有 頚部は直立気味	138
136	2SK0251		土師	皿	9.0	7.0	1.3	ほぼ完形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	糸切り	淡茶褐色	砂粒少	良	外方に開く		139
137	2SK0251		弥生	器台		8.5		2／3			ナデ	ナデ	横ナデ	淡茶褐色	砂粒含	良			140
138	2SK0251		弥生	甕	24.0			口縁部1／4	横ナデ	刷毛	ナデ			暗褐色	砂粒多	良	城ノ越タイプ	体部上位外面に沈線1条有	141
139	2SK0251		弥生	蓋？高坏？	28.6			口縁部1／4	横ナデ	刷毛	ナデ			茶褐色	砂粒含	ほぼ良		端部の面は接地しない	142
140	2SK0251		弥生	壷		7.2		下半部1／2		篦磨き	篦磨き	篦磨き	ナデ	茶褐色	砂粒多	良		体部最下位に穿孔有	143
141	2SD0260		弥生	甕				細片	横ナデ	刷毛	ナデ			赤褐色	砂粒含	不良	T字状		148
142	2SD0260		弥生	甕				細片	横ナデ	不明	ナデ			淡赤褐色	砂粒多	良	城ノ越タイプ	体部上位外面に貼付け突帯1条有	149
143	2SD0260		弥生	甕				細片	横ナデ	不明	不明			暗赤褐色	精良	ほぼ良	T字状	口縁端部に刻み目有 体部にM字突帯1条	150
144	2SD0260		弥生	高坏		17.6		脚底部4／5		磨き	ナデ	横ナデ	横ナデ	明赤褐色	砂粒少	良		底部面は接地しない	151
145	2SD0260		土師	坏	12.4	7.3	3.0	ほぼ完形	横ナデ	横ナデ	不明	不明	篦切り	淡赤褐色	良	やや不良	わずかに外反		144
146	2SD0260		土師	坏	13.4	8.6	2.9	ほぼ完形	横ナデ	回転篦削り	横ナデ	ナデ	篦切り	淡赤褐色	良	やや不良	外方に開く		145
147	2SD0260		土師	坏	14.0	7.6	3.6	1／3	横ナデ	回転篦削り	不明	不明	篦切り	淡赤褐色	良	良	外方に開く		146
148	2SD0260		青磁	椀	17.0			口縁部1／4						素地:青灰色 釉薬:透明	精良	良	外反	体部外面に縞連弁 竜泉Ⅰ－5	147
149	2SK0262		土師	坏	13.0	7.5	3.4	1／2	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	篦切り	淡赤褐色	ほぼ精良	良	外方に開く		152
150	2SK0262		土師	坏	14.0	8.3	3.8	1／3	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	篦切り	淡茶褐色	砂粒少	良	外方に開く		153
151	2SK0262		土師	坏	12.8	7.3	3.7	完形	不明	不明	不明	不明	不明	淡青灰色	砂粒少	不良	外方に開く	体部内面に油煙有	154
152	2SD0270		土師？	甕	31.0			口縁部1／6	横ナデ	刷毛ナデ	ナデ			淡青灰色	精良	ほぼ良	城ノ越タイプ？	体部上位外面に刻み目突帯1条有	159
153	2SD0270		土師	甕				口縁部細片	横ナデ	横ナデ	ナデ			淡灰色	砂粒多	良	端部肥厚		160
154	2SD0270		土師	土鍋	49.0			口縁部1／4	横ナデ	刷毛	刷毛			暗茶褐色	砂粒含	良	わずかに外反		157
155	2SD0270		土師	土鍋				細片	横ナデ	刷毛	横ナデ			暗褐色	ほぼ精良	良	玉縁状		156
156	2SD0270		瓦質	坏	20.0	14.0		1／4	横ナデ	ナデ	刷毛			淡黒灰色	砂粒多	やや不良	大きく外反		158
157	2SD0270		土師	坏	11.6	7.0	3.4	ほぼ完形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	糸切り	淡茶褐色	精良	良	外方に開く		155
158	2SD0270		青磁	皿	11.6	4.5	4.0	ほぼ完形	施釉	施釉	施釉	施釉	露胎	胎土:淡灰褐色 釉薬:透明	ほぼ精良	良	内湾	内底見込みの釉を輪状に掻き取る	161
159	2SD0270		磁器	皿	12.0	4.2	3.2	1／3	施釉	施釉	施釉	施釉	露胎	胎土:淡茶褐色 釉薬:乳茶色	ほぼ精良	ほぼ良	外反	内底見込みに目跡有	163
160	2SD0270		磁器	皿	12.1	5.1	3.6	1／2	施釉	施釉	施釉	施釉	露胎	胎土:淡茶褐色 釉薬:乳茶色	ほぼ精良	ほぼ良	内湾	内底見込みの釉を輪状に掻き取る	162

Tab.15　梅島遺跡（第２次調査）出土遺物観察表④

No.	遺構 番号	層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R·No.
161	2SD0270		磁器	皿	13.6	4.5	3.9	1／6	施釉	施釉	施釉	施釉	露胎	胎土;乳灰色 釉薬;青緑色	ほぼ精良	良	内湾	内底見込みの釉を輪状に掻き取る	164
162	2SD0270		染付	湯呑み	7.4	3.3	3.8	1／3	施釉	施釉	施釉	施釉	施釉	胎土;白色 釉薬;透明	精良	良好	ほぼ直立	外面にコンニャク印版による施文有	166
163	2SD0270		染付	湯呑み	8.4	3.3	4.5	1／2	施釉	施釉	施釉	施釉	施釉	胎土;白色 釉薬;透明	精良	良好	ほぼ直立	外面に雨降り文有	167
164	2SD0270		染付	椀	10.2	4.1	5.2	2／3	施釉	施釉	施釉	施釉	施釉	胎土;白色 釉薬;透明	精良	良好	ほぼ直立		171
165	2SD0270		染付	椀	10.0	4.0	4.9	1／2	施釉	施釉	施釉	施釉	施釉	胎土;白色 釉薬;透明	精良	良好	ほぼ直立		170
166	2SD0270		染付	椀	10.9	4.5	5.6	2／3	施釉	施釉	施釉	施釉	施釉	胎土;白色 釉薬;透明	精良	良好	ほぼ直立		169
167	2SD0270		染付	椀	10.0	4.0	4.9	1／2	施釉	施釉	施釉	施釉	施釉	胎土;白色 釉薬;透明	精良	良好	ほぼ直立	高台見込みに手描の「うず福」文有	168
168	2SD0270		染付	皿	14.4	8.4	3.1	1／4	施釉	施釉	施釉	施釉	施釉	胎土;白色 釉薬;透明	精良	良好	ゆるく内湾		172
169	2SD0270		陶器	線香立て	11.8	8.2	8.2	1／4	施釉	施釉	施釉	施釉	施釉	胎土;赤褐色 釉薬;緑褐色	精良	良好	内側に折曲げる		165
170	2SK0277		弥生	甕	17.0	5.5	21.1	ほぼ完形	横ナデ	刷毛ナデ	刷毛	刷毛	ナデ	茶褐色	砂粒少	ほぼ良	「く」の字状	口縁端部に面有	188
171	2SK0277		弥生	高坏	25.0			口縁部1／6	横ナデ	篦削り	横ナデ			黒灰色	細砂粒含	ほぼ良	外反		175
172	2SK0277		弥生	高坏				口縁部細片	横ナデ	横ナデ	横ナデ			淡赤褐色	精良	良	外反		176
173	2SK0277		弥生	鉢	20.8		11.9	ほぼ完形	横ナデ	刷毛	刷毛ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒含	良	わずかに内湾	口縁端部上面に面有	174
174	2SK0277		弥生	鉢	27.4			1／3	横ナデ	刷毛	刷毛			淡灰茶色	砂粒含	良	内湾 端部に面有		195
175	2SK0277		弥生	甕	16.0	18.4	20.1	ほぼ完形	横ナデ	ナデ	ナデ 刷毛	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒含	良	「く」の字状	口縁端部に不明瞭な面有	173
176	2SK0278		弥生	甕		8.4		底部のみ				横ナデ	横ナデ	淡茶褐色	細砂粒多	良			177
177	2SK0299		弥生	鉢				口縁部細片	横ナデ	刷毛	刷毛			淡茶褐色	砂粒多	良	わずかに内湾	口縁端部上面に面有	178
178	2SK0280		弥生	甕	28.6			上半部1／2	横ナデ	刷毛	ナデ			茶褐色	砂粒多	良	城ノ越タイプ	体部上位外面に沈線1条有	179
179	2SK0282		土師	鉢	11.0			上半部1／8	横ナデ	横ナデ	横ナデ			明茶褐色	砂粒含	やや不良	外方にひらく		180
180	2SK0284		弥生	甕		13.0		底部のみ		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒多	良			184
181	2SK0284		弥生	甕	29.0			口縁部1／8	横ナデ	刷毛	ナデ			淡褐色	砂粒多	やや不良	城ノ越タイプ	体部上位外面に貼付け突帯1条有	182
182	2SK0284		弥生	甕	27.0			口縁部1／4	横ナデ	刷毛	ナデ			茶褐色	砂粒多	良	城ノ越タイプ	体部上位外面に貼付け突帯1条有	183
183	2SK0284		弥生	甕	32.6			口縁部1／8	横ナデ	刷毛	ナデ			茶褐色	砂粒多	良	城ノ越タイプ	体部上位外面に貼付け突帯1条有	181
184	2SK0286		弥生	鉢	16.0			口縁部1／4	横ナデ	横ナデ	刷毛ナデ			赤褐色	砂粒含	良好	外反		185
185	2SX0290		弥生	甕	5.7			底部のみ		不明	ナデ	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒多	良			186
186	2SK0295		土師	坏	13.4	8.2	2.9	ほぼ完形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	篦切り	淡茶褐色	精良	ほぼ良	外方へひらく		202
187	2SK0295		土師	坏	12.8	7.2	3.3	ほぼ完形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	篦切り	淡茶褐色	精良	ほぼ良	外方へひらく		201
188	2SK0295		土師	坏	12.8	7.8	3.0	1／2	横ナデ	横ナデ	横ナデ	ナデ	篦切り	淡茶褐色	精良	良	わずかに内湾		187
189	2SK0299		弥生	鉢	15.6			1／3	横ナデ	不明	刷毛ナデ			淡茶褐色	砂粒含	やや不良	「く」の字状	口縁端部に面有	197
190	2SK0299		弥生	鉢	15.0		8.7	1／3	横ナデ	ナデ	ナデ			淡灰茶色	砂粒少	やや良	「く」の字状	口縁端部に面有	196
191	2SK0299		弥生	鉢	20.0	6.0	17.1	ほぼ完形	横ナデ	刷毛ナデ	刷毛ナデ	ナデ	ナデ	茶褐色	細砂粒多	良	「く」の字状	口縁端部に面有	191
192	2SK0299		弥生	甕	10.0			上半部1／3	横ナデ	刷毛	刷毛			黒灰色	砂粒多	ほぼ良	「く」の字状	口縁端部に面有	190
193	2SK0299		弥生	鉢	22.4		15.7	ほぼ完形	横ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒多	良	「く」の字状	口縁端部に面有	192
194	2SK0299		弥生	鉢	13.3		11.0	ほぼ完形	横ナデ	刷毛ナデ	刷毛ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒少	ほぼ良	内傾	口縁部上面は不整形	193
195	2SK0299		弥生	鉢	25.6		11.5	4／5	横ナデ	刷毛	刷毛ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒含	ほぼ良	内湾 端部に面有		194
196	2SK0299		弥生	甕	17.4			上半部1／3	横ナデ	ナデ	ナデ			淡茶褐色	砂粒少	良	「く」の字状	口縁端部に面有	189
197	2SK0299		弥生	高坏	30.0			坏部1／3	不明	不明	不明			淡赤褐色	砂粒多	良	外反	口縁部肥厚 口縁部肥厚	200
198	2SK0299		弥生	高坏	32.0	18.6	24.0	ほぼ完形	不明	不明	不明	刷毛	刷毛	淡茶褐色	砂粒多	やや不良	緩く外反	底端部の面は接地しない	199
199	2SK0299		弥生	高坏		17.8		脚部のみ		刷毛横ナデ	篦削り刷毛	横ナデ	横ナデ	淡茶褐色	砂粒少	ほぼ良		底端部の面は接地しない	198
200	2SD0300		弥生	壺	14.0		13.0	1／3	横ナデ	刷毛ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒多	ほぼ良	「く」の字状		203

Tab.16　梅島遺跡（第２次調査）出土遺物観察表⑤

No.	遺構 番号	層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R·No
201	2SD0300		弥生	甕	23.0			口縁部1／3	横ナデ	刷毛	刷毛			淡茶褐色	砂粒多	良	「く」の字状	口縁端部に面有	205
202	2SD0300		弥生	甕				口縁部細片	横ナデ	刷毛	ナデ			茶褐色	砂粒多	良	城ノ越タイプ		206
203	2SD0300		弥生	甕		6.2		底部のみ		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒少	ほぼ良			207
204	2SD0300		ﾐﾆﾁｭｱ	甕		2.2		底部のみ		手づくね	手づくね	手づくね	手づくね	暗褐色	精良	ほぼ良			208
205	2SD0300		?	勾玉(未)				完形											209
206	2SD0300		弥生	壷	20.0			口縁部1／3	横ナデ	刷毛	横ナデ			明茶褐色	砂粒少	良	緩く外反		204
207	2SK0302		弥生	甕	34.0			上半1／2	横ナデ	ナデ	ナデ			暗褐色	砂粒多	良	「く」の字状	口縁端部に面有	210
208	2SK0307		弥生	甕	22.0			上半部1／2	横ナデ	叩き	ナデ			暗褐色	砂粒含	良	「く」の字状	口縁端部に面有	214
209	2SK0307		弥生	甕	13.2			口縁部1／2	横ナデ	叩き刷毛	ナデ			淡茶褐色	砂粒少	ほぼ良	「く」の字状	口縁端部に面有	213
210	2SK0307		土師?	甕	13.4		17.2	1／3	横ナデ	叩き	ナデ	ナデ・	叩き	暗褐色	砂粒含	良	「く」の字状	口縁端部に面有	212
211	2SK0307		弥生	鉢	18.0		10.4	ほぼ完形	横ナデ	叩き篦削り	刷毛	刷毛	篦削り	淡赤褐色	砂粒多	ほぼ良	つまみだして外反	底部に穿孔 高坏の坏部となる可能性有	215
212	2SK0307		弥生	高坏		9.4		脚部のみ		刷毛	刷毛	横ナデ	横ナデ	暗赤褐色	精良	良		脚部に3ヶ所穿孔有	217
213	2SK0307		弥生	高坏	21.6			底部欠損	不明	刷毛	刷毛			淡茶褐色	精良	良	大きく外方へひらく	脚部に穿孔有	216
214	2SK0307		土師	甕	14.0			口縁部1／6	横ナデ	刷毛	篦削り			茶褐色	砂粒含	やや不良	「く」の字状	口縁端部をつまみ上げる	211
215	2SK0310		灰釉陶器	坏	11.4	3.8	3.8	ほぼ完形	施釉	施釉	施釉	施釉	露胎	暗灰色	精良	良	緩く内湾	口縁部の一部に褐釉を施す	218
216	2SK0312		弥生	壺	8.0	7.0	14.8	ほぼ完形	横ナデ	刷毛	刷毛	ナデ	ナデ	暗茶褐色	精良	ほぼ良	内傾	口縁端部に面有	219
217	2SK0312		弥生	甕		5.9		底部のみ		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	暗褐色	砂粒多	良			220
218	2SK0320		弥生	甕				口縁部細片	横ナデ	刷毛	ナデ			茶褐色	砂粒多	不良	城ノ越タイプ		221
219	2SK0320		弥生	甕		6.3		底部のみ		不明	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒多	不良		底部は上げ底状	222
220	2SD0330		青磁	椀	17.0			口縁部1／4	施釉	施釉	施釉			素地;暗灰色 釉薬;暗緑色	精良	良好	わずかに外反	体部内面に施文有	223
221	2SK0341		弥生	甕				口縁部細片	横ナデ	刷毛	ナデ			茶褐色	砂粒含	ほぼ良	城ノ越タイプ	体部上位外面に貼り付け突帯1条有	225
222	2SK0341		弥生	甕	20.0			口縁部1／6	横ナデ	刷毛	刷毛			暗褐色	砂粒含	ほぼ良	城ノ越タイプ	口縁部内面は内側につまみ出す	224
223	2SD0350		弥生	高坏				口縁部細片	不明	不明	不明			黄褐色	砂粒含	不良	二重口縁状		230
224	2SD0350		弥生	甕	27.0			口縁部1／8	不明	不明	不明			淡茶褐色	砂粒含	不良	「く」の字状	口縁端部は肥厚し面を持つ	227
225	2SD0350		弥生	壺		6.1		底部のみ		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒含	ほぼ良			229
226	2SD0350		弥生	甕		6.4		底部のみ		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡赤褐色	砂粒含	良			228
227	2SD0350		弥生	壺	21.0			口縁部1／4	横ナデ	刷毛	刷毛			淡茶褐色	砂粒含	やや不良	外反	頸部は直立する	226
228	2SD0350		弥生	筒形土器	29.0			鍔部のみ	横ナデ	篦磨き	絞り痕			丹塗り	砂粒含	良好	鍔端部に面有		231
229	2SK0355		縄文	甕				口縁部細片	横ナデ	ナデ	ナデ			外;淡黒茶色 内;淡茶色	精良	良好	わずかに外方にひらく	口縁部に刻み目突帯有	440
230	2SK0369		弥生	甕	27.0			1／4	横ナデ	刷毛	ナデ			濃茶褐色	砂粒含	ほぼ良	城ノ越タイプ	体部上位外面に沈線1条有	232
231	2SK0369		弥生	甕	28.0			口縁部1／6	横ナデ	刷毛	ナデ			濃茶褐色	砂粒含	ほぼ良	城ノ越タイプ		233
232	2SK0369		弥生	甕		7.2		底部のみ		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	暗褐色	砂粒含	良		体部最下位外面に外面から穿孔有	234
233	2SK0378		染付	皿	14.6	9.6	4.3	1／3	施釉	施釉	施釉	施釉	施釉 露胎	白色	砂粒少	良	緩く内湾		236
234	2SK0376		弥生	甕	20.0			口縁部1／6	不明	不明	不明			淡茶褐色	精良	不良	「く」の字状	器壁が厚い	235
235	2SK0380		弥生	甕		7.0		底部のみ		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒含	良			237
236	2SD0381		弥生	甕	23.4			口縁部1／3	横ナデ	不明	ナデ			淡茶褐色	砂粒多	やや不良	城ノ越タイプ		240
237	2SD0381		弥生	甕				口縁部細片	横ナデ	横ナデ	刷毛			淡茶褐色	砂粒含	ほぼ良	城ノ越タイプ	体部上位外面に貼り付け突帯1条有	239
238	2SD0381		弥生	甕	22.6			口縁部1／2	横ナデ	刷毛	ナデ			暗褐色	砂粒含	ほぼ良	城ノ越タイプ	体部上位外面に沈線1条有	242
239	2SD0381		弥生	甕	27.0			口縁部1／3	横ナデ	刷毛	ナデ			淡灰茶褐色	砂粒多	ほぼ良	城ノ越タイプ	体部上位外面に沈線1条有	241
240	2SD0381		弥生	壺		7.4		底部のみ		不明	ナデ	ナデ	不明	淡茶褐色	砂粒多	良			238

Tab.17　梅島遺跡（第２次調査）出土遺物観察表⑥

No.	遺構 番号	層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R·No.
241	2SX0393		弥生	壺	13.0			口縁部 1／6	横ナデ	不明	不明			淡赤褐色	砂粒多	やや不良	二重口縁（袋状口縁）		243
242	2SX0394		陶器	浅鉢				1／3	施釉	施釉	刷毛施釉	施釉	施釉	白色	精良	良好	外方へ折曲げ		244
243	2SX0430		弥生	壺	21.8		53.1	1／2	横ナデ	刷毛	篦削り		刷毛	暗褐色	砂粒多	良好	二重口縁		252
244	2SK0406		弥生	甕	26.0			口縁部 1／6	横ナデ	刷毛	ナデ			赤褐色	砂粒多	良	城ノ越タイプ	体部上位外面に沈線1条有	245
245	2SK0406		弥生	甕		4.4		底部 1／2		刷毛		横ナデ	横ナデ	赤褐色	砂粒含	良		底部は上げ底状	246
246	2SK0415		弥生	壺	18.0			口縁部 1／6	横ナデ	刷毛線刻	刷毛			赤褐色	砂粒多	ほぼ良	外反端部に面有	頸部は直立線刻は平行沈線文	247
247	2SK0415		弥生	甕	18.0			口縁部 1／8	横ナデ	刷毛篦削り	刷毛ナデ			乳茶色	砂粒少	良	「く」の字状		248
248	2SK0422		弥生	甕	26.0			口縁部 1／10	横ナデ	横ナデ	ナデ			茶褐色	砂粒含	ほぼ良	城ノ越タイプ	体部上位外面に貼り付け突帯1条有	249
249	2SK0423		弥生	甕		10.2		底部のみ		刷毛ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒含	ほぼ良		底部は上げ底状	250
250	2SX0430		瓦器	椀	16.6	7.0	5.5	1／3	篦磨き	篦磨き	篦磨き	篦磨き	横ナデ	灰色	精良	良	わずかに内湾		251
251	2SK0443		ミニチュア	椀				完形	手づくね	手づくね	手づくね	手づくね	手づくね	暗茶褐色	精良	良	内湾		253
252	2SK0460		須恵	壺				体部 1／6		叩きナデ	ナデ			紫褐色	砂粒少	良	二重口縁	把手2ヶ所？	254
253	2SK0464		土師？	高坏		6.2		脚部のみ		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	精良	良			255
254	2SK0484		弥生	甕				口縁部細片	丹塗り	丹塗り	ナデ			淡茶色	精良	良	T字状端部に面有	口縁端部面に刻み目文有	256
255	2SK0493		弥生	甕	25.0			口縁部 1／6	横ナデ	刷毛	ナデ			淡褐色	砂粒含	ほぼ良	城ノ越タイプ	体部上位外面に貼り付け突帯1条有	257
256	2SK0497		弥生	壺	18.0			口縁部 1／3	横ナデ篦磨き	ナデ	ナデ			淡茶褐色	砂粒含	ほぼ良	外反	頸部に沈線1条有	258
257	2SK0551		弥生	甕	26.0			口縁部 1／6	横ナデ	刷毛	ナデ			淡赤褐色	砂粒含	やや不良	城ノ越タイプ		259
258	2SK0553		弥生	壺？				口縁部細片	横ナデ	横ナデ	ナデ			丹塗り	精良	良	「く」の字状		260
259	2SK0556		土師	坏	15.2	6.5	4.2	完形	不明	不明	不明	不明	不明	茶褐色	精良	不良	外方へ開く肥厚させる		261
260	2SK0598		土師	鉢	39.0			口縁部 1／6	横ナデ	ナデ	ナデ			淡灰褐色	砂粒含	良	「く」の字状		262
261	2SK0600		滑石	石鍋	25.0			口縁部 1／8		ノミ痕							内湾	鍔有	263
262	2SD0640		滑石	石鍋				口縁部細片	ノミ痕	ノミ痕	ノミ痕						内湾	鍔有（C類）切断面有	265
263	2SK0645		弥生	鉢	14.4		7.1	1／2	横ナデ	刷毛	刷毛	不明	篦削り	淡赤褐色	砂粒多	やや不良	わずかに内湾		266
264	2SK0678		弥生	甕	12.7			上半部	横ナデ	刷毛	刷毛			淡茶褐色	砂粒少	ほぼ良	「く」の字状	口縁端部に面有	267
265	2SK0678		弥生	高坏		12.9		脚部のみ		刷毛	刷毛	横ナデ	横ナデ	淡茶褐色	砂粒多	やや不良		底端部の面は接地しない	268
266	2SD0680		弥生	壺	12.0	5.0	18.0	1／2	篦磨き	篦磨き	不明	不明	篦磨き	赤褐色	砂粒多	ほぼ良	外反端部に面有	頸部に貼り付け突帯1条有	270
267	2SD0680		陶器	線香立て	11.6	9.0	12.2	1／3	施釉	施釉	施釉	施釉	露胎	乳茶色	精良	良	直立肥厚		272
268	2SD0680		土師	火鉢？五徳？	30.6			口縁部 1／3	煤付着	煤付着	不明			暗灰色	砂粒含	やや不良	逆L字状	凸帯・穿孔は各1ヶ所現存	271
269	2SD0680		染付	皿	13.4	8.0	2.2	1／2	施釉	施釉	施釉	施釉	施釉	白色	施良	良	外反		272'
270	2SK0700		弥生	壺	22.5	7.2	42.7	ほぼ完形	横ナデ	刷毛	刷毛	刷毛ナデ	刷毛	淡茶褐色	細砂粒多	やや不良	外反 端部面に刻み目	頸部に刻み目突帯1条有	302
271	2SK0700		弥生	甕	22.0			1／5	横ナデ	刷毛	刷毛			茶褐色	細砂粒含	良	「く」の字状	口縁端部に面有	301
272	2SK0710		土師	皿	8.6	7.0	1.2	ほぼ完形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデナデ	糸切り	淡茶褐色	砂粒含	良	外方にひらく		277
273	2SK0710		土師	皿	8.8	8.0	1.3	5／6	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	糸切り	淡茶褐色	砂粒含	良	外反		275
274	2SK0710		土師	皿	8.8	7.7	1.1	ほぼ完形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデナデ	糸切り	茶褐色	砂粒含	良	外方にひらく		278
275	2SK0710		土師	皿	8.9	7.5	1.1	5／6	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	糸切り	茶褐色	精良	良	外方にひらく		276
276	2SK0710		土師	皿	9.0	7.0	1.1	完形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデナデ	糸切り	淡黒灰色	ほぼ精良	ほぼ良	外方にひらく		284
277	2SK0710		土師	皿	9.0	7.7	1.3	完形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	糸切り	淡茶褐色	精良	良	外方にひらく		281
278	2SK0710		土師	皿	9.2	6.8	1.5	3／4	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデナデ	糸切り	濃茶褐色	砂粒多	ほぼ良	外方にひらく		280
279	2SK0710		土師	皿	9.6	7.7	1.1	ほぼ完形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	糸切り	淡茶褐色	ほぼ精良	ほぼ良	わずかに外反		287
280	2SK0710		土師	皿	9.4	7.1	1.3	ほぼ完形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	糸切り	明赤褐色	砂粒含	良	内湾		282

Tab.18　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物観察表⑦

No.	遺構 番号	層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R·No
281	2SK0710		土師	皿	9.4	7.4	1.3	完形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ ナデ	糸切り	淡赤褐色	砂粒含	ほぼ良	わずかに内湾		286
282	2SK0710		土師	皿	9.4	7.7	1.3	完形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	糸切り	暗褐色	砂粒含	ほぼ良	わずかに内湾		285
283	2SK0710		土師	皿	9.3	7.7	1.0	ほぼ完形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	糸切り	茶褐色	ほぼ精良	良	外方にひらく		279
284	2SK0710		土師	皿	9.5	8.0	1.1	1／2	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	糸切り	茶褐色	ほぼ精良	良	わずかに外反		288
285	2SK0710		土師	皿	9.6	8.0	1.0	完形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ ナデ	糸切り	淡茶褐色	ほぼ精良	ほぼ良	外方にひらく		283
286	2SK0710		土師	皿	9.7	8.2	1.8	ほぼ完形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ ナデ	糸切り	淡灰色	砂粒含 やや瓦質	良	外方にひらく		290
287	2SK0709		土師	皿	10.2	6.8	2.0	2／3	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	篦切り	茶褐色	砂粒含	良	外方にひらく		273
288	2SK0709		土師	坏	12.2	8.0	3.0	1／2	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ ナデ	篦切り	明赤褐色	精良	やや不良	ほぼ直立		274
289	2SK0710		土師	皿？	15.6	11.6	3.0	1／2	横ナデ	横ナデ	横ナデ	ナデ	糸きり 板圧痕	淡茶褐色	ほぼ精良	ほぼ良	端部肥厚		293
290	2SK0710		土師	坏	16.4	10.6	3.0	1／3	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	糸切り	暗褐色	ほぼ精良	良	わずかに外反		289
291	2SK0710		瓦器	椀	16.2	6.3	6.8	3／4 口縁部	篦磨き	篦磨き	篦磨き	篦磨き	ナデ	淡灰色	砂粒少	やや不良	わずかに外反	高台見込みに線刻記号（篦記号）有	300
292	2SK0710	Ⅰ層	青磁	椀	16.0			1／3 口縁部	施釉	施釉	施釉			淡緑青色	精良	ほぼ良	わずかに外反	竜泉窯系 内面に施文有	292
293	2SK0710	Ⅰ層	青磁	椀	15.5			1／4 坏部	施釉	施釉	施釉			淡緑褐色	ほぼ精良	ほぼ良	わずかに内湾	同安窯系 内外面に施文有	291
294	2SK0711		弥生	高坏				1／4	横ナデ	刷毛	ナデ			明赤褐色	精良	良	T字状	全面に丹塗り	295
295	2SK0711		弥生	鉢	19.6	8.4	10.6	1／3	刷毛	刷毛 ナデ	刷毛	強い ナデ	ナデ	淡赤褐色	砂粒含	良	内湾 端部に面有		294
296	2SX0720		弥生	壺	21.0			口縁部 1／3	横ナデ	刷毛	刷毛			赤褐色	砂粒多	ほぼ良	外反 端部に面有	頸部は直立 頸部に櫛目文有	296
297	2SX0720		弥生	甕	24.8	7.0	25.3	1／4	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	暗褐色	砂粒含	良	城ノ越タイプ	外見上は如意形口縁に見える	297
298	2SK0736		弥生	甕		8.4		底部のみ		不明	刷毛	刷毛	刷毛	淡茶褐色	砂粒多	やや不良			304
299	2SK0728		弥生	甕	22.0			上半部	横ナデ	不明	ナデ			淡赤褐色	砂粒多	やや不良	城ノ越タイプ	体部上位外面に刻み目突帯1条有	298
300	2SK0730		弥生	甕		7.6		底部のみ		刷毛	不明	不明	ナデ	淡灰褐色	砂粒含	良		底部はわずかに上げ底状	299
301	2SK0736		弥生	甕		5.7		下半部 3／4		刷毛	刷毛	刷毛	刷毛	茶褐色	精良	ほぼ良			303
302	2SK0736		弥生	蓋				頂部のみ		篦磨き	刷毛			外面:丹塗り 内面:淡茶褐色	砂粒少	良		外面丹塗り	305
303	2SK0736		弥生	壺				下半部 1／4		刷毛 ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	精良	ほぼ良			306
304	2SK0736		弥生	鉢	10.7	4.0	6.8	4／5	ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒多	良	外方に開く	口縁部は不整形	308
305	2SK0736		弥生	鉢	8.6	2.8	4.2	4／5	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	暗茶褐色	砂粒多	良	わずかに内湾	口縁部は不整形	307
306	2SK0737		弥生	甕	30.0			口縁部 1／8	横ナデ	刷毛	ナデ			茶褐色	砂粒少	ほぼ良	城ノ越タイプ	口縁部に刻み目体部上位外面に沈線1条	309
307	2SK0737		弥生	ジョッキ型?		11.6		底部のみ		篦磨き	篦磨き	篦磨き	篦磨き	黒褐色	砂粒多	良		黒色磨研	310
308	2SK0742		弥生	支脚		6.0		底部のみ		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒少	ほぼ良			311
309	2SK0760		土師	皿	8.9	8.6	1.1	1／2	横ナデ	横ナデ	横ナデ	ナデ	糸切り	淡茶褐色	ほぼ精良	やや不良	つまみ上げ		312
310	2SK0760		土師	坏	14.4	10.0	2.9	完形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	不明	糸切り	淡茶褐色	精良	やや不良	外方に開く	外底面に板状圧痕有	313
311	2SK0766		弥生	甕	29.4			口縁部 1／3	横ナデ	刷毛	ナデ			淡茶褐色	砂粒多	良	城ノ越タイプ	体部上位外面に沈線1条有	314
312	2SK0785		弥生	器台	7.2			口縁部 1／3	ナデ	ナデ	ナデ			淡茶褐色	砂粒少	ほぼ良	外反		318
313	2SK0766		弥生	甕	19.0			口縁部 1／4	横ナデ	ナデ	ナデ			茶褐色	砂粒多	良	「く」の字状	口縁端部に面有	315
314	2SK0785		弥生	甕				口縁部 細片	横ナデ	刷毛	ナデ			淡褐色	砂粒少	良	城ノ越タイプ	口縁端部面に刻み目体部に貼り付け突帯	316
315	2SK0785		弥生	甕		6.4		底部のみ		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	内:黒色 外:淡赤褐色	砂粒含	ほぼ良		底部は上げ底状	317
316	2SK0785		弥生	壺		8.0		下半部		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	細砂粒含	やや良		底部は上げ底状	320
317	2SK0785		弥生	壺				体部 1／6		篦磨き	ナデ			暗黒褐色	ほぼ精良	ほぼ良	城ノ越タイプ	頸部に貼り付け突帯1条有	319
318	2SK0790		弥生	甕	28.6			上半部	横ナデ	刷毛	ナデ			暗茶褐色	細砂粒多	やや不良	外方に開く	体部上位外面に沈線1条有	322
319	2SK0787		弥生	器台	11.6			上半部 1／3	横ナデ	刷毛	ナデ			淡茶褐色	砂粒少	良	端部に面有		321
320	2SK0800		弥生	甕	21.0	5.0	25.6	3／4	横ナデ	叩き 刷毛	刷毛	不明	ナデ	端赤褐色	砂粒多	やや不良	「く」の字状	口縁端部に面有	326

Tab.19　梅島遺跡（第２次調査）出土遺物観察表⑧

No.	遺構 番号	層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R・No
321	2SK0800		弥生	甕	16.0			底部欠損	横ナデ	刷毛	刷毛			淡茶褐色	砂粒含	やや不良	「く」の字状	口縁端部に面有	325
322	2SK0800		弥生	壺	12.0		18.0	1／4	横ナデ	刷毛ナデ	ナデ刷毛	刷毛		淡茶褐色	砂粒含	やや不良	「く」の字状	底部内面に粘土を補足して肥厚させる	324
323	2SK0800		弥生	器台		20.0		底部1／4		叩き	刷毛	横ナデ	横ナデ	淡茶褐色	砂粒少	やや良			323
324	2SK0810		弥生	甕	44.0			口縁部1／6						淡茶褐色	砂粒少	ほぼ良	T字状端部に面有	外面丹塗り	327
325	2SK0810		弥生	筒形土器	25.0			脚部のみ		暗文横ナデ	ナデ			淡茶褐色	ほぼ精良	良	端部に面有	口縁端部に面有 体部上位に貼付け突帯	328
326	2SX0820		弥生	甕				口縁部細片	横ナデ	ナデ	不明			淡橙褐色	砂粒含	やや不良	「く」の字状	口縁端部に面有	332
327	2SX0820		弥生	甕	21.6			底部欠損	横ナデ	刷毛	刷毛			茶褐色	砂粒多	良	「く」の字状	口縁端部に面有	335
328	2SX0820		弥生	鉢	18.0		7.5	1／2	横ナデ	ナデ篦削り	刷毛ナデ	ナデ	篦削り	淡赤褐色	砂粒多	やや不良	外方にひらき気味	口縁端部に面有	331
329	2SX0820		弥生	鉢	21.7		10.2	1／4	横ナデ	刷毛	刷毛	不明	不明	淡灰褐色	砂粒多	不良	内湾し肥厚	口縁端部はつまみ出して面をつくる	330
330	2SX0820		弥生	鉢	23.6			1／4	横ナデ	刷毛	刷毛			端茶褐色	精良	良	わずかに内湾	現存で1ヶ所穿孔有	329
331	2SX0820		弥生	高坏		16.0		脚部1／2		刷毛篦磨き	ナデ刷毛	刷毛	ナデ刷毛	明赤褐色	精良	やや不良		底部は上げ底状	333
332	2SK0829		弥生	甕		5.8		下半部		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒含	良			337
333	2SK0829		弥生	器台		10.0		底部1／3		刷毛	横ナデ	横ナデ	横ナデ	明赤褐色	ほぼ精良	やや不良		体部上位外面に貼り付け突帯1条有	336
334	2SK0840	上層	弥生	甕	20.0			口縁部1／2	横ナデ	横ナデ	ナデ			淡赤褐色	細砂粒多	良	城ノ越タイプ	底部は上げ底状 体部最下位に穿孔有	340
335	2SK0840	上層	弥生	甕		6.2		下半部		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡赤褐色	細砂粒多	良		口縁部内面をつまむ 底部は上げ底状	341
336	2SK0840	上層	弥生	甕	21.4	6.8	22.2	1／4	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	横ナデ	茶褐色	砂粒少	ほぼ良	城ノ越タイプ	体部上位外面に貼り付け突帯1条有	342
337	2SK0840	上層	弥生	甕	42.6			口縁部1／6	横ナデ	刷毛横ナデ	ナデ			淡灰褐色	ほぼ精良	良	城ノ越タイプ	頸部は直立 頸部に貼り付け突帯1条有	339
338	2SK0840	上層	弥生	壺	34.0			口縁部1／3	横ナデ	刷毛横ナデ	篦磨き			淡茶褐色	ほぼ精良	良	外反し内側に折り畳み		338
339	2SK0855		滑石	石鍋		14.6		底部1／4											343
340	2SK0862		弥生	鉢	10.4		4.0	1／3	横ナデ	手持ち篦削り	横ナデ	横ナデ	手持ち篦削り	淡灰褐色	細砂粒多	良	わずかに外反		344
341	2SK0866		弥生	甕	18.0			上半部1／3	横ナデ	刷毛	ナデ			暗茶褐色	砂粒多	やや不良	城ノ越タイプ	口縁端部は肥厚	345
342	2SK0868		弥生	甕				口縁部細片	横ナデ	刷毛	ナデ			暗茶褐色	細砂粒多	良	深い「く」の字状		346
343	2SK0880		弥生	甕	21.0			口縁部1／6	横ナデ	ナデ	ナデ			淡茶褐色	細砂粒含	良	T字状	底部は上げ底状	350
344	2SK0880		弥生	甕		6.0		底部のみ		刷毛	ナデ	ナデ	横ナデ	褐色	細砂粒多	良		口縁端部に面有	351
345	2SK0880		弥生	器台	11.5			1／2	横ナデ	刷毛	刷毛ナデ			淡茶褐色	ほぼ精良	やや良	外方にひらく		352
346	2SK0887		弥生	壺				口縁部細片	横ナデ	横ナデ	横ナデ			明茶褐色	精良	良	深い「く」の字状	底部は尖る	353
347	2SK0897		弥生	鉢	7.5		8.2	1／4	横ナデ	刷毛ナデ	刷毛	ナデ	なで	淡灰褐色	ほぼ精良	やや良	わずかに内傾	体部上位外面に貼り付け突帯有	354
348	2SX0900		弥生	甕	41.0	39.5		1／2	横ナデ	刷毛	ナデ			淡茶褐色	細砂粒多	やや良	城ノ越タイプ		363
349	2SX0900		弥生	支脚	7.0	7.7	11.6	ほぼ完形	指押え	指押え			指押え	淡茶褐色	精良	やや良			362
350	2SK0915		弥生	鉢	19.0			1／8	横ナデ	刷毛不明	刷毛横ナデ			淡茶褐色	細砂粒多	やや不良	「く」の字状		356
351	2SK0915		弥生	器台	8.0	10.0	8.0	1／5		叩き	ナデ	ナデ	叩き	淡茶褐色	砂粒少	やや良		体部上位外面に貼り付け突帯有	355
352	2SK0918		弥生	甕	29.2			口縁部1／5	横ナデ	ナデ	ナデ			淡赤茶褐色	砂粒含	ほぼ良	城ノ越タイプ	体部上位外面に貼り付け突帯有	359
353	2SK0918		弥生	甕	23.0			1／4	横ナデ	刷毛	ナデ			暗茶褐色	砂粒多	やや不良	如意形	口縁部と体部突帯に刻み目有 亀の甲式	358
354	2SK0918		弥生	甕	26.0	7.0	27.3	1／2	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒含	やや良	城ノ越タイプ	底部に穿孔？	357
355	2SK0918		弥生	甕		6.2		底部のみ		刷毛ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	赤茶褐色	砂粒多	やや不良			360
356	2SD0922		弥生	壺	10.4			口縁部1／4	不明	不明	不明			淡茶褐色	砂粒少	不良	「く」の字状	体部屈曲部に刻み目突帯有	361
357	2SK0925		縄文	甕				体部細片		ナデ？	ナデ？			明乳茶色	精良砂粒混	やや良		体部上位外面に沈線1条有	441
358	2SK0940		弥生	甕	26.6			上半部1／3	横ナデ	刷毛	ナデ			淡赤褐色	砂粒含	やや良	城ノ越タイプ		365
359	2SK0940		弥生	鉢	32.0			上半部1／5	横ナデ	ナデ	ナデ			淡乳茶褐色	砂粒含	やや良	城ノ越タイプ		364
360	2SX0960		弥生	甕	22.0			1／2	横ナデ	ナデ	ナデ			淡褐色	砂粒少	やや不良	城ノ越タイプ		366

Tab.20　梅島遺跡（第2次調査）出土遺物観察表⑨

No.	遺構 番号	層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R·No.
361	2SX0960		土師？	土弾	29.6			完形			蚤痕			淡赤褐色	精良	やや不良			367
362	2SK0970		滑石	石鍋		19.5		底部 1／2		蚤痕	篦磨き	蚤痕	蚤痕					B類？	368
363	2SX0980		弥生	鉢	26.4	23.0	9.7	1／4	横ナデ	刷毛 篦磨き	ナデ	ナデ	ナデ	淡褐色	砂粒少	ほぼ良	城ノ越タイプ	体部上位外面に貼り付け突帯1条有	373
364	2SX0980		弥生	器台		8.3		口縁部は欠損		刷毛	ナデ	横ナデ	横ナデ	淡茶褐色	砂粒少	やや良		底部の面は接地する	372
365	2SX0980		弥生	甕	15.0			口縁部 1／4	横ナデ	刷毛	不明			淡赤褐色	細砂粒含	やや良	城ノ越タイプ	体部上位外面に沈線1条有	371
366	2SX0980		弥生	甕		6.5		底部のみ		刷毛	横ナデ	不明	ナデ	橙褐色	細砂粒多	やや不良		体最下位に穿孔有	370
367	2SX0980		弥生	甕	27.0	3.8	17.0	1／4	横ナデ	ナデ 篦磨き	ナデ	ナデ	ナデ	黒褐色	砂粒多	不良	「く」の字状	底部は上げ底状	369
368	2SK1010		弥生	甕	29.0			口縁部細片	不明	不明	不明			橙褐色	砂粒多	不良	城ノ越タイプ	体部上位外面に貼り付け突帯1条有	374
369	2SK1057		弥生	甕	13.0			上半部 1／8	横ナデ	刷毛	ナデ			淡灰褐色	砂粒少	良	城ノ越タイプ	体部上位外面に貼り付け突帯1条有	377
370	2SK1035		弥生	甕	26.0			口縁部 1／4	横ナデ	不明	ナデ			淡褐色	砂粒少	やや良	深い「く」の字状	口縁端部は上方につまみ上げる	375
371	2SK1039		土師	皿		8.6	2.3	1／3	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	淡乳褐色	精良	ほぼ良	外方に大きくひらく	高台は開き気味	376
372	2SX1060		弥生	甕	5.4			口縁部 1／2	横ナデ	刷毛 ナデ	ナデ			暗茶褐色	砂粒含	やや良	城ノ越タイプ		379
373	2SX1060		弥生	甕	27.0	7.0		底部 1／2		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡灰褐色	砂粒少	やや不良		底部は上げ底状	378
374	2SK1074		弥生	ミニチュア 蓋	15.2			1／3	ナデ	ナデ	ナデ			淡茶褐色	細砂粒含	やや不良		口縁部に2ヶ所穿孔現存	380
375	2SK1076		弥生	甕	10.0			口縁部 1／6	横ナデ	刷毛	ナデ			暗褐色	砂粒含	やや不良	城ノ越タイプ	体部上位外面に貼り付け突帯1条有	381
376	2SK1091	下層	黒B	椀	17.0	8.4	5.7	1／2	横ナデ	篦磨き	篦磨き	篦磨き	ナデ	黒褐色	精良	良	外反		384
377	2SK1091	下層	弥生	鉢	30.0		3.0	1／4	横ナデ	刷毛	ナデ			茶褐色	精良	ほぼ良	外方にひらく		382
378	2SK1091	下層	弥生	甕	6.3			口縁部 1／2	横ナデ	刷毛	刷毛			茶褐色	精良	ほぼ良	「く」の字状	口縁端部はつまみ出し面をつくる	383
379	2SK1129		弥生	甕				上半部 1／2	横ナデ	刷毛	ナデ			淡茶褐色	砂粒少	やや良	城ノ越タイプ		390
380	2SK1130		弥生	支脚		6.4	9.6	3／4	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	明茶褐色	精良	ほぼ良	わずかにひらく		387
381	2SK1130		弥生	支脚	29.4	6.7		底部 3／4		ナデ			ナデ	明茶褐色	精良	ほぼ良			388
382	2SK1130		弥生	支脚		7.2		底部 1／2		ナデ			ナデ	明茶褐色	精良	ほぼ良			389
383	2SK1133		弥生	甕	29.4			上半部 1／2	横ナデ	横ナデ	ナデ			暗褐色	砂粒多	不良	城ノ越タイプ	口縁部と体部突帯に刻み目有 亀の甲式	391
384	2SK1135		弥生	支脚	23.8	5.8		底部 3／4		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	明茶褐色	精良	ほぼ良		体部を貫く8㎜大の焼成前穿孔有	392
385	2SK1153		弥生	甕	29.6			上半部 1／3	横ナデ	刷毛	ナデ			橙褐色	砂粒多	やや不良	城ノ越タイプ	体部上位外面に沈線1条有	393
386	2SK1154		弥生	甕？	25.0	7.1	19.2	1／4	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	暗茶褐色	細砂粒多	やや良	城ノ越タイプ	底部はわずかに上げ底状	394
387	2SK1154		弥生	甕	4.5			口縁部 1／6	横ナデ	刷毛	ナデ			橙褐色	砂粒多	やや不良	城ノ越タイプ	体部上位外面に沈線1条有	395
388	2SK1157		弥生	甕	5.4			口縁部 1／4	横ナデ	ナデ	ナデ			淡灰茶褐色	砂粒含	やや不良	城ノ越タイプ	体部上位外面に沈線1条有	396
389	2SK1157		弥生	支脚		7.5	12.0	完形	ナデ	ナデ			ナデ	明茶褐色	精良	ほぼ良			397
390	2SK1157		弥生	支脚	43.6	5.8	11.8	完形	ナデ	ナデ			未調整	茶褐色	精良	ほぼ良		円柱タイプ	398
391	2SK1158		土師？	土錘				一部欠損						茶褐色	精良	ほぼ良		穿孔の直経は薬6㎜	400
392	2SK1158		弥生	鉢	11.2			口縁部 1／3	横ナデ	ナデ	篦削り			暗茶褐色	砂粒多	やや不良	「く」の字状	端部に面有	399
393	2SK1159		縄文	甕	19.0			口縁部細片	横ナデ					黒茶褐色	ほぼ精良	ほぼ良	夜臼式	刻み目は大きい	401
394	2SK1160		弥生	壺	15.2			口縁部 1／4	不明	刷毛	不明			灰褐色	砂粒含	不良	「く」の字状		402
395	2SK1160		土師	高坏	25.8	12.3	12.5	1／2	篦磨き	篦磨き	篦磨き	篦磨き 刷毛	篦磨き 刷毛	暗茶褐色	砂粒少	良	外方にひらく		403
396	2SK1161		土師	椀	25.2	7.3	5.6	3／4	横ナデ	横ナデ	不明	不明	横ナデ	淡茶褐色	精良	不良	外反		404
397	2SK1185		弥生	甕	26.0			上半部	横ナデ	刷毛	ナデ			暗褐色	砂粒含	やや不良	城ノ越タイプ		408
398	2SK1185		弥生	甕				上半部	横ナデ	刷毛	ナデ			茶褐色	砂粒少	やや良	城ノ越タイプ		406
399	2SK1185		弥生	甕				上半部 3／4	横ナデ	刷毛	ナデ			暗茶褐色	砂粒多	やや良	城ノ越タイプ	体部上位外面に貼り付け突帯1条有	407
400	2SK1185		弥生	甕		7.6		底部のみ		刷毛	不明	不明	ナデ	暗茶褐色	砂粒多	やや不良			405

Tab.21　梅島遺跡（第２次調査）出土遺物観察表⑩

No.	遺構 番号	層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R·No.
401	2SK1185		弥生	壺	19.6			1／6	横ナデ	篦磨き	篦磨き不明			淡赤褐色	砂粒含	やや不良	外反	頸部に貼り付け突帯1条有 頸部は内傾	409
402	2SK1186		弥生	甕	25.8	8.8	30.0	1／4	横ナデ	刷毛	ナデ			暗褐色	細砂粒多	良好	城ノ越タイプ	体部上位外面に沈線1条有	412
403	2SK1186		弥生	甕	30.2			上半部	横ナデ	刷毛	ナデ			暗褐色	細砂粒多	良好	城ノ越タイプ	体部上位外面に沈線1条有	411
404	2SK1186		弥生	壺？		9.0		底部のみ		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡褐色	細砂粒多	良好			410
405	2SK1192		弥生	器台	8.1			口縁部1／4	横ナデ	ナデ	ナデ 篦削り			明茶褐色	細砂粒含	良好	外方にひらく		413
406	2SK1200		弥生	甕	17.9	7.6	17.4	ほぼ完形	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	明茶褐色	細砂粒含	良好	「く」の字状		414
407	表土		弥生	土弾	2.4		3.8	1／2						淡橙褐色	精良	良好			427
408	表土		弥生	土弾	2.5		4.8	ほぼ完形						灰色	精良	良好			426
409	表土		弥生	ﾐﾆﾁｭｱ 甕	4.6			1／2	手づくね	手づくね	ナデ	ナデ	手づくね	灰褐色	精良	良好	ほぼ直立		431
410	表土		弥生	支脚	4.5			1／2	ナデ	ナデ	ナデ			淡褐色	精良	良好			425
411	表土		弥生	支脚		6.3		1／2		ナデ	ナデ	横ナデ	横ナデ	淡褐色	砂粒含	良好			424
412	表土		弥生	甕	27.4			口縁部1／2	横ナデ	刷毛	ナデ			橙褐色	砂粒多	良好	城ノ越タイプ	体部上位外面に沈線1条有	416
413	表土		弥生	甕	35.0			口縁部1／5	刷毛 横ナデ	横ナデ	ナデ			内外面丹塗り	細砂粒含	良好	T字状 端部に面有	口縁端部に刻み目有 体部にM字突帯1条	422
414	表土		弥生	甕	28.2			口縁部1／5	横ナデ	刷毛 ナデ	ナデ			内外面丹塗り	精良	良好	T字状 端部に面有	口縁端部に刻み目有 体部にM字突帯2条	423
415	表土		弥生	甕	16.2			口縁部1／3	横ナデ	叩き 刷毛	刷毛			淡褐色	細砂粒含	良好	「く」の字状	口縁端部に面有	418
416	表土		弥生	甕		8.4		底部のみ		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡橙褐色	砂粒多	良好		底面に焼成後外面から穿孔	421
417	表土		弥生	甕		6.3		底部のみ		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	橙褐色	砂粒含	良好		(非貫通) 底面に焼成後	420
418	表土		弥生	鉢	13.6			口縁部1／6	横ナデ	刷毛 ナデ	ナデ			暗褐色	砂粒含	良好	ほぼ直立	内外面から穿孔	430
419	表土		弥生？	鉢	8.2			口縁部1／4	横ナデ	刷毛	刷毛			茶褐色	砂粒多	良好			428
420	表土		弥生	鉢	16.9		7.9	口縁5/8欠損	横ナデ	刷毛	刷毛	刷毛	篦削り	淡褐色	砂粒含	良好	内湾 端部に面有		434
421	表土		弥生	鉢	17.6		11.0	口縁1/2欠損	横ナデ	刷毛	刷毛	ナデ	篦削り	橙褐色	砂粒多	良好	内湾 端部に面有		433
422	表土		弥生	鉢	21.5		11.2	口縁部1／4	横ナデ	刷毛	刷毛	刷毛	ナデ	淡褐色	砂粒含	良好	内湾	口縁端部の面をつまみ出す	436
423	表土		弥生	鉢	26.0			口縁部1／6	横ナデ	刷毛	ナデ			淡橙褐色	細砂粒多	良好	深い「く」の字状	口縁端部の面をつまみ出す	417
424	表土		弥生	鉢	28.2		11.9	口縁部1／3	横ナデ	刷毛	刷毛	ナデ	篦削り	明茶褐色	砂粒含	良好	わずかに内湾		435
425	表土		弥生	高坏		15.9		脚底部3／4		刷毛	刷毛	横ナデ	横ナデ	淡褐色	砂粒少	良好		穿孔（焼成前）有	419
426	表土		土師	鉢	12.2		6.9	ほぼ完形	横ナデ	刷毛 篦削り	横ナデ ナデ	ナデ	篦削り	淡橙褐色	細砂粒多	良好	ほぼ直立		429
427	表土		黒A	椀	14.4			1／4	横ナデ	不明	篦磨き	ナデ？	篦切り？	淡橙褐色	精良	良好	外反		432
428	2SK0320		？	蛤刃磨製石斧				先端部のみ											9
429	2SX0190		？	磨製片刃石斧				先端部のみ											8
430	表土		？	？				完形											10
431	2S–0647		？	紡垂車				1／2											7
433	表土		？	石包丁				1／2											2
434	2SD0350		？	石包丁				ほぼ完形											1
435	2S–0883		？	磨製石剣				先端部のみ											5
436	2S–0718		？	磨製石剣				先端部のみ											4
437	表土		？	磨製石剣				基部のみ											3
438	2S–0690		？	磨製石剣				中位のみ											6
439	2SK0840		ｻﾇｶｲﾄ	石鏃				ほぼ完形											15
440	2S–0744		ｻﾇｶｲﾄ	石鏃				ほぼ完形											16

Tab.22　梅島遺跡（第２次調査）出土遺物観察表⑪

No.	遺構 番号	層位	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R·No.
441	2S-0995		サヌカイト	ドリル				ほぼ完形											12
442	2S-0850		サヌカイト	ドリル				ほぼ完形											11
443	2SK0840		黒曜石	ドリル				ほぼ完形											14
444	2S-0625		サヌカイト	ドリル				ほぼ完形											13

Tab.23　梅島遺跡（第２次調査）出土遺物観察表⑫

遺構番号	層位	石材	備考	遺構番号	層位	石材	備考
2S－0089		泥岩?		2S－0753		泥岩?	
2S－0155		〃		2S－0785		〃	未製品か？
2S－0253		〃		2S－1005		〃	
2S－0320		〃		表　土	BT4	〃	
2S－0334		〃		表　土	CJ18	〃	
2S－0350		〃		表　土	CJ18	〃	
2S－0469		〃		表　土		〃	

Tab.24　梅島遺跡（第２次調査）出土石包丁一覧表

遺構番号	層位	石材	製品名	備考
2S－ 0260		サヌカイト	スクレイパー？	
2S－ 0290		黒曜石	ポイント？	
2S－ 0300		サヌカイト	スクレイパー？	
2S－ 0526		黒曜石	ドリル	
2S－ 0559		サヌカイト	スクレイパー？	
2S－ 0567		サヌカイト	鏃	
2S－ 0700		黒曜石	鏃	
2S－ 0870		？（片岩）	石剣	
2S－ 0933		サヌカイト	スクレイパー	
2S－ 0980		サヌカイト	鏃？	
表　土		緑泥片岩	鏃？	
表　土		サヌカイト	スクレイパー？	

Tab.25　梅島遺跡（第２次調査）出土石器未製品一覧表

遺構番号	層位	石材	製品名	備考
2S－0140		滑石	石鍋	底部？
2S－0147		滑石	？	穿孔有
2S－0350		？	砥石	
2S－0516		？	砥石	
2S－0710	4層	滑石	石鍋	
2S－1130		？	砥石	
表　土		滑石	石鍋	
表　土		滑石	石鍋	

Tab.26　梅島遺跡（第２次調査）出土その他石製品一覧表

遺構　番号	層位	石材	点数	備考	遺構　番号	層位	石材	点数	備考
2S—0059		黒曜石	1		2S—0338		サヌカイト	1	
2S—0064		サヌカイト	1		2S—0340		黒曜石	2	
2S—0065		黒曜石	1		2S—0341		黒曜石	1	
2S—0065		サヌカイト	1		2S—0350		黒曜石	1	
2S—0066		黒曜石	1		2S—0350		黒曜石	2	
2S—0071		サヌカイト	1		2S—0350		サヌカイト	1	
2S—0075		黒曜石	1		2S—0350		サヌカイト	1	
2S—0078		黒曜石	1		2S—0350		サヌカイト	5	
2S—0079		黒曜石	1		2S—0350		サヌカイト	1	
2S—0079		サヌカイト	1		2S—0358		黒曜石	1	
2S—0089		黒曜石	1		2S—0362		黒曜石	1	
2S—0139		黒曜石	1		2S—0364		黒曜石	1	
2S—0154		黒曜石	1		2S—0365		黒曜石	2	
2S—0160		黒曜石	1		2S—0379		黒曜石	1	
2S—0173		サヌカイト	1		2S—0382		黒曜石	3	
2S—0179		黒曜石	1		2S—0383		黒曜石	1	
2S—0190		黒曜石	2		2S—0384		黒曜石	1	
2S—0190		サヌカイト	1		2S—0406		黒曜石	2	
2S—0193		サヌカイト	1		2S—0406		黒曜石	1	
2S—0203		サヌカイト	1		2S—0410		チャート	1	
2S—0206		黒曜石	1		2S—0411		黒曜石	1	
2S—0206		黒曜石	1		2S—0425		黒曜石	3	
2S—0206		サヌカイト	1		2S—0426		黒曜石	1	
2S—0207		黒曜石	2		2S—0430		黒曜石	1	
2S—0210		黒曜石	1		2S—0430		黒曜石	1	
2S—0233		黒曜石	1		2S—0430		黒曜石	1	
2S—0270		黒曜石	2		2S—0430		サヌカイト	1	
2S—0270		黒曜石	1		2S—0430		サヌカイト	1	
2S—0270		黒曜石	1		2S—0431		黒曜石	1	
2S—0270		黒曜石	1		2S—0444		黒曜石	2	
2S—0270		サヌカイト	1		2S—0448		黒曜石	1	
2S—0272		黒曜石	1		2S—0457		黒曜石	1	
2S—0281		黒曜石	1		2S—0465		サヌカイト	1	
2S—0297		黒曜石	1		2S—0467		黒曜石	1	
2S—0299		黒曜石	1		2S—0469		サヌカイト	1	
2S—0300		黒曜石	3		2S—0479		黒曜石	1	
2S—0300		黒曜石	1		2S—0495		黒曜石	1	
2S—0300		サヌカイト	1		2S—0512		黒曜石	1	
2S—0300		サヌカイト	1		2S—0542		黒曜石	2	
2S—0314		黒曜石	1		2S—0542		サヌカイト	1	
2S—0320		黒曜石	2		2S—0548		黒曜石	1	
2S—0327		黒曜石	1		2S—0551		黒曜石	1	
2S—0329		黒曜石	1		2S—0553		黒曜石	1	

Tab.27　梅島遺跡（第２次調査）出土剥片一覧表①

遺構　番号	層位	石材	点数	備考	遺構　番号	層位	石材	点数	備考
2S—0556		黒曜石	1		2S—0753		サヌカイト	2	
2S—0567		黒曜石	1		2S—0773		サヌカイト	1	
2S—0585		黒曜石	1		2S—0785		黒曜石	1	
2S—0585		サヌカイト	1		2S—0785		サヌカイト	2	
2S—0587		黒曜石	1		2S—0787		黒曜石	1	
2S—0592		黒曜石	2		2S—0790		黒曜石	1	
2S—0592		サヌカイト	1		2S—0794		サヌカイト	1	
2S—0601		黒曜石	4		2S—0799		サヌカイト	1	
2S—0609		黒曜石	1		2S—0803		黒曜石	2	
2S—0613		黒曜石	4		2S—0815		黒曜石	2	
2S—0613		サヌカイト	1		2S—0816		黒曜石	1	
2S—0622		黒曜石	1		2S—0816		サヌカイト	1	
2S—0633		黒曜石	7		2S—0818		黒曜石	1	
2S—0641		黒曜石	1		2S—0820		サヌカイト	1	
2S—0655		黒曜石	1		2S—0820		サヌカイト	1	
2S—0655		黒曜石	1		2S—0822		黒曜石	1	
2S—0656		黒曜石	8		2S—0829		黒曜石	1	
2S—0656		サヌカイト	2		2S—0829		黒曜石	1	
2S—0662		黒曜石	2		2S—0831		黒曜石	1	
2S—0664		黒曜石	1		2S—0840		黒曜石	1	
2S—0672		黒曜石	3		2S—0840		サヌカイト	1	
2S—0673		黒曜石	1		2S—0847		黒曜石	1	
2S—0674		黒曜石	1		2S—0847		サヌカイト	2	
2S—0675		サヌカイト	1		2S—0850		サヌカイト	3	
2S—0675		サヌカイト	1		2S—0870		黒曜石	1	
2S—0680		黒曜石	4		2S—0873		サヌカイト	1	
2S—0680		黒曜石	2		2S—0883		黒曜石	2	
2S—0680		サヌカイト	4		2S—0884		黒曜石	3	
2S—0695		黒曜石	1		2S—0885		黒曜石	1	
2S—0697		サヌカイト	1		2S—0887		サヌカイト	1	
2S—0700		黒曜石	6		2S—0892		サヌカイト	1	
2S—0700		サヌカイト	1		2S—0894		黒曜石	1	
2S—0700		サヌカイト	1		2S—0894		サヌカイト	1	
2S—0710		黒曜石	1		2S—0900		黒曜石	1	
2S—0710		サヌカイト	1		2S—0910		黒曜石	1	
2S—0720		黒曜石	1		2S—0910		サヌカイト	2	
2S—0720		黒曜石	1		2S—0915		黒曜石	1	
2S—0720		黒曜石	1		2S—0920		黒曜石	2	
2S—0720		サヌカイト	3		2S—0920		サヌカイト	2	
2S—0730		黒曜石	1		2S—0922		黒曜石	1	
2S—0747		サヌカイト	1		2S—0941		黒曜石	1	
2S—0749		黒曜石	1		2S—0945		黒曜石	1	
2S—0753		黒曜石	2		2S—0945		サヌカイト	1	

Tab.28　梅島遺跡（第２次調査）出土剥片一覧表②

遺構　番号	層位	石材	点数	備考
2S—0960		黒曜石	1	
2S—0968		黒曜石	1	
2S—0975		黒曜石	1	
2S—0977		黒曜石	1	
2S—0980		黒曜石	7	
2S—0980		サヌカイト	17	
2S—0995		黒曜石	1	
2S—1000		黒曜石	1	
2S—1000		サヌカイト	1	
2S—1003		サヌカイト	1	
2S—1006		サヌカイト	1	
2S—1010		黒曜石	3	
2S—1010		サヌカイト	1	
2S—1011		黒曜石	1	
2S—1018		黒曜石	1	
2S—1018		サヌカイト	1	
2S—1020		黒曜石	2	
2S—1025		黒曜石	2	
2S—1040		黒曜石	1	
2S—1056		サヌカイト	1	
2S—1100		サヌカイト	1	
2S—1103		黒曜石	3	
2S—1103		サヌカイト	3	
2S—1121		サヌカイト	1	
2S—1125		黒曜石	1	
2S—1129		黒曜石	1	
2S—1130		黒曜石	1	
2S—1133		サヌカイト	1	
2S—1138		サヌカイト	1	
2S—1144		サヌカイト	1	
2S—1155		サヌカイト	1	
2S—1159		サヌカイト	1	
2S—1160		黒曜石	2	
2S—1162		黒曜石	1	
2S—1171		黒曜石	2	
2S—1171		サヌカイト	1	
2S—1173		チャート	1	
2S—1183		サヌカイト	1	
2S—1185		黒曜石	1	
2S—1225		黒曜石	1	
表　土		黒曜石	44	
表　土		サヌカイト	18	

Tab.29　梅島遺跡（第２次調査）出土剥片一覧表

4）小結

今回の調査は、平成３年度に実施したもので、平成11年度になってやっと報告書の刊行をみる。

しかしながら、整理を進めて行くにつれ、調査当時の記録が今回の報告書に掲載するに耐えないものであることが判明した。ひとえに調査担当者の力量不足と怠慢によるものであって、結果的に記録保存の措置として適当であったかどうか批判的にならざるを得ない。

そのなかで、今回の報告で調査中から注目していた周溝状遺構についてと、大量に出土した遺物についてを、事実報告のみという形で報告することとなった。遺構の性格や遺跡の性格については今回論及することができないが、別の機会に場を持てればと考えている。

ともかく、遺跡名だけが独り歩きしていた感のある当遺跡の、遺物だけでも公表できたので、各方面から多くのご教示を得られれば幸いである。

Ⅳ.総　括

筑後市内の遺跡に関しては、可能な限り保存に努めているところである。しかし、惜しくも開発などによる掘削や削平が及ぶ区域に関しては、発掘調査による記録保存の措置を余儀なくされている。

今回対象となった県営干拓地等農地整備事業の区域内においても、可能な限り遺跡保存に努めてきたところであるが、残念ながら掘削・削平の及ぶ箇所については筑後西部地区遺跡群の発掘調査として実施をしてきたところである。ただ、これによって多くの記録や資料が蓄積されたことは、筑後市の文化財を知る重要なこととして多大な成果といえ、今後、筑後市の文化財保護の啓発や研究などに生かされていくことであろう。ひとえに文化財にご理解とご協力を頂いた開発事業関係者、並びに調査に参加された作業員の方々の賜と思っている。

さて、筑後西部地区遺跡群の報告は本書をもって完結するが、時間の制約などにより十分な検討がなされないまま本書の刊行に至った。このことを反省し、検討がなされたことについては別書にて随時報告したいと考えている。

おわりに、筑後西部地区遺跡群発掘調査の概要を列記することで総括としたいが、本書に掲載した調査概要は末尾の抄録と重複するためここでは割愛した。また、梅島遺跡（第1次調査）は関連事業の遺跡であるのであわせて掲載した。

1.梅島遺跡（第1次調査）

1）遺跡の所在地	福岡県筑後市大字常用字梅島
2）調査期間	平成2年12月22日～平成3年1月10日
3）調査面積	約420㎡
4）調査担当者	永見秀徳
5）主な検出遺構	竪穴式住居、溝、竪穴、土壙、ピットなど
6）主な出土遺物	弥生土器、須恵器、土師器、瓦質土器、白磁など
7）遺跡の時代と性格	弥生時代中期～後期：集落
8）報告書名	『梅島遺跡』筑後市文化財調査報告書　1992

2.榎崎遺跡

1）遺跡の所在地	福岡県筑後市大字下北島字榎崎
2）調査期間	平成4年7月1日～平成4年12月16日
3）調査面積	約3,500㎡
4）調査担当者	小林勇作
5）主な検出遺構	道路、掘立柱建物、溝、土壙、ピットなど
6）主な出土遺物	弥生土器、須恵器、土師器、瓦器、青磁、白磁、粉青沙器、石製品など
7）遺跡の時代と性格	弥生時代中期～後期：集落、中世～近世：道路
8）報告書名	『榎崎遺跡』筑後市文化財調査報告書第9集　1993

3.井田西中野遺跡

1）遺跡の所在地	福岡県筑後市大字井田字西中野
2）調査期間	平成5年11月15日～平成5年11月29日
3）調査面積	671㎡
4）調査担当者	小林勇作
5）主な検出遺構	溝
6）主な出土遺物	土師器、白磁、陶器、石製品など
7）遺跡の時代と性格	中世～近世?：集落
8）報告書名	『筑後西部地区遺跡群』筑後市文化財調査報告書第15集　1995

4.島田三反田遺跡

1）遺跡の所在地　福岡県筑後市大字島田字三反田
2）調査期間　平成6年9月16日～平成6年12月6日
3）調査面積　1,360㎡
4）調査担当者　小林勇作
5）主な検出遺構　溝、土壙、ピットなど
6）主な出土遺物　弥生土器、須恵器、土師器、青磁、白磁など
7）遺跡の時代と性格　中世～近世：集落
8）報告書名　『筑後西部地区遺跡群』筑後市文化財調査報告書第15集　1995

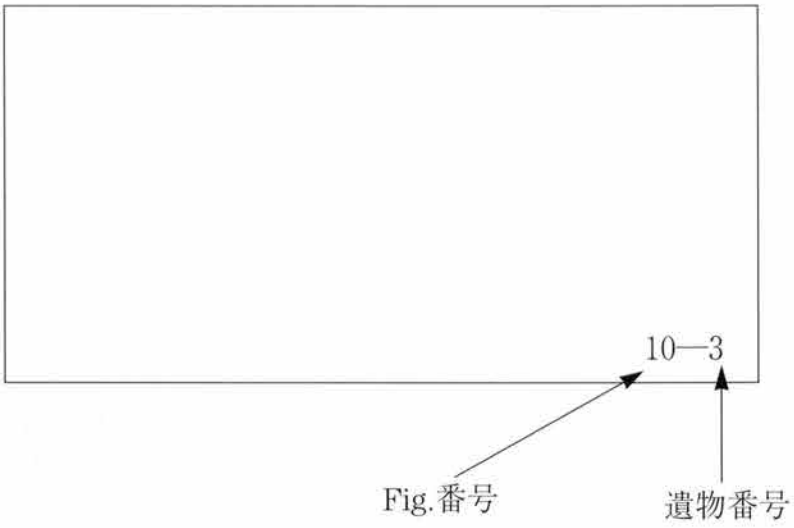
5.古島島相遺跡

1）遺跡の所在地　福岡県筑後市大字古島字島相
2）調査期間　平成6年9月17日～平成6年12月6日
3）調査面積　1,920㎡
4）調査担当者　小林勇作
5）主な検出遺構　土壙、ピットなど
6）主な出土遺物　弥生土器、須恵器、土師器など
7）遺跡の時代と性格　弥生時代後期～中世：集落
8）報告書名　『筑後西部地区遺跡群』筑後市文化財調査報告書第15集　1995

写　真　図　版

凡　例

遺物の写真図版右下の番号は、以下の要領である。



常用ビンセ田遺跡調査区全景（東から）

土壙完掘状況（西から）

水田正吹遺跡調査区Ａ・Ｂ全景（真上から）

調査区Ａ（SB020）完掘状況（南西から）

調査区Ａ（SB030）検出状況（南西から）

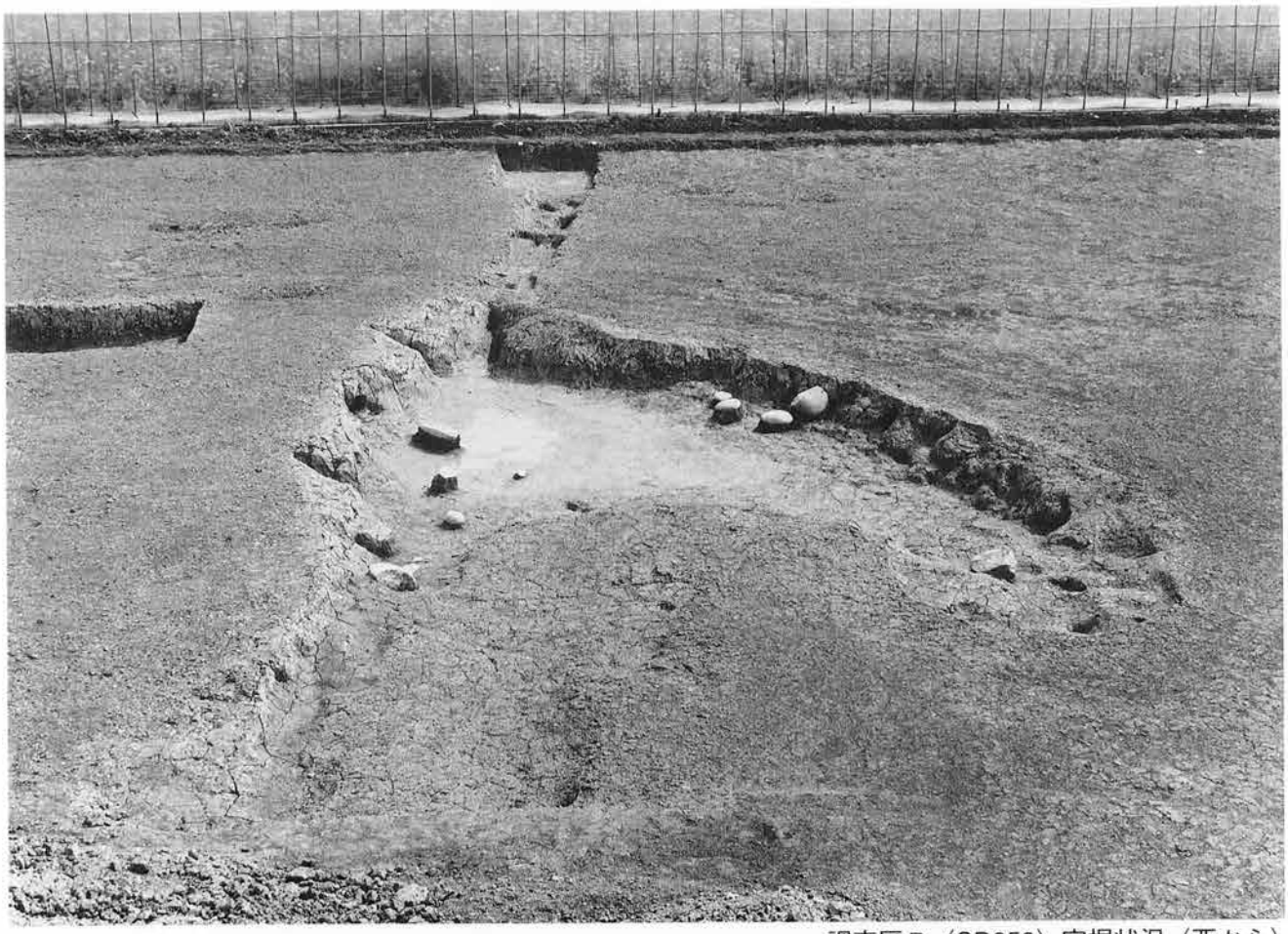
調査区Ａ（SB040）検出状況（南東から）

調査区Ａ土壙群完掘状況（東から）

調査区Ａ（SK005）遺物出土状況（南から）

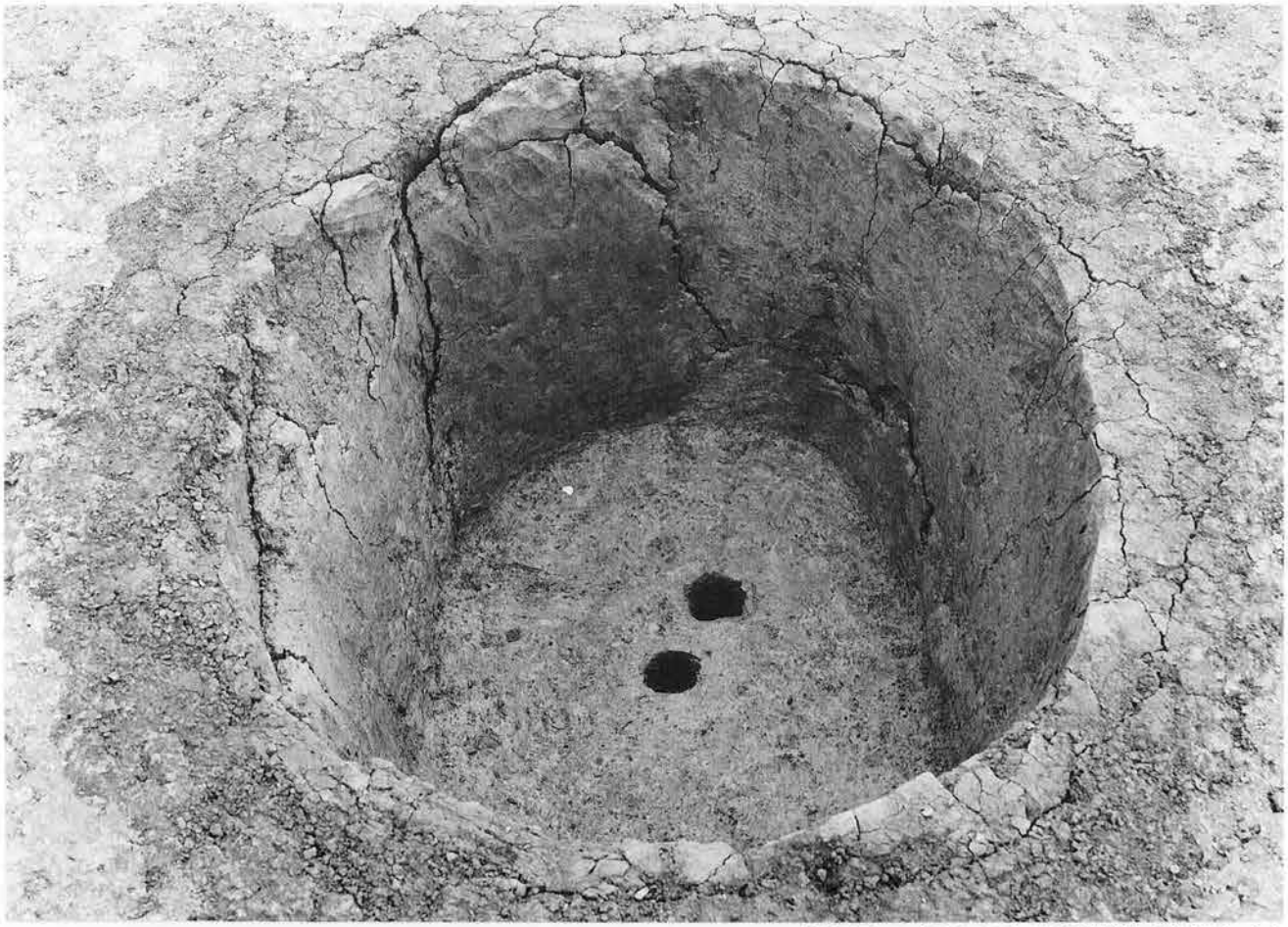
調査区A（SK010）遺物出土状況（北から）

調査区A（SK015）遺物出土状況（北から）



調査区B（SD050）完掘状況（西から）

調査区B（SK025）完掘状況（東から）



調査区Ｂ（SK035）完掘状況（北西から）

調査区Ｂ（SK045）遺物出土状況（南から）

水田正吹遺跡調査区Ｃ全景（真上から）

調査区Ｃ（SX100）遺物出土状況（北東から）

調査区C（S×100）完掘状況（南から）

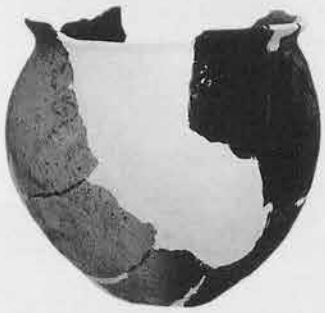
水田正吹遺跡調査区D全景（西から）

水田正吹遺跡調査区Ｅ全景（東から）

調査区Ｅ（SD137）完掘状況（南から）

16—1

17—2


17—7

17—16

18—25

18—32

19—59

18—41

19—47

19—52

19—55

19—58

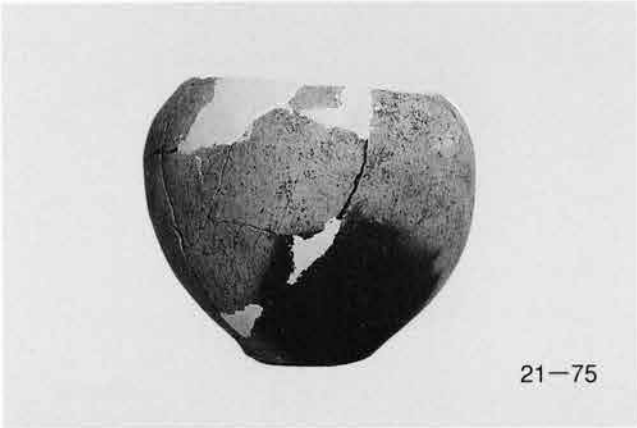
19—60

21—70

21—72

21—73

21—74



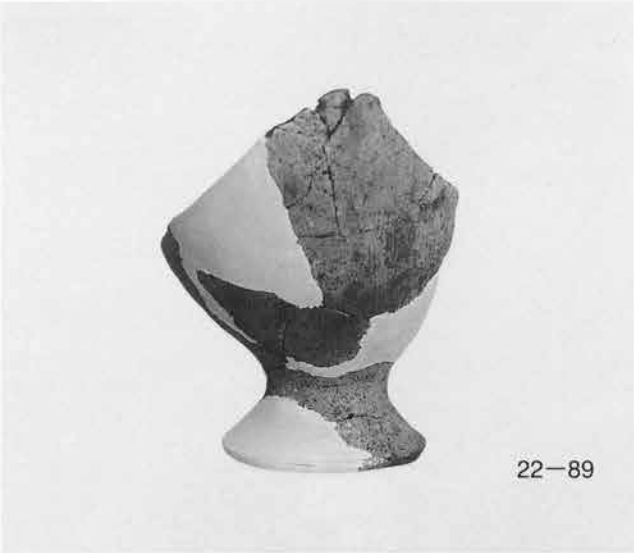
21—75

21—77

21—78

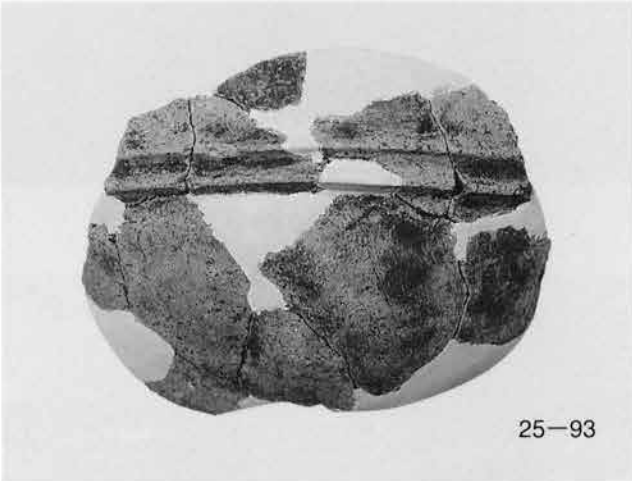
22—86

22—88

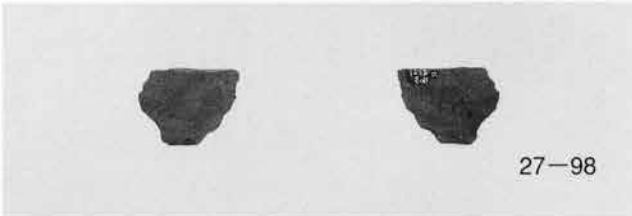

22—89

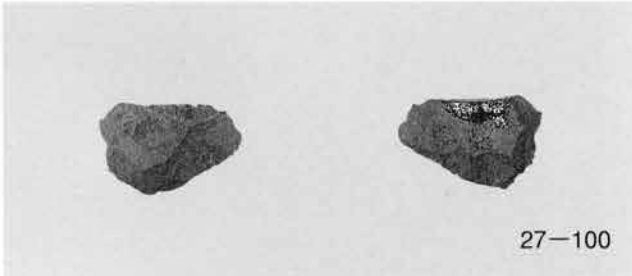
24—92

23—90


25—93

23—91


27—98

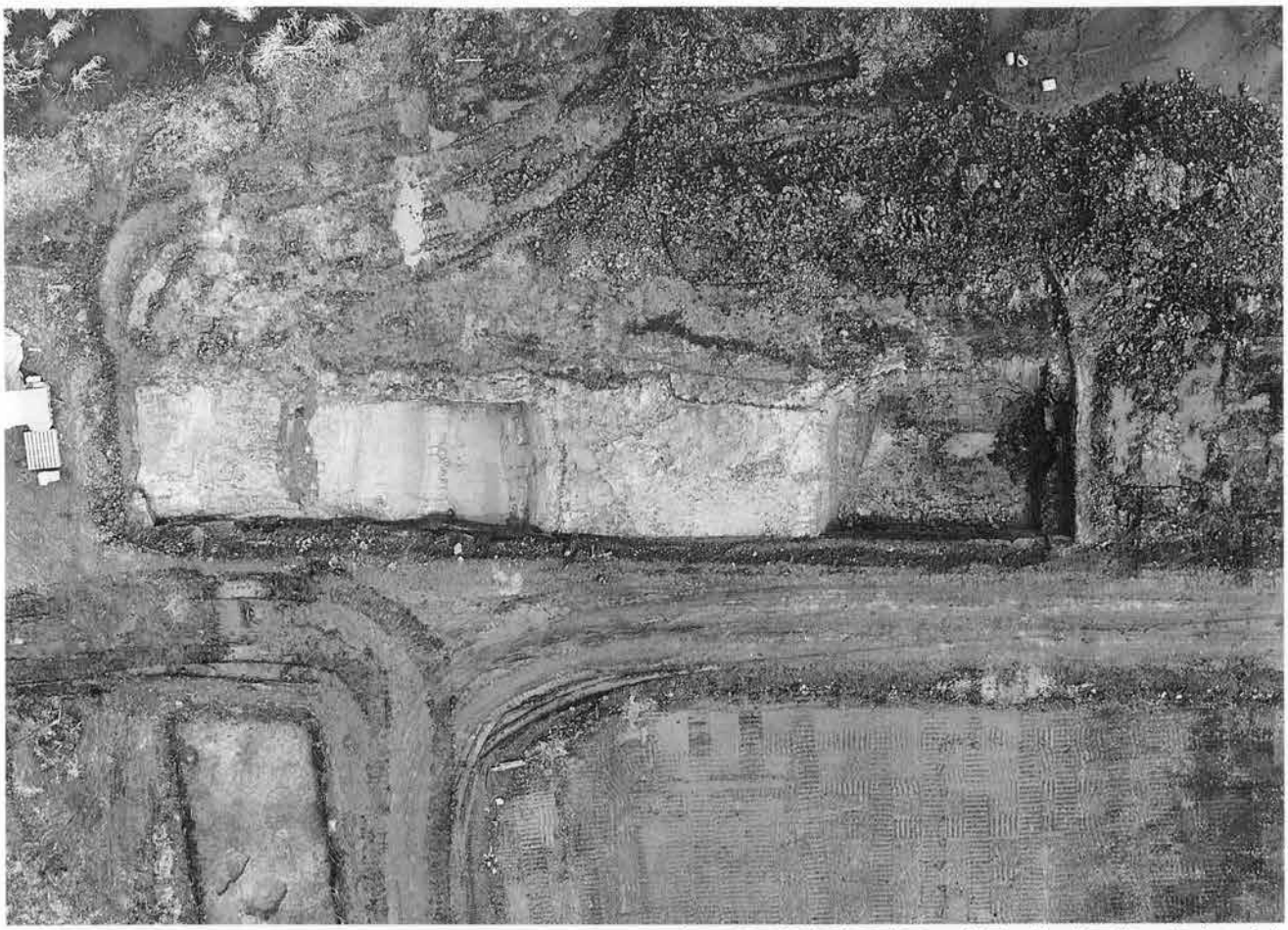

27—100

27—101

27—99

島田外屋敷遺跡調査区全景（空中写真：東から）

島田外屋敷遺跡調査区全景（空中写真：西から）



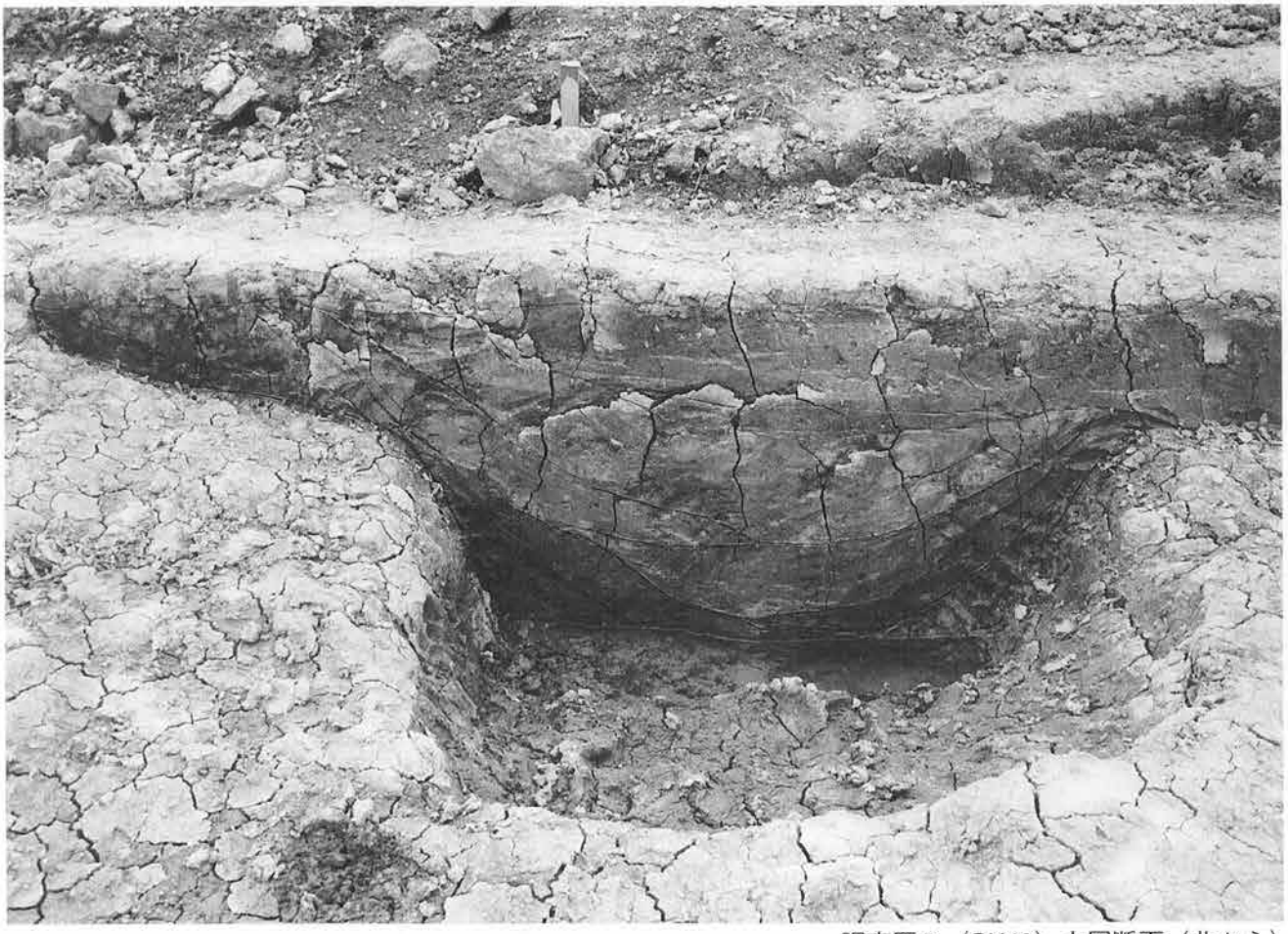
島田外屋敷遺跡調査区Ａ全景（空中写真：真上から）

島田外屋敷遺跡調査区Ｂ全景（空中写真：真上から）

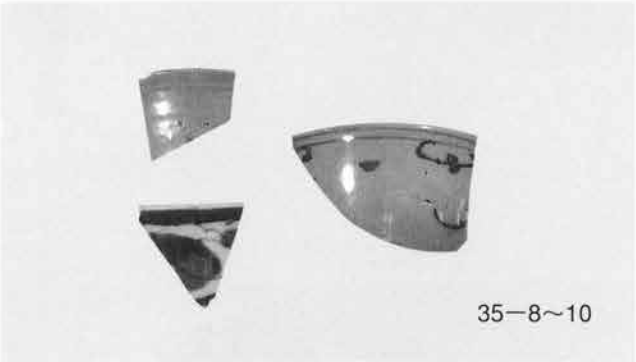
島田外屋敷遺跡調査区Ｃ全景（空中写真：真上から）

島田外屋敷遺跡調査区Ｄ全景（空中写真：真上から）

調査区Ｄ（SD10）完掘状況（南から）



調査区Ｄ（SK40）土層断面（北から）


35—8～10

36—11

36—15

37—20

37—23

37—24

37—25

37—27

37—28

37—29

37—30

37—31

37—32

37—33

37—34

37—35

37—36

37—37

37—38

37—39

37—40

37—43

37—44

37—45

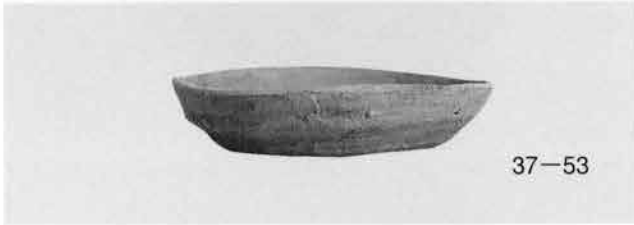
37—46

37—47

37—48

37—50

37—52


37—53

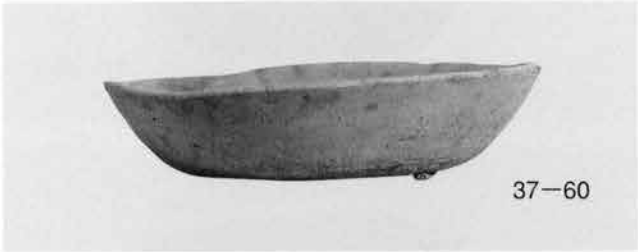
37—54

37—56

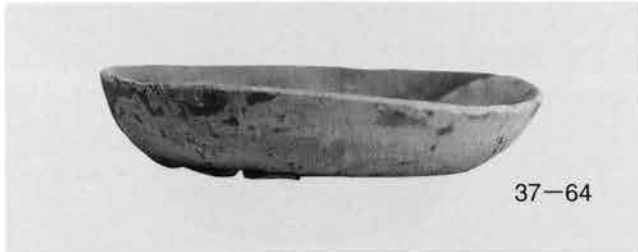
37—57

37—58

37—59


37—60

37—62


37—64

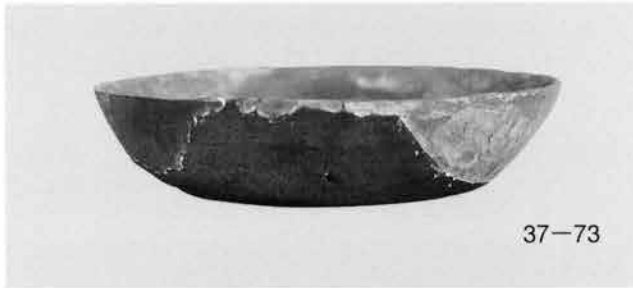
37—65

37—67

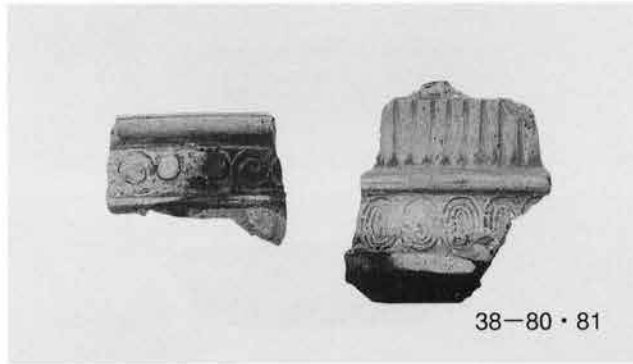
37—68

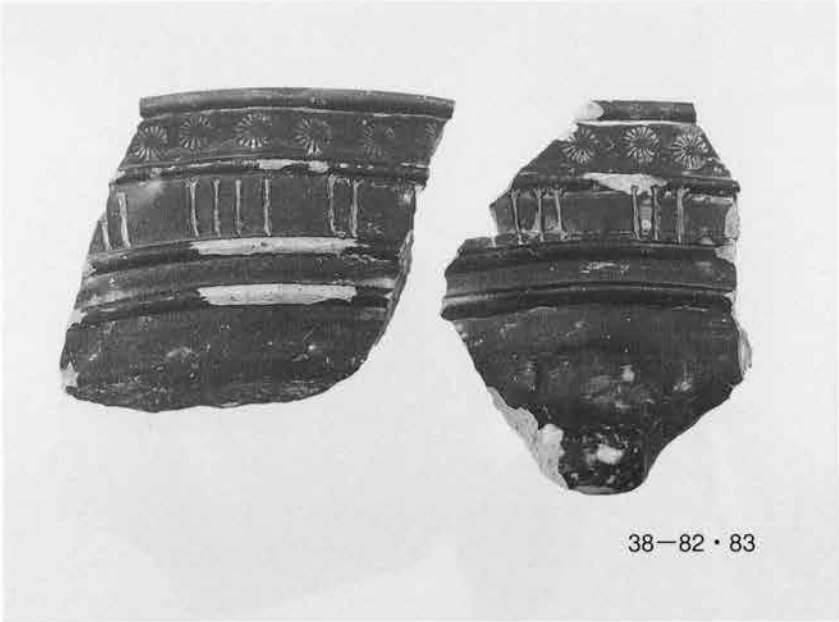
37—71

37—72


37—73

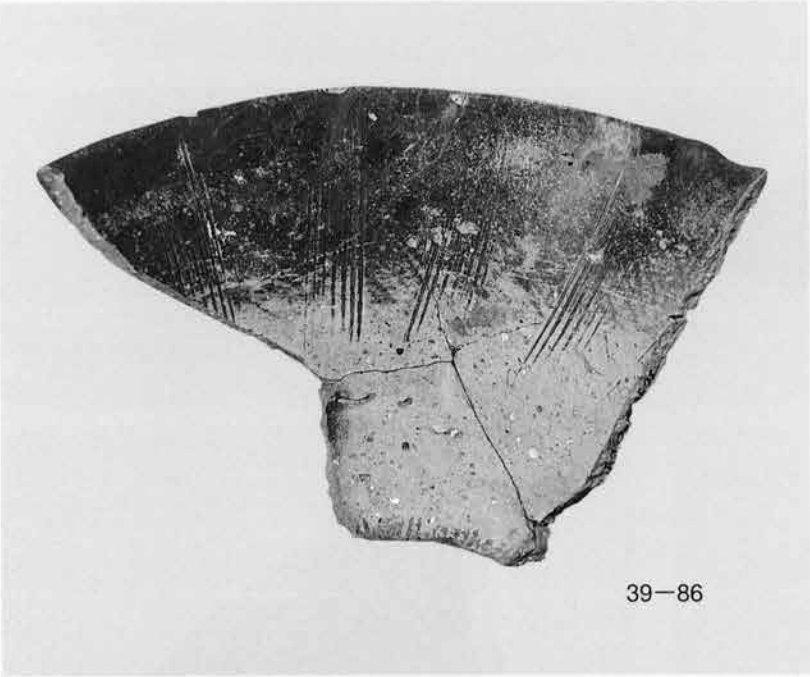
38—78


38—80・81



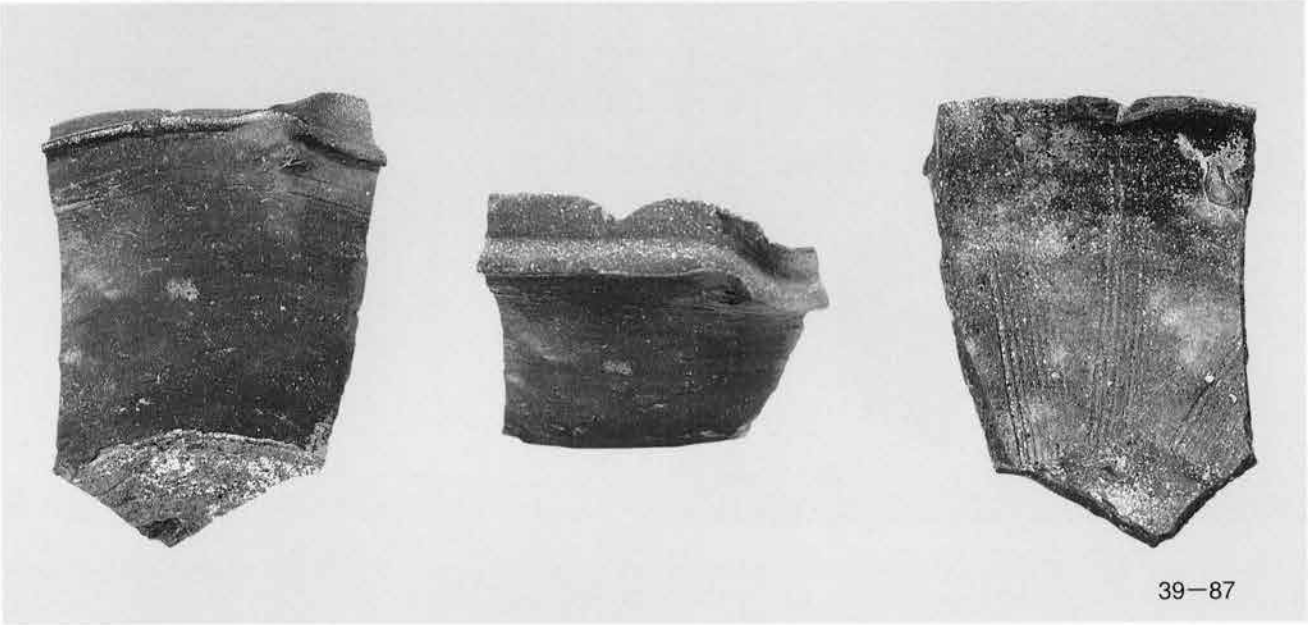
38—82・83

38—84

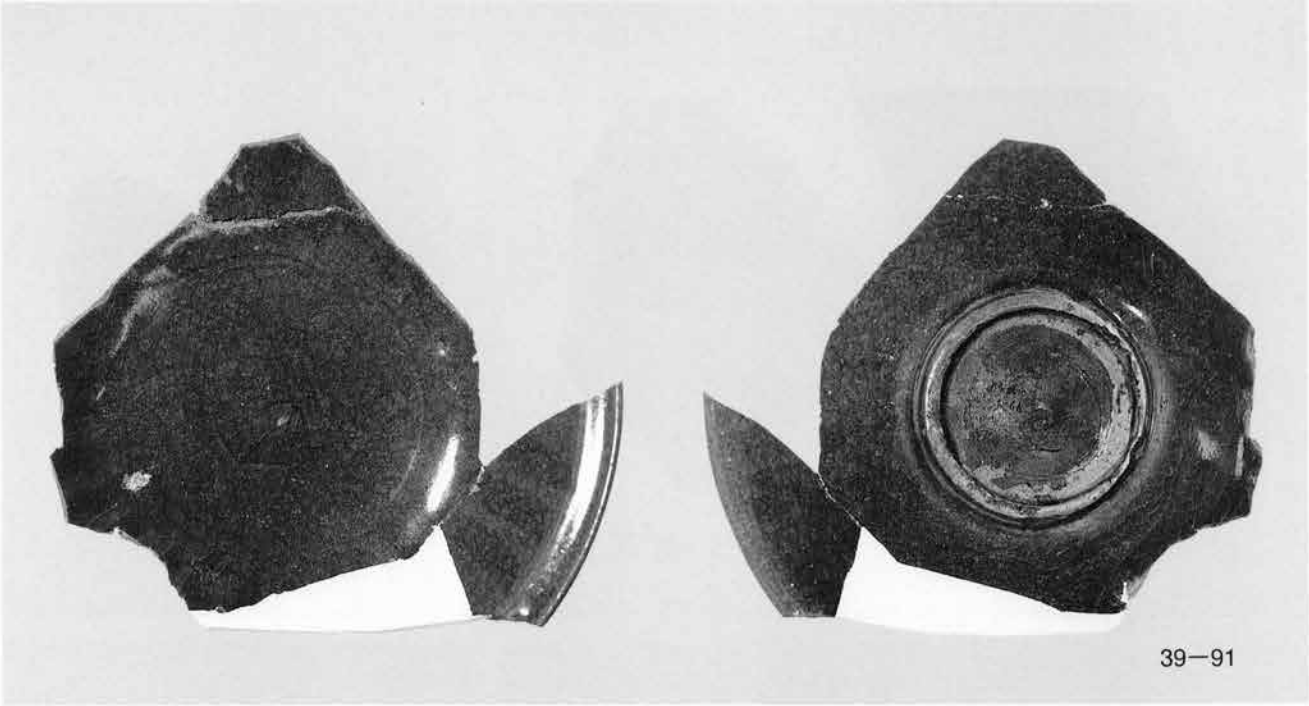


39—86

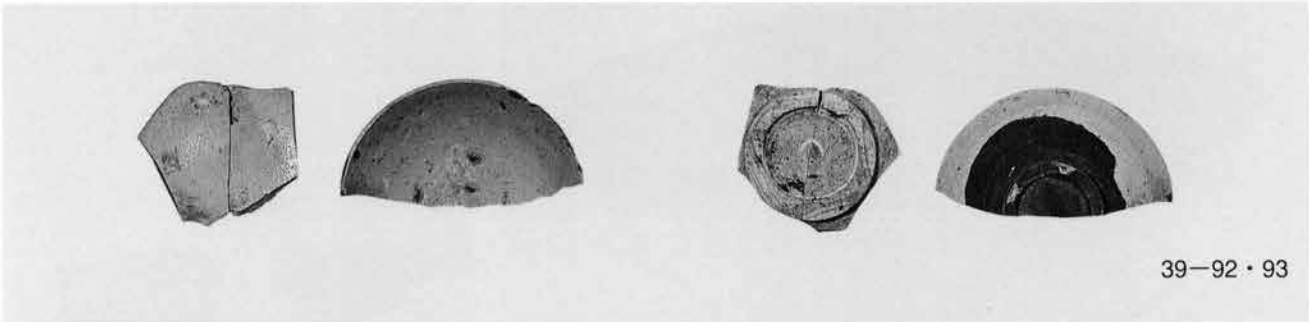
39—88～90



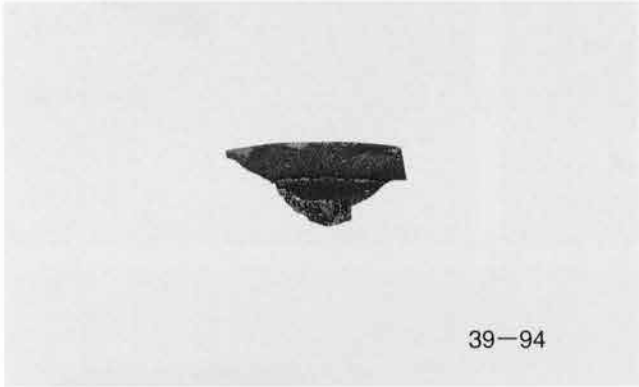
39—87



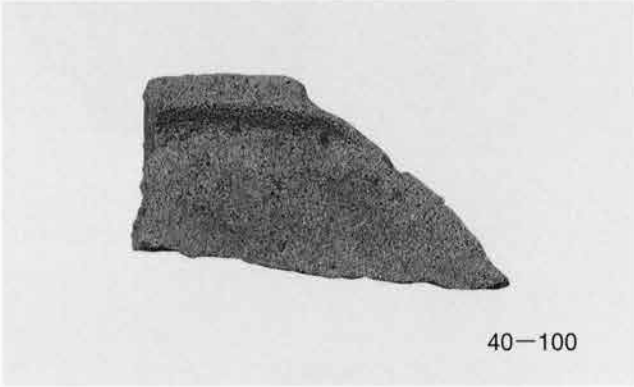
39—91



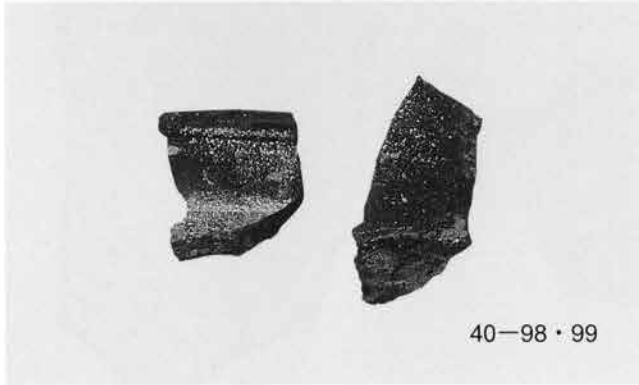
39—92・93



39—94



40—100



40—98・99

井田栗ノ内遺跡調査区全景（南から）

SD 1 完掘状況（東から）

水田伊勢ノ脇遺跡調査区全景①（南から）

水田伊勢ノ脇遺跡調査区全景②（西から）

水田伊勢ノ脇遺跡調査区全景③（東から）

水田伊勢ノ脇遺跡調査区全景④（北から）

水田伊勢ノ脇遺跡調査区全景⑤（西から）

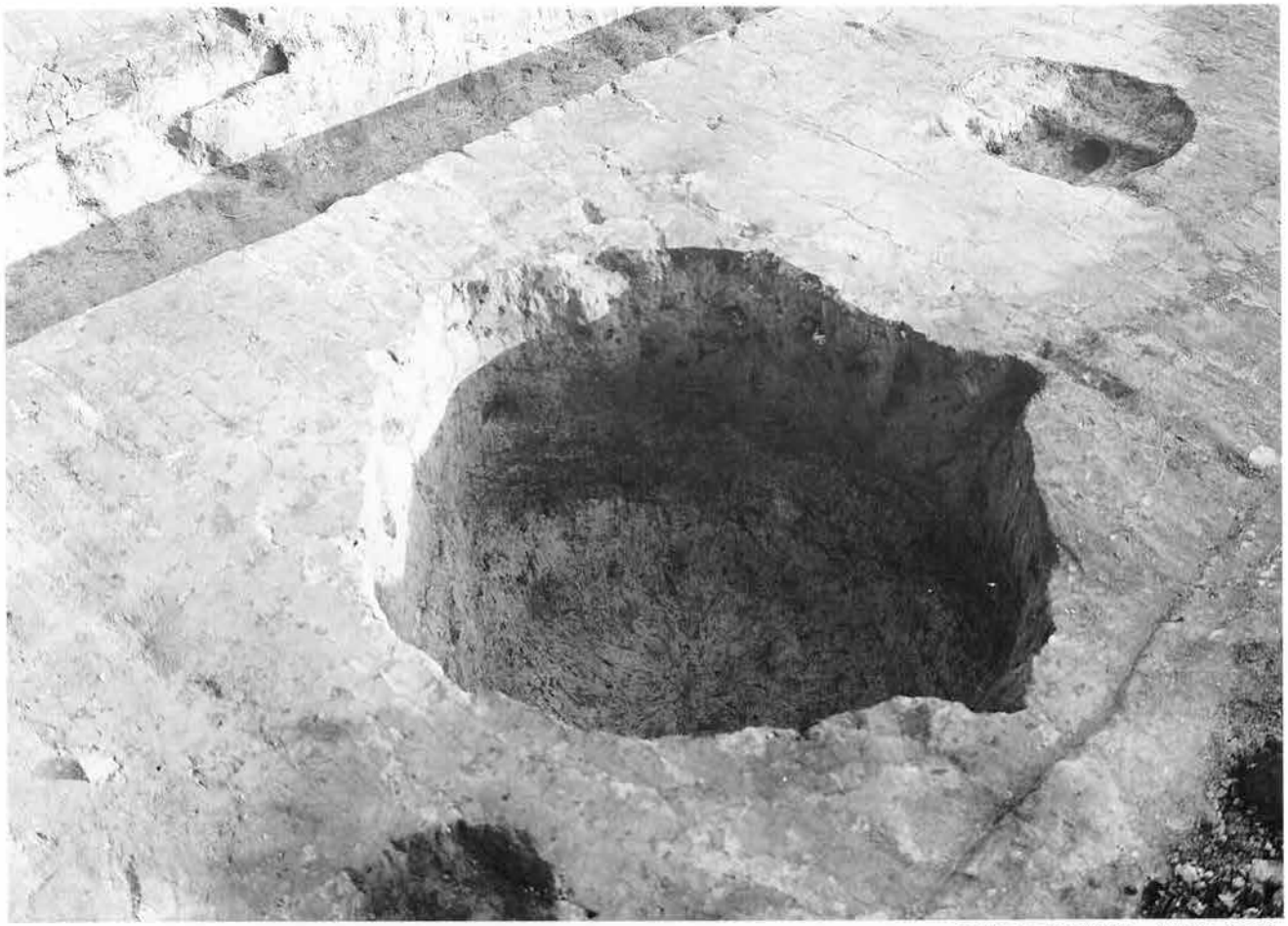
水田伊勢ノ脇遺跡調査区全景⑥（北から）

SD010・020完掘状況（西から）

SD060・070完掘状況（北から）

SD080完掘状況（東から）

SX040・050完掘状況（東から）

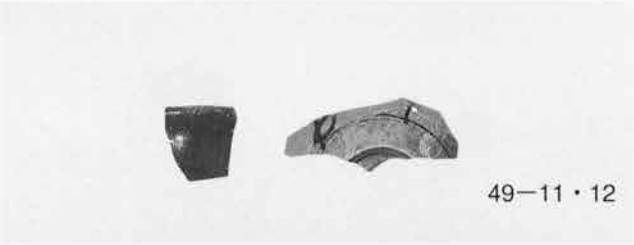


SK005完掘状況（北西から）

SK035遺物出土状況①（南から）

SK035遺物出土状況②（南から）

SK135完掘状況（北から）


49—11・12

49—14・15

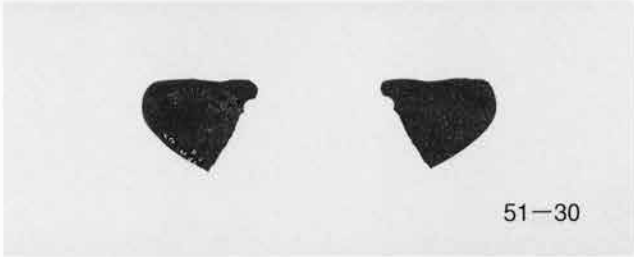
50—20

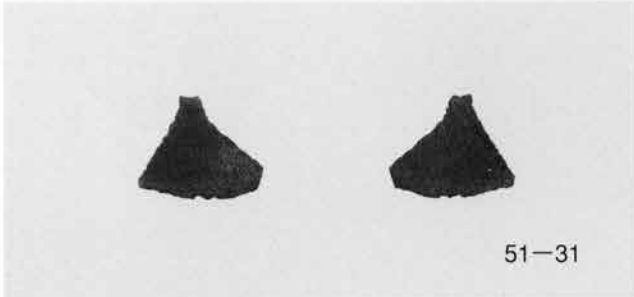
50—24

50—27

50—28

51—29

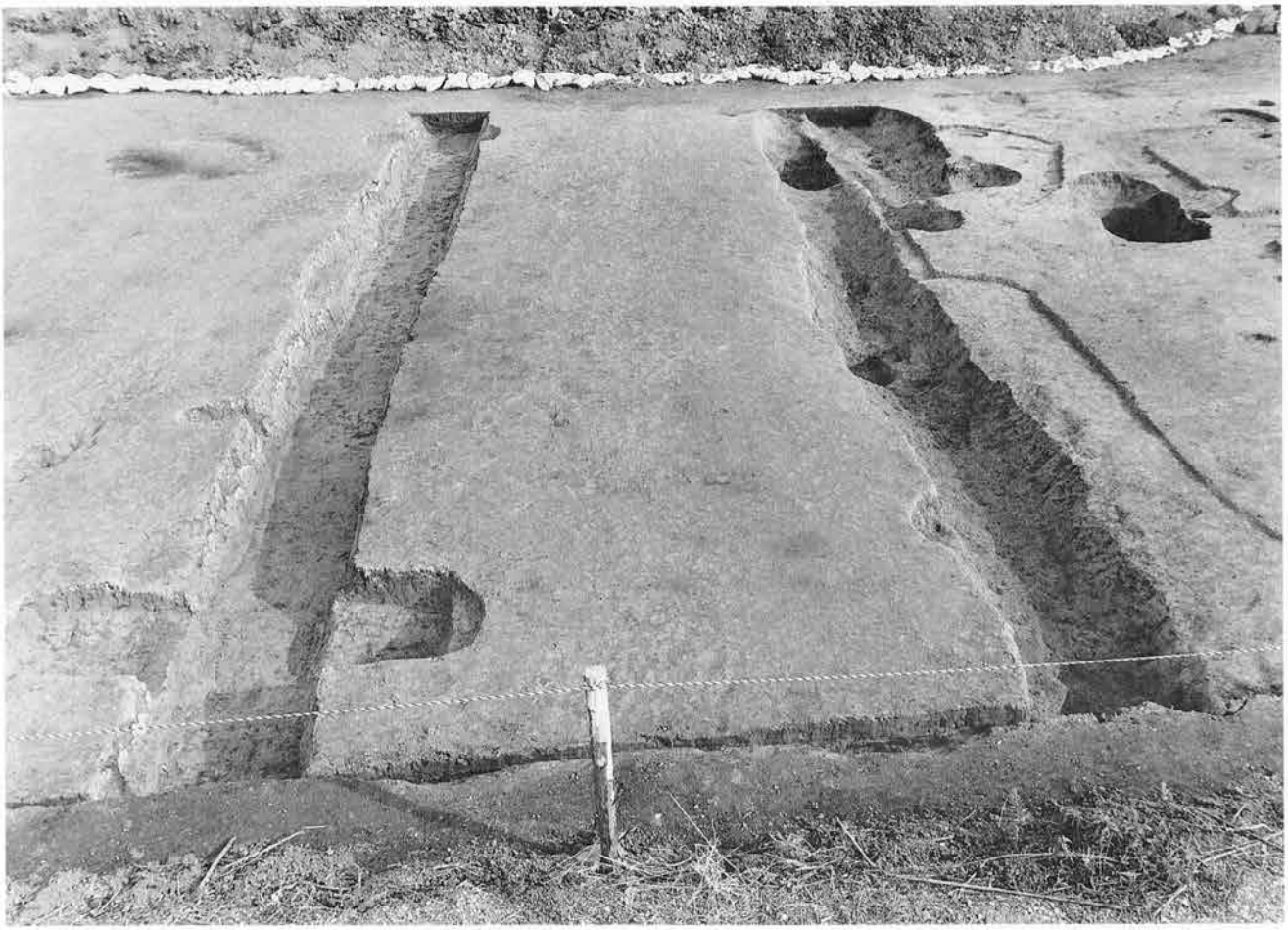

51—30


51—31

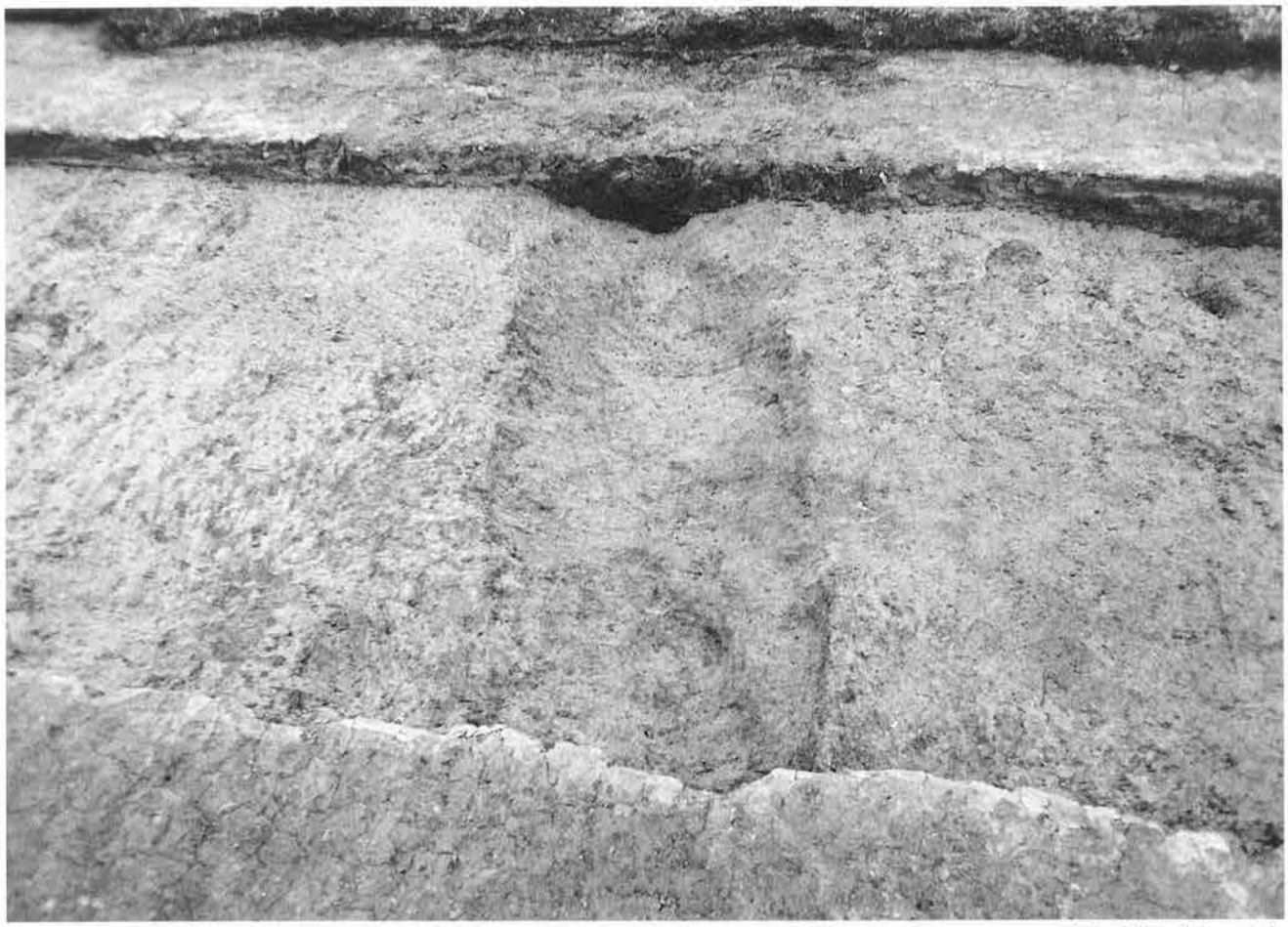
折地長間寺遺跡調査区全景（南から）

折地長間寺遺跡調査区全景（西から）

SD05・10完掘状況（西から）



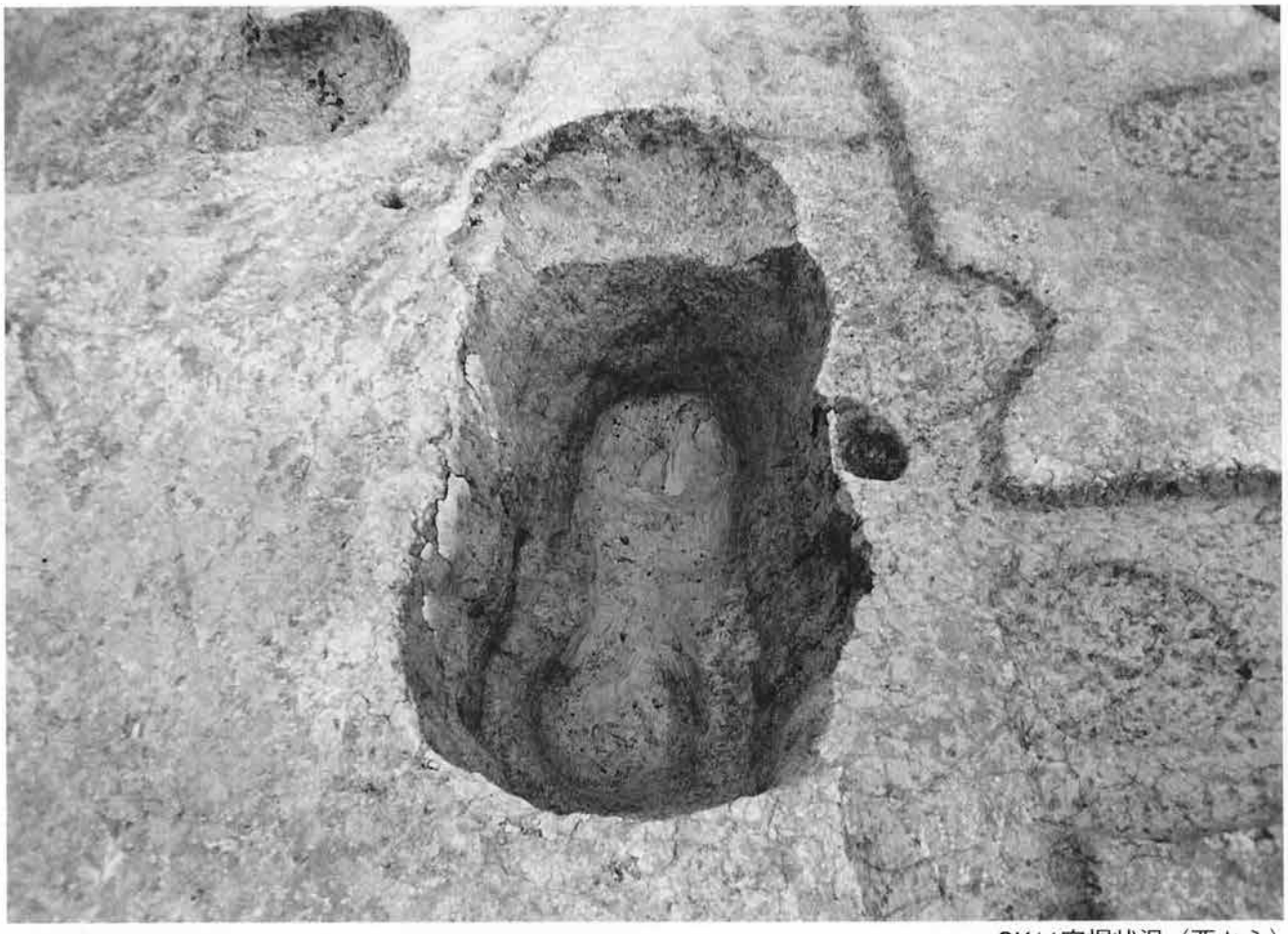
SD20・30完掘状況（西から）



SD51完掘状況（北から）

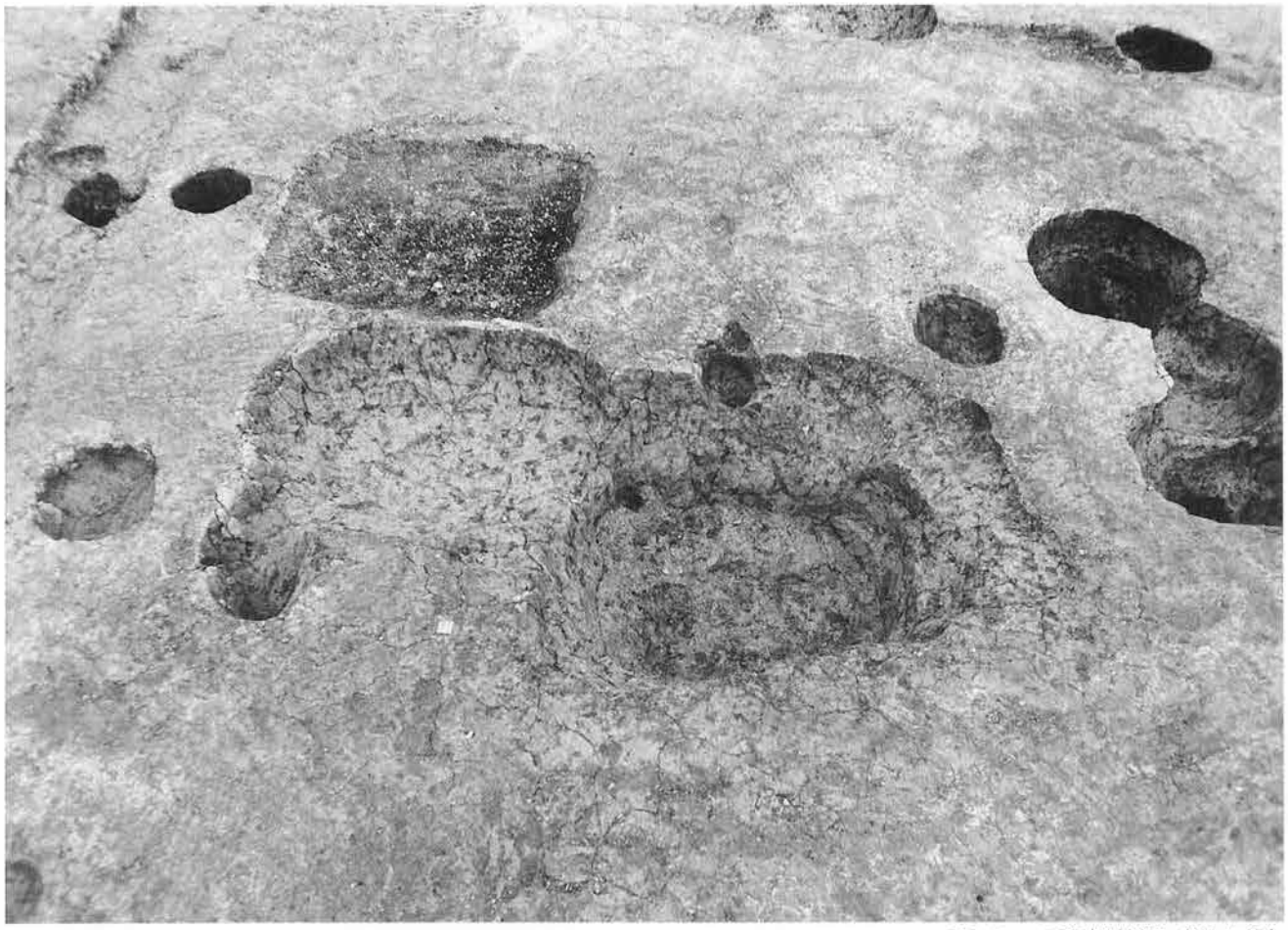
SD52完掘状況（北から）

SD60完掘状況（南東から）



SK11完掘状況（西から）

SK23完掘状況（東から）



SK42・43完掘状況（西から）

SK50遺物出土状況（西から）

ピット群完掘状況（北西から）

57—1

57—2

57—3

57—4

57—5

57—6

57—7

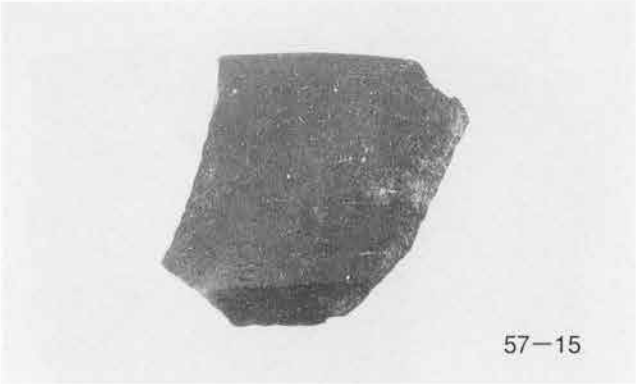
57—8

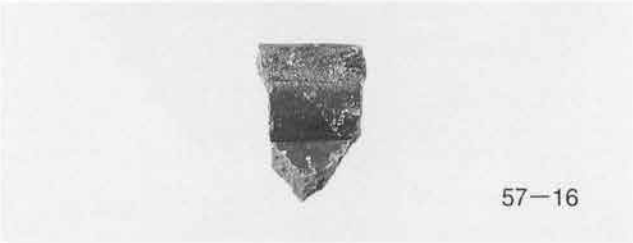
57—9

57—10

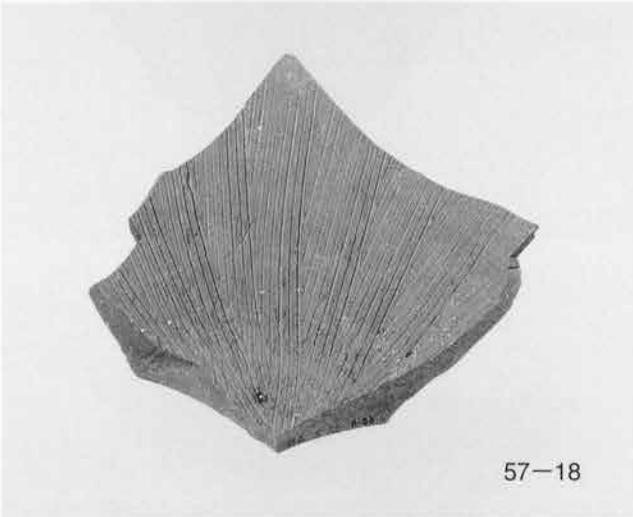
57—11

57—12


57—15


57—16

57—17


57—18

58—22

58—23

58—26

58—27

58—30

58—32

58—33

59—34

59—35

59—36

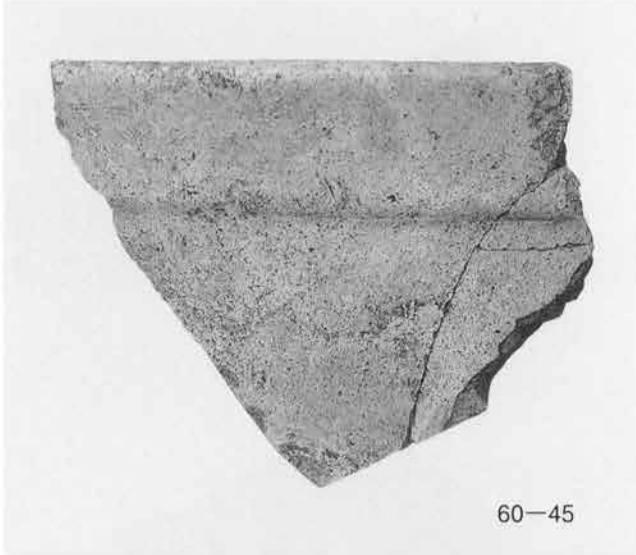
59—37

59—38

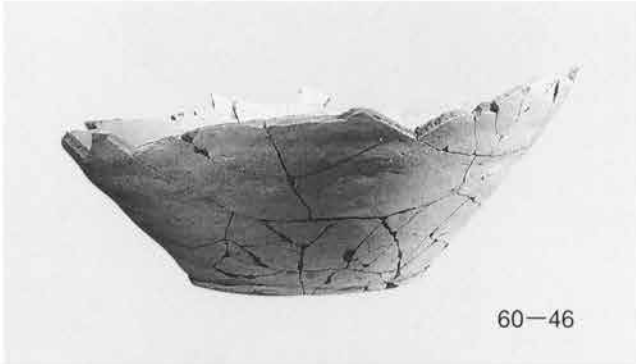
59—40

60—42

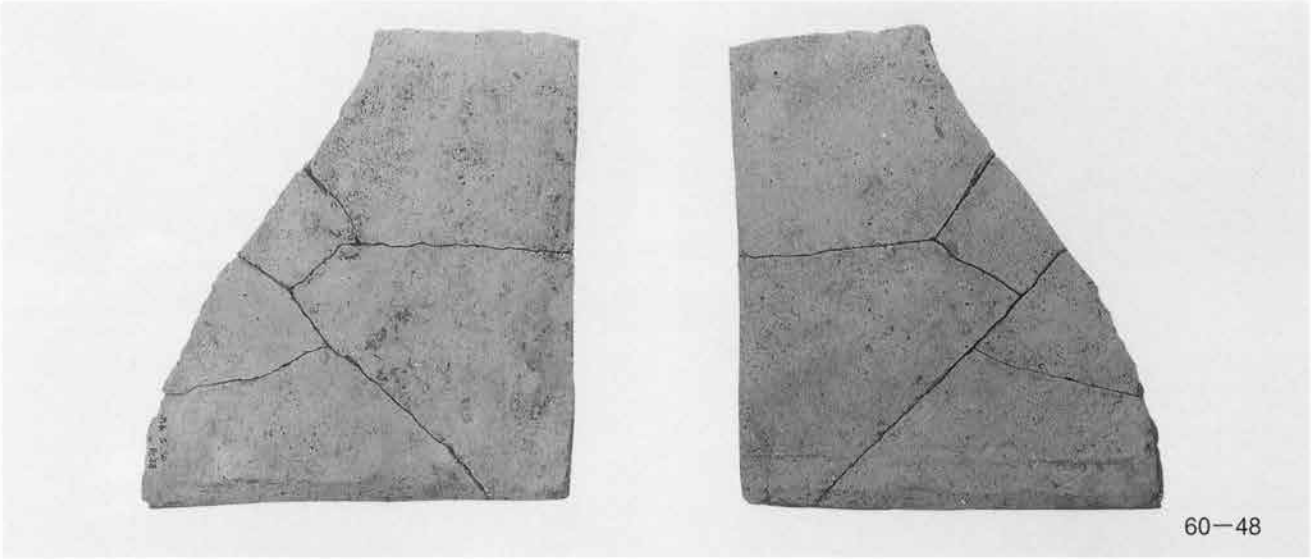
60—43



60—45

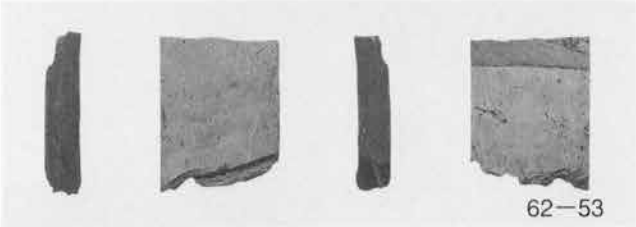


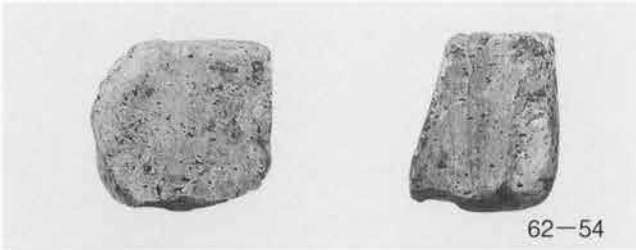
60—46

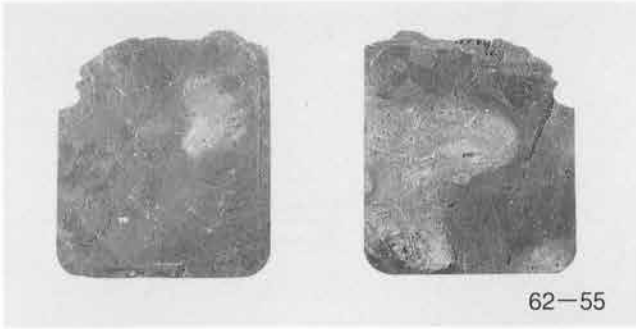

60—48

61—49

61—52

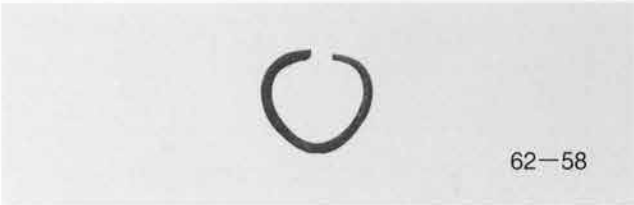

62—53


62—54


62—55

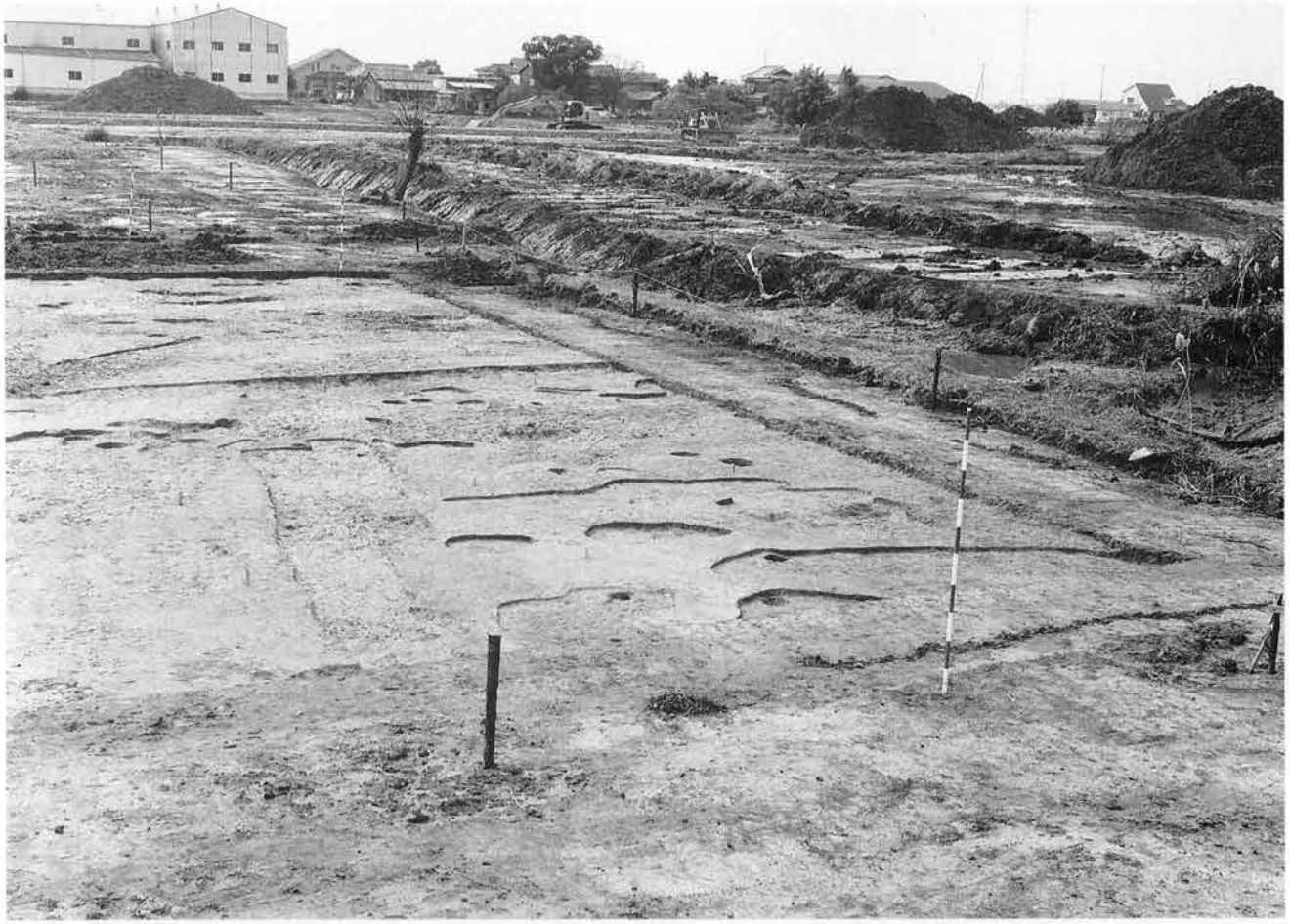
62—56

62—57

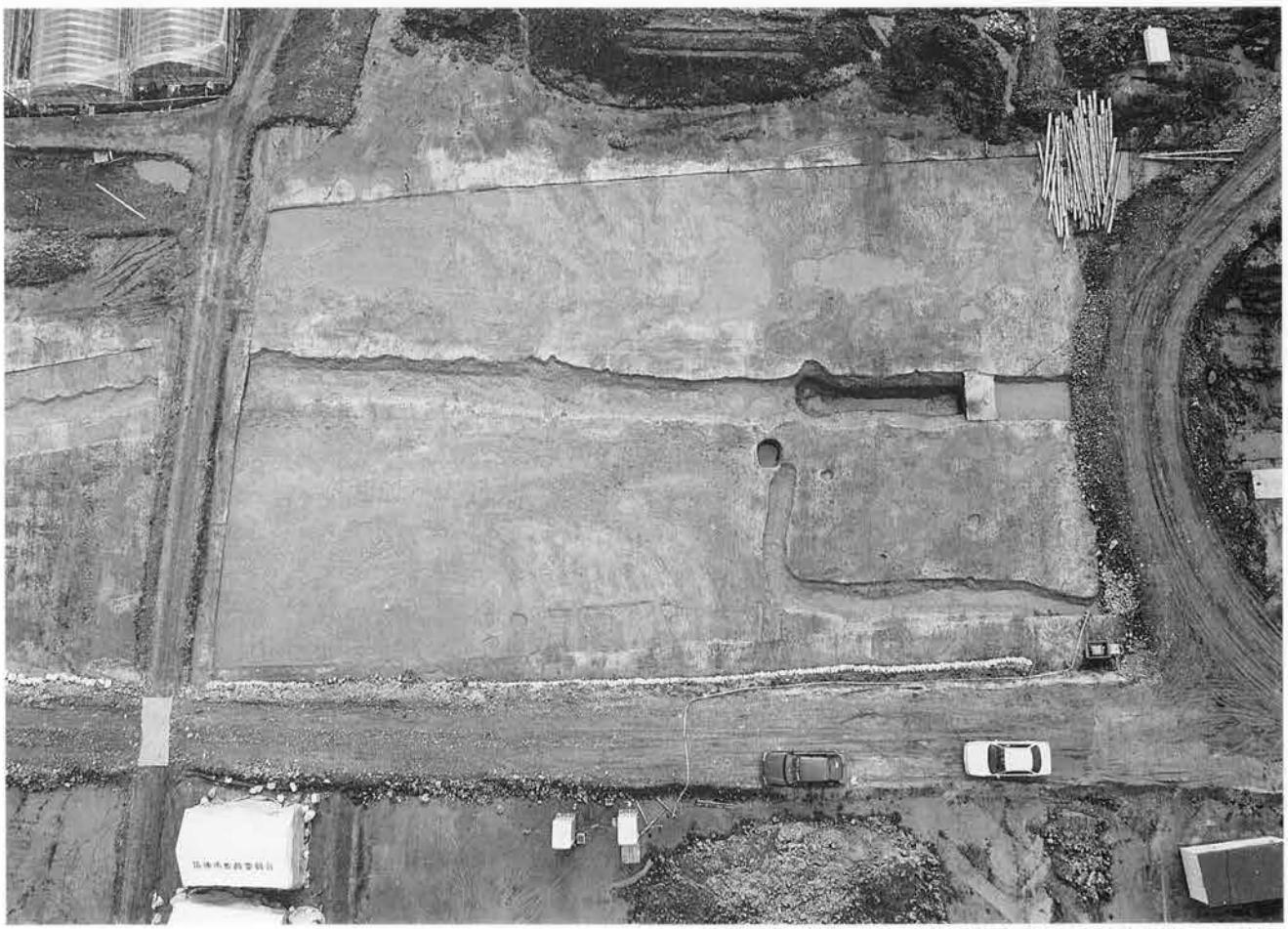

62—58

井田堀越遺跡調査区全景（空中写真：東から）

井田堀越遺跡調査区全景（空中写真：西から）

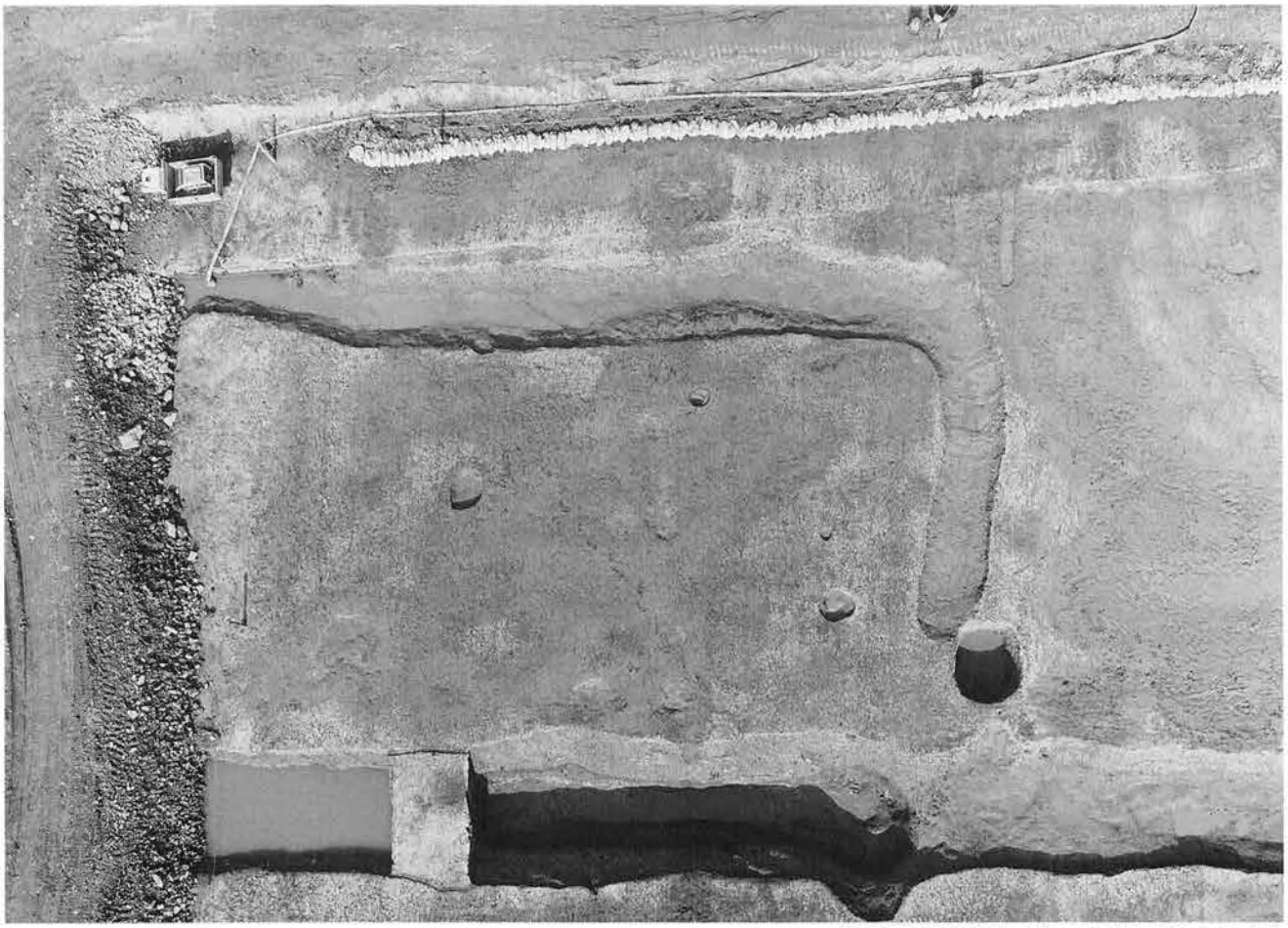


井田堀越遺跡西端部完掘状況（北から）



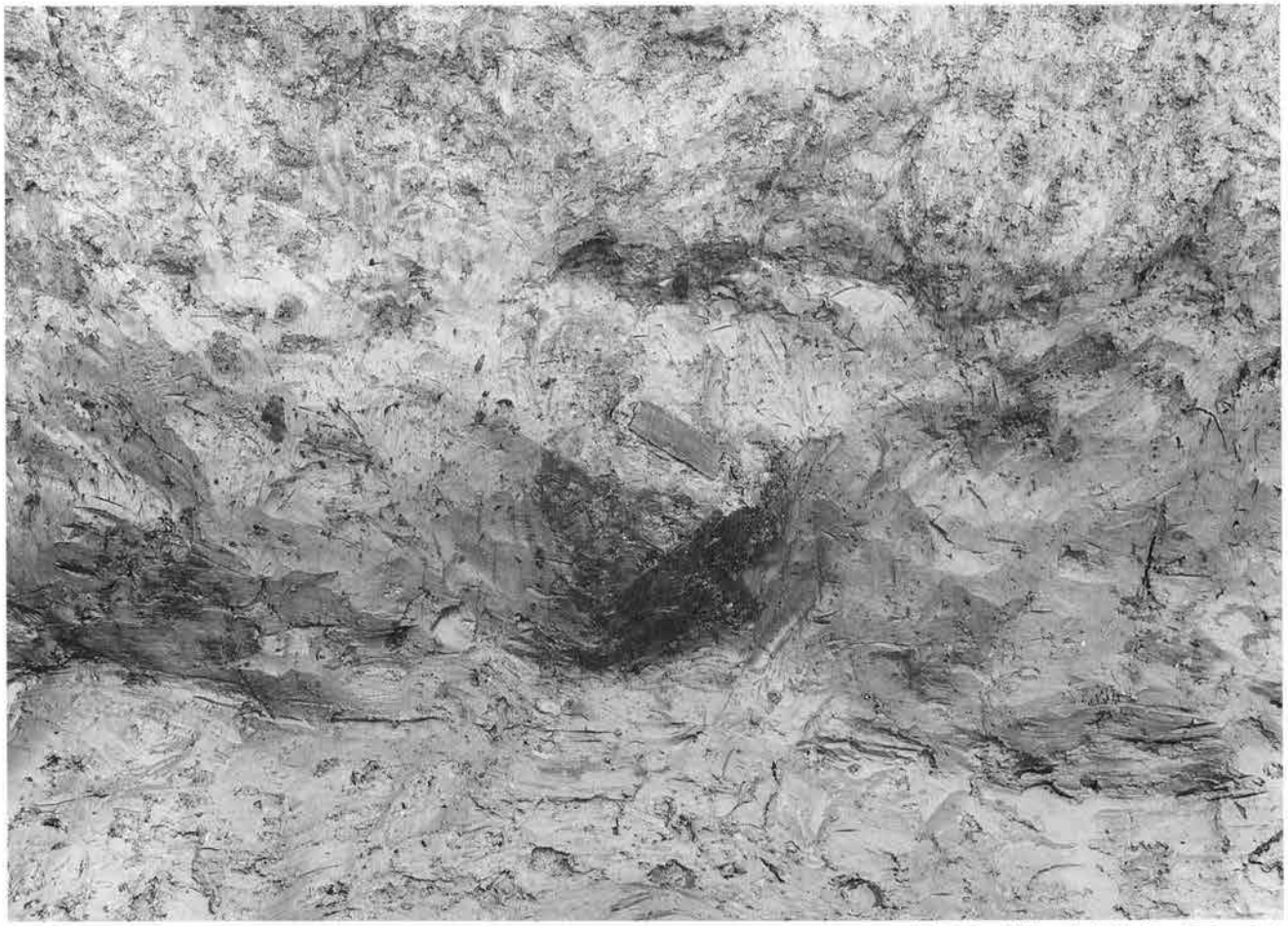
井田堀越遺跡西部完掘状況（空中写真：真上から）

井田堀越遺跡東部完掘状況（空中写真：真上から）

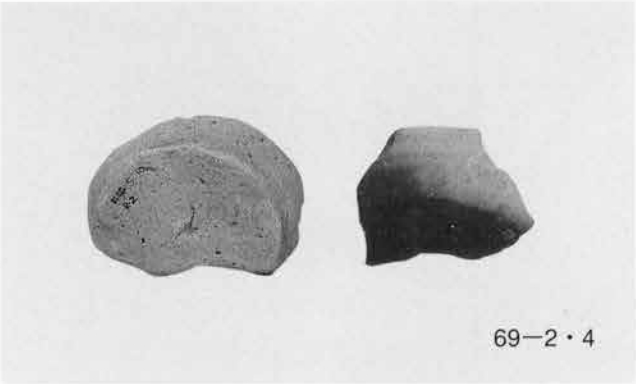


SD15完掘状況（空中写真：真上から）

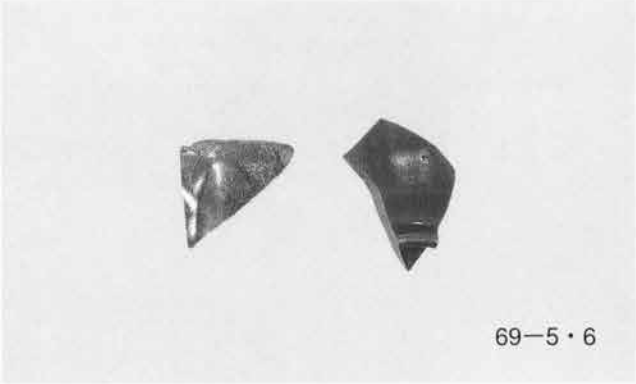
SD10木製品（木錘）出土状況（西から）



SD10木製品（枡）出土状況（西から）

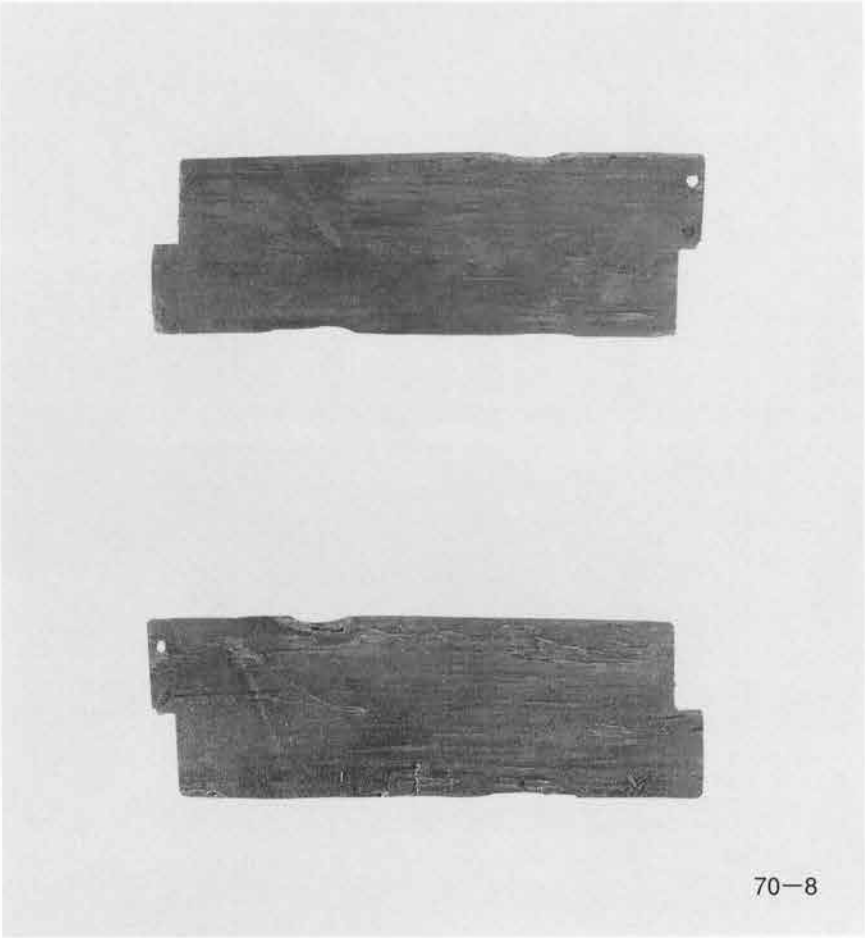


69—2・4



69—5・6

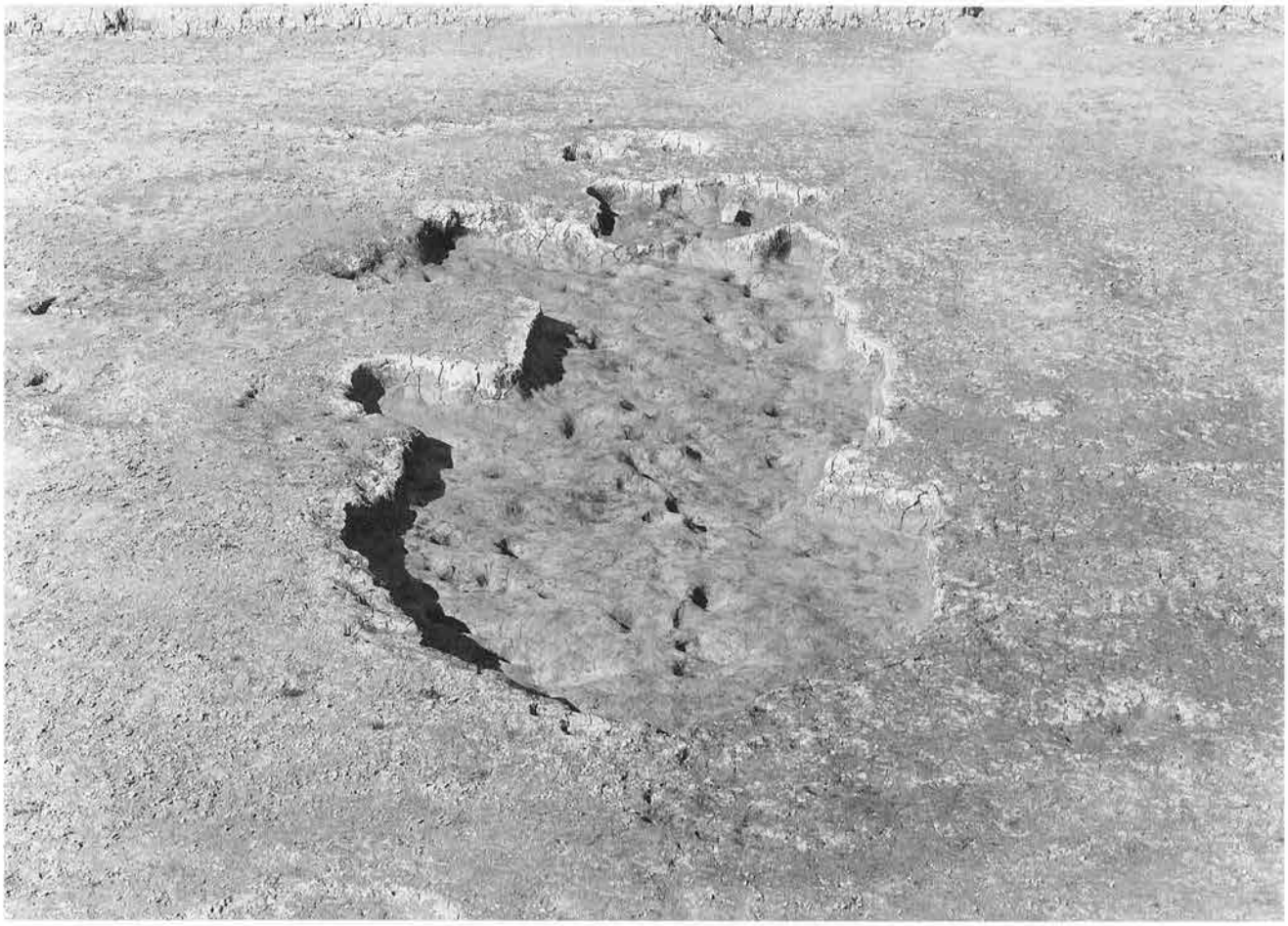
70—7



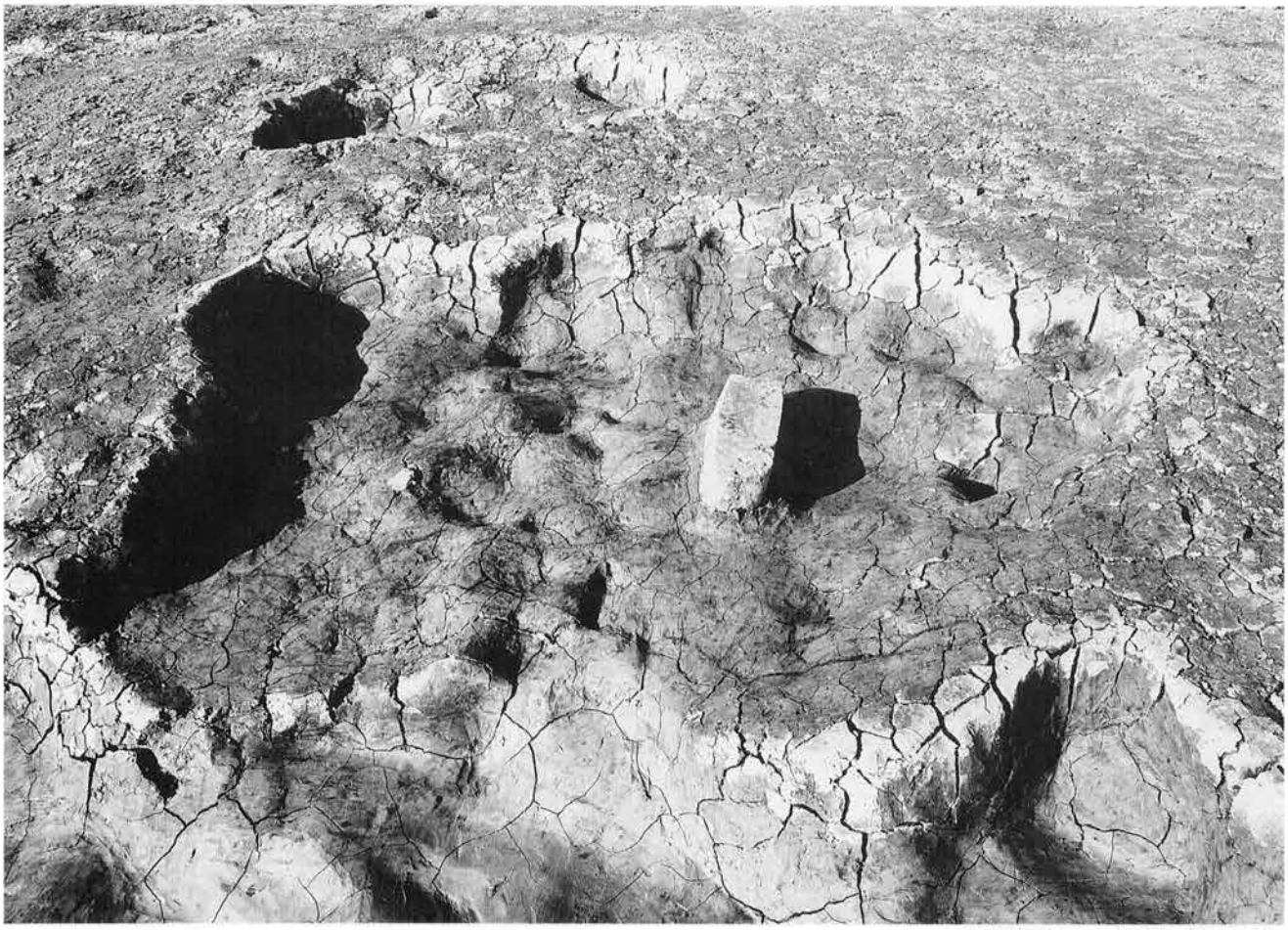
70—8

井田下堀越遺跡調査区全景（南から）

SD15完掘状況（北から）



SK10完掘状況（南から）



SK10遺物出土状況（南から）

77—8

77—9

77—10

77—12

77—13

77—15

77—16

77—17

77—18

77—19

77—21

77—22

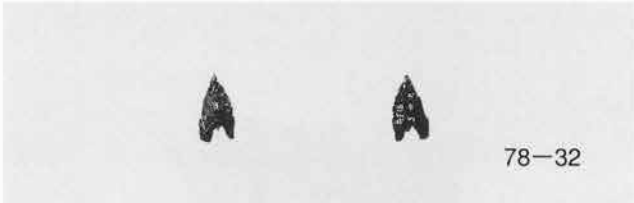
77—25

77—26

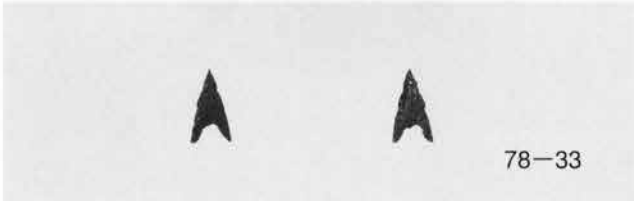
77—28

77—29

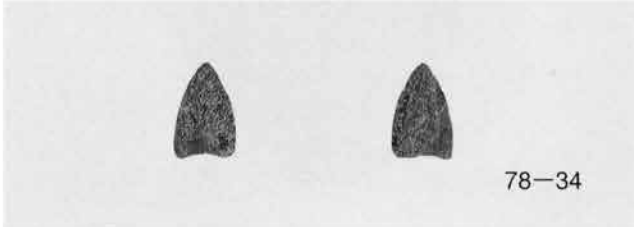
77—31



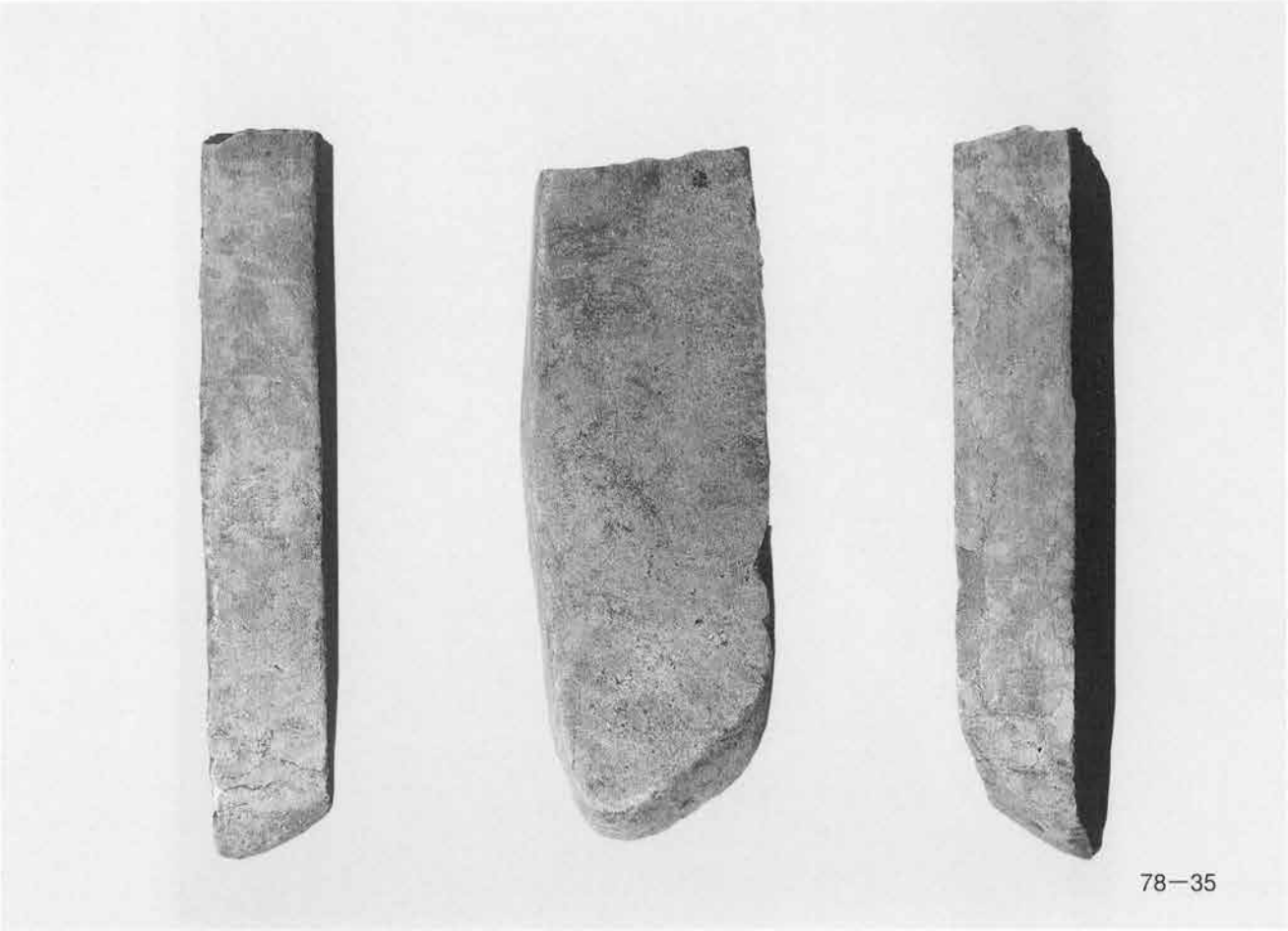
78—32



78—33



78—34



78—35

79—36

梅島遺跡第２次調査調査区全景（南から）

梅島遺跡第２次調査北東調査区（上が北）

梅島遺跡第２次調査東西調査区東部分（上が北）

梅島遺跡第２次調査東西調査区西部分（上が北）

梅島遺跡第２次調査中央調査区南半部（東から）

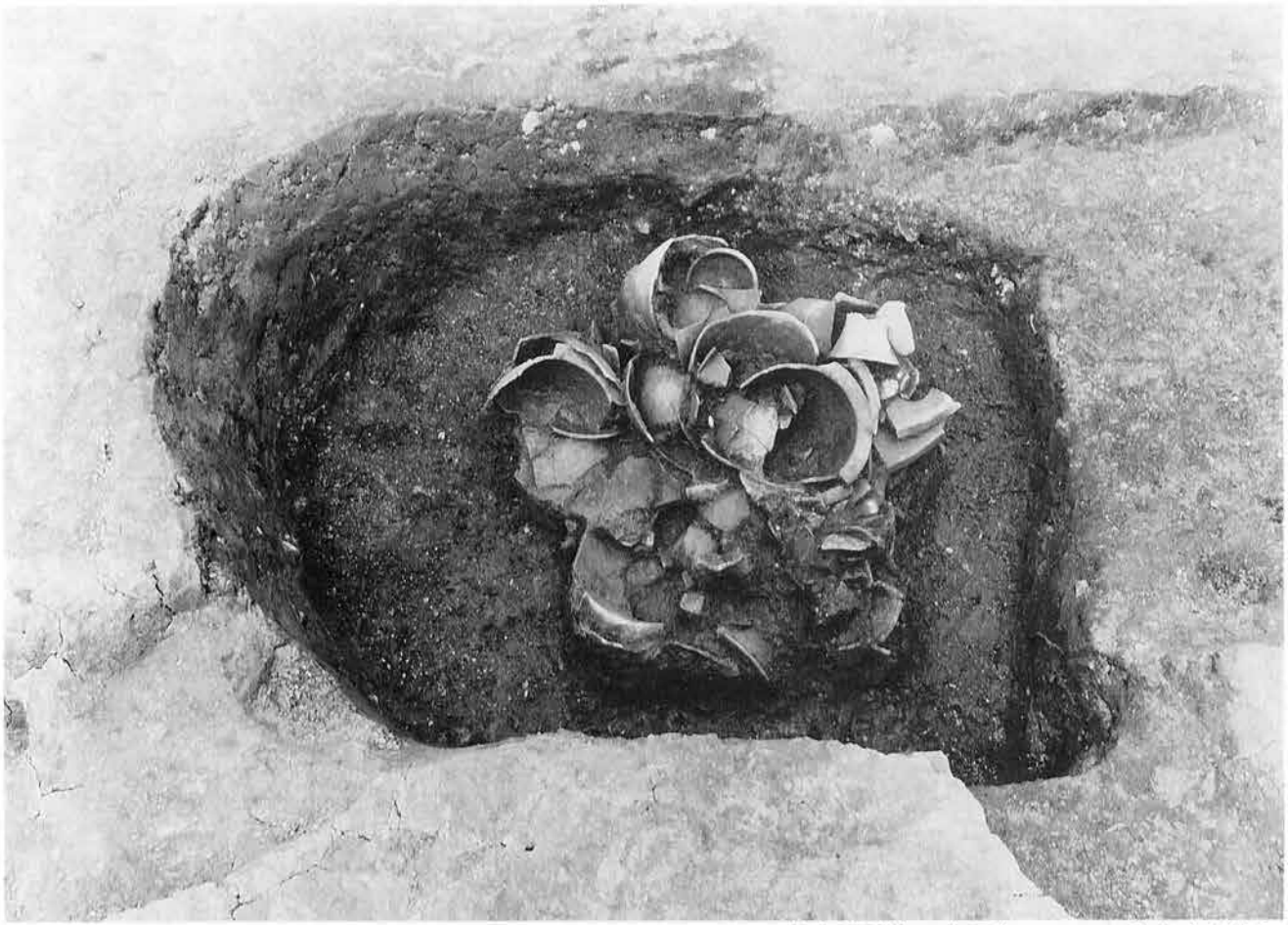
梅島遺跡第２次調査中央調査区北半部（東から）

梅島遺跡第２次調査中央調査区南半部（西から）

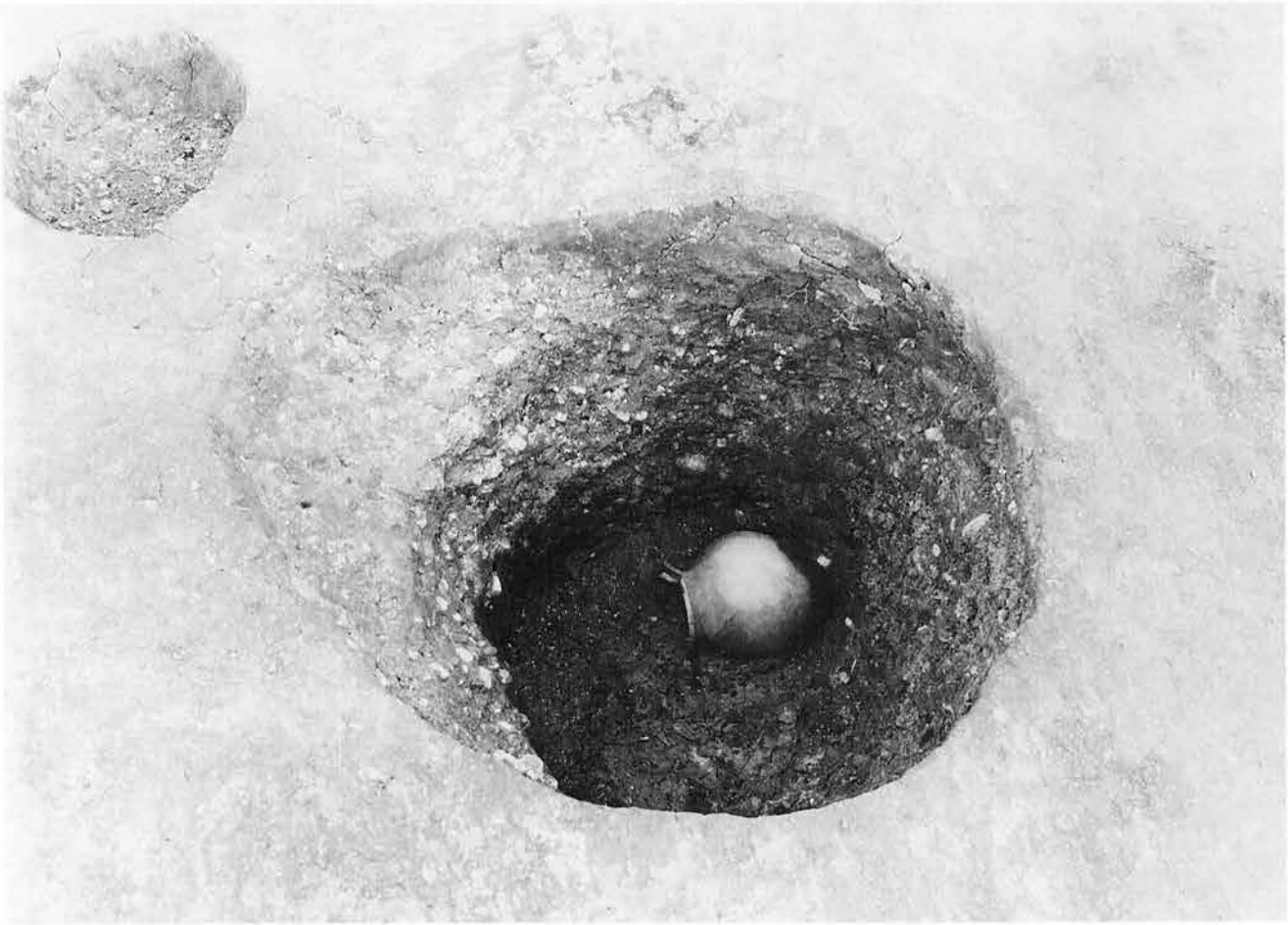
梅島遺跡第２次調査中央調査区北半部（西から）

梅島遺跡跡第 2 次調査中央調査区水没状況

梅島遺跡第 2 次調査東西調査区水没状況

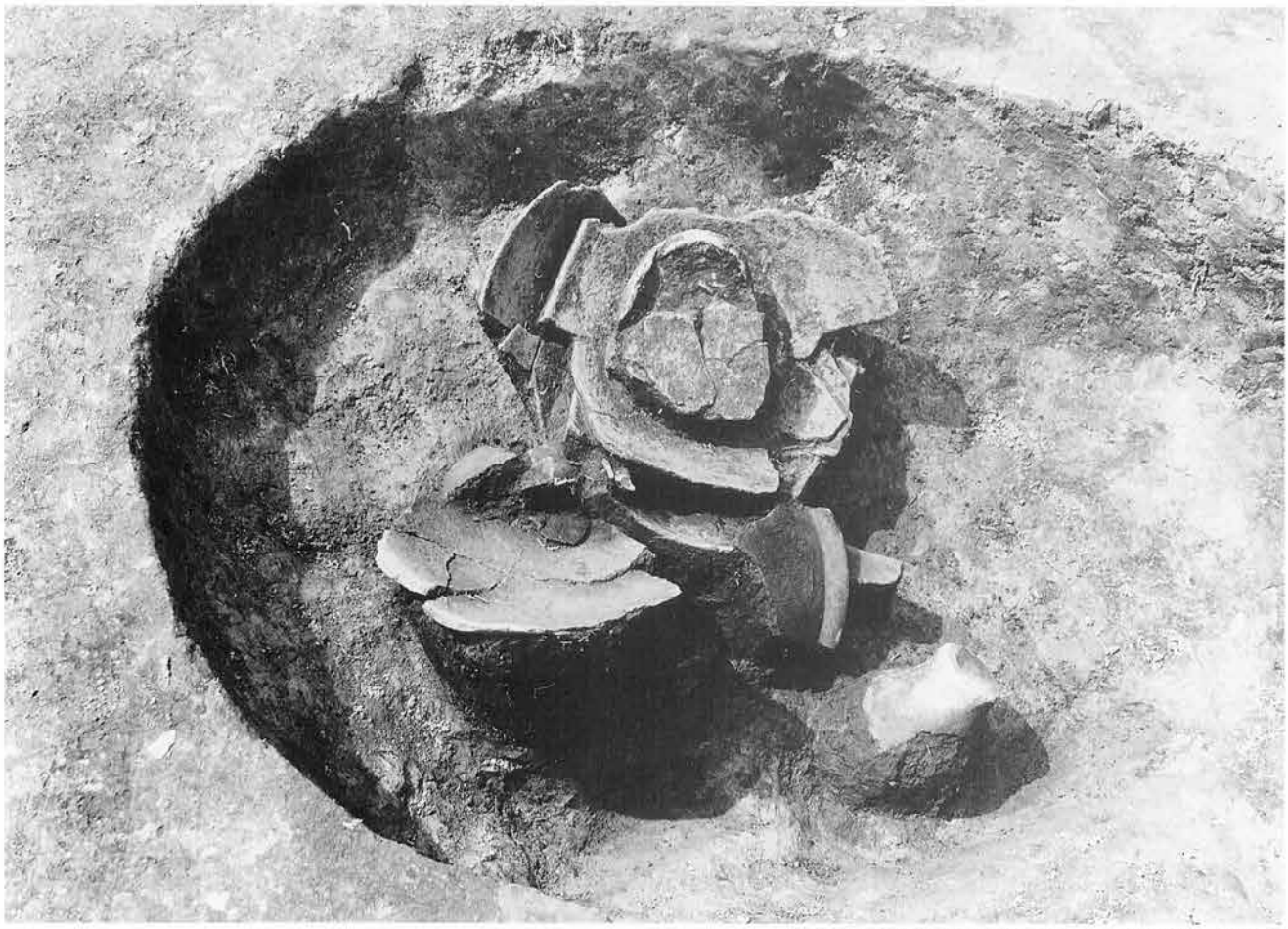


梅島遺跡第２次調査2SK0160遺物出土状況



梅島遺跡第２次調査2SK0170遺物出土状況

梅島遺跡第２次調査2SK0180遺物出土状況



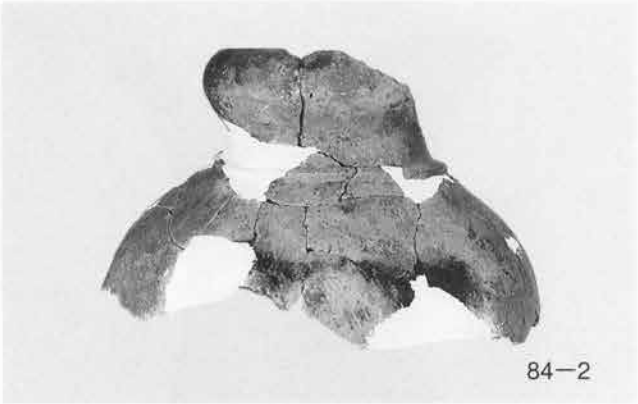
梅島遺跡第２次調査2SK0190遺物出土状況

梅島遺跡第２次調査2SK0210遺物出土状況

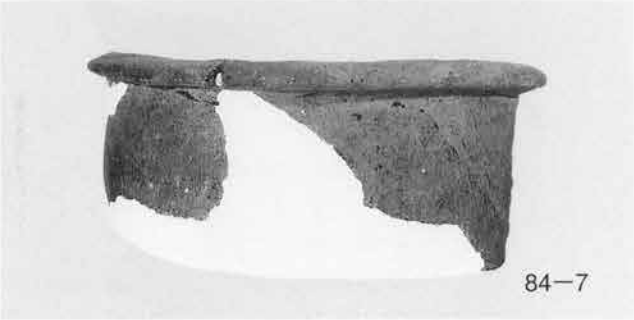
梅島遺跡第２次調査2SK0299遺物出土状況

梅島遺跡第 2 次調査2SK0311遺物出土状況

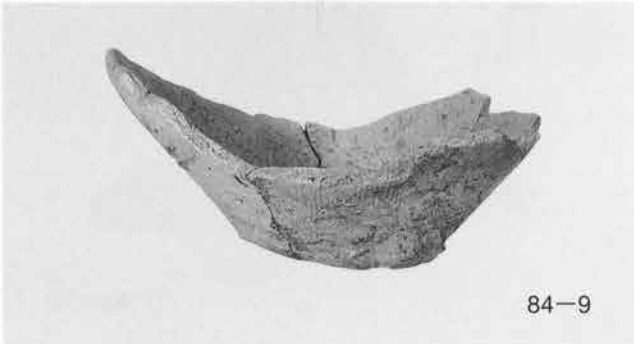
梅島遺跡第 2 次調査2SK0840遺物出土状況


84—2

84—4


84—7

84—8

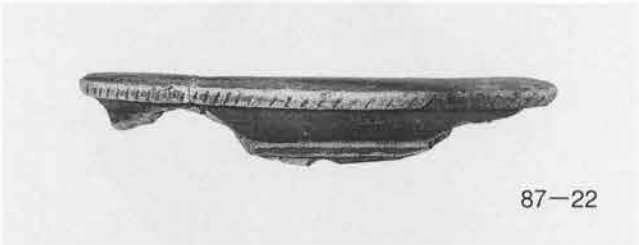

84—9

85—14

85—17

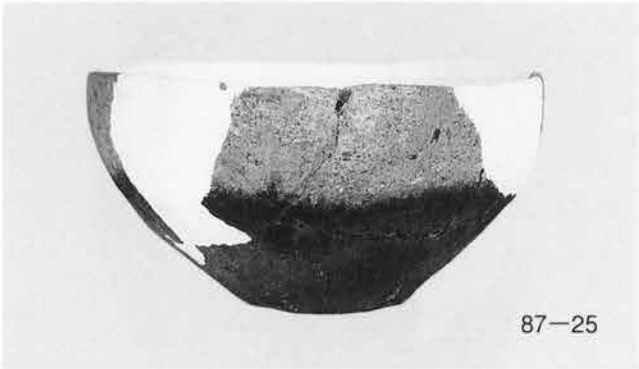
86—18

86—21


87—22

87—23

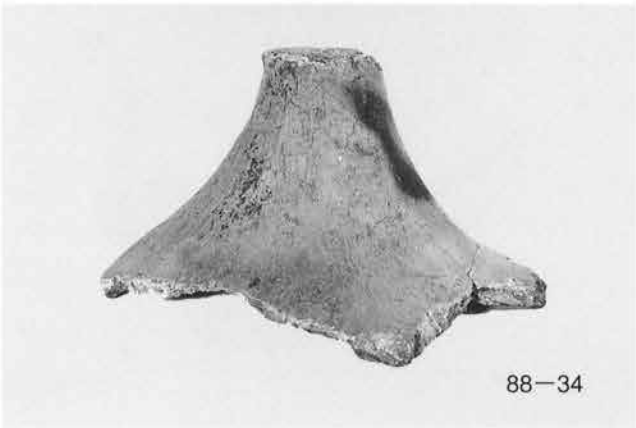
87—24

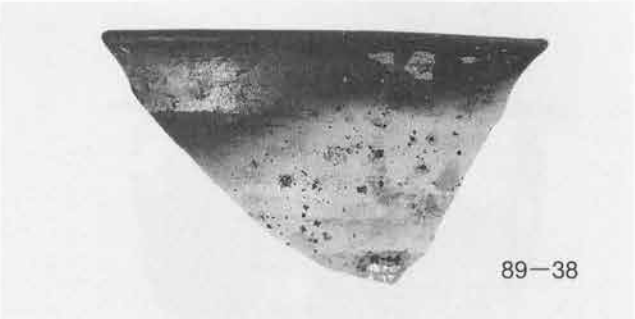

87—25

87—26

87—29

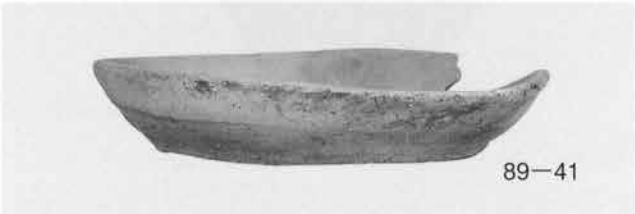
87—30

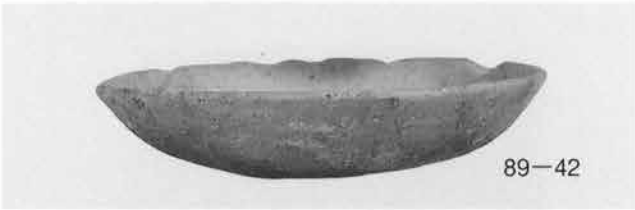

88—34


89—38

89—39

89—40


89—41


89—42

89—43

89—44

89—45

89—46

89—47

90—48

91—51

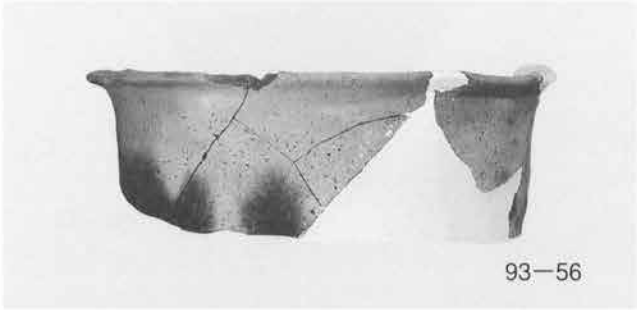
90—49

92—52

91—50

92—53

93—54



93—56

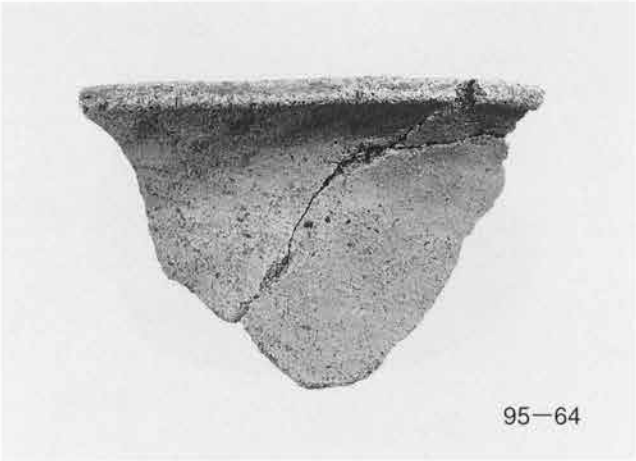
93—57

94—58

94—59

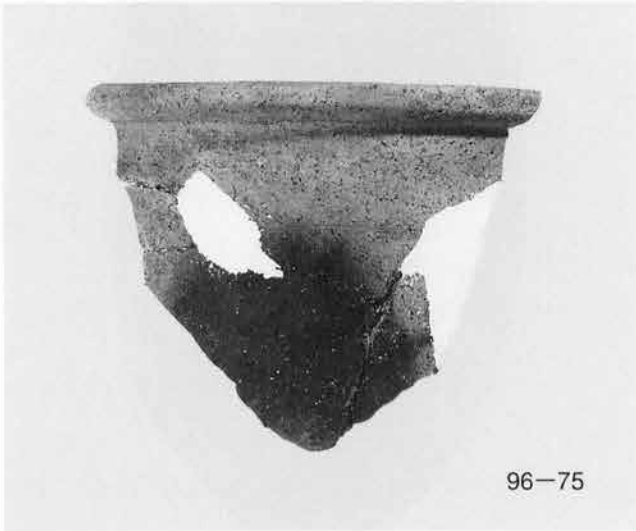
94—61

94—62


95—64

95—65

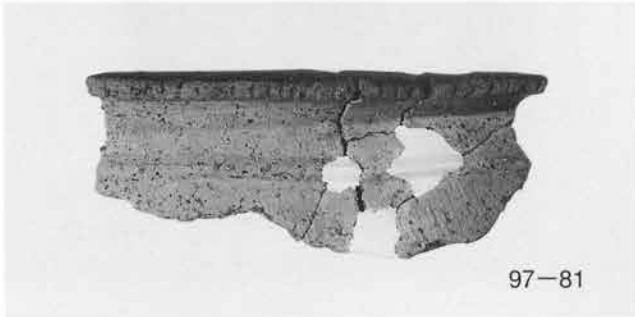
96—74


96—75

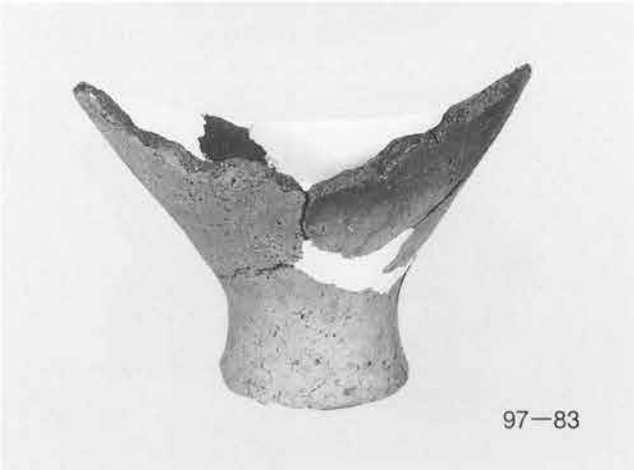
96—76

96—78

97—79


97—81

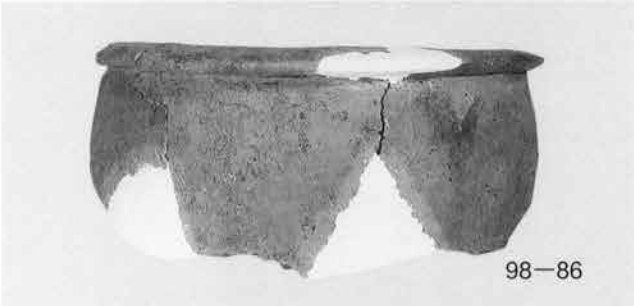
97—82



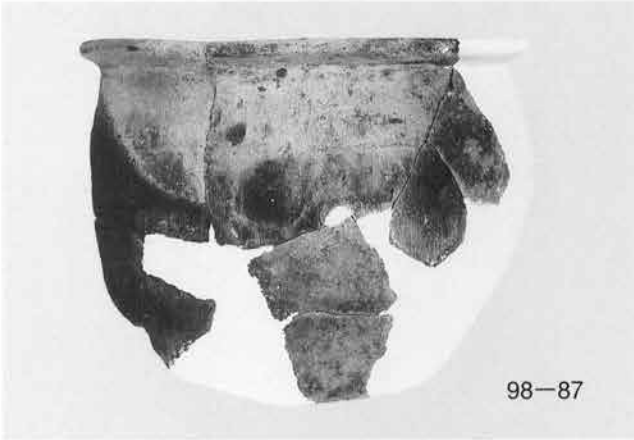
97—83

97—84

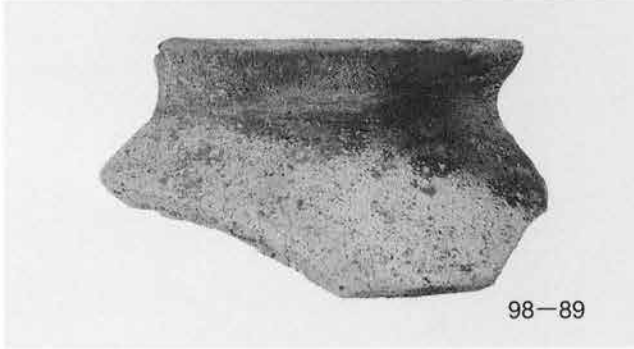
97—85



98—86



98—87

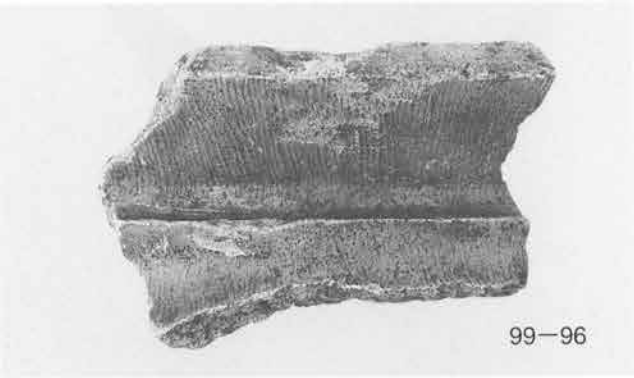


98—89

98—91

99—95

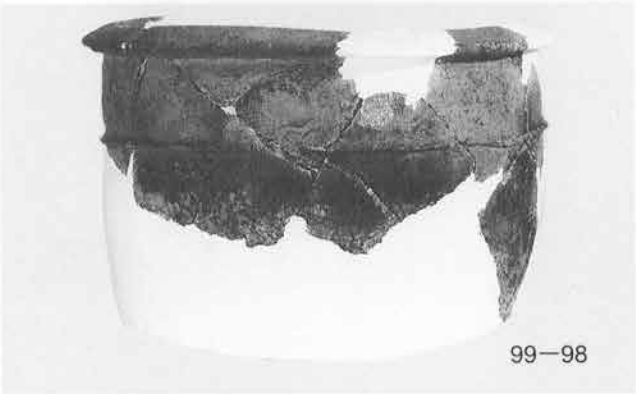
99—92



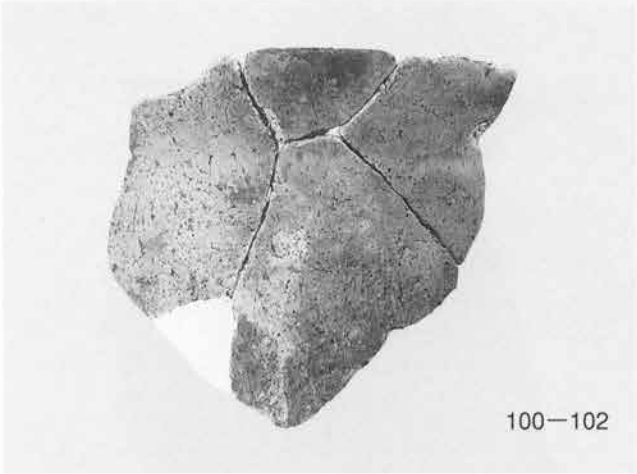
99—96

99—94

99—97



99—98

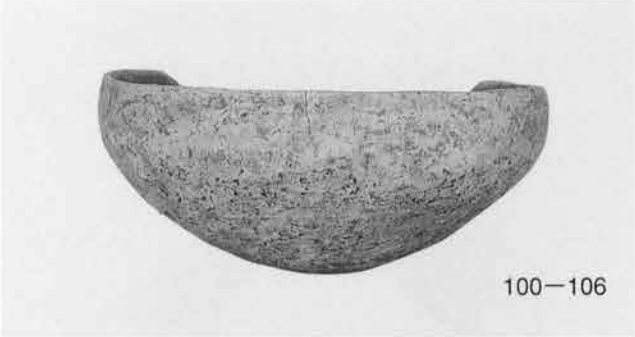


100—102

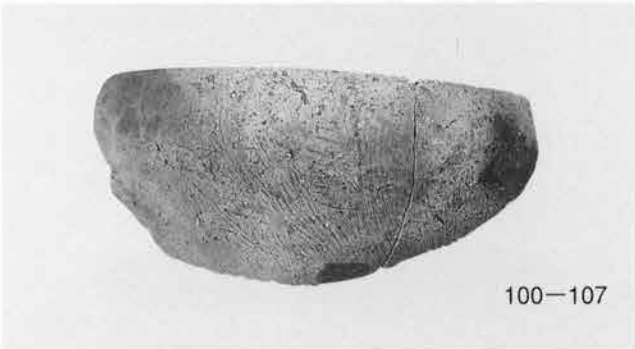
100—103

100—104

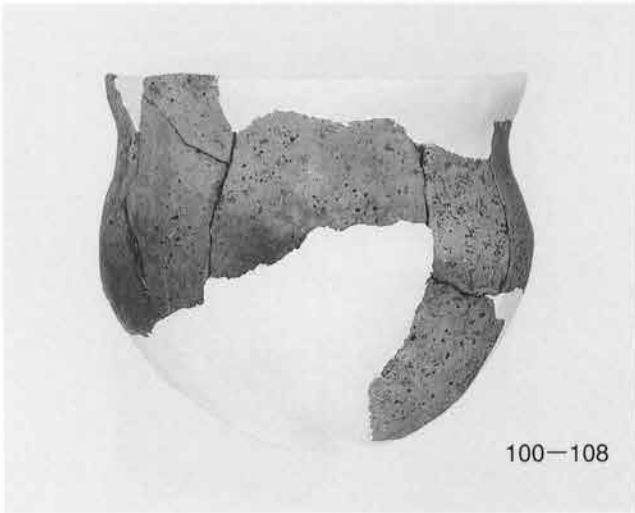
100—105



100—106



100—107

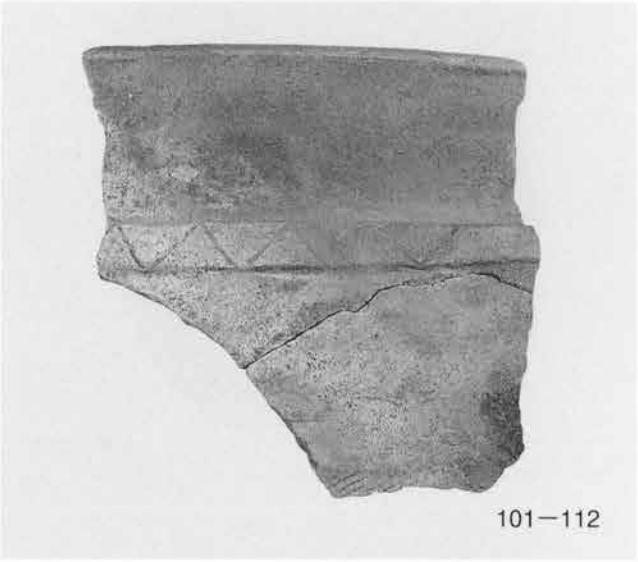


100—108

101—109

101—110

101—111

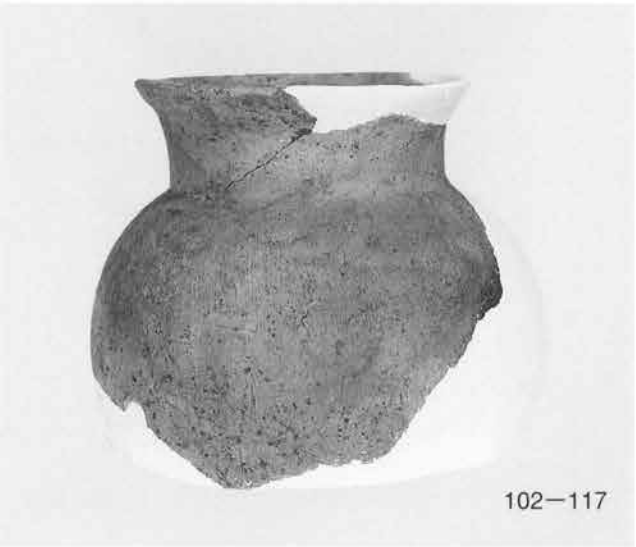


101—112

102—113

102—114

102—115



102—117

102—118

102—119

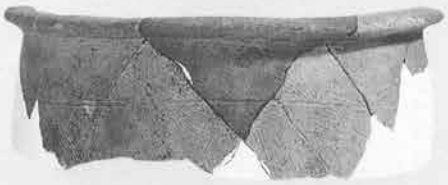
103—120

103—121

103—122

103—123

103—124



103—125

103—126

104—127

104—128

104—129

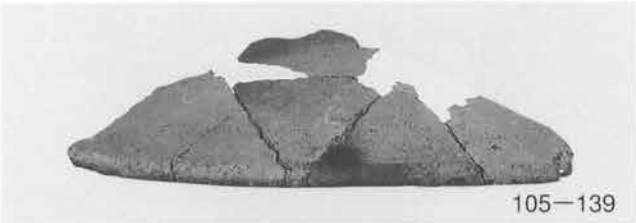
104—130

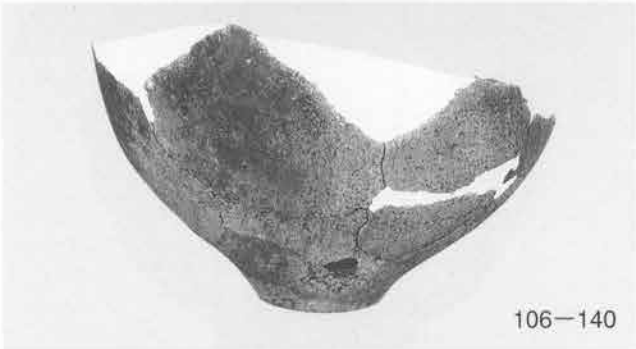
105—133

105—135

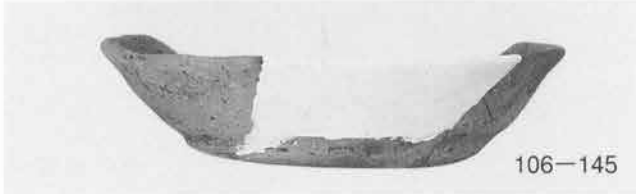
105—136

105—138


105—139


106—140

106—144


106—145

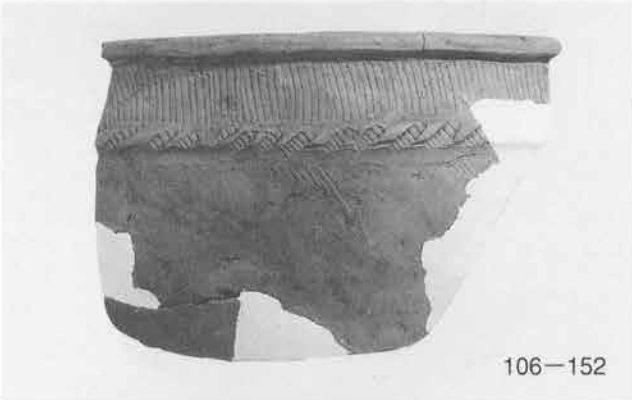
106—146

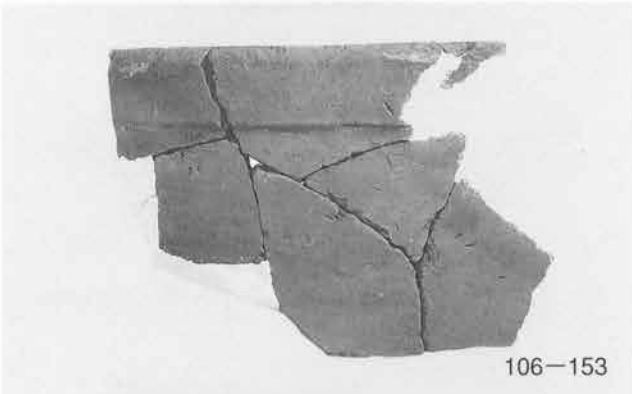
106—147

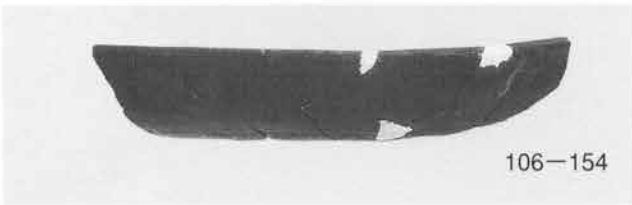
106—149

106—150

106—151


106—152


106—153


106—154

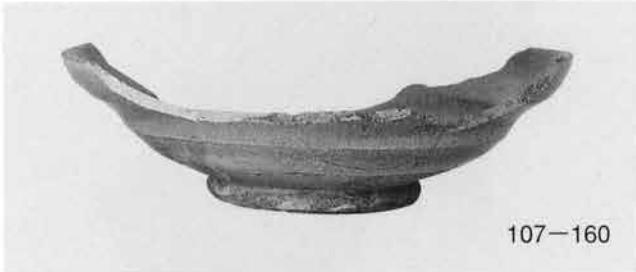
107—155

107—156

107—157

107—158

107—159


107—160

107—161

107—163

107—164

107—165

107—166

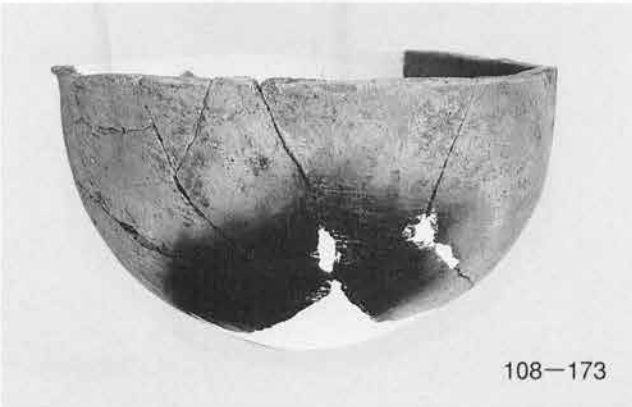
107—167

107—168

107—169

107—170

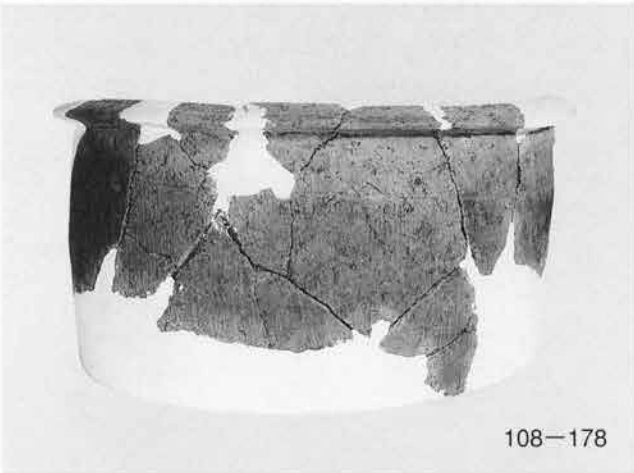
107—171



108—173

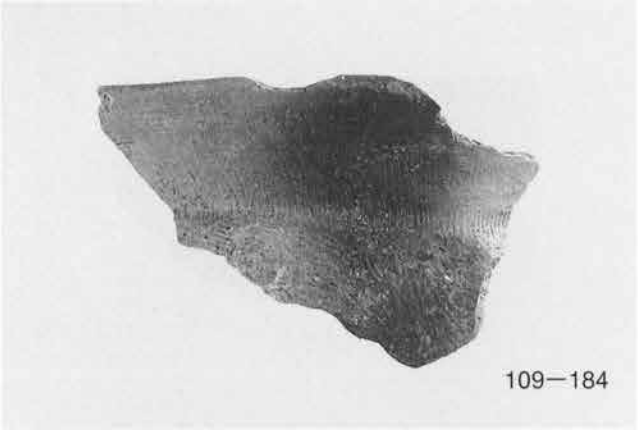
108—174

108—175

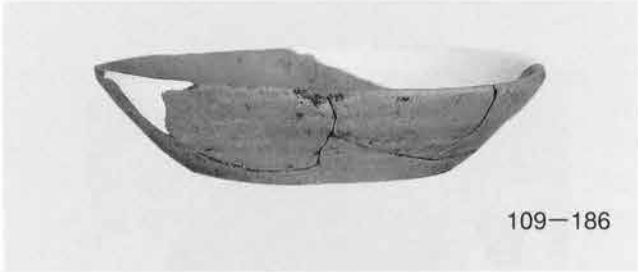


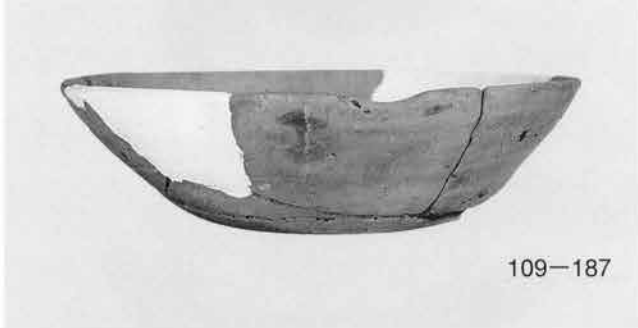
108—178

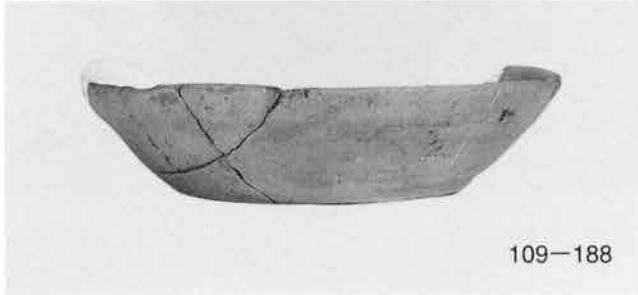
108—180


109—184

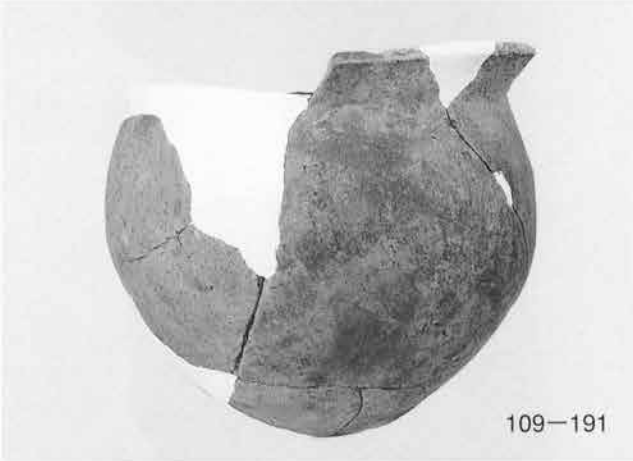
109—185

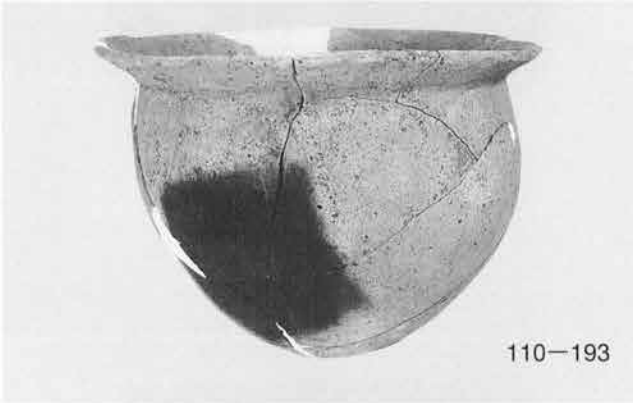

109—186


109—187


109—188

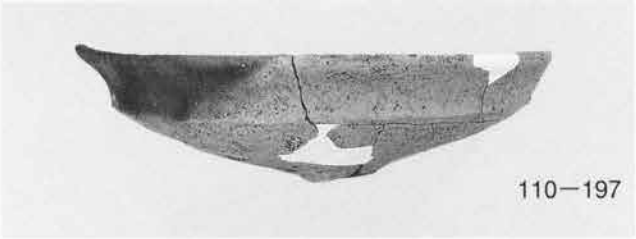
109—190


109—191


110—193

110—194

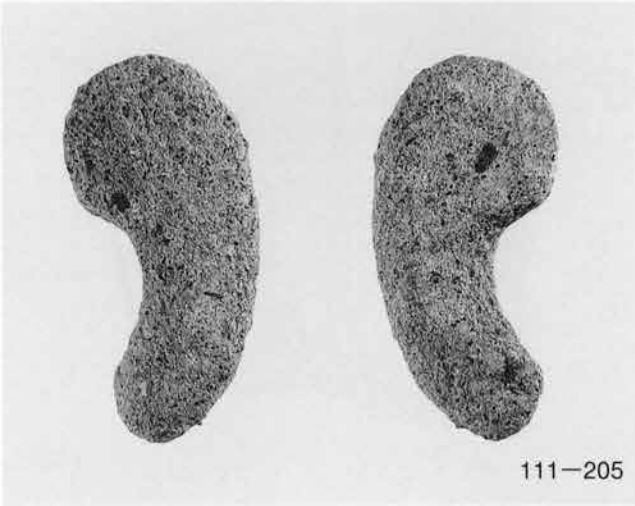
110—195

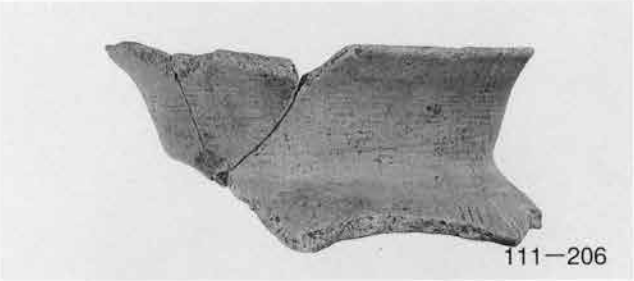

110—197

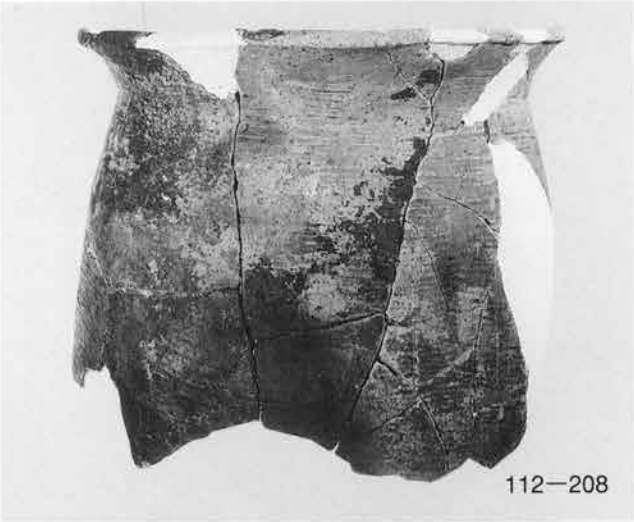
110—198

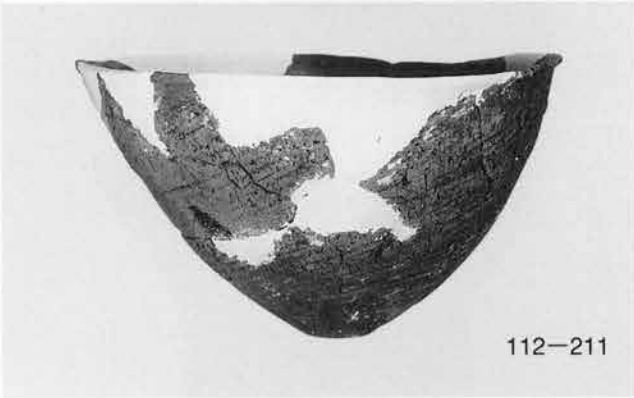
110—199

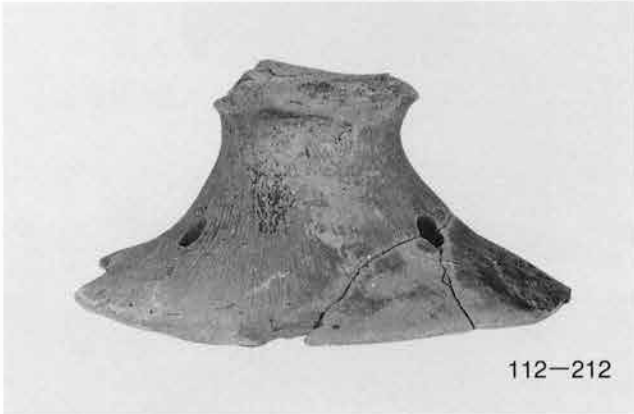
111—203


111—205


111—206

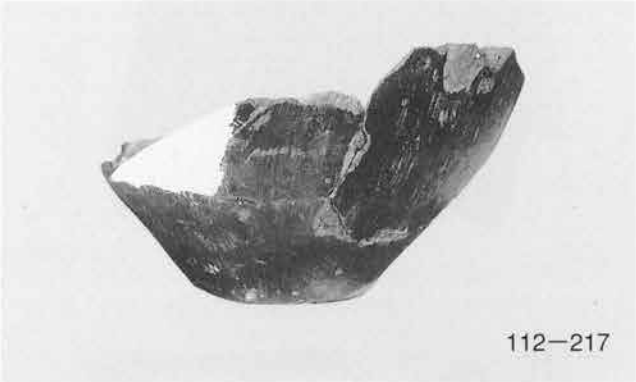

112—208


112—211


112—212

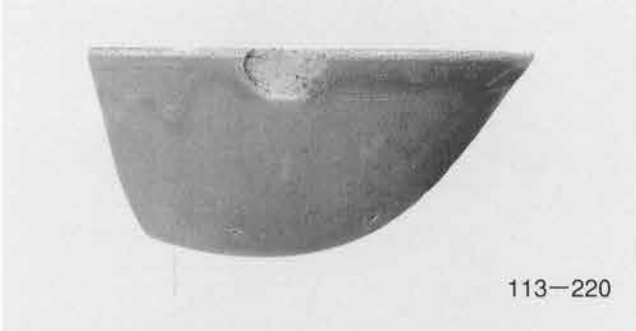
112—215

112—216

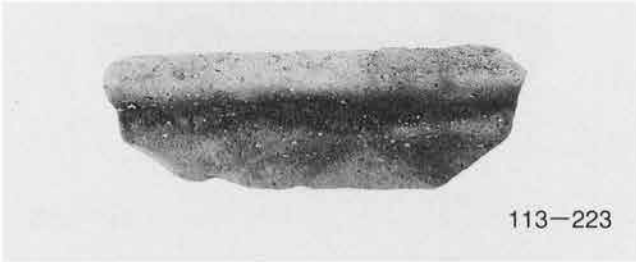


112—217

113—219



113—220



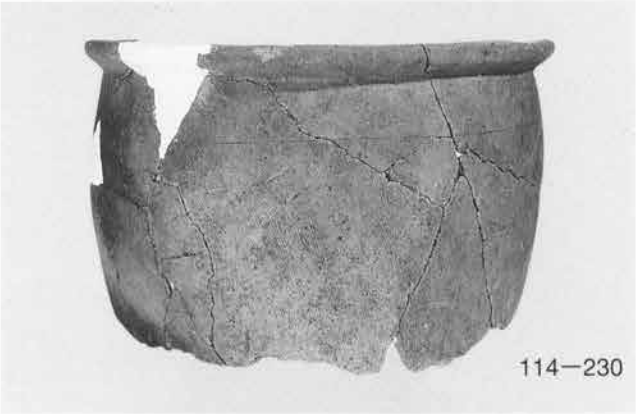
113—223

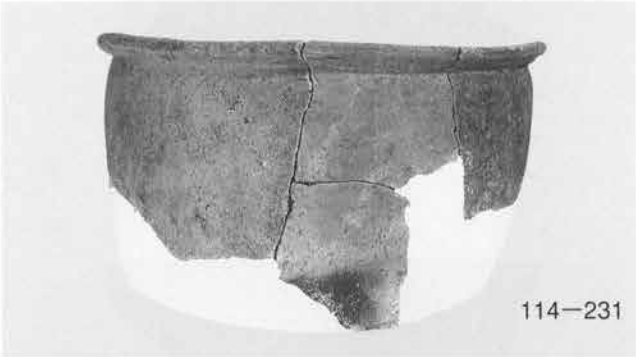
113—225

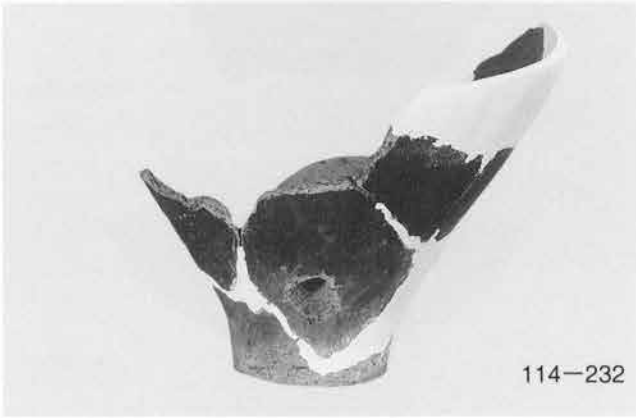
113—226

113—228

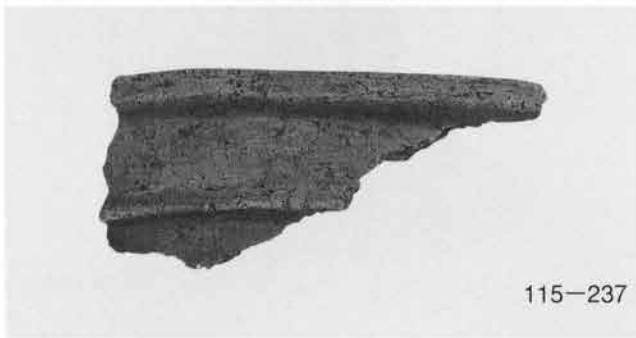
114—229


114—230


114—231

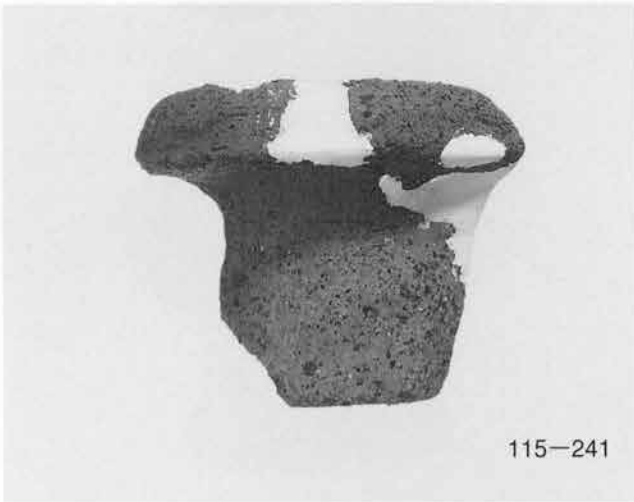

114—232

114—235


115—237

115—239

115—240


115—241

116—243

117—245

117—246

117—249

117—250

117—251

117—253

118—254

118—259

119—263

119—265

119—266

120—271

119—269

121—273

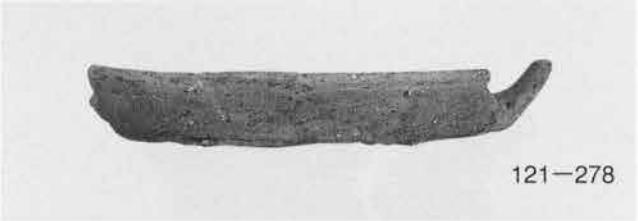
121—274

120—270

121—275

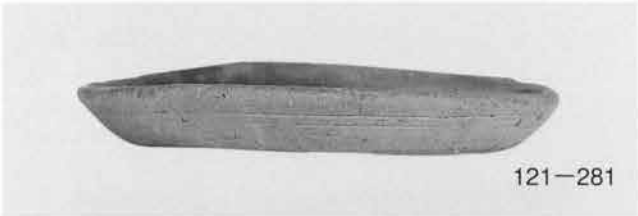
121—276

121—277

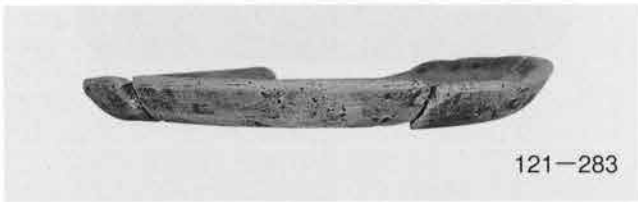

121—278

121—279

121—280


121—281

121—282


121—283

121—284

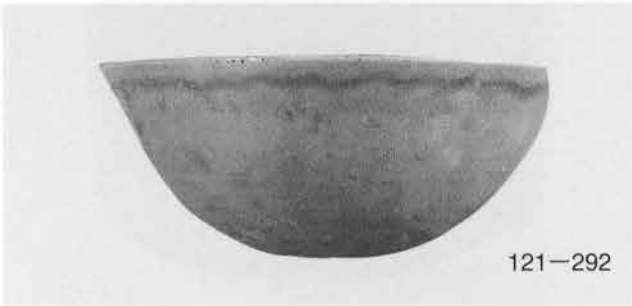
121—285

121—286

121—287

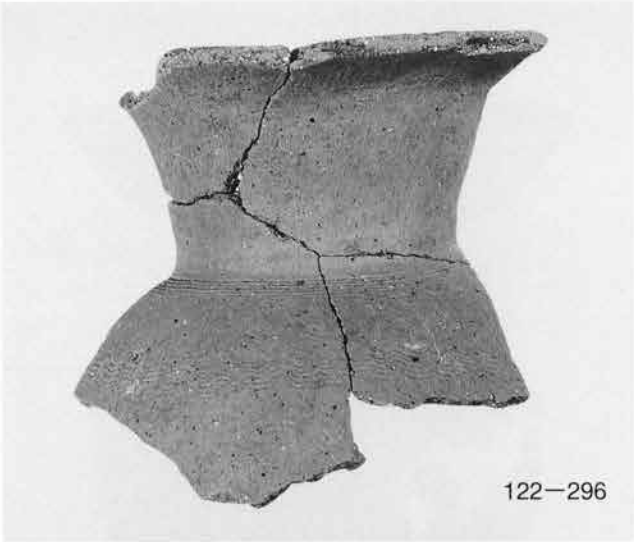
121—288

121—291


121—292

121—293

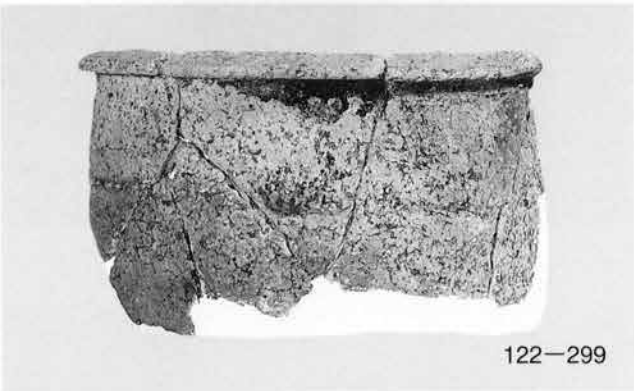
121—295



122—296

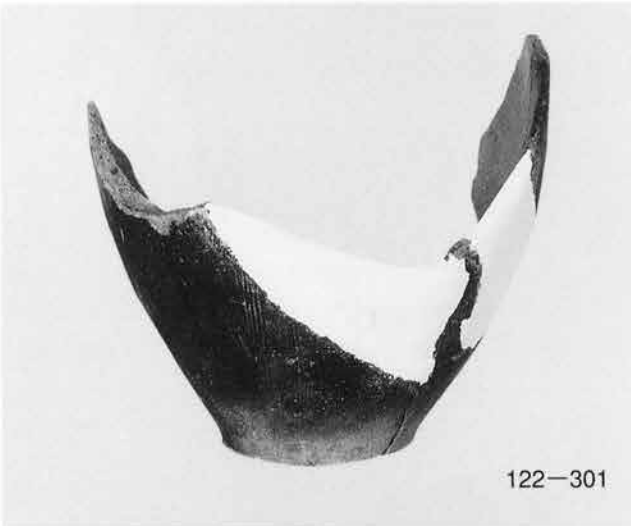
122—297

122—298

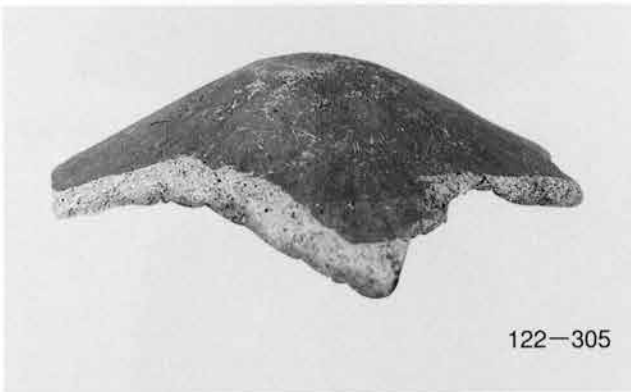


122—299

122—300



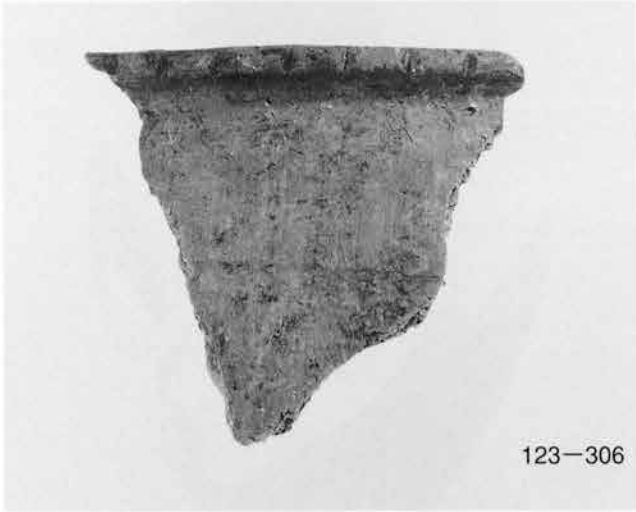
122—301



122—305

122—304

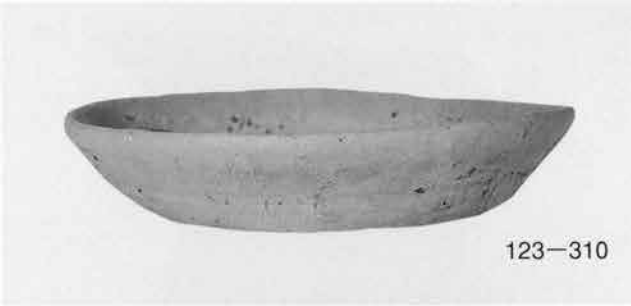
122—305


123—306

123—307

123—308

128—309


123—310

123—311

123—315

128—316

124—319

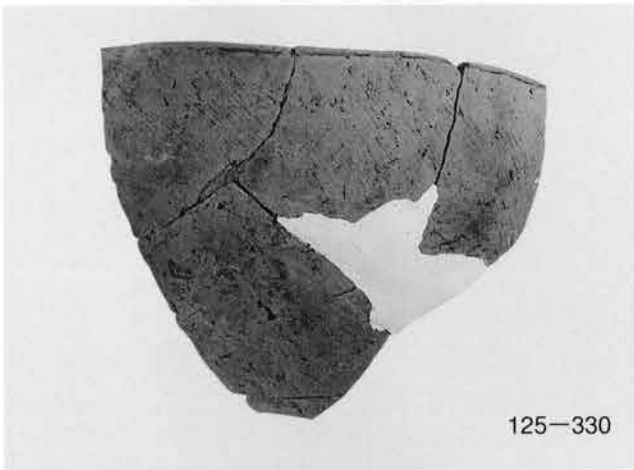
124—320

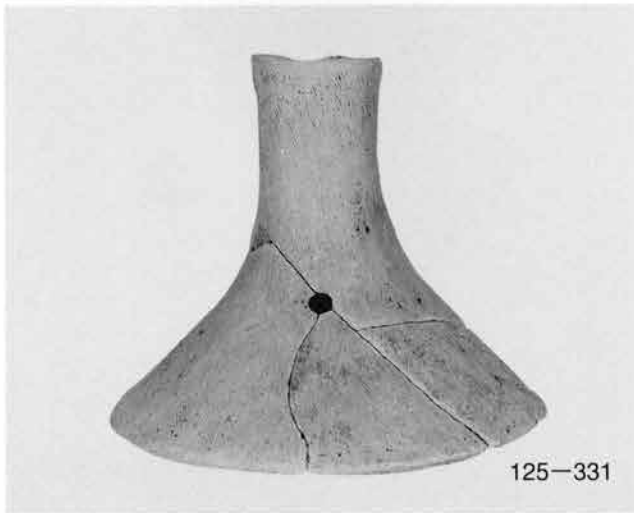
124—321

124—322

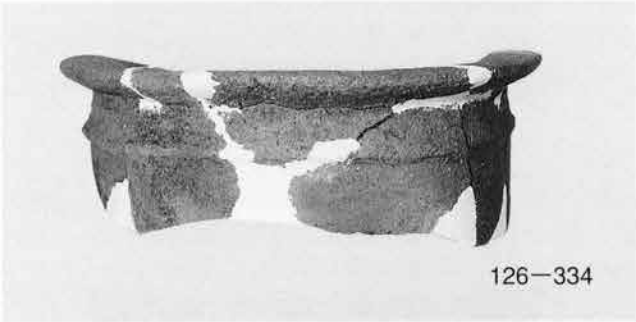
125—325

125—328

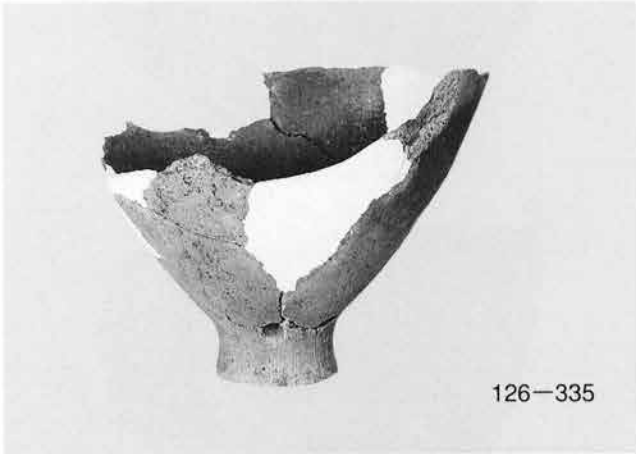

125—330


125—331

126—332

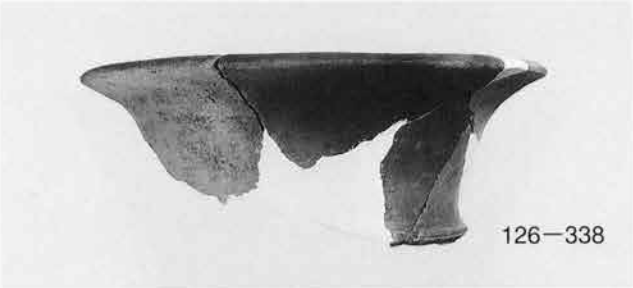


126—334

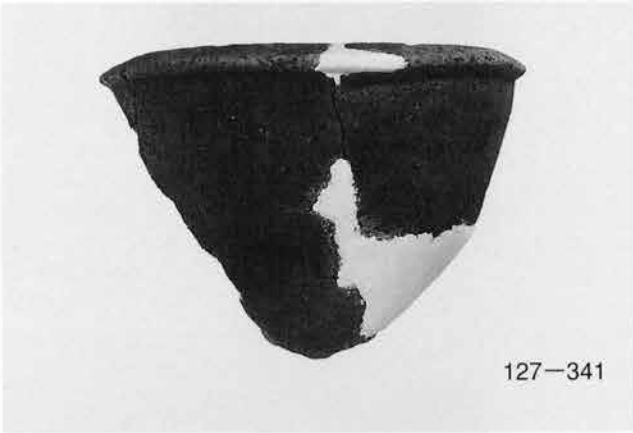


126—335

126—336



126—338



127—341

127—344

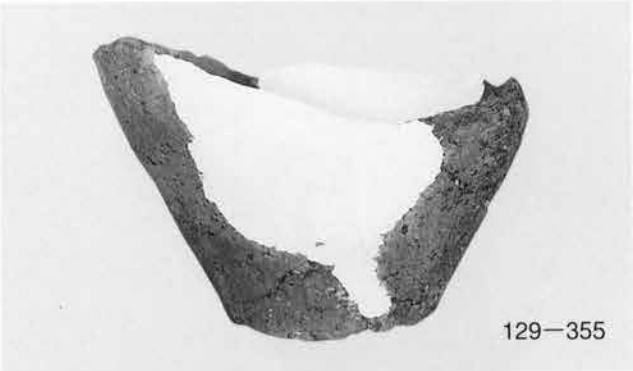
127—345

127—347

128—348

128—349

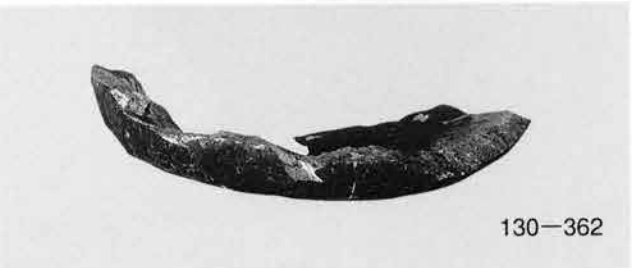
129—353



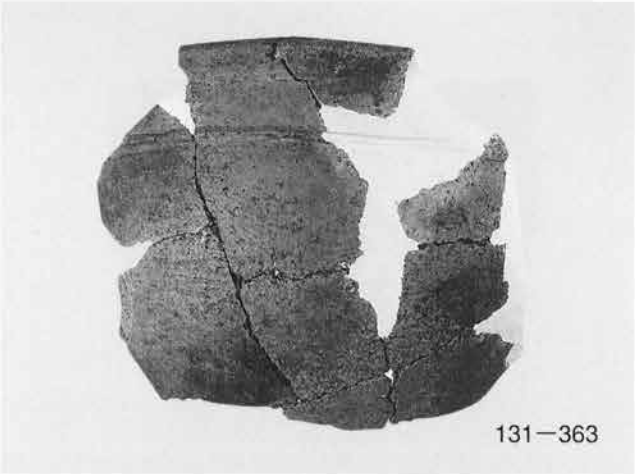
129—355

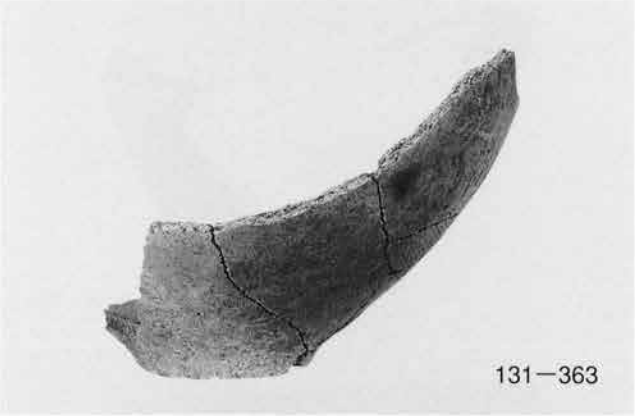
129—357

130—360



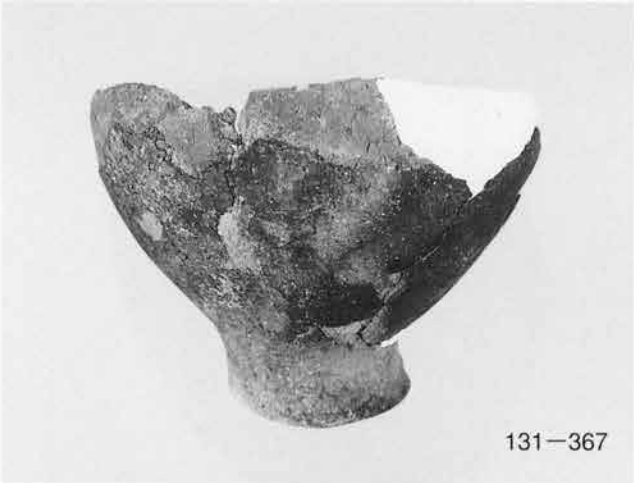
130—362

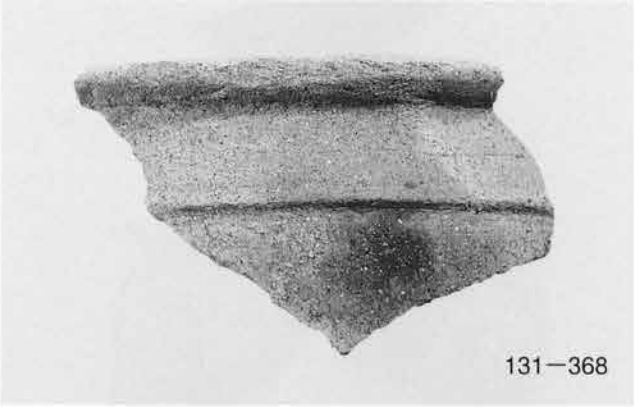

131—363

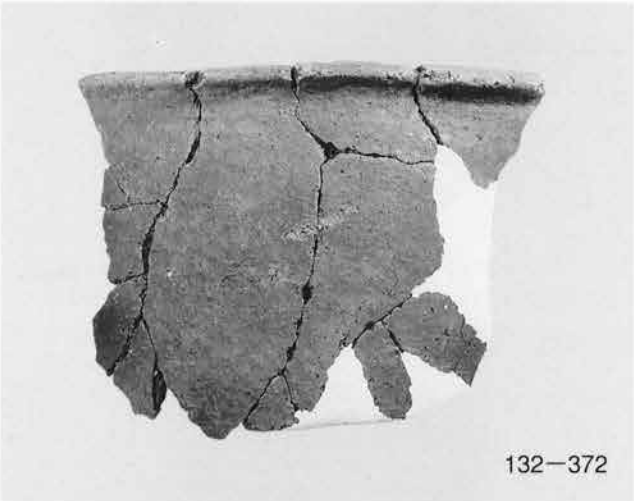

131—363

131—364

131—366

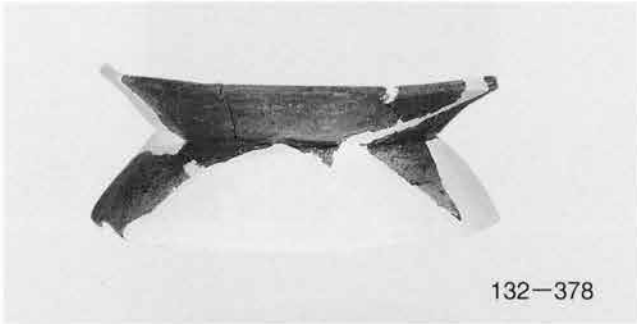

131—367


131—368

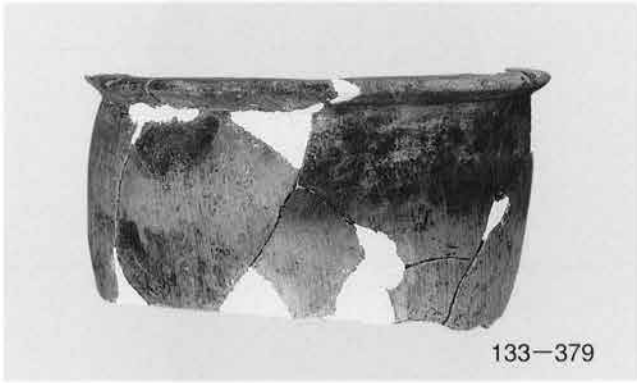

132—372

132—373

132—376



132—378



133—379

133—380

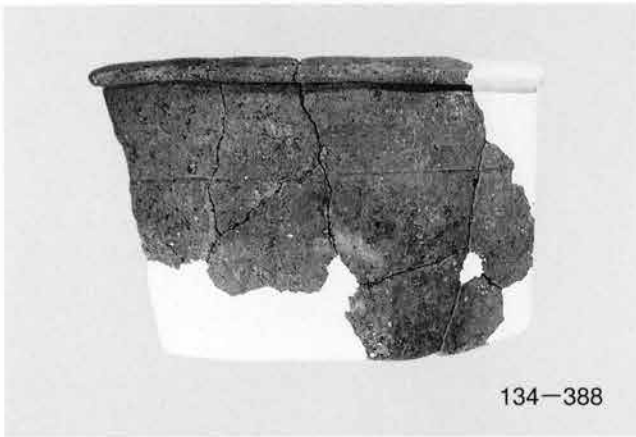
133—381

133—382

133—383

133—387

133—386



134—388

134—384

134—390

134—391

134—392

135—393

135—394

135—396

135—397

135—398

135—399

135—400

135—401

136—402

136—403

136—404

137—406

137—407

137—408

137—409

137—410

137—411

137—412

137—413

137—414

138—416

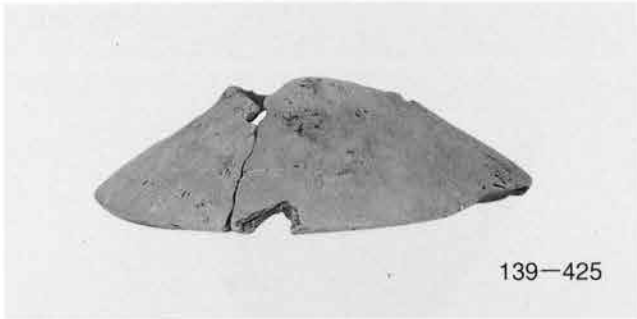
138—417

138—420

138—421

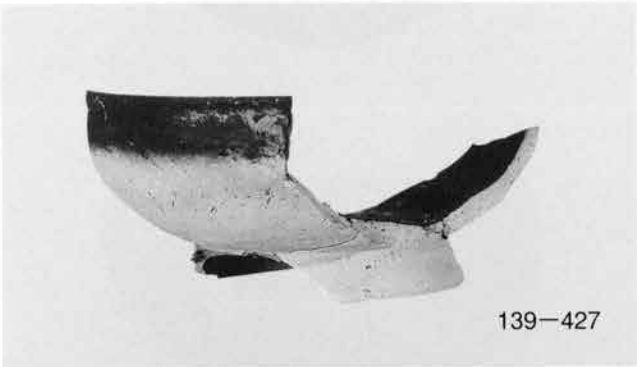
138—422

139—424

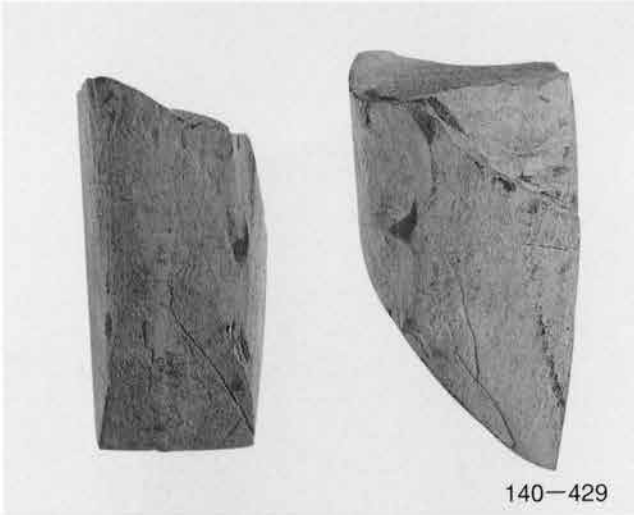


139—425

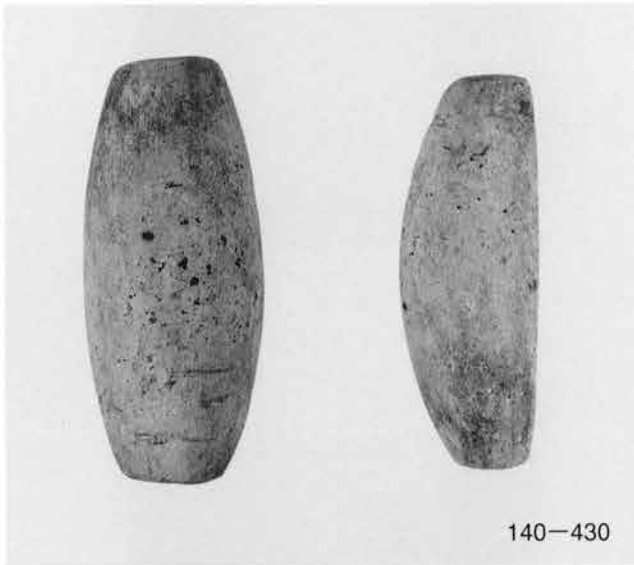
139—426



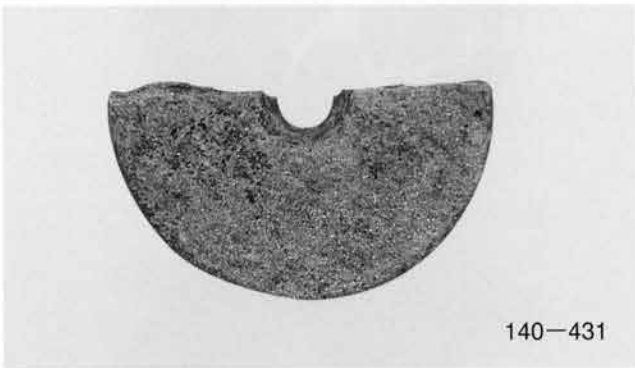
139—427



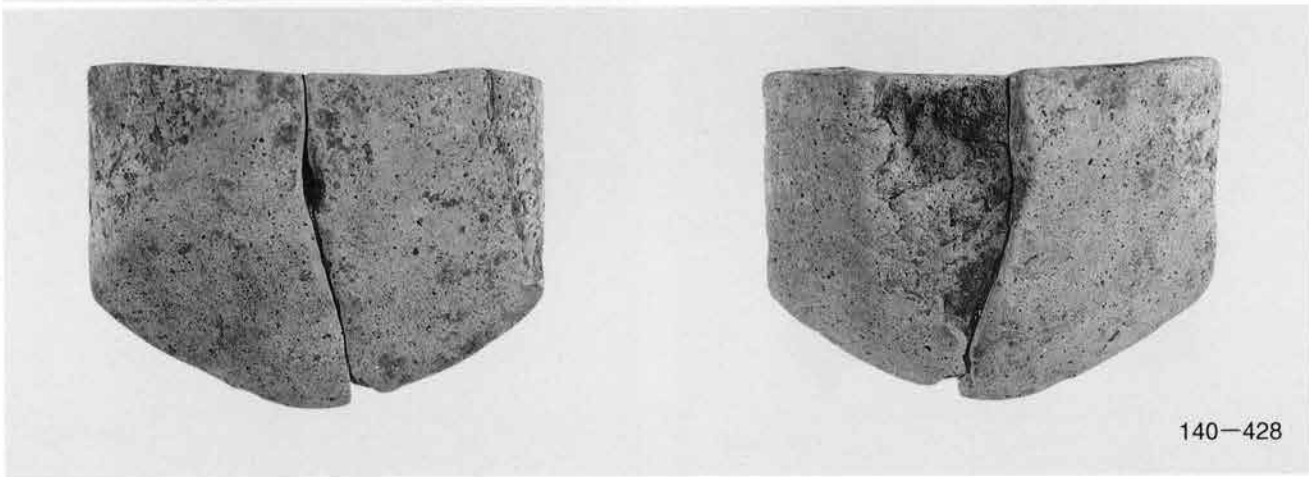
140—429



140—430



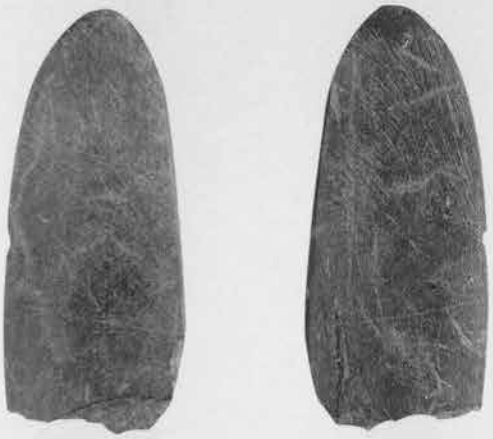
140—431



140—428

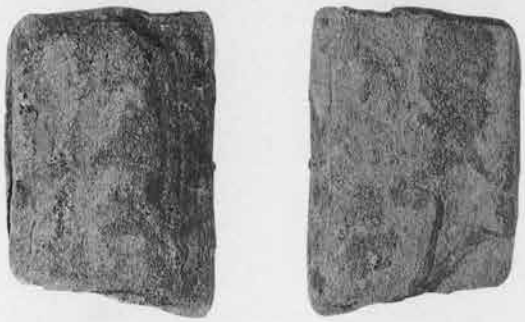
141—433

141—434



141—435

141—437



141—438

141—436

142—439

142—440

142—441

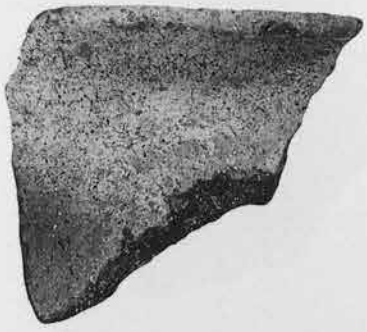
142—442

142—443

142—444

4—3

5—2



4—4

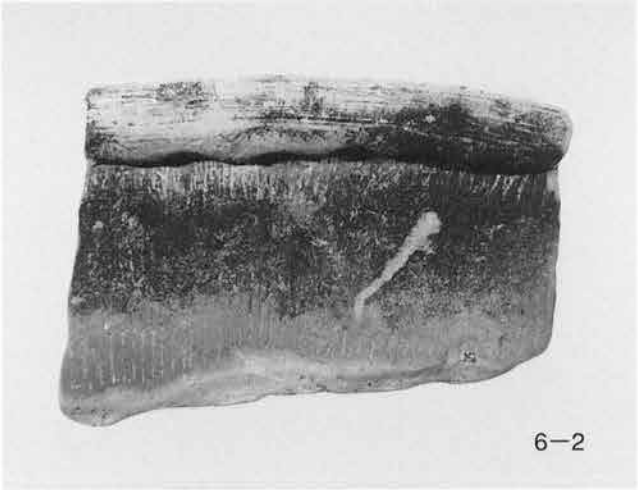
5—3

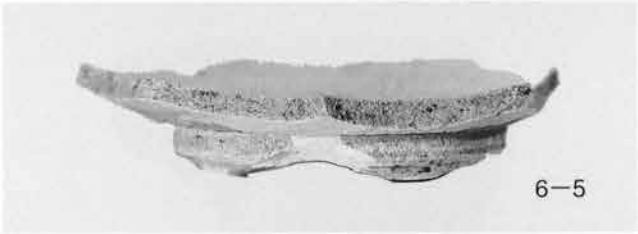
4—6

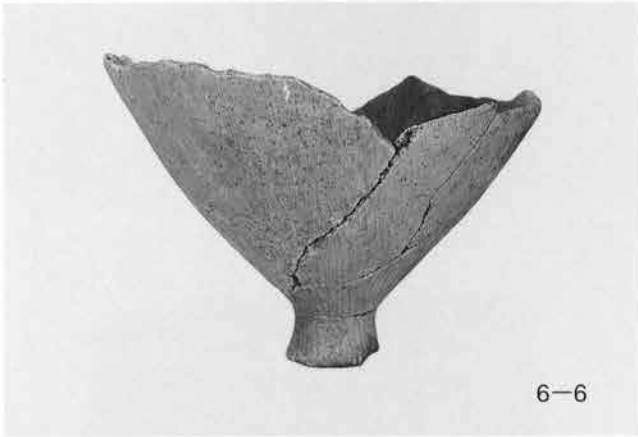
5—7

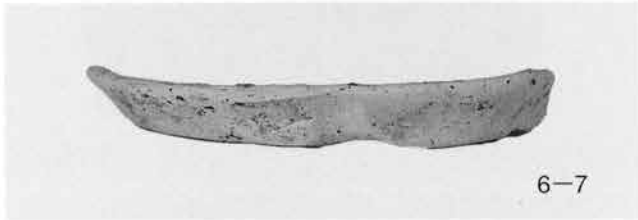
5—1

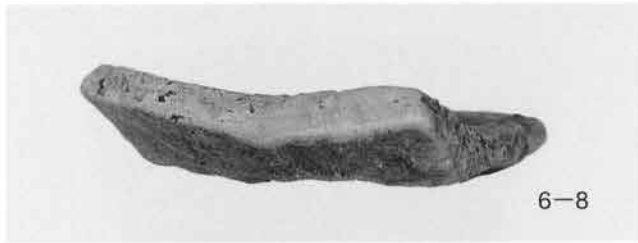
6—1


6−2


6−5


6−6

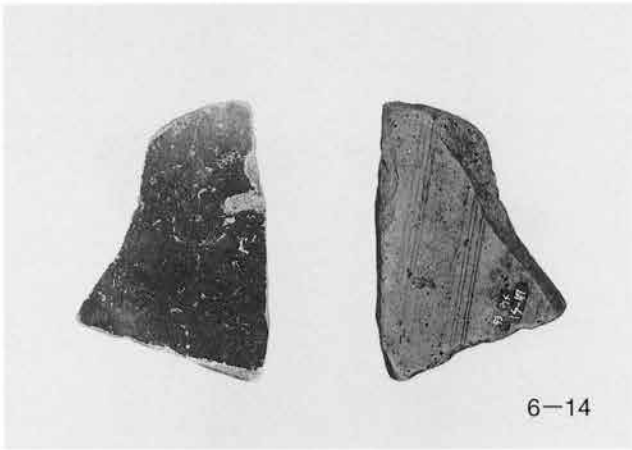

6−7

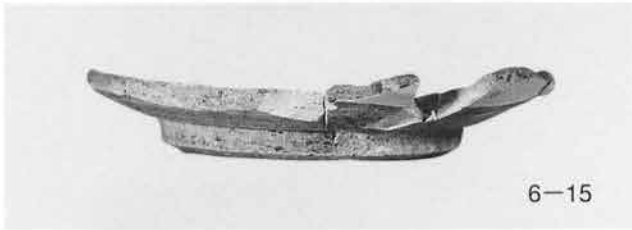

6−8

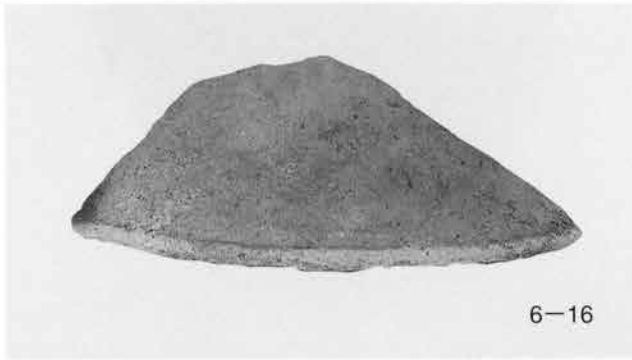
6−9

6−12

6−13


6−14


6−15


6−16

7—1

7—2

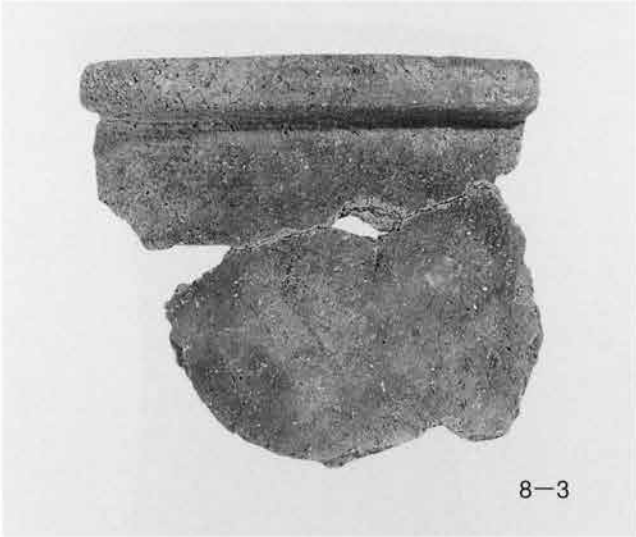
7—3

7—5

7—4

7—6

8—2

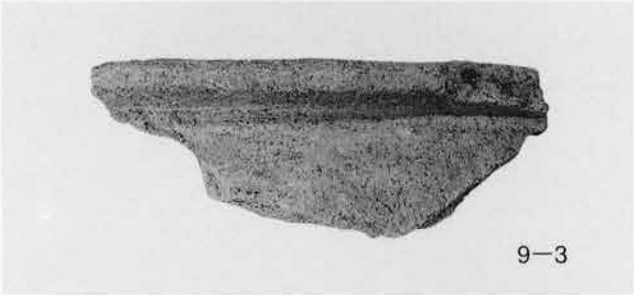

8—3

8—4

8—5

9—1

9—2


9—3

9—5

10—1

10—2

10—3

10—4

10—5

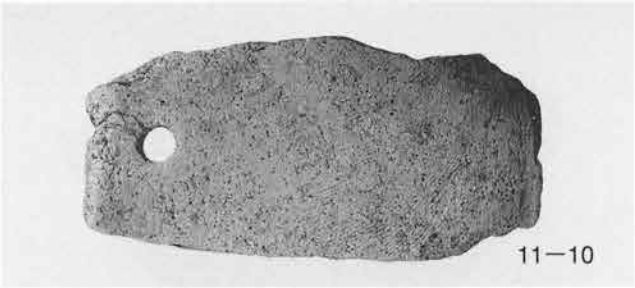
10—6

10—7

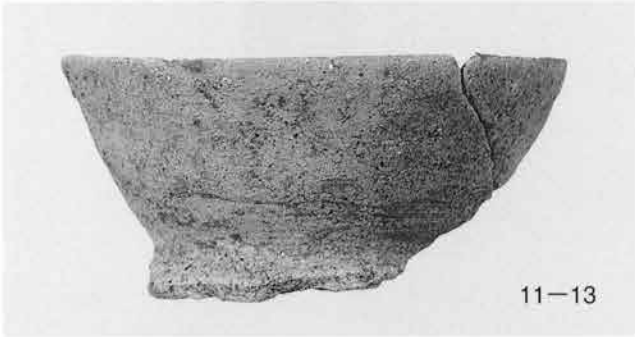
11—1

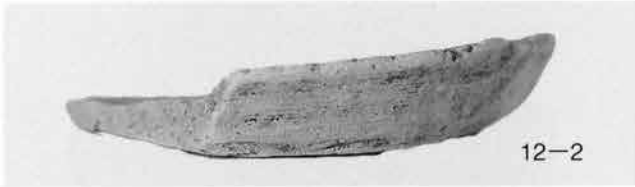
11—2

11—5


11—10

11—12


11—13

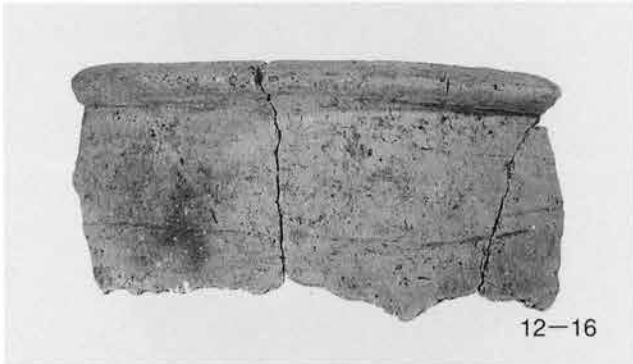

12—2

12—3

12—4

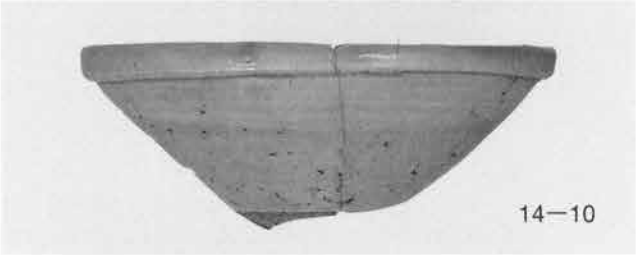
12—6

12—7


12—16

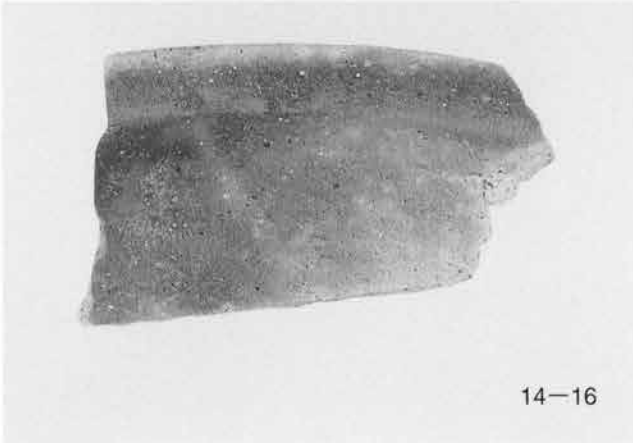
13—3

13—5


14—10

14—11

14—14


14—16

14—22

15—1

15—2

15—8

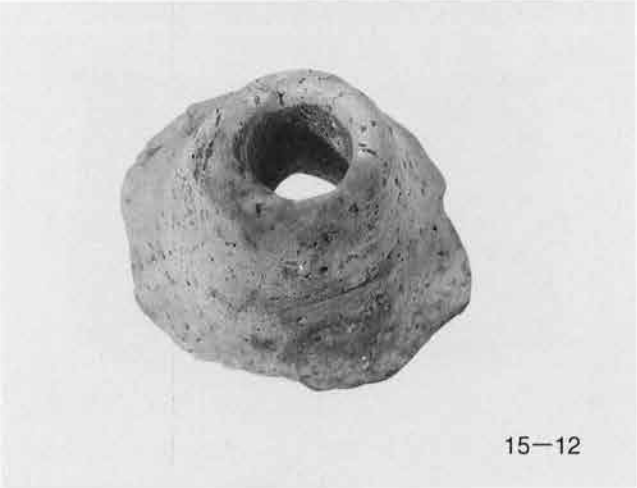
15—9

15—10

16—1

15—11

16—4

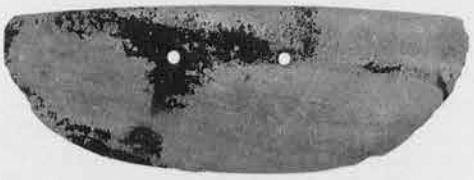


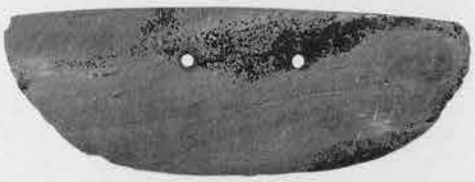
15—12

17—1

17—2

17—3





17—4

17—5

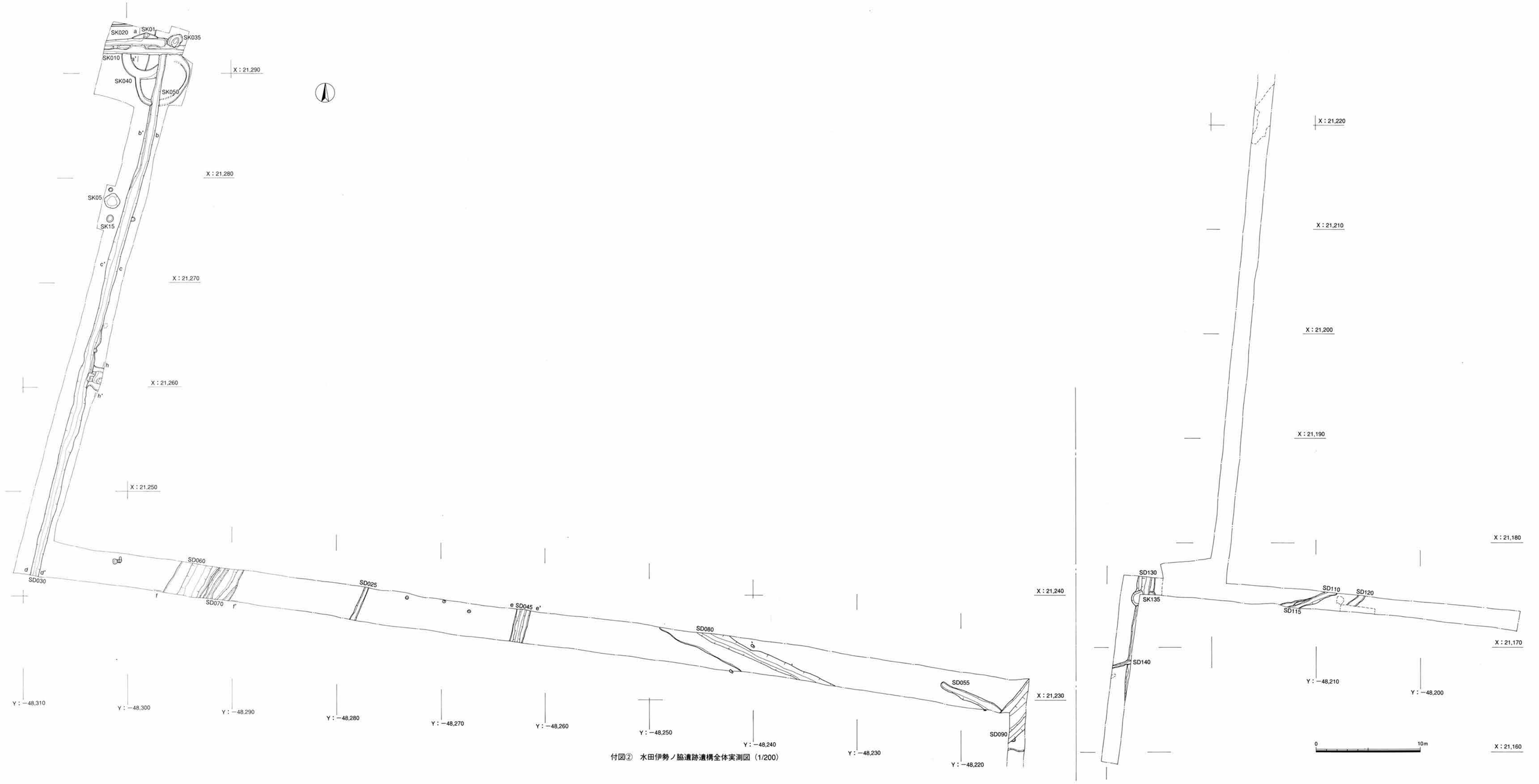
17—6

17—7

筑後西部地区遺跡群Ⅱ
筑後市文化財調査報告書
第29集
平成12年3月

編集機関　筑後市教育委員会
　　筑後市大字山ノ井898
印　　刷　有限会社　新幸印刷
　　福岡県三井郡北野町上弓削696-6

付図③　梅島遺跡（第２次調査）遺構全体実測図（1/350）



付図② 水田伊勢ノ脇遺跡遺構全体実測図（1/200）